

日本古典作者事典 二 1900 ; [目次にもどる](#)

- 固(こ・秋山) → 白賁堂(はくひどう・秋山あきやま、藩儒) D 3 6 8 4
- 固(こ・白井) → 固(かたし・白井しらい、藩士/歌人) M 1 5 9 4
- 固(こ/かたし?・多田) → 菊屏(きくへい・多田ただ、儒者) K 1 6 2 4
- 固(こ・増島) → 蘭園(蘭腕らんえん・増島/平/増、幕臣儒官) B 4 8 5 9
- 固(こ・高木) → 芳洲(芳州ほうしゅう・高木、家老/儒者) B 3 9 4 2
- 固(こ・青方) → 繁治(しげはる・青方あおかた/白浜、藩家老) S 2 1 3 0
- 觚(こ・那波) → 活所(かつしよ・那波なば/祐、漢学者) 1 5 2 3
- 虎(こ・味木) → 立軒(りっけん・味木あじき、兵法/儒者) B 4 9 6 9
- 虎(こ・小林) → 寒翠(かんすい・小林こばやし、藩士/漢蘭学) H 1 5 6 9
- 虎(こ・冢田/塚田/冢) → 大峯(たいほう・冢田/塚田/冢、儒者) C 2 6 1 8
- 故(こ・中川) → 壺山(こざん・中川なかがわ、医者) M 1 9 6 1
- 瑚(こ・西川) → 国華(こっか・西川にしかわ、藩士/儒者/詩) G 1 9 5 5
- 五(ご・原) → 花祭(かさい・原、儒者/教育) H 1 5 4 3
- 梧(ご:一字名・藤原/近衛) → 信尋(のぶひろ・近衛、関白/書/連歌) D 3 5 0 9
- 梧(ご;号) → 光性(こうしょう;法諱、真宗大谷派本願寺17世) J 1 9 7 6
- 互(ご・土肥) → 延平(のぶひら・土肥どひ、藩士/歌/武術) J 3 5 2 6
- 後〇〇(ご-) → 後〇〇(のちの-)
- 故阿(こあ・心蓮社) → 酉尊(ゆうそん;法諱、浄土僧) D 4 6 3 4
- H1900 悟阿(ごあ) ? - 1283 東大寺学僧;華嚴/浄土教;法然門、1280「安樂集」開板
- 其阿(ごあ、越前時宗僧) → 其阿(きあ、新菟入連歌作者) J 1 6 4 9
- 其阿(ごあ、伊予時宗僧) → 其阿(きあ、大山祇社連歌作者) 1 6 0 0
- 其阿(ごあ、仏天) → 其阿(きあ、仏天、遊行25世) J 1 6 1 4
- 其阿(ごあ、一蓮精舎) → 快存(かいぞん・時宗僧・遊行50世) I 1 5 9 1
- 其阿(ごあ) → 賞山(しょうざん;法諱・月峰;字、時宗僧) J 2 2 1 9
- 其阿(ごあ、桂光院) → 春登(しゅんとう;法諱、時宗僧/国学者) 2 1 6 3
- 其阿(ごあ;号) → 心阿(しんあ;号・泰道、時宗僧/俳人) N 2 2 2 7
- 悟阿(ごあ) → 氏村(うじむら・東とう/本姓平、武将/歌) 1 2 5 3
- 悟阿(ごあ;法名) → 常顯(つねあき・東とう/平、武将/歌人) B 2 9 4 7
- 五噫逸人(ごあいいつじん) → 麦水(ばくすい・堀ほり、医/俳人) 3 6 0 9
- 五愛楼(ごあいろう) → 築山(らくざん・奥田おくだ、藩士/儒者) B 4 8 1 6
- H1902 古阿美蝶(古阿三蝶こあみちよう、別号;三蝶)?-? 江中期江戸小網町の絵師;鳥居清長風の画、黄表紙・咄本作者、1784「八代目桃太郎」「天光地潜地探」「大商蛭小嶋」/86「紺屋百物語」著、1786「はなし鳥」「上巻絵二つ印籠」「昔々相老松」、86「仮名盛通記」画、94「場戲嘉話古手返」著
- H1903 个庵(こあん・淀屋よどや、姓;岡本、名;言/言当、淀屋常安男) 1577-1643 67 大阪大川町材木商(豪商)、鞆の海産物市場や天満青物市場を開設、町人蔵元の祖/大坂惣年寄/商人の糸割符加入、歌;古今伝授、連歌;1626-29/昌琢・宗順・宗甫らと百韻、茶の湯、昭乗/昌俊/遠州らと交流、狂歌;行風「古今夷曲こんいきよく集」3首入、淀屋辰五郎の曾祖父、
[朝霧わくる道の諸人](1626賦何木連歌;脇句/発句昌琢;山はまだ錦を袖に都かな)、
[魚扁に春加はれる鮭だにもすきなお口に飽かれやはする](古今夷曲集;八)
(前関白近衛信尋のぶひろに鱒鮭を奉る時の歌/すきは洗練されていること、
本歌「桜花春加はれる年だにも人の心にあかれやはせぬ」古今集;一61伊勢)
[个庵の通称/別号]通称;三郎右衛門、別号;古庵/玄个庵、屋号;淀屋
- E1981 固庵(こあん・大森おもり、衣笠きぬがさ養軒)?-? 江前期会津藩士/神道;闇齋門/博学、浪人、1683紀行「千種日記」著
- H1904 固庵(こあん・伊藤いとう、名;立誠、別号;寸庵) 1641-1711 71 京の儒者;熊谷活水門/書;陳元賛門、尾張藩士/帰郷後門弟教育/1708火災により著作蔵書焼失、「経説講義」「杜律考」著

- R1972 **胡庵**(こあん・梅原うめはら、) ? - ? 江前中期;歌人;宮川松堅(1632-1726)門、
1722松堅[倭譚五十人一首]入、
[空にきゆる富士のけぶりを見るほどに夕日をへだつ三保の松原]、
(倭譚五十人一首;16眺望日暮/富士を見て振り返って海を見る)
- G1920 **固庵**(こあん・佐藤さとう、名;実祐/恵、医者草野的庵男)1683-1723 41 肥後熊本の儒者;安東省庵門、
のち佐藤竹塙門/養嗣子、熊本藩儒;侍講、「治道要録」著、
[固庵(;号)の字/通称/別号]字;迪甫/自天/自大、通称;長之助/半七/文右衛門、
別号;松洞/醒軒
古庵(こあん・加藤) → 弘通(ひろみち・加藤かとう、医者/歌人) I 3 7 9 7
胡庵(こあん) → 春甫(しゅんぽ・村松、俳人/絵師) K 2 1 4 4
- H1905 **午庵**(ごあん・太田おた、名;予/字;子順)1753-1808 56 代々広島藩士/物頭役/病気のため致仕、詩文、
俳諧/絵画、平賀白山・飯田篤老と交流、「午菴遺稿」(篤老とくろう編)、
[午庵の通称/別号]通称;権三郎、別号;呂牛/甲子楼
- H1906 **梧庵**(ごあん・中谷なかたに、名;順、成三男)1769-1841 73 淡路西浦柳沢の農家/俳諧;栗本初世青蘿門、
栗本2世玉屑没後に3世継承;可大を嗣とす、
1828「月物集」、「塵芥抄」「庵こもり」「類題選」著、
[梧庵の字/通称/別号]字;仲順、通称;円次、別号;栗本くりのもと3世
- 1900 **梧庵**(梧庵ごあん・半井なからい/平野、半井元誠男/本姓;和気)1813-89 77 伊予今治藩医;父門、
兄早世により家督、上京;医;荻野徳輿門/国学;足代弘訓・海野遊翁門、
1839帰郷;今治藩校克明館助教;国学、維新後一時石鎚社祠官、歌学研究、
1852-54「歌格類撰」「同続編」著、1854・55「鄙ひなのてぶり」編(749名/1300首;伊予中心)、
1867「愛媛面影えひめのおもかげ」著、後妻;鈴木伊与子(歌人)、元章もとあき・真澄ますみ・栄さかえの父、
[梧《梧》庵(;通称)の名/別通称/号]名;元美/忠見ただみ、別通称;倉吉/互庵、
号;伎里之家/碧梧庵
梧庵(ごあん・野沢) → 岐山(きざん・野沢、儒者/詩) K 1 6 6 5
梧庵(ごあん・山本) → 季護(すえもり・山本やまと/高木、官人/国学) J 2 3 3 6
午庵(ごあん;号) → 公音(こうおん;道号・道鏞;法諱、曹洞僧) H 1 9 7 4
娛庵(ごあん) → 五山(ござん・菊池/修姓;池、儒/詩人) 1 9 2 7
後安祥寺殿(ごあんしやうじどの) → 寛胤法親王(かんいんほっしんのう、真言僧/歌/連歌) D 1 5 4 4
胡安先生(ごあんせんせい;諡号) → 石溪(せつがい・井上いのうえ、儒学/兵学) K 2 4 8 4
恋川笑山(こいかわしやうざん) → 種清(たねきよ・柳水亭、戯作;合巻作者) G 2 6 3 6
恋川春町(初世こいかわよしまち) → 春町(はるまち・恋川、絵師/黄表紙/狂歌) 3 6 3 5
恋川春町(2世こいかわよしまち) → ゆき町(行町ゆきまち・恋川、戯作/絵師) F 4 6 6 0
恋川行町(こいかわゆきまち) → ゆき町(行町ゆきまち・恋川、戯作/絵師) F 4 6 6 0
恋川吉町(こいかわよしまち) → 吉町(よしまち・恋川、初世春町門/絵師) H 4 7 2 0
恋川好町(こいかわよしまち) → 真顔(まがお・鹿都部しかつべの、戯作/狂歌) 4 0 0 1
小池法印(こいけのほういん) → 頼誉(らいよ;法諱・定巖;字、真言僧) 4 8 9 8
- H1907 **五位鷲丸**(ごいさぎまる、姓;紀平/名;義雄)?-1827 江戸新シ橋の狂歌作者;五側の判者/富籤を発行、
1823「まかきのきく」編
[五位鷲丸(;号)の通称/別号]通称;庄之助、別号;新泉園
小泉太夫(こいずみだゆう・陸竹) → 三蔵(さんぞう・難波、浄・歌舞伎作者) G 2 0 0 0
小出雲(初世こいずも) → 出雲(2世いずも・竹田、浄瑠璃作者) 1 1 1 2
- 1901 **小出雲**(二世こいずも・竹田)?- 1753 夭逝 江戸期浄瑠璃・竹本座
小出雲(三世こいずも・竹田) → 出雲(3世いずも・竹田、浄瑠璃作者) B 1 1 0 1
五位撰政(ごいせつしやう) → 惟成(これしげ・これなり・藤原、廷臣/詩歌) 1 9 4 4
- H1908 **小市**(こいち・鈴木すずき、名;舎雅/法号;見竜院真斎)?-1830 盛岡の武芸家;砲術・弓術に長ず、
日置流印西派弓術師範、「日置流弓術伝書」、1827「鹿狩之次第」「百手之大的」著
故一(こいち;俳名) → 重助(初世じゅうすけ・中村、歌舞伎作者) H 2 1 8 0
故一(こいち;俳名) → 重助(2世じゅうすけ・中村、歌舞伎作者) H 2 1 8 1
故一(こいち;俳名) → 重助(4世じゅうすけ・中村、歌舞伎作者) H 2 1 8 3

- 虎一(こいち・花井) → 一好(かずよし・花井はない、蘭学/崑山を密告) M 1 5 5 8
 小市(こいち・西郷) → 勝映(かつてる・西郷さいごう、藩士/俳人) N 1 5 5 5
 小市(こいち・秋間) → 嵐秋(らんしゅう・秋間あきま、俳人) C 4 8 6 3
- E1982 五一(こいち・達摩屋[初世]・岩本いわもと、名;覚、岩本文三郎男) 1817-68⁵² 江戸日本橋書肆達磨屋、
 1828日本橋書肆西村宗七方に丁稚奉公(12歳)/1850日本橋四日市に珍書屋開店、蔵書家、
 狂歌;桜井光枝てるえ門、活東子かつとうしの養父/1861活東子「燕石十種」補助、「群書輻輳ふくこく」、
 「伊呂波分珍書目録」「待買堂珍書目録」編/「瓦の響・しのぶぐさ」「無物翁漫録」「詞林童葉」著、
 [五一の字/別号]字;五心/吾心、別号;蛙麿かわずまろ、花廼屋蛙麿/無物/法斎/草鞋そうかい翁、
 東居/鶉翁じゅんおう/一時閑人/陶々逸民/待買堂
- 1957 後一(こいち・北窓きたまだ) ? - ? 竹本座浄瑠璃作者;1757-62助作:「奥州安達原」、
 「花系図都鑑」著
- 五一(こいち・岸上/加藤) → 暁台(きょうたい・加藤/岸上きしのうえ、俳人) 1 6 3 6
 五一(こいち・小島) → 成斎(せいさい・小島こじま、藩士/書家) B 2 4 6 0
 五一(こいち・熊谷) → 義右(よしすけ・熊谷くまがい/小林/西村、商家/藩支援) M 4 7 6 0
 吾一(こいち・柳沢) → 維賢(これかた・柳沢やなぎさわ/鬼頭、藩士/書家) R 1 9 4 6
 護一(こいち・莊原/冷泉) → 古風(ひさかぜ・冷泉/莊原、医者/国学) 3 7 9 2
 語一(こいち・大山) → 融斎(ゆうさい・大山おおやま、儒者/国学) B 4 6 7 7
 後一音院(ごいちおんいん;号) → 房実(ふさざね・九条、左大臣/歌人) C 3 8 0 7
 五一居士(ごいちこじ) → 誠所(せいしょ・並河なみかわ/なびかわ、儒者) I 2 4 7 4
 小一条(こいちじょう) → 為任(ためとう・藤原ふじわら、廷臣/歌人) H 2 6 0 9
 小一条院(こいちじょういん) → 敦明親王(あつあきしんのう、歌人) 1 0 1 9
 後一条院少将内侍(ごいちじょういんのしょうしょうのないし) → 少将内侍(しょうしょうのないし、歌人) T 2 2 4 5
 後一条院中宮(ごいちじょういんのちゅうぐう) → 威子(い・藤原) E 1 1 0 5
 後一条院中宮宣旨(ごいちじょういんのちゅうぐうのせんじ) → 宣旨(せんじ・後一条院中宮) F 2 4 7 0
 後一条関白家民部卿(ごいちじょうかんぱくけのみんぶさきょう) → 民部卿(みんぶさきょう;女房) G 4 1 8 7
- F1973 後一条天皇(ごいちじょうてんのう、諱;敦成あつひら、一条天皇第2皇子) 1008-1036^{早世} 29 母;道長女彰子、
 在位1016-36/妃(中宮);道長女威子たけこ、同母弟に後朱雀天皇、紫式部日記・栄花物語入、
 1018. 10. 16威子立后の際に道長が「この世をばわが世とぞ思ふ」の歌を詠、
 皇女:
 → 二条院(にじょういん、章子内親王、後冷泉天皇中宮、歌) 3 3 2 9
 → 馨子内親王(けいこないしんのう、後三条天皇皇后) F 1 8 0 4
- 小一条左大臣(こいちじょうのさだいじん) → 師尹(もろまさ/もろただ・藤原、歌) H 4 4 9 2
 小一条太政大臣(こいちじょうのだいじょうだいじん) → 忠平(ただひら・藤原) F 2 6 7 1
 後一条太政大臣(ごいちじょうのだいじょうだいじん) → 為光(ためみつ・藤原) H 2 6 5 0
 小一条内侍(こいちじょうのないし) → 貴子(きし・藤原、忠平女、歌人) K 1 6 7 7
 後一条入道前関白左大臣(ごいちじょうのにゅうどうさきのかんぱくさだいじん) → 実経(さねつね・一条) D 2 0 2 1
 後一条入道前関白左大臣女(ごいちじょうのにゅうどうさきのかんぱくさだいじんのむすめ) →
 実経女(さねつねのむすめ・一条、歌人) D 2 0 2 2
- 小一条女御(こいちじょうのによご) → 宣耀殿女御(せんようでんのによご、藤原芳子/歌) G 2 4 7 4
 後一林院(ごいちりんいん) → 実種(さねたね・今出川いまでがわ/藤原/菊亭、内大臣) K 2 0 9 5
 小一郎(こいちろう・宮本) → 小一(おかず・宮本、幕臣) C 1 4 8 5
 小一郎(こいちろう・速水) → 房常(ふさつね・速水/藤原、官人/故実家) C 3 8 1 8
 小一郎(こいちろう・並河) → 寒泉(かんせん・並河なみかわ/なびかわ、儒者) G 1 5 4 7
 小一郎(こいちろう・宇井) → 黙斎(もくさい・宇井うい/丸子、儒者) 4 4 8 1
 小一郎(こいちろう・金井) → 質直(ただなお・金井、藩士/蝦夷郡代) Q 2 6 2 5
 小一郎(こいちろう・河内) → 長保(ながやす・河内かわうち、製造業;歌人) L 3 2 7 3
 小市郎(こいちろう・荒巻) → 利蔭(としかげ・荒巻あらまき/黒田/本居、歌人/邦楽) U 3 1 0 1
- 1958 五一郎(ごいちろう・牛島うしじま、名;頼忠よりただ) 1821-98⁷⁸ 肥後和算家/家督;熊本藩算学師範、
 航海術修得;廢藩後に竜驤の艦長、1856(安政3)「算法提要」著、
 [五一郎(;通称)の別通称] 慎哉しんさい
- 五一郎(ごいちろう・陶山) → 訥庵(とつあん・陶山すやま、藩士/農政) O 3 1 4 0

- 五一郎(五市郎ごいちろう・並河)→誠所(せいしょ・並河なみかわ/なびかわ、儒者) I 2 4 7 4
 五一郎(ごいちろう・浦井/柳屋)→有国(ありくに・浦井、商人/俳人) B 1 0 6 7
 五一郎(ごいちろう・大林)→正修(まさなが・大林おおばやし/源、藩士/国学) O 4 0 4 1
 伍一郎(ごいちろう・鶴田)→直好(なおよし・鶴田つるた/藤原、藩士/国学) N 3 2 9 2
 語一郎(ごいちろう・森/萩原)→谷峨(2世こくが・梅暮里うめぼり、戯作/歌謡作者) C 1 9 3 5
 語一郎(ごいちろう・松沢)→正澄(まさずみ・松沢まつざわ、国学) S 4 0 6 6
 呉一郎(ごいちろう・大山)→融斎(ゆうさい・大山おおやま、儒者/国学) B 4 6 7 7
- 1959 吳逸(ごいつ・津田つだ/四極田よもだ、名;基義) 1746-1822 77 堺の俳人:風律門、
 1773(安永2)「弥生次郎」(筵史と共編)、
 [吳逸(;号)の別号]別号;三奏菴/俳魔王/珍魚父/反古長者/六寅居、
 法号;槐陰喜参
 五逸(ごいつ・竹内/河村)→琦鳳(きほう・河村/竹内/中原、絵師) L 1 6 9 2
 胡逸滅方海(ごいつめつほうかい)→胴脈先生(どうみやくせんせい、畠中観齋、狂詩) 3 1 2 2
- H1909 小出(こいで・竹田) ? - ? 江中期大阪浄瑠璃作者:竹本座、半二・3世出雲らと合作、
 1764「本朝廿四孝」65「姻袖鏡」67「関取千両幟」「四天王寺稚木像」など合作
- H1910 小いと(こいと) ? - ? 蕪村馴染の妓、俳人;1782蕪村「花鳥篇」2句入
 [いろいろの人見る花の山路かな](花鳥篇;花桜帖27)
 小稻(こいね) → 小稻(おしね)
 恋の山人(こいのやまびと) → 半水(はんすい・一荷堂、歌謡) I 3 6 1 3
- 1960 子磐前(こいわさき・他田部おさたべ) ?-? 755防人、上野国、万葉廿;4407、
 [日な曇り碓氷うすひの坂を越えしだに妹もが恋ひしく忘れぬかも](万葉;防人歌4407)
 古筠(こいん) → 慧鳳(えほう・翺之こうし:道号、臨濟僧) 1 3 8 4
 古蔭(こいん・小谷) → 古蔭(ふるかげ/ひさかげ・小谷こたに/おたに、歌人) E 3 8 6 5
 悟陰(ごいん) → 弄花(ろうか、俳人) 5 2 2 1
 梧陰(ごいん・林) → 孚一(さねかず・林はやし/石井、商家/歌人) P 2 0 1 6
 壺隠庵(こいんあん) → 有林(有隣ゆうりん;法諱、臨濟僧/医者) E 4 6 0 3
 梧陰庵(伍陰庵ごいんあん) → 梨春(梨春りしゅん・後藤/多田、蘭学/本草/談義本) B 4 9 2 3
 湖隠頭陀(こいんずだ;号) → 寂門(じやくもん;道号・道律、黄檗僧) W 2 1 2 4
- H1911 皓(皓こう・魏ぎ・鉅鹿おおが、明規男) 1728-74 47 江中期明楽みんがくの楽人;魏珪ぎほう(子琰)の4代目、
 京で明楽の演奏活動;百余名の門弟指導、「魏氏楽譜」著(明楽243曲のうち50曲収録)、
 没後「魏氏楽器図」(門弟が刊行)、芥川思堂らの師、
 [皓(;名)の別名/字/号]別名;規貞、字;子明、号;君山
- Q1921 耕(こう・宇田うた、字;貞蔵) ? - ? 江中期;山城西岡の歌人、
 本居大平「八十浦の玉」下巻上に長歌入、
 [かぎろひのもゆる野の辺に みな人の いざとしいへば 思ふどち 手たづさはり
 吹く風に 梅が香匂ふ 木本の 芝生が上に 玉だれの 小瓶をすゑて 思ふどち
 飲みゑひ笑ひ 言のばへ 心やるべき 春は来にけり](八十浦;691)
- H1912 綱(こう;名・増田ますだ、通称;半蔵) ?-1821 大阪の長堀吹屋(住友家精錬所)支配人、
 儒学;服部栗斎門、「鼓銅図録」編
- H1913 洪(こう;名・山厓やまざし、字;洪夫) ?-? 江後期京高倉西の医者、
 1820頃「傷寒論字原」「傷寒論略解」著
 [洪の通称/号]通称;周一/周乙、号;茗華ちようか/茗元華園/渠陽きよらう
- Q1994 恒(こう・田中たなか、通称;道俊どうしゅん/号;東里) 1779-1837 59 肥後の医者・代々熊本藩医/3百石、
 御近習御次御物頭列/司七;浜町御七・御前様御七兼、詩歌を能くす
- H1914 鴻(こう;名・谷川たにがわ) ? - ? 江後期播磨の医:谷川流眼科方、1830年代「谷川眼科書」著
- Q1931 鎬(こう/しのぎ;名/鎬女・生田いた、上野館林藩士香取家の女) 1807or1804-1837 自害 31or34 館林生、
 1824(文政7)上野館林藩士生田万よろと結婚/夫は改革を進言し追放/1836越後柏崎に移住、
 1837(天保8)夫が飢饉救民のため柏崎陣屋を襲撃し自刃;自刃後:妻鎬と2子も捕縛;
 鎬は捕縛;獄中で2児を絞殺し自ら舌を嚙切り自決、
 辞世[たをやめの数ならぬ身も二筋に迷ひは入らじ背の山の道](烈女不更二夫)

鴻(こう・赤松)	→ 滄洲(そうしゅう・赤松、儒者)	B 2 5 8 2
鴻(こう・中西)	→ 融(とおる・中西なかにし、書家)	I 3 1 7 9
鴻(こう・富取)	→ 益斎(えきさい・富取とみどり、医/篆刻家)	D 1 3 6 4
鴻(こう・岸田)	→ 月窓(げつそう・岸田きさだ、詩文)	H 1 8 1 9
鴻(こう・滝)	→ 高渠(こうきよ・滝たき/河野、藩士/儒者)	I 1 9 2 9
鴻(こう・松浦)	→ 大麓(だいりく・松浦まつうら、医者/詩人)	C 2 6 4 2
鴻(こう・花木)	→ 潭斎(たんさい・花木、藩士/医/儒者)	I 2 6 6 9
鴻(こう・赤松)	→ 滄洲(そうしゅう・赤松/大川/舟曳、儒者)	B 2 5 8 2
鴻(こう・北脇)	→ 淡水(たんすい・北脇きたわき、儒者/詩人)	I 2 6 9 4
鴻(こう・中西)	→ 融(とおる・中西なかにし、藩士/書家)	I 3 1 7 9
鴻(こう・広井)	→ 遊冥(ゆうめい・広井ひろい、藩儒者/和算)	D 4 6 8 7
鴻(こう・若林)	→ 靖亭(せいてい・若林友輔、藩士/詩人)	J 2 4 2 6
鴻(こう・猿子)	→ 惟常(これつね・猿子まじこ、藩士/詩/園芸)	O 1 9 5 5
鴻(こう・弘ひろ)	→ 通光(みちみつ・弘ひろ、和洋算家/教育)	C 4 1 6 4
光(こう・舟山/船山)	→ 万年(ばんねん・舟山/船山、郷土史家)	D 3 6 3 3
光(こう・渋谷)	→ 棕逸(そういつ・渋谷しぶや、医者/詩文)	F 2 5 9 9
光(こう・高野)	→ 房子(ふさこ・高野たかの、女官/日記)	C 3 8 0 4
交(こう・海保)	→ 酔茗(すいめい・海保かいぼ、篆刻家)	F 2 3 0 3
孝(こう・田中)	→ 五橋(ごきょう・田中たなか、書肆/俳人)	M 1 9 1 1
孝(こう・三雲)	→ 仙嘯(せんしょう・三雲みくも、篆刻家)	F 2 4 9 5
孝(幸こう・細合)	→ 張庵(ちやうあん・細合ほそあい、儒者/詩人)	H 2 8 1 3
孝(こう・たかし・脇屋)	→ 恕亭(じよてい・脇屋わきや、儒者)	M 2 2 7 1
孝(こう・広瀬)	→ 林外(りんがい・広瀬ひろせ、儒者/詩人)	K 4 9 0 5
孝(こう・大石)	→ 幸女(こうじよ・大石おおいし/石井、箏曲/歌人)	Q 1 9 4 8
貢(こう・広橋)	→ 兼勝(かねかつ・広橋、廷臣/歌/連歌)	C 1 5 7 3
貢(こう・祇園)	→ 南海(なんかい・祇園/祇/阮、儒/詩/画)	3 2 3 0
貢(こう・田中)	→ 広道(ひろみち・田中/藤原、神職)	H 3 7 3 2
貢(こう・塩路)	→ 貢(みつぐ・塩路しおじ/物部、薬/医/国学)	D 4 1 3 0
貢(こう・行徳)	→ 周文(しゅうぶん・行徳ぎょうとく/平、医者)	Y 2 1 2 9
貢(こう・鈴木/乳井)	→ 貢(みつぎ・乳井にゅうい/鈴木、藩士/財政)	D 4 1 2 6
貢(こう・垣本)	→ 雪臣(ゆきおみ・垣本かきもと/菅原、歌/画)	E 4 6 3 7
貢(こう・倉成)	→ 自嬉斎(じきさい・倉成くらなり/くらなし、藩儒)	Q 2 1 0 4
貢(こう・井川)	→ 鳴門(めいもん・井川いかわ/橋、書家/絵師)	4 3 4 0
貢(こう・佐倉)	→ 眞邦(まくに・佐倉さくら/水野、神職/歌)	P 4 0 8 0
貢(こう・佐原)	→ 義昌(よしまさ・佐原さわら、藩士/歌人)	I 4 7 1 6
貢(こう・藤江)	→ 貢(みつぎ・藤江ふじえ、国学者)	K 4 1 3 5
衡(こう・松平/林)	→ 述斎(じゆっさい・林/松平、幕府儒官; 学制改革)	I 2 1 9 4
衡(こう・安井)	→ 息軒(そっけん・安井やすい、儒者/教育)	2 5 2 5
衡(こう・安田/山県)	→ 璣(たまき・山県/宍戸、藩士/儒者)	S 2 6 2 3
衡(こう・松本)	→ 奎堂(けいどう・松本まつもと、儒者/天誅組)	1 8 8 7
衡(こう・佐竹/川合)	→ 春川(しゅんせん・川合/川/佐竹、藩士/儒者)	K 2 1 1 4
衡(こう・近藤/家里)	→ 松嶠(しょうとう・家里いえさと、儒者/尊攘)	R 2 2 5 7
衡(こう・近藤)	→ 順衡(のぶひら・近藤こんどう、藩士/歌人)	I 3 5 4 9
衡(こう・四宮)	→ 松陰(しょういん・四宮しのみや、国学/神官)	U 2 2 8 8
浩(こう・人見)	→ 午寂(ごじゃく・人見ひとみ、幕臣/俳人)	C 1 9 8 0
浩(こう・ひろし・荒井/渡辺)	→ 柳斎(りゅうさい・渡辺/荒井、藩士/儒者)	E 4 9 0 2
浩(こう・ひろし・高橋)	→ 由一(ゆいち・高橋たかはし、藩士/絵師)	4 6 4 3
皓(こう・北山)	→ 七僧(しちそう・北山きたやま、儒者/医者)	E 2 1 5 5
皓(こう・鶴田)	→ 皓(あきら・鶴田、儒者/法律家)	E 1 0 2 3

皓(こう・永野/島村)	→	秋江(しゅうこう・島村しまむら/永野、藩儒)	X 2 1 1 9
皞(こう/あきら?・熊田)	→	休庵(きゅうあん・熊田くまだ、商家/儒詩)	M 1 6 2 4
皞(こう・市川)	→	清流(せいらゆう・市川、遣欧使節従者)	J 2 4 8 0
亨(こう/とおる・脇坂)	→	安元(やすもと・脇坂わきさか、藩主/歌人)	D 4 5 2 6
亨(こう・菅かん)	→	仲徹(中徹・菅かん、儒者)	G 2 8 6 5
亨(こう/とおる・神屋)	→	立軒(りっけん・神屋かみや、儒者/藩出仕)	B 4 9 7 1
亨(こう/とおる・柴田)	→	鳩翁(きゅうおう・柴田しばた、心学者)	1 6 2 6
亨(こう/とおる・春田)	→	九臯(きゅうこう・春田はると、藩士/儒者)	I 1 6 7 3
亨(こう/とおる・石原)	→	桂園(けいえん・石原いしはら、医者/儒者)	F 1 8 2 9
亨(こう/とおる・鳥居)	→	研山(けんざん・鳥居とりい、藩士/詩人)	J 1 8 2 6
亨(こう/とおる・小沼)	→	玄竜(元竜げんりゅう・小沼こぬま、本草家)	M 1 8 9 4
亨(こう/とおる・綿引)	→	文山(ぶんざん・綿引わたひき、医者/随筆)	F 3 8 4 3
亨(こう/とおる・阿部)	→	櫟斎(れきさい・阿部あべ、医者/本草家)	5 1 7 5
幸(こう・坂口/平盛)	→	口阿(こうあ、姓;平盛/坂口、早歌中興の祖)	1 9 6 1
幸(孝こう・細合)	→	張庵(ちやうあん・細合ほそあい、儒/詩人)	H 2 8 1 3
幸(こう・松田)	→	葵亭(きてい・松田まつだ、儒者)	L 1 6 5 3
幸(こう・大高)	→	竹操(ちくそう・大高おおたか、藩家老/詩)	D 2 8 3 9
幸(こう・川瀬)	→	幸子(ゆきこ・川瀬かわせ/飯島、国学/尊攘)	G 4 6 7 7
興(こう・中村)	→	信斎(しんさい・中村なかむら、漢学者)	E 2 2 1 5
興(こう・河田)	→	迪斎(てきさい・河田/川田、儒者/幕臣)	B 3 0 9 3
興(こう・奥/華岡)	→	南洋(なんよう・華岡/奥おく、医者)	3 2 4 9
亘(こう/わたる・高橋)	→	赤山(せきざん・高橋、藩士/柔術/俳人)	K 2 4 0 9
亘(こう/わたる・吉田)	→	芳草(よしあき・吉田よしだ、神職/歌人)	B 4 7 9 7
亘(こう・細野)	→	亘(わたる・細野ほその、藩士、国学者)	5 3 8 7
恒(こう・原はら)	→	道円(どうえん・原はら、蘭医)	B 3 1 5 8
恒(こう・鈴木)	→	東海(とうかい・鈴木、蘭医:眼科/詩)	B 3 1 9 6
恒(こう・村井)	→	長在(ながあきら・村井むらい、藩士/記録)	D 3 2 1 8
恒(こう・横溝)	→	藿里(かくり・横溝よこみぞ、儒者)	K 1 5 5 7
恒(こう・黒岩)	→	慈庵(じあん・黒岩くろいわ、儒者;南学)	B 2 1 0 5
恒(こう・武元)	→	北林(ほくりん・武元/明石、庄屋/儒者)	E 3 9 0 8
恒(こう・石田)	→	玄圭(げんけい・石田いしだ、医/和算/暦学)	I 1 8 5 4
恒(こう・坂上)	→	忠介(ちゅうすけ・坂上さかのうえ、藩儒/詩)	G 2 8 4 8
恒(こう・関)	→	讚蔵(さんぞう・関せき、藩士/砲術家)	M 2 0 5 6
恒(こう・杉野)	→	恒(つね・杉野、文筆家)	B 2 9 4 3
恒(こう・川上)	→	文和(ぶんわ・川上かわかみ、医者/俳人)	G 3 8 8 8
恒(こう・野沢)	→	酔石(すいせき・野沢のざわ、幕臣/詩人)	2 3 7 5
恒(こう・山本)	→	雪亭(せつてい・山本やまもと、棋士;碁)	L 2 4 2 5
恒(こう・藤沢)	→	南岳(なんがく・藤沢、藩士/儒者/教育)	J 3 2 9 6
恒(こう・菅沼)	→	貞主(さだぬし・菅沼/源、藩士/文筆家)	J 2 0 1 2
恒(こう・星野)	→	恒(ひさし・星野ほしの、儒者/史家)	K 3 7 9 4
恰(こう・平元/飯塚)	→	恰(ゆたか・飯塚/平元、藩士/詩歌/狂詩)	G 4 6 0 7
奄(こう・中村)	→	中侗(ちゅうそう・中村、藩士/医/儒者)	G 2 8 5 6
広(こう・白井)	→	華陽(かよう・白井しらい、儒者/絵師)	P 1 5 5 9
広(こう・河合)	→	元碩(げんせき・河合かわい、医者)	K 1 8 5 3
広(こう・長谷川)	→	広(ひろし・長谷川はせがわ、和算家)	D 3 7 0 1
広(こう・桜井)	→	養益(ようえき・桜井さくらい、医者)	4 7 6 3
広(こう・横山)	→	広(ひろし・横山よこやま、藩士/儒者/歌人)	M 3 7 3 3
弘(こう・源)	→	弘(ひろむ・ひろし・源みなもと、廷臣/詩人)	H 3 7 4 4
弘(こう;一字名)	→	弘資(ひろすけ・日野ひの、廷臣/歌人)	G 3 7 1 0

弘(こう/ひろし・鈴木)	→	文台(ぶんだい・鈴木すずき、漢学者/教育)	G 3 8 1 2
弘(こう/ひろし・小川)	→	心斎(しんさい・小川おがわ、儒者/治水)	E 2 2 2 1
弘(こう/ひろし・林)	→	自弘(じこう・林はやし、藩士/和算家)	T 2 1 4 0
弘(こう/ひろし・雲谷)	→	壬斎(じんさい・雲谷うんや/水野、儒者)	E 2 2 2 3
弘(こう/ひろし・小寺)	→	翠雨(すいう・小寺こでら、藩士/蘭/兵学)	E 2 3 0 6
高(こう・都筑)	→	高(たかし・都筑まつぎ、儒者/詩人)	X 2 6 4 3
顯(こう・英)	→	大助(大輔だいすけ・英はなぶさ、書肆)	K 2 6 4 4
宏(こう/ひろし・山沢/国島)	→	筈斎(かっさい・国島くにしま、藩士/儒者)	N 1 5 3 0
杲(こう・日高)	→	耳水(じすい・日高ひだか、藩儒/詩文)	T 2 1 9 7
晃(こう)	すべて→	晃(あきら)	
焜(こう・高橋)	→	桐陽(とうよう・高橋、藩士/儒者)	H 3 1 8 9
梶(こう・佐藤)	→	立軒(りっけん・佐藤さとう、儒者)	B 4 9 7 6
贛(こう・富永)	→	南陔(なんがい・富永とみなが、詩歌/国学)	I 3 2 6 8
耕(こう・田中)	→	白賁(はくひ・田中たなか、易学者)	D 3 6 8 3
耕(こう・三浦)	→	桜所(おうしよ・三浦みうら、医者/詩)	C 1 4 5 0
耕(こう・東条)	→	琴台(きんだい・東条とうじょう、儒者)	E 1 6 2 4
耕(こう・上田)	→	童郊(りゅうこう・上田うえた、儒者/教育)	D 4 9 8 5
耕(こう・土屋/石井)	→	繩斎(じょうさい・石井/土屋、儒者/詩文)	S 2 2 3 7
耕(こう・池野)	→	大雅(たいが・池/池野、絵;文人画)	B 2 6 1 2
耕(こう・勝田/服部)	→	竹塙(ちくお・服部/勝田、儒者/詩人)	C 2 8 6 5
耕(こう・柴田)	→	拗斎(ようさい・柴田/新発田、地理学者)	4 7 9 9
行(こう・桃井)	→	安貞(あんてい・桃井もものい、医者)	G 1 0 1 8
行(こう・矢上)	→	快雨(かいう・矢上やがみ、儒者/詩)	E 1 5 3 3
行(こう・佐々木)	→	玄竜(げんりゅう・佐々木、書家/幕府儒官)	M 1 8 8 7
行(こう・小林/田中)	→	亦太郎(またろう・田中/小林、藩士/国学)	J 4 0 5 0
行(こう・大窪)	→	詩仏(しぶつ・大窪おおくぼ、儒者/詩人)	2 1 3 2
行(こう・村田)	→	誠斎(せいさい・村田むらた、医者)	I 2 4 2 8
行(こう・宮沢)	→	行(すむ・宮沢みやざわ、国学者)	J 2 3 2 8
黄(こうこう; 一字名)	→	光広(みつひろ・烏丸/藤原、廷臣/歌学)	4 1 3 1
功(こう・いさお・野口)	→	比礼雄(ひれお・野口のぐち、歌人)	F 3 7 4 5
功(こう・いさお・宮地)	→	巖雄(いわお・宮地みやぢ/手島、神職/故実)	K 1 1 7 1
効(こう・谷田貝/森)	→	蘭沢(らんたく・森/杜もり/谷田貝、藩儒)	C 4 8 9 5
厚(こう・笹島/柴田)	→	艾軒(がいけん・柴田/笹島、心学者)	I 1 5 6 1
厚(こう・藤森)	→	桂谷(けいこく・藤森ふじもり、絵師/教育)	F 1 8 6 0
厚(こう・陳)	→	銭塘(せんとう・陳ちん、漢学者)	N 2 4 0 0
厚(こう・益田)	→	厚(あつし・益田ますだ香遠、篆刻家)	I 1 0 4 2
賡(こう・落合)	→	雙石(そうせき・落合おちあい、藩儒/詩人)	C 2 5 3 3
好(こう・近衛/徳川)	→	宗睦室(むねちかのしつ・徳川、藩主夫人/歌)	B 4 2 6 1
好(こう・荒川)	→	蔦子(つたこ・荒川/日高、紀行文)	2 9 0 7
阜(こう・岡田)	→	鶴鳴(かくめい・岡田おかだ、神職/儒者)	H 1 5 3 9
綱(こう・望月)	→	毅軒(きけん・望月もちづき、昌平黌儒官)	I 1 6 4 8
綱(こう・清水)	→	賢林(けんりん・清水しみず、医者/詩人)	N 1 8 0 8
香(こう・白田)	→	竹老(ちくろう・白田うすだ、儒者/教育)	D 2 8 9 7
香(こう・宇喜多)	→	可為(よしため・宇喜多/藤原・豊臣、絵師)	L 4 7 7 1
香(こう・菱田)	→	房明(ふさあき・菱田ひしだ、幕臣/和学)	I 3 8 6 7
篁(こう・小野)	→	篁(たかむら・小野おの、廷臣/詩歌人)	2 6 1 9
煌(こう・三宅)	→	煌(あきら・三宅みやけ、国学者/歌人)	L 1 0 5 4
穀(こう・こく・横山)	→	隆従(たかより・横山よこやま、藩士)	N 2 6 8 1
鏗(こう・佐々木)	→	雪峰(せつぼう・佐々木ささき、儒者)	L 2 4 3 7

[釘折れに下り娘の初もみぢ](万国燕;492/釘折れは下手な字)

(下手な恋文でも江戸に下って初めてもらって顔を赤らめる娘)

- Q1944 剛(ごう・小野おの、鶴見定右衛門男)1780-1824⁴⁵ 備中川上郡布加村の生、
三国屋小野宗仙久富の養子、国学者、木下幸文・小野務・小野正雄・小野梅子と交流、
[剛(;名)の通称]六郎右衛門・喜一郎・俊助、屋号;三国屋

剛(ごう・川田) → 甕江(おうこう・川田かわた、儒者) B 1 4 6 5
剛(ごう・石川) → 彦岳(げんがく・石川いしかわ、藩士/儒者) E 1 8 9 2
剛(ごう・古市) → 南軒(なんけん・古市、藩士/儒/医者) J 3 2 9 1
剛(ごう・吉川/青柳) → 剛斎(こうさい/ごうさい・青柳/吉川、儒者) J 1 9 0 5
剛(ごう・結城) → 香崖(香厓こうがい・結城ゆうき、藩儒/詩) G 1 9 2 1
剛(ごう・吉川) → 全筋(ぜんせつ・吉川よしかわ、儒者) M 2 4 7 9
剛(ごう・寺田) → 剛正(たけまさ・寺田てらだ、藩士/佐幕派) O 2 6 7 6
剛(ごう・原田/河野) → 禎造(ていぞう・河野こうの、藩士/蘭医/農芸) B 3 0 3 8
剛(ごう・村上) → 仏山(ぶつさん・村上むらかみ、庄屋/詩人) D 3 8 3 5
剛(ごう・矢島) → 立軒(りっけん・矢島やじま、藩儒) B 4 9 7 7
剛(ごう・高橋) → 由一(ゆいち・高橋たかはし、藩士/絵師) 4 6 4 3
剛(ごう・赤羽) → 剛(たけし・赤羽あかばね/太田、藩士/歌人) V 2 6 1 8
剛(ごう・中原) → 剛(かたし・中原なかはら、国学者) V 1 5 2 0
合(ごう・津田/田) → 養(よう・津田つだ/修姓;田、医者/俳人) 4 7 5 3
郷(ごう・座光寺) → 里(さと・座光寺ざこうじ、為巳女/歌人) O 2 0 5 4
鼈(ごう・下村/島村) → 弘堂(こうどう・島村しまむら、儒者) G 1 9 4 2

- 1902 向阿(こうあ;法諱、源満信男?)1263-1345⁸³ 浄土宗学僧、「三部仮名抄」、歌人;新千歳1685、
[めぐりあふ春やむかしのもとの身と月だにしらじ墨染の袖](新千載集;十六1685)
証賢(しょうけん・浄華坊向阿)と同一説あり?→ 証賢(しょうけん・浄華坊向阿) I 2 2 3 9
武田信繁と同一説(勅撰作者部類)は誤り

- R1969 光阿(こうあ;法諱、) ? - ? 鎌倉南北期;僧、
歌;1334(建武元)[度会朝棟亭八月十五夜歌会]参加(3首)、
[さやかなるあかしの浦の月も猶最中の影や澄みまさるらん](朝棟亭歌会;115)、
[うき世とてそむく心にあらねども我がすみなる秋の山里](同;117)

- 1961 口阿(こうあ、姓;平盛/坂口さかぐち、名;幸、坂口盛勝[坂阿はん男)1347-? 1436存 早歌中興の祖;
父門:1392相伝、將軍側近武士/出家;沙弥、1425藤原盛通[宗友]に伝授
早歌の伝承 → 月江(げっこう) B 1 8 0 5

- 1962 香阿(こうあ) ? - ? 連歌師、時宗四条道場(金蓮寺)僧

- 1963 好阿(こうあ・静観房じょうかんぼう)1698-1769⁷² 江戸の談義本作者;元文1736-41頃執筆活動、
宝暦1751-64頃上京;談義本・読本著作、1740「御架空穂猿」48「華頂百談」50「諸国奇事談」、
1750「疱瘡禁厭秘伝集」52「当世いよいよ下手談義」53「教訓下手談義」60「豊年珍話談」著、
1767「怪談楸策」72「怪談御伽童」、「怪譚都草紙」著、談義本の祖と称される、
①江戸両国の手習屋の山本善五郎説 or ②大阪の医者積慶堂徳孤子説あり、
[静観房好阿(;号)の別号]浄観房(坊)/摩志田好話/西向庵、法号;瑞誉了夢信士

- Q1975 光阿(こうあ;法諱、) ? - 1830 近江蒲生郡の僧/甲賀郡水口町の浄土宗大徳寺11世、
歌人;[鴉のうみ]入

- H1916 弘阿(こうあ;法諱・秀恵;字)?-1858 京の真言僧;智積院弘基門/京の大通寺71世、
「雙身許可作法私記」「雙身毘沙門天浴油供私記」「正嫡相承秘書」著

- Q1973 弘阿(こうあ;法諱・宣誉;字、俗姓;小笠原)1793-1872⁸⁰ 信濃伊那郡赤穂村の安楽寺住職、
歌人;賀茂季鷹門、
[弘阿の名]教順

- Q1974 光阿(こうあ;法諱、) 1814 - 1875⁶² 美濃岐阜の本誓寺住職、のち尾張大森寺住職、
歌人;香川景樹門

- H1915 公阿(こうあ;字・具空くう;法号、号;公庵)1822-79⁵⁸ 三河幡豆郡の浄土僧;1830福泉寺慈空門、
1840師没後横須賀村福泉寺住職、国学;1841城戸千楯門/歌文に長ず、早川千代女の師、

1862「続後法の江」65「入水往生伝」著、

「類題三河歌集」共編(竹尾正久・寺部宣光・釈公阿・村上忠順・中山繁樹の5名で編纂)

[はたなれぬせみの羽袖もさむけきはみつえより吹露のあさ風](類題三河歌集/新樹風)

口阿(こうあ・寂蓮社)	→	猷空(ゆうくう;法諱・離言;字、浄土僧)	B 4 6 3 1
向阿(こうあ・浄華坊)	→	証賢(しょうけん;法諱・浄華坊、浄土僧)	I 2 2 3 9
光阿(こうあ・然蓮社)	→	文雄(もんゆう;法諱、浄土僧/語学者)	I 4 4 3 6
光阿(こうあ・横蓮社)	→	心岩(しんがん;法諱・頑夢、浄土僧/画)	N 2 2 7 7
光阿(こうあ;法名)	→	任口(にんこう/如羊;号、真宗僧/俳人)	G 3 3 3 6
光阿(こうあ)	→	為恭(ためちか・冷泉/岡田、絵師/歌)	H 2 6 0 0
光阿(こうあ・香川)	→	景新(かげちか・香川、歌人)	K 1 5 9 9
光愛(こうあい・柳原)	→	光愛(みつなる・柳原/藤原、廷臣/歌)	E 4 1 2 7
弘愛(こうあい・石走)	→	弘愛(ひろなり・石走いしはし、神職/歌人)	L 3 7 2 1

- 1964 **幸阿弥**(初世こうあみ、土岐、道長どちよう)1410-7869 室町期蒔絵師、義政近習(同朋衆)、
入道名;幸阿弥
- D1994 **幸阿弥**(二世こうあみ、道清)1433 - 150068 室町期蒔絵師
- F1941 **幸阿弥**(三世こうあみ、宗全)1457 - 152165 戦国期蒔絵師
- N1961 **幸阿弥**(四世こうあみ、宗正)1479 - 155476 戦国期蒔絵師
- 1965 **幸阿弥**(五世こうあみ、宗伯、宗全男)1484-155774 戦国期蒔絵師、「桜山鵲蒔絵硯箱」
- 1966 **幸阿弥**(六世こうあみ、長清ちようせい、宗伯男)1506-1603長寿98 戦国安桃期蒔絵師、
秀吉より天下一の称号
- 1967 **幸阿弥**(七世こうあみ、長晏ちようあん、長清男)1569-161042 安桃期蒔絵師、「高台寺霊屋厨子蒔絵扉」画
- P1958 **幸阿弥長玄**(こうあみちようげん、長清男)1572-160736 安桃期蒔絵師、古田織部門、
虎溪三笑図織部棚作
- P1959 **幸阿弥**(八世こうあみ、長善ちようぜん、通称;藤十郎/四郎左衛門、長晏男)1589-1613早世25、
安桃期蒔絵師、水尾天皇即位時の蒔絵調度類制作
- P1960 **幸阿弥**(九世こうあみ、長法ながり、長晏男)?-1618 江戸前期蒔絵師、
秀忠女東福門院入内時の道具類制作
- 1968 **幸阿弥**(十世こうあみ、長重ながしげ、長晏男)1599-165153 江戸前期蒔絵師、
明正天皇即位時の調度類作、千姫嫁入り時の調度類制作;「初音蒔絵三棚」作
- P1961 **幸阿弥**(11世こうあみ、長房ながふさ、長重男)1628-8255 江戸前期蒔絵師、上野東叡山造営の蒔絵頭取、
入道名;長安
- P1962 **幸阿弥**(12世こうあみ、長救ながやす、長房男)1661-172363 江前中期蒔絵師、別号;長好/長道、
1688日光東照宮造営時の蒔絵頭取
- P1963 **幸阿弥**(14世こうあみ、長孝ながたか)?-? 江中期蒔絵師、1762-80頃「鯉鮎蒔絵印籠」作
- H1917 **亨庵**(こうあん;道号・宗元そうげん;法諱)?-? 1275存 臨濟僧;肥前万寿寺開山の神子栄尊門/嗣法、
万寿寺住寺、国清寺・妙高寺開山、「神子禅師行業記」「神子禅師栄尊大和尚年譜」編
- H1918 **香庵**(こうあん・榊原さかきばら、名;勝政、康勝男)1613-6755 備前岡山池田光政家臣(光政の従兄弟)、
加藤忠広に養育/1632忠広配流;高野山で剃髪/堺・天満住/1644岡山藩士、「香庵様覚書」著、
[香庵の通称/法号]通称;平十郎、法号;覚林院玉堂一瓊
- G1982 **行安**(こうあん・野間のみ) ? - ? 江前期撰津の狂歌;行風門、1666行風「古今夷曲集」17首入
[きのふまでいもつての外ほかにさぶ六の十八公の門の春けさ](古今夷曲集;一春歌/正月)
(さぶは寒と三を掛ける/十八公は松)
- R1976 **江庵**(興庵/幸庵/好庵こうあん・福富ふくとみ、名;隆意/立意)?-? 江前期;土屋但馬守家の医者、
1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、
[せめて世の思ひ出なれや惜みこしとしを身につむ命ながさは]、
(若むらさき;188述懐)
- H1919 **好庵**(興庵こうあん・辻つじ、名;隆、おじ辻端亭の養嗣子)1643-170866 儒者/1668水戸彰考館入、
「端亭集」編、「常陸国誌」著、
- H1920 **幸庵**(こうあん・真島まじま、通称;保之助、幸安男)?-1697 江前期因幡鳥取の町医者、
1691農政改革上申:不採用のため焼却;1735刊「報告焚章」安田成信序

- R1929 **亨庵**(こうあん・馬杉ますぎ、)1680-1772長寿93 京の儒者;伊藤仁斎(1627-1705)門、のち並河天民(1679-1718)門、歌学;高松重季げんせ門、頼春水の歌の師、
[老らくの末はつかなる身にぞ思ふ今より月の宵々のかげ]
- H1921 **幸庵**(こうあん・阪本さかもと、名;宣胤、河合柳益男)1710-8172 尼崎藩儒阪本順庵の養嗣子/1745家督、家学継承;尼崎藩儒、京の斎静斎門、「坐隅漫筆」、「制之詞本歌」著
- H1922 **孝庵**(2世こうあん・栗山くりやま、名;以直/猷臣たけおみ、孝庵[初世]之経3男)1728-9164 長州萩藩医;父門、儒;明倫館学頭山根華陽門/上京;医学;山脇東洋門/1751帰郷/長崎に遊学;蘭医学修学、1758(宝暦8)師に続き萩で国内2番目男性死体解剖、9(宝暦9)国内最初の女性死体解剖、名声上がり藩主毛利重就・治親父子の侍医(側医)、1787(天明7)養孫の幸庵(景範)のため三度目の解剖、杉田玄白・平賀源内と親交、書/歌を嗜む、「方函」編/「文仲漫筆」「尚古閣方函」著、
[2世孝庵(;通称)の字/別通称/号]字;文仲、別通称;左内/玄室/玄慶/養庵、号;大隠斎/尚古閣
- Q1901 **孝庵**(3世こうあん・栗山くりやま、名;景範)?-? 長州萩藩医;養祖父の2世孝庵門、藩主の侍医、詩文に長ず、菊舎尼と交流、
[3世孝庵(;通称)の字/号]字;子高、号;幸庵/春水
- H1923 **幸庵**(こうあん・斎藤さいとう、名;順/字;子六)?-? 江中期大阪瓦町の医者;池田氏(錦橋?)門、「池田先生治痘口訣」編
- H1924 **厚菴**(厚庵こうあん・山口やまぐち、)1762-182665 和泉堺の儒者;草加驪川りせん門/経史修学、医術を修学、書/歌を愛す、山城伏見で医者、1826(文政9)没、驪川著[東儀]を継ぎ「東儀次篇」著、辞世[けふといふけふ迄けふをしらさき明日なき身とはかねてしりつゝ]、
[厚菴(;号)の名/通称]名;美啓よしひろ、通称;大介/作平
- H1925 **弘安**(こうあん・青木あおき、名;恭理/字;子紀/通称;三之丞)1799-185658 越後中蒲原郡曾野木村儒者、1813(15歳)父と死別/16(18歳)上京;遊学/1831帰郷:新発田藩主の信任/城中で経学講義、1833天保飢饉に窮民救済、「家政記」「聖訓語類」「防淫篇防殺篇」著、青城・海嶠の父
- E1984 **恒庵**(こうあん;字・村上むらかみ、名;源如/号;黙斎)?-? 江後期大阪油掛町の医者、書;趙陶斎門、1810陶斎「陶斎先生随筆」編
- E1985 **恒庵**(こうあん・天沼あまぬま/伊藤、天沼浄還男)1743-94/181052/68 江戸神田の書家;伊藤華岡門、儒;三浦瓶山門・詩;宮瀬竜門門、1763伊藤華岡の養子/幕臣;御徒、致仕;武蔵川越に移住、旧姓に復帰;子弟教育、1782「金蘭集」86「朝美登里」/「兔園韻冊」「詩学韻海」編、1794「恒庵文稿」/「大東紀略」著、
[恒庵(;号)の名/字/通称]名;有美(;初名)/爵/天爵、字;子濟/履仁/樂善、通称;千蔵
- H1926 **公庵**(こうあん・滝沢たきざわ、彦吉男)1773-184775 信州埴科郡の医者;武田叔庵門/歌;橘守部門、本草学修得、帰郷後開業医/本草研究;藩命で天保飢饉時に救荒植物栽培の指導、功績により苗字帯刀、歌;荒木田久老・飯塚久敏門、「松のいほり」、「たぬき和尚の記」著、
[公庵の幼名/別号]幼名;彦弥、別号;松廼家/木公庵、法号;木翁玄公居士
- 1903 **弘庵**(こうあん・藤森ふじもり、名;大雅、字;淳風、義正男)1799-186264 江戸儒者;侗庵門、播磨小野藩右筆、1835-47土浦藩学政参与/江戸下谷で開塾、1853「海防備論」を幕府に建白、安政大獄連座;追放処分/下総行徳び住;赦免、「春雨楼詩鈔」編/「芻言」「天山筆記」「葵園日記」「如不及斎文鈔」「無名草紙」著外多数、
[弘庵(;号)の通称/別号]通称;恭助、別号;天山/菁阿堂せいあどう主人/如不及斎じよふきゆうさい
- 1969 **洪庵**(こうあん・緒方おがた/田上、名;惟彰/章あきら、佐伯さえき惟因男)1810-6354 備中足守の蘭医、大阪;中天遊門/江戸;坪井信道・宇田川榛斎門、長崎遊学/大阪に適々斎塾を開;蘭学教授、種痘普及、門弟三千余、1862幕府奥医師・西洋医学所頭取/法眼、1847「病学通論」著、「病学約論」「客窓漫筆」「緒方洪庵医誠」/1850「種痘功能書」1862-「勤仕向日記」外訳書等多数、
[洪庵の字/通称/別号]字;公裁、通称;駢之助せいのおけ/三平、別号;華陰/適々斎、堀家幾知子きち(吉備津神社社家徳政の妻)の弟、妻;億川八重(花香、歌人)、洪庵の主な門弟;大村益次郎・佐野常民・橋本左内・大鳥圭介・長与専斎・福沢諭吉
- H1928 **黄庵**(こうあん・中川なかがわ、名;克一/升、字;允中いんちゆう/まさなか)1811-6252 淡路の儒者;楠本碩水門、

のち川田甕江門、江戸で開塾、「黄庵詩文」著

- 行庵(こうあん・武元) → 登々庵(とうとうあん・武元たけもと、儒者/書) O 3 1 5 2
 恒安(こうあん・森) → 恒安(つねやす・森もり、国学者) G 2 9 6 1
 恒庵(こうあん・伊地知) → 貞馨(貞香さだか・伊地知いちち、藩士/国事) H 2 0 8 7
 恒庵(こうあん・大河内) → 存真(ぞんしん、大河内おおこうち/西山、医者) F 2 5 5 9
 黄庵(こうあん・吉村、寅太郎) → 重郷(しげさと・吉村、天誅組/詩歌) R 2 1 0 4
 亨庵(こうあん・馬淵) → 惟同(これとも・馬淵まぶち、藩医) R 1 9 3 0
 幸安(幸庵こうあん・西田) → 維則(これのり・西田、儒者/白話翻訳) O 1 9 6 9
 幸安(こうあん・島田) → 幸安(ゆきやす・島田はまだ、文筆家) F 4 6 9 1
 幸安(こうあん・出淵) → 幸安(ゆきやす・出淵でぶち/いづぶち、藩士) H 4 6 0 2
 幸庵(こうあん・皆川) → 良礎(りょうそ・皆川みながわ、医者/俳人) I 4 9 6 3
 考安(こうあん・木村) → 渫庵(せつあん・木村きむら、医者/儒/詩文) K 2 4 6 7
 控庵(控庵こうあん・山田) → 梅東(ばいとう・山田やまだ/清水/源、神職/儒詩) B 3 6 8 7
 控庵(こうあん・鍋島) → 直正(なおまさ・鍋島なべしま、藩主/詩歌) C 3 2 4 7
 縞庵(こうあん) → 義道(ぎどう; 法諱、真宗僧/経史) G 1 6 0 3
 公庵(こうあん; 号) → 公阿(こうあ; 字・具空くう; 法号、浄土僧) H 1 9 1 5
 弘庵(弘安こうあん・松木/寺島) → 宗則(むねのり・寺島/松木、洋学/外交) C 4 2 2 3
 高安(こうあん・佐々木) → 高安(たかやす・佐々木ささき、神職) N 2 6 5 6
 高安(こうあん・武蔵) → 安兵衛(やすべゑ・武蔵/藤原、商家/華道) C 4 5 9 2
 篁庵(こうあん・高橋) → 盈(みつる・高橋たかはし、別名; 景作、医者) F 4 1 2 9
 篁庵(こうあん・曲直瀬) → 正貞(しょうてい・曲直瀬まなせ/越智、医者/本草) K 2 2 9 9
 耕庵(こうあん・桂井) → 素庵(そあん、桂井かつらい、郷土/儒者) F 2 5 8 2
 厚安(こうあん・山田) → 義親(よしちか・山田やまだ、医者) E 4 7 5 3
 鼈庵(ごうあん・犬塚) → 興恕(おきひろ・犬塚いぬづか/橋、国学者) D 1 4 8 6
 幸安院(こうあんいん) → 日掌(にっしょう; 法諱・会秀、日蓮僧) E 3 3 3 3
 阜安院(こうあんいん) → 頼起夫人(よりおきふじん・松平まつだいら、藩主室/歌) P 4 7 1 9
 香案小史(こうあんしょうし) → 杏所(きょうしょ・立原たちばら、藩士/絵師) C 1 6 5 8
 H1929 公意(こうい; 法諱・号; 林泉坊/静遍院/前松梅院、三条実量男?)?-? 室町期天台僧; 公承僧正門、
 大原勝林院寺務・1502権僧正/法印、連歌: 新菟2句入
 H1930 亨意(こうい; 通称・安田やすだ、号; 楽山/楽山庵) ?-?宝暦(1751-64)頃没 江中期; 岩代会津の医者、
 歌人; 谷岡梅山門、
 「雄島之夢」「無根草」「難忘集」「百番歌合集」「会津領内名所勝地」著、
 「後楽集」(安部井武氏編)
 1970 香以(香意こうい・細木ほそき/さいき、仙嶋男/本姓; 源) 1822-7049 江戸山城河岸豪商; 撰津国屋つぐくにや、
 通人大通; 今紀文と称さる、俳; 鳳朗・逸淵門、狂歌: 弥生庵雛丸門、1863没落; 下総寒川住、
 1866江戸に帰り没、1842「駄荷袋」53「狂歌調子笛」編/53「斎諧記山海経」著、58「四方海」編、
 [香以(; 号)の名/字/通称/別号]名; 徳・鱗、字; 冷和、通称; 藤次郎/津藤、
 別号; 鯉角/李螻/鶴枝/もと枝/梅の本/俵口子/破笛山/桃江閣/梅阿弥/寿阿弥/
 梅堀香以/何の屋/螺舎、屋号; 撰津国屋/津国屋
 公威(こうい・小笠原) → 東陽(とうよう・小笠原、儒者/教育) H 3 1 9 1
 公維(こうい・久我/徳大寺) → 公維(きんつな・徳大寺、内大臣/歌) E 1 6 3 4
 公維(こうい・染谷) → 公維(きんつな・染谷そめや、歌人) T 1 6 0 0
 公伊(こうい/きんこれ・三条西) → 公福(きんとみ・三条西/西三条、歌人) E 1 6 4 1
 恒意(こうい・奈須) → 恒意(つねおき/つねのり?・奈須なす、歌人) E 2 9 9 8
 更衣(こうい・文徳天皇) → 三条町(さんじょうのまち、紀静子/歌) E 2 0 4 5
 孝威(こうい・大塚) → 稼圃(かほ・大塚おおつか、儒者) P 1 5 3 2
 孝彝(こうい・野田) → 石陽(せきよう・野田、藩士/儒; 徂徠学) D 2 4 9 3
 孝彝(こうい・村上) → 頑山(がんざん・村上むらかみ/長野、儒者/歌) V 1 5 9 3
 光威(こうい; 法名) → 長秀(ながひで・中条なかじょう、幕臣/歌人) F 3 2 4 6
 光尉(こうい・岡田) → 光尉(みつまさ・岡田おかだ、歌人) E 4 1 8 9

- 光為(こうい・原) → 光為(みつため・原はら、庄屋/歌人) K 4 1 1 5
綱以(こうい・国谷) → 金馬(きんば・国谷、俳人) R 1 6 6 4
綱為(こうい・人見) → 綱為(つなため・人見ひとみ、神職) B 2 9 1 3
高為(こうい・稲垣/京極) → 高為(たかため・京極きょうごく、幕臣/歌) C 2 6 9 5
高惟(こうい→たかなり・羽倉) → 道員(みちかず・多賀たが/羽倉、医者) J 4 1 5 5
高或(こうい・京極) → 高或(たかもち・京極、藩主/俳人) N 2 6 3 6
公粥(こうい・中村) → 漆翁(しつおう・3代中村宗哲、千家塗師/俳人) F 2 1 1 1
公郁(こうい・菊池) → 蔭亭(うてい・菊池/菊地、藩士/医/貿易) C 5 2 1 9
光昱(こうい・高向/上部) → 光昱(みつあきら・上部うべ/度会/高向、神職) D 4 1 0 4
広育(こうい;名) → 仏朔(ぶつさく;号、葡萄庵/社僧) D 3 8 3 4
- H1931 **興意親王**(こういしんのう・初め道勝親王、誠仁親王[陽光院]男/正親町天皇の孫) 1576-1620⁴⁵ 天台僧、
1583円満院入室/81聖護院入;尊雅・道澄門、園城寺長吏・方広寺別当/鐘銘事件;蟄居、
許され照高院隠棲、和漢聯句/連歌(一字名;云・照):1592-1620頃昌琢・玄仍らと百韻多数
[興意親王の幼称/俗名/一字名/通称/号]幼称;五宮、俗名;邦慶くによし、一字名;云/照、
通称;聖護院宮/照高院宮、号;照高院/浄珊寺
- E1986 **孝一**(考一こういち・波多野はたの、法名;泰誉如俊) ?-1651 平曲都方(一方いちかた)流師堂派・山中休一門、
師休一の詞章改訂を受け継ぎ波多野流の祖、八坂流も修得、総検校となり職屋敷を賜る、
1634「当道式目」制定に参画、江戸に出て徳川家光以下將軍家の厚遇を得;江戸宗匠、
前田検校の前田流と対立、河瀬検校・岩部検校に伝承
- H1932 **光一**(こういち・本阿弥ほんあみ、別名;忠皎、光敬男、光久の養嗣子/本姓;菅原) ?-? 江後期鑑定家、
本阿弥宗家17世、光鑑の父、1794「本阿弥光一押形集」「古刀秘苑」著
- Q1908 **光一**(こういち・西村にしむら) ? - ? 江後期;歌人、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[落ちたぎつ滝のさ霧にぬれぬれて紅葉色こきみ吉野の山]、
(大江戸倭歌;秋1007/現存百人一首;76)
- 高一(こういち・堀田) → 花山亭笑馬(かざんていしょうま/-しょうば、戯作) F 1 5 0 8
幸一(こういち→ゆきかず・永井) → 幸直(さちなお・永井ながい、名主/国学/歌) N 2 0 2 4
功一(こういち・中尾) → 猷祖(ゆうそ・中尾/藤原/奥沢、医官) D 4 6 2 9
耕一(こういち・渡辺) → 為俊(ためとし・渡辺わたなべ、商家/国学) 2 7 4 0
耕一(こういち・冠月庵) → 政信(まさのぶ・久保くぼ、戸長/国学) P 4 0 3 7
興一(こういち・長和) → 千尋(ちひろ・長和ながわ/高橋、国学者) N 2 8 2 3
かう市(こういち・朝妻検校) → 朝妻検校(浅妻検校あさつまけんぎょう、三弦家) E 1 0 3 4
幸一郎(こういちろう・大高) → 竹操(ちくそう・大高おおたか、藩家老/詩) D 2 8 3 9
恒一郎(こういちろう・堀) → 斐張(あやはる・堀ほり、藩老/国学者) I 1 0 4 1
綱一郎(こういちろう・三輪田) → 元綱(もとつな・三輪田みわた、国学/神職) D 4 4 1 4
甲一郎(こういちろう・近藤) → 芳介(よしすけ・近藤こんどう/佐甲、国学/歌) L 4 7 7 2
- E1928 **行一**(こういつ) ? - ? 江前期伊勢山田俳人;1633重頼「犬子えのこ集」入
[かつ溶くる氷や水の烟出けりだし](犬子集:一春氷226)、
(春日に一方からどンドン溶ける氷から上がる水煙、烟出[煙突]に喩える)
- H1933 **黄逸**(こういつ) ? - ? 近江彦根俳人;1698「続猿蓑」入、
[煤掃すはきや頭にかぶるみなと紙](続猿蓑;下、作者を米鷲と書き黄逸に見せけち訂正)、
(みなと紙は和泉湊村産の壁の腰張り用の紙)
- 光逸(こういつ)すべて → 光逸(みつはや)
公逸(こういつ・原) → 狂斎(きょうさい・原はら、儒/折衷学) C 1 6 4 9
合一堂(ごういつどう、初世笠亭仙果) → 種彦(2世たねひこ・柳亭、高橋、戯作者) 2 6 4 4
- 1971 **興胤**(こういん) ? - ? 平安期中期;高野山法師、西室と同一?
1075?往来物最古「和泉往来」(著者西室)(;和泉講師雅真がしん著作説もある)
- 1972 **公胤**(こういん;法諱、通称;明王院、源憲俊男[一説に僧行賢男]) 1145-1216⁷² 権大納言源雅俊の孫、
天台三井寺園城寺僧;賢覚門/灌頂;公頭門/阿闍梨/1209園城寺長吏/明王院僧正、
源空(法然)に反駁「浄土決疑鈔」著;のち非を悟り焼却/源空の追善導師、

「白骨観」著、歌：新古1934

H1934 **光胤**(こういん;法諱・号;専信房) 1396-1468 73 奈良興福寺法相学僧：四天王(興基/當尊/長乗と)、
権大僧都/清浄院住、「唯識訓論日記」「相違因」「違四量事」「一因違四」「中道空觀之事」
康正1455-57頃春日明神遷宮時に「延年遊宴の詞」著(1739「興福寺延年舞式ぶしき」入)

H1935 **江隠**(こういん;道号・宗頭そうげん;法諱) 1506-61 56 越前の臨濟僧：大徳寺古嶽宗互門/嗣法、
1551大徳寺102世/同寺塔頭大仙院2世兼任、祥林軒を開、1557後奈良天皇から禅師号を受、
「江隠集」「大徳寺入寺法語」著、
[江隠宗頭の号] 破沙盆/寒蝶子/福寿/円智常照禅師

Q1914 **光韻**(こういん・みつおと?・小池こいけ)?-? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[初瀬山峰の嵐に雲消えて檜原ひばらにすめる月の寒けき](大江戸倭歌;冬1189/古寺冬月)

光胤(こういん・鳥丸) → 光胤(みつたね・鳥丸からすまる/藤原/中御門、廷臣/歌人) D 4 1 8 2

光胤(こういん・小栗) → 十洲(じっしゅう・小栗おぐり/平、儒者/詩) E 2 1 9 6

光胤(こういん・志賀) → 光胤(みつたね・志賀しが/中村、国学/神道) J 4 1 2 4

光胤(こういん・宮和田) → 光胤(みつたね・宮和田みやわだ/平、国学者) K 4 1 7 4

光胤(こういん・吉野) → 光胤(みつたね・吉野よしの、神職/国学) K 4 1 9 3

孔寅(こういん・長山) → 茂作彦(もさひこ・三条、絵師/狂歌) B 4 4 1 9

公寅(こういん・東条) → 英庵(えいあん・東条、洋学/兵学者) C 1 3 5 1

公胤(こういん・徳大寺) → 公胤(きんたね・徳大寺、左大臣/日記) R 1 6 4 1

公尹(こういん・西四辻) → 公尹(きんまさ・西四辻にしよつじ、廷臣/箏) R 1 6 8 0

公尹(こういん・山本) → 公尹(きんただ・山本やまと/藤原、権大納言) V 1 6 5 9

公因(こういん) → 院尊(いんそん;法号、天台僧) I 1 1 7 0

公允(こういん・三条西) → 公允(きんあえ・三条西さんじょうにし、廷臣/国学) U 1 6 4 4

行尹(こういん・世尊寺) → 行尹(ゆきただ/ゆきまさ・世尊寺/藤原、廷臣/書家/歌人) E 4 6 7 0

江陰(こういん;通称) → 棠陰(とういん;道号・玄召、臨濟僧/聯句) B 3 1 0 5

江陰(江隠こういん・大槻) → 磐溪(ばんけい・大槻、儒者/洋学者) 3 6 4 0

江隠(こういん・川井) → 立斎(りゅうさい・川井/河井、医者/歌) E 4 9 0 1

弘蔭(こういん)すべて → 弘蔭(ひろかげ)

弘員(こういん・足代) → 弘員(ひろかず・足代/度会、神職/俳人) F 3 7 6 7

好胤(こういん・石井) → 好胤(よしたね・石井いし、郷土史家) E 4 7 3 5

広員(こういん・藤原) → 広員(ひろかず・藤原ふじわら、廷臣/歌人) M 3 7 5 2

広蔭(こういん)すべて → 広蔭(ひろかげ)

宏陰(こういん・白井) → 寛蔭(寛陰ひろかげ・白井/宮下、国学者) F 3 7 6 5

香蔭(こういん・横山) → 広(ひろし・横山よこやま、藩士/儒者/歌人) M 3 7 3 3

孝胤(こういん・木梨) → 玄宅(げんたく・木梨きなし、藩士/医者) K 1 8 9 7

孝允(こういん・木戸) → 孝允(たかよし・木戸、桂小五郎、藩士/勤王) N 2 6 7 9

幸胤(こういん・丹波/浅野屋) → 以之(いし・丹波たんば、医者/俳人) 1 1 8 6

幸胤(行胤こういん・岡田) → 野水(やすい・岡田おかだ、商家/俳・茶人) 4 5 2 0

恒蔭(こういん・坂上) → 常景(恒蔭つねかげ・坂上さかのうえ、廷臣/歌) B 2 9 8 4

耕隠(こういん) → 実蔭(さねたか・三条西/西三条、歌/古典学) 2 0 4 0

篁蔭(こういん・坂田) → 諸遠(もろとお・坂田さかた、藩士/故実家) H 4 4 4 8

藁蔭舎(こういんしゃ→わらびさしのや) → 高蔭(たかかげ・三井、商家/国学/歌人) C 2 6 5 9

恒蔭王(こういんのおおきみ) → 聖宝(しょうほう/しょうぼう;法諱、真言修験僧) B 2 2 5 6

H1936 **公羽**(こうう・岸本きしもと、八郎兵衛[八郎右衛門]) 1649-1719 71 出羽鶴岡藩御徒小頭/俳人;蕉門、
炭俵/続猿蓑入;字面から「翁(芭蕉)」と混同されやすかった、
(炭俵上涼「川中の」・下初冬「冬枯の」の2句[芭蕉作]は実は公羽作)、
「冬枯ふゆがれの磯に今朝けさみる鶏冠苔とさか哉」(炭俵;下初冬)

H1937 **篁雨**(こうう・松村まつむら、通称;正敏) 1733-1809 77 武州足立郡下上谷の旧家の生/家業を弟に譲渡、
足立郡鴻巣駅で医者、俳諧:柳几と筑紫行脚/1777嵐二と羽越行脚、
1757「和歌集」77「北越二度笠紀行」78「鹿嶋紀行月の直路」79「筑紫紀行」85「玉礫拔華」、
1790「伊勢紀行」93「篁雨句集」、1800「医余臨硯」1807「塊囊鈔」著、

- [篁雨の幼名/別号]幼名;小十郎、別号;松蘿堂/案山子庵/杏庵
- G1964 **耕雨**(こうう・箕浦みのうら、名;貞行、北江の長男)1784-1842⁵⁹ 土佐藩士;家学修学/江戸遊学、諸家と交流、土佐藩校教授役、1827(文政10)清国船の浦戸漂着時の応接(森本軼里せんと)、
「四風奇絶」「耕雨老人稿」著、伯父;秦川・立斎、
[耕雨の字/通称/別号]字;香橘こうきつ、通称;幸吉/才七、別号;風月斎
- H1938 **香塙**(こうう・進藤しんどう、名;真孝しんこう)1808-1876⁶⁹ 近江大津の天台宗善通寺住職、詩;梅辻春樵・希烈門、白鷗吟社開設;詩の教育、「香塙隠士詩鈔」「江南有別春詩」著、歌人;[鴉のうみ]入、
[香塙の別号] 蘆花/淺水漁者
- H1939 **香雨**(こうう・赤松あかまつ、名;善則)1813-74^{62歳} 大坂の生/江戸浅草小揚町の書画商、鑑定家、「古今名家真蹟集」編/1860「古筆展観目録」編、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[をすすきの招くや秋の暮れやすき日影とどむるすがたなるらん]、
(大江戸倭歌;秋1008/秋日)、
[あまの子や難波の浦に遊ぶともあしかるわざに立ちな交じりそ]、
(同;雑1856/古里難波に行きて、あしかる;葦刈ると悪しかるを掛る)、
[香雨の字/通称/別号]字;子詳、通称;琴二、別号;小雅堂/浪華生/松琴草堂
- H1940 **耕雨**(こうう・大主おおぬし、名;光穆みつやす、白米満省男)1835-1915⁸¹ 大主鶴郊の養嗣子/伊勢山田神職、伊勢神宮主典/正五位、俳人;養父・中瀬米牛門/京の梅通門、門人多数、歌、
1857「柳葉集」61「あきの声」65「竹の子集」66「時雨集」編、「耕雨自筆句集」著/外編著多数、
[耕雨の通称/別号]通称;織江、別号;為豊園/半田居[半田居士]
- 恒宇(こうう・林) → 春勝(はるかつ・林、鷲峰、羅山男/儒者) 3 6 3 0
香雨(こうう・堀内) → 素堂(そどう・堀内ほりのうち、藩医/蘭医/儒) K 2 5 2 0
公羽(こうう・柴田) → 光寛(みつひろ・柴田/藤原、商家/蔵書) E 4 1 6 9
公偃(こうう・松平) → 親恭(ちかやす・松平まつだいら、儒者) C 2 8 1 2
黄雨楼主人(こううろうしゅじん) → 元齡(げんれい・江馬えま、医者/詩人) N 1 8 1 3
- R1961 **幸云**(こううん;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、歌人;1237刊[檜葉集]入、
[おくつゆを秋のならひにかこちてもものばらににたるそでの色かな](檜葉;恋497)
- 1904 **耕雲**(こううん、俗名;花山院長親、花山院家賢男/本姓藤原)1350?-1429^{80歳?} 南朝の廷臣、1374左衛門督、1389内大臣、1392頃出家;孤独峰覚明門/臨濟南禅寺の聖徒明麟門、南禅寺内耕雲庵創設、鳴滝妙光寺住寺、歌:1376「耕雲千首」/77南朝内裏千首参加、新葉集編纂に協力、
1394「靈巖寺縁起」、1408「耕雲口伝」、19義持に随行「耕雲紀行」、「耕雲歌卷」「耕雲百首」著、勅撰;新統古6首(394/869/1042/1175/1847/1947)、新葉集25首、
[里はあれてとはれし袖の色もなし秋の野らなる萩の夕露](新統古;秋394/明魏法師)
[耕雲(;号)の僧名] 子晋しん(;道号)・明魏みょうぎ(;法諱)
- 父 → 家賢(いえかた・花山院、歌人) 1 1 3 2
母 → 長親母(ながちかのはは・花山院、歌人) E 3 2 2 9
兄 → 長賢(ながかた・花山院、歌人) D 3 2 4 2
- H1941 **弘運**(こううん) ? - ? 室町期永享1429-41頃真言僧、
1440仁海著「小野六帖俗書勘文」の注書
- H1942 **江雲**(こううん;道号・宗竜そうりゅう;法諱、小堀政一の男)1599-1679⁸¹ 山城臨濟;江月宗玩門、江雪の後輩、江月の法嗣、筑前博多の崇福寺住寺/1648大徳寺184世、53江戸東海寺輪番、1652「山居茶話」著、
[江雲宗竜の号] 任運子/ノ子べつぼし/罔両子もうりょうし/之乎者、諡号;円慧靈通禅師
- E1987 **好運**(こううん・池田いけだ/本姓;菊池)?-? 肥後の人/長崎住、天文航海術;ポルトガル人より修得、南方航海に従事/1636沈没ポルトガル船より銀を引揚げた、1618「元和航海記」「蛮曆」著、
[好運(;入道号)の通称] 与右衛門
- H1943 **幸運**(こううん;法諱) ? - ? 江初期叡山観行坊住僧、1634「北嶺行門記」著
- H1944 **高雲**(こううん;道号・祖稜そりょう;法諱、俗姓竹内)1636-96⁶¹ 大隅加治木の曹洞僧:

1648(13歳)天室門、梅峰竺信門;印可を得る、1679敦賀永厳寺住持、84宇治興聖寺住持、1693近江徳応寺に退隠、1675「禅余問答」89「碧巖録新鈔」著

- P1986 交云(こううん・垣内かきうち) ? - ? 江前期播磨の俳人;1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
[一をもつて十月しるき時雨かな](手鑑/一を以て十を知る)
- P1971 耕雲(こううん) ? - ? 江前期俳人;1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
[鶏にはとりの尾のうへつたふ霰あられかな](丁卯集;三降;霰)
- H1945 好運(こううん;名・樋口ひぐち、字;玄信)?-? 江前期元禄1688-1704頃大阪の開業医:小児科、
子弟教育、「武家高名故事」、1697「本朝武家高名記」1714「諸家高名記」16「諸家前太平記」著、
[好運の号] 松士軒/葉生堂/養儒庵
- H1946 耕雲(こううん・長雄ながお/修姓;長ちゆう)1688-174962 上州沼田の書家;細井広沢門、藤田友閑門、
江戸で書を業;長雄流の祖、久留米藩出仕;江戸詰、1739「百瀬仮名文章」、「用文集要」、
1746「四季用文集」長雄かな文章、55「竜田詣」65「長雄書札文集」67「朝花集」著、
[耕雲の通称/別号]通称;半左衛門、別号;柏梁堂、法号;向旭院、佐藤対雲の師
- Q1976 光雲(こううん;法諱・字;文麗、俗姓;河相)1769-183971 備後深津郡の僧、
備前岡山磨屋町の平医山薬師院住職、歌人;香川景樹門
- H1947 耕耘(こううん・西田にしだ、名;履道、字;公坦/子坦、栗翁男)1790-185768 大阪擢屋町の医者、
茶道;煎茶、1855「疫邪木藪説」、「若拙堂経験方彙」「経験方彙」著、
父栗翁は耕悦(こうえつ)と同一か?、耕悦は棗由亭負米(狂歌作者)と同一か?
西田耕悦=棗由亭負米なら耕耘は負米の息丹州亭負栗と同一or兄弟ということになる、
[耕耘(;通称)の号] 米山べいざん/若拙堂/東川とうせん、法号;履道院
- H1948 耕雲(こううん・阿部あべ、名;省/通称;耕太郎)1805-7874(一説60歳) 上州勢多荒砥村の農家、
儒者;岡永松陽門、詩文;藤森天山・鷲津毅堂門、1860帰郷;私塾耕誦堂で指導、
維新後;足利・金沢文庫再興・印旛沼開墾を企画;挫折、1876東京下谷に私塾広済舎開設、
1862「皇朝詠史」著
- H1949 耕雲(こううん・吉田よしだ、通称;格右衛門かくえもん)?-? 江後期絵師:豊前小倉藩主小笠原家に仕官、
江戸飯田町住、「浅絳せんこう山水画」画
- R1926 耕雲(こううん・穂積ほづみ、旧姓;鈴木)1824-9269 下野鹿沼の神道/国学者、1873武蔵氷川神社少宮司、
のち安房神社宮司、「素戔鳴尊解除神教」「勅語正解」「中庸随神解」著、河野省三の外祖父
- 江雲(こううん;入道) → 葎宿(りっしゆく・那波、俳人) C 4 9 0 1
光雲(こううん;法諱) → 明秀(みょうしゅう;法諱、浄土宗西山派僧) G 4 1 4 0
広運(こううん・林) → 広基(ひろもと・林はやし/太秦うずまさ、楽人) H 3 7 4 9
広運(こううん・久世) → 広運(ひろたか・久世くぜ、藩主/歌) L 3 7 5 5
広運(こううん・新井) → 広運(ひろゆき・新井あらい、藩士/国学/歌) M 3 7 0 3
広運(こううん・柿沼) → 広運(ひろゆき・柿沼かきぬま、神職/国学) J 3 7 0 1
弘運(こううん・孫福) → 弘運(ひろかず・孫福まごふく/度会/中川、神職) F 3 7 6 9
孔雲(こううん・佐竹) → 義敦(よしあつ・佐竹さたけ、藩主/書画) C 4 7 1 3
香雲(こううん;字) → 徳猊(とくげい;法諱、真宗大谷派僧/歌) K 3 1 6 2
香雲(こううん・増田) → 順行(よりゆき・増田ますだ、藩士) J 4 7 9 4
香雲(こううん・檜垣) → 貞子(さだこ・檜垣ひがき、国学/歌人) P 2 0 1 7
香雲(こううん・松木) → 偉彦(くすひこ・松木まつき、神職/書画) E 1 7 5 1
高雲(こううん・高見) → 祖厚(そこう・高見たかみ、藩士/国学/書) L 2 5 0 4
耕雲(こううん・橋) → 成章(なりあきら・林はやし/橋、絵師) H 3 2 0 4
耕雲(こううん;号) → 南嶺(なんれい;道号・慧詢えじゆん、臨済僧) J 3 2 7 2
耕雲(こううん・西村) → 壺岳(こがく・西村にしむら、文筆家) L 1 9 9 0
耕雲(こううん・樹下) → 茂国(しげくに・樹下じゅげ、神職/国学) O 2 1 8 3
敲雲(こううん・尾台) → 榕堂(ようどう・尾台おだい/小杉、医者) B 4 7 5 1
興雲(光雲こううん;字) → 海如(かいによ;法諱、真言僧) J 1 5 0 4
興雲(こううん;道号) → 太竜(たいりゅう;道号・禅驪;法諱、臨済僧) L 2 6 1 8
豪運(こううん・大鳥居) → 信賢(しんけん・大鳥居/菅原/高辻、社僧/連歌) O 2 2 1 4
豪雲(こううん;字) → 亮潤(りょうじゆん;法諱、天台僧/大僧正) J 4 9 1 8

- 香雲庵(こううんあん) → 慧敏(恵正えしょう;法諱、真宗僧) D 1 3 9 8
 香雲院(こううんいん) → 澄玄(ちようげん、普天、真宗大谷派僧) I 2 8 1 4
 香雲院(こううんいん) → 実条(さねえだ・三条西、右大臣/歌) 2 0 3 4
 興雲院(こううんいん) → 長政(ながまさ・黒田くろだ、武将/藩主) F 3 2 7 1
 光雲閣(こううんかく・小堀) → 水翁(すいおう・小堀、藩士/泳術/書) E 2 3 2 0
 香雲閣(こううんかく・石川) → 良信(よしのぶ・石川いしかわ、医者/詩人) F 4 7 7 2
 香雲軒(こううんけん) → 文啓(ぶんけい・谷たに/島田、絵師/藩士) F 3 8 1 0
 香雲軒(こううんけん/香雲尼) → 満喜子(まきこ・伊達だて/久世、歌人) 4 0 5 8
 耕雲斎(こううんさい・武田) → 正生(まさなり・武田/跡部、藩士/天狗党) 4 0 1 6
 耕雲主人(こううんしゅじん) → 眞守(まもり・後藤/枚岡、国学者/神職) K 4 0 1 3
 耕雲主人(こううんしゅじん) → 重富(しげとみ・間はざま/羽間、商家/天文暦算) R 2 1 7 1
 興雲堂(こううんどう) → 貫允(かんいん、天台僧) P 1 5 9 5
 高雲堂(こううんどう) → 久救(ひさひら・末川/島津、歌人) B 3 7 7 2
 耕雲堂(こううんどう) → 重三郎(じゅうざぶろう・蔦屋つたや、書肆) 2 1 4 2
 香雲尼(こううんに) → 満喜子(まきこ・伊達だて/久世、歌人) 4 0 5 8
 香雲房(こううんぼう、勝超) → 勝超(しょうちよう、香雲房、法師/歌人) U 2 2 2 1
- 1973 恒雲法親王(こううんほっしんのう、城興寺宮、号;小河、龜山天皇皇子)?-?早世 天台宗叡山僧、
 梶井門跡/二品、歌:新千載2064、1345刊[藤葉集]2首入、
 [足引きの山田にさせるささの庵よをかさぬればふしなれにける](新千載:十八2064)
 [雲の上のよひのかげにはなれもせで今有明のつきをこそみれ](藤葉;秋259)
 行雲流(こううんりゅう・川田) → 麴江(おうこう・川田かわた、儒者) B 1 4 6 5
 行雲楼(こううんろう) → 北渚(ほくしよ・松島まつしま、儒/医者) D 3 9 4 5
- 1974 公恵(こうえ;法諱、三条[藤原]実房男)1188-1236⁴⁹ 天台叡山寂陽院僧/横川長吏・日吉別当、
 法印/権大僧都、歌:勅撰3首:続千載(1182/1354)続後拾(1294)、
 [なにかせんかれなであまのいかづらにたえぬうらみのみるめばかりは]、
 (続千載;恋1182/法印公恵)
- H1950 広慧(こうえ;法諱、示導;号)?- ? 江中期1736-48頃真宗僧、1745「帰命或問」、
 「学仏須知」「教誡新学比丘行護律儀憲章記」著
 広慧(こうえ;法諱) → 東海(とうかい;道号・昌峻、臨濟僧) B 3 1 9 4
 広慧(こうえ;諡号) → 示導(じどう;法諱、浄土宗西山派僧) V 2 1 2 4
- H1951 豪恵(ごうえ;法諱) 1412 - ? 1479存 天台宗西山仏華林宝菩提院僧;豪宗・豪喜門、
 1478「八千枚事」、「蘇悉地穴薬師」「穴太流曼供見聞」著
 豪恵(豪慧ごうえ;法諱) → 豪寛(ごうかん;法諱、天台僧/狂句) E 1 9 9 3
- R1958 光永(こうえい;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の法橋/1237刊[檜葉集]入、
 [夢のごと暮れゆく秋のはかなさをおどろかでのみとしのへにける](檜葉;秋282)
- P1944 行栄(こうえい・立田たつた) ? - ? 摂津狂歌作者;行風[1619?-84?]門、行景の縁者?、
 1666行風「古今夷曲集」2首入
 [臼に粉も蓬よぎも入れて杵をとり搗つく音も先づがたひしの餅](古今夷曲集;一3月3日)
 (粉は米のしん粉/がたひしは擬音ガタビシに菱餅を掛ける)
- H1952 好永(こうえい) ? - ? 伊勢富永の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
 H1953 康映(こうえい・渡辺) ? - ? 故実家;1717「源氏男女装束抄後付」壺井義知跋文
 H1954 光荣(こうえい) ? - ? 江中期1711-36頃大和多武峰社蓮光院住の天台僧、
 1720「多武峰縁起便蒙」著、孤山智円「阿弥陀経疏」序
- E1988 興栄(こうえい・おきひで・狩野)? - ? 絵師/絵俳書、1722露月「俳度曲」画入
 E1989 弘栄(こうえい・藤とう) ? - ? 語学者、1768辞書「和翰名苑」著(仮名字集)
- H1955 弘栄(こうえい;法諱・字;定俊房、俗姓;佐藤)1744-1830⁸⁷ 阿波川田山真言僧;1756医光寺竜昇門、
 1756高野山如意輪寺弘道門;両部光灌を受/1816高野山141世事務検校、
 1789「五音初二三重譜図記」、「論議心得」「無常導師法則」著
- B1900 光英(こうえい・積書堂) ? - ? 京の歌人、1827「類題若菜集」編(;荷田信美序)
- H1956 紅映(紅英こうえい・井上いづえ、通称;平助、別号;撫抑園)?-1861 江後期美濃岐阜の呉服商、

俳人：友左坊9世門、「花かたみ」編、1860「花の笠集」編（：筑紫行脚記念）、60「寝さめ集」

H1957 **光映**（こうえい；法諱・竹林坊、財前禎策男）1819-95/77 豊後東郡の天台僧；1830江戸寛永寺光千門、1835交衆；三部密灌を受/叡山本住院・金台院主/寛永寺修禅院・寿昌院主/徳川靈廟別当、1858冷泉為理の猶子/大和多武峰竹林坊；学頭職/1867僧正/68佐幕に与し奥州へ、のち天台233世座主；権大僧正/天台官長/大教正、1861「旅中駄舌談」63「武峯論話」、1866「亀桑夜談」編、「竹林裸語ぞうご」「竹林寢語ばいご」「国産名誉」「棘樹艸」「黙坐消遣集」著、

[光映（；法諱）の幼名/字/通称/唱号/法号]幼名；松次郎、字；曇覚、

通称；竹林坊/一如庵いちにょあん/如々院にょいん、

唱号；清浄林院（；公紹法親王より賜）、法号；棘樹院

光栄（こうえい・烏丸） → 光栄（みつひで・烏丸からすまる/藤原、廷臣/歌） 4 1 2 9
光瑛（こうえい；法諱、東本願寺14世） → 琢如（たくによ：号、俳人） E 2 6 2 3
弘永（こうえい；字） → 性嘉（しょうか；法諱・弘永、渡来黄檗僧） H 2 2 4 5
弘永（こうえい） → 以春（いしゅん、俳人） C 1 1 3 0
江栄（こうえい・大江） → 親通（ちかみち・大江おおえ、仏教寺院巡礼） B 2 8 8 6
行英（こうえい・市川） → 行英（ゆきひで・市川いちかわ、和算家） F 4 6 4 1
向永（こうえい・宮脇/宮腰） → 忍斎（にんさい・宮川、兵学者/軍記作者） G 3 3 3 9
幸盈（こうえい・浦野） → 幸盈（ゆきみつ・浦野うらの、和算家/狂歌） F 4 6 7 6
幸英（こうえい・大野） → 幸英（ゆきひで・大野おおの、医者/国学） G 4 6 6 8
高栄（こうえい・鱸） → 有飛（ありとび・鱸すずき、国学者） F 1 0 5 1
高英（こうえい・三井） → 嘉菊（かきく・三井みつゐ、俳人） 1 5 0 6
高英（こうえい・小林/須原屋） → 高英（たかひで・小林、書肆；詩書刊） N 2 6 0 0
高英（こうえい・関屋） → 高英（たかひで・関屋せきや、藩士/軍学/国学） X 2 6 7 9
高穎（こうえい・岡田） → 高穎（たかひで・岡田おかだ、藩士/国学者） N 2 6 0 1
公英（こうえい・四辻/裏松） → 謙光（かたみつ・裏松うらまつ、廷臣/歌） N 1 5 1 0
公英（こうえい・菅原） → 忠俊（ただとし・菅原すがわら、書家） Q 2 6 0 7
公英（こうえい・柏原） → 幽静（ゆうせい・柏原/橘、藩士/剣術/詩歌） C 4 6 9 7
公英（こうえい・小林） → 鶴林（かくりん・五松いつまつ、書家） B 1 5 7 8
公英（こうえい・福原） → 俊方（としかた・福原ふくはら、藩士/歌人） W 3 1 2 3
公英（公瑛こうえい・桂/樋口） → 東里（とうり・樋口ひぐち、医/儒者） I 3 1 0 9
公英（こうえい・秋元） → 公英（きみひで・秋元あきもと、医者/詩歌文） T 1 6 3 8
公栄（こうえい・沢渡） → 広繁（ひろしげ・沢渡さわたり/紀、絵師） G 3 7 0 3
広永（こうえい・甲斐） → 広永（ひろなが・甲斐かい、和算家/教育） G 3 7 6 2
孝栄（こうえい・小川） → 泰堂（たいどう・小川おがわ、医者/日蓮研究） K 2 6 7 8
孝栄（こうえい・相良/蒲原） → 十九（じゅうく・一編舎いっぺんしゃ、藩士/戯作者） E 2 1 8 1
康英（こうえい・梅溪） → 雅富（まさとみ・白川しらかわ/梅溪、神祇伯） E 4 0 5 6
康永（こうえい・鈴木） → 康永（やすなが・鈴木すずき、藩士/歌人） F 4 5 9 7
康永（こうえい・中条） → 康永（やすなが・中条ちゅうじょう/分部、藩士；城代） C 4 5 4 1

H1958 **豪栄**（ごうえい；法諱・号；浄庵）?- ? 江後期天台僧、著作/写本、慈栄の師、

1828「響夢初稿」48「戸津説法諷誦文集」、「心観為宗辨」「来迎和讃章句義目」「甘露篇」著

豪栄（ごうえい；法諱） → 光純（こうじゅん；法諱・浄厳院、天台僧） J 1 9 6 3
向荣庵（こうえいあん） → 宗因（そういん・西山、連歌/俳人） 2 5 0 3
高詠斎（こうえいさい） → 伊人（いじん・高詠斎、俳人） D 1 1 4 3
向荣堂（こうえいどう） → 三郎兵衛（さぶらべえ・山田やまだ、書肆） F 2 0 6 7
篁影堂（こうえいどう） → 沾洲（せんしゅう・貴志、俳人） F 2 4 8 8
向荣楼欣堂（こうえいろうきんどう） → 寿助（すけすけ・宝田、歌舞伎作者） I 2 1 7 6
光益（こうえき・藤原） → 光益（みつえき・土佐/藤原、六角寂济/絵師） E 4 1 9 1
公益（こうえき・西園寺） → 公益（きんます・西園寺、廷臣/聯句） R 1 6 8 1
公奕（こうえき・河野） → 杏庵（きょうあん・河野/越智/越、医者） N 1 6 1 6
弘益（こうえき・竹田） → 三益（さんえき・竹田、藩医者） L 2 0 7 9
交易（こうえき；法諱） → 連山（れんざん；道号・交易、曹洞僧） B 5 1 0 9

1905 光悦(こうえつ・本阿弥ほんあみ、光二男/本姓;菅原)1558-163780 母;本阿弥宗家7世光心女妙秀、京の刀剣研ぎ・鑑定家、楽焼、茶道、書家;寛永三筆の1、前田利家/徳川家康の庇護、1615洛北鷹ヶ峰の地を与えられ移住、1596-1615角倉素庵と嵯峨本出版、書;「鹿下絵和歌巻」「歌仙大和抄」「四季草花絵巻」「光悦色紙帳」書、「本阿弥光悦豎文」著、[光悦(;名)の幼名/号]幼名;次郎三郎、

号:自得斎/徳友斎/太虚庵/空中庵/鷹峰舍斎/了寂院

H1959 耕悦(こうえつ・西田にしだ) ? - ? 江後期伊予の医者/1804-18頃大阪權町で医開業、1807「脚気提要」編/08「麻疹輯要」著、狂歌作者棗由亭負米(西田耕悦)と同一か? 西田耕耘こうりん[1790-1857]の父栗翁と同一説あり?

→ 負米(ふまい・棗由亭そうゆうてい、狂歌作者) D 3 8 7 7

→ 耕耘(こうりん・西田、医者/茶道) H 1 9 4 7

高悦(こうえつ・小林) → 其楽(きらく・楠里亭なんりてい、戯作者) H 1 6 6 3

考越(こうえつ) → 曾米(そまい:号、俳人) E 2 5 3 5

孝右衛門(こうえもん・高橋) → 景張(かげはる・高橋たかはし、歌人) U 1 5 9 4

高右衛門(こうえもん・小岩) → 在豪(ありひで・小岩/宇多川、郷土地誌) F 1 0 6 9

幸右衛門(こうえもん・小野寺) → 秀富(ひでとみ・小野寺/大高、赤穂義士/俳人) I 3 7 7 4

幸右衛門(こうえもん・大島) → 有隣(うりん・大島おおしま、心学者) D 1 2 5 0

幸右衛門(こうえもん・大野/土山) → 孝祖(たかそ・土山、幕臣/記録) M 2 6 1 4

幸右衛門(こうえもん・奥貫) → 正矩(まさのり・奥貫おくぬき、国学者) G 4 0 3 1

幸右衛門(こうえもん・森下) → 政恒(まさつね・森下もりた、歌人) U 4 0 2 2

幸右衛門(こうえもん・池田) → 家副(いえすけ・池田いけだ、里正/歌人) J 1 1 9 0

幸右衛門(こうえもん・垣本) → 正良(まさよし・垣本かきもと/源、代官/国学) O 4 0 7 6

幸右衛門(こうえもん・鈴木) → 泰輔(やすすけ・鈴木すずき/水野、国学/歌) G 4 5 0 6

幸右衛門(こうえもん・糠塚屋) → 稍隆(すえたか・森野もりの、農業/国学/歌) J 2 3 3 1

広右衛門(こうえもん・佐藤) → 西山(せいざん・佐藤/小林、儒者/北辺警備) I 2 4 5 0

好右衛門(こうえもん・桜井/板屋) → 盈久(みつひさ・桜井さくらい、国学/歌人) J 4 1 1 9

好右衛門(こうえもん・桜井) → 盈栄(みつひで・桜井さくらい、商家/歌人) J 4 1 2 1

好右衛門(こうえもん・桜井) → 盈叙(みつぶ・桜井さくらい/新井、国学) H 4 1 6 9

好右衛門(こうえもん・桜井) → 盈寿(みつひさ・桜井さくらい、町年寄/国学) J 4 1 2 0

恒右衛門(こうえもん・関口) → 顕尚(あきなお・関口せきぐち、国学者/歌人) H 1 0 8 0

恒右衛門(こうえもん・宮永) → 正好(まさよし・宮永みやなが、農政家) I 4 0 6 5

耕右衛門(こうえもん・宮田) → 義昌(よしまさ・宮田みやた/星野、国学/歌) P 4 7 4 6

鉦右衛門(こうえもん・齋藤) → 規房(のりふさ・齋藤さいとう、藩士/神道家) I 3 5 6 1

郷右衛門(こうえもん・三橋) → 花城(かじょう・三橋、俳人) L 1 5 9 6

郷右衛門(こうえもん・脇田) → 赤峰(せきほう・脇田わきた/田、書家) K 2 4 4 9

郷右衛門(こうえもん・渡辺) → 右琴(ゆうきん・渡辺わたなべ、俳人/詩人) B 4 6 2 9

郷右衛門(こうえもん・新楽) → 閑叟(かんそう・新楽にいら、幕臣/蝦夷紀行) G 1 5 4 9

郷右衛門(こうえもん・安藤) → 適斎(てきさい・安藤あんどう、医/儒者) B 3 0 9 2

1975 公円(こうえん;法諱・号;心[真]如院しんによいん、藤原経家男)1053-110553 母;教通女(小式部内侍女)、天台宗園城寺僧、1076頼豪より阿闍梨灌頂を受/95権律師/堀川天皇護持僧/1104権少僧都、歌人;金葉集II488、続詞花集入

[つらしとも思はん人は思ひなん我なればこそ身をば恨むれ](金葉;488/僧都公円)、

(三井寺で人々と恋歌を詠/つらしは相手の薄情/本音は相手の薄情を恨む)、

[春ころ僧正行尊ぎょうそん[1055-1135/大僧正]熊野より出でたりと聞きて遣しける、

ほのぼのと霞たちけんわかものうらの春のけしきはいかが見てこし](続詞花;755)、

袋草紙に;行観に出仕の童[錦織八郎]をひいきにし歌を教えた逸話入、

母藤原教通女 → 公円母(こうえんのはは、後拾歌人) 1 9 7 9

1976 皇円(こうえん;法諱、藤原重兼男/道兼の4世の裔)?-1169 天台叡山僧;皇覺・成円門、功德院で講筵;源空(法然)らの師、博学/歴史、「扶桑略記」著、[皇円の通称]通称;肥後阿闍梨/功德院阿闍梨くどくいんのあじやり

- 円頓戒;1288京金戒院慧顛門/叡山黒谷不退房住;1305円頓戒再興を志す;12年籠山、
「円頓戒秘決要集」1307「戒壇院本尊印相鈔」08「円頓菩薩戒十重四十八行儀鈔」著
- R1962 **弘円**(こうえん;法諱、能円(法勝寺執行/法印)男)?-? 平安鎌倉期;法勝寺執行/法印大僧都、
歌人;義兄弟の興福寺別当(法印)乗信と共に1237刊[檜葉集]に入(弘円法師名)、
静養(蓮華王院執行/大僧都)・道伊・承明門院の兄弟、能尋(僧都)・源能(大僧都)の父、
1356刊菟玖波集(弘円名)/1633刊重頼「犬子えのこ集」(弘円名)入、
[羈中朝雪、
かぎりある旅の日数はつもるともあとをばつけじけさの初雪](檜葉;羈旅665)
- H1961 **興円**(こうえん;法諱・号;堯光房/伝信、俗姓;平)1263-131755 越後の天台僧;1279出家、
円頓戒;1288京金戒院慧顛門/叡山黒谷不退房住;1305円頓戒再興を志す;12年籠山、
「円頓戒秘決要集」1307「戒壇院本尊印相鈔」08「円頓菩薩戒十重四十八行儀鈔」著
- H1960 **幸円**(こうえん;法諱・号;尊禅房)?-? 鎌倉中期大和西大寺の真言律僧;叡尊門、
「懺六聚編鈔」著
- R1971 **降淵**(こうえん;法諱、) ? - ? 鎌倉南北期;祇園社社僧?/法印、
歌人;1350為世十三回忌和歌出詠
[おいが身に猶ながらへて十年あまり三とせの秋の跡をとふかな](為世忌歌;106懐旧)
- H1963 **光円**(こうえん;法諱・号;良如、本願寺12世光昭男)1612-6251 真宗本願寺派本願寺13世、1626得度、
関白九条忠栄の猶子/1638大僧正;学覺設立・能化職設置、
1657焼失した江戸本願寺別院を築地に再興、「五代記」「阿古様御得度之記」「秘密和讃」著、
[光円の幼名/諡号]幼名;茶々丸、諡号;教興院
- G1969 **光延**(こうえん) ? - ? 大阪俳人;之道門、1690之道「あめ子」15句入
[住吉の市の戻りや秋の風](あめ子;之道との両吟発句、住吉市は9月13日の升の市)
- H1964 **広延**(こうえん;法諱・号;富松房)1701-? 1772存 修験僧;彦山大先達/法印、彦山故事教義研究、
彦山修験最秘印信口決集の印信を作成、「塵壺集」「私語集」「無則書浅略」著
- 1977 **紅円**(こうえん;号、御射山)? - ? 狂歌・九如館鈍永門、1774師7回忌追善集「歌ねぶつ」編、
「夷曲哥やな川」著
- H1965 **公遠**(こうえん) ? - ? 俳人;1782蕪村「花鳥篇」入
- Q1980 **高円**(こうえん;法名/高円尼、名;世伊子、旧姓;和田)?-1803 越後蒲生郡の生、
粟生津あづま村の不動庵住、歌;権大納言冷泉為泰(1735-1816)門
- H1966 **高演**(こうえん;法諱、鷹司輔平男)1765-184884 真言宗醍醐寺僧;1777(13歳)得度/観性院杲観門、
杲観より伝法灌頂、1804大峰入峰(5千余人の行列)、31東寺長者/32准三宮/醍醐寺座主、
晩年は一言寺省耕庵に退隠、1833「弘法大師正伝」編、「活仏自伝」「御作目録」著、
[高演の幼名/通称/号]幼名;理君、通称;活仏上人、号;後自在院
- 1978 **篁園**(こうえん・野村のむら、名;直温なおあつ、幕臣直超男)1775-184369 江戸の儒者・古賀精里門、
1797家督継嗣、11801昌平學教授方出役/17儒者見習/32儒者;両番上席、
友野霞舟らと詩社結成、填詞てんしを愛好、詩「篁園詩鈔」著/「篁園全集」(門弟石川柳溪編)、
「採花集」「静宜慚藁」「篁園吟草」「篁園集唐」外著多数、
[篁園(;号)の字/通称/別号]字;君玉、通称;兵蔵、
別号;静宜軒/西荘/霽荘/玉松山叟/紫芝山樵、法号;仁讓院
- H1967 **蘅園**(こうえん・渡辺わたなべ、昶、去何男)1781-183252 近江浅井郡高田村の儒者/医者、
儒;1801亀井南冥門、三浦坦斎門、医;多紀元簡門/漢学;倉成竜渚門、
1813近江膳所藩主本多康禎の侍医、藩命で琵琶湖魚類を記録、詩文に長ず、
「湖魚譜」「淡海魚譜」「蘅園詩集」「蘅園文集」「皇和医史」著、
[蘅園(;号)の字/通称]字;徳天、通称;奎輔/敬輔、法号;泰応院、樵山・璞輔の父
- H1968 **晃演**(光演こうえん;法諱) ? - 1820 京の平等寺因幡堂住の真言僧/歌人、
1814「続三玉歌集類題」(1828刊)、「和歌紀行部類」編、
[晃演の号] 大虚庵/因幡堂主人
- H1969 **香園**(こうえん・加藤、名;淵/字;珠文)?-? 江後期文政1818-30頃安藝広島あまのの書肆文華堂経営、
儒/詩を学ぶ、1829「文政十七家絶句」編、48「玉香園叢書」著、
[香園の通称/別号]通称;米屋兵助、別号;玉香主人/玉香園/文華堂

H1970 **藁園**(こうえん・西川にしかわ、名;執、中村徳次郎男) 1813-8472 近江高島郡五番領の農家、
藁園村の医者西川玄礼の養子/1833上京/儒;牧百峯門/医;奥劣斎門/帰郷し開業;産科、
1865近江大溝藩儒/藩主の江戸行に随行、「文語湧泉」「藁園百絶」「読史末議」著、
[藁園の字/通称/別号]字;君亮、通称;文仲、別号;藁園散人/困学堂主人

幸円(こうえん)	→	幸円(ぎょうえん、僧/新後拾歌人)	C 1 6 2 7
公遠(こうえん)	→	公遠(きんとお・四辻よつじ/藤原、歌人)	R 1 6 5 3
公淵(こうえん・馬場)	→	若水(じやくすい・馬場ばば、藩士/詩)	W 2 1 0 1
公燕(こうえん・花園)	→	公燕(きんなる・花園はなぞの/藤原、廷臣/歌)	V 1 6 0 1
光遠(こうえん・舟山ふなやま)	→	万年(ばんねん・舟山/船山、郷土史家)	D 3 6 3 3
光瑗(こうえん→てるに・八幡)	→	光瓊(みつてる・八幡やわた、神職/国学)	D 4 1 9 4
光延(こうえん・間)	→	光延(みつのぶ・間はざま、浪士/討入/歌)	E 4 1 3 6
光延(こうえん・中西/小林)	→	秋水(しゅうすい・小林/中西、俳人)	X 2 1 6 9
香園(こうえん)	→	顕(あきら・高橋、儒/歌人)	E 1 0 2 1
香園(こうえん)	→	誠(まこと・戸田とだ、藩執政/儒者/神職)	R 4 0 0 3
香園(こうえん)	→	直興(なおおき・山中やまなか、商家/和学者)	P 3 2 2 1
香遠(こうえん・佐々木)	→	元俊(げんしゅん・佐々木ささき、藩士/医者)	J 1 8 7 5
香遠(こうえん;法諱)	→	香遠(こうおん;法諱・大寂、真宗僧)	H 1 9 7 5
香遠(こうえん・益田)	→	厚(あつし・益田ますだ、篆刻家)	I 1 0 4 2
香遠(こうえん・山本)	→	季護(すえもり・山本やまと/高木、官人/国学)	J 2 3 3 6
高遠(こうえん)訓はすべて	→	高遠(たかとお)	
高延(こうえん・三井)	→	高延(たかのぶ・三井みつゐ、商家/国学)	Z 2 6 7 8
高園(こうえん;号)	→	汝霖(じょりん;道号・妙佐;法諱、臨濟僧)	M 2 2 9 0
高園(こうえん・馬目)	→	思之(もとゆき・馬目まめ、藩医/歌人)	L 4 4 3 0
紅園(こうえん・佐藤)	→	泰然(たいぜん・佐藤さとう、蘭医者)	K 2 6 4 8
紅園(こうえん・長山)	→	茂作彦(もさひこ・三条、絵師/狂歌)	B 4 4 1 9
杠園(紅園こうえん/ゆずるはその)	→	美隆(よしたか・岩崎、歌人)	E 4 7 0 9
栲園(こうえん・宮崎)	→	東一(とういち・宮崎みやざき/亀井、国学)	W 3 1 6 0
黄園(こうえん)	→	丘山(きゅうざん・岳亭がくてい、絵師/戯作)	C 1 6 0 3
興円(こうえん;字)	→	日満(にちまん;法諱、日蓮僧)	D 3 3 2 2
光円(こうえん;字)	→	日相(にっそう;法諱・本有院、日蓮僧)	E 3 3 8 8
光遠(こうえん・河口)	→	静斎(せいさい・河口/河、儒者/詩人)	B 2 4 5 6
光延(こうえん→みつのぶ・中西)	→	秋水(しゅうすい・小林/中西、俳人)	X 2 1 6 9
広延(こうえん/ひろのぶ・中島)	→	広定(ひろさだ・中島なかじま、藩士/神職)	H 3 7 7 9
広延(こうえん・福地)	→	政次郎(まさじろう・福地/佐藤、藩士/砲術家)	C 4 0 8 1
宏遠(こうえん;法諱)	→	慈空(じくう;法諱、真宗本願寺派僧)	Q 2 1 3 5
弘琰(こうえん・中西)	→	伯圭(はくけい・中西なかにし、神職/書)	C 3 6 9 7
弘淵(こうえん・大槻)	→	俊斎(しゅんさい・大槻おおつき、蘭方医)	K 2 1 7 1
弘淵(こうえん・河合)	→	正阿(しょうあ/せいあ・河合、医者/俳人)	Q 2 2 7 0
行遠(こうえん・石井いはい)	→	行遠(ゆきとお・石井いはい/平、廷臣)	E 4 6 9 9
行円(こうえん);僧はすべて	→	行円(ぎょうえん)	
耕淵(こうえん)	→	岱路(たいろ・金井かない、僧/俳人)	L 2 6 3 5
高遠(こうえん・藤原)	→	高遠(たかとお・藤原ふじわら、廷臣/歌人)	2 6 1 2

H1971 **豪円**(ごうえん;法諱・無安庵;号、初法諱;円智/俗姓;中津)?-1611 伯耆宇田川天台僧/大山寺入山、
叡山東塔地福院住僧/備中金山寺を復興/比叡山・大川寺復興に尽力、寛永寺学頭/権僧正、
「巡礼所作次第」「仏土義案立自受用所居」著

広演院(こうえんいん)	→	日答(にっとう;法諱・随演院、日蓮僧)	F 3 3 4 2
香園院(こうえんいん)	→	師忠(もろただ・二条、関白/歌人)	H 4 4 3 7
光縁斎貞柏(こうえんさいていはく)	→	貞柏(ていはく・光縁斎、狂歌)	B 3 0 5 7
口演隨身(こうえんずいじん)	→	直景(なおかげ・梶原、武芸者)	3 2 8 3
高円尼(こうえんに)	→	高円(こうえん;法名/高円尼、歌人)	Q 1 9 8 0

- 1979 **公円母**(こうえんのは・二条教通女、藤原経家妻)?-? 母;小式部内侍、平安歌人、権少僧都公円の母、後拾遺歌人静円の同母姉妹、藤原定頼と交渉;定頼の1045没後に藤原経家の妻となる、1053(天喜元)に公円を産む、後拾遺集771、
[蘆の根のうき身のほどと知りぬれば恨みぬ袖も波はたちけり](後拾遺;恋771)、
(途絶えがちの中納言藤原定頼の許に贈る歌/やんわりとした恨みの歌)
光遠房(こうえんぼう) → 恵空(えくう;法諱、真宗大谷派学僧) B 1 3 0 1
- H1972 **亨翁**(こうおう・頼り/羅井、名;惟清これきよ、良皓男)1707-8377 安藝竹原の紺屋業、儒学・国学に志す、儒;唐崎広陵・塩屋道碩門、歌;馬杉亨安・小沢蘆庵・谷川淡斎門、
「高角たかつのまうで」「厳島紀行」「芳野紀行」著、妻;道工助右衛門景房女の仲子、
[亨翁(;号)の通称/神号]通称;又十郎、神号;清翁霊神、春水・春風・杏坪の父
頼家系図 → 春水(しゅんすい・頼り) 2 1 6 0
- 1980 **交桜**(こうおう) ? - ? 江戸の俳人・俳文、
1762六味・桃溪(有李)と「李撰文選」共編;
李撰文選には交桜の「灰吹の辞」「猫の箴」「不成就日の解」「風の賦」など入
江翁(こうおう・松江) → 維舟(いしゅう・松江まつえ重頼、俳人) 1 1 9 2
公鴨(こうおう・五十嵐) → 貞利(さだとし・五十嵐いがらし/田卷、国学) N 2 0 7 6
光応(こうおう・河路) → 光応(みつまさ・河路かわじ、商家/歌人) I 4 1 7 4
香翁(こうおう・藤沢) → 南岳(なんがく・藤沢、藩士/儒者/教育) J 3 2 9 6
浩翁(こうおう) → 長道(ちやうどう・村井、能楽研究) 2 8 5 5
皎翁(こうおう;号) → 古白(こはく;法諱・皎翁;号、浄土僧) N 1 9 4 3
興応(こうおう・神南) → 誠敬(のぶたか・神南かなみ、神道/国学/歌) B 3 5 7 2
剛翁(こうおう・山口) → 剛斎(こうさい/ごうさい・山口、藩儒者) B 1 9 1 5
合翁(ごうおう・齋藤) → 寛一(ひろかず・齋藤さいとう/藤原、歌人) J 3 7 6 9
鼈翁(ごうおう・多田) → 棹好(とうこう・多田ただ、国学/歌人) V 3 1 5 9
洪澳盧(こうおうろ;号) → 円遵(えんじゆん;法諱、真宗高田派僧) E 1 3 9 3
- H1973 **光屋**(こうおく・田中たなか) ? - ? 江中期天明1781-89頃陸中遠野の文筆、
「遠野見聞記」著
好屋翁(こうおくおう) → 真顔(まがお・鹿都部しかつべの、戯作/狂歌) 4 0 0 1
- H1974 **公音**(こうおん;道号・道鏞どうよう;法諱、号;午庵)1701-? 1775存 撰津曹洞僧;慈麟じりん玄趾門/嗣法、撰津花薬庵住、1746「智門雲外和尚語録」編纂に参加/「慈麟和尚行業記」著、
「天桂不知正法眼蔵之由来事」著
- H1975 **香遠**(こうおん;法諱・大寂;字、福源寺了嚴男)?- 1868 甲斐瑞穂の真宗僧;曇竜門、和歌山真宗本願寺派妙慶寺住職、「行信延促」「真宗要義癸卯記」著
公音(こうおん・四辻) → 公音(きんおと・四辻よつじ、連歌/書道) Q 1 6 7 2
公音(こうおん・藤原/押小路) → 公音(きんおと・押小路おしこうじ、歌) Q 1 6 7 3
公温(こうおん・鈴木) → 尋思斎(じんしさい・鈴木すずき、儒者) O 2 2 6 9
広温(こうおん・石野) → 広温(ひろはる・石野いしの/中原、幕臣/歌) G 3 7 9 4
広音(こうおん;法諱) → 雷巖(らいがん;道号・広音、黄檗僧) 4 8 2 7
江音(江遠ごうおん) → 四郎五郎(しろうごろう・民屋たみや、歌舞伎役者) D 2 2 3 1
叢音子(そうおんし) → 迪斎(てきさい・河田/川田、儒者/幕臣) B 3 0 9 3
洪音浄機(こうおんじやうき) → 独癡(どくち;道号・浄養;法諱、黄檗僧) L 3 1 2 1
光音寺僧正(こうおんじそうじやう) → 雲雅(うんが、天台僧正/歌人) B 1 2 0 5
- P1981 **高家**(こうか、仁和寺) ? - ? 江前期俳人;京の仁和寺僧?、
1673西鶴「生玉万句」第七萩脇句入、
[御簾の鏡も真丸な月](萩脇句、
発句平野重徳;生玉のひかりは萩の戸帳哉)
- H1976 **康歌**(こうか) ? - ? 近江日野俳人;1690言水「新撰都曲みやこぶり」入
[松風を様々さまざまに聞く師走かな](新撰都曲;下264)
- H1988 **口禾**(こうか) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(230)
- 1981 **幸化**(こうか・松友軒) ? - ? 京?の俳人;雲鼓門、巴人・見山堂也香と交流、

1728師雲鼓追善「孤雲上」編/34「かつらゆひ」編

H1977 弘窩(こうか・伊藤いとう、名;惟章、竹里ちくり男)1741-8141 撰津高槻藩士/伯父介亭かいていの養嗣、儒者、「惟章遺稿」、仁斎の孫、養嗣子;羽田弘毅、
[弘窩(;号)の字]修蔵/文蔵

H1978 郊花(こうか・野口のぐち、別号;霽月居)?-? 江中期下野の俳人、1783「なはしろ水」編

H1979 黄華(こうか・葉室はむろ、名;世和、源次右衛門男)1791-183141 熊本藩儒:1808藩校時習館修学、
1816佐訓導/17訓導/26中小姓/藩命で昌平覺入;林述斎・佐藤一斎門/27江戸藩邸侍講、
1827時習館教授、「熊本時習館左伝劄記」/1811「五臣音註揚子法言抄」著、「黄華山人遺稿」、
[黄華の字/通称/別号]字;敬興、通称;直次郎、別号;黄華山人/黄華山樵/春塙しゅんりゅう

1987 行過(こうか、行過大人こうかのうし)?-? 俳諧論書・1834「奇談夢之棧きだんゆめのかけはし」著、
(先輩の霊が出て当代俳人の批評をする体裁)

公夏(こうか・八条) → 公夏(きんなつ・八条、南朝廷臣/歌人) R 1 6 5 6

公夏(こうか・橋本) → 公夏(きんなつ・橋本/清水谷、廷臣/歌) E 1 6 4 9

公暇(こうか・到津) → 公暇(きみとみ・到津いとう、神職/国学) T 1 6 4 8

行家(こうか) すべて → 行家(ゆきいえ)

光華(こうか・土井) → 光華(みつあき・土井い、国学/政治家) J 4 1 8 3

弘佳(こうか・矢田部) → 弘佳(ひろよし・矢田部やたべ、国学/神職) M 3 7 1 0

幸嘉(こうか) → 義延親王(ぎえんしんのう、天台園城寺僧) J 1 6 7 6

黄化(こうか) → 逸客(いつかく・黄化、戯作者) G 1 1 7 5

江霞(こうか・若狭屋) → 五鹿(ごろく・若狭屋、俳人) P 1 9 3 9

香果(こうか・橋本/橘) → 経亮(つねあきら・橋本/橘、神職/故実/歌) B 2 9 5 9

H1980 光雅(こうが;法諱、権大納言広橋ひろはし仲光男/本姓藤原)1360-142768 興福寺法相僧:兄懐雅門、
松林院住;講師/1422興福寺別当・僧正/法印、1424「法華経総釈」著

H1981 孝賀(こうが・心月亭) ? - ? 江前期歌人;1664飛鳥井雅章門、1681?「尊師聞書」著

H1982 岡臥(こうが;号・山崎やまざき、名;勝澄/通称;縫殿い、勝衛男)1762-181857 羽後横手の生/秋田藩士、
秋田藩軍学師範、歌/俳諧を嗜む、「卯月衣」著

公雅(こうが→きんまさ・藤原) → 公時(きんとき・滋野井/藤原、廷臣/歌) E 1 6 3 6

公雅(こうが・正親町三条) → 公雅(きんまさ・三条/正親町三条、歌) E 1 6 6 8

公雅(こうが・那珂) → 通博(みちひろ・那珂なか、儒/藩校助教) C 4 1 3 9

恒賀(こうが・松村) → 李郭(りかく・松村まつむら、商家/俳人) 4 9 4 5

興雅(こうが) → 興雅(きょうが、真言僧/歌人) C 1 6 2 8

興雅(こうが・山田) → 興雅(おきまさ・山田やまだ、国学/歌人) E 1 4 2 2

光雅(こうが・葉室) → 光雅(みつまさ・葉室/藤原、廷臣/記録) E 4 1 8 2

光娥(こうが) → 玉亭光娥(ぎょくていこうが、書肆、戯作) P 1 6 2 7

孝雅(こうが・藤木) → 孝雅(たかまさ・藤木ふじき、歌人) 2 7 6 1

高雅(こうが) すべて → 高雅(たかまさ)

高賀(こうが・山鹿) → 高賀(たかよし・山鹿やまが、藩士/兵学者) N 2 6 7 0

高賀(こうが;俳名) → 宗十郎(初世そうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者/俳人) 2 5 1 0

高賀(こうが;俳名) → 高助(2世たかすけ・助高屋、歌舞伎役者) C 2 6 9 1

高賀(こうが;俳名) → 宗十郎(5世そうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者) B 2 5 9 1

E1990 聶牙(ごうが・土井い、名;有恪、橘窓[篤敬とくけい]男)1817-8064 伊勢津藩士/兄長裕の養子;

1828養家の家督嗣、儒;川村竹坡・斎藤拙堂門/1833左眼失明/37藩校有造館助教/39講官、
1845「資治通鑑」校刊総裁;49「有造刊版資治通鑑」刊、佐幕派、中国史/地理/海防に通ず、
「論語助辞法」「格五新譜」「読蘇洵諫諫論」「諸子百則」「聶牙斎詩稿」「聶牙斎存稿」外著多数、
[聶牙の字/通称/別号]字;士恭/子喬、通称;幾之助、別号;松径/溲庵ちようあん・せつあん/花宿

黄花庵(こうかあん/おうかあん) → 永機(えいき・深川/穂積、俳人) 1 3 2 0

黄花庵(こうかあん/おうかあん) → 湖十(4世こじゅう・深川、俳人) C 1 9 8 5

黄華庵(こうかあん) → 升六(しょうろく/ますろく;号、商家/俳人) C 2 2 1 5

H1983 公海(こうかい;法諱) ? - ? 鎌倉中期天台僧/已講、「宗要集」著(1320奥書)

P1947 幸海(こうかい;法諱) ? - ? 戦国期天文1533-55頃天台僧;叡山飯室谷明静院住、

1540「七聖義私集身証那含事」著

- P1951 **晃海**(こうかい;法諱) ? - ? 安桃期天正1573-92頃常陸の天台僧;普門寺舜海の弟分、下野長沼宗光寺住/相生流、1581「三周義安粒三周証人」著
- 1982 **公海**(こうかい;法諱、諡号:久遠寿院、花山院忠長男)1607-9589 母;大谷派本願寺光寿[教如]女、天台僧;1620天海(慈眼大師)門/43嗣法/江戸寛永寺住/48大僧正/65山科毘沙門堂に退隱、1692准三宮、1648「東照宮三十三回合曼供法則」54「慈眼大師書目録」著
- H1984 **光海**(こうかい;法諱、大谷派本願寺14世光瑛[琢如]男)1649-170052 母;広橋兼賢女、真宗大谷派僧、1661得度/越前本瑞寺住職/78長兄光晴[常如]の法嗣/79真宗大谷派本願寺16世/大僧正、1699大谷本堂再建、「一如上人御書」著、
[光海(;法諱)の幼名/号]幼名;利与麿、号;一如/琢性/琢享/恩光院/瑛含/愚山/洋々子、諡号;無礙光院
- H1985 **広海**(こうかい;法諱) ? - ? 江戸期天台僧;近江坂本の行光坊20世、「法性寺戒灌私草案」著
- 1906 **幸海**(こうかい;法諱) ? - ? 江中期叡山春性院住の天台僧;大僧都、1778「宝篋印陀羅尼誌銘并引」著
- H1901 **孝海**(こうかい;法諱) ? - ? 江後期叡山薬寿院住の天台僧、1846「仁孝天皇尊儀五七日般舟院御経供養法則」著
- H1986 **孝戒**(こうかい;法諱) ? - ? 江戸幕末期叡山仙覚院住天台僧、「流灌頂略法則」著
- 光介(こうかい・時田) → 光介(光輔みつすけ・時田しときだ/転うた/井上、藩士/実業家) J 4 1 8 5
光海(こうかい;字) → 大竜(だいいゅう;法諱・光海;字、真言律僧) L 2 6 1 9
光海(こうかい/みつみ・石井) → 熊太(くまた・石井いし、藩士/武道家) D 1 7 4 2
光海(こうかい→てるみ・跡部) → 良顕(よしあきら・跡部、幕臣/神道/歌) C 4 7 0 4
光海(こうかい・莊門) → 光海(みつみ・莊門しょうもん、国学者) J 4 1 3 0
広海(こうかい) 多く → 広海(ひろみ)
公介(こうかい・谷川) → 士清(ことすが・谷川、医者/神道/語学) 1 9 3 6
公晦(こうかい・芳川) → 波山(はざん・芳川よしかわ、儒/詩人) E 3 6 3 2
香海(こうかい) → 家長(いえなが・高辻たかつじ、廷臣) E 1 1 9 0
弘海(こうかい/ひろみ・長崎) → 奇山(きざん・長崎ながさき、藩士/詩歌/俳) K 1 6 6 4
恒海(こうかい/つねみ・山中) → 霜解(しもとけ・初世千種庵ちぐさあん、書師/狂歌) F 2 1 9 5
黄海(こうかい・戸板) → 保佑(やすすけ・戸板/多々良/多、和算/改暦) B 4 5 7 2
綱至(こうかい・大山) → 綱至(つなりのり・大山おおやま、藩士/国学) F 2 9 4 3
- H1987 **香外**(こうがい;道号・石蘭せきらん;法諱)?-1777 若狭の曹洞僧;越前竜泉寺牧巖心牛門/法嗣、加賀宝円寺18世/松山寺12世/越前禅林寺住持、越前正瑞寺開山、「慈眼寺記」著
- 1983 **江涯**(こうがい;号・呉夕庵ごせきあん)?-? 加賀生生/行脚俳人;京大阪・近江八幡住、蕪村・暁台と交流、1776「張瓢はりふくべ」77「仮日記」81「浪速住」編、74美角「ゑぼし桶」入
[加茂河やゆるく流るゝ春の水](仮日記;洛東歌仙の発句/定雅・美角と三吟)
- G1921 **香崖**(香厓こうがい・結城ゆうき、名;剛/璧、友田美昭男)1818-8073 結城確所の養嗣子、長門府中藩儒;藩校敬業館修学;舎長/大阪篠崎小竹門/昌平黌に修学、安藝広島の子霜山門/長門府中藩世子侍読、1845藩校教授/59学頭;馬廻格、「香厓詩鈔」著、乃木希典の師、
[香崖(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;三平、字;照卿/士毅、通称;恂介じゆんすけ、別号;快軒/二水/古雪
- 公槩(こうがい・加藤/篠崎) → 竹陰(ちくいん・篠崎しのぎ/加藤、儒者) C 2 8 5 2
公愷(こうがい・唐、塘它山) → 它山(たざん・堤/塘つみ、藩士/儒/詩) E 2 6 5 9
公凱(こうがい・松村) → 九山(きゅうざん・松村/松邨、医/儒者) C 1 6 0 2
光凱(こうがい・野口) → 光凱(みつよし/みつやす・野口のぐち、神職/歌) K 4 1 0 4
洪崖(こうがい;号) → 翠巖(すいがん;道号・承堅;法諱、臨濟僧) 2 3 3 7
- H1989 **業海**(ごうかい;道号・本浄;法諱)?-1352 臨濟僧;1318入元/天目山の中峰明本門;印証を受、帰国;1348甲斐棲雲寺開山、「甲州天目山棲雲寺十境詩歌」著

- H1990 **豪海**(ごうかい;法諱) ? - ? 南北期武蔵仙場の天台僧尊海の四天王、上洛;心栄・常楽院心聡門/法華観心の相伝を受、金鑽談所を開設、1349「法華玄義第五口伝抄」/1350頃「蔵田抄」著
- H1991 **豪海**(ごうかい;法諱) 1440 - ? 1526存 室町期天台比叡山南坊住僧/法印、「如法経懺法作法」著
- H1992 **剛外**(ごうがい;道号・令柔れいじゅう;法諱、号;孤山) 1563-1627 65 奈良の臨濟僧;東福寺汝源令見門、汝源の法嗣、1610(慶長15)東福寺230世住寺、1592-6頃五山月次聯句会参加/以心崇伝と詩偈:「翰林五鳳集」編纂、16238南禅寺公帖を受/25南禅寺入、1511/15/21友竹・听叔らと和漢聯句
- Q1984 **豪海**(ごうかい;法諱) ? - 1797 上野安中の天台宗十輪山東光院41世、歌人
 劫外(ごうがい;号) → 玄方(げんぼう;法諱・規伯、臨濟僧/国書改竄事件) M 1 8 3 2
 劫外(ごうがい、合川) → 至導(しどう;道号・無難;法諱、臨濟僧) V 2 1 2 5
 香海院(こうかいいん) → 徳猊(とくげい;法諱、真宗大谷派僧/歌) K 3 1 6 2
 光海翁(こうかいおう) → 良顕(よしあきら・跡部、神道/歌人) C 4 7 0 4
 黄化逸客(こうかいやく) → 逸客(いつかく・黄化、戯作者) G 1 1 7 5
 曠懷堂(こうかいどう) → 景山(けいざん・堀ほり/修姓;屈、儒者/医) 1 8 5 7
 光海靈神(こうかいいしん) → 暉昌(てるまさ・森もり、神職/国学) C 3 0 9 2
 江介老人月翁(こうかいろうじん) → 周鏡(しゅうきやう;法諱・月翁げつおう・げつどう、臨濟僧) H 2 1 1 0
 黄華院(こうかいん) → 日義(にちぎ;法諱・旨広、日蓮僧) B 3 3 2 1
 黄花園(こうかえん・上田) → 仲敏(なかつし・上田、藩士/砲術/歌) E 3 2 7 6
 黄化狂士(こうかきやうし) → 逸客(いつかく・黄化、戯作者) G 1 1 7 5
- 1984 **光覚**(こうかく;藤原基俊[1060?-1142]男) ?-? 平安後期興福寺僧;権少僧都、歌人、覺遍の父、1124「奈良花林院」入、1237素俊撰[檜葉ならのは集]3首入(1首543は法師・2首は僧都名)、千載集1026(詞書入;律師光覚が維摩会講師の撰に洩れた恨みを父基俊が詠んだ歌)[かしはぎの杜のこずゑにしもふりぬはもりの神の袖やさゆらん](檜葉;冬300)
- H1993 **皇覚**(こうかく;法諱、藤原基俊男) ?-? 平安後期叡山の天台学僧;忠尋より相伝、東坂本相生坊住;法橋/一門を相生流と称す、範源の師、「一代心地抄」「相生枕双紙」著
- R1959 **公覚**(こうかく;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、1237刊[檜葉集]入、[滝つせにおつるあさきのおとなれや枝もならさぬみねの松風](檜葉;冬328)
- H1994 **公覚**(こうかく) ? - ? 室町期社僧、講田所、連歌;1423「応永十三年熱田法楽百韻連歌」連衆(2句)、[在明ありあけの雲路くもりにみえて返る雁かり](熱田法楽;初裏11)、(前句;旅衣にや夜よをかさぬらん;久宗)
- H1927 **交角**(こうかく) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(257)
- H1995 **孝覚**(こうかく;法諱) 1738 - ? 1804存 天台叡山眞覚院住僧/薬樹院転住、1800権僧正/探題、1804探題致仕、1798「公澄親王御灌頂雑記」著
- H1996 **皐鶴**(こうかく・橋本はしもと、名;重澄、伴鷗男) ?-? 江中期紀伊湯浅の製墨・販売業;1769江戸出店、歌;「重澄詠草」、「重澄厳父詠草」「環山遺詠」編、1769「藤白墨来由」、「皐鶴駅路紀行」著、[皐鶴(;号)の通称] 弥三右衛門/次郎橋
 光覚(こうかく;初法諱) → 隆弁(りゅうべん;法諱、天台大僧正/歌人) F 4 9 5 6
 光覚(こうかく;号) → 昌堂(しょうどう;法諱、浄土西山派僧) L 2 2 1 5
 弘覚(こうかく;法諱) → 尋範(じんぱん;法諱、法相僧/歌人) 2 2 6 8
 弘覚(こうかく;法諱) → 静覚法親王(じやうかくほつしんのう、真言仁和寺僧) H 2 2 7 8
 孝覚(こうかく;法諱) → 孝覚(きやうかく/こうかく、南北期興福寺大僧正) C 1 6 3 1
 交鶴(こうかく・飯塚) → 恰(ゆたか・飯塚/平元、藩士/歌/狂詩) G 4 6 0 7
 黄鶴(こうかく・三浦) → 坦斎(たんさい・三浦みうら、医/儒者) T 2 6 5 1
 皐鶴(こうかく・藤川) → 冬斎(とうさい・藤川、儒者) E 3 1 3 0
 皐鶴(こうかく・角田/海保) → 青陵(せいりやう・海保かいほ、儒/経世家) D 2 4 1 5
 皐鶴(こうかく・松平) → 定通(さだみち・松平まつだいら、藩主/教育) J 2 0 7 7

- 公恪(こうかく・西四辻) → 公恪(きんつむ・西四辻にしようつじ、廷臣) R 1 6 4 3
 高格(こうかく・小野) → 高尚(たかひさ・小野おの、幕臣/国学者) D 2 6 5 6
 後覚(こうかく・楠本) → 端山(たんざん・楠本、藩士/儒者) I 2 6 2 1
- H1999 **江岳**(こうがく;道号・元策げんさく;法諱、衣笠山元策禅子)?-? 1667存 山城松尾村の地蔵院住;臨濟僧、
 堅操元松門/法嗣、1667「松尾人物志略」「本朝歴代法皇外記」編、「江雲隨筆」著
- H1997 **高嶽**(こうがく;法諱) 1667 - ? 天台宗僧:1720擬講、「山王聖真子金剛会法則」著
- 1985 **衡岳**(こうがく・菊池きくち、関口行豊男)1747-180559 菊池武教の養嗣子/江戸儒者;松崎觀海門、
 1778菊池家相続;紀州和歌山藩儒/江戸藩邸明教館「学規」作成、藩政参画、
 詩文;高野蘭亭門、蘭亭詩舎五子の魁、1781「海岳雜詠」91「相互紀行」著、
 「衡岳先生思玄亭遺稿」(孫の梅軒完成;跋)
 [衡岳(;号)の名/字/通称/別号]名:禎/維禎、字:叔成/叔茂、通称;角蔵/内記、
 別号;方壺/匡廬,諡号;泰忠先生
- 交学(こうがく・梅森) → 月皎(げっこう・梅森うめもり、僧/歌人) N 1 8 6 3
 高岳(こうがく・蔵重/片山) → 高岳(たかおか・片山/蔵重、藩士/国学) L 2 6 6 3
 高岳(こうがく・中務) → 高岳(たかおか・中務なかつかき、国学/歌人) Y 2 6 5 6
 恒嶽(こうがく・池田) → 宗政(むねまさ・池田、藩主/日記) C 4 2 4 8
 衡嶽(こうがく・本荘) → 維芳(いほう・本城/本荘、漢学/白話) D 1 1 9 6
- H1998 **豪覚**(ごうかく;法諱) ? - ? 江中期1751-72頃叡山の天台僧/正覚院・如意珠院住、
 大僧正/執行探題、覚伝の師、1763「慈覚大師九百年御忌合曼供表白」著
- I1900 **鼈岳**(ごうがく・茂呂もろ、名;猷/字;原三/通称;源蔵)?-? 江中期江戸の儒者、
 1707刊「釣鼈文草」、「鼈岳文草」「瑞雪稿」「柳金稿」著
- G1922 **鼈岳**(ごうがく・伊東いとう、名;惟肖、藍田男)?-? 江中期寛政1789-1801頃儒者;徂徠学、
 豊後日出藩儒、詩人、「近体両韻徴」「賞韻録稿」著、「藍田先生文集」「藍田先生講義」編、
 [鼈岳(;号)の字/通称]字;良弼、通称;幼之助/良之助
- 行学院(こうがくいん) → 日億(にちおく;法諱、日蓮僧) 3 3 9 2
 溝岳散人(こうがくざんじん) → 蚓侯(いんこう・溝岳散人、談義本) I 1 1 5 3
 皐鶴子(こうかくし) → 元淑(げんしゅく・桑原くわばら、藩士/医者) J 1 8 6 5
 高岳親王(こうがくしんのう) → 高岳親王(高丘-たかおかしんのう、眞如、眞言入唐僧) L 2 6 6 4
 宏覚禅師(こうかくぜんじ) → 東巖(とうがん;道号・慧安;法諱、臨濟僧) C 3 1 3 0
 弘覚大師(こうかくだいし) → 源空(げんくう;法諱・法然、浄土宗開祖) 1 8 1 1
- 1986 **光格天皇**(こうかくてんのう、名;師仁/兼仁ともひと・典仁親王男)1771-184070 後桃園天皇の嗣、
 1780-1817在位、母;家女房の岩室とめ、1788内裏炎上/90新造内裏に還御、
 父親王の尊号で幕府と対立;讓位、
 歌;後桜町天皇門/職仁親王門;入木道秘伝伝受、儒・音楽・詩歌修学/歌会催、
 家集:「光格天皇御詠草」、「光格天皇御製」「寛政帝御製詩」「仙洞六十御賀御屏風和歌」著
- 孝学道人(こうがくどうじん) → 友山(ゆうざん・川瀬/河瀬/菅原、神職/孝道) C 4 6 0 4
 聳牙齋(ごうがさい) → 聳牙(ごうが・土井とい、藩儒) E 1 9 9 0
 黄華山樵(こうかさんしょう) → 黄華(こうか・葉室はむろ、藩儒) H 1 9 7 9
 黄華山人(こうかさんじん) → 黄華(こうか・葉室はむろ、藩儒) H 1 9 7 9
 耕霞使者(こうかししゃ) → 晴湖(せいこ・費ひ、渡来商人/絵師) H 2 4 6 1
 行葛(こうかつ・藤原) → 行葛(ゆきくず・藤原ふじわら、廷臣/詩人) E 4 6 4 4
 高葛坡(こうかっぱ) → 葛坡(かっぱ・高) H 1 5 9 4
 黄花亭(こうかてい) → 都雀(とじゃく・高城たかしろ、俳人) N 3 1 9 8
 高臥亭(こうがてい) → 永貞(ながさだ・有沢、軍学者) D 3 2 6 5
 黄花亭楽水(こうかていらくすい) → 楽水(らくすい・黄花亭、戯作者) B 4 8 2 6
 香果堂(こうかどう) → 経亮(つねあきら・橋本/橘、神職/故実/歌) B 2 9 5 9
 好華堂野亭(こうかどうやてい) → 意斎(いさい・山田、書/狂歌/浄作/読本) 1 1 8 3
 行過大人(こうかうし) → 行過(こうか、俳論書) 1 9 8 7
- 1988 **皇嘉門院**(こうかもんいん・名;聖子、関白藤原忠通女)1122-8160 母;藤原宗通女の宗子、
 1129崇徳天皇女御/1130中宮/41皇太后/50院号宣下;56落飾/63剃髮、近衛天皇の准母、

歌人;月詣集入、新古772・1789、女房に歌人多数、
[なにとかや壁に生おふなる草の名よそれにもたぐふわが身なりけり](新古;雑1789)、
(壁に生ふ;能因歌枕;壁に生ふるをば[いつまで草]といふなり)、
[皇嘉門院(;女院号)の法名] 清浄恵/蓮覚

皇嘉門院出雲(こうかもんいんのいづも)→ 出雲(いづも・皇嘉門院、歌人) 1 1 9 5

皇嘉門院近江(こうかもんいんのおうみ)→ 近江(おうみ/あふみ・皇嘉門院、歌) C 1 4 6 6

皇嘉門院尾張(こうかもんいんのおわり)→ 尾張(おわり・皇嘉門院、歌人) C 1 4 0 1

皇嘉門院治部卿(こうかもんいんのじぶきょう)→ 治部卿(じぶきょう、歌人) F 2 1 5 8

- 1989 皇嘉門院別当(こうかもんいんのべつとう、別当局べつとうのつばね、源俊隆女)?-?1181存 平安末鎌倉初期歌人、
崇徳天皇中宮皇嘉門院聖子[1122-81]女房、1181出家、聖子弟の藤原兼実の歌合に参加、
1175/79「兼実家歌合」/79「兼実家百首」参/千載(694/807)下9首、雲葉集入、
[難波江の芦のかりねのひとよゆゑみをつくしてや恋わたるべき](千載806)
- I1901 皇嘉門院武蔵(こうかもんいんのむさし)?-? 鳥羽皇女上西門院統子女房/崇徳后聖子女房、歌;月詣集入
上西門院武蔵と同一か→ 武蔵(むさし・上西門院、新勅撰歌人) 4 2 5 4
- 1990 公寛(こうかん;法諱、俗姓;源、西方院相深男)?-? 南北期仁和寺の坊官/大蔵卿、歌人、新拾遺1856
[うき世をもいとひぞはてぬ折々にかはる心の定なければ](新拾遺;十九1856)
- I1902 鈎閑(こうかん・板坂いたさか) ? - ? 室町末期医者;小児科医、
「小児諸病方」「家伝小児方」、「板坂流家伝小児方」編
- I1903 高観(こうかん;法諱) 1602 - ?1651以後没 武州入間三芳の天台僧1620尊能門/25得度、
広海・舜観門、天海の命で上野竜蔵寺住寺、摩訶止観の研究;1646比叡山で等誉・豪慶門、
1651「摩訶止観見聞添註」、「止観竜蔵寺」著
- R1953 公貴(こうかん;号/きんづら?) ? - ? 江前期;京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]2首入、
[花にこそわけまよひけれむさしのの月はかくるる山の端もなし](麓の塵;579)
- I1904 考潤(こうかん・萱野かやの、儀章) 1675-176187 肥後藩大阪藩邸留守居役/詩;混沌社友、銭塘の父
- I1905 光鑒(こうかん;法諱・寂忍じゃくにん;字) 1693-1718早世26 真言宗僧、
1515(正徳5/23歳)江戸湯島霊雲寺慧光より受鉢戒を受、湯島霊雲堂頭五大院主となる、
1713「霊雲宝蔵書籍目録」著
- R1977 高幹(こうかん・加藤、名;玄阿弥)?-? 江中期;幕府の御同朋、歌人;冷泉家門、
岡田忠篤催[千首和歌]に出詠、1768石野広通[霞関集]初撰本2首入、
[折敷てやすむ為とや山人の麓の真柴刈り残しけん](霞関集初撰;麓柴)、
[鬼神おのがみも哀れと思ふ言の葉の道の力はたぐひあらじな](同/如是力によぜりき)
- I1906 広貫(こうかん;法諱) ? - ? 江中期1764-81頃近江坂本常智院の天台僧、
1772「梶井様御違例御祈并墓去葬送記」75「有徳院殿廿五回忌記」著
- 1991 江漢(こうかん・司馬しば/初姓;安藤あんど、名;峻たかし) 1747-1818?72? 江戸四谷生の絵師;狩野古信門、
鈴木春信門;春重と号し美人画/南蘋なんびん派の宋紫石門、源内を知り洋画・窮理学に興味、
医;良沢門/蘭学者玄沢・中良と交流、1783日本初の銅版画創作/88蠟画(油絵)制作、
1788長崎;地動説主唱、晩年は蘭学者から疎まれ麻布に隠居;老荘思想に傾く、
銅版;1792「地球全図略説」95「西遊旅譚」、蘭学;1811「春波楼筆記」15「江漢西遊日記」外著多、
[江漢の字/通称/別号]字;君嶽、通称;吉次郎/勝三郎/孫太夫、
別号;不言/無言道人/桃言/春波楼/蘭亭/蕭亭しょうてい/鈴木春重、法号;桃言院
- Q1972 広観(こうかん;法諱、) ? - 1806 信濃伊那郡山吹村領法寺住職、歌人;桃沢夢宅門
- 1992 宏観(こうかん;法諱・亮周りょうしゅう;号)?-? 江中期寛政1789-1800頃天台僧、1797「秘密儀軌目録」著
- 行簡(こうかん・小畑) → 詩山(しざん・小畑おはた、医者/詩人) D 2 1 7 7
- 行簡(こうかん・津阪) → 木長(ぼくちやう・津坂/津阪、藩士/俳人) D 3 9 7 3
- 行簡(こうかん・神保) → 蘭室(らんしつ・神保じんぼ、藩士・漢学者) C 4 8 4 5
- 行簡(こうかん・原) → 左右助(そうすけ・原/真下/松本、和算家) I 2 5 1 4
- 行簡(こうかん・中矢) → 行簡(ゆきひろ・中矢なかや/藤原、藩士/歌) F 4 6 5 0
- 行寛(こうかん・根来) → 行寛(ゆきひろ・根来ねごろ、歌人) H 4 6 1 1
- 広咸(こうかん・久世) → 道空(どうくう・久世くぜ/源、幕臣/典礼/歌) T 3 1 2 3
- 広寒(こうかん・木戸) → 孝允(たかよし・木戸/桂/和田、藩士/討幕) N 2 6 7 9

広漢(こうかん・毛利) → 広漢(ひろくに・毛利もうり、藩士/儒家) F 3 7 7 9
 広貫(こうかん・寺師/市来) → 広貫(ひろつら・市来いちき/寺師、藩士/砲術) G 3 7 4 6
 広貫(こうかん・矢田) → 四如軒(しじょけん・矢田やだ、藩士/絵師) T 2 1 8 7
 幸貫(こうかん・真田) → 幸貫(ゆきつら・真田/松平、藩主/詩歌) 4 6 2 1
 幸歛(こうかん・真田) → 幸歛(ゆきよし・真田さなだ、藩士/砲術/歌) F 4 6 9 7
 幸寛(こうかん・吉見) → 幸寛(ゆきひろ・吉見よしみ、廷臣/神道家) F 4 6 4 8
 苟完(こうかん・大塚) → 毅斎(きさい・大塚、儒者) I 1 6 5 4
 苟完(こうかん・鎌田) → 昌言(まさのぶ・鎌田かまた、医者/歌人) F 4 0 8 0
 孝完(こうかん;字) → 良恭(りょうきょう;法諱・孝完、真言僧) H 4 9 0 6
 孝幹(こうかん・里井) → 孝幹(たかもと・里井さとい、廻船問屋/国学) N 2 6 4 2
 孝感(こうかん・大塚) → 稼圃(かほ・大塚おおか、儒者) P 1 5 3 2
 孝寛(こうかん・寺門) → 孝寛(たかひろ・寺門てらかど、藩士/文筆家) N 2 6 0 8
 光寛(こうかん・相良) → 綱正(なわまさ・相良さがら、藩士/武芸者) I 3 2 4 7
 光寛(こうかん・山口) → 光寛(みつひろ・山口やまぐち、幕臣/国学) K 4 1 8 8
 光寛(こうかん・高橋) → 光寛(みつひろ・高橋たかはし/尾張連、神職) J 4 1 6 4
 光官(こうかん・篠山) → 光官(みつり・篠山ささやま/伴、幕臣/武芸) E 4 1 4 7
 光寛(こうかん・柴田) → 光寛(みつひろ・柴田/藤原、商家/蔵書) E 4 1 6 9
 光寛(こうかん・藤堂) → 光寛(みつひろ・藤堂とうどう/多羅尾、藩士) E 4 1 7 0
 耕閑(こうかん・岩倉) → 一絲(いっし;道号・文守、臨濟僧) E 1 1 6 2
 公貫(こうかん・三条) → 公貫(きんつら・三条/正親町三条、日記) R 1 6 4 4
 公寛(こうかん・孫福) → 公裕(きみひろ・孫福まごぶく/度会、神職/詩) M 1 6 0 7
 公寛(こうかん・吉田) → 宗左衛門(そうざえもん・吉田、眼科医/詩) H 2 5 4 2
 公寛(こうかん・萩原) → 西疇(せいちゆう・萩原はぎわら、漢学者) C 2 4 6 0
 公寛(こうかん・風早) → 公長(きんなが・風早かざはや、廷臣) G 1 6 6 1
 公幹(こうかん・檉田/大田) → 錦城(きんじょう・大田おおた、儒者/詩文) 1 6 6 2
 公幹(こうかん・深谷) → 公幹(きんもと・深谷、藩士/文筆家) R 1 6 9 1
 公幹(こうかん・中村/沼尻) → 墨僊(ぼくせん・沼尻ぬまじり、天文家) D 3 9 6 2
 公幹(こうかん・木村) → 松石(しょうせき・木村/梅田、医者/詩人) K 2 2 3 1
 公幹(こうかん・石川) → 魯庵(ろあん・石川いしかわ/水野、藩儒) 5 2 1 3
 公幹(こうかん・中山) → 黙斎(もくさい・中山/藤原、儒者/教育) 4 4 8 4
 公幹(こうかん・宇野) → 公幹(きみもと・宇野うの、藩士、国学) T 1 6 5 8
 公簡(こうかん・山本) → 中斎(ちゆうさい・山本、医/儒者) G 2 8 0 8
 公簡(こうかん・上柳) → 牧斎(ぼくさい・上柳うわなぎ/柳、儒者) D 3 9 1 3
 公鑑(こうかん・林) → 述斎(じゅっさい・林/松平、幕府儒官;学制改革) I 2 1 9 4
 公鑑(こうかん・桂川) → 甫周(ほしゅう・桂川かつらがわ/4世、蘭医) E 3 9 2 2
 公鑑(こうかん・西村) → 清臣(きよおみ・西村にしむら、藩士/歌人) U 1 6 0 5
 公款(こうかん・古屋) → 昔陽(せきよう・古屋ふるや、儒者) D 2 4 9 2
 好貫(こうかん・矢崎) → 好貫(よしつら・矢崎やざき、神職/国学) P 4 7 7 0
 好寛(こうかん・坂上/伊丹) → 椿園(ちんえん・伊丹/津国屋、商家/読本) 2 8 3 2
 好寛(こうかん・芝崎) → 好寛(よしひろ・芝崎しばざき/平、神職/国学) N 4 7 3 4
 高寛(こうかん・中田) → 高寛(たかひろ・中田なかつ、藩士/和算家) N 2 6 0 7
 高寛(こうかん・中島) → 積水(せきすい・中島/中嶋なかじま、藩儒) K 2 4 2 8
 高幹(こうかん→たかもと・平) → 浄永(じょうえい;法諱、武将/連歌作者) H 2 2 1 7
 高幹(こうかん・塚原) → ト伝(ぼくでん・塚原/平/ト部、剣術家) D 3 9 7 8
 高幹(こうかん/たかもと・富家) → 松浦(しょうほ・富家ふけ/藤原、神職) L 2 2 6 3
 高翰(こうかん・三宅) → 高翰(たかもと・三宅みやけ、商家/国学) Z 2 6 7 1
 弘貫(こうかん・住吉) → 弘貫(ひろつら・住吉すみよし、幕府絵師) G 3 7 4 5
 高煥(こうかん・西川) → 高煥(たかあき・西川にしかわ、藩士/国学) Y 2 6 8 3
 綱煥(こうかん・松下) → 鳩台(きゅうだい・松下まつした、儒/国学) M 1 6 7 9
 甲鵬(こうかん・鏡味) → 敬義(甲鵬たかよし・鏡味かがみ、神楽座楽人) N 2 6 7 4

- 康寛(こうかん/やすひろ・加藤)→ 宗月(そうげつ・加藤/依田/松平/蘆田、武将) H 2 5 0 2
 康桓(こうかん・本多) → 康桓(やすたけ・本多ほんだ、藩主/詩歌) G 4 5 6 0
- P1952 光巖(こうがん;道号・正伝[正電]しょうでん;法諱) 1334-1431長寿98歳 曹洞僧;1358出家、
 陸奥黒石正法寺の巨泉良珍門/嗣法、羽前米沢の瑞雲院4世、「瑞雲院縁起記」著
- I1908 興巖(こうがん;道号・賢隆けんりゅう;法諱)?-1697 近江浅井郡の曹洞宗実宰院8世、「実宰庵縁起」著
- I1909 孝巖(こうがん;道号・父戒ふかい;法諱)?-? 1795存 臨濟僧;芝山祖安門、1795「禅偈韻套」編
 [孝巖父戒の号] 自肅道人/靈源
- I1910 公巖(こうがん;法諱・海徳院;諡号) 1758-182164 越後西頸城西性寺の生;真宗大谷派僧、
 羽後酒田の真宗大谷派浄福寺の養嗣/1786住職、上京;宗乗・余乗門/儒;1788皆川淇園門、
 1794再上京;華巖・天台教学を修学/梵曆文学;普門門、1802宗義問題で本山より糾問、
 1791「一念多念証文憲章」、「六字釈心響録」「浄土論略要」「改悔文演説」「改悔文隨筆」外著多
- I1911 弘巖(こうがん;道号・玄猊げんげい;法諱、号;古心庵/俗姓;青木) 1748-182174 越後小刈村の臨濟僧、
 1756(9歳)関興寺大隋玄公門;出家/66白隠慧鶴門/滄海宜運門;嗣法、
 1784丹波高源寺住持;再中興、「弘巖語録」著
- E1961 紅顔(こうがん;法諱・白蓮台)?- ? 備後福山の日蓮宗妙法寺僧/俳人、
 1853鼎左「俳諧海内人名録」入、
 [聊いささかな田に揃ひけりせり齋] (「俳諧海内人名録」)
- 行巖(こうがん→ぎょうこん;号)→ 雲歩(うんぽ;法諱、曹洞僧/仮名草子) B 1 2 6 0
 行丸(こうがん・祝部) → 行丸(ゆきまる・祝部はふりべ/生源寺、神職) F 4 6 6 1
 香巖(こうがん;号) → 明覚(みょうかく;法諱、真宗僧/歌人) K 4 1 6 2
 幸丸(こうがん・檜垣) → 常名(つねな・檜垣ひがき/度会、神職/歌) C 2 9 7 7
 孝顔(こうがん;名) → 元水(げんすい;号、善光寺僧/俳人) E 1 8 2 1
 江丸(こうがん・大江) → 千古(ちふる・大江おおえ、廷臣/詩歌人) F 2 8 3 1
 向丸(こうがん・菅沼) → 定芳(さだよし・菅沼すがぬま、幕臣/城主) K 2 0 2 2
- E1993 豪寛(ごうかん;法諱、別法諱;覚深/豪恵/豪慧)?-1707 天台叡山僧;静光院・正覚院等住、
 禪定僧都門/1693擬講/97探題・学頭/法印・大僧正、行海僧正より八千枚護摩口決を伝受、
 1677「樹乃下の御法」83「伊舍那天」85「舍利供養法則」89「伝教大師伝」94「別当大師略伝」、
 「小夜千鳥」「日吉山王由来記」「日光山滝尾靈託記」「三大師伝」「続日吉知新記」外著多数、
 歌/狂歌;1713刊由己「春駒狂歌集」に遯庵・由己と三吟四十四よし「狂句漢和」入、
 [豪寛の通称/号]通称;緑樹軒松順/正覚院大僧正、号;一雨/円音/非際
- I1912 豪観(ごうかん) 1756 - ? 天台叡山正覚院僧/大僧正、「阿吽雑記」編、
 「勧学会大学頭記」/1811「施食法句読未再治」著
- 剛煥(ごうかん・岸) → 熊野(ゆうや・岸きし/崖、藩士/儒者) D 4 6 8 9
 高寒院(こうかんにん;法号)→ 高潔(たかきよ・藤堂とうどう、藩主/書画) L 2 6 7 9
 苟完居(ごうかんきよ) → 玄達(げんたつ・松岡、儒医/本草) C 1 8 6 1
 耕閑軒(こうかんけん) → 兼載(けんさい・猪苗代、連歌師) 1 8 1 3
 耕閑斎(こうかんさい) → 道閑(3世ごうかん・清水、藩士/茶人) C 3 1 3 9
 耕寛斎(ごうかんさい) → 常信(つねのぶ・狩野かのう、絵師/鑑定/歌) D 2 9 0 2
- I1913 公寛親王(ごうかんしんおう、法諱;覚尊/公寛、俗名;有定、東山天皇皇子) 1697-173842 天台僧:
 1708円満院で得度/12三山検校/園城寺長吏/14江戸東叡山輪王寺入;公寛と改名、
 17179一品/18天台座主/31准三宮、38退隱、「公寛親王御在洛日記」「供養法華儀」著
- 鴻雁堂(こうがんどう) → 暢斎(ちやうさい・蒔田、書家/篆刻) I 2 8 3 7
 合歓堂(ごうかんだう) → 沾徳(せんとく・門田・水間、俳人) 2 4 3 5
 合歓堂(ごうかんだう) → 沾山(初世せんざん・内田、俳人) F 2 4 5 1
 合歓堂(ごうかんだう) → 不言(ふげん・省、2世沾山門俳人) B 3 8 7 6
 合歓堂(ごうかんだう) → 沾山(4世せんざん・内田、俳人) F 2 4 5 1
 合歓堂(ごうかんだう) → 沾山(5世せんざん・杉原/菊地、俳人) F 2 4 5 5
 合歓堂(ごうかんだう) → 沾山(6・7世せんざん・内田、俳人) F 2 4 5 7
 合歓堂(ごうかんだう) → 鳳石(ほうせき・海老屋、俳人) C 3 9 0 3
 合歓舎(ごうかんしゃ/ねむのや)→ 祐根(すけね・伊東/藤原/弓削、藩士/水練) G 2 3 7 9

- 弘願坊(こうがんぼう;号) → 杳旭(ようぎよく;法諱・善慶、本願寺派僧) 4 7 6 9
- R1960 **興基**(こうき;法諱、藤原朝親男?)?-? 平安鎌倉期;南都興福寺の僧/法師、歌人;1237刊[檜葉集]入、朝親男なら;朝清・朝兼・円朝・隆資の兄弟?、[仏名の心を、よもすがらほとけのみなをとなへつるけさこそつみのしもはきゆらめ](檜葉;冬351)
- E1994 **公軌**(こうき/きんり・打它うた/うた/うた/うた、宗貞[糸屋彦次郎]男) 1590-1647 58 越前敦賀の商家、京・大津に住、歌人;長嘯子・貞徳・中院通勝門、相馬藩の歌師範、京鳴滝妙光寺再建、驚月庵を結、「驚月集」、長嘯子「挙白集」編参(;息子打它景軌うたかげりら刊行);歌入、[公軌(;)の通称/号]通称;糸屋十右衛門/十兵衛、号;驚月庵/良亭/了亭/印金堂
- R1952 **幸規**(こうき/ゆきり?・藤原ふじわら/本姓;源?)?-? 江前期;歌人;1688浅井忠能[難波捨草]入、[覚束なあふは現のかごとにて夢かとはばかり春の手枕](難波捨草;恋439)
- I1914 **洪基**(こうき;道号・紹誼[宗誼]しょういん;法諱)?-1718 臨濟僧;大安紹策門/法嗣、1711建仁寺316世、「五岳廻状公儀触書控」著
- 1993 **江機**(こうき) ? - ? 俳人、1762俳諧季寄「早合点」著
- I1915 **光暉**(こうき;法諱・号;文如ぶんによ/悠々子、光闡[法如]男) 1744-99 56 真宗本願寺派本願寺18世;1765大僧正/89法主、詩歌、「真宗法要」編、「百首御和歌」「文如上人法語」著、阿茶あぢの父
- I1916 **弘基**(こうき;法諱/別法諱;慧岳、俗姓;菊入) 1752-1822 71 越後濁沢荘の真言僧;1762(11歳)出家、越後円融寺祐寛門/1769智積院入;弘道門/98集議席/1815智積院30世;権僧正/16僧正、1809「西流院随聞記」、「出家授戒作法」著
- I1918 **紅器**(こうき・高月たかつき、名;光熙みつひろ) 1752-1812 61/ 1説1753-1825 73 伊予吉田藩御用達商;法華津屋9代目、町年寄、風流人;俳人/歌人/書画・生花、「紅器年賀集」著、狸兄の曾孫、[紅器の通称/別号]通称;古右衛門/吉田千家、別号;滄浪亭/芙月齋/丈頭齋/英雲居士屋号;法華津屋、長徳ながり(歌人)の一族
- 1994 **弘毅**(こうき/ひろたけ・岩淵いづみ、久保倉くぼくら弘秀男) 1779-1843 65 伊勢山田岩淵の国学者(;岩淵姓)渡会三方会合所に出座/1808三方惣代、国学;足代弘恭門/三方の古格を研究;制度改革、「三方会合諸例旧例書」編、1809「心の月」27「鶴翁慨言」、「諸例綱目集成」「鶴翁隨筆」著、[弘毅の通称/号]通称;五郎右衛門、号;鶴翁
- I1919 **弘毅**(こうき・菱田ひしだ) ? - ? 江後期岩代会津の兵法家;長沼流兵学修得、「握機経集説」著
- I1920 **公毅**(こうき・井岡いのおか、名;毅)?-? 江戸末期和泉堺の医者、「鶏肋雑記」、「傷寒論通議」「傷寒論微議自序」著、[公毅の字/通称/別号]字;訥夫、通称;元作、別号;莪堂主人
- I1921 **広記**(こうき・築瀬やなせ、別名;則之、村上忠義男) 1839-91 53 肥前福江藩士/儒;経史;松園鼎門、砲術・剣術修得、1856藩校育英館句読師、1860藩主に随従し江戸へ/65目付役;大阪住、1868帰藩;出納奉行/育英館助教/大属兼刑法監察、「大坂銀差引目録」著、[広記(;)の幼名/通称/号]幼名;八重蔵、通称;善右衛門、号;菊溪、法号;楊清院
- 広季(こうき・中原) → 広季(ひろすえ・中原なかはら、博士/歌) G 3 7 0 8
- 広喜(こうき・目々沢めめざわ) → 樗軒(ちよけん・目々沢、儒者) K 2 8 3 5
- 広幾(こうき・藺) → 広幾(ひろちか・藺その/太秦、楽人) G 3 7 3 5
- 広輝(こうき・渡辺) → 広輝(ひろてる・渡辺わたなべ、絵師) G 3 7 4 8
- 広基(こうき・林) → 広基(ひろもと・林はやし/太秦うずまさ、楽人) H 3 7 4 9
- 広達(こうき・皆川) → 広達(ひろみち・皆川みながわ、幕臣/馬術) H 3 7 2 4
- 広記(こうき・桜井) → 広記(ひろのり・桜井さくらい、国学/歌人) J 3 7 7 5
- 公季(こうき・藤原) → 公季(きんすえ・藤原、太政大臣/日記) E 1 6 1 7
- 公祺(こうき・井上いのおえ) → 東溪(とうけい・井上、儒者) D 3 1 0 5
- 公奇(こうき・新妻にいづま/にづま) → 道斎(どうさい・新妻、儒者) E 3 1 4 2
- 公暉(こうき・力丸) → 東山(とうざん・力丸りきまる、儒/兵学/詩) E 3 1 5 6
- 公規(こうき・菅) → 橋洲(きつしゅう・菅かん、藩士/儒者) L 1 6 4 5
- 公規(こうき・今出川) → 公規(きんり・今出川、廷臣/日記) R 1 6 6 1
- 公紀(こうき・矢野) → 公紀(きみのり・矢野やの、神職) M 1 6 0 5

公紀(こうき・今城)	→	峴山(硯山けんざん・今城いまき、儒者)	E 1 8 8 7
公器(こうき・小県)	→	清庵(せいあん・小県おがた、藩医)	H 2 4 1 9
公器(こうき・三谷)	→	笙洲(そうしゅう・三谷みたに、医者)	H 2 5 8 1
公基(こうき・藤原)	→	公基(きんもと・藤原、廷臣/歌人)	R 1 6 9 0
公基(こうき・西園寺)	→	公基(きんもと・西園寺、右大臣/歌)	E 1 6 7 8
公基(こうき・内藤)	→	笨庵(ほんあん・内藤ないとう、儒者)	E 3 9 9 0
公琦(こうき・石坂)	→	宗瑋(宗圭そうけい・石坂いしざか、医官)	H 2 5 0 0
公綺(こうき・喜多)	→	公綺(きみあや・喜多きた、医者/歌人)	U 1 6 0 6
公起(こうき・日野)	→	醸泉(じょうせん・日野、藩士/儒/文教)	K 2 2 5 0
公達(こうき・加藤)	→	正庵(せいあん;号・加藤かとう、医/漢学者)	H 2 4 2 1
公熙(こうき・小倉)	→	公熙(きんひら・小倉おぐら/藤原、廷臣/歌)	V 1 6 7 9
公熙(こうき・角田)	→	青溪(せいけい・角田すみた/平、家老/漢学)	B 2 4 1 2
公熙(こうき・沖)	→	安海(やすみ・沖おき/源、商家/国学/歌)	D 4 5 0 1
公熙(こうき・小野)	→	済(せい・小野おの、国学・歌人/陶芸)	O 2 4 0 2
行季(こうき・清水谷/世尊寺)	→	行季(ゆきすえ・世尊寺/清水谷、廷臣/書家)	4 6 0 8
行輝(こうき・河野)	→	行輝(ゆきてる・河野、武芸;遊泳/砲術)	E 4 6 9 6
行喜(こうき・甲田)	→	行喜(ゆきよし・甲田こうだ、医者/窮民救済)	F 4 6 9 5
高基(こうき・山鹿)	→	高基(たかもと・山鹿、素行男/兵学者)	N 2 6 3 8
高基(こうき・内山)	→	青藍(せいらん・内山うちやま、儒者)	J 2 4 7 2
高基(こうき・藤堂)	→	高基(たかもと・藤堂、藩士、詩/兵法)	N 2 6 4 3
高起(こうき・梅田)	→	高起(たかおき・梅田/平、神職/国学者)	L 2 6 6 5
高紀(高記こうき・京極)	→	高紀(高記たかのり・京極きょうごく/源、幕臣)	U 2 6 5 8
高輝(隆輝こうき・高瀬)	→	高輝(隆輝たかてる・高瀬たかせ、国学者)	E 2 6 1 9
綱紀(こうき・橋本)	→	左内(さない・橋本、蘭医/勤王家)	K 2 0 6 1
綱紀(こうき・南摩)	→	羽峯(うほう・南摩なんま、藩士/儒者)	D 1 2 3 2
綱紀(こうき・田中)	→	綱紀(つなりのり・田中たなか、蘭学者)	B 2 9 2 1
綱貴(こうき・島津)	→	綱貴(つなたか・島津、藩主/財政再建)	B 2 9 1 0
綱至(こうき・大山)	→	綱至(つなりのり・大山おおやま、藩士/国学)	F 2 9 4 3
光基(こうき・杉原)	→	光基(みつもと・杉原すぎはら/村井、国学者)	J 4 1 3 4
光輝(こうき・みつてる・岸)	→	南岳(なんがく・岸きし、藩士/儒者)	I 3 2 7 8
光輝(こうき・畑中)	→	光輝(みつてる・畑中はたなか、歌人)	D 4 1 9 6
光喜(こうき・櫻井)	→	蕉雨(しょうう・櫻井さくらい、商家/俳人)	F 2 2 3 0
光器(こうき・堀)	→	桑之助(くめのすけ・堀ほり、藩士/記録)	D 1 7 4 6
光暉(こうき)	→	玄仗(げんじょう;法諱、真宗本願寺派僧)	K 1 8 0 5
光暉(こうき・日野西)	→	光暉(みつてる・日野西ひのにし、廷臣/記録)	D 4 1 9 5
光軌(こうき・打它)	→	光軌(みつのり・打它うただ/うだ、歌人)	E 4 1 4 5
光起(こうき・土佐)	→	光起(みつおき・土佐とさ、常昭、土佐派絵師)	4 1 2 4
光起(こうき・加賀美)	→	光起(みつおき・加賀美かがみ、神職/国学)	I 4 1 6 3
光起(こうき・木村/芳賀)	→	光起(みつおき・芳賀/木村、藩士/産物方)	D 4 1 1 5
光熙(こうき・岩谷)	→	光熙(みつひろ・岩谷いわや、藩士/和算家)	E 4 1 7 2
光熙(こうき・中井)	→	光熙(みつひろ・中井なかい、商家/日記)	E 4 1 7 4
光熙(こうき・高月)	→	紅器(こうき・高月たかつき、商家/俳人)	I 1 9 1 8
弘記(こうき・近藤)	→	弘記(ひろぶみ・近藤こんどう、神職/国学)	J 3 7 6 2
弘基(こうき;初法諱)	→	泉宝(ごうほう;法諱、南北期真言僧)	1 9 2 0
弘毅(こうき・雲川)	→	春庵(しゅんあん・雲川くもかわ、儒者)	2 1 9 1
弘毅(こうき・佐藤/小松)	→	愚山(ぐざん・小松こまつ、藩士/漢学)	C 1 7 4 1
弘毅(こうき・板倉)	→	震斎(しんさい・板倉いたくら、藩士/儒者)	O 2 2 4 3
弘毅(こうき・山口)	→	重山(じゅうざん・山口やまぐち、藩儒)	X 2 1 4 3
弘毅(こうき・岸)	→	熊野(ゆうや・岸きし/崖、藩士/儒者)	D 4 6 8 9
弘毅(こうき・中村)	→	新斎(しんさい・中村なかむら、儒者)	O 2 2 5 1

弘毅(こうき・入江) → 杉蔵(すぎぞう・入江いりえ、藩士/尊攘派) F 2 3 9 1
 幸奇(こうき・志貴) → 昌澄(まさずみ・志貴しき、神職/国学/歌) D 4 0 0 1
 好紀(こうき・芝崎) → 好紀(よしのり・芝崎しばさき、神職/国学) N 4 7 3 2
 考祺(こうき・正司) → 碩溪(せきけい・正司しょうじ、商家/儒・兵学) K 2 4 0 0
 康起(こうき・白川) → 雅冬(まさふゆ・白川/源、神祇伯/記録) H 4 0 3 0
 隆器(こうき・大河平) → 隆棟(たかむね・大河平おこびら、藩士/国学) N 2 6 3 3
 耕喜(こうき・小泉) → 正房(まさふさ・小泉こいずみ、藩士/国学) P 4 0 5 7
 畊艦(こうき・花井) → 健吉(けんきち・花井はない、算学/測量家) I 1 8 4 1
 興起(こうき・岡部) → 千尋(ちひろ・岡部おかべ/狛こま、家老/歌) M 2 8 2 9
 光義(こうぎ・谷村) → 光義(みつよし・谷村たにむら、神職/故実家) F 4 1 1 9
 広義(こうぎ/ひろよし・佐藤) → 周軒(しゅうけん・佐藤、藩家老/学事振興) H 2 1 2 5
 公誼(こうぎ・到津) → 公誼(きみよし・到津いとうづ、神職/国学) T 1 6 4 9
 好義(こうぎ・よしのり・山崎) → 長質(ながかた・山崎やまさき、藩士/系譜) D 3 2 4 3
 好義(こうぎ・よしのり・長尾/股野) → 達軒(たっけん・股野またの、藩儒/詩人) G 2 6 1 9
 好義(こうぎ・よしのり・小関) → 三英(さんえい・小関こせき、蘭学/蘭医) E 2 0 1 3
 好義(こうぎ・広瀬) → 好義(たかよし・広瀬ひろせ、陪臣/歌人) Z 2 6 2 5
 行義(こうぎ・度会) → 行義(ゆきよし・度会わたらい、廷臣/歌人) F 4 6 9 3
 行義(こうぎ・鈴木) → 竜洞(りゅうどう・鈴木すずき、和漢学者) F 4 9 3 2
 行義(こうぎ・松岡) → 行義(ゆきよし・松岡/丹治、藩士/故実家) 4 6 2 9
 行義(こうぎ・藤田) → 行義(ゆきよし・藤田ふじた、儒者/歌) G 4 6 3 7
 行義(こうぎ・片山) → 行義(ゆきよし・片山かたやまor片田、藩儒) G 4 6 7 5
 行宜(こうぎ/ゆきのぶ・冢田) → 旭嶺(ぎよくれい・冢田つかだ、医/儒者) P 1 6 4 4
 孝誼(こうぎ・横山) → 政孝(まさたか・横山よこやま、別名;、藩士/詩人) D 4 0 2 4
 隆義(こうぎ・甲斐) → 隆義(たかよし・甲斐かい、和算家) N 2 6 7 8
 高義(こうぎ/たかよし・篠崎) → 自閑(じかん・篠崎しのさき、藩士/文筆家) P 2 1 9 2
 高嶷(高疑こうぎ・藤堂) → 高嶷(たかさど・藤堂、藩主/詩文) L 2 6 9 1
 I1922 豪喜(こうき;法諱) ? - ? 室町期1429-49頃天台僧;西山宝菩提院住/法印、
 1431「十八道抄」、「諸尊法百六十尊」「内作業灌頂私記私」著
 I1923 鰲岐(こうき・吉田よしだ/修姓;吉/小橋、名;桃樹もき、塚原友古男) 1737-180266 吉田安玄の養子、
 儒者;井上金峨門、養父を継承;幕臣/罪を得て免職/剃髪;根岸時雨岡に隠退、
 歌;千蔭・春海と交流、「鰲岐雑録」、「吉田雨岡歌文稿」/紀行「鰲游余録」/「鰲游別録」著、
 [鰲岐(;号)の字/通称/別号]字;甲夫、通称;忠蔵、
 別号;雨岡うこう/雨岡道人/雨窓/鰲波/鰲嶼/時雨園
 黄菊寿園(こうきくじゅえん) → 忠央(ただなか/ただちか・水野、城主/学問) Q 2 6 2 8
 弘毅斎(こうきさい) → 謙輔(けんすけ・奥平おくだいら、藩士/詩) C 1 8 4 3
 剛毅先生(こうきせんせい) → 俊貞(としさだ・坂本/阪本、砲術家/漢学) M 3 1 4 8
 広吉(こうきち・山田) → 道悦(どうえつ・山田やまだ、軍法家) B 3 1 4 0
 光吉(こうきち・惟宗) → 光吉(みつよし・惟宗これむね、医者/歌人) F 4 1 0 9
 光吉(こうきち・土佐) → 光吉(みつよし・土佐/藤原、絵師) F 4 1 1 1
 光吉(こうきち・津田) → 光吉(みつよし・津田つだ、藩士/古書調査) F 4 1 1 6
 光吉(こうきち・片岡) → 光吉(みつよし・片岡かたおか、医者) F 4 1 2 0
 康吉(こうきち) → 康吉(やすきち、俳人) B 4 5 2 2
 高吉(こうきち・木下/羽柴) → 秀吉(ひでよし・豊臣/羽柴、武将/天下統一) 3 7 1 0
 高吉(こうきち・藤田) → 高吉(たかよし・藤田、俳人) M 2 6 0 6
 高吉(こうきち・松山) → 高吉(たかよし・松山まつやま、国学/牧師) Z 2 6 6 4
 高吉(こうきち・河島/佐々木) → 秀乗(ひでのり・佐々木、兵法家) D 3 7 6 0
 臯吉(こうきち・馬淵/馬) → 文邸(ふみいえ・馬淵まぶち/馬、和算家) D 3 8 8 0
 耕吉(こうきち・日柳/加島屋) → 燕石(えんせき・日柳くさなぎ、詩人/勤王派) B 1 3 8 1
 幸吉(こうきち・南部) → 利正(としまさ・南部なんぶ、藩主/俳諧) N 3 1 7 1
 幸吉(こうきち・箕浦) → 耕雨(こうう・箕浦みのうら、藩士/儒者) G 1 9 6 4

- 幸吉(こうきち・神谷) → 藍水(らんすい・神谷かみや、幕臣/和算家) C 4 8 7 5
孝吉(こうきち・高麗屋) → 交来(こうらい・武田、茶屋/傭書家/合卷) L 1 9 5 2
耕佶(こうきつ・南) → 佳貞(よしさだ・南みなみ、国学者/歌人) P 4 7 3 5
香橘(こうきつ・箕浦) → 耕雨(こうう・箕浦みのうら、藩士/儒者) G 1 9 6 4
香橘(こうきつ・飯田) → 清茂(きよしげ・飯田いだ、幕臣/歌人) T 2 6 0 6
高橋太(こうきつたい) → 能元(よしもと・橋たちばな、廷臣/歌人) H 4 7 6 7
- 1996 **広義門院**(こうぎもんいん、名;寧子、西園寺公衡女) 1292-1357 66 1306後伏見上皇の女御/准三宮、母;藤原兼子、光厳天皇・光明天皇・新室町院の母、花園天皇の准母、1336落飾、歌人、1354花園院7回忌「法華経要文和歌」出詠、勅撰8首;玉葉(605/942/1257/1293)続千(1361/1513/1830)新千載(372)、
[月もまだ影見えそめぬ夕暮のまがきは虫の音をのみぞ聞く](玉葉;秋605)
- I1924 **好義齋**(こうぎさい・伊藤/伊東いとう、名;儀、直信男) 1658-1728 71 長門赤間関の儒者;伊藤仁齋門、朱子学に転向/父没後;江戸住/江戸で経書講義、「好義齋雜録」著、
[好義齋(;号)の字/諡号]字;邦達、諡号;恭節先生
- 光吉(こうきち・津田) → 光吉(みつよし・津田、藩士/古書調査) F 4 1 1 6
幸吉(こうきち・瀬見) → 善水(よしみ・瀬見せみ、大庄屋/歌人) H 4 7 2 8
- I1925 **行休**(こうきゅう・篠田しのだ/関口せきぐち、名;興貞、金鶏陳人) 1685-1763 79 江中期上州の書家、初め叔父長野昌純門;大橋流書伝修得/のち篠田流創設;江戸小石川牛天神上住、「初学当用集」「初学手習式」著、
[行休(;字)の通称/号]通称;嘉兵衛、号;金溪陳人/金鶏陳人
- I1926 **幸求**(こうきゅう・橋爪はしづめ、民蔵幸隆男) ?-? 江後期会津藩士;吉川神道家、1829「一事神代卷」著、
[幸求(;名)の通称/号]通称;沢右衛門、号;颯然さつぜん、官兵衛幸恕の父
- 広休(こうきゅう・西村) → 広休(ひろよし・西村にしむら、商家/本草家) H 3 7 7 2
江九(こうきゅう・大江) → 千古(ちふる・大江おおえ、廷臣/詩人) F 2 8 3 1
光久(こうきゅう・島津) → 光久(みつひさ・島津しまづ/松平、藩主) E 4 1 5 7
光久(こうきゅう・中村) → 光久(みつひさ・中村、俳人) E 4 1 5 9
光久(こうきゅう・大久保) → 光久(みつひさ・大久保おおくぼ/山中、国学/神道) I 4 1 3 4
光丘(こうきゅう・本間) → 光丘(みつおか・本間ほんま、豪商/藩政参画) K 4 1 4 5
光躬(こうきゅう・田中/景山) → 青千(せいせん・景山かげやま/田中、俳人) J 2 4 0 5
公鳩(こうきゅう・神谷) → 松見(しょうけん・神谷かみや、茶人/儒者) I 2 2 4 7
行久(こうきゅう・賀茂) → 行久(ゆきひさ・賀茂かも、神職) F 4 6 3 5
興久(こうきゅう) → 興久(おきひさ、連歌) B 1 4 4 5
幸久(こうきゅう/よしひさ・樺山) → 玄佐(げんさ・樺山、武将/歌人) B 1 8 8 1
厚給(こうきゅう・森) → 厚給(あつとも・森もり、医者/国学/歌) I 1 0 5 5
高久(こうきゅう・藤井) → 高久(たかひさ・藤井ふじい/藤原、神職/歌) H 2 6 9 8
高久(こうきゅう・京極) → 高久(たかひさ・京極きょうごく、藩主/歌) D 2 6 5 7
恒久(こうきゅう)すべて → 恒久(つねひさ)
綱久(こうきゅう・島津) → 綱久(つなひさ・島津しまづ、藩世嗣/歌人) F 2 9 8 2
- I1927 **黄牛**(こうぎゅう・五露庵) ? - ? 江中期宝暦1751-64頃上州前橋の俳人・吸露庵系、「甲申春興」著
- G1952 **黄牛**(こうぎゅう・松田まつだ、名;文成、伯永男) 1761-1853 長寿93歳 信濃伊那の医者・易;坂本天山門、高遠で医を開業、1797天山学統を継承;撮善舎設立、1818信濃高遠藩儒医/23致仕、帰郷、医業・子弟教育、著書150余部、「黄牛子」「黄牛随筆」1785「古今類証」1826「周易玉契」外著多、
[黄牛の幼名/字/別号]幼名;政治、字;三就/永安、別号;黄牛子/不二庵/扱善堂
- E1995 **耕牛**(こうぎゅう・吉雄よしお、名;永章、通詞藤三郎男) 1724-1800 77 長崎の阿蘭陀通詞;1737稽古通詞、1742小通詞/48大通詞;御内用方通詞兼任/1790オランダ聞書誤訳事件連座;塾居、1796復帰;蛮学指南、医学:ツベルグ門/外科医療を修得、家塾成秀館開塾;蘭学吉雄流の祖、医療に初の尿検査、天文/本草、自宅に輸入品蒐集;オランダ坐舗と称、良沢・玄白と親交、「因液発備」、「解体新書」序、「銀海秘」「紅毛流膏薬」「吉雄家外療書」「吉雄流伝書」外著多数、作次郎の兄/献作・如淵の父

- [耕牛(；号)の通称/別号]通称;定次郎/幸左衛門/幸作/幸朔、別号;養浩齋
 麓邱主人(ごうきゅうしゅじん)→ 沢瀉((たくしゃ・東ひがし、藩士/儒/尊王) E 2 6 2 2
 高宮城親雲上(ごうきゅうじょうしんうんじょう)→ 高宮城親雲上(たかみやぎへ^一チン、組踊) N 2 6 3 2
 高丘親王(ごうきゅうしんのう)→ 高岳親王(高丘-たかおかしのう、眞如、真言入唐僧) L 2 6 6 4
- I1928 弘巨(ごうきょ) ? - ? 俳;1776樗良「月の夜」入
 [門かど暑し土にふみこむ瓜の皮](月の夜;117/玄関先に捨てた瓜の皮を思わず踏潰す)
- I1929 高渠(ごうきょ・滝たき/河野、名;鴻、滝たき鶴台男)1737-8448 長門萩藩士;毛利氏医師河野家の養子、
 兄2人夭逝;滝に復姓、藩校明倫館に修学、1763赤間関で朝鮮使と唱酬、73家督;萩藩大組、
 藩主の侍講、「鶴台先生行状」著、
 [高渠(；号)の字/通称]字;子儀、通称;玄悦/鴻之允(ごうのすけ)
- I1930 広居(ごうきょ・堀田ほつた、名;世徳つぐのり、茂兵衛男/本姓紀)1745-8642 名古屋広井皆戸町の商家、
 医/儒を業とする、天文・暦学に精通、国学;1785本居宣長門、1781「中星譜」著、
 [広居の字/通称/別号]字;子馨(けい)、通称;元進/玄進、別号;大順堂、法号;雪巖恵白広居
- I1931 蒿居(ごうきょ・松声庵) ? - ? 江後期筑前の俳人、
 1827「誹諧千部」29「たくなは」31「あゆちかた」33「武芝集」39「あしかせ集」編
 広居(ごうきょ・清水) → 広居(ひろやす・清水しみず、国学者) H 3 7 5 8
 広居(ごうきょ・狩野) → 良知(りょうち・狩野かのう、藩士/儒者) I 4 9 8 6
 広居(ごうきょ・幸山) → 長遠(ながとお・幸山ごうやま、医者/歌人) K 3 2 8 7
 広居(ごうきょ・中沢) → 重樹(しげき・中沢なかざわ、教育/歌人) C 2 1 1 5
 光居(ごうきょ;字) → 智通(ちつう;法諱、光居、浄土僧) E 2 8 7 7
 篁居(ごうきょ・菊池) → 沖満(おきみつ・菊池きくち、神職/国学) D 1 4 9 2
- Q1943 香魚(ごうぎょ・小川おがわ、通称;勝次郎)1846-67自害22歳 武蔵飯能の農家/国学者;
 同郷の根岸信輔・権田直助・日尾直麻呂・井上頼因門/槍術に長ず、
 1867(慶応3)薩摩藩邸同志の会に参加;幕府兵に焼討;帰郷中川越藩兵に襲撃;小銃で自害
 弘魚(ごうぎょ・足代) → 弘魚(ひろな・足代あじろ/度会、神職/歌) G 3 7 5 7
- 1907 光教(ごうきょう;法諱・証如しょうにょ;号、光融[円如]男)1516-5439 真宗本願寺10世、6歳で父と死別、
 1521(10歳)祖父実如没により本願寺継承、1527青蓮院尊鎮親王門/1532山科本願寺焼討、
 大坂石山別院を本山とする;1533日蓮宗徒や六角定頼に攻撃される;42朝倉氏と和睦、
 権僧正、1536-54「天文日記」、「証如光教条書」「証如上人御書」「証如上人消息」著、
 [光教の幼名/諡号]幼名;光仙丸/光養丸、諡号;信受院
- I1932 公教(ごうきょう;法諱、別法諱;善幸)?-? 江後期文化文政1804-30頃秋田真宗大谷派西勝寺住職、
 祖父;皆乗院公道、茶人;自笑庵・大森宗霞門、歌人、1817「道の夏草」、「眞台子点法全」著、
 [公教の号] 願乗院/養愚亭/得一堂
 弘恭(ごうきょう;法諱・泰洲)→ 泰洲(たいしゅう;道号・弘恭;法諱、黄檗僧)K 2 6 2 0
 弘恭(ごうきょう・鈴木) → 弘恭(ひろたか・鈴木すずき、藩士/教育者) J 1 7 9 9
 弘亨(ごうきょう・伊藤) → 竹坡(ちくは・伊藤、儒者) D 2 8 6 8
 弘享(ごうきょう・日根野) → 鏡水(きょうすい・日根野ひねの、藩士/儒者) J 1 6 1 3
 弘強(ごうきょう・志村) → 蒙庵(もうあん・志村、儒者/藩主侍講) 4 4 4 1
 弘教(ごうきょう・山口) → 弘教(ひろのり・山口やまぐち/山本、里正) M 3 7 1 5
 広喬(ごうきょう・関) → 広喬(ひろたか・関せき/田代/平、藩士/国学) K 3 7 0 1
 孔恭(ごうきょう・木村) → 巽齋(そんさい・木村きむら、商家/博物学) E 2 5 8 3
 行教(ごうきょう・稲山) → 行教(ゆきのり・稲山いなやま、国学者) F 4 6 2 9
 孝郷(ごうきょう・牧野/岡) → 直友(なおとも・岡、藩士/儒者) B 3 2 8 6
 孝恭(ごうきょう・渡辺) → 弘堂(こうどう・渡辺わたなべ、儒者) K 1 9 8 0
 光教(ごうきょう;字) → 堯仁(ぎょうにん;法諱・光教、真宗/天台僧) O 1 6 4 3
 光教(ごうきょう・数藤/小出) → 光教(みつり・小出/北野/数藤、暦算家) E 4 1 4 9
 光教(ごうきょう・盛田) → 草風(そうふう・盛田もりた、俳人) C 2 5 8 5
 公強(ごうきょう・工藤) → 鞏卿(きょうけい・工藤こう、医者/詩歌) G 1 6 6 8
 公恭(ごうきょう・横田) → 樗園(ちえん・横田、藩士/儒/詩) K 2 8 1 8
 交教(ごうきょう・沼倉/大屋) → 士由(しゆ・沼倉/大屋、国学/俳人) G 2 1 7 0

- 更狂(こうきやう・難波) → 周政(かねまさ・難波なんば、陪臣/歌人) V 1 5 2 9
 幸教(こうきやう;名) → 守澄親王(しゅちやうしんのう、天台座主) 2 1 7 2
 幸教(こうきやう・最上/取上) → 幸教(ゆきのり・最上もがみ、歌人) G 4 6 4 7
 高教(こうきやう・内藤) → 高教(たかのり・内藤ないとう/藤原、神職/国学) Y 2 6 4 5
 康共(こうきやう・松平) → 康共(やすとも・松平まつだいら、幕臣/和学) G 4 5 7 3
 晃郷(こうきやう・熊坂) → 適山(てきざん・熊坂くまさか、絵師/藩士) B 3 0 9 4
 興孝(こうきやう/おきたか・横山) → 丸三(まるみつ・横山、幕臣/淘宮術) K 4 0 2 2
 洪節(こうきやう・会田) → 素山(そざん・会田、藩士/御風門俳人) J 2 5 7 8
 古右京(こうきやう) → 光信(みつのおぶ・狩野かのう、絵師) E 4 1 3 4
- I1933 **宏教**(こうぎやう;法諱、初法諱;禅遍、少輔律師、藤原敦経男) 1184-1255 72 真言宗西院流宏教方の祖、
 真言僧;1204金剛峰寺頭覚門/保寿流伝法灌頂を受、1243権律師;鎌倉雪下無量寿院住、
 「血脈略記」「金胎次第」「西院流血脈」「両部流血脈」「胎藏両界次第」「金剛界次第」著
- I1934 **光暁**(こうぎやう;法諱、後法諱;円暁、文殊僧正、葉室むろ光資男) 1363-1433 71 法相僧;円守僧正門、
 広橋仲光猶子、1399維摩会講師/興福寺東院;僧正/1414興福寺別当/30別当再任(円暁名)、
 1395-1421日記「東院毎日雑々記」、「応永御八講記」「一因違四」「法自相」「有法自相」著
- 1995 **光暁**(こうぎやう;法諱) ? - ? 伊勢の僧(桑門)、北畠教具のりとも親交、
 連歌作者:1470教具催「北畠家連歌合」参加、
 [又こむとこそいひはおきつれ、
 そむるをよしやと人の慰めて](北畠連歌合;下恋第140番右、左は教具)
- 公業(こうぎやう・阿野) → 公業(きんなり・阿野あ、廷臣/万葉研究) I 1 6 2 0
 公業(こうぎやう・西四辻) → 公業(きんなり/きんなる・西四辻にしよつじ/高松、廷臣/歌) U 1 6 9 6
 広業(こうぎやう・藤原) → 広業(ひろなり・藤原、廷臣/漢学/詩文) G 3 7 6 8
 広業(こうぎやう・水野) → 皓山(こうざん・水野みずの、本草家) J 1 9 3 0
 広業(こうぎやう・三宅) → 樅園(しょうえん・三宅みやけ、儒家/詩歌) H 2 2 3 0
 広業(こうぎやう・小林) → 広業(ひろなり・小林こばやし、歌人/国学) J 3 7 5 3
 広堯(こうぎやう・益田) → 広堯(ひろあき・益田ますだ/繁沢、家老) L 3 7 0 0
 弘業(こうぎやう・堤) → 弘業(ひろなり・堤つみ/荒木田、神職) G 3 7 7 0
 弘業(こうぎやう・紀) → 弘業(ひろなり・紀/山口/鴨、廷臣) G 3 7 7 1
 光業(こうぎやう・広橋) → 光業(みつなり・広橋/勘解由小路/藤原、廷臣/記録) E 4 1 2 2
 光業(こうぎやう・市野いちの) → 東谷(とうこく・市野、儒者) E 3 1 0 8
 光業(こうぎやう・丹蔵) → 光業(みつなり・丹蔵たんぞう/杉原、神職/国学) J 4 1 7 3
 高業(こうぎやう・平) → 高業(たかなり・平たいら、連歌) J 2 6 8 7
 高業(こうぎやう・三井) → 上太郎(じやうたろう・紀きの、三井、商家/狂歌/浄瑠璃作者) 2 2 8 7
 香業(こうぎやう・加藤) → 竹窓(ちくそう・加藤かとう、儒者/詩人) D 2 8 3 7
 向鏡園(こうきやうえん) → 立意(りゆうい・多田ただ、商家/俳人) C 4 9 7 3
 江鏡園北雄(こうきやうえんほくゆう) → 雛群(ひなむら・3世弥生庵、茶亭/狂歌) E 3 7 3 1
 闔境其人(こうきやうきじん) → 崇広(たかひろ・本島もとじま、国学者) Z 2 6 9 6
 興教大師(こうきやうだいし) → 覚鑿(かくぼん;法諱、真言僧) 1 5 0 7
 孝経堂(こうきやうどう) → 眞海(しんかい・柏木かしわぎ、幕臣/儒者) D 2 2 6 6
 孝経楼主人(こうきやうろうしゅじん) → 北山(ほくざん・山本、儒者) 3 9 6 4
 公極(こうきやく・檜林) → 栄哲(3世えいてつ・檜林ならばやし、藩医/詩) F 1 3 7 6
 興昂(こうきやく;法諱) → 景聡(けいそう;道号・興昂、臨濟僧) G 1 8 2 7
 高嶷(こうきやく・藤堂) → 高嶷(たかさど・藤堂、藩主/詩文) L 2 6 9 1
 皇極天皇(こうぎやくてんのう) → 齊明天皇(さいめいてんのう) 2 0 0 8
 向旭楼(こうきやくろう) → 素丸(2世そまる・溝口、幕臣/俳人) E 2 5 3 6
 向旭楼(こうきやくろう) → 錦江(きんかう・馬場、幕臣/俳諧/和算) D 1 6 9 7
 光居菩薩(こうきよぼさつ;号) → 智通(ちつう;法諱、光居、浄土僧) E 2 8 7 7
- I1935 **光欽**(こうきん;法諱) ? - ? 戦国期1492-1528頃加賀天台宗白山寺僧:叡山修行、
 穴太流台密;西谷行光房有俊門、法印、1496「十度見聞」、「内作業灌頂私日記」、永禅の師
- E1996 **公均**(こうきん;号・内田うちだ、名;脩おさむ) ?-? 武蔵の漢学者;詩、

1867「慶応十家絶句」編(序;長谷川昆溪)

- 庚金(こうきん・大野) → 竹瑞(ちくずい・大野、儒医) D 2 8 2 7
 公錦(こうきん・毛利) → 壺邱(こきゅう・毛利/藤、儒/詩文) F 1 9 5 3
 公金(こうきん・風早) → 公雄(きみお・風早かざはや、廷臣/歌人) M 1 6 0 1
 公琴(こうきん・北川/香川) → 琴橋(きんきょう・香川かがわ、儒者) Q 1 6 8 0
 公謹(こうきん・辻/細井) → 広沢(こうたく・細井ほそい/辻、儒/書家) 1 9 1 4
 公勤(こうきん・三井) → 上太郎(じょうたろう・紀、三井高業、商家/浄瑠璃/狂歌) 2 2 8 7
 公勤(こうきん・石川) → 慎斎(しんさい・石川、儒者/詩人) O 2 2 4 7
 弘訓(こうきん・足代) → 弘訓(ひろのり・足代あじろ、神道/国学) 3 7 2 6
 光訓(こうきん・藤堂) → 光訓(みつなり・藤堂とうどう、藩士) E 4 1 5 0
 光訓(こうきん・樋口) → 光訓(みつなり・樋口ひぐち、藩士/国学者) K 4 1 2 0
 孝欽(こうきん・飯岡) → 義斎(ぎさい・飯岡いのおか/篠田、儒者/心学) K 1 6 5 1
 孝謹(こうきん・森本) → 甄里((せんり・森本もりもと、藩士/儒者) N 2 4 2 7
 孔均(こうきん・江村) → 愚亭(ぐてい・江村えむら、儒者/詩人) C 1 7 4 9
 興欽(こうきん → おきかね・千手) → 廉斎(れんさい・千手せんじゅ/三浦、藩儒) B 5 1 0 7
 I1936 幸吟(こうぎん) ? - ? 伊賀俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
 江錦舎(こうきんしゃ) → 吐糸(とし・江錦舎、俳人) L 3 1 8 6
 好矩(こうく・志摩) → 好矩(よしかね・志摩/志麻、商家/和算) C 4 7 9 9
 孝矩(こうく・前田) → 孝矩(たかのり・前田まえだ、藩士/書状) M 2 6 7 4
 弘矩(こうく・中山) → 弘矩(ひろつね・中山なかやま、藩士/歌人) K 3 7 4 1
 高矩(こうく・京極) → 高矩(たかのり・京極きょうごく、藩主/国学) W 2 6 8 1
 綱矩(こうく・長坂/長阪) → 綱矩(つなりのり・長坂/長阪、藩士) B 2 9 2 3
 剛愚(ごうぐ・号) → 亮阿(りょうあ:法諱・実戒、天台僧) G 4 9 0 2
 弘句庵(こうくあん) → 丈草(じょうそう・内藤とう、藩士/俳人) 2 2 2 5
 康空(向空こうくう;号) → 示導(しどう・康空、浄土宗西山派僧) V 2 1 2 4
 康空(こうくう) → 覚雲(かくうん;法諱、浄土宗西山派僧) J 1 5 5 0
 皓空(こうくう) → 公豊(きんとよ・三条/正親町三条、廷臣/歌) E 1 6 4 3
 香隅(こうぐ・立木) → 定保(さだやす・立木たちき/源、藩士/国学) Q 2 0 9 2
 豪空(ごうくう) → 実枝(さねき・三条) 2 0 3 3
 I1937 香具屋主人(こうぐやしゅじん・魯堂;号) 1770-? 大阪文筆家、1794「虚実柳巷方言」著
 弘訓(こうくん・足代) → 弘訓(ひろのり・足代あじろ、神道/国学) 3 7 2 6
 光訓(こうくん・藤堂) → 光訓(みつなり・藤堂とうどう、藩士) E 4 1 5 0
 高訓(こうくん・蔵重/片山) → 高岳(たかおか・片山/蔵重、藩士/国学) L 2 6 6 3
 公勲(こうくん・長) → 清楓(せいふう・長ちよう、儒者/絵師) J 2 4 5 2
 光訓院(こうくんいん) → 訓子(のりこ・酒井さかい、嘉代/藩主妻/歌人) G 3 5 7 5
 I1938 好継(こうけい・興山おきやま、名;宗善) ?-? 戦国期武人/歌人;
 1474道灌「武州江戸歌合」(心敬判)参加;3首入、
 [目にかかる山さへあらぬ海原や波にただよふ夕立の雲](武州江戸[城]歌合:四番左)
 I1939 幸計(こうけい) ? - ? 江前期姫路の俳人;1692才麿「椎の葉」入
 [もちかれて下戸げこの腹立つ桜かな](椎の葉:101)
 (もちかれてはしわくちゃにされての意、酔っぱらいの乱暴に怒っている)
 P1945 行景(こうけい・立田たつた) ? - ? 撰津狂歌作者;行風[1619?-84?]門、行栄の縁者、
 1666行風「古今夷曲集」2首入
 [空色がそらのあるじの幕ならば月やうら紋日やおもて紋](古今夷曲集;九)
 (天を擬人化/大名の定紋[表紋]・替紋[裏紋]・幕紋[陣幕]になぞらえる)
 G1923 篁溪(こうけい・中村なかむら、名;顧言、太兵衛正勝男) 1647-171266 京の生;一家江戸移住、
 儒;林鷲峰門、1667水戸光圀に出仕/彰考館で大日本史編纂に参画;編集/91彰考館総裁、
 1702江戸彰考館総裁、史学/詩文に長ず、「義公遺事」、「韓客贈酬日記」編、「連珠章」、
 1682「韓使来聘日記」編、1703「富士山焼並地震紀事図」、「篁溪文集」著、
 [篁溪の字/通称/別号]字;伯行、通称;新八/新八郎、別号;春帆/淡閑子

- I1940 **公慶**(こうけい;法諱/別法諱;自省、鷹山頼茂男)1648-170558 丹後宮津三論僧;1660東大寺英憲門、三論・華嚴・天台・真言・律を修学、1684奈良大仏修復に着手;諸国勸進(重源ちやうげんに倣う)、1688上人号勸許、1691大仏の修復完成/97大仏殿再建に着手/1705大仏殿完成前に没、「南都大仏修復勸進帳」「重興大仏殿讚頌集」著、
[公慶の号] 敬阿弥陀仏/式部卿公慶/公慶上人
- E1997 **瓊溪**(こうけい・板倉いたくら安世、字;美作、復軒男)1709-4739 儒者・徂徠門、幕府より書籍代、開塾、「修辭捷徑」「帆丘集」「家世遺聞」「辭例」「語例」、「帆丘遺稿」著、
[瓊溪の通称/別号] 通称;助次郎/安右衛門、別号;帆丘
- I1941 **光啓**(こうけい;法諱・湛如たんによ;号、14世光常[寂如]男)1716-41早世26 真宗本願寺派本願寺16世、九条輔実猶子、1726光澄[住如]門;法嗣/30得度/31法印/39大僧正、「むかしの跡」著、
[光啓の幼名/諡号]幼名;直丸/直君、諡号;信暁院
- 1908 **蒿蹊**(こうけい・伴はん、名;資芳すけよし、資武男)1733-180674 京商家の生/近江八幡本家伴資之の養子、1750(18歳)近江八幡の伴本家4代目相続、68家業を養子資要に譲渡/薙髪;京住、歌・国学;武者小路実岳門、平安和歌四天王、蝶夢と和文の興隆に尽力、家集「閑田詠草」、1770「国歌三論」75「あし曳の日記」/83歌学「国歌或問かくもん」/88「近世畸人伝」、1793近江商人家訓「主従心得書」「庭の訓抄」/99随筆「閑田耕筆」、1803「閑田文章」、1805「門田のさなへ」、「閑田詠草」「閑田百首」「心閑園の記」「不審草」「多田日記」外著多数、
[老いぬれど花見るほどの心こそ昔の春にかはらざりけれ](閑田詠草;花)、
[蒿蹊(;号)の幼名/通称/別号]幼名;富二郎、通称;彦重郎/庄右衛門、
別号;閑田かんでん/閑田子/閑田廬/閑田翁/操山
蒿蹊の主な門人;伴資規すけのり(蒿蹊の養子)/金谷興詩かなやおきうた/比田尚監ひだなおみ/木村千斎
- I1942 **洪卿**(こうけい・小島/小嶋/児島こじま/修姓;島、名;範)1746-180964 江戸蔵前の札差、漢学/書/篆刻、蔵書家(;万卷楼と号す)、「詩学韻海」編、「兔園韻冊」編、「必端堂稿」著、
[洪卿(;字)の通称/号]通称;西之助、号;必端/必端堂/万卷楼、屋号;小島屋
- G1925 **鴻溪**(こうけい・進しん、名;漸、通称;昌一郎/別号;鼓山)1821-8464 備中阿賀郡唐松村生、備中松山藩士、儒者;1838山田方谷門、1847藩校有終館学頭、「春窓私録」著
- Q1979 **晃溪**(こうけい;法諱、号;浄行/抱月、俗姓;三井)1836-8045 長門萩の真宗本願寺派万福寺住職、国学者/歌人;[萩の歌人]入(;萩城36歌仙;春雨・卯の花)、
[老しげる檜原はさすが小ぐらきに夕暮かけてしらむ卯の花](卯の花)
- 公圭(こうけい・大菅) → 圭(けい・大菅おおすが、国学/詩歌人) 1800
公圭(こうけい・四辻/裏松) → 謙光(かたみつ・裏松うらまつ、廷臣/歌) N1510
公兄(こうけい・三条) → 公兄(きんえ・三条/正親町三条、廷臣/聯句) Q1667
公景(こうけい/きんかげ・三条) → 公豊(きんとよ・三条/正親町三条、歌) E1643
公経(こうけい・西園寺) → 公経(きんつね・西園寺、太政大臣/歌) E1635
公継(こうけい・徳大寺) → 公継(きんつぐ・徳大寺、左大臣/歌) E1632
公敬(こうけい・滋野井) → 公敬(きんはや・滋野井、廷臣/故実家) R1666
公敬(こうけい・天野) → 公敬(きみよし・天野あまの/河本、商家/国学) T1642
広経(こうけい・大江) → 広経(ひろつね・大江おおえ、廷臣/歌人) G3743
広敬(こうけい・津田/長沼) → 宗敬(むねよし・長沼/津田、兵学者) C4285
広景(こうけい・久世) → 道空(どうくう・久世くぜ/源、幕臣/典礼/歌) T3123
広景(こうけい・清水) → 広景(ひろかげ・清水しみず、国学/歌人) J3776
康圭(こうけい・松平) → 康圭(やすかど・松平まつだいら、藩主/歌人) B4518
康卿(こうけい・城) → 長洲(ちやうしゅう・城じょう、医者/詩人) I2875
康敬(こうけい・小泉) → 保敬(やすたか・小泉/坂上、国学者) B4584
康慶(こうけい・堀河) → 康致(やすむね・堀河/藤原/鷲尾、廷臣) G4558
哲之丞(てつじやう・松平) → 康圭(やすかど・松平まつだいら、藩主/歌人) B4518
光景(こうけい・石原) → 光景(みつかげ・石原いしはら、国学者/歌) H4158
光経(こうけい・藤原) → 光経(みつね・藤原、廷臣/歌人) D4190
光慶(こうけい・明智) → 光慶(みつよし・明智、光秀男/武将/連歌) F4112
光慶(こうけい・日野) → 光慶(みつよし・日野/藤原、廷臣/歌人) F4113

光敬(こうけい・杉木)	→	普斎(ふさい・杉木すぎき/荒木田、茶人)	B 3 8 9 9
光継(こうけい・竹屋)	→	光継(みつぐ・竹屋たけや/藤原、廷臣)	D 4 1 8 6
光瓊(こうけい・八幡)	→	光瓊(みつてる・八幡やわた、神職/国学)	D 4 1 9 4
高恵(こうけい・原田)	→	高恵(たかしげ・原田、神職)	M 2 6 0 3
高璟(こうけい・玉井/遠藤)	→	高璟(たかのり・遠藤/玉井、藩士/測量)	M 2 6 8 0
高慶(こうけい・毛利)	→	高慶(たかやす・毛利もうり、藩主/歌)	N 2 6 5 3
高慶(こうけい・斎藤/富田)	→	高慶(たかよし・富田とみた、藩家老/農政)	E 2 6 0 8
高啓(こうけい・関)	→	梨一(りいち・関・高橋/一祚・一紹、幕臣/俳人)	4 9 3 1
高敬(こうけい・国分こくぶん)	→	高敬(たかのり・国分こくぶん、和算家)	T 2 6 9 1
高経(こうけい)	すべて	高経(たかつね)	
厚敬(こうけい・神田)	→	常有(つねあり・神田、郷土史家/歌)	B 2 9 6 7
厚卿(こうけい・片山)	→	金弥(きんや・片山かたやま、天文暦学者)	R 1 6 9 3
弘卿(こうけい・山県)	→	東原(とうげん・山県やまがた、藩士/儒者)	D 3 1 4 6
弘卿(広計こうけい・古田)	→	広計(ひろかず・古田ふるた、藩士/歌人)	F 3 7 6 8
弘稽(こうけい;法諱)	→	古桂(こけい;道号・弘稽;法諱、臨濟僧)	1 9 9 7
孝景(こうけい・朝倉)	→	孝景(たかかげ・朝倉あさくら、武将/家訓)	L 2 6 6 6
孝敬(こうけい・前田)	→	孝本(たかもと・前田まえだ、藩士/記録)	N 2 6 4 4
孝卿(こうけい・葉山)	→	高行(たかゆき・葉山はやま、藩士/儒者)	N 2 6 6 4
孝卿(こうけい・那波)	→	魯堂(ろどう・那波なば、儒者/藩儒)	C 5 2 2 3
孝卿(こうけい・小野)	→	務(つとむ・小野、豪農/藩政改革/歌人)	2 9 9 8
孝卿(こうけい・岡井)	→	赤城(せきじょう・岡井、藩儒/詩人)	D 2 4 5 4
孝卿(こうけい・坪井)	→	信友(しんゆう/のぶとも・坪井つばい、蘭医/儒)	B 2 2 9 1
孝継(こうけい・藤原)	→	孝継(たかつぐ・藤原/上杉、廷臣/歌人)	D 2 6 0 1
孝継(こうけい・樺島)	→	孝継(たかつぐ・樺島かばしま、藩士/歌人)	W 2 6 5 6
孝継(こうけい・黒田)	→	孝継(たかつぐ・黒田くろだ、藩士/歌人)	W 2 6 9 5
考経(こうけい・高橋)	→	由一(ゆいち・高橋たかはし、藩士/絵師)	4 6 4 3
香卿(こうけい・平塚)	→	春江(しゅんこう・平塚、漢学/詩文)	J 2 1 6 6
行経(こうけい・藤原)	→	行経(ゆきつね・藤原、行成男/廷臣/歌)	E 4 6 9 2
行経(こうけい・惟宗)	→	行経(ゆきつね・惟宗これむね、廷臣/歌)	E 4 6 9 3
行卿(こうけい・久野)	→	繁山(はんざん・久野くの、医者)	H 3 6 7 8
行敬(こうけい・青木)	→	行敬(ゆきもり・青木あおき/宗岡、歌人)	G 4 6 4 5
行敬(こうけい・小西)	→	行敬(ゆきよし・小西こにし/広瀬、国学)	G 4 6 8 1
行敬(こうけい・齋藤)	→	途興(みちおき・齋藤さいとう、名主/歌人)	J 4 1 1 5
行敬(こうけい・中山)	→	道彦(みちひこ・中山なかやま、藩家老)	J 4 1 9 4
功卿(こうけい・三井)	→	高敏(たかとし・三井みつゐ、商家/国学)	D 2 6 2 1
興継(こうけい・滝沢)	→	興継(おきつぐ・滝沢、医者/文筆)	B 1 4 4 4
興卿(こうけい・諸葛)	→	中如(ちゅうじょ・諸葛もろぐず、儒者/詩)	G 2 8 2 9
好卿(こうけい・渡辺/石井)	→	屋烏(おくう・渡辺/石井、藩士/俳人)	B 1 4 4 6
恒卿(こうけい・泉/銭)	→	必東(ひつとう・泉/銭せん、書家/画/詩)	C 3 7 7 3
恒卿(こうけい・平元)	→	謹斎(きんさい・平元ひらもと、藩士/儒/軍事)	J 1 6 0 0
恒敬(こうけい・前田)	→	恒敬(つねのり・前田まえだ、藩士/記録)	D 2 9 2 4
恒敬(こうけい・宮坂)	→	恒敬(つねたか・宮坂みやさか、酒造業/国学)	G 2 9 5 7
恒景(こうけい・藤森)	→	恒景(つねかげ・藤森ふじもり、歌人)	F 2 9 1 3
阜卿(こうけい・大野)	→	玄鶴(げんかく・大野おおの、医者/地誌)	I 1 8 2 7

- I1943 **皇慶**(こうげい;法諱、俗姓橘、橘広相の曾孫)977-1049⁷³ 平安中期天台叡山僧;法興院静真門、東密;筑前の景雲門/1002入宋に失敗/阿弥陀房などに住;谷流の祖、「谷記」「不動私記」、「谷阿闍梨灌頂要事」「仏眼私記」「文殊私記」「多聞天私記」「曼荼羅供作法」外著多数、[皇慶の号/通称/諡号]号;遍照金剛、通称;谷阿闍梨/池上阿闍梨/丹波阿闍梨、諡号;慈応歌人慈応と同一? → 慈応(じおう、贈法印、新拾遺;道命法師と贈答歌) B 2 1 2 4
- I1944 **幸藝**(こうげい;法諱) ? - ? 室町期天台僧/声明の伝授を受、

式部公清乗のため「九条錫杖」著(79歳)

- I1945 **豪慶**(こうけい;法諱) ? - ? 江前期天台叡山正覚院住僧/叡山執行、僧正/探題、
慈胤親王に円頓妙戒を授ける、1648「円頓者聞記」、「番論議一問答」
壺敬翁(こうけいおう・池田)→ 重威(しげたけ・池田いけだ、国学者) N 2 1 3 0
- I1946 **公啓親王**(こうけいしんのう、俗名;寛義ひろよし、閑院宮直仁親王男) 1732-7241、
母;左衛門佐(小森頼季女)、天台僧;1735(4歳)曼殊院相統/43親王宣下(寛義)/44得度、
1751日光輪王寺門跡(公啓)、1755一品、62天台座主、1746「勤行次第」著、
[公啓親王の法諱/幼名/諡号]法諱;良啓/公啓、幼名;俊宮、諡号;最上乘院
興慶院(こうけいいん) → 忠房(ただふさ・松平まつだいら、藩主/詩歌) F 2 6 7 6
孝敬先生(けいせんせい) → 松隠(しょういん・丸川まるかわ、藩儒) F 2 2 1 9
宏恵妙顯禪師(こうけいみょうけんぜんじ)→ 遂翁(すいおう;道号・元盧;法諱、臨濟僧) E 2 3 1 8
香華院(こうげいん;号) → 義天(ぎてん;法諱、真宗僧) F 1 6 6 4
- I1947 **江鶴**(こうげき・森もり、名;孝政/賀弾、称;大阪屋彦兵衛) 1653-173179 飛弾高山の商人/俳人;支考門、
1708「位山集」編
光潔(こうけつ・勘解由小路)→ 光潔(みつきよ・勘解由小路かでのこうじ/藤原、廷臣) D 4 1 2 9
高潔(こうけつ・藤堂) → 高潔(たかきよ・藤堂とうどう、藩主/書画) L 2 6 7 9
高潔(こうけつ・小野) → 高潔(たかきよ・小野おの、幕臣/国学者) C 2 6 6 9
- I1948 **江月**(こうげつ;道号・宗玩そうがん;法諱、津田宗及男) 1574-164370 堺の臨濟僧;春屋宗園門/法嗣、
1610大徳寺156世、大徳寺内に瑞源院など6庵創建、沢庵宗彭らと紫衣事件連座、宗凡の弟、
「大燈国師頌古和韻」「大徳寺入室行巻」「欠伸稿」著、連歌;「沢庵江月云也三吟連歌」、
[江月宗玩の号] 欠伸子けっしんし/懺袋子ぼうたいし/赫々子かくかくし、大梁興宗禪師
香月(こうげつ・太田) → 持資(もちすけ・太田/源、道灌/武将/歌人) 4 4 0 7
江月庵(こうげつあん) → 勘解由(かげゆ・大蔵おおくら、神職/書家) L 1 5 4 1
叩月庵(こうげつあん) → 義肇(ぎちやう;法諱、真宗仏光寺派僧) U 1 6 1 0
高月院(こうげついん;法号)→ 以久(もちひさ/ゆきひさ・島津、藩主) B 4 4 5 7
香月院(こうげついん) → 深励(じんれい・子昂しきやく;字、大谷派学僧) Q 2 2 1 7
臯月園(こうげつえん) → 十右衛門(じゅうえもん・荒川、藩士/俳人) W 2 1 7 0
敲月居(こうげつきよ) → 千影(せんえい・西坊にしのぼう、坊官/俳人) E 2 4 8 9
江月齋(こうげつさい、久坂通武)→ 玄端(げんずい、久坂、詩歌/奇兵隊) C 1 8 4 0
恒月亭(こうげつてい) → 山寿(さんじゅ・加藤かとう、郷土史家) M 2 0 3 6
向月楼(こうげつろう) → 眞中(まなか・今掘いまぼり、禪僧/歌人) N 4 0 8 1
敲月亭(こうげつてい・野村) → 信我(しんが・野村のむら/源、俳人) N 2 2 5 7
江月堂(こうげつどう) → 敬豊(のぶとよ・瀬下せしも、国学/俳人) G 3 5 4 0
耕月堂(こうげつどう) → 玄浩(げんこう・岩永、医者/博物) I 1 8 8 0
- I1949 **皓月尼**(こうげつに;法諱、別法諱;宗顛そうがい) 1756-183277 京真言宗長福寺住の尼僧;飲光[慈雲]門、
1795「戒本大要」1830「三世の光」、「女人出家の因縁」「歎仏偈釈」「瞿夷夫人因縁」外著多数
行月房(こうげつぼう) → 文晧(ぶんぎやう・藁井、真宗僧/俳人) F 3 8 0 4
- I1950 **紅月楼主人**(こうげつろうしゅじん)? - ? 江中期寛政1789-1801頃洒落本作者、
1796「仮根草」著、
[紅月楼主人の別号] 柿降庵主しこうあんしゅ/柳庵
- I1951 **公賢**(こうけん・こうげん;法諱、別法諱;空現、通称;備後僧都) 1118-9275 真言僧;1160金剛峯寺兼助門、
伝法灌頂を受/仁和寺上乘院住/仁和寺開田院で賢秀・定顕・忠賢に伝法灌頂を授/法印、
1182「観音院恒例結縁灌頂記」著
- I1952 **光賢**(こうけん;法諱、通称;亮僧都、顕円男) 1204-? 1261存 真言宗醍醐山東塔住僧;1250憲深門、
「秘鈔口訣」「駄都法口訣」/1261「五大虚空蔵法事醍醐寺記」著
- 1999 **弘賢**(こうけん・くげん;法諱、左衛門督法印、加子七郎男) 1326-141085 南北室町期の真言僧;頼仲門、
灌頂を受/聖尊・弘顕・貞雅に受法/1355鎌倉鶴岡八幡宮寺別当;56年間在職/諸社寺別当、
1366東寺二長者/87大僧正、「秘密真言血脉」「要尊道場観并字輪観」著、歌;新後拾遺1021
[小車をぐるまの榻しぢのはしがきいかでなほぬる夜の数をそへて待つべき](新後拾;十二恋)
- I1953 **恒軒**(こうけん・稻生いとう、名;正治/屈頭) 1610-168071 大阪の医者;古林見宜門/漢学者、

山城淀藩永井尚征の儒医/主家除封で解任、丹後宮津侯に出仕/のち帰阪、「蠡草しゅうそう」著、
[恒軒の字]謙甫/見茂

- I1954 **光憲**(こうけん;法諱) ? - ? 江前期天台僧/上野寛永寺常德院住、1671「浅学教導集」著
- I1955 **高賢**(こうけん;法諱・宝池院大僧正)?-1707 真言宗三宝院門跡36世;32世義演准后門、修験者、醍醐寺83世座主、1666/1700三宝院門跡による大峰入峰復興、「鳳閣寺縁起」
- I1956 **光謙**(こうけん;法諱、初法諱;光舜/字;靈空、俗姓;岡村)1652-1739⁸⁸ 福岡の天台僧:松源院豪光門、叡山;慈山門/天台教観・律学を修学、1693安楽院住持;籠山制復興、天台教観中興の祖、「教観綱宗講録」「台宗綱要」「諭箴録」「靈空和尚和語雑録」「老和尚著述」「幻々遺塵」外著多、[光謙の号]幻々庵/有門庵
- B1902 **幸賢**(こうけん・麻野あさの、別号;甘義亭)?-? 河内林村の俳人:西鶴と吟、来山・万海と交流、1691「河内羽二重かわちはふたえ」編
- G1926 **香軒**(こうけん・鳥山とりやま、名;輔門、芝軒男)1687-1729⁴³ 京の詩人:父門/大阪住、「香軒詩集」「香軒吟稿」/1721「和韓唱和集」24「香軒略集」著、「香軒遺稿」、[香軒の字/通称/別号]字;通徳、通称;孫平次/岡之助、別号;細香軒
- I1957 **孝賢**(こうけん;法諱) 1699 - 1768⁷⁰ 天台叡山薬樹院・恵心院住僧、大僧正、「春秋左氏伝故事成語集」「寛保元年辛酉革命御修法記」「法華入疏同聞記」、「蘭苑草稿」
- G1929 **弘軒**(こうけん・山野辺やまのべ、名;豊享、藩医友意男/本姓;平)1713-40^{早世28} 越後新発田藩士、儒者:初め藩儒の緒方槐窓門、1729藩命で京の伊東東涯門/帰藩後;藩儒、のち三宅尚斎に従学しようとするが果たさず、「学者論」著、[弘軒の通称/別号]通称;丈助、別号;克庵/鯤溟
- I1958 **光賢**(こうけん・富岡とみおか、光春男)?-1822 上州高崎藩士/越後一ノ戸に勤務/1797帰郷、1807外国船漂着時に清人護送の役:南蛮流砲術修得/和漢学・故実に通ず/篆刻、1812「裨海雑記」編、「紅毛火術録」著、[光賢(;名)の通称]通称;肥後右衛門、法号;心灯院
- G1930 **恒軒**(こうけん・東ひがし、名;吉尹/字;君孚、久田常瑛男)1777-1829⁵³ 伊勢の儒者、東重邦の養嗣子、経義に精通、「勢江集」「恒軒稿」「辨仁」「論語解」著
- I1959 **亨謙**(こうけん;法諱、芝築地しばつきち巖順男)1782-? 1837^存 仁和寺宮坊官、1810僧在庁/14法印、1833「法会執行長者職衆出仕勸進草」著
- I1960 **好謙**(こうけん・池野) ? - ? 考証;1821-42屋代弘賢「古今要覧稿」編纂参加
- | | | | |
|-----------------|---|-----------------------------|-----------|
| 光兼(こうけん・鴨) | → | 光兼(みつかね・鴨かも、神職/歌人) | D 4 1 2 3 |
| 光兼(こうけん;法諱、蓮如男) | → | 実如(じつによ;号・光兼、真宗本願寺9世) | F 2 1 1 3 |
| 光謙(こうけん・八羽) | → | 光謙(みつかた・八羽はつば/荒木田、神職) | K 4 1 0 9 |
| 光顕(こうけん・土佐) | → | 光顕(みつあき・土佐、絵師) | C 4 1 9 6 |
| 光顕(こうけん・祝部) | → | 光顕(みつあき・祝部はふりべ?、廷臣/歌) | C 4 1 9 7 |
| 光顕(こうけん・外山) | → | 光顕(みつあき・外山とやま/藤原/日野、権大納言/歌) | J 4 1 8 2 |
| 光顕(こうけん・伊良子) | → | 光顕(みつあき・伊良子いらこ/源、外科医) | D 4 1 0 1 |
| 光顕(こうけん;法諱) | → | 存覚(そんかく;号・光玄、真宗僧) | E 2 5 7 1 |
| 光顕(こうけん;字) | → | 智幢(ちどう;法諱、真宗僧/詩文) | E 2 8 9 5 |
| 光顕(こうけん・田中) | → | 光顕(みつあき・田中たなか/浜田、政治家) | J 4 1 4 2 |
| 光顕(こうけん・岡田) | → | 光顕(みつあき・岡田おかだ、代官/歌人) | I 4 1 5 2 |
| 光賢(こうけん・烏丸) | → | 光賢(みつかた・烏丸からすまる、廷臣/歌学) | D 4 1 2 1 |
| 光賢(こうけん;法諱) | → | 豪忽(ごうじよ;法諱、天台僧) | J 1 9 7 1 |
| 光賢(こうけん・早川) | → | 俊城(しゅんじょう・早川はやかわ、産科医) | L 2 1 0 8 |
| 光賢(こうけん・内藤) | → | 光賢(みつかた・内藤ないとう、歌人) | H 4 1 7 3 |
| 光賢(こうけん・大滝) | → | 光賢(みつかた・大滝おおたき、商家/国学) | I 4 1 3 7 |
| 光賢(こうけん・辻) | → | 光賢(みつかた・辻つじ、神職/歌人) | J 4 1 7 7 |
| 光賢(こうけん・上田) | → | 光賢(みつかた・上田うえだ、国学・歌) | H 4 1 7 8 |
| 光憲(こうけん・源) | → | 光憲(みつのり・源みなもと、連歌作者) | E 4 1 4 2 |
| 光憲(こうけん・田中/大滝) | → | 光憲(みつあきら・大滝/田中、商家/国学) | E 4 1 4 8 |
| 広賢(こうけん・林) | → | 広賢(ひろかた・林はやし/太秦、楽人) | F 3 7 7 2 |

広賢(こうけん・小武) → 友梅(ゆうばい:法名・慶松、葉種業/歌人) D 4 6 5 7
 広賢(こうけん・六角) → 広賢(ひろかた・六角ろっかく/藤原/烏丸、和学/歌) M 3 7 2 9
 広見(こうけん・藤田) → 広見(ひろみ・藤田ふじた、藩士/国学/歌) K 3 7 8 7
 行権(こうけん・豊島) → 権平(ごんべい・豊島とよしま、砲術家) P 1 9 2 8
 行権(こうけん・藤井) → 行権(ゆきのり・藤井ふじい、国学・歌人) H 4 6 2 0
 行堅(こうけん・東条) → 有儘(ゆうじん・東条とうじょう、藩士/俳人) C 4 6 7 8
 行憲(こうけん・二階堂) → 行憲(ゆきのり・二階堂にかいどう、藩士/軍記) F 4 6 2 7
 行憲(こうけん・明石) → 行憲(ゆきのり・明石あかし、藩士/歌文) F 4 6 3 0
 行顕(こうけん・下山) → 行顕(ゆきあき・下山しもやま、歌人) H 4 6 5 7
 行顕(こうけん→みちあき・田村) → 邦行(くにみち・田村たむら、藩主/藩政改革/歌) D 1 7 8 1
 幸堅(こうけん・青山) → 忠朝(ただとも・青山あおやま、藩主) V 2 6 0 8
 幸賢(こうけん・矢野) → 幸賢(ゆきやす・矢野やの、藩老/国学) H 4 6 4 0
 恒憲(こうけん・志村) → 恒憲(つねのり・志村、和算家) D 2 9 2 3
 恒軒(こうけん・泉/銭) → 必東(ひつとう・泉/銭せん、書家/画/詩) C 3 7 7 3
 恒軒(こうけん・古賀) → 素堂(そどう・古賀こが/劉、藩儒) K 2 5 2 3
 弘賢(こうけん・屋代) → 弘賢(ひろかた・屋代やしろ、幕臣/国学者) 3 7 1 5
 孔儉(こうけん・毛束) → 義恭(よしとか・毛束けつか、名主/神職/歌) M 4 7 6 7
 好謙(こうけん・加藤) → 豈苟(かいこう・加藤かどう、儒/神道家) I 1 5 6 3
 好謙(こうけん→たかあき・吉沢) → 尺童(せきりゅう・吉沢、国学/俳人) D 2 4 9 6
 好謙(こうけん・吉成) → 好謙(よしかた・吉成よしなり、神職/和漢学) C 4 7 7 1
 好謙(こうけん・小島/小嶋) → 濤山(とうざん・小島/小嶋こじま、暦算家) E 3 1 5 9
 好賢(こうけん・木村) → 好賢(よしかた・木村きむら、神道/歌人) M 4 7 4 0
 康顕(こうけん・中原) → 康顕(やすあき・中原なかはら、廷臣) 4 5 7 7
 康賢(こうけん・東儀) → 康賢(やすかた・東儀とうぎ/太秦、廷臣;楽人) B 4 5 1 4
 篁軒(こうけん・板倉) → 重矩(しげのり・板倉、藩主/儒者) C 2 1 8 1
 篁軒(こうけん・山田) → 維則(これのり・山田やまだ、藩士/儒者) O 1 9 7 2
 孝憲(こうけん/たかあり・田能村) → 竹田(ちくでん・田能村たのむら、儒/詩/画) D 2 8 5 4
 孝健(こうけん・千屋) → 孝健(たかたけ・千屋ちや、勤王派志士) M 2 6 1 6
 黄軒(こうけん・鈴木) → 黄軒(おうけん・鈴木すずき、藩士/武道) C 1 4 3 8
 黄軒(こうけん・大高坂) → 芝山(しざん・大高坂おおたかさか、藩儒/南学) D 2 1 7 1
 厚軒(こうけん・古野) → 元軌(げんき・古野ふるの、藩士/儒者) B 1 8 4 9
 公顕(こうけん・今出川) → 公顕(きんあき・今出川いまでがわ、右大臣/歌) D 1 6 7 5
 公顕(こうけん・藤井) → 暮庵(ぼあん・藤井ふじい、大庄屋/詩人) 3 9 0 7
 公憲(こうけん・杉山) → 公憲(きみのり・杉山すぎやま、藩士/兵学者) M 1 6 0 4
 公憲(こうけん・木村/丹波) → 修治(しゅうじ・丹波/木村、博物学/歌) B 2 1 4 0
 公賢(こうけん・洞院) → 公賢(きんかた・洞院とういん、太政大臣/歌) 1 6 5 9
 公賢(こうけん・城戸) → 芙蓉(ふよう・城戸きと、儒者/詩人) E 3 8 4 8
 公兼(こうけん・西園寺) → 公兼(きんかね・西園寺さいおんじ、廷臣/歌) D 1 6 8 8
 公謙(こうけん・尾本) → 竜淵(りゅうえん・尾本おもと/大江、藩士/儒) C 4 9 9 9
 公建(こうけん・武者小路) → 菊天(きくてん;法諱、真宗僧/詩歌人) U 1 6 1 2
 缸軒(こうけん) → 元瑞(げんずい・小石こいし、医者/詩文) E 1 8 2 2
 恒見(こうけん・野村) → 恒見(つねみ・野村のむら、陪臣/歌人) G 2 9 1 5
 興賢(こうけん;号) → 光常(こうじょう;法諱、真宗西本願寺14世) J 1 9 8 1
 興兼(こうけん) → 昼寐興兼(ひるねのおさかね、狂歌) H 3 7 9 2
 耕献(こうけん・吉雄) → 献作(けんさく・吉雄よしお、医者) J 1 8 1 1
 浩軒(こうけん・溝口) → 直養(なおやす・溝口みぞぐち、藩主/闇齋学) C 3 2 7 9
 高見(こうけん・物集) → 高見(たかみ・物集もず、神道/国学/教育) Z 2 6 9 2
 高兼(こうけん・藤原) → 高兼(たかかぬ・藤原/星野、廷臣/歌人) C 2 6 6 5
 高顕(こうけん・勸修寺) → 高顕(たかあき・勸修寺かじゅうじ、廷臣/記録) L 2 6 4 3
 高堅(こうけん・藤堂) → 高堅(たかかた・藤堂、藩主/歌人) L 2 6 7 3

- 高堅(こうけん・櫛島/島) → 高堅(たかかた・櫛島ぬでしま、藩士/回想録) L 2 6 7 4
 高堅(こうけん・那須) → 高堅(たかかた・那須なす、国学者) L 2 6 7 5
 高賢(こうけん・藤井) → 高久(たかひさ・藤井ふじい/藤原、神職/歌) H 2 6 9 8
 高建(こうけん・宮沢) → 清房(きよふさ・宮沢みやざわ、神職/国学) T 1 6 4 6
 高権(こうけん→たかかり・大倉) → 鷲夫(わしお・大倉おおくら、商家/歌人) 5 3 0 5
 高憲(こうけん・吉田) → 高憲(たかのり・吉田よしだ、藩士/本草家) M 2 6 7 9
- 1998 光源(こうげん;法諱・法師)? - ? 平安中期長元1028-37頃天台叡山僧:慶円門、
 歌人;後拾遺1179、
 [いにしへの別れの庭にあへりともけふの涙ぞ涙ならまし](後拾遺;釈教1179、
 山階寺涅槃会参詣の詠/釈迦が末羅国鳩尸那城の娑羅双樹下に入滅した場の涙と同じ)
- I1961 興玄(こうげん;法諱) ? - ? 1202存 山城笠置寺の法相僧:貞慶門、
 「因明指事抄」「八門秘要抄」「二卷私記談義鈔」著
- R1964 幸玄(こうげん;法諱) ? - ? 鎌倉期;南都の僧/法師、歌;1237刊[檜葉集]入、
 [あけゆかばいづち心のうつろはんこよひばかりの花のしたかげ](檜葉;雑791)
- I1962 光厳(こうげん;法諱) ? - ? 南北朝曹洞僧:宏智派の大智侍者、
 「大智禅師偈頌雲梯鈔」編/「大智禅師偈頌」編
 参照 → 大智(だいち;法諱・祖継?、曹洞僧) B 2 6 8 5
- I1963 宏元(こうげん;法諱) ? - ? 僧/連歌:1356成立「菟玖波集」3句入、
 [もみぢ散る柞はその木この間ま月もりて](菟;秋446/前句;秋もすくなき佐保の山陰)
- I1964 康玄(こうげん;法諱/初法諱;快俊、俗姓;木造、北畠俊康男?) 1411-6656 天台僧;静澄門;
 台密三昧流を受/穴太流にも通ず、功德院住、祇園別当/大僧正/法印、
 「唯独愚聞見記」「吽迦陀野行用記私」「尊水」「浄水」著
- I1965 宏源(こうげん;法諱・覚翁;字、号;大夢覚、俗姓;蘆田) 1626-8257 京の真言僧;1637(12歳)出家、
 泉涌寺如周門/高野山・関東で修学、1653東寺宗弘より諸密軌を受、「薄初後目録」著
- I1966 孝源(興源こうげん、水無瀬みなせ氏信男) 1638-170265 京の真言僧;1647仁和寺覚深門/1651権律師、
 1658法眼/信遍より伝法灌頂を受/1684東寺200世長者法務/仁和寺真乘院大僧正、
 「灌頂肝要記」編/「伝法灌頂決疑抄」「諸流通物伝授目録」「長講会諸役記」著
- B1901 好元(こうげん・日野) ? - ? 磐城俳人、1669「百五十番俳諧発句合」左方参
- I1967 耕元(こうげん・百瀬ももせ、名;久継) 1737-181478 信州筑摩郡の書家:長雄耕雲・船田耕山門、
 1765江戸麻布に百瀬流書道開塾、1785「長雄商売往来」86「教書仮名文章」88「隅田川往来」、
 1791「詩歌会意」99「百瀬女文当用集」1800「百瀬嵯峨名所」03「百瀬当用集」、「飛鳥山往来」著、
 [耕元(:号)の字/法号]字;子延、法号;貫練院
- I1968 弘現(こうげん;法諱・義観ざかん;字、俗姓;丹藤) 1818-7861 佐渡大杉村の真言僧/1826(9歳)出家、
 1832智積院修学/57佐渡蓮華峰寺住/1869智積院40世、1849「百法問答鈔私記」外著多数
- 公言(こうげん・畠山/吉益) → 東洞(とうどう・吉益よします/畠山、医者) G 3 1 7 6
 公言(こうげん・今出川) → 公言(きんこと・今出川いまでがわ/藤原、権中納言/尊王) T 1 6 5 3
 公厳(こうげん;法諱) → 三級(さんきゅう;号・公厳、天台僧/連歌) L 2 0 9 8
 孝玄(こうげん・北島) → 孝玄(のりはる・北島きたじま、神職) F 3 5 4 3
 孝玄(こうげん・鹿田) → 正明(まさあき・鹿田しかた、洋式兵学/藩士) B 4 0 0 9
 孝言(こうげん・惟宗) → 孝言(たかとき・惟宗これむね、廷臣/詩人) D 2 6 1 5
 光玄(こうげん;法諱) → 存覚(ぞんかく;号・光玄、真宗僧) E 2 5 7 1
 光元(こうげん・土佐) → 光元(みつもと・土佐とき/藤原、絵師) E 4 1 9 7
 光厳(こうげん;字) → 乗体(じょうたい;法諱・光厳、真言僧) K 2 2 7 3
 香巖(こうげん;号) → 明覚(みょうかく;法諱、真宗僧/歌人) K 4 1 6 2
 光彦(こうげん・立斎) → 光彦(みつひこ・立斎/立亭/三亭、合巻作者) E 4 1 5 5
 広言(こうげん・惟宗) → 広言(ひろこと・ひろとき・惟宗これむね、歌人) 3 7 1 9
 広彦(こうげん・岩田) → 広彦(ひろひこ・岩田いわた/大江、医者) G 3 7 9 7
 菘彦(こうげん・長柄) → 春菴(しゅんりゅう・長柄ながら、医者/狂歌) L 2 1 9 9
 幸彦(こうげん・ゆきひこ・松本) → 月痴(げっち・松本、蔵書/窮民救済) H 1 8 2 5
 幸彦(こうげん・小沼) → 幸彦(ゆきひこ・小沼おぬま、商家/国学者) F 4 6 3 4

- 幸言(こうげん・蒲) → 幸言(ゆきのぶ・蒲がま、商家/国学) G 4 6 7 6
江元(こうげん・毛利) → 梅園(ばいえん・毛利/野里、本草学/画) 3 6 6 6
行元(こうげん・大江) → 行元(ゆきもと・大江おおえ/長井、廷臣/歌) F 4 6 8 0
行言(こうげん・岩瀬) → 華沼(かしゅう・岩瀬いせ、藩士/儒者) H 1 5 4 8
好玄(こうげん・斎藤) → 好玄(よしはる・斎藤、武将/馬術家) G 4 7 0 4
弘言(こうげん・日根野) → 鏡水(きょうすい・日根野ひねの、藩士/儒者) J 1 6 1 3
高元(こうげん・山鹿) → 高元(たかもと・山鹿やまが、藩士/兵学者) N 2 6 4 1
侯彦(こうげん・関口) → 侯彦(よしひこ・関口せきぐち/野中/富田、幕臣/国学) N 4 7 5 5
高彦(こうげん) すべて → 高彦(たかひこ)
綱元(こうげん・毛利) → 綱元(つなもと・毛利/大江、藩主/歌人) B 2 9 3 8
- I1969 **豪憲**(ごうけん;法諱) ? - 1500 戦国期天台宗宝菩提院の住僧/法印、
1479「勸進鑄鐘造楼疏」、「左右批判集」、「当流七重受法」、「当流代々書籍事」著
- P1953 **豪建**(ごうけん;法諱) ? - ? 江中期?天台僧;叡山延暦寺正覚院住、
「葛川明王堂入仏供養法則」著
- 光顕院(こうけんいん;法号) → 利徳(としなり・土井/伊達、藩主/歌人) N 3 1 3 3
高原院(こうげんいん;法号) → 義直室(よしなおのしつ・徳川とくがわ、紀行文) F 4 7 2 1
功源院(こうげんいん;法号) → 牛一(ぎゅういち・太田、武士/軍記作者) B 1 6 9 0
幸謙齋(こうけんさい・肥田/河田) → 玄清(げんせい;法諱、連歌) C 1 8 4 5
弘源寺(こうげんじ;法号、謡曲「浮舟」作?) → 持之(もちゆき・細川、管領/歌人) B 4 4 7 7
康猷先生(こうけんせんせい・諡号) → 梅宇(ばいう・伊藤いとう、儒者/詩/俳) 3 6 0 1
孝憲先生(こうけんせんせい・諡号) → 鳳翽(ほうへん・片山かたやま、藩儒者) C 3 9 5 0
広眼蔵(こうげんぞう;号) → 常操(じょうそう;法諱、真言僧) K 2 2 6 5
孝謙天皇(こうげんてんのう) → 称徳天皇(しょうとくてんのう) 2 1 9 9
剛健堂(ごうけんどう) → 信寿(のぶひさ・津軽つがる、藩主/詩歌) C 3 5 9 5
- 1909 **好古**(こうこ・よしふる・小野おの、葛絃2男、篁の孫) 884-96885 平安前期廷臣;912讃岐権掾/931昇殿、
936中宮権亮兼右少将/940山陽道追捕使;藤原純友の追討に西海遠征、941従四下、
942左中弁、945大宰大貳/947参議/962大貳再任/従二位/967致仕、道風の兄、大和物語入、
勅撰6首;後撰(955/1124/1332)拾遺(282/1171)続古(1397)、
[目も見えず涙の雨のしぐるれば身の濡れ衣は干るよしもなし](後撰;恋955)、
(異女に通うと聞き元の妻が嫉妬するので贈る/疑いをかけられ悲しみに泣いている)
[好古の通称] 野太貳(やたいに)/野宰相
女(むすめ) → 好古女(よしふるのむすめ・小野・歌人) G 4 7 8 8
- I1970 **好古**(こうこ・よしふる?・橘たちばな、公材長男) 893-97280 母;橘貞樹女、氏長者;915文章生/930従五下、
大学頭、936宮内少輔/938大蔵大輔/939従五上/右衛門佐/941従四下/民部大輔/右大弁、
946従四上、958(天徳2)参議・右大弁/959備前守/960左大弁/962正四下美作守、
964弾正大弼/966(康保3)従三位/権中納言/967中納言/970民部卿兼大宰権帥、
971(天禄2)大納言、972(天禄3)任地大宰府で没、(参議9年/中納言6年/大納言2年)、
歌;960天徳内裏歌合参加(源順・平兼盛・坂上望城らと参加/左大臣実頼の判)、
- F1900 **高故**(こうこ・岨山そばやま) ? - ? 俳人、狂歌、1672行風「後撰夷曲集」入、
1678西鶴「物種集」入、1682春林「誹諧百人一句難波色紙」入、
[ま一日とひもしも暦にや有るらんと](難波色紙;55/惜年;もしやいま一日と暦を返す、
謡曲「俊寛」;もしも礼紙らしいにやあるらんと巻き返して見れども)
- I1971 **興古**(こうこ・中村) ? - ? 大阪雑俳人;1757律中「耳勝手」入
好古(こうこ・貝原) → 耻軒(恥軒ちけん・貝原、儒/史家) E 2 8 0 5
好古(こうこ・よしひさ・仁井田) → 南陽(なんよう・仁井田、儒者/地誌) 3 2 4 8
好古(こうこ・藤原) → 貞幹(さだもと・藤原/藤、国学/故実家) 2 0 2 7
好古(こうこ・野田) → 中洲(ちゅうしゅう・野田、藩士/儒/詩文) G 2 8 1 9
好古(こうこ・中村) → 次郎八(じろはち・中村、江戸与力) N 2 2 1 3
好古(こうこ・矢田) → 好古(よしふる・矢田やだ/源、坊官) G 4 7 8 7
好古(こうこ・沼田) → 竹溪(ちくけい・沼田ぬまた、儒者/私塾) C 2 8 8 8

- 好古(こうこ・恵美) → 長敏(ながとし・恵美えみ、詩人) E 3 2 8 3
 好古(こうこ・井手) → 臨川(りんせん・井手いで、医者/儒詩/歌) K 4 9 5 9
 好古(こうこ・児島) → 中山(ちゅうざん・児島こしま、儒者/詩歌) G 2 8 1 2
 好古(こうこ・萩野) → 鳩谷(きゅうこく・萩野/孔平くびら、藩士/儒) I 1 6 7 4
 好古(こうこ・小寺/木村) → 玉晁(ぎょくちよう・小寺こでら、随筆家) H 1 6 3 1
 好古(こうこ・中川) → 鯉淵(りえん・中川/越智、藩士/儒者) 4 9 3 9
 好古(こうこ・大山) → 好古(よしひさ・大山おおやま/藤原、国学) M 4 7 0 2
 好古(こうこ・佐藤) → 定静(さだしず・佐藤さとう、藩士/儒/国学) O 2 0 5 1
 好古(こうこ・藤岡) → 好古(よしふる・藤岡ふじおか/青山、神道) O 4 7 8 8
 好古(こうこ・玉井) → 好古(よしふる・玉井たまい、旅館業/国学) N 4 7 8 7
 香古(こうこ・飯野) → 香古(よしひさ・飯野いいの/佐藤、里正/歌) L 4 7 4 8
 公固(こうこ・脇田) → 琢所(たくしよ・脇田わきた、儒者/藩士) O 2 6 0 3
 公虎(こうこ・河鱒/西洞院) → 時慶(ときよし・西洞院//平、廷臣/歌) 3 1 3 8
 行虎(こうこ・柴田/加藤) → 行虎(みちたけ・加藤かとう、医者/歌人) B 4 1 7 4
 江湖(こうこ、江湖詩老) → 寛斎(かんさい・市河/河、詩人) 1 5 4 8
 幸子(こうこ・足代) → 幸子(ゆきこ・足代あじろ、弘訓女/歌人) E 4 6 4 5
 高古(こうこ・早雲) → 高古(たかふる・早雲はやくも、神職/国学) Z 2 6 0 3
 高虎(こうこ・藤堂) → 高虎(たかとら・藤堂、武将/藩主/記録) D 2 6 3 1
 高呼(高乎こうこ・山本/羽田野) → 敬雄(たかお・羽田野はたの、神職/国学者) C 2 6 5 4
 恒固(こうこ・前田) → 恒固(つねかた・前田まえた、藩士/記録) B 2 9 9 3
 恒固(こうこ・寺島) → 恒固(つねもと・寺島てらしま、歌人) D 2 9 9 9
 講古(こうこ・出口) → 延経(のぶつね・出口でぐち/度会、神職) C 3 5 1 4
 興虎(こうこ・山崎) → 石燕(せきえん・山崎やまさき、儒者/絵師) J 2 4 9 4
 好古庵(こうこあん) → 蘭阜(らんこう・緒方おがた、医者/儒者) C 4 8 0 0
 好古庵(こうこあん) → 二選(にせん・好古庵、俳人) 3 3 3 5
 I1972 幸綱(こうこう/ゆきつな) ? - ? 連歌、1464?盛長「熊野千句」参
 B1904 幸好(こうこう) ? - ? 摂津俳人、1657燕石「牛飼」22句入
 B1905 康工(こうこう・尾崎おさき、古武屋孫兵衛男) 1701-79 越中戸出の商家/俳人:乙由・希因門、
 俳画に長ず、永安寺に芭蕉の薨塚建立/鳥明門下百明らと金花伝めぐり論争、
 1765「俳諧百一集」73「金花伝」74「蕉句後拾遺」編、75「西住墳記」76「武越文通」著、
 [康工の通称/別号]通称;沢屋伊兵衛、別号;六壁庵/八椿主人/八椿舎、法号;釈康工
 I1973 広光(こうこう;法諱・仙瑞せんずい;道号)?-? 黄檗僧、1719淡江元竜門/嗣法、「明白雜稿」著
 B1906 幸々(こうこう) ? - ? 江中期雑俳/川柳作者、前句付点者、
 1796-97「古今前句集」(柳多留拾遺)に選句入(「幸々評万句合」の一部)
 B1907 皎々(こうこう) ? - ? 大阪雑俳点者、1754春耕「あふ夜」高点句入
 Q1911 行功(こうこう・福原ふくはら) ? - ? 江後期;歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [つくづくと入あひの鐘に打ちわびぬ尾上の寺の秋の夕暮](大江戸倭歌;秋826)
 行光(こうこう・土佐) → 行光(ゆきみつ・土佐/中御門/藤原、絵師) F 4 6 7 2
 行光(こうこう・石井) → 行光(ゆきてる・石井いらい/平、廷臣/歌) E 4 6 9 7
 行康(こうこう) → 伊忠(これただ・世尊寺、歌人) F 1 9 9 5
 行康(こうこう・石井) → 行康(ゆきやす・石井いらい/平、廷臣/日記) F 4 6 8 7
 行康(こうこう・矢島) → 行康(ゆきやす・矢島やじま/海野、神職/国学) H 4 6 3 9
 行孝(こうこう・細川) → 行孝(ゆきたか・細川ほそかわ/源、藩主/歌) 4 6 1 8
 行弘(こうこう/ゆきひろ・大内) → 専空(せんくう;法諱、真宗僧) M 2 4 0 9
 行弘(こうこう・樋口/石井) → 行弘(ゆきひろ・石井いらい/平/樋口、廷臣/歌) F 4 6 4 9
 行好(こうこう・西井) → 行好(ゆきよし・西井、狂歌) B 4 6 6 6
 行歌(こうこう・下河辺) → 拾水(しゅうすい・下河辺しもこうべ/藤原、絵師) H 2 1 7 4
 行広(こうこう)すべて → 行広(ゆきひろ)
 行高(こうこう・狛) → 行高(ゆきたか・狛こま、楽人) E 4 6 5 6

行高(こうこう・人見) → 行高(ゆきたか・人見/小野、幕府医者) E 4 6 6 1
 行綱(こうこう・後藤) → 行綱(ゆきつな・後藤とう/宇都宮、神職) E 4 6 9 0
 行厚(こうこう・賀茂/山口) → 行厚(ゆきあつ・山口/紀/賀茂、廷臣/書家) E 4 6 2 6
 孝行(こうこう・源) → 素寂(そじゃく、「紫明抄」著/歌人) D 2 5 7 9
 孝行(こうこう・二階堂) → 孝行(たかゆき・二階堂にかいどう、藩士/歌) Y 2 6 7 9
 孝高(こうこう・黒田) → 孝高(よしたか・黒田くろだ/源、武将/連歌) D 4 7 9 3
 孝衡(こうこう・佐竹/川合) → 春川(しゅんせん・川合/川/佐竹、藩士/儒者) K 2 1 1 4
 孝康(こうこう・越智) → 孝康(たかやす・越智おち、連歌作者) N 2 6 5 1
 興孝(こうこう・古市) → 南軒(なんげん・古市、藩士/儒/医者) J 3 2 9 1
 興孝(こうこう・和田/高橋) → 石霞(せつか・高橋/和田、商家/経済) K 2 4 7 6
 興公(こうこう・おきぎみ・真木) → 保臣(やすおみ・真木まき、神職/勤王家) B 4 5 0 9
 興衡(こうこう・三善) → 興衡(おきひら・三善みよし、廷臣/歌人) E 1 4 2 7
 幸孝(こうこう・斎藤) → 幸孝(ゆきたか・斎藤さいとう、名主/地誌) E 4 6 6 3
 幸孝(こうこう・柄井) → 川柳(2世せんりゅう、川柳点者) 2 4 4 0
 幸弘(こうこう・石黒) → 幸弘(ゆきひろ・石黒いしくろ、藩士/国学) G 4 6 5 3
 幸行(こうこう・林) → 幸行(さちゆき・林はやし、国学者/歌人) P 2 0 1 5
 好好(こうこう・生田) → 永貞(ながさだ・生田いくた、漢学/兵学) D 3 2 6 9
 好幸(こうこう・小川) → 好幸(よしゆき・小川おがわ、神職/国学) L 4 7 7 9
 好孝(こうこう・名島) → 好孝(よしたか・名島なじま、藩士/和学) O 4 7 0 7
 好高(こうこう・芝崎) → 好高(よしたか・芝崎しばさき/平、神職/国学) N 4 7 3 3
 好皓(こうこう・芝崎) → 好全(よしなり・芝崎しばさき、神職/国学) N 4 7 3 1
 公光(こうこう・藤原) → 公光(きんみつ・藤原、廷臣/歌人) E 1 6 7 0
 公光(こうこう・滋野井) → 公光(きんみつ・滋野井しげのい、廷臣) R 1 6 8 3
 公光(こうこう・三条) → 公冬(きんふゆ・三条/転法輪三条、歌) E 1 6 6 4
 公光(こうこう・高野瀬) → 公光(きんみつ・高野瀬たかのせ/藤原、藩士/歌) U 1 6 6 5
 公衡(こうこう・藤原) → 公衡(きんひら・藤原、廷臣/歌人) E 1 6 6 0
 公衡(こうこう・西園寺) → 公衡(きんひら・西園寺さいおんじ、廷臣/歌) E 1 6 6 1
 公行(こうこう・藤原) → 公行(きんゆき・藤原、廷臣/歌人) E 1 6 8 3
 公行(こうこう・今出川) → 公行(きんゆき・今出川/菊亭、左大臣/歌) E 1 6 8 4
 公行(こうこう・山本) → 緑陰(りよくいん・山本やまもと、儒者/詩人) J 4 9 7 2
 公好(こうこう・藤原) → 公好(きんよし・藤原、歌人) I 1 6 3 2
 公好(こうこう・孫福) → 公好(きんよし・孫福ごふく/足代、神職/国学) V 1 6 2 1
 公幸(こうこう・岩下) → 公幸(きんさち・岩下いわした/藤原、神職) T 1 6 5 4
 公孝(こうこう・徳大寺) → 公孝(きんたか・徳大寺、太政大臣/歌) E 1 6 2 6
 公興(こうこう・今出川) → 公興(きんおき・今出川/菊亭、左大臣/歌) Q 1 6 7 0
 公效(こうこう・永沢) → 公效(きみのり・永沢ながさわ、神職/国学) U 1 6 9 3
 公功(こうこう・正親町) → 公明(きんあき・正親町おおぎまち、廷臣/記録) Q 1 6 6 3
 公香(こうこう・きみか・喜多川) → 梅俣(ばいか・喜多川[北川]、医/俳) 3 6 7 9
 公香(こうこう・武者小路) → 公香(きんか・武者小路むしやのこうじ/藤原、廷臣) V 1 6 4 3
 公綱(こうこう・三条) → 公綱(きんつな・三条/正親町三条、歌人) E 1 6 3 3
 公亨(こうこう・四辻) → 公亨(きんみち・四辻よつじ、廷臣/楽譜) R 1 6 8 2
 公広(こうこう・松前) → 公広(きんひろ・松前まつまえ、藩主/連歌) R 1 6 7 2
 公広(こうこう・藤堂) → 公広(きんひろ・藤堂とうどう、歌人) V 1 6 7 4
 広公(こうこう・大伴) → 広公(ひろきみ・大伴おおとも、神職/辞書) F 3 7 7 6
 広行(こうこう・板谷/住吉) → 広行(ひろゆき・住吉すみよし、幕府絵師) H 3 7 6 3
 広江(こうこう・石野) → 広江(ひろえ・石野いしの、国学者) L 3 7 2 0
 広江(こうこう・中原) → 広江(ひろえ・中原なかはら/石野、幕臣/歌) I 3 7 2 2
 広高(こうこう・春枝) → 広高(ひろたか・春枝はるえだ、国学者) G 3 7 2 0
 広光(こうこう・町) → 広光(ひろみつ・町/柳原/藤原、廷臣/歌) H 3 7 3 8
 広好(こうこう・川佐/浅裏庵) → 広好(ひろよし・浅裏庵あさうらあん、藩士/狂歌) H 3 7 7 1

広厚(こうこう・富樫) → 広厚(ひろあつ・富樫とがし/小串、国学/歌) K 3 7 2 7
 広綱(こうこう) すべて → 広綱(ひろつな)
 光行(こうこう・源) → 光行(みつゆき・源みなもと、武将/学者/歌) 4 1 3 2
 光行(こうこう・戸田) → 光行(みつゆき・戸田とだ/松平、藩主) F 4 1 0 6
 光孝(こうこう/みつたか・数藤/小出) → 光教(みつのり・小出/北野/数藤、暦算家) E 4 1 4 9
 光高(こうこう・前田) → 光高(みつたか・前田まえた、藩主/儒学/歌) D 4 1 7 2
 光康(こうこう) → 光康(みつやす・姓不詳、廷臣/歌) F 4 1 0 1
 光広(こうこう・鳥丸) → 光広(みつひろ・鳥丸/藤原、廷臣/歌学) 4 1 3 1
 光弘(こうこう・土佐) → 光弘(みつひろ・土佐とさ/藤原、絵師) E 4 1 6 5
 光弘(こうこう・三輪) → 光弘(みつひろ・三輪みわ、俳人) E 4 1 6 7
 光亨(こうこう・林/後藤) → 三右衛門(さんえもん・後藤/林、金座役人) L 2 0 8 2
 光亨(こうこう・小野) → 光亨(みつよし・小野おの、神職/歌人) I 4 1 2 6
 光香(こうこう・北小路) → 光香(みつか・北小路きたのこうじ/藤原、文筆家) D 4 1 1 8
 光香(こうこう・牧村) → 光香(みつか・牧村/源、藩士/国学者) D 4 1 1 9
 光好(こうこう・小野) → 光好(みつよし・小野おの/橘、歌人) I 4 1 2 5
 光好(こうこう・蜂須賀) → 光好(みつよし・蜂須賀はちすが、歌人) K 4 1 9 9
 光好(こうこう・藤木) → 光好(みつよし・藤木ふじき、歌人) K 4 1 3 6
 光綱(こうこう・冷泉/柳原) → 光綱(みつつな・柳原/藤原/冷泉、廷臣/歌) D 4 1 8 8
 晃光(こうこう・野本) → 雪巖(せつがん・野本のもと、藩儒/詩人) E 2 4 1 2
 弘亨(こうこう/ひろみち・伊藤) → 竹坡(ちくは・伊藤いとう、藩士/儒者) D 2 8 6 8
 弘興(こうこう・小峯) → 弘興(ひろおき・小峯こみね、兵法家) F 3 7 6 0
 弘高(こうこう・巨瀬) → 弘高(ひろたか・巨瀬こせ、絵師) G 3 7 1 3
 弘光(こうこう・奥埜) → 弘光(ひろみつ・奥埜おくの、寺院侍臣/歌) I 3 7 9 4
 弘光(こうこう・三橋) → 弘光(ひろみつ・三橋みつはし、藩士/天狗党) H 3 7 4 2
 弘孝(こうこう・熊野) → 弘孝(ひろたか・熊野くまの/清原、国学/茶) J 3 7 4 6
 弘岡(こうこう・矢田部) → 弘岡(ひろおか・矢田部やたべ、神職/国学) I 3 7 3 6
 弘恒(こうこう・広津) → 藍溪(らんけい・広津ひろつ、農業/儒者/教育) B 4 8 8 2
 弘剛(こうこう・伊藤) → 臨臯(りんこう・伊藤いとう、儒者) K 4 9 2 5
 宏行(こうこう・河内) → 宏行(ひろゆき・河内/源、幕臣/歌人) H 3 7 5 9
 厚光(こうこう/あつみつ・古森) → 省吾(しょうご・古森こもり、俳人) I 2 2 7 0
 厚孝(こうこう/あつたか・古森) → 亀淵(きえん・古森、省吾男/書家) J 1 6 7 4
 高厚(こうこう・山鹿) → 高厚(たかあつ・山鹿、藩士/剣術/狂歌/俳) L 2 6 5 3
 高恒(こうこう・兼松/山鹿) → 高恒(たかつね・山鹿/兼松/岡/津軽、藩士/兵学) M 2 6 2 9
 高弘(こうこう・源/永田) → 高弘(たかひろ・永田ながた/源、武将/連歌) N 2 6 0 4
 高好(こうこう・葛西/吉成) → 高好(たかよし・吉成よしなり/葛西、神職/歌) N 2 6 7 2
 高香(こうこう・東条) → 有儘(ゆうじん・東条とうじょう、藩士/俳人) C 4 6 7 8
 高広(こうこう) すべて → 高広(たかひろ)
 高行(こうこう) すべて → 高行(たかゆき)
 恒幸(こうこう・吉見) → 恒幸(つねゆき・吉見/菅原、神職) E 2 9 1 2
 恒光(こうこう・小川) → 恒充(つねみつ・小川、藩士/記録) D 2 9 9 2
 恒光(こうこう・村田) → 恒光(つねみつ・村田むらた、藩士/和算家) D 2 9 9 4
 恒好(こうこう・森) → 恒好(つねよし・森もり、歌人) F 2 9 0 7
 康広(こうこう・小笠原) → 康広(やすひろ・小笠原おがさわら、武将) C 4 5 8 5
 康行(こうこう・藤原) → 康行(やすゆき・藤原ふじわら、廷臣/歌人) D 4 5 3 4
 康衡(こうこう・三善) → 康衡(やすひら・三善みよし、廷臣/歌人) C 4 5 8 0
 康高(こうこう・大須賀) → 康高(やすたか・大須賀おおしが/平、武将) B 4 5 8 2
 康高(こうこう・三宅) → 康高(やすたか・三宅みやけ、藩主/茶人) G 4 5 8 1
 康侯(こうこう・泉) → 全斎(ぜんさい・泉いずみ/藤間、儒者/詩) F 2 4 4 3
 康綱(こうこう・中原) → 康綱(やすつな・中原、廷臣) C 4 5 0 9
 康綱(こうこう・岡部) → 長盛(ながもり・岡部おかべ、城主/歌/連歌) G 3 2 1 1

哄々(こうこう・亀田) → 窮楽(きゅうらく・亀田かめだ、鍛冶屋/書家) M 1 6 9 5
 候弘(こうこう・梶田) → 候弘(よしひろ・梶田かじた、藩家老/国学) M 4 7 1 7
 綱光(こうこう・広橋) → 綱光(つなみつ・広橋ひろはし、廷臣/歌人) B 2 9 3 4
 綱広(こうこう・毛利) → 綱広(つなひろ・毛利もうり、藩主) B 2 9 2 6
 黄口(こうこう・中島) → 広足(ひろたり・中島/越智、藩士/国学者) 3 7 2 1

B1903 **公豪**(こうごう; 法諱、左大臣三条実房男) 1196-1281 86 天台僧; 明禅門/1278天台座主89世、歌人、
 法務大僧正、勅撰9首; 続古768続拾遺5首; 484/549/1350/1398/1444新拾1244新続古1587、
 [公豪の号] 毘沙門堂/林泉坊、兄弟; 三条公房・天台座主公円・東寺長者覚教

公豪(こうごう・源) → 倫円(りんえん; 法諱・香積房、天台僧/歌) K 4 9 0 1
 香光院(こうこういん・普明) → 普明(ふめい・宝月、真宗僧/詩人) E 3 8 1 2
 皇后宮(こうごうぐう) → 達智門院(たっちもんいん) 2 6 4 0
 皇后宮(こうごうぐう) 女房名はすべて → 皇后宮(こうごうのみや)
 好々軒(こうこうけん) → 公正(きみまさ・由利ゆり/三岡、藩士/財政/政治) I 1 0 7 5
 轟々居士(こうごうこじ) → 溟北(めいほく・円山/小池、藩士/儒者) 4 3 3 7
 勾股齋(こうこくさい) → 光道(てるみち・山上やまがみ、和算家) C 3 0 9 8
 皎々齋(こうこうさい) → 素堂(そどう・山本やまもと、儒者/絵師) K 2 5 2 4
 暁々齋(こうこうさい・中尾) → 猷祖(ゆうそ・中尾/藤原/奥沢、医官) D 4 6 2 9
 考向山(こうこうざん) → 忠精(ただきよ・水野、藩主/老中/歌人) F 2 6 0 3
 高向山人(こうこうさんじん) → 雁門(がんもん・蒔田まきた、儒者) R 1 5 6 8
 哮吼子(こうこうし) → 仏頂(ぶつちやう、臨濟僧/芭蕉参禅の師) D 3 8 3 8
 轟々子(こうごうし) → 克明(よしかき・大立目おのだめ、儒者) B 4 7 9 9
 香光室(こうこうしつ) → 普明(ふめい/ふみよう; 法諱、真宗僧/詩) E 3 8 1 2
 好々舎(こうこうしゃ) → 文鳴(ぶんめい・戸田とだ、去音門/俳人) G 3 8 5 0
 好々舎(こうこうしゃ) → 東甫(とうほ・内藤、藩士/絵師) H 3 1 1 1
 浩々舎(こうこうしゃ) → 芳麿(よしまる・岡本おあかもと、俳人) H 4 7 2 2
 向岡舎(こうこうしゃ) → 咀英(そえい、俳人) D 2 5 3 5
 恒興女(こうこうじよ・藤原) → 恒興女(つねおきのむすめ、藤原、平安期歌人) B 2 9 8 1

I1974 **恒弘親王**(恒興-ごうこうしんのう; 法諱、諡号; 後勝福院、直明王男) 1431-1509 79 僧; 1443勸修寺入室、
 1449慈尊院定紹門; 伝法灌頂受/51華厳東大寺別当、安祥寺寺務/勸修寺長吏/二品、
 連歌作者: 1481「文明十三年六月二日何路百韻」

煌々亭(こうこうてい) → 稻坡(とうは・松岡、藩士/俳人) G 3 1 9 0
 蛟江亭(こうこうてい) → 梅山(ばいざん・山領やまりよう、儒者) B 3 6 3 0

1910 **光孝天皇**(こうこうてんのう、名; 時康、小松帝こまつのみかど/仁和帝、仁明天皇皇子) 830-887 58

母: 藤原総継女沢子、在位884-7、政治を藤原基経に託す、狩獵行幸、
 歌人; 家集「仁和にん御集」、

勅撰14首; 古今21/347新古今1349/1356/1413新勅73/952/1018続後撰851/896以下、
 [君がため春の野に出でて若菜摘むわが衣手に雪は降りつつ](古今21)

光孝天皇皇后(こうこうてんのうのこうごう) → 班子女王(はんじじよおう、歌合催) 3 6 4 7
 皇后宮右衛門佐(こうごうのみやのうえものすけ) → 右衛門佐(うえものすけ、白河皇女令子の女房) 1 2 0 8
 皇后宮式部(こうごうのみやのしきぶ) → 式部(しきぶ、白河皇女令子内親王の女房) B 2 1 5 2
 皇后宮少将(こうごうのみやのしょうしょう) → 少将(しょうしょう、令子内親王の女房) N 2 1 6 3
 皇后宮摂津(こうごうのみやのせつ) → 摂津(せつ・二条太皇太后宮、藤原実宗女) E 2 4 5 8
 皇后宮大式(こうごうのみやのだいし) → 大式(だいに、令子内親王の女房) B 2 6 9 9
 皇后宮内侍(こうごうのみやのないし) → 京極院内侍(きやうごくいんのないし、龜山后佶子の女房) N 1 6 7 6
 皇后宮内侍(こうごうのみやのないし) → 内侍(ないし・達智門院、奨子内親王家の女房) 3 2 5 0
 皇后宮女別当(こうごうのみやのによつとう) → 別当(べつとう、物語作者、令子の女房) B 2 7 0 3
 皇后宮肥後(こうごうのみやのひご) → 肥後(ひご・京極前関白家、女房歌人) 3 7 5 1
 皇后宮備前(こうごうのみやのびぜん) → 備前(びぜん・近衛院、女房歌人) C 3 7 4 8
 皇后宮兵衛督(こうごうのみやのひやうえのかみ) → 兵衛督(ひやうえのかみ・達智門院/歌人) F 3 7 0 7
 皇后宮別当(こうごうのみやのべつとう) → 別当(べつとう、物語作者、令子の女房) B 2 7 0 3

- 皇后宮美濃(こうごうのみやのみ) → 美濃(みの、令子の女房) F 4 1 6 1
 皇后宮美作(こうごうのみやのみまさか) → 美作(みまさか、冷泉后寛子の女房) F 4 1 8 3
 轟々坊(ごうごうぼう) → 梅員(ばいん、俳人) 3 6 5 4
 好古関(こうこかん) → 千疇(ちうね、山田、国学者) 2 8 3 9
- I1975 孝国(こうこく;道号・祖養;法諱)?-1593 甲斐黄檗僧;甲天総寅門/嗣法、甲斐大泉寺6世、
 千松院開山、1591「大泉寺縁起略記」著
- I1976 高国(こうこく;道号・英峻;法諱、号;嶺巖/万照高国禪師)?-1674 曹洞僧;永平寺27世、
 1648相模最乗寺住;曹洞掟五ヶ条制定、1652永平寺入/71武蔵円通寺開山/下総総寧寺住寺、
 1657「高国代」61「高国代抄」、「天桂山傑伝禪寺文書」
- I1977 香国(こうこく;道号・道蓮どうれん;法諱、眉用老人) 1652-1723 1660(9歳)隠元に謁す/黄檗僧:
 慧林性機門、1681万福寺竜興院住/95江戸住;1700南品川瑞雲山大竜寺初世、
 1715仙台大年寺住寺、1718塔頭松濤院開山、唐音に精通;荻生徂徠の師、詩歌に長ず、
 「眉用集」「眉用老人内集」、「眉用老人外集」、1678「耶山集」編、「松菴雑記」著、
 「香国道蓮禪師語録」著
- I1978 光国(こうこく;法諱・寂潤じやくじゆん;字)?-? 1766存 真言僧;戒壇院長老慧光門、1731江戸霊雲寺入、
 1734師の命「戒壇院如法中興慧光長老遺誠」編、師没後戒壇院の観護、
 1730「僧服正檢」、「正興庵開基老和尚伝」「筆山稿」/1745「衆僧得分帳」著、
 参照 → 慧光(えこう;法諱・戒琛かいちん;字、真言僧) D 1 3 8 3
- I1979 香国(こうこく・村田むらた、名;叔、村田東圃の養子) 1831-1912 福岡の絵師;養父東圃門/大阪住、
 儒/書;貫名海屋門、詩;梁川星巖門、長崎で清人徐雨亭戸交流、1876以後3度清に渡航、
 1860「集古名公画式」、「南遊紀勝」「晚晴楼詩鈔」「晚晴楼印譜」著、
 [香国の別号] 蘭雪/適圃
- 公谷(こうこく;号) → 雪象(せつぞう・公鮮、真宗本願寺派僧) L 2 4 1 7
 公克(こうこく・桑野 喜斎(きさい・桑野くわの、医者/詩歌) K 1 6 4 8
 公克(こうこく・間宮/大草) → 公弼(きみすけ・大草おおくさ、幕臣/国学/史家) G 1 6 2 3
 公克(こうこく・桑野) → 公克(きみかつ・桑野くわの、国学/歌人) U 1 6 2 9
 公毅(こうこく・野沢) → 公毅(きみよし・野沢のざわ、神職/教育) U 1 6 9 9
 光国(こうこく・藤原) → 光国(みつくに・藤原、廷臣/漢学者) D 4 1 3 1
 光国(こうこく・土佐) → 光国(みつくに・土佐/栗田口/藤原、絵師) D 4 1 3 2
 光圀(光国こうこく・徳川) → 光圀(みつくに・徳川/源・松平、藩主/修史) 4 1 2 5
 幸国(こうこく・花垣) → 一衛(かずえ・花垣はながき/北原、国学者) M 1 5 1 1
 好国(こうこく・平岡) → 好国(よしくに・平岡ひらおか、神職/歌人) O 4 7 7 5
 高国(こうこく・細川) → 高国(たかくに・細川、武将/歌人/連歌) C 2 6 7 2
 鴻谷(こうこく・山内) → 董正(ただまさ・山内やまのうち、幕臣/代官) Q 2 6 8 4
 剛克(ごうこく・唐橋) → 君山(くんざん・唐橋からはし、儒医/狂詩) B 1 7 2 3
 綱国(こうこく・松平) → 綱国(つなくに・松平まつだいら/氷見、世嗣) G 2 9 3 9
 豪谷(ごうこく・小早川) → 秀雄(ひでお・小早川/土肥/吉田、郷土史家) C 3 7 8 4
 轟谷(ごうこく・恒遠) → 醒窓(せいそう・恒遠つねとお、儒者/詩) C 2 4 5 0
 興国院(こうこくいん;法号) → 斉典(なりつね・松平まつだいら、藩主/紀行) H 3 2 6 5
 好古軒(こうこけん) → 竜洞(りゅうどう・鈴木、和漢学) F 4 9 3 2
 江湖軒(こうこけん) → 荷兮(かへい・山本、俳人) 1 5 1 0
 好古斎(こうこさい) → 通識(みちさと・三木みき、郷土史家) B 4 1 5 6
 好古斎(こうこさい) → 湖萍(こひょう・寺本てもと、郷土史家) N 1 9 5 3
 江湖散人(こうこさんじん) → 集雲(しゅううん;道号・守藤;法諱、臨濟僧) W 2 1 6 2
 江湖周嗣(こうこしゅうし) → 周嗣(しゅうし;法諱、禪僧/歌) H 2 1 5 2
 江湖詩老(こうこしろう) → 寛斎(かんさい・市河、詩人) 1 5 4 8
 好古先生(こうこせんせい;諡号) → 中南(ちゅうなん・平賀/木原/土生、儒者) G 2 8 7 8
 好古先生(こうこせんせい) → 任斎(じんさい・雲谷うんや/水野/兵藤、藩士/和漢学) E 2 2 2 3
 恍惚翁(こうこつおう) → 清風(せいふう・村田むらた、藩士/歌人) C 2 4 9 5
 好古堂(こうこどう) → 連阿(れんあ・好古堂、時宗僧/歌) 5 1 8 6

- 好古堂(こうこどう) → 友直(ともなお・土橋つちはし/三宅、儒/教育) V 3 1 7 6
 好古堂(こうこどう) → 太華(たいか・苜戸のぞき、藩士/藩政改革) B 2 6 0 7
 好古堂(こうこどう) → 直諒(なおあき・溝口、藩主/文筆) 3 2 5 9
 好古堂(こうこどう) → 陳令(のぶはる・野上、藩士/儒者) C 3 5 8 5
 好古堂(こうこどう) → 勝義(かつよし・上杉うえずぎ、藩主/文筆) O 1 5 0 0
 講古堂(こうこどう) → 延佳(のぶよし・出口/度会、神職/国学) 3 5 1 7
 講古堂(こうこどう) → 延経(のぶつね・出口/度会、延佳男/神職) C 3 5 1 4
 講古堂(こうこどう) → 重邑(しげむら・藤原/度会、神職/書肆) S 2 1 8 7
 講古堂(こうこどう) → 忠告(ただのり・秦/加藤、藤原屋/書肆) Q 2 6 4 1
 高古堂(こうこどう) → 宗左衛門(そうざえもん・小幡、書肆) B 2 5 5 9
 講古堂主人(こうこどうしゅじん) → 重常(しげつね・加藤/藤原、書肆/出版) M 2 1 3 2
 講古堂主人(こうこどうしゅじん) → 重邑(しげむら・藤原/加藤、重常の養嗣/神職/出版) S 2 1 8 7
 高古堂主人(こうこどうしゅじん) → 宗左衛門(そうざえもん・小幡おぼた、書肆/戯作) B 2 5 5 9
 好古女(こうこのむすめ・小野) → 好古女(よしふるのむすめ・小野・歌人) G 4 7 8 8
 B1908 口今(こうこん) ? - ? 俳人、伊勢人、1685一有「あけ鴉」序
 小右近(こうこん) → 三条小右近(さんじょうこうこん、後拾遺歌人) E 2 0 4 2
 綱根(こうこん・宇都宮) → 綱根(つなね・宇都宮、神職/歌人) B 2 9 1 7
 幸混(こうこん・松田) → 葵亭(きてい・松田まつだ、儒者) L 1 6 5 3
 幸混(こうこん・吉見) → 幸混(ゆきむら・吉見、幸和男/神職) F 4 6 7 9
 I1980 綱巖(こうこん;法諱・慈観じかん;号、存覚男) 1334-1419⁸⁶ 広橋[勘解由小路]兼綱の養子、真宗僧、
 1343随心院経巖門/養父と師の一字で法諱、東大寺・青蓮院に修学/近江錦織寺中興5世、
 法印/権大僧都、「証得無為法身抄」「常楽台主老衲一期記」1383「錦織寺宗門血脈譜」著
 合昏庵(ごうこんあん) → 湖十(2世こじゅう、村瀬/深川、俳人) C 1 9 8 3
 香巖院(こうごんいん;法号、香巖公) → 治貞(はるさだ・徳川とくがわ、藩主/文筆家) G 3 6 3 4
 香巖院(こうごんいん;諡号) → 慧然(えねん;法諱、真宗大谷派僧) E 1 3 1 9
 B1909 光巖天皇(こうごんてんのう、名;量仁かずひと、後伏見天皇皇子) 1313-64⁵² 北朝最初の天皇;在位1332-33、
 母;広義門院藤寧子(西園寺公衡女)、1326立太子/31踐祚/32即位/33讓位、
 1336尊氏に擁立され院政/1351南軍に捕縛/1352河内大和に移送;賀名生で出家(勝光智)、
 河内金剛寺移送;臨濟僧孤峰覚明門(光智の改名)/1357帰京;清溪通徹・春屋妙葩門、
 丹波常照皇寺に隠棲、後期京極派歌人;花園天皇門、「風雅和歌集」撰、歌合催、
 「光巖院御百首」「光巖院御集」「光巖院三十六番歌合」「法華和歌」「塵影録」「光巖院御文類」、
 勅撰79首;風雅(31首20/89/129/176/266以下)新千載(20首54/176以下)新拾遺(19首)以下、
 1345?小倉実教[藤葉とうよう集]9首入(院名)、
 [天の原おほふ霞ののどけきに春なる色のこもるなりけり](風雅;春20/太上天皇)、
 [三十首歌よむ中に、
 くれはてて色もわかれぬ花の上にほのかに月の影ぞうつらふ](藤葉:春36/院御製)
 [光巖天皇の通称/法名]通称(讓位後);持明院殿/天野殿/小倉殿/太上天皇(;風雅集)、
 変名;隆持朝臣/女房(;1342「持明院殿御歌合」)
 法名;勝光智/光智/無範和尚
 光巖院新宰相典侍(こうごんいんのしんさいしょうのすけ) → 新宰相(しんさいしょう・光明院、歌人) E 2 2 2 6
 B1910 幸佐(こうさ・高田たかた) ? - ? 江前期1680-1704頃京の俳人;幸和門、漢和俳諧、
 雑俳点者/仮名草子作者、「漢和式」、1680「囃物語」作、「俳諧入船」編、「俳諧大湊」編、
 1693?「一番船」「二番船」「三番船」編、
 [幸佐の通称/別号]通称;治兵衛、別号;幽竹堂
 I1981 江左(こうさ・深山、別号;五原亭) ?-1791 俳人;鳥酔門、1784「栗の肆」編、左皐編追善集あり
 I1982 江左(こうさ・寺田てらだ・養花園3世、古江男) 1778?-1858⁸¹ 安藝広島江波の俳人;和切or柳丈門、
 筵史/菊年「やまかつら」入;[烏帽子へも摘んで入たる若菜かな](1812「やまかつら」)
 F1901 公左(こうさ・浦川) ? - ? 1830-60頃活躍大坂絵師;公長門、1832「風流俄天狗」画
 光佐(こうさ;法諱) → 顕如(けんによ;号、真宗本願寺11世) M 1 8 0 7
 江左(こうさ;号) → 周麟(しゅうりん;法諱・景徐、臨濟僧) P 2 1 4 5

- 江左(こうさ;号) → 集九(しゅうく;法諱・万里、臨濟僧/詩) H 2 1 1 6
江左(こうさ) → 湖十(6世こじゅう・深川、俳人) C 1 9 8 7
江沙(こうさ;号) → 別宗(べっしゅう;道号・祖縁;法諱、臨濟僧) 2 7 9 8
広佐(こうさ・池田) → 長紀(ながのり・池田いけだ/伊木、家老/歌) L 3 2 1 2
恒佐(こうさ・藤原) → 恒佐(つねさけ・藤原ふじはら、右大臣/歌) C 2 9 2 7
弘佐(こうさ・中西) → 弘佐(ひろさけ・中西/度会、神職/歌) G 3 7 1 1
- B1911 **幸西**(こうさい;法諱・成覚房じょうかくぼう;号、俗姓;物部) 1163-1247⁸⁵ 浄土僧;法然[源空]門、
1207法難;阿波流罪;無動寺大僧正預かりで免れる、27嘉禄法難;老岐流罪:行かず、
一念義を主唱、1218「玄義分抄」、「称仏記」「京師和尚類聚伝」「一滞記」著
[幸西の字/通称]字;鐘本房少輔、通称;阿波上人
- B1912 **光西**(こうさい;法諱、俗名;伊賀[藤原]光宗、朝光男) 1178-1257⁸⁰ 母;二階堂行遠女、武将、
源実朝の側近、式部丞/1219政所執事/24將軍藤原頼経廢する活動に失敗;信濃配流/出家、
1225赦免/44評定衆、歌人;実朝催の歌会参加/続後撰集1079、
[たえてやは人をも身をもうらむべきこの葉しぐるる秋の山里](続後撰;十六1079)
[光西の通称] 式部大入道
- B1948 **光濟**(こうさい;法諱、権大納言柳原[日野]資明けあき男) 1326-79⁵⁴ 母;源康世女、南北期真言僧;
三宝院賢俊門、1353醍醐寺三宝院門跡/55東寺三長者/61一長者、
1374興福寺の強訴で播磨配流/赦免、76大僧正/東寺長者・醍醐寺座主、
歌;1367新玉津島社歌合参加/新後拾遺1515、
[玉津島たむくるからにことのはの露にもみがく色や見ゆらん](新後拾;十九1515)
[光濟の通称] 後菩提寺大僧正
- B1913 **剛齋**(こうさい/ごうさい・江村えむら、名;宗珉、専齋男) 1608-61⁵⁴ 京の儒者;那波活所門、摂津尼崎藩儒官、
致仕、「讃州歴覧志」「四書註考考」「全菴医方」「剛齋雜編」「剛齋殘稿」(奥田松庵序)、
[剛齋の字/別号]字;友右、別号;全庵
- B1914 **耕齋**(こうさい・菊池/菊地さくら、名;東勻/東尹、元春男) 1618-82⁶⁵ 京の儒者;菅得庵門、
江戸;林羅山門、帰郷後医術修得;野間玄琢門/1644筑後久留米藩儒医、
帰京;55朝鮮使と贈答、62薩摩藩儒;賓師の礼で遇される/のち江戸に住、
「七書講義通考」「遠遊小志」「百福寿軸」「本朝歴代名臣伝」「錦繡段講義」「耕齋先生全集」著
- I1984 **弘齋**(こうさい・本郷ほんごう、名;信/信恕/信如、和久是安男) 1653-1726⁷⁴ 本郷種盛養嗣子;仙台藩士、
能書家、1716「多賀古城壺碑考」、「紙筆墨譜」「日本書史」「筆法書著」、
[弘齋の通称/別号]通称;長門/正次郎/与兵衛、別号;二楽亭
- I1985 **剛齋**(こうさい/ごうさい・杉本すぎもと/修姓;杉、玄甫男) ?-1721 丹後田辺の医者;父門/増山勘九郎門、
大阪;朱子学修学/帰郷;田辺藩儒医、子弟教育;藩内の文教振興に寄与、大納戸寺社役、
詩文に長ず、1708「示蒙草記」編
[剛齋(;号)の字/通称]字;玄義/操義、通称;忠四郎
- I1986 **剛齋**(こうさい/ごうさい・野田のだ、名;徳勝、醉翁男) 1690-1768⁷⁹ 江戸本所石原の儒者;父門、
闇齋学;佐藤直方門、幕府出仕;父の改易で致仕;講説業/越後新発田藩・備中鴨方藩で講義、
「王学論談」「理気先後説」「本然気質性講説」「剛齋先生割記」、1723「白鹿洞書院揭示」著、
[剛齋の幼名/通称]幼名;宅之助、通称;七右衛門/石原先生
- G1931 **厚齋**(こうさい・深田ふかだ、名;正純まさずみ、慎齋男) 1714-1784⁷¹ 尾張名古屋藩儒、儒;松岡恕庵門、
儒官、1756藩主宗勝の侍臣/世子治休の伴読、九阜の兄
「遂性篇」「厚齋隨筆」著、「厚齋遺稿」、
[厚齋(;号)の字/通称]字;美之、通称;佐市/左市、九阜の兄
- I1987 **灝齋**(こうさい・玉川たまがわ/初姓;武内、名;玄竜) 1733?-? 1790^存 和泉堺の儒者、
1772紀伊古座に転住・改姓;玉川、熊野に南京船漂着時に筆談、「清客筆談」「熊野統覧」著、
「紀州名所歌集」「紀伊志略」「熊野巡覧記」「日本紀伊国誌」「明史断」「連璧文随」著、
[灝齋の別号] 泉溟
- B1915 **剛齋**(こうさい/ごうさい・山口やまぐち、名;純実/景德かげのり、義冬[城伯]男) 1734-1801⁶⁸ 大坂の儒者、
儒;飯岡義齋門;闇齋学修得/越後流兵法修得、大坂で開塾、

1785石見津和野藩儒;藩校養老館創設に参加、藩校教授;闇齋学統確立/人材輩出、
「剛齋五倫」「兵録」「甲寅後抄」「詩三説合録」外著多数、
[剛齋(;)の字/通称/別号]字;正懋せいぼう/剛翁、通称;剛三郎、
別号;梅盧/西月/一徳/一徳齋/顔其齋

- I1988 **耕齋**(こうさい・宮南みやなみ、名;進) ?-? 大阪高麗橋の書家;長雄耕雲流筆法、1778「常用文章」、
1783「五体消息」87「雲井のかり」92「商賈用文」1806「書状案文大全」08「当用文章大全」著、
[耕齋の字/別号]字;退蔵、別号;徳雲
- I1989 **浩齋**(こうさい・常見つねみ、勝義男) 1746-1835長寿90 上州伊勢崎藩士/儒;村士玉水・小松原醇齋門、
藩校学習堂助教/1784中小姓代官副役;藩を追放される、江戸小川町住
召還;奉行席大目付/宗門奉行、
1819致仕、「伊勢崎古老伝記」「伊勢崎伝記」「壤囊集」「浅間嶽変記」1818「天明追懐録」著、
[浩齋(;)の名/字/通称/別号]幼名;弥三郎/弥市、名;一之、字;子寛、通称;要蔵/五作、
別号;谷水
- I1990 **公濟**(こうさい・最里さいり、六右衛門義徳男) 1752-181968 越前敦賀の医者;1768富野仲達門、
儒;伊藤東所門、医業;門弟多数、温疫術に精通、「温疫訓蒙」「温疫随筆」「温疫論校註」著、
[公濟(;)の字]の名/別字/号]名;之幹、別字;礼卿、号;鶴州/謙恭先生
- B1916 **篁齋**(こうさい・皆川みながわ、名;允、淇園男) 1762-181958 京の儒者;家学継承/近江膳所藩で父と講義、
膳所藩校尊義堂創設に参画/肥前平戸藩で講説、丹波亀山藩出仕、「淇園文訣筆録」、
1815「世説啓微」校訂/16「淇園文集」校訂、「篁齋文集」著、
[篁齋の字/通称/別号]字;君猶、通称;融蔵、別号;灌園、諡号;孝順先生
- I1991 **恒齋**(こうさい・藤井ふじい、名;尚) 1771-181646歳 越後岩船の医者;天宮泰岳門/上京;後藤栗庵門、
経史;岩垣竜溪門、詩文、「恒齋遺稿」、
[恒齋の字/通称]字;若人、通称;唐民
- I1992 **浩齋**(こうさい・近藤こんどう、名;祇良/主静) 1781-186080 美濃今尾藩の儒臣;中村習齋門、
家塾愛敬堂で教授/藩儒官;藩の文教に参画尽力、「甲寅鄙説」「癸丑晩冬鄙論」著、
[浩齋の通称/別号]通称;泰三郎/彦三郎、別号;感亭
- Q1982 **康哉**(こうさい;法諱、) ? - 1832 常陸土浦真鍋の善能寺の生、
国学/歌人;小山田与清(1783-1847)門、新治郡下林村の観音寺住職、阿闍梨、
1819佐久良東雄あづまおの師;のち東雄は重病の康哉を看病;遺言で所蔵書多数を東雄に寄贈
- F1903 **恒齋**(こうさい・片山、名;成器/器、杉野直方男) 1792-184958 外祖父片山成英養嗣子、磐城白河儒者、
儒;広瀬蒙齋門/昌平鬢出、白河藩士/藩主移封;桑名藩士/1826桑名立教館教授;
藩の教育に尽力、詩文/歌/兵学、1822「白河文庫全書分類目録」24「養病漫録」著、
1828「蒙齋先生文集」31「体認編」、35「桑名志」編、「片山恒齋日記」「薰陶教化録」著、
「扈從西上日記」「重修館記」「恒齋詩文稿」著、
[恒齋(;)の字/通称/別号]字;君彝、通称;鉄之進/理助、
別号;箕山きざん/香雪/得庵/得々山人、諡号;文通先生
- G1932 **浩齋**(こうさい・大郷おおごう/初姓;須子すご、名;博、大郷信齋の養嗣子) 1793-185563 越前鯖江藩士、
藩の世臣/江戸藩邸学問稽古所および麻布学問所の教授、「浩齋遺稿」
[浩齋の字/通称]字;大均、通称;等
- I1993 **亨齋**(こうさい・山本やまもと、名;元恒、有馬立哲男) 1795-185763 和歌山藩儒/山本東籬の養嗣子、
藩校学習館督学、1846「群書治要」翻刻刊行、「奉旨論文」著、
[亨齋の字/通称]字;龜卿、通称;彦十郎
- I1994 **浩齋**(こうさい・長崎ながさき、名;健/字;中正、蓬洲男/本姓荻原) 1799-186466 越中高岡の蘭医者;父門、
高峰幸庵門/江戸で蘭学;大槻玄沢門、帰郷し医業継承/詩;大窪詩仏門/書;市河米庵門、
1818「浩容春興」編、「医学物語」「和蘭医学解嘲」「和魂漢才」「籤舎随筆」「百医蒙求」著、
[浩齋(;)の幼名/通称/別号]幼名;哲次郎、通称;愿禎/言定/玄貞、
別号;養浩齋/清風明月楼主人/鵜郊居士うこうじ、法号;釈香潔
- P1943 **剛齋**(こうさい/どうさい・今田いまだ、名;子順) ?-? 安藝阿賀の俳人;1821頼春風が「剛齋」の額を書く、
[咲くまでと鞠をいつはる主哉](短冊)
- I1995 **弘齋**(こうさい・揚あげ/初姓;上野あげの、名;維馨これか/世晋、上野[揚]分潮男) 1808-6255 讃岐高松藩士、

儒;藤沢東暎門、国学;友安三冬門/熊谷直好門、詩歌/古器鑑定に通ず、「清痴樵歌」著、
[弘齋(;)号)の字/通称/別号]字;子徳/子明、通称;辰之助/晋十郎/小四郎、
別号;静居/対栗山房

- I1996 **皎齋**(こうさい・大須賀おすが、名;清光、別号;蘭齋)1808-7568 岩代会津若松の商家、
絵師;香齋・香村門、歴史画、1852「鶴城風雅集」「会津千代松袖鑑」画
- F1904 **香齋**(こうさい・佐竹さたけ、別号;洞李)?-? 江後期武蔵忍藩士、1835「増補忍名所図会」著
- I1998 **皞齋**(こうさい・木口きぐち、名;簡/字;君懋くんぼう)?-? 江後期天保1830-44頃丹波園部藩儒者;
林述齋[1768-1841]門、「皞齋詩鈔」/1803「皞齋存稿」著
- I1999 **浩齋**(こうさい・青木あおき/伊王野いお、名;坦、田中三郎右衛門男)1814-8370 因幡の医者/蘭学者、
初め仏門;京で修行/還俗;母方の姓伊王野を名乗る、医;長崎で修学/蘭学;箕作阮甫門、
青木繁代よ結婚(妻の姓)、洪庵の適塾入門/1856鳥取藩出仕/68長崎で火薬製法修得、
鳥取藩国産方・記録方・周旋方を勤務、1853「察病亀鑑」訳/59「造消捷徑」著、
[浩齋の幼名/通称]幼名;又次郎、通称;平六/次郎左衛門
- J1901 **浩齋**(こうさい・河又かわまた、名;秀祐)?-? 江後期儒者、1847「浩齋経説」、1848「安命論」
- B1920 **耕齋**(こうさい・橋たちばな、増田甲齋)1820-8566 遠州掛川藩士:職務過失により脱藩/僧籍/無頼の徒、
伊豆戸田村蓮華寺に寄寓/1854戸田村寄港中の露使節「ペテルスブルグ」の通訳ゴシケビチと投合、
露使節に同行し「ペテルスブルグ」滞在/1857ゴシケビチと和露辞典「和魯通言比考」共編、
「ペテルスブルグ」で露婦人と結婚、露外務省日本語通訳・「ペテルスブルグ」大学日本語教師、1874帰国、
[耕齋の通称] 久米蔵/(洗礼:)ウラジミール=ヨシフォビチ=ヤマトフ(大和夫)、
(帰国後改名;)増田甲齋、法号;全生院
- B1919 **興齋**(こうさい・宇田川うだがわ、名;瀛、飯沼慾齋男)1821-8767 美濃大垣江戸藩邸の生/儒;広瀬旭荘門、
漢学;安積良齋門/西洋医学;坪井信道・宇田川榕庵門/師宇田川榕庵の養嗣子、
美作津山藩侍医/幕府天文台の蛮書翻訳従事、「和蘭律書」「万宝新書」訳、「テレグラマー記」、
「居家纂要」「軍陣提要」「安懐堂方函」「興齋交友録」「興齋雑記」「紅梅堂叢書」外著多数、
[興齋(;)字)の号] 紅梅楼
- I1997 **孝齋**(こうさい・奈良なら、名;真令、養齋男)1827-7852 羽後鹿角郡尾去沢の儒者/詩人;大窪詩仏門、
1845-68「奈良猪太郎日記」、50「散花保赤辨」、「奈良養齋家蔵書目録」著、
[孝齋の通称/別号]通称;猪太郎、別号;鋌山ていざん/春吟、法号;春吟院
- J1902 **黄齋**(こうさい・曾根田そねだ、名;正信)1829-? 1878存 和歌山藩士;1836(8歳)家督/1866征長軍従軍、
儒者、1871山口郷学所教官/78致仕、翠陰学校創立、「一夜百首」「園生草」「梅花百律」著、
[黄齋(;)号)の幼名/通称]幼名;楠吉、通称;源介
- J1903 **広齋**(こうさい;号・吉田よしだ)?-? 江後期上州吉井の人、
「多胡三十三番詠歌記」「札所観音奉納帖」著
- J1904 **耕齋**(こうさい・和田わだ、名;耕作)?-? 江後期阿波徳島の人、
1836「世話万字文」-43「關路指南車」著
- J1905 **剛齋**(こうさい/ごうさい・青柳あおやぎ/初姓;吉川)1831-9060 越後三島郡の儒者:昌平黌入、
杉原心齋・佐藤一齋・安積良齋門/帰郷後;菁莪学舎開設;教育者、「剛齋文稿」「孔門宗要」著
[剛齋(;)号)の名/字]名;剛、字;子健
- J1908 **鴻齋**(こうさい・石川いしかわ、名;英)1833-191886 三河豊橋の儒者;西岡翠園門/曾我耐軒門、詩文、
書画、1868芝増上寺の学林教授/何如璋ら清人を交流、1859「学画楷範」著、「必讀書目」編、
[鴻齋の字/別号]字;君華、別号;芝山外史/雪泥処士、法号;雪泥庵
- 甲齋(こうさい・三浦) → 郷彦(くにひこ・三浦みづら/源、藩医/歌) E 1 7 5 4
- 甲齋(こうさい・三上) → 郷喜(くによし・三上みかみ/源、郷彦男/藩医/歌) E 1 7 5 3
- 節齋(こうさい・皆川) → 淇園(きえん・皆川みながわ、儒者) 1 6 0 4
- 江西(こうさい→こうせい) → 龍派(りゅうは・江西こうせい、臨濟僧) 4 9 1 2
- 弘濟(こうさい・今井) → 魯齋(ろさい・今井いまい、藩儒者;史官) B 5 2 5 0
- 弘齋(こうさい・伊藤) → 東峯(とうほう・伊藤、儒者/古義堂5世) H 3 1 1 5
- 弘齋(こうさい・巻) → 菱湖(りょうこ・巻まき/館、書家) H 4 9 4 2
- 弘齋(こうさい・堀尾) → 秀齋(しゅうさい・堀尾、医/儒/神道) X 2 1 2 8
- 江齋(こうさい) → 休甫(きゅうほ・津田、俳人/狂歌) C 1 6 1 0

江齋(こうさい・車屋)	→	道晰(どうせつ・鳥養とりかい、書家/謡本整版)	G 3 1 0 4
缸齋(こうさい・小石)	→	中蔵(ちゅうぞう・小石こいし、医者)	G 2 8 5 9
光齋(こうさい・三輪)	→	執齋(しっさい・三輪みわ/沢村、儒者/歌)	E 2 1 8 8
光齋(好齋こうさい・三木)	→	芳盛(初世よしもり・歌川/三木、絵師)	H 4 7 7 2
光齋(こうさい・岡田)	→	光顕(みつあき・岡田おかだ、代官/歌人)	I 4 1 5 2
行載(こうさい・山県)	→	行載(ゆきのり・山県やまがた、藩士/国学者)	H 4 6 4 2
浩齋(こうさい・尾形)	→	宗謙(そうけん・尾形おがた、商家/書家/光琳の父)	H 2 5 0 5
浩齋(こうさい)	→	桂里(けいり・有持ありもち、医者)	G 1 8 7 8
浩齋(こうさい)	→	周弼(しゅうすけ・青木、蘭医)	H 2 1 8 2
浩齋(こうさい・福田)	→	宗禎(そうてい・福田ふくだ、蘭医者)	I 2 5 5 2
浩齋(こうさい・松田)	→	三千雄(みちお・松田、酒造業/俳/詩)	B 4 1 2 7
浩齋(こうさい・幸山)	→	長遠(ながとお・幸山こうやま、医者/歌人)	K 3 2 8 7
浩齋(こうさい・長崎)	→	健(たけし・長崎ながさき、医者/国学/歌)	Y 2 6 7 0
鴻齋(こうさい・河合)	→	正阿(しょうあ/せいあ・河合、医者/俳人)	Q 2 2 7 0
鴻齋(こうさい・今泉)	→	有善(ありよし・今泉いまいずみ/福井、幕臣/国学)	H 1 0 0 5
耕齋(こうさい)	→	竹翁(ちくおう・橋部、俳人)	C 2 8 6 8
耕齋(こうさい・内田)	→	庸(もちう・内田うちだ、商家/歌人)	B 4 4 3 0
耕齋(こうさい)	→	東山(とうざん・宇野/宇、医/儒者)	E 3 1 5 4
皎齋(こうさい・住田)	→	素鏡(そきよう・住田すみだ、農業/俳人)	D 2 5 4 9
皎齋(こうさい・狩野)	→	宗朴(2代そうぼく・狩野かのう、茶人)	K 2 5 8 8
皎齋(こうさい・喜多山)	→	永隆(ながたか・喜多山きたやま/吉江、国学/兵学)	L 3 2 8 5
広齋(こうさい・千手)	→	廉齋(れんさい・千手せんじゆ/三浦、藩儒)	B 5 1 0 7
宏哉(宏齋こうさい・平尾)	→	魯仙(魯僊ろせん・平尾ひらお、商家/絵師)	C 5 2 0 5
幸哉(こうさい・河原田かわらだ)	→	春江(しゅんこう・河原田、藩士/儒者/兵学)	M 2 1 7 9
幸哉(こうさい・青山)	→	幸哉(ゆきちか・青山あおやま、藩主/蘭学)	E 4 6 8 6
幸哉(こうさい・赤羽)	→	幸哉(ゆきちか・赤羽あかばね、歌人)	G 4 6 4 1
幸齋(そうか・志水)	→	清久(きよひさ・志水しみず、藩士/歌人)	U 1 6 4 5
幸載(2世こうさい)	→	種通(たねみち・吉雄よしお、蘭外科医)	S 2 6 0 8
高齋(こうさい)	→	正則(まさのり・福島、武将/藩主/連歌)	F 4 0 9 2
高齋(こうさい)	→	単山(たんざん・高齋/滝沢、書家/詩人)	I 2 6 7 7
蒿齋(こうさい・石野/佐々木)	→	万彦(まひこ・佐々木、幕臣/歌人)	L 4 0 0 0
蒿齋(こうさい・伴林)	→	光平(みつひら・伴林ばんばやし、国学/歌)	4 1 3 0
篁齋(こうさい・山島)	→	守良(もりよし・山島やましま、和算家)	G 4 4 9 3
篁齋(こうさい・中西)	→	有恭(ありやす・中西なかにし/横橋、神職)	I 1 0 1 2
篁齋(こうさい・中村)	→	直方(なおかた・中村なかむら、国学者)	O 3 2 1 1
篁齋(こうさい・広田)	→	正陽(まさはる・広田ひろた/度会/中須、神職/絵師)	S 4 0 2 1
恒齋(こうさい)	→	式如(のぶゆき・田中、神道家)	D 3 5 6 3
恒齋(こうさい)	→	正義(まさよし・杉山、藩士/漢学;易学)	I 4 0 4 9
恒齋(こうさい)	→	友信(とものお・賀茂/幸徳井、陰陽/暦学)	Q 3 1 1 8
恒齋(こうさい)	→	式如(のぶゆき・田中/松浦、神道家)	D 3 5 6 3
恒齋(こうさい)	→	治脩(はるなが・前田、藩主/日記)	G 3 6 6 3
恒齋(こうさい)	→	祐啓(ゆうけい・高島たかしま、幕府医官)	B 4 6 3 7
恒齋(こうさい)	→	常明(つねあき・関せき、医者/神職)	F 2 9 8 6
剛齋(こうさい・飯田)	→	桂山(けいざん・飯田、醸造業/詩人)	D 1 8 4 8
剛齋(こうさい・七里)	→	長行(ながゆき・七里しちり/源、藩士/国学)	K 3 2 1 5
亨齋(こうさい)	→	蟠龍(ぼんりゅう・井沢いざわ、藩士/神道家)	I 3 6 6 6
宏哉(宏齋こうさい)	→	魯仙(ろせん・平尾、絵師/国学/俳人)	C 5 2 0 5
宏齋(こうさい)	→	信任(のぶただ・河口かわぐち、蘭医)	B 3 5 8 4
幸哉(こうさい・青山)	→	幸哉(ゆきちか・青山、藩主/蘭学)	E 4 6 8 6
惶齋(こうさい・原田)	→	高恵(たかしげ・原田、神職)	M 2 6 0 3

惶齋(こうさい・手島) → 毅庵(きあん・手島てしま、心学者) J 1 6 5 3
 公菜(こうさい・松平) → 頼救(よりすけ・松平/徳川、藩主/俳人) I 4 7 8 1
 公濟(こうさい・七五三) → 長齋(ちようさい・七五三しめ、国学/俳人) I 2 8 3 8
 広濟(こうさい・原) → 広濟(ひろなり・原はら、国学) K 3 7 7 0
 公齋(こうさい・安田) → 玉海(ぎよくかい・安田やすだ、医者) O 1 6 8 4
 公裁(こうさい・佐伯/田上/緒方) → 洪庵(こうあん・緒方、蘭医/教育) 1 9 6 9
 公宰(こうさい・木下) → 相宰(すけただ・木下きのした、医/絵師/歌) I 2 3 3 4
 慳齋(こうさい・鍋島) → 直正(なおまさ・鍋島なべしま、藩主/詩歌) C 3 2 4 7
 公宰(こうさい・木下) → 相宰(すけただ・木下きのした、医/絵師/歌) I 2 3 3 4
 厚齋(こうさい・脇田) → 信親(のぶちか・脇田、医者) B 3 5 9 9
 厚齋(こうさい・貝原) → 耻軒(恥軒ちけん・貝原かいはら、儒者/史学) E 2 8 0 5
 厚載(こうさい・徳田/金子) → 厚載(あつなり・金子かねこ、藩士/測量/歌) E 1 0 7 9
 厚載(こうさい・井上) → 頼因(よりに・井上、国学者/歌人) I 4 7 6 0
 康哉(こうさい・牧野) → 康哉(やすとし・牧野まきの/源、藩主/詩人) C 4 5 2 6
 康哉(こうさい・茶室) → 康哉(やすなり・茶室ちやしつ、暦算家/歌人) C 4 5 4 7
 康哉(こうさい・高本) → 康哉(やすなり・高本たかもと、歌人) E 4 5 9 1
 康濟(こうさい・牧野) → 康濟(やすなり/やすまさ・牧野/源、康哉男/藩主/詩) C 4 5 5 0
 康濟(こうさい・松平) → 康濟(やすずみ・松平まつだいら、幕臣・和学) G 4 5 7 2
 康濟(こうさい・松平) → 康濟(やすなり・松平まつだいら、藩家老) C 4 5 4 6
 拘齋(こうさい・原田) → 嘉朝(よしとも・原田はらだ、国学/歌人) O 4 7 6 7
 鉤齋(こうさい・直江) → 兼統(かねつぐ・直江なおえ、武将/軍法) C 1 5 8 4
 衡齋(こうさい・直海) → 元周(げんしゅう・直海なおみ、本草家) J 1 8 5 9
 好齋(こうさい・大倉) → 信古(のぶひさ・大倉おおくら/菅原、鑑定家) H 3 5 6 5
 好濟(こうさい・潮田) → 万季(ばんり・潮[塩]田しおだ/桑野、俳人) I 3 6 6 2
 崗齋(こうさい・若井) → 光次(みつぐ・若井わかい、漆器/国学) K 4 1 9 6
 拱齋(こうさい・岩窪/呉) → 北溪(ほっけい・魚屋ととや、商家/絵師) E 3 9 6 0
 孝濟(こうさい・福岡) → 孝濟(たかのり・福岡ふくおか、教育家) M 2 6 8 7
 好在(こうざい・小森/伊良子) → 道牛(どうぎゅう・伊良子いらこ、蘭医) C 3 1 7 2
 好材(こうざい・国沢) → 好材(よしき・国沢くにさわ、藩士/国学者) M 4 7 5 7
 孝在(こうざい・今大路) → 孝在(たかあり・今大路いまおおじ、近衛家家臣) L 2 6 5 5
 幸在(こうざい・山本) → 広満(ひろみつ・山本やまもと、国学者) H 3 7 3 9
 剛齋(こうざい) → すべて剛齋(こうざい)
 豪濟(こうざい) → 観国(かんこく; 法諱、天台僧) Q 1 5 4 6
 香細園(こうさいえん) → 美郷(よしさと・森寺もりでら/柳田、歌人) D 4 7 4 6
 咬菜軒(こうさいけん) → 友甫(ゆうほ; 号・山田やまだ、俳人) D 4 6 7 5
 咬菜軒(こうさいけん) → 俊貞(としさだ・坂本/阪本、砲術家) M 3 1 4 8
 弘濟和尚(こうさいおしょう; 諡) → 道光(どうこう; 法諱・了恵、浄土僧) D 3 1 9 9
 弘濟慈徳禅師(こうさいじとくぜんじ) → 梅崖(せんがい; 法諱・奕堂、曹洞僧) F 2 4 9 2
 浩齋主人(こうさいしゅじん) → 長道(ちようどう・村井、能楽研究) 2 8 5 5
 広濟禅師(こうさいぜんじ; 諡) → 高山(こうざん; 道号・慈照、臨濟僧、連歌) J 1 9 1 3
 広濟禅師(こうさいぜんじ・泰定) → 智明(ちみょう・ちみん・蒙山、臨濟僧) F 2 8 4 3
 厚菜亭(こうさいてい) → 利躬(りきゅう・坂本さかもと、俳人) 4 9 5 9
 咬菜堂(こうさいどう) → 桂南(けいなん・植田うえだ、儒者/故実) E 1 8 7 6
 江西文内(こうさいぶんない) → 常省(じょうせい・中江なかえ、漢学者) T 2 2 8 3
 江西坊(こうさいぼう) → 鷺洲(鷺舟/魯洲ろしゅう・長野ちようの、俳人) B 5 2 6 4

C1919 幸左衛門(こうざえもん・竹島たけしま、伝助男)?-1712 歌舞伎役者、武道実事、座本

J1906 幸左衛門(こうざえもん; 通称・児島こじま、名; 徳貫/徳淳)?-? 江中期1751-81頃尾張藩士; 1750地方目付、
1751林奉行/64郡奉行、55「地方品目解」/75「尾張檢地古伝」著、75「税賦便略」編

幸左衛門(こうざえもん・吉雄) → 耕牛(こうぎゅう・吉雄よしお、通詞/蘭医) E 1 9 9 5

幸左衛門(こうざえもん・舟橋) → 川辺鷺(かわべのが、舟橋、狂歌) H 1 5 9 2

幸左衛門(こうざえもん・塩見) → 利次(としつぐ・塩見しおみ、藩士/記録) M 3 1 8 6
 幸左衛門(こうざえもん・堀内) → 千班(せんぱん・堀内ほりうち、俳人) N 2 4 6 8
 幸左衛門(こうざえもん・草間) → 正雄(まさお・草間くさま、藩士/茶華道/日記) B 4 0 4 1
 幸左衛門(こうざえもん・森崎) → 是空(ぜくう・森崎もりさき、吏員/俳人) K 2 4 5 6
 幸左衛門(こうざえもん・野矢) → 為政(ためまさ・野矢のや、藩士/国学者) Y 2 6 9 3
 幸左衛門(こうざえもん・鈴木) → 泰輔(やすすけ・鈴木すずき/水野、国学/歌) G 4 5 0 6
 甲左衛門(こうざえもん・柳沢) → 里水(りすい・柳沢やなぎさわ、俳人) B 4 9 2 8
 郷左衛門(こうざえもん・竹内) → 軌定(のりさだ・竹内たけのうち、藩士/史家) E 3 5 5 3
 郷左衛門(こうざえもん・池上) → 陳暁(のぶあき・池上いかがみ、藩士/勤王) H 3 5 3 0
 郷左衛門(こうざえもん・池上) → 重樹(しげき・白木しらき、宿場本陣/歌) O 2 1 9 6
 郷左衛門(こうざえもん・松井) → 興孝(おきたか・松井まつい、藩士/国学) E 1 4 1 3
 剛左衛門(こうざえもん・吉川) → 重貴(しげたか・吉川きつかわ、国学者) O 2 1 2 6

J1907 **幸作**(浩策こうさく・長尾ながお、改名;土居咲吾[笑吾]しょうご)?-1877? 江後期備後尾道の人、
 1860遣米使節咸臨丸提督木村芥舟従者、帰郷;尾道で父の医業継承、日本理髪師の先駆?
 「亜行記録」「亜行日記鴻目魁耳」著

R1947 **興作**(こうさく・山下やました、号;栗園、旧姓;芝) 1843-1920 78 伊予吉田の国学者/歌人、宇和郡長、
 芳太郎よしたろう(住友総本店支配人/仮名文字運動家)・興家おきい(鉄道技師/人事官)の父

幸作(こうさく・藤村) → 市嵐(しらん・藤村ふじむら、俳人) M 2 2 9 4

幸作(こうさく・福嶋) → 東雄(はるお・福嶋、名主/国学/地誌) G 3 6 0 2

幸作(こうさく・吉村) → 千春(ちはる・吉村よしむら、藩士/国学者) F 2 8 2 0

幸作(幸朔こうさく・吉雄) → 耕牛(こうぎゅう・吉雄よしお、通詞/蘭医) E 1 9 9 5

耕作(こうさく・和田) → 耕斎(こうさい・和田わだ、文筆家) J 1 9 0 4

耕作(こうさく・村上) → 義曜(よしあき・村上むらかみ、名主/歌人) P 4 7 5 2

行察(こうさつ・人見) → 雪江(せつこう・人見、幕臣/儒者/詩) K 2 4 8 8

好察(こうさつ・国沢) → 好察(よしあきら・国沢くにさわ、藩士/国学) M 4 7 5 6

孝三郎(こうさぶろう・服部) → 応賀(おうが・万亭まんてい、合巻/滑稽本) B 1 4 6 2

孝三郎(こうさぶろう・靱山/久米) → 駿公(しゅんこう・久米/靱山、藩士) M 2 1 8 0

幸三郎(こうさぶろう・久志本) → 常達(常達ねみち・久志本/度会、神職/国学) D 2 9 8 7

幸三郎(こうさぶろう・山田) → 兵左衛門(へいざえもん・山田、藩士/儒) 2 7 3 6

幸三郎(孝三郎こうさぶろう・久米) → 幹文(もとぶみ・久米/石河、藩士/国学) E 4 4 2 3

幸三郎(こうさぶろう・坪井) → 貞之(さだゆき・坪井つばい、国学者) Q 2 0 9 9

幸三郎(こうさぶろう・中根) → 忠富(ただとみ・中根なかね、藩士/家老/歌) Y 2 6 5 8

弘三郎(こうさぶろう・取田) → 正紹(まさつぐ・取田/橘、藩士/武家故実) D 4 0 9 6

弘三郎(こうさぶろう・江尾) → 兼参(かみつ・江尾えお、鉄山経営/国学) T 1 5 8 2

恒三郎(こうさぶろう・奥埜) → 弘光(ひろみつ・奥埜おくの、寺院侍臣/歌) I 3 7 9 4

剛三郎(こうさぶろう・山口) → 剛斎(こうさい/ごうさい・山口、藩儒者) B 1 9 1 5

J1900 **広算**(こうさん・法印、藤原広業男) 1012-? 平安中後期天台叡山僧/延暦寺塔頭無動寺検校、法印、
 無動寺賢聖院で1062「無動寺和尚賢聖院歌合」主催、
 [千歳ふるたづの声こそ聞こゆなれけさ白露や置きまさるらむ](賢聖院歌合;二番右4)

J1909 **江棧**(こうさん・信国のぶくに/神、名;俊寿?)?-1767 50歳頃没 福岡の刀工;父門/俳人:野坡門、
 家業を弟光昌に譲渡、1748(寛延元)頃上京;師の無名庵執事/64(明和元)福岡に帰郷、
 1762「季寄早合点」著、「高津野翁[野坡]二十五図」編纂中に没、
 [江棧の別号] (初号;)紅棧、筑紫房/左右庵/大和守

J1910 **光璨**(こうさん・法諱) ? - ? 江後期1804-44頃天台僧;横川慧心院住;大僧正、
 1840「輪王寺宮御名代記」、「法華三昧法」「勸学会大学頭記」著

J1911 **江三**(こうさん・村井むらい) 1796-1870 75 陸前伊具郡の俳人/伊達安藝守家臣?/20歳頃から諸国行脚、
 京の二条家の愛護を受;陸奥道人の雅号/帰郷後俳諧指導、1822「落栗集」30「松供養」編、
 1840「筆塚集」67「続月夜塚集」編、「むつのゆかり」著、一日庵号は門人伊沢江二が継承、
 [江三の別号/通称]別号;一日庵/陸奥道人/陸翁遊人、通称(晩年);福田の翁/椎の本宗匠
 好算(こうさん・岩田) → 好算(こうさん・岩田いわた、和算家) J 1 9 1 2

高算(こうさん;字) → 懐玄(かいげん:法諱・高算、真言僧) I 1 5 6 0
亢三(こうさん・徳田/鳥居) → 清種(きよたね・鳥居/徳田、絵師) P 1 6 8 6
行三(こうさん・半井/和氣) → 柳斎(りゅうさい・和氣わけ/半井、藩儒) E 4 9 0 4
興三(こうさん・中村) → 尚輔(ひさすけ/なのおすけ・中村、藩士/国学者) B 3 7 1 7
孝鑽(こうさん・淡川) → 孝鑽(たかよし・淡川あわか、官人/歌人) V 2 6 3 2

- J1913 高山(こうざん:道号・慈照:法諱、初諱;心鏡、諡;広濟禪師、俗姓菅原) 1266-1343 78 京白川の生、2歳で父と死別/1279(14歳)出家/天台止観を修学/東大寺戒壇院で具足戒を受、臨濟僧;無本覚心(むほんかくしん/心地)門;法嗣、鎌倉五山に修行/紀伊大慈寺の住持、足利直義招請;京万寿寺14世/のち建仁寺26世、1340;6月大旱に奇瑞顕す(高山禪師塔銘)、連歌:菟玖波3句(釈教687/恋753/雑1438/高山上人名)入、
[いさぎよき心を月にかけてしより](菟;釈教687/前句;むさしきものと我身をそしる)
- J1914 嵩山(こうざん・すうざん・池田いけだ、名;正直) ?-1677 周防岩国藩医/治痘法;渡来人戴曼公門、但し嵩山が岩国藩にいた記録はない(曾孫錦橋が池田家伝説を創作したか?)、「治痘方論」、「池田痘疹考」「治痘治術伝」「治痘方函」「戴曼公痘唇舌秘訣」「戴曼公痘瘡百死証伝」外多数、
- G1933 岡山(こうざん・淵ぶち/本姓;大神、名;宗誠/惟元/友) 1617-1686 70 仙台の儒者・中江藤樹門/高弟、伊達家家臣/のち旗本一尾伊織に出仕/師没後京住;1674西陣に藤樹祠堂と学館設置、「岡山先生示教録」(北川親懿ちかよし編)、「岡山先生書簡」著、
[岡山(:号)の通称] 四郎右衛門/源兵衛/源右衛門、伯養(惟直)の父
- J1915 香山(こうざん・森川もりかわ、名;秀一/宗一、惣右衛門男) 1631-1701 71 因幡三木の弓術;父門:寿徳派、日置流弓術;外祖父花房惣十郎門、諸国遊歴:弓道十三家の奥義修得、逸見流;熊谷天存門、弓術大和流(香山流)を創始(祖)、幕府与力/下野烏山藩弓術師範、1688(貞享5)肥前島原藩主松平忠房に出仕(250石)、門人;松平勝昭・川鍋正繁など名手を輩出
1664「射法指南」、「本朝射術系図」「大和流弓之系図」「大和流小的全鑑」「犬追物秘伝抄」著、
[香山(:号)の通称/別号]通称;左内/惣兵衛/四郎左衛門尉、別号;観徳軒、松平勝昭・川鍋正繁の師
- J1916 幸山(こうざん) ? - ? 江前期奈良(南都)の俳人;
1690言水「新撰都曲」/1690順水「破曉集」入、
[白魚しらうをに大虚おおぞり掬うたせ磯の松](新撰都曲みやこぶり;下421)
(春の波が高く白い波頭を立てている様子)
- J1917 行山(こうざん) ? - ? 俳人;1691北枝「卯辰集」入、
[疲れ鶴や垂れ羽は干す間まの峰の月](卯辰集;上二227)
- J1918 光山(こうざん) ? - ? 僧/俳人;1691北枝「卯辰集」2句入
[よしあしを言はで守もるはかゞしかな](卯辰集;上三417)
(案山子に比して人は是非の理屈が多すぎる)
- J1919 紅残(こうざん) ? - ? 京の俳人;1702轍士「花見車」入
[男から負けてかゝりし夜寒哉](花見車;四150せんじゅ名)、
(晩秋の夜の夫婦げんかは男から折れて負けてやる)
- J1920 恒山(こうざん:道号・快順かいじゆん:法諱) ?-1763 但馬曹洞僧;桃溪甫仙門/嗣法、但馬永源寺11世、但馬徳養寺7世/弥勒寺7世、「甫仙和尚年譜」
- J1921 黄山(こうざん・菊池きくち、増田正宅まさい2男) 1697-1776 80 讃岐高松の儒者;宮村荊山門、左伝修学;岡井氷室門/藩校講道館儒員、1751高松藩儒:侍読、家塾開設;子弟教育、増田休意の弟、室山の養父、菊池高洲・後藤芝山の師、「讃州府志畧面集」著、休意「聾聵ろうかい筆談」改訂、子孫は代々藩校講道館教授、
[黄山(:号)の名/字/通称/別号]名;元仲(:初名)/武賢たけまさ/たけかた、字;庭実、通称;八右衛門/綾小路左太夫/入江只吉、別号;崧溪すうけい/青河牧
- J1922 光山(こうざん・本阿弥ほんあみ、別名;親矩、光甫男/本姓菅原) ?-1714 京の鑑定家/宗家光室の養子、大学法橋、1714「光山押形集」、光伝・光由の兄弟、孫光顕の養父
- J1924 恒山(こうざん:道号・画竜がりゅう:法諱) 1718-92 75 曹洞僧;直指玄端門/法嗣、1765宇治興聖寺19世、

撰津景福寺26世、撰津福昌寺自牧庵開山、「重離晝變異辨」、1789「心銘夜塘水」著

- G1934 **黄山**(こうざん・関口せきぐち、名;忠貞、書家関口金鶏男)1718-45**早世**28 江戸小石川儒者;太宰春台門、書;父門/関鳳岡門、幕府先鋒隊騎士;辞退、講説・書を教授、魏晉六朝の典詁・六書に精通、上代音訓・国訓の研究「皇和音韻」編纂中病没、「篆彙」著、「黄山遺稿」、
[黄山(;)の字/通称]字;世篤、通称;貞助/嘉平、少年時;六朝史童りくちゅうどうと称される
- J1923 **甲山**(こうざん;組連) ? - ? 江中期常陸辰の口の雜俳の組連、
取次;1746・48「雲鼓評万句合」入、
取次例;[いろいろな夜よの明け渡る常陸帯](1746万句合/前句;願ひこそすれ々々)、
(鹿島神宮の縁結神事/男女が名を書いた帯を神前に置き神主が占い神託を待つ)
- B1947 **耕山**(こうざん・船田ふなだ、名;雅通/通称;甲四郎)1724-62**39** 江中期江戸の書家;長雄耕雲門、1754「鳴鳳帖」「耕山書札集」/58「船田今川」、「書札心得集」「諸札要用」「角田川詣集」著
- J1925 **香山**(こうざん・榊原さかきばら、名;長俊ながとし)1734-97**64** 幕府世臣/江戸の故実家;伊勢貞丈門、武器研究家;武器製作、1754・83駿府勤番、1779「本邦刀剣考」83「駿河国志」(8巻)著、1788「宮城炎上記」「赤鳥考并鳥再考」、「中古甲冑製作弁」「東鑑目録」著、
[香山の字/通称/別号]字;子章、通称;一学、別号;五陵/忘筌斎ぼうせんさい
- G1935 **香山**(こうざん・石川いしかわ、名;安貞)1736-1810**75** 尾張鳴海の医;浅井凶南門/儒;深田厚斎門、
経史;小出慎斎門/1777尾張名古屋藩主の近侍;講説/83藩校明倫堂典籍/督学/学政参画、
「五史要覧」「香山詩鈔」「香山集」「香山文稿」、「侍座漫草」1770「金鏡管見」1800「聖学随筆」、
1800「聖学随筆」「勸学俗訓」、01「代奕雜抄」/01「唐宋八代家文楷」編、「鳴海史」「玉山文集」著、
[香山の字/通称/別号]字;順夫、通称;忠次/貞一郎、別号;覚斎
- G1936 **香山**(こうざん・平沢ひらさわ、名;尚徳、)1737-1802**66** 豊前小倉藩儒;藩校思永斎入学・増井玄覧門、
1781-89頃藩主小笠原忠総の近習;江戸在勤;御書齋頭、江戸藩邸学問所思永館助教、
「訓蒙歌志」著、
[香山の字/通称/別号]字;君卿/実幹、通称;弥一左衛門/新蔵、別号;徹山/一夢/依竹斎
- J1926 **衡山**(こうざん・成島なるしま、北角久瑑さきゅうてん勝有2男)1748-1815**68** 母;星野長兵衛女、
成島竜洲(和鼎かざさだ/かざかね)の養嗣子、幕臣;1776小十人格奥詰/88大番格/95御書物奉行、
漢学者/歌;冷泉家入門、1788(天明8)公務で駿河に旅;紀行歌文日記「富士日記」著、
1791「すまひの記」/91「衣冠掌故」編、95「勝金の御狩」98「外山の紅葉」、「そゝくり物語」著、
「金菟記」「松虫鈴虫の名の辨」「横山集」「流鏑馬記」「勝雄歌文集」著、成島司直もとなおの父、
1798広道「霞関集」入(養父和鼎と入)、
[箱根山岩根はるかに登りきて猶空高くむかふ富士のね](富士日記;成島峰雄名)、
[今よりのなべてこのめの春の色をまづ知る宿の松高き陰](霞関;春19)、
[衡山(;)の名/字/通称/別号]名;勝雄かつお/峰[嶺]雄、字;叔蔵/叔飛、
通称;仙蔵/千蔵/僊蔵、別号;芙蓉楼、法号;金色院
- J1927 **衡山**(こうざん・川越かわごえ、名;正淑、典薬頭関せき海南[公善]男/本姓源)1758-1828**71** 医者;
中西深斎門;古医方を修学;師の嗣/別れて自説を主唱;門弟多数、
1809典薬寮医師/23従五下佐渡守、
「傷寒論紀聞」「傷寒論辨書」「古方拔萃」/1797「傷寒薬品体用」1816「傷寒論脈証式」著、
[衡山(;)の字] 君朋/大亮、 有邦の父
- J1928 **虹山**(こうざん・坪井つばい、名;臣/字;仲隣)1760-1846**87** 阿波名西郡尼寺村の儒者;1775上京、
詩文;皆川淇園門、諸国遊歴;頼山陽・篠崎小竹・後藤松陰・浦上春琴と交流、
柴野碧海と「資治通鑑綱目」に訓点を施す、詩/画に長ず、1839「蝙蝠集」・45「蝙蝠後集」著
- J1929 **篁山**(こうざん・松枝まつえだ、名;秋民、字;春卿)1772-? 1792**存** 江中期名古屋の儒者/詩、
「篁山詩集」著
- J1930 **皓山**(こうざん・水野みずの、名;広業)1777-1846**70** 京の本草家;小野蘭山・山本亡羊門、
1799師亡羊らと京円山芙蓉楼で「詩経草本多識会」催、「皓山随筆」「皓山樹木考」、
「皓山日記」「皓山続記」「皓山漫筆」「皓山裸件簿」「雞窓随筆」「古名類聚」、1815「可侍録」編、
「伊吹山採薬記」「物産余録」「物産目録」「物品類考」「諸書物産抄録」「本草溯洄」外著多数、
[皓山の字/通称/別号]字;士勒、通称;源之進、別号;新斎/観生堂
- J1931 **交山**(こうざん・松本まつもと/本姓;上条、名;機)1784-1866**83** 江戸深川八幡社境内の茶屋松本の主人、

絵師:文晁門、法眼、1808「おくの細道」/22棕窓「おくの細道」画譜/27「武蔵野夜話」画、
「万葉集草木考」画、
[交山(；号)の字/通称/別号]字;真宰/大椽、通称;二郎吉/文右衛門/久兵衛/大学、
別号;亀交山/七草庵、屋号;松本、法号;空誉如蟬信士

- G1937 **香山**(こうざん・井部いべ、名;鳴) 1793-185361 越後中頸城郡旭村の儒者;1820(27歳)葛西因是門、
師因是の養子;復姓、越後高田藩儒、1843浜松藩主水野忠邦の招聘、
「大学講義」「詩文集」、「香山先生詩稿」著/「香山遺稿」、
[香山の字/通称/別号]字;子鶴、通称;万三郎、別号;荃斎せんさい/五華山人、健斎の養父
- J1932 **衡山**(こうざん・香坂こうさか、名;昌直/通称;登) ?-1833 米沢藩儒/江戸で古賀精里門;朱子学を主唱、
藩校興讓館に出仕;古学者神保蘭室に排斥/19提学;子弟を多く古賀門に修学/藩校総監、
1806「衡山先生丙寅稿」著
- J1933 **鴻山**(こうざん・高井たかい、名;健、熊太郎男/本姓;平) 1806-8378 信州高井郡小布施の農業兼豪商、
1820上京遊学/儒;摩島松南門/書;貫名海屋門/画;岸駒・岸岱門、歌;城戸千楯門、26帰郷、
妻帯/1827再上京;儒;梁川星巖門/江戸で佐藤一斎門/36天保飢饉で帰郷;窮民救済、
經学・参禅;活文禅師門/佐久間象山と同門、1842-48葛飾北斎が4度来訪、53江戸で攘夷活動、
1861其角堂永機と連歌「妖怪歌仙」、66「幕府改革意見書」提出、維新後は私塾で教育、
[鴻山(；号)の字/通称/法号]字;士順、通称;三九郎、法号;耕文院、(書斎;)脩然楼ゆうぜんろう
- J1934 **恒山**(こうざん・道号・鉄磨てつま、法諱) ?-1839 曹洞僧;伯耆退休寺10世閑浪磨甄まぜん門/法嗣、
伯耆退休寺11世/常栄寺・安福寺・洞禅寺住寺、「退休寺由来記」著
- B1921 **黄山**(こうざん・吉原よしから、名;光仲) ?-1854 尾張藩士/大番組・馬廻組/南天道町住、
俳人;士朗門、狂歌、東海はるみ(酔雨/俳人・書家)の父、
1853「画像百人集」編/「熱田本社奉額写俳諧一軸」、「尾張名所尽し」「尾張新大根」著
[菜の花や伊勢と大和は春の国]、
[黄山(；号)の通称/別号]通称;五左衛門/数馬、
別号;竹意庵/弓箭為丸きゅうせんためまる(狂歌号)、法名;津梁院
- J1912 **好算**(こうざん・岩田いわた、名;専平) 1812-7867 江戸の関流和算家;馬場正統門、
「損益差起源」「圭寶形考」著、「古今算鑑解義」編、1866「岩田氏算題之自解」著
- J1935 **黄山**(こうざん・中島なかじま、名;淳/龔) 1815-70656 岩代二本松の蚕卵紙販売商/儒者;堯民門、
諸国歴遊/二本松藩儒/維新後新潟県大属、書家、「池南草堂録」「中庸解」「月課私録」著、
[黄山(；号)の字/通称/法号]字;大初/君敬、通称;長蔵、法号;長養院
- J1936 **衡山**(こうざん・川本かわもと、名;貞) 1827-6337 武州八王子の千人同心、詩人;遠山雲如門、
大沼枕山と交遊/1863將軍家茂上洛の折に警固;途次遠州掛川で病死、1853「于役唵草」、
1856「雑花恠石集」60「峡中紀遊草」著、
[衡山(；号)の字/通称]字;輔卿、通称;豊吉
- R1907 **黄山**(こうざん・中村なかむら、通称;吉兵衛) 1838-9962 近江蒲生郡の歌人;[鳩のうみ]入
 広山(こうざん;号) → 亮海(りょうかい;法諱・広山、天台僧) G 4 9 7 4
 恒山(こうざん・堀田) → 六林(ろくりん・堀田、藩士/詩/俳人) B 5 2 1 8
 恒山(こうざん・畑) → 鶴山(かくざん・畑はた/錢/元木、医者/儒) J 1 5 9 1
 恒山(こうざん・畑) → 柳啓(りゅうけい・畑はた/南山、医者) D 4 9 5 4
 恒山(こうざん・本多) → 助実(すけざね・本多ほんた、藩主/歌) H 2 3 8 8
 香山(こうざん;号) → 宗朗(しゅうろう;法諱・若拙、本願寺派僧) Y 2 1 5 2
 香山(こうざん;号) → 虎班(こはん;法諱、曹洞僧/詩) N 1 9 5 2
 香山(こうざん・山本) → 復斎(ふくさい・山本、酒造業/儒/講説) B 3 8 5 1
 香山(こうざん・橘) → 泰(とある・橘たちばな、書肆/国学/篆刻) I 3 1 7 8
 香山(こうざん・和田) → 寧(やすし・和田わた、和算家) B 4 5 6 1
 香山(こうざん) → 信鴻(のぶとき・柳沢、米翁、藩主/俳人) C 3 5 2 8
 香山(こうざん・高森) → 観好(かんこう・高森たかもり、蘭学者) Q 1 5 4 3
 香山(こうざん・脇坂) → 安斐(やすあや・脇坂わさきか/藤堂、藩主/歌) H 4 5 0 3
 岡山(こうざん・菱川) → 秦嶺(しんれい・菱川/菱、儒者/藩儒) 2 2 9 4
 江山(こうざん・山鹿) → 素行(そこう・山鹿やまが、儒/軍学者) 2 5 2 2

江山(こうざん・関根)	→	趙斎(ちょうさい・関根せきね、書家/歌)	I 2 8 3 9
江山(こうざん・三宅)	→	正武(まさたけ・三宅みやけ、幕臣/和学)	S 4 0 8 6
更山(こうざん・松平)	→	綱国(つなくに・松平まつだいら/氷見、世嗣)	G 2 9 3 9
甲山(こうざん・春田)	→	永年(ながとし・春田はるた、具足師/故実)	3 2 1 2
弘山(こうざん・石井)	→	樟斎(しょうさい・石井いひ、儒者/書家)	I 2 2 9 8
好山(こうざん・山口)	→	安良(やすよし・山口やまくち、醸造業/国学)	D 4 5 5 7
功山(こうざん・田辺)	→	茂啓(もけい・田辺たなべ、記録)	B 4 4 1 5
幸山(こうざん・武藤)	→	四方作(よもさく;通称・武藤むとう、槍術家)	I 4 7 3 0
幸山(こうざん;号)	→	杲照(こうしょう;法諱、真言僧/歌人)	Q 1 9 8 8
高山(こうざん・野中)	→	兼山(けんざん・野中のなか、藩家老/儒者)	1 8 1 4
肯山(こうざん)	→	綱村(つなむら・伊達、藩主/詩)	B 2 9 3 7
紅山(こうざん・西山)	→	則休(のりやす・西山、藩士/武道家)	G 3 5 0 6
紅山(こうざん・山屋)	→	勝秀(かつひで・山屋やまや、藩士/和漢学)	N 1 5 8 0
公山(こうざん)	→	角洲(かくしゅう・加古かこ、医者)	J 1 5 9 7
黄山(こうざん・畑)	→	柳安(りゅうあん・畑はた/安藤、医者/教育)	C 4 9 6 5
黄山(こうざん・末田)	→	眞穂(まほ・末田すえだ、神職/国学)	Q 4 0 3 2
衡山(こうざん・堀池)	→	敬久(たかひさ・堀池ほりいけ、藩士/和算家)	M 2 6 9 6
考山(こうざん・水野)	→	忠精(ただきよ・水野、藩主/老中/歌人)	F 2 6 0 3
光山(こうざん;法号)	→	忠房(ただふさ・近衛、左大臣/尊攘派)	Q 2 6 7 5
絳山(こうざん・露木)	→	繁(しげる・小枝さえだ、露木つゆき、幕臣/読本作者)	D 2 1 4 1
鉦山(こうざん・本間)	→	忠(ちゅう・本間ほんま、儒者)	F 2 8 7 0
向山(こうざん・広沢)	→	眞臣(さねおみ・広沢/柏村/波多野、藩士/日記)	E 2 0 8 6
興山(こうざん・役)	→	藍泉(らんせん・役えき/島田、修験僧/詩人)	C 4 8 8 3
興山(こうざん・徳川)	→	慶喜(よしのぶ・徳川/一橋、最後の将軍)	F 4 7 7 4

J1937 **鼈山**(こうざん・楠本くすもと、名;長弘、楠本[矢野]池右衛門男)1748-1824⁷⁷ 父の代に楠本に改姓、徳島藩士;家督、儒者:仲道斎門/訓詁学;門人多数、「鼈山集」「論語註解」「左氏伝肯繁」著、[鼈山(;号)の字/通称]字;穀卿、通称;一之進

J1938 **鼈山**(こうざん・中山なかやま、名;驪/字;士驪しりゅう、城山男)1789-1815^{早世}²⁷ 讃岐の漢学者:父門、1803(15歳)家塾で父の代講、上京;泉涌寺で論語を・醍醐山で莊子を講義、「春秋探頤」著、「鼈山遺稿」

J1939 **豪山**(こうざん、別号;隅田亭/元峰ごっぽう/門松子)?-1832 江後期江戸の俳人:蓼太門、「真砂集」編

高山院(こうざんいん)	→	吐月(とげつ;法諱、真宗本願寺派僧)	L 3 1 6 5
高山院(こうざんいん)	→	高虎(たかとら・藤堂、武将/藩主)	D 2 6 3 1
香山院(こうざんいん)	→	竜温(りゅうおん;法諱・雲解、大谷派学僧)	D 4 9 1 0
江山翁(こうざんおう)	→	詩仏(しぶつ・大窪、儒/詩人)	2 1 3 2
江山画屋(こうざんがおく)	→	東萊(とうらい・東あずま、絵師/詩人)	H 3 1 9 5
緱山憲(こうざんけん)	→	時憲(ときり・山本やまもと、藩士/暦算家)	J 3 1 7 8
高山公(こうざんこう)	→	高虎(たかとら・藤堂、武将/藩主)	D 2 6 3 1
高山寺殿(こうざんじどの)	→	家基(いえもと・近衛、関白/歌人)	1 1 6 7
黄山舎(こうざんしゃ)	→	車大(しゃだい・暮柳舎3世、俳人)	G 2 1 4 5
興山上人(こうざんしょうにん)	→	応其(おうご;法諱・木食、真言僧/連歌)	1 4 0 1
絳山樵夫(こうざんしょうふ)	→	繁(しげる・小枝さえだ、露木、幕臣/読本作者)	D 2 1 4 1
香山人(こうざんじん)	→	秀茂(ひでしげ・文の家、旅館主人/狂歌)	D 3 7 0 8
光山素隠子(こうざんそいんし)	→	勝政(かつまさ・木村きむら、藩士/兵法家)	N 1 5 8 6
好山亭(こうざんてい)	→	露融(ろゆう・村松むらまつ、製紙業/俳人)	C 5 2 4 6
黄山堂(こうざんどう)	→	紫蘭(しらん・南陀伽・窪俊満、絵師/狂歌/戯作)	2 2 1 5
江山風月主人(こうざんふうげつしゅじん)	→	香坡(こうは・橋本、儒者/詩/勤王)	F 1 9 3 4
江山風月主人(こうざんふうげつしゅじん)	→	眞楫(まかじ・渡辺/大岡、幕臣/教育)	4 0 4 8
荒三位(こうざんみ)	→	道雅(みちまさ・藤原、伊周男/廷臣/歌)	4 1 1 6
江三位(こうざんみ)	→	美作三位(みまさかのさんみ、女房/歌人)	F 4 1 8 4

- 江三位(こうさんみ) → 俊定(としさだ・北小路、廷臣/連歌) M 3 1 4 4
 江三位(こうさんみ) → 俊直(としなお・北小路、廷臣/連歌) N 3 1 1 0
 高三位(こうさんみ) → 範久(のりひさ・高倉、連歌) F 3 5 4 8
 香山野水(こうざんやすい) → 午寂(ごじゃく・人見ひとみ、幕臣/俳人) C 1 9 8 0
 江山隣(こうざんりん) → 山隣(さんりん、俳人) E 2 0 8 2
 香山老人(こうざんとうじん) → 文圭(ぶんけい・香山かやま、歌人) I 3 8 1 0
- B1922 高子(こうし・たかいこ・たかきこ・藤原、二条後にじょうのきさい、藤原長良女)842-91069 母;藤原総継の女乙春、藤原良房の養女?、859五節埋姫/866清和天皇女御/868貞明天皇(陽成天皇)の母、877皇太夫人/882皇太后、896僧善祐と密通;廃后;没後復位、入内前の在原業平との恋などの逸話が伊勢/大和物語に入、歌;新撰朗詠集入、古今集4、国経・隆経・基経らの妹、
 [雪の内に春はきにかりうぐひすのこほれる涙今やとくらむ](古今集;春上4)
 参照 → 善祐(ぜんゆう;法師) N 2 4 1 6
- B1923 嬪子(こうし・藤原、堀河[院]中宮、藤原兼道女)947-97933 母;有明親王女昭子女王; or能子女王?、円融天皇皇后;973入内/女御/皇后、馬内侍などの歌人後援、勅撰2首;続古今127/続後拾遺1236、
 [さきだつる心を知らで桜花たづねぬ人になりやしぬらん]、(続古;春127/花見にまかりける人に詠)
- J1940 公子(こうし・きみこ・東二条院ひがしにじょういん、西園寺実氏2女)1232-130473 母;四条隆衡女の貞子、西園寺姞子(大宮院/後嵯峨天皇中宮/後深草・亀山天皇の母)の妹、摂政関白一条実経との縁談;実経兄の藤原頼経將軍追放騒動で破談、1246従三位/56後深草天皇(;11歳年下)の女御/57(康元2)中宮/皇后、59院号、1293(永仁元)出家(尼)/1304(嘉元2)没、遊義門院始子内親王(二条天皇准后/後宇多天皇の後宮)の母、女房に東二条院兵衛佐・河浪(川浪かみなみ、琵琶/歌)、後深草院二条[とはずがたり]に嫉妬深い女性として描写、徒然草222段;入内前20歳頃思慮深い女性として竹谷乗願房宗源との問答入、[公子(;名)の法名]円鏡智
- J1941 行子(こうし・源みなもと、雅言[1300没]女)?-? 鎌後期従二位/女房/歌人:玉葉2384
 J1942 行子(こうし・西園寺さいおんじ公重室)?-? 南北期従三位/歌人:新葉705・1082
 [夏草のしげみがしたを行く水のしられぬ恋にむせぶ比ころかな](新葉集;十一恋歌705)
- Q1909 行子(こうし・) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [幾秋とちぎりおきけん言の葉をわたす紅葉の天の川橋](大江戸倭歌;秋721/七夕橋)
- 公氏(こうし・三条) → 公氏(きんうじ・三条/正親町三条、日記) Q 1 6 6 6
 公資(こうし・大江) → 公資(きんより・大江おおえ、廷臣/歌人) E 1 6 8 8
 公嗣(こうし/きんつぐ・徳大寺) → 公継(きんつぐ・徳大寺、左大臣/歌) E 1 6 3 2
 公師(こうし・藪) → 公師(きんもろ・藪やぶ、廷臣/記録) R 1 6 9 2
 公祉(こうし・池永) → 公祉(きんよし・池永いけなが、神職/儒/歌) T 1 6 4 4
 孝始(こうし・前田) → 孝始(たかもと・前田まえだ、藩士/記録) N 2 6 4 0
 孝之(こうし・土山) → 孝之(たかゆき・土山つちやま、幕臣/豪遊) N 2 6 6 1
 孝之(こうし・岡部) → 孝之(たかゆき・岡部おかべ、藩士/歌人) N 2 6 6 5
 孝之(こうし・藤田) → 孝之(たかゆき・藤田ふじた、国学者・歌人) Z 2 6 3 4
 孝思(こうし・志賀) → 筋庵(せつあん・志賀しが、藩儒) K 2 4 6 8
 孝子(こうし・速水) → 孝子(たかこ・速水はやみ、歌人) U 2 6 6 5
 孝志(こうし・児玉) → 孝志(たかゆき・児玉こだま、歌人) X 2 6 0 5
 洽子(こうし・春澄) → 洽子(あまねいこ・春澄高子、典侍/歌人) B 1 0 5 7
 広之(こうし・久世) → 広之(ひろゆき・久世くせ/源、藩主) H 3 7 6 0
 広之(こうし/ひろゆき・平沢) → 随庵(ずいりゅう・平沢ひらさわ、卜占家) F 2 3 1 5

広之(こうし/ひろゆき・村上)→ 代三郎(たいざぶろう・村上、医者/蘭学) K 2 6 0 1
 広司(こうし/ひろし・小原)→ 実風(さねかぜ・小原/物部、神職/国学) K 2 0 8 0
 広視(こうし・鈴木/藤原)→ 広視(ひろみ・鈴木/高橋/藤原、神職/歌) H 3 7 1 9
 弘之(こうし)すべて → 弘之(ひろゆき)
 弘資(こうし・日野) → 弘資(ひろすけ・日野ひの、廷臣/歌人) G 3 7 1 0
 弘氏(こうし・檜垣/足代)→ 弘氏(ひろうじ・足代/度会、神職/俳人) F 3 7 5 6
 弘嗣(こうし・山田) → 麟嶼(りんしょ・山田/菅原/菅、幕臣/儒) K 4 9 4 3
 行氏(こうし・東) → 行氏(ゆきうじ・東とう/平、武将/歌人) E 4 6 3 1
 行氏(こうし・祝部) → 行氏(ゆきうじ・祝部はふりべ、神職/歌人) E 4 6 3 0
 行氏(こうし・小林/田中)→ 亦太郎(またたろう・田中/小林、藩士/国学) J 4 0 5 0
 行之(こうし・北本) → 栗(りつ・北本きたもと/石黒、和算家) B 4 9 5 4
 行資(こうし・橘) → 行資(ゆきすけ・橘、廷臣/歌人) E 4 6 5 4
 好之(こうし・桑山) → 好之(よしゆき・桑山くわやま、製造業/郷土史) H 4 7 9 9
 高子(こうし・春澄) → 洽子(あまねいこ・春澄高子、典侍/歌人) B 1 0 5 7
 高子(こうし・川路) → 高子(たかこ・川路かわじ/大越、歌人) C 2 6 7 6
 高之(こうし・水谷) → 高之(たかゆき・水谷みずたに、歌人) U 2 6 5 4
 高之(こうし・深沢) → 高之(たかゆき・深沢ふかざわ、国学/歌人) Z 2 6 2 7
 幸子(こうし・滋野典侍) → 小武命婦(しょうにのみようぶ、歌人) B 2 2 0 6
 幸子(こうし) → 幸子内親王(さちこないしんのう、後醍醐皇女?/歌人) C 2 0 7 2
 幸子(こうし) → 承秋門院(しょうしゅうもんいん、東山天皇中宮) J 2 2 6 2
 幸子(こうし松平) → 幸子(ゆきこ・松平まつだいら/烏丸、藩主室/歌) H 4 6 2 9
 幸子(こうし・伴/田内) → 幸子(さちこ・田内たうち/伴、歌人) K 2 0 4 3
 幸子(こうし・毛利) → 幸子(ゆきこ・毛利もうり/有栖川、歌人) G 4 6 3 8
 幸子(こうし・足代) → 幸子(ゆきこ・足代あじろ、弘訓女/歌人) E 4 6 4 5
 幸子(こうし・松平) → 定賢室(さだよしのしつ・松平まつだいら、歌人) K 2 0 3 5
 幸子(こうし・小笠原) → 幸子(さちこ・小笠原おがさわら、歌人) K 2 0 4 4
 幸子(こうし・千葉) → 章子(あきこ・千葉ちば、和算家) D 1 0 3 3
 幸氏(こうし・伊藤) → 幸氏(ゆきうじ・伊藤いとう、武家故実家) E 4 6 3 2
 幸止(こうし・近藤) → 幸止(さちもと・近藤こんどう、官僚/国学) O 2 0 4 7
 幸嗣(こうし・渡辺) → 幸嗣(ゆきつぐ・渡辺わたなべ、藩士/歌人) H 4 6 5 2
 高嗣(こうし・安富/源) → 高嗣(たかつぐ・安富やすとみ/源、歌人) D 2 6 0 2
 光子(こうし・藤原) → 御匣(みくしげ・土御門つちみかど、女房歌人) 4 1 7 5
 光子(こうし・藤原) → 典侍光子(すけのみつこ、藤原範光女/歌人) G 2 3 8 7
 光之(こうし・惟宗) → 光之(みつゆき・惟宗これむね、医者/歌人) F 4 1 0 3
 光之(こうし・黒田) → 光之(みつゆき・黒田、藩主/連歌) F 4 1 0 5
 光杖(こうし・大村) → 光杖(みつえ・大村/藤原、国学者/歌人) D 4 1 1 1
 光資(こうし・葉室) → 光資(みつすけ・葉室/藤原、南朝廷臣/歌) D 4 1 6 2
 光施(こうし・外山) → 光施(みつはる・外山とやま、廷臣/歌人) I 4 1 7 6
 香子(こうし・藤原) → 育子(いくこ・藤原ふじわら、二条天皇中宮) L 1 1 0 0
 香子(こうし・天野/松宮) → 智馨尼(ちけい・松宮/天野、歌人) N 2 8 5 6
 紅子(こうし・片野/小曾根) → 紅子(もみこ・小曾根/片野、歌人) E 4 4 9 5
 康之(こうし・松井) → 康之(やすゆき・松井まつい/源、武将/連歌) D 4 5 3 5
 康嗣(こうし・刀利) → 康嗣(やすつぐ・刀利とり、漢学者/詩人) C 4 5 0 5
 興詩(こうし・金谷) → 興詩(おきうた・金谷かなや、儒/国学/歌人) C 1 4 8 6
 興嗣(こうし・中西/荒木田) → 興嗣(おきつぐ・荒木田/龍/幸福/中西、神職/本草) 1 4 7 2
 興之(こうし・岡田/中西) → 興之(おきゆき・中西なかにし、神職/国学) D 1 4 0 2
 興之(こうし・紀) → 興之(おきゆき・紀き、地誌・歌人) D 1 4 0 3
 興旨(こうし/おきむね・滝沢) → 羅文(らぶん・滝沢/源/松沢、俳人) B 4 8 5 1
 興枝(こうし・森田) → 興枝(おきえだ・森田もりた、国学者/歌人) E 1 4 1 9
 恒之(こうし/つねゆき・湯浅) → 堯民(ぎょうみん・荒川/湯浅、藩士/医者) O 1 6 5 7

恒之(こうし/つねゆき・四屋)→ 穂峰(すいほう・四屋よつや、藩儒) E 2 3 9 9
 恒子(こうし・伊達) → 恒子(つねこ・伊達だて/山本、藩主側室) F 2 9 9 4
 翺之(こうし:道号・慧鳳)→ 慧鳳(えほう:法諱・翺之・臨濟僧) 1 3 8 4
 貢士(こうし・古川/工藤)→ 他山(たざん・工藤/古川、藩士/儒者) E 2 6 6 0
 鑠子(こうし・松平/田安) → 定通室(さだみちのしつ・松平まつだいら、田安斉匡女/歌) N 2 0 3 1

F1907 紅尔(こうじ) ? - ? 江前期加賀の俳人、1690北枝「卯辰集」14句入
 [草を立つ小蝶こてふや風の一ひとなびき] (卯辰集; 上一99)

F1906 幸次(幸治こうじ・初世村岡、俳号:亀玉)?-? 江後期歌舞伎作者:初世桜田治助門、
 4世松本幸四郎の甥/5世幸四郎の従兄、1780番付作者/95立作者(4世幸四郎引立)、
 江戸三座で1808頃まで活動/常磐津・長唄の作詞も多い、1795「福牡丹吾妻内裡」、
 1796「巖島雪顔鏡」/「壮平家物語」/97「富士見里和曾我」98「吾妻唄」99「八百八町瓢箪筭」、
 1801「梅水仙色抗」05「女郎花桂曙」07「雪八島凱陣」08「月梅和曾我」「彩入御伽草」外多数

J1943 亨二(こうじ・杉槎、別名:純道、杉泰輔男) 1828-1917長寿90 長崎の人;幼時父に死別;
 祖父敬輔に養育、時計師上野常足の家僕/大村藩医村田徹斎の家僕、蘭学:大阪で洪庵門、
 江戸で杉田成卿門、中津藩・福山藩で蘭学を講説/1865幕府開成所教授に任用;翻訳従事、
 1868徳川家と駿河移住、「蘭客種痘談」著、
 [亨二(;名)の号] 柳樊りゅうはん/柳樊齋

公時(こうじ・藤原) → 公時(きんとき・滋野井/藤原、廷臣/歌) E 1 6 3 6
 公時(こうじ・三条) → 公時(きんとき・三条西/西三条、家祖/歌) E 1 6 3 7
 公持(こうじ・清水谷) → 公持(きんもち・清水谷しみずたに、廷臣) R 1 6 8 9
 光次(こうじ・後藤) → 光次(みつぐ・後藤、金工家/貨幣鑄造) D 4 1 8 7
 光次(こうじ・若井) → 光次(みつぐ・若井わかい、漆器/国学) K 4 1 9 6
 光時(こうじ・鷺田) → 光時(3世みつとき・鷺田わだ、金工) E 4 1 0 0
 光治(こうじ・樋口) → 光治(みつはる・樋口ひぐち/伊勢屋、醸造/国学) K 4 1 2 1
 光治(こうじ・沢/伊勢) → 茂興(しげおき・伊勢/沢、農業/和漢学) B 2 1 9 8
 行治(こうじ・度会) → 行治(ゆきはる・度会わたらい、神職/歌) F 4 6 3 3
 行二(こうじ→ぎょうじ;法名)→ 政行(まさゆき/まさつら・二階堂、評定衆/連歌) I 4 0 1 7
 行時(こうじ) すべて → 行時(ゆきとき)
 幸二(幸次/幸治こうじ・松本)→ 久助(2世きゆうすけ・福森、歌舞伎作者) C 1 6 0 7
 幸治(こうじ・高橋) → 宗恒(むねつね・高橋/紀、廷臣/故実) B 4 2 6 8
 孝次(こうじ・満寿美) → 久助(2世きゆうすけ・福森、歌舞伎作者) C 1 6 0 7
 孝次(こうじ・岸井) → 静斎(せいさい・岸井きしい、藩士/画) I 2 4 3 5
 孝治(こうじ・赤座/永原)→ 孝治(たかはる・永原ながはら、藩士/連歌) M 2 6 9 0
 孝治(こうじ・竹内) → 孝治(たかはる・竹内たけのうち、廷臣/連歌) M 2 6 8 9
 孝治(こうじ・中井) → 千尋(ちひろ・中井なかい、国学者/歌人) N 2 8 1 1
 孝治(こうじ・福沢) → 孝治(たかはる・福沢ふくざわ、国学者/歌) Z 2 6 2 9
 孝慈(こうじ・古市) → 南軒(なんけん・古市、藩士/儒/医者) J 3 2 9 1
 孝事(こうじ・前田) → 孝事(たかわざ・前田、藩家老) N 2 6 8 4
 孝時(こうじ・藤原) → 孝時(たかとき・藤原ふじわら、楽人/琵琶) D 2 6 1 6
 高次(こうじ・藤堂) → 高次(たかつぐ・藤堂とうどう、藩主/文学) M 2 6 2 6
 高次(こうじ・可部) → 赤瀬(あかに・可部かべ、医/国学者) G 1 0 4 0
 高二(こうじ・松川) → 半山(はんざん・松川まつかわ、絵師) H 3 6 8 2
 恒治(こうじ・丹治) → 恒足軒(こうそくけん・丹治たじひ、地誌家) K 1 9 3 9
 恒治(こうじ・熊谷) → 直茂(なおしげ・熊谷くまがい、国学者) L 3 2 9 6
 興治(こうじ・鳥居) → 興治(おきはる・鳥居/鳥井、藩士/神道) C 1 4 9 5
 広耳(こうじ・小治田) → 広耳(ひろみみ・小治田おはりだ朝臣、万葉歌人) H 3 7 4 3
 広治(こうじ・大橋) → 広能(ひろよし・大橋/高井、神道家) H 3 7 7 0
 広治(広路/広道こうじ・小寺/木村)→ 玉晷(ぎょくちゆう・小寺こでら、随筆家) H 1 6 3 1
 広治(こうじ・都丸) → 董庵(とうあん・都丸とまる、藩士/儒者) 3 1 8 8
 広治(こうじ・鳥居) → 広治(ひろはる・鳥居とらい/源、藩士/国学) K 3 7 3 3

広治(こうじ・安田) → 広治(ひろはる・安田/秦/藤本、神職/国学) G 3 7 9 5
 広治(こうじ・林) → 広治(ひろはる・林はやし/太秦うずまさ、楽人) G 3 7 9 6
 広治(こうじ・栗田) → 広治(ひろはる・栗田あわた、神職/国学/歌) M 3 7 0 5
 広治(こうじ・藤田) → 克友(かつとも・藤田ふじた/田村、国学) V 1 5 5 5
 広持(こうじ・石野) → 広持(ひろもち・石野いしの/中原、幕臣/歌) I 3 7 2 8
 広持(こうじ・岩橋) → 広持(ひろもち・岩橋いわはし/大江、神職/国学) I 3 7 3 8
 広滋(こうじ・桐林/衣川) → 広滋(ひろしげ・衣川/桐林、藩士/国学) G 3 7 0 0
 厚次(こうじ・竹鼻) → 正修(まさなが・竹鼻たけはな、藩家老/歌人) P 4 0 4 9
 康次(こうじ・浜田) → 康次(やすつぐ・浜田はまだ、藩士/文武) G 4 5 4 4
 慥爾(こうじ・千秋) → 藤範(ふじのり・千秋せんしゅう、藩士/儒者/尊王) C 3 8 6 0
 豪子(ごうし・藤原) → 三位(さんみ、俊忠女/公能の妻、歌人) E 2 0 7 3
 江師(ごうし) → 匡房(まさふさ・大江) 4 0 1 9
 香字庵(こうじあん) → 為子(ためこ・中西なかにし、歌人) Y 2 6 5 7
 高市皇子(こうしおうじ) → 高市皇子(たけちのみこ、太政大臣/歌人) 2 6 2 1
 康資王母(こうしおうぼ) → 康資王母(やすすけおうのは、高階成順女/歌) 4 5 2 2
 江式部(ごうしきぶ) → 和泉式部(いづみしきぶ) 1 1 1 1
 行志斎(こうしさい・吉岡) → 鶴巢(じやくそう・吉岡/葛西、医者/俳人) W 2 1 0 5
 甲子三(こうしさん・萩原) → 甲子三(かねぞう・萩原はざわら、神職/国学) V 1 5 3 8

J1944 **公子子**(こうしし) ? - ? 江中期俳人; 1776 樗良「誹諧月の夜」入;
 [置く露に情ころを残す月のいろ](月の夜; 29)

高子舎(こうししゃ) → 几董(きとう・高井、俳人) 1 6 2 3
 江侍従(こうじじゅう) → 江侍従(ごうのじじゅう、歌人) B 1 9 8 4
 甲子次郎(甲子二郎こうし/かつしじろう・水野) → 忠徳(ただのり・水野、幕臣/外交) Q 2 6 4 6
 甲子太郎(こうし/かつしたろう・鈴木/伊東) → 武明(たけあき・伊東/鈴木、国学/剣術) O 2 6 2 2
 幸七(こうしち・本屋) → 鳥吟(ちようぎん、俳人) H 2 8 8 9
 幸七(孝七こうしち・小山) → 孝(たかし・小山おやま、国学/歌・俳人) W 2 6 0 4

H1041 **綾村**(あやむら・河原田かわらだ、) 1832-1905 74 陸奥会津郡の国学者、

幸七(こうしち・河原田) → 綾村(あやむら・河原田かわらだ、国学者) H 1 0 4 1
 幸七郎(こうしちろう・鶴沢) → 近義(ちかよし・鶴沢、儒者) C 2 8 2 0
 幸七郎(こうしちろう・岩淵/蘆野) → 東山(とうざん・蘆野あしの、儒者/詩文) E 3 1 5 3
 剛七郎(ごうしちろう・屋代) → 師道(しどう・屋代/源/永邨、幕臣/書家) V 2 1 2 6

J1945 **公瑟**(こうしつ・石川いしかわ/修姓; 石、字; 子憫) ?-? 江中期秩父の詩人; 安達清河門、
 1770「文化嚮風草初篇」編

公質(こうしつ・星野) → 蒼山(きざん・星野ほしの、儒者/尊王派) I 1 6 5 8
 幸室(こうしつ・長瀬) → 幸室(さきむろ・長瀬ながせ、真幸男/国学) N 2 0 4 4

B1925 **香実**(かうじつ・深田ふかだ、名; 正韶まさつぐ/まさあき、九臯きゆうこう長男) 1773-1850 78 尾張名古屋藩士、
 儒; 石川香山門・易学; 中村習斎門/詩; 岡田新川門/垂加神道; 高木秀条(ひでえだ/玉鏘)門、
 書; 大橋政辰門/歌; 芝山持豊・武者小路実純さねいと門、禪; 卓洲和尚・豪湖律師門、
 江戸で藩主侍読/書物奉行、見聞記録会「天保会」主催; 「天保会記」著、
 書物奉行として「尾張志」を監修、歌論「芝山持豊卿聞書」、「万葉集摘要抄」「香実歌集」、
 「柴の戸物語」「はらつづみ」「尾張名所図会」「香実随筆」「稽徳編(30巻)」外著多数、
 [香実(;号)の字/通称/別号]字; 子縄、通称; 助太郎/増蔵、別号; 豊坂翁

好実(こうじつ/よしみ?・留守/遊佐) → 希斎(きさい・留守るす/遊佐ゆさ、儒者) I 1 6 5 2
 公実(こうじつ・藤原) → 公実(きんざね・藤原、廷臣/歌人) E 1 6 0 5
 公実(こうじつ・戸原) → 雨橋(うきつ; 通称・戸原とばら、医/儒/尊王) C 1 2 0 9
 公実(こうじつ・坂井) → 虎山(こざん・坂井さかい、藩士/儒者) C 1 9 6 5
 公実(こうじつ・宇佐美) → 蘋亭(ひんてい・宇佐美うさみ、藩士/儒/詩) 3 7 3 8
 公実(こうじつ・多田) → 義俊(よしとし・多田/桂/源、神道/故実/浮世草子) 4 7 1 8
 公実(こうじつ・石塚) → 三昧(さんまい・石塚いづか、書家) E 2 0 7 2
 公実(こうじつ・宮田) → 有隣(ゆうりん・宮田みやた/服部、和学者) H 4 6 3 2

光実(こうじつ) → 光実(みつざね・姓未詳、南朝廷臣/歌人) D 4 1 4 8
 光実(こうじつ・外山) → 光実(みつざね・外山とやま/藤原/烏丸、廷臣/歌) D 4 1 5 0
 光実(こうじつ・桂井) → 素庵(そあん、桂井かつらい、郷土/儒者) F 2 5 8 2
 弘実(こうじつ;法名) → 義弘(よしひろ・大内/多々良、武将/歌) G 4 7 5 3
 剛室(ごうしつ;道号) → 崇寛(すうかん;法諱・剛室、臨濟僧/詩) J 2 3 5 8
 高実(たかさね・増島) → 高実(たかさね・増島ますじま、藩士/歌人) Z 2 6 5 1
 康実(こうじつ・堀河) → 康実(やすざね・堀河ほりかわ、廷臣) B 4 5 5 8

J1946 **豪実**(ごうじつ;法諱・真超しんちよう;字)?-1832 天台宗叡山僧;什善房・法曼院・正覚院歴住、東塔執行/探題/大僧正、当代屈指の碩学:天台顕密・神道・歴史地誌・有職に精通、「台密便覧」「悉曇要記」「悉曇連声略記」「叡山大師先徳記」「戒壇院受戒要記」外著多数

紅日庵(こうじつあん) → 錦江(きんこう・馬場、俳人/和算家) D 1 6 9 7
 好日軒(こうじつけん) → 高岳(たかおか・中務なかつかき、国学/歌人) Y 2 6 5 6
 好子内親王(こうしないしんのう) → 好子内親王(よこないしんのう、斎宮) D 4 7 3 2
 幸子内親王(こうしないしんのう) → 幸子内親王(さちこないしんのう、歌人) C 2 0 7 2
 光子内親王(こうしないしんのう) → 光子内親王(みつこないしんのう、歌人) D 4 1 3 8
 麴坊(こうじぼう/きくぼう) → 無尽蔵(むじんぞう、本草家) 4 2 7 3
 皇舎(こうしゃ・鶴嶺) → 戊申(しげのぶ・鶴嶺つるみね、国学者/歌人) C 2 1 7
 篁舎(こうしゃ・堀内) → 千班(せんぱん・堀内ほりうち、俳人) N 2 4 6 8
 篁舎(こうしゃ・堀内) → 立雄(たつお・堀内ほりうち、藩士/国学/歌) Z 2 6 4 3
 好爵(こうしゃく・桑田) → 立斎(りつさい・桑田くわた、医者/種痘実施) B 4 9 9 7
 孝綽(こうしゃく・大塚) → 孝綽(たかやす・大塚、儒者) C 2 6 8 4
 孝綽(こうしゃく/たかひろ・山田/津阪) → 東陽(とうよう・津阪/菅原/山田、儒者) H 3 1 8 2
 孝錫(こうしゃく・前田) → 孝錫(たかてる・前田まえた、藩士/家老) M 2 6 3 5
 広錫(こうしゃく・広田) → 貞秋(さだあき・広田ひろた、問屋/歌人) P 2 0 2 1
 康爵(こうしゃく・松平) → 康爵(やすたか・松平まつだいら、藩主/歌人) B 4 5 8 7

B1928 **鉤寂**(こうしゃく) ? - ? 阿波の俳人、「宝銭」編、1691賀子「蓮実」入

J1947 **荒雀**(こうしゃく) ? - ? 山城嵯峨の俳人、1698「続猿蓑」入、
 [茨うばらはら咲き添ふものも鬼あざみ](続猿蓑;卷下春草)

光寂(こうしゃく;法名) → 家光(いえみつ・日野、廷臣/詩歌) 1 1 6 4
 黄雀(こうしゃく) → 巢兆(そうちょう・建部、俳人/書家) 2 5 1 7
 業寂(ごうしゃく) → 業寂僧都(ごうしゃくそうず、狂詩/狂歌) B 1 9 2 6
 黄雀園(こうしゃくえん) → 巢兆(そうちょう・建部、俳人) 2 5 1 7
 黄雀軒(こうしゃくけん) → 貞置(さだおき・織田/平、幕臣/茶人) H 2 0 8 4

B1926 **業寂僧都**(ごうしゃくそうず) ? - ? 江中期京北山の僧都、狂詩/狂歌、畠中銅脈と親交、1783万載集:太平楽府に序、徳和歌後万載集入(102)、「太平遺響」「二大家風雅」に狂詩入、
 [罪なくて配所の月やいかならん都の花を銭なくてみる](徳和歌後萬載集;一102)

孔舎農家(こうしゃのうか/あなのやのいえ?) → 眞咲(まさき・芳賀はが、藩士/国学/神職) R 4 0 5 9

B1927 **杲守**(こうしゅ・ごうしゅ;法諱、洞院とういん公賢きんかた男)?-? 母;藤原光久女(女房高倉)、南北期真言僧、石山寺座主/1362成助より伝法灌頂/64東寺長者/法印/大僧正、石山成就院住、「石山寺縁起」卷1-3の詞書筆、連歌;1385石山百韻連衆(11句;静嘉本では岩坊いわのぼう)、歌人;1367新玉津島歌合/頓阿の句題百首参加、勅撰19首;新千載(1999)新拾(536/831/1296)新後拾(63/712/1424)新統古今(12首)
 [わたつ海のかざしの花は木にもあらず草にもあらずぬ沖つ白波](新千;雑1999)、
 [さざ波さむき夜よこそふけぬれ](至徳二年1385石山百韻/賦何船;脇句/眺望を時刻に転、
 発句・二条良基;月は山風ぞしぐれに鴉にほの海/初冬石山寺倉坊での居待月の眺望)
 [杲守の別称]太政大臣僧正/石山座主坊いよまさすのぼう、実夏/実世/吉子の兄弟

公種(こうしゅ・三条) → 公種(きんたね・三条/正親町三条、廷臣) R 1 6 4 0
 公種(こうしゅ・小倉) → 公種(きんたね・小倉おぐら、廷臣/歌人) E 1 6 3 0
 公守(こうしゅ・洞院/正親町) → 公守(きんもり・洞院とういん、太政大臣/歌) E 1 6 7 9
 光守(こうしゅ・常) → 光守(みつもり・常じよう、詩人) E 4 1 9 9

- 恒主(こうしゅ・千家) → 尊茂(たかしげ・千家せんげ、国学者/歌人) X 2 6 8 0
 広主(こうしゅ) すべて → 広主(ひろぬし)
 広守(こうしゅ・林) → 広守(ひろもり・林はやし、楽人/君が代作曲) K 3 7 6 8
 康守(こうしゅ・深田) → 康守(やすもり・深田ふかだ、藩士/国学) G 4 5 5 0
- J1948 **光寿**(こうじゅ;法諱・教如きょうに;号、顕如[光佐]男/母;細川晴元女) 1558-1614⁵⁷ 石山本願寺の生、
 光昭兄、1580信長との和議;安藝へ退去、91秀吉より京堀川に本願寺地寄進;弟光昭が継承、
 1602家康より七条烏丸東本願寺地寄進;本願寺12世/04大僧正、
 「教如消息」「教如上人文書」著、
 [光寿の幼名/諡号] 幼名;茶々麿、諡号;信浄院、
- G1983 **高寿**(こうじゅ・暮松くれまつ) ? - ? 河内松原俳人、1664重頼「佐夜中山集」/66吉竹「遠近集」入、
 狂歌;1666行風「古今夷曲集」1首入、
 [名をしたひ懇切こんせつぶりの雨露か梵天瓜ぞようそだつたる](夷曲集;夏140、
 瓜作れる人の挨拶に/雨露が故郷の梵天の名を慕い梵天瓜に恵みを与えたか)
- F1909 **江樹**(こうじゅ) ? - ? 俳人、1762俳諧季寄「早合点」
- J1949 **孝寿**(こうじゅ;法諱) ? - ? 江後期寛政1789-1801頃の和泉堺の日蓮僧/下総住、
 国学;1797宣長門、「方便品釈」著
- 公壽(こうじゅ・清水谷) → 公壽(きんひさ・清水谷、廷臣/記録) R 1 6 6 9
 公壽(こうじゅ・山村) → 良祺(たかひり・山村、藩代官/儒/教育) M 2 6 7 8
 広樹(こうじゅ・川上) → 広樹(ひろき・川上かわかみ/中村、家老/儒/国学/歌) J 3 7 1 3
 孝孺(こうじゅ・山県) → 周南(しゅうなん・山県やまがた/県、藩儒) 2 1 4 8
 光寿(こうじゅ・戸谷) → 双鳥(そうじゅう・戸谷、商家/俳人) 2 5 5 8
 光寿(こうじゅ・手塚) → 律蔵(りつぞう・手塚てづか、洋学者/訳書) C 4 9 1 0
 光樹(こうじゅ・みつき・多田) → 義俊(よしとし・多田、神道/故実/浮世草子) 4 7 1 8
 晃樹(こうじゅ・西原、「宇太驚多理」著) → 晃樹(あき・西原、国学) 1 0 4 7
 香樹(こうじゅ・石居) → 元春(もとはる・石居いし/菅原、藩士/歌) J 4 4 2 0
 興樹(こうじゅ;法諱) → 茂林(もりん;道号・興樹、臨濟僧) G 4 4 9 5
 興寿(こうじゅ・八剣/神崎) → 興寿(おきなが・八剣やつらぎ/神崎、神職) C 1 4 9 1
 甲寿(こうじゅ・春田) → 永年(ながとし・春田はるた、具足師/故実) 3 2 1 2
 高樹(こうじゅ・石黒) → 信由(のぶよし・石黒、和算/測量術) D 3 5 9 1
 高樹(こうじゅ・菊池) → 高樹(たかき・菊池さくち/藤原、神職/歌) X 2 6 7 5
 高樹(こうじゅ・森) → 高樹(たかしげ・森もり/橘/露木、国学者) Z 2 6 9 9
 高寿(こうじゅ/たかひさ・米良/斎藤) → 芝山(しざん・斎藤/米良、藩士/儒者) D 2 1 7 4
 杲守(こうじゅ;法諱) → 杲守(こうじゅ;法諱、真言僧/歌人) B 1 9 2 7
 紅樹庵(こうじゅあん) → 武雄(たけお・足助あすけ/小槻/辻、神職) V 2 6 0 0
 香樹院(こうじゅいん) → 徳童(とくりゅう・召雲、真宗学僧) L 3 1 5 7
 香樹院(こうじゅいん) → 智馨尼(ちけい・松宮/天野、歌人) N 2 8 5 6
 高樹院(こうじゅいん) → 忠之(ただゆき・黒田/松平、藩主/連歌) R 2 6 1 2
 高樹院(こうじゅいん) → 蓮茵(れんいん;法諱、拝郷はいごう、僧/歌) 5 1 9 1
 広寿院(こうじゅいん) → 元徳(もとりのり・多紀たき/丹波、幕臣/奥医) D 4 4 8 3
 光聚院(こうじゅいん) → 義隆室(よしただのしつ・佐竹さたけ、歌人、書) N 4 7 0 7
- B1930 **厚秀**(こうじゅじゅう) ? - ? 連歌、1449時述催忍誓「広柏ひろがしわ千句」発句
- 1911 **篁洲**(こうじゅう・榊原さかきばら、名;玄輔/元輔、下山勘助道禎男) 1656-1706⁵¹ 和泉の漢学者;順庵木門、
 故あって榊原と改姓、紀州藩儒官、近世折衷派の端緒/明律に通ず、「大明律例諺解」、
 「明律訳解」「明律訳解補遺」「老子経諺解大成」「篁洲詩集」「篁洲文集」「芸窓詩稿」外多数、
 [篁洲の字/別号]字;希翊きよく、別号;暢々子てきてきし/勃窣散人ぼつそつさんじん
- F1910 **高州**(こうじゅう・越智) ? - ? 江中後期漢学/詩文;尾藤二州[1745-1813]門、
 二州「静寄軒集」刊行にあたり師の作品を整理
- B1988 **高洲**(こうじゅう・菊池/菊地さくち/初姓;加藤、名;武矩たけのり) 1747-1808⁶² 讃岐香川郡由佐の儒者、
 菊池黄山こうざん門/高松藩士菊池徐風の養子、上京;古文辞学;斎静斎門、高松藩儒;文学、
 「讃州孝子伝」「祖谷紀行」「筑紫苞」「詩経管見」「堀川夜戦文論」「高洲文集」「高洲雑記」、

[高洲の字/通称]字;周夫、通称;助三郎

J1950 **杭州**(こうしゅう;道号・克文くぶん;法諱、俗姓;橋村)1760-1831⁷² 伊予大洲臨濟僧;1766(7歳)出家、曹溪院確堂門;得度、九峰主拙・竺源玄獅に参禅、1791伊予西江寺応竜禅黙門;嗣法/住持、1818西江寺を退隠/24京円福寺住寺、「雙松滴露集」著、1827「竺源禅師偈頌」編、[杭州克文の号]号;無住庵/双松老人、諡号;明鑑弘照禅師

J1951 **鴻洲**(こうしゅう・中沢なかざわ、名;陸岩)1784-1856⁷³ 近江甲賀和田村の農家、1808上京/儒・詩;梅辻春樵門、京三条寺町住;頼山陽と交流、晩年;心学を修学;普及、「芋谷詩集」「芋谷漫録」「中沢家集」著、[鴻洲の字/通称/別号]字;直夫、通称;直次郎/六右衛門、別号;嬾雲/嬾雲僑居/芋谷うこく

J1952 **弘宗**(こうしゅう・こうじゅう;道号・万明ばんみょう;法諱)?-? 江戸期曹洞僧/山城禅定寺5世、「禅定寺縁起年譜吟」著

光宗(こうしゅう;法諱)	→	光宗(こうそう/こうしゅう、天台僧;黒谷流祖)	B 1 9 6 0
光宗(こうしゅう;法諱)	→	明専(みょうせん;法諱、真宗本願寺派僧)	G 4 1 5 0
光秀(こうしゅう・土佐)	→	光秀(みつひで・土佐とき/藤原、絵師)	E 4 1 6 2
光秋(こうしゅう・上田)	→	光秋(みつあき・上田うねだ、神職)	D 4 1 0 0
光秋(こうしゅう・土岐)	→	光秋(みつあき・土岐とき、藩士/国学者)	J 4 1 8 1
幸秋(こうしゅう・豊原)	→	幸秋(ゆきあき・豊原とよはら、楽人;笙)	E 4 6 2 0
幸周(こうしゅう・種田)	→	幸周(ゆきちか・種田たねだ、武術家;槍術)	E 4 6 8 7
幸秀(こうしゅう・久岡)	→	幸秀(ゆきひで・久岡ひさおか、藩士/歌人)	F 4 6 4 2
講修(こうしゅう・江沢)	→	講修(ときなが・江沢、国学/詩歌人)	J 3 1 6 0
高洲(こうしゅう・赤松)	→	翼(よく・赤松あかまつ/越智、儒者)	B 4 7 7 0
高秀(こうしゅう・藤原)	→	高秀(たかひで・藤原ふじわら、連歌)	M 2 6 9 8
高就(こうしゅう→たかなり・三井)→	→	牧山(ぼくざん・三井みつゐ、詩歌人)	G 3 9 4 0
公修(こうしゅう・中川)	→	顕允(あきすけ・中川、藩士/文筆家)	D 1 0 4 5
公修(こうしゅう・三条)	→	公修((きんおさ・三条/転法輪三条、歌/記録)	Q 1 6 7 1
公修(こうしゅう・阪本)	→	弦山(げんざん・阪本、医者/経史/文学)	J 1 8 2 8
公修(こうしゅう・岡部)	→	四溟(しめい・岡部おかべ、幕臣/漢学/詩)	F 2 1 8 6
公修(こうしゅう・小倉)	→	遜斎(そんさい・小倉おぐら、藩儒/教育)	F 2 5 4 1
公脩(こうしゅう・小倉)	→	公脩(きんなが・小倉・富小路、廷臣/歌)	E 1 6 4 8
公秀(こうしゅう・三条)	→	公秀(きんひで・三条/正親町三条、歌人)	E 1 6 5 8
公秀(こうしゅう・小林)	→	卓斎(たくさい・小林こばやし、書家)	N 2 6 9 9
公楫(こうしゅう・羽生)	→	谷守(たにもり・羽生、里正/俳人)	R 2 6 7 5
広秋(こうしゅう・中村)	→	広秋(ひろあき・中村なかむら、藩士/歌人)	K 3 7 3 7
広秀(こうしゅう・大江)	→	広秀(ひろひで・大江、廷臣/歌人)	G 3 7 9 8
広秀(こうしゅう・藺)	→	広秀(ひろひで・藺/太秦、楽人)	G 3 7 9 9
広秀(こうしゅう・大坪)	→	道禅(どうぜん・大坪おおつぼ、馬術家)	G 3 1 2 3
広周(こうしゅう・土佐)	→	広周(ひろかね・土佐とき、絵師)	F 3 7 7 3
広周(こうしゅう・久世)	→	広周(ひろちか・久世くぜ/源、藩主/老中)	G 3 7 3 7
広州(こうしゅう・向陽館)	→	寧親(やすちか・津軽つがる、藩主/俳人)	G 4 5 2 7
行秀(こうしゅう・土佐)	→	行秀(ゆきひで・土佐/春日/藤原、絵師)	F 4 6 3 8
行秀(こうしゅう・清原?)	→	行秀(ゆきひで・清原?、廷臣/歌人)	F 4 6 3 9
行従(こうじゅう・岡野)	→	逢原(ほうげん・岡野おかの、儒者/藩士)	F 3 9 1 0
孝秀(こうしゅう・藤原)	→	孝秀(たかひで・藤原ふじわら、廷臣/楽人)	M 2 6 9 7
孝修(こうしゅう・田淵)	→	孝修(たかのぶ・田淵たぶら、藩士/国学)	X 2 6 8 9
貢秀(こうしゅう・関)	→	五竜(ごりゅう・関せき、藩士/和算)	N 1 9 9 4
弘秀(こうしゅう;字)	→	月海(げっかい;法諱・弘秀;字、真言僧)	G 1 8 8 9
黄州(こうしゅう・新井)	→	白蛾(はくが・新井あらい、儒者)	C 3 6 8 3
黄洲(こうしゅう・竹内)	→	重信(しげのぶ・竹内たけうち、和算家)	S 2 1 0 1
興秀(こうしゅう・飯田)	→	興秀(おきひで・飯田、弓馬故実家)	C 1 4 9 6
興周(こうしゅう・細川)	→	興文(おきのり/おきふみ・細川、藩主/歌)	1 4 7 6

- 蘆洲(こうしゅう) → 棲霞(せいか;法諱、真宗学僧) H 2 4 5 7
 鴻州(こうしゅう・水野) → 正名(まさな・水野みずの、藩士/藩政改革) E 4 0 9 5
- B1929 公什(こうじゅう;法諱、一条実隆or八条公有男?/本姓;藤原) 1238-1314 77 鎌倉期天台僧/歌人、
 1313(正和2)天台座主104世/横川首楞嚴院檢校兼任/般若院大僧正/伏見院落飾の戒師、
 1314(正和3)新日吉社の神人が武家と争ったため座主職を改易される、
 勅撰5首:新後撰639/645玉葉2671/1781風雅1887、
 [思ひきやわがたつそまのかひ有りてまれなる跡を残すべしとは](新後撰;釈教639、
 正安2[1300]年法皇に灌頂を授けてのち我が山にそのあとまれなる事を思ひ詠む)、
 [公什の号/通称]号;般若院、通称;裏築地宰相
- J1953 光什(こうじゅう;法諱、町資広男/本姓;藤原) ?-1533 母;源満直女、天台宗叡山僧;尊勝院増円門、
 左大臣日野勝光の猶子、密教;尊応准后門/顕教;公範門、日野別当/横川長吏/法性寺座主、
 法務大僧正、1528後柏原院三回忌導師、1527「雙身講式」「後柏原院三回聖忌表白文章」著
- J1954 光従(こうじゅう;法諱・宣如せんによ;号、教如男) 1604-58 55 真宗大谷派本願寺13世、1614得度、
 1627大僧正/53退隠、「肝要記」「宗祖聖人御伝」「宣如上人消息」「宣如上人御書」著、
 [光従(宣如)の幼名/別号]幼名;長曆、別号;愚溪、諡号;東泰院
- F1911 行重(こうじゅう・平野) ? - ? 狂歌:1672行風「後撰夷曲集」49首入
- J1955 工十(こうじゅう・工藤くどう) ? - ? 江後期伊勢桑名の俳人/連歌・画・太鼓に長ず、
 1828「分身の影」、「石どりの説」著
 [工十の通称/別号]通称;十右衛門、別号;麟溪/華月楼/花月楼/和合舎/公達
- 公充(こうじゅう・三条) → 公充(きんみつ・三条/転法輪三条、廷臣/日記) R 1 6 8 4
 公重(こうじゅう・西園寺) → 公重(きんじげ・西園寺さいおんじ、廷臣/歌) E 1 6 1 0
 行充(こうじゅう/ゆきみつ・人見ひとみ) → 桃源(とうげん・人見、幕府儒官) D 3 1 4 2
 行重(こうじゅう・大江) → 行重(ゆきしげ・大江おおえ、廷臣/歌人) E 4 6 5 0
 光重(こうじゅう・土佐) → 光重(みつしげ・土佐とさ/藤原、絵師) D 4 1 5 2
 光重(こうじゅう・丹羽) → 光重(みつしげ・丹羽にわ、藩主/藩政尽力) D 4 1 5 3
 光重(こうじゅう・福武) → 光重(みつしげ・福武ふたけ、国学者/故実) D 4 1 5 5
 光重(こうじゅう・石幡) → 光重(みつしげ・石幡いした、養蚕業) D 4 1 5 7
 光重(こうじゅう・池田) → 光重(みつしげ・池田いけだ、藩士/詩歌) L 4 1 1 9
 光重(こうじゅう・鈴木) → 光重(みつしげ・鈴木すずき、神職/国学者) D 4 1 5 8
 恒重(こうじゅう・吉田) → 恒重(つねしげ・吉田よしだ、国学者) G 2 9 7 1
 恒充(こうじゅう・小川) → 恒充(つねみつ・小川、藩士/記録) D 2 9 9 2
 恒充(こうじゅう・木梨) → 恒充(つねみつ・木梨きなし、藩士/絵師) D 2 9 9 3
 恒充(こうじゅう・野々村) → 良澄(よしずみ・野々村のむら、藩士/儒者) O 4 7 4 5
 弘充(こうじゅう・伊藤) → 東岸(とうがん・伊藤、儒者/藩校教授) C 3 1 3 2
 弘充(こうじゅう・宮川) → 弘充(ひろみつ・宮川みやがわ、医者/国学) L 3 7 4 1
 弘重(こうじゅう・田中) → 弘重(ひろしげ・田中、俳人/狂歌) F 3 7 9 7
 幸重(こうじゅう) → 幸重(ゆきしげ、神職/連歌) G 4 6 3 2
 幸充(こうじゅう・伊藤) → 幸充(ゆきみつ・伊藤いとう、武家故実家) F 4 6 7 3
 幸充(こうじゅう・知久) → 幸充(ゆきみつ・知久ちく、家老/歌人) H 4 6 0 1
 幸充(こうじゅう・山口) → 幸充(ゆきみつ・山口やまぐち、神道・随筆家) F 4 6 7 4
 孝重(こうじゅう・藤原) → 孝重(たかしげ・藤原ふじわら、廷臣/楽人) M 2 6 0 0
 孝重(こうじゅう・安倍) → 孝重(たかしげ・安倍あべ、陰陽家) L 2 6 9 7
 高重(こうじゅう・岡崎) → 高重(たかしげ・岡崎おかさき、国学/歌人) W 2 6 2 6
 降住(こうじゅう・大村) → 光枝(みつえ・大村/藤原、国学者/歌人) D 4 1 1 1
 豪秀(ごうしゅう・久保田) → 豪秀(たけひで・久保田、藩士/兵法家) O 2 6 6 6
 轟秀(ごうしゅう・佐田) → 友忠(ともただ・佐田さだ/藤原、国学/勤王) V 3 1 3 0
 鰲州(ごうしゅう・高宮) → 三中(さんちゅう・高宮たかみや、儒者) M 2 0 5 8
- P1954 豪充(ごうじゅう;法諱) ? - ? 江前期寛文1661-73頃天台叡山僧;横川戒定院住、
 「祖師諸大先徳諡号宣命上表等」著
 光聚院(こうしゅういん) → 承胤親王(しょういんしんのう、門跡/連歌) G 2 2 9 0

- 広修院(こうしゅういん) → 尊英親王(そんえいしんのう、青蓮院宮) F 2 5 0 2
 高洲翁(こうしゅうおう) → 立栄(初世りゅうえい・野村/舎人、医者) C 4 9 8 5
 鮫洲外史(こうしゅうがいし) → 豊信(とよしげ・山内やまのうち、藩主/詩歌) R 3 1 1 8
 行轉齋(こうしゅうさい、こうちゅうさい) → 沾州(せんしゅう・貴志、俳人) F 2 4 8 8
 講習堂(こうしゅうどう) → 昌三(しょうぞう・松永尺五、貞徳男/儒者) 2 2 5 8
 講習堂(こうしゅうどう) → 思齋(しさい・松永永三、尺五男/儒者) D 2 1 6 6
 江州入道(ごうしゅうにゅうどう) → 貞宗(さだむね・大友/平、守護/歌人) C 2 0 5 2
 行轉坊(こうしゅうぼう、こうちゅうぼう) → 沾山(せんざん・内田、俳人) F 2 4 5 1
 光聚房(こうしゅうぼう) → 範洲(はんしゅう; 法諱、天台僧) H 3 6 9 2
 光聚房(こうしゅうぼう) → 忍継(にんけい; 法諱、天台僧) G 3 3 3 1
 香集房(こうしゅうぼう) → 慶耀(けいよう; 法諱、天台学僧) G 1 8 7 4
 幸十郎(こうじゅうろう・松平/巨勢) → 利和(としより・巨勢こせ、幕臣/歌人) O 3 1 2 2
 幸十郎(こうじゅうろう・姫井) → 桃源(とうげん・姫井ひめい、藩士/儒者) D 3 1 4 7
 幸十郎(こうじゅうろう・栗原) → 東随舎(とうずいしゃ、戯作/狂歌) F 3 1 8 6
 幸十郎(孝十郎こうじゅうろう・杉本) → 清蔭(きよかげ・杉本/池田屋、商家/歌人) O 1 6 6 8
 幸十郎(こうじゅうろう・辰巳屋/伊藤) → 和允(かずみち・伊藤いとう/藤原、藩士/国学) T 1 5 5 5
 宏十郎(こうじゅうろう・大岩) → 昌蔵(まさなり・大岩おおいわ、藩士/文芸活動) O 4 0 2 7
 興十郎(こうじゅうろう・二宮) → 俊実(としざね・二宮にのみや、武将/記録) M 3 1 5 4
 公樹園(こうじゅえん) → 晩籟(ばんらい・中江なかえ、商人/俳人) I 3 6 5 8
 J1956 考叔(こうしゅく; 道号・宗穎そうえい; 法諱) ?-? 室町期薩摩の臨濟僧: 薩摩大願寺竜江門、
 のち京の建仁寺江西竜派門、1485建仁寺223世/のち大願寺竜隠庵に隠棲、「秘密蔵」著
 高叔(こうしゅく・三井) → 高福(たかよし・三井、商家; 財閥の礎) N 2 6 7 7
 亨叔(こうしゅく・小田) → 済川(さいせん・小田/勝原、藩校儒/医者) G 2 0 8 6
 孝叔(こうしゅく・大友) → 吉徳(よしのり・大友おおとも、医者) F 4 7 8 9
 G1904 耕寿組(こうじゅぐみく; 組連) ?- ? 江中期武総の川柳の組連、
 取次; 1757「川柳評万句合」入、
 取次例; [月限つきぎりの女房も呵しかるほどの酒] (前句; あんじこそすれ々々)、
 (月ぎめの契約妻でも先を心配するほどの大酒飲の男)
 J1957 広出(こうしゅつ・顕井あきらい、別名; 満) 1788-? 紀伊高野山の歌人、法眼、1850「菴のうめ集」著、
 [広出(; 名)の号] 深山斎/杉皮庵/摂津法眼
 満(まん・顕井) → 広出(こうしゅつ・顕井あきらい、歌人) J 1 9 5 7
 好述(こうじゅつ・大久保) → 一岳(いちがく・大久保おおくぼ、絵師) G 1 1 1 2
 公述(こうじゅつ・馬田/長川) → 東明(とうめい・長川ながかわ、儒者) H 3 1 3 8
 好種丸(こうしゅまる) → 眞中(まなか・小林/度会、神職/狂言) J 4 0 9 7
 R1957 公俊(こうしゅん; 法諱、法印俊覚男) ?-? 平安鎌倉期; 興福寺僧/法師、
 歌人; 1237刊[檜葉集]4首入、法印覚長(俊成男/定家の兄弟)の曾孫、
 [中山僧正なかやまのそうじょう(範玄/1137-99/法相僧) 寺務の時卅講結願に聞法述懐の題にて、
 歌講じ侍りける筈に誰となく聴聞衆のなかよりおかせはべりける、
 ながれゆくみのりのみづをむすびつつふかき心をすましつるかな] (檜葉積教; 546)
 R1978 弘舜(こうしゅん; 法諱、九条家出身の法印公玄男) ?-? 鎌倉期; 仁和寺華嚴印の僧正、
 元応2-元亨3(1320;-24)ころ東寺の一長者として活躍(東寺長者続紙裏書・徒然208段入)、
 声明家で真言西方院方・新相応院流の系譜を定縁から受領
 B1933 好春(こうしゅん・児玉/坂上/中尾/初姓; 中江、名; 宗悦) 1649-1707 山城伏見の俳人:
 梅盛[元隣]門、京の御幸町押小路住、1691頃宗匠/雑俳点者、1691「新花鳥」編、「左義長」編、
 1691江水「元禄百人一句」/1702轍士「花見車」入、追善集「花すゝき」
 [曙の京の天気や花の春] (花見車; 27、花の春は新年)
 [好春の別号] 汲谷軒/向陽堂
 J1958 光俊(こうしゅん; 法諱・号; 篤信院) 1691-? 1770存 天台僧; 恵雲院住/坂本松禅院住、大僧正、
 江戸寛永寺凌雲院に転住/松禅院に退隠、1748「御経供養法則」著、
 1767「建立大師八百五十年忌金曼供法則」著

光舜(こうしゆん) → 光謙(こうけん;法諱、天台僧/教観中興) I 1 9 5 6
 光春(こうしゆん・高橋) → 光春(みつはる・高橋たかはし、国学者) J 4 1 6 3
 光春(こうしゆん・広辻) → 光春(みつはる・広辻ひろつじ/橋/小林、歌/茶人) K 4 1 2 8
 光俊(こうしゆん・藤原) → 光俊(みつとし・藤原/葉室、廷臣/歌人) 4 1 2 6
 光俊(こうしゆん・平) → 光俊(みつとし・平たいら、廷臣/歌人) E 4 1 0 1
 高俊(こうしゆん・高岳/高) → 相如(すけゆき/しょうじょ・高岳たかおか、詩歌) D 2 3 2 0
 高俊(こうしゆん) → 高俊(たかとし、連歌) D 2 6 2 0
 高俊(こうしゆん・藤井) → 高俊(たかとし・藤井ふじい、神職/国学) Z 2 6 3 2
 高俊(こうしゆん・藤堂) → 高俊(たかとし・藤堂とうどう、彫刻/製陶) Y 2 6 4 0
 高春(こうしゆん・山形) → 高春(たかはる・山形やまがた、商家/歌人) 2 7 0 9
 興俊(こうしゆん・大江) → 興俊(おきとし・大江、廷臣/歌人) B 1 4 9 4
 興俊(こうしゆん;法諱) → 兼載(けんさい・猪苗代、歌/連歌師) 1 8 1 3
 公俊(こうしゆん・徳大寺) → 公俊(きんとし・徳大寺、太政大臣/歌人) E 1 6 4 0
 公俊(こうしゆん・緒方) → 公俊(きみとし・緒方おがた/内田/大神、神職/国学) T 1 6 7 3
 公峻(こうしゆん・前田) → 長畝(ながうね・前田、藩士/詩歌俳) D 3 2 2 5
 公春(こうしゆん・日野) → 醸泉(じょうせん・日野/岡田、儒者) K 2 2 5 0
 広俊(こうしゆん・中原) → 広俊(ひろとし・中原、詩人) G 3 7 5 0
 行俊(こうしゆん) すべて → 行俊(ゆきとし)
 行春(こうしゆん・二階堂) → 行春(ゆきはる・二階堂/藤原、武家/歌) F 4 6 3 2
 好春(こうしゆん・橋本) → 好春(よしはる・橋本はしもと、考証) G 4 7 1 2
 好春(こうしゆん・武藤) → 好春(よしはる・武藤むとう、藩士/攘夷論) G 4 7 1 4
 好春(こうしゆん・井上) → 好春(よしはる・井上いのうえ、藩士/国学者) L 4 7 3 5
 好春(こうしゆん・齋藤) → 好春(よしはる・齋藤さいとう/山県、国学) N 4 7 1 7
 恒俊(こうしゆん・曲直瀬) → 恒俊(つねとし・曲直瀬まなせ/越智、歌人) E 2 9 9 9
 隆春(こうしゆん・茂木) → 隆春(たかはる・茂木もぎ、藩士/記録) M 2 6 9 2

- B1931 **公順**(こうじゆん;法諱、九条禅観男)?-? 鎌倉南北期天台園城寺僧/三井寺法印・権大僧都、藤原秀能の曾孫/藤原公益の猶子、歌:二条為世門、為藤・長舜と親交、1334家集「拾藻鈔」、1294或所十首歌合~1330或所詩歌合に参加、勅撰9首;新後撰321/1481続千載807(以上は読人しらずで入集;拾藻鈔入)887/1170、続後拾遺1006新千載1192/1921/新拾遺814
 [いつまでかあまのしわざと思ひけん我が身たくもの浦の煙を](続千載;十二恋1170)
- B1932 **公順**(こうじゆん;法諱、公瑜、三条西実隆男)1484-? 1536存 母;勸修寺教秀女、東大寺僧、歌;父門、書道、三論のち華嚴を修学/1599東大寺別当/1502元興寺別当、三条西家の歌会参加、1535東大寺「八幡縁起」詞書(宗軒画)、36「東大寺大仏殿縁起」共編(書)
- J1959 **孝順**(こうじゆん;号) ? - ? 戦国期天文1532-55頃三河岡崎の連歌作者、1540宗牧と連歌会帳行、1544千句「何人百韻」参加(宗牧らと)
- P1946 **行順**(こうじゆん・朝倉あさくら、行風男?)?-? 撰津狂歌作者;行風[1619?-84?]門、1666行風「古今夷曲集」2首入、
 [たむぼゝの花のちゝつと咲くころの野山はやしはおもしろいなう](夷曲集;春、少しの意とちゝつと小刻みに打つ小鼓の音・林と囃子を掛ける)
- J1960 **興順**(こうじゆん・秋野あきの、名;由順)? - 1718 天王寺公文所勤務、「天王寺公文所考」、
 [興順(;通称)の別称] 小野妹子四十一世
- J1961 **孝順**(こうじゆん;法諱・一如いちにょ;道号)?-1743 伯耆曹洞僧;大用慧照門、越中東漸寺開、「一如孝順禅師語録」著
- J1962 **孝順**(こうじゆん;法諱・本空ほんくう;字)1740-?1784存 常陸鹿島郡白鳥村の真言僧:1747(8歳)游空門、衣鉢戒;1767江戸霊雲寺光海門、伝法灌頂;1774慧乗門、武州宝蔵寺5世、1771「霊雲寺相承安流聖教伝授目録」74「密灌伝燈録」著
- J1963 **光純**(こうじゆん;法諱・浄厳院:号、俗姓;財前)1769-184375 豊後の天台僧;1783江戸寛永寺光厳門、1793叡山金台院住寺/1806寛永寺寿昌院住持、1821信州善光寺の復旧に尽力/権僧正、のち江戸浅草清水寺後院に隠居、1841「千手尊念誦私記」著、

[光純の初法諱] 豪栄

- 光淳(こうじゆん、坂ばん・静山せいざん) → 光淳(みつあつ・阪ばん/坂さか、歌人) D 4 1 0 5
 光楯(こうじゆん; 別法諱) → 慈俊(じしゆん; 法諱、真宗僧) D 2 1 9 9
 光潤(こうじゆん・幸田) → 光潤(みつひろ・幸田こうだ/度会、神職/国学) J 4 1 0 8
 公純(こうじゆん・鷹司/徳大寺) → 公純(きんいと・徳大寺、公武合体派) Q 1 6 6 5
 広俊(こうじゆん・真壁/上野) → 広聡(ひろとし・栄名井さかない/上野/真壁、神職/和漢学) G 3 7 5 1
 行俊(こうじゆん・藤原) → 行俊(ゆきとし・藤原ふじわら、廷臣/歌人) F 4 6 0 3
 好純(こうじゆん・小野) → 好純(よしずみ・小野おの/安福、国学/歌学) D 4 7 8 4
 亨順(こうじゆん; 法諱) → 亨順(ていじゆん; 法諱・秋野房、天台宗四天王寺僧) B 3 0 1 3
 孝順(こうじゆん・青柳) → 鉄次郎(てつじろう・間宮、幕臣/樺太巡察) C 3 0 4 5
 孝順(幸淳こうじゆん・能美) → 洞庵(とうあん・能美のうみ、医者) 3 1 8 3
 孝順(孝潤こうじゆん; 字) → 日乾(にちけん; 法諱・寂照院、日蓮僧) B 3 3 5 5
 孝純(こうじゆん・岩松) → 孝純(たかずみ・岩松いわまつ/源、幕臣/文筆) M 2 6 1 2
 幸順(こうじゆん・武川) → 建徳(けんとく・武川たけがわ、医者) M 1 8 0 0
 幸順(こうじゆん・植木) → 惺斎(せいさい・植木うえき、儒者) I 2 4 1 7
 弘潤(こうじゆん・今井) → 桐軒(とうけん・今井、国学/神道) D 3 1 2 9
 隆純(こうじゆん・鷲尾) → 隆純(たかひと・鷲尾わしのお/藤原・油小路、廷臣/歌) L 2 6 5 8
 隆純(こうじゆん・寺尾) → 隆純(たかずみ・寺尾てらお、医者/本草学) M 2 6 1 3
 康純(こうじゆん・松平) → 寒松(かんしょう・松平、藩家老/詩歌) H 1 5 6 8
 鮫水(こうじゆん・滝川) → 太冲(たいちゆう・滝川たきがわ、医者) K 2 6 6 1
 J1964 **果俊**(こうじゆん; 法諱) ? - ? 室町期1394-1428頃真言宗醍醐寺僧、法橋、
 1420地蔵院での法会の行事:「門主上綱義賢御入壇記」著
 J1965 **豪春**(こうじゆん; 法諱) ? - ? 安桃期1573-96頃天台僧/梶生流、
 覚円[良如親王]・常胤親王らと交流、1582「無性有情私」/95「童女成仏」「行林目録」著
 J1966 **豪淳**(こうじゆん; 法諱) ? - ? 江中期宝暦明和1751-72頃天台僧、
 近江坂本の竜珠院住、1754「宮中御懺法講記」63「禁中常御所安鎮記」著
 江春庵(こうじゆんあん) → 三喜(三帰さんき・田代、医者; 李朱医学) L 2 0 9 5
 広春院(こうじゆんいん) → 成式(せいしき・野間のみ、幕臣/医者) I 2 4 5 7
 高俊院(こうじゆんいん; 法号) → 忠受(たださか・西尾/酒井、藩主/絵画) U 2 6 3 1
 向春居(こうじゆんきよ) → 菱潭(りょうたん・布川ぬのかわ、儒/兵学者) I 4 9 8 2
 孝順先生(こうじゆんせんせい) → 篁斎(こうさい・皆川みながわ、儒者) B 1 9 1 6
 J1967 **公遵法親王**(こうじゆんほつしんのう、中御門天皇皇子) 1722-8867 母; 民部卿典侍(清水谷実業女)、
 天台僧; 1731毘沙門堂里坊で得度/34輪王寺入室/37関東下向/40一品/45上京; 天台座主、
 1749准三宮/80退隠、詩文に長ず:
 「随宜楽院宮詩文集」「鶴阜文稿緑岡文稿」「阿弥陀経要解俗問」著、
 [公遵親王(; 法諱)の幼名/名/号]幼名; 二宮、名; 保良、号; 随自意院/随宜楽院ずいぎらくいん
 孔庶(こうじよ・中田) → 淡斎(たんさい・中田なかつ、儒者) T 2 6 5 5
 桂渚(こうじよ・風早) → 公雄(きみお・風早かざはや、廷臣/歌人) M 1 6 0 1
 公緒(こうじよ; 道号) → 龍統(りゅうとう; 法諱・正宗しょうじゅう; 道号、臨濟僧/詩文) 4 9 1 1
 公緒(こうじよ・藤井) → 承基(つぐもと・藤井ふじい、商家/国学) G 2 9 2 7
 公曙(公曙こうじよ・杉岡) → 暎桑(とんそう・杉岡、儒者) S 3 1 3 8
 J1968 **公助**(こうじよ; 法諱、号; 老愚/善学院、定法寺殿、三条実量男) ?-? 1534存 天台宗定法寺住僧、
 実助の付弟/1471青蓮院執務/80権僧正、法性寺座主/鞍馬寺別当/法務大僧正、
 「安楽不動観」「求子法」著、1524実隆と「真如堂縁起」筆、連歌:新菟3句入
 P1984 **光恕**(こうじよ; 法諱、一字名; 林) ?-? 越前福井の真宗大谷派本浄寺住職、俳人、
 1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
 [楽らくなれや代も太平の今朝の春](手鑑/雅楽; 太平楽をきかせる)
 B1934 **光如**(こうじよ・高向たかむこ) ? - ? 江前期伊勢の御師おし、神風館系俳人、
 1679心友「伊勢宮笥」両吟
 J1969 **孝女**(こうじよ・川島かわしま、安親女) ?-? 江前期近江川並村の俳人; 季吟門or片桐良保門?

宣為(俳人)の妹、1684西鶴「俳諧女哥仙にょかせん」入、

[衣手ころもでの森や時雨の染め物屋](女哥仙;8/衣手;山城の紅葉の名所)

J1970 **好女**(こうじょ/よしじょ・松岡まわか、名;於好およし、松岡定用ていようの妻) ?-?1688後没 江前期江戸の俳人;
立圃門、夫定用も同門、「東海道俳諧吟行」著、「鶉鷺俳諧」入、1671重以「新百人一句」入、
1676西鶴「古今俳諧師手鑑」82風黒「高名集」/84西鶴「俳諧女哥仙にょかせん」入、
[吉野山見越す雲井の桜哉](手鑑・高名集・女哥仙10;見越すは見優る意/雲井は内裏)
夫 → 定用(ていよう・松岡、俳人) B 3 0 7 5

R1934 **孝女**(こうじょ・松本まつもと、号;松光、旧姓;黒柳) 1651-171969 紀伊和歌山の松本定章の妻、歌人

Q1919 **幸女**(こうじょ/ゆきじょ?/さちじょ?・鳥山とりやま) ?-? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[みどり子の親にはなるる心にもまさりてしたふわが思ひかな](大江戸倭歌;恋1624)

Q1948 **幸女**(こうじょ・大石おおい、石井信道2女/名;孝こう) 1833-7947 陸奥相馬の生、歌人、
幼時より箏十三絃;佐々木瞽師門;秘奥を極める/茶道;谷南溪門、
相馬中村藩士大石良頭(りょうとう)の妻、1879病で臥床;没

鎬女(こうじょ・生田) → 鎬(こう;名・生田いた/香取、辞世歌) Q 1 9 3 1

公恕(こうじょ・三田) → 花農(かのう・三田みた、医者/花卉画) P 1 5 1 5

広除(こうじょ・大森) → 素笏(そじゅく・大森おもり、庄屋/俳人) J 2 5 9 0

行助(こうじょ・矢上) → 快雨(かいう・矢上やがみ、儒者/詩) E 1 5 3 3

行助(こうじょ・竹内) → 楊園(ようえん・竹内たけうち、儒者/詩人) 4 7 6 5

考叙(こうじょ・庄田) → 正守(まさもり・庄田しょうだ、藩士/歌人) Q 4 0 2 1

恒助(こうじょ・小塚/内田) → 恒助(つねすけ・内田/小塚、藩士/文筆) C 2 9 3 0

興恕(こうじょ・犬塚) → 興恕(おきひろ・犬塚いぬづか/橘、国学者) D 1 4 8 6

鰲嶼(こうじょ・吉田) → 鰲岐(こうき・吉田/吉、儒者/歌) I 1 9 2 3

J1971 **豪恕**(ごうじょ;法諱、俗姓;辰巳) 1733-1824長寿92 近江愛智郡の天台僧/平松時行の猶子、
金剛輪寺光俊門;得度/比叡山で修行;正覚院住、天台大僧正、
1807「法華三昧法則」17「山家円戒論」、「玉体加持作法」「重授戒内道場作法」著、
[豪恕の別法諱/字/号]別法諱;光賢、字;虚凝こぎょう、号;守節

好曙庵(こうしゅあん) → 梧由(ごゆう・村上、俳人) N 1 9 8 4

J1972 **光清**(こうじょう/こうせい;法諱・号;垂井/俗姓;紀、石清水23世別当頼清男) 1084-113754 1094出家、
母;叡範の姉妹、1103法橋/石清水25世別当/06法眼/14法印/28檢校/31権大僧都、
金葉II265(但し袋草子によると蔵人君意尊の歌;俊頼が過って入集したという)、
妻;菅原在良女 → 小大進(こだいじん/こだいしん・花園左大臣家、歌人) D 1 9 2 2
息子 → 成清(なりきよ/なりきよ、石清水30世別当/歌人) T 2 2 3 5
息女 → 小侍従(こじじゅう・大宮、待宵の小侍従、歌人) C 1 9 7 7

B1935 **公紹**(こうじょう;法諱、八丈実世男) ?-1321 母;水無瀬定輔女、鎌倉期真言僧;醍醐寺俊誉門、
両部灌頂受;松橋流を相承/法印、1305醍醐権僧正/19東寺長者、
歌人、勅撰3首;新後撰612、続千載996/1646、
[結びおく世世のちぎりも深草の露のかごとにぬるる袖かな](新後撰;釈教612/授記品)

J1973 **幸承**(こうじょう;法諱) ? - ? 南北期;初め天台比叡山の堅者じゅしゃ(童僕)、
廬山寺の照源・実導の教えを記録:1370-71「円戒暁示鈔」著

J1974 **光昭**(こうじょう;法諱・号;准如、本願寺11世光佐[頭如]男) 1577-163054 真宗本願寺12世、
母;三条公頼女如春、越前本覚寺の法嗣/1581大坂天満本山で得度/京六条堀川の本願寺住、
1593秀吉の裁定で兄光寿に代わり本願寺派住職(西本願寺)/1608大僧正、22江戸別院創建、
「准如上人御書」「准如上人消息案文」「御消息類集」「御書物御道具目録」著、
[光昭の幼名/号]幼名;阿茶、号;准如/理光庵、諡号;信光院

J1975 **光紹**(こうじょう;道号・智堂;法諱、慧輪永明禅師) ?-1670 曹洞宗僧;下総総寧寺22世;同寺洪鐘鑄造
永平寺30世、1667「永平清規」:出版、68「慧林永明禅師代語」著

B1936 **岡松**(こうじょう) ? - ? 江戸蕉門俳人;1680「桃青門弟独吟20歌仙」入

B1937 **好昌**(こうじょう・蒔田) ? - ? 江前期尾張の俳人、1671友次「藪香物」発句付句入

P1973 **紅章**(こうじょう) ? - ? 俳人;一昌門、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、

[物音や初寅まいり朝まだき](丁卯集/四鐘;春追出)

- J1976 **光性**(こうしょう;法諱、大谷派本願寺15世光晴[常如]男)1682-1744⁶³ 近衛家熙の猶子、
真宗大谷派東本願寺17世、1693得度/1700宗務継承/01大僧都、「真如上人記」「真宗」著
[光性の幼名/号]幼名;悦磨/光養丸、号;真如/愚海/臨池/梅州/梧、諡号;功德聚院
- J1977 **公盛**(こうしょう;法諱) ? - ? 江中期華嚴宗東大寺僧:公慶門、竜松院住、
師没後;1705大勸進職相統;大仏殿工事に尽力、1705「公慶上人年譜」編
- P1968 **好松**(こうしょう) ? - ? 江中期俳人;1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
[三徑や荒れてもひとり水仙花](伊丹発句合;冬)
- Q1988 **杲照**(こうしょう/ごうしょう;法諱)1698-? 1781(84歳)存 尾張名古屋の真言宗東界寺住僧、歌人、
1781(安永10/84歳)絵師内藤東甫(閑水)主催の金剛山長栄寺尚齒会に参加(9人);詠歌
[杲照の字/号]字;達仙、号;幸山
- J1978 **公祥**(こうしょう;法諱) ? - ? 江中期華嚴東大寺僧;公慶門、大僧都/法印、
東大寺別当/寺務代、1764「法華会短冊箱記」75「西国正税運上」、「愛明灌頂作法」著
- J1979 **幸照**(こうしょう・松田まつだ、通称;兵部)?-? 江後期京東寺住、1820刊「兵法奥義捷徑」著、
1820刊「神儒仏奥義捷徑」、「不動心無刀之術伝真」著
- J1980 **香松**(こうしょう・牧まき、)1813 - 1865⁵³ 周防徳山藩士/藩校興讓館訓導、詩:広瀬淡窓門、
家学の書に熟達、歌、「岐嶺路紀」著、
[香松の名/字/通称/別号]名;将弼/将徽まさよし、字;子猷、通称;庸造、別号;半村

光尚(こうしょう・八羽)	→	光尚(みつひさ・八羽はつば/はちは、和学者)	K 4 1 1 0
光章(こうしょう・桜井)	→	光章(みつあき・桜井さくらい/桃沢、国学・歌)	H 4 1 6 8
光昭(こうしょう・木下)	→	光昭(みつあき・木下きのした/野原、陪臣/歌人)	I 4 1 7 7
光昭(こうしょう・竹屋)	→	光昭(みつあき・竹屋たけや、廷臣/有職/歌)	J 4 1 6 8
光昭(こうしょう・榎島)	→	光昭(みつあき・榎島まきしま/長谷部、藩士)	K 4 1 5 3
光昭(こうしょう・馬島)	→	光昭(みつあき・馬島まじま、藩士/歌人)	K 4 1 4 9
光照(こうしょう;号)	→	願海(がんかい:法諱、天台僧/千日回峰)	Q 1 5 0 7
光照(こうしょう・鏡)	→	光照(みつてる・鏡かがみ、和算家)	D 4 1 9 7
光照(こうしょう・牧野)	→	光照(みつてる・牧野まきの、国学/歌人)	K 4 1 5 2
光勝(こうしょう;法諱・俊甫)	→	周南(しゅうなん;道号・円旦;法諱、臨濟僧)	Y 2 1 1 5
光勝(こうしょう;法諱)	→	空也(くうや、念仏浄土教/歌人)	1 7 3 9
光昇(こうしょう・馬田)	→	柳浪(りゅうろう・馬田うまた/広津、医/戯作者)	F 4 9 8 8
光鍾(光鐘こうしょう・新興)	→	蒙所(もうしょ・新興におう/興/堀、書家)	4 4 5 5
光章(こうしょう・加賀美)	→	光章(みつあき・加賀美/源/間宮/飯田、神道/国学)	C 4 1 9 9
孝章(こうしょう・尾藤)	→	孝章(たかあき・尾藤びと、儒者)	L 2 6 4 6
孝勝(こうしょう・石川)	→	伯兎(はくと・石川いしかわ、俳人)	D 3 6 6 3
孝勝(こうしょう・指田)	→	孝勝(たかかつ・指田さした/加藤、役人/国学)	X 2 6 4 1
孝章(こうしょう・柏原)	→	学而(がくじ、柏原かわばら、蘭医者)	J 1 5 9 3
孝昌(こうしょう・中島)	→	孝昌(たかまさ・中島なかじま、里正/俳人)	D 2 6 7 3
孝承(こうしょう・種田/小出)	→	慎斎(しんさい・小出こいで、儒者)	E 2 2 1 7
考祥(こうしょう・匹田)	→	柳塘(りゅうとう・匹田/疋田ひきだ/藤原、家老)	F 4 9 3 0
考正(こうしょう;字)	→	日量(にちりょう;法諱・遠寿院、日蓮僧)	D 3 3 6 3
黄裳(こうしょう・石野)	→	樵水(しょうすい・石野いしの、藩儒者)	T 2 2 6 7
黄裳(こうしょう・石王)	→	塞軒(そっけん・石王いしおう、儒者)	E 2 5 0 2
幸清(こうしょう)	→	幸清(きょうしょう、鎌倉期歌人)	C 1 6 6 3
幸勝(こうしょう;名)	→	慈胤親王(じいんしんのう、天台座主/茶)	B 2 1 1 0
幸勝(こうしょう・吉見)	→	幸勝(ゆきかつ・吉見/園崎/菅原/源、藩士/神道家)	E 4 6 4 0
幸松(こうしょう・藤井)	→	承基(つぐもと・藤井ふじい、商家/国学)	G 2 9 2 7
孔昭(こうしょう・細川/石河)	→	道竹(どうちく・石河いしかわ、儒;陽明学)	G 3 1 3 9
孔昭(こうしょう・芳賀)	→	潜庵(せんあん・芳賀はが、藩医者)	L 2 4 5 4
孔昭(こうしょう・檜林)	→	宗建(そうけん・檜林ならばやし、医者;種痘)	B 2 5 2 7
孔昭(こうしょう・伊藤)	→	維恭(これたか・伊藤いとう/亀屋、医者/歌)	Q 1 9 3 0

孔章(こうしょう・山田) → 孔章(よしあき・山田やまだ/山、古銭学者) B 4 7 9 8
 孔彰(こうしょう・葛西) → 靖斎(せいさい・葛西かさい/小山田、医者) I 2 4 2 6
 孔彰(こうしょう・武田/林) → 単山((たんざん・林はやし/武田、藩儒) I 2 6 2 0
 孔彰(こうしょう・榎倉/福井) → 端隠(たんいん・福井/度会/榎倉、神職/篆刻) T 2 6 1 5
 興勝(こうしょう・荒巻) → 竹茂(ちくも・荒巻、俳人) D 2 8 7 9
 興勝(こうしょう・百野/青木) → 興勝(おきかつ・青木あおき、儒/蘭学者) C 1 4 8 7
 紅蕉(こうしょう:号) → 慧鳳(えほう:法諱・翱之・臨濟僧) 1 3 8 4
 耕象(こうしょう・松井) → 永賢(ながよし・松井、官人/歌人) G 3 2 5 1
 好尚(こうしょう・富永) → 竹村(ちくそん・富永、医/儒学/歌) D 2 8 4 1
 好尚(こうしょう・碧川) → 好尚(よしひさ・碧川みどりかわ、藩士/国学) G 4 7 3 1
 好昌(こうしょう・錦戸) → 好昌(よしまさ・錦戸にしきど、国学者) O 4 7 4 0
 好勝(こうしょう・田村) → 好勝(よしかつ・田村たむら/大野、藩士/歌) N 4 7 6 7
 公尚(こうしょう・滋野井) → 公尚(きんひさ・滋野井しげのい、廷臣/日記) R 1 6 6 8
 公尚(こうしょう・今出川) → 公興(きんおき・今出川/菊亭、左大臣/歌) Q 1 6 7 0
 公商(こうしょう・山口) → 素堂(初世そどう・山口、商家/俳人) 2 5 2 6
 公相(こうしょう・西園寺) → 公相(きんすけ・西園寺、太政大臣/歌) E 1 6 1 8
 公象(こうしょう・柏淵) → 有儀(ありのり・柏淵かじぶち/加藤、武芸家) F 1 0 6 1
 公章(こうしょう・山田) → 公章(きみあき・山田、藩士/兵学) L 1 6 9 9
 公松(こうしょう・立木) → 定保(さだやす・立木たちき/源、藩士/国学) Q 2 0 9 2
 公勝(こうしょう・一条) → 公勝(きんかつ・一条/清水谷、廷臣/歌) D 1 6 8 7
 公勝(こうしょう・山県) → 大式(だいに・山県、医者/漢学/尊王論) C 2 6 0 3
 公裳(こうしょう・草鹿) → 泰仲(たいちゅう・草鹿くさか、藩士/医/詩) K 2 6 6 2
 広照(こうしょう・皆川) → 広照(ひろてる・皆川みながわ、武将/藩主) G 3 7 4 7
 恒章(こうしょう/つねあき・速水) → 春曉斎(初世しゅんぎょうさい・速水はやみ、商家/読本) J 2 1 4 0
 恒昌(こうしょう・奈須) → 恒昌(つねまさ・奈須なす、幕府医者) D 2 9 6 6
 行勝(こうしょう・伊藤) → 玄節(げんせつ・伊藤いとう、藩医/儒者) K 1 8 5 5
 行尚(こうしょう・星) → 研堂(けんどう・星ほし、藩士/書家) L 1 8 7 2
 浩翔(こうしょう・黒田) → 玄鶴(げんかく・黒田くろだ、医者/詩文) I 1 8 2 6
 高尚(こうしょう・惟良) → 高尚(たかひさ・惟良これよし/これなが、詩人) D 2 6 5 5
 高尚(こうしょう・三宅) → 尚斎(しょうさい・三宅/平出、儒者) S 2 2 2 9
 高尚(こうしょう・小野) → 高尚(たかひさ・小野おの、幕臣/国学者) D 2 6 5 6
 高尚(こうしょう・藤井) → 高尚(たかなお・藤井/大中臣、神職/歌学) 2 6 1 3
 高尚(こうしょう・葉山) → 高尚(たかなお・葉山はやま、藩士/詩) M 2 6 5 7
 高尚(こうしょう・相沢) → 尢(おけら・相沢あいざわ/石川、医者/歌人) D 1 4 7 7
 高韶(こうしょう・早雲) → 高廉(たかかど・早雲はやくも、神職/国学) Z 2 6 0 4
 康勝(こうしょう/やすかつ・蘆田/依田) → 宗月(そうげつ・加藤/依田/松平/蘆田、武将) H 2 5 0 2
 康勝(こうしょう・伊丹) → 康勝(やすかつ・伊丹いたみ、幕臣) B 4 5 1 5

F1913 **光定**(こうじょう;法諱、別当大師、俗姓;贗) 779-85880 伊予風早の天台僧:最澄門、止観;義真門、810宮中で得度/12東大寺受戒/律学;景深門/灌頂;空海門、嵯峨天皇の厚遇;大乘戒壇設立、838伝灯大法師位/延暦寺別当、勅命で四王院創建、835「伝述一心戒文」編/845「唐決問」著、「叡山血脈譜」「庭儀灌頂用意」「日本名僧伝」「法華儀軌」「法華長講会式注釈」「後伝法記」著

R1970 **降静**(こうじょう;法諱、) ? - ? 鎌倉南北期;祇園社社務代/法印権大僧都、歌人;1350為世十三回忌和歌出詠、
 [峰つづき山のあなたに咲く花もおなじにほひに春風ぞ吹く]、
 (為世十三回忌歌;103/詠随喜功德品和歌 聞已随喜復行転教)、
 [はかなくて聞きにし秋の露の跡によそまでけふはぬるる袖かな](同;104/懐旧)

J1981 **光常**(こうじょう;法諱、本願寺13世光円[良如]男) 1651-172575 真宗本願寺派僧;1661得度、1662父の法統継承;本願寺14世/72大僧正、1695学譽を再興/1711宗祖450年忌を執行、1692「阿弥陀経一座談」、「讚仏講式」「舌々阿弥陀経」「寂如上人」著、
 [光常の幼名/号]幼名;房曆、号;寂如(じやく)によ/興賢、諡号;信解院

- B1938 **広城**(こうじょう・ひろき・大野おの) 1788-1841⁵⁴ 幕臣;小十人組/国学者、故実家、1835「仮字便覧」、
「証歌類葉」編、「執権故実」、39「殿居囊」41「泰平年表」「泰平年表後記」「万世泰平年鑑」、
「青標紙」「清平紀平」「東国風流」「類例秘録」「律令大秘録」編/「忍屋叢書」「棚機の記」、
1841「殿居囊」「泰平年表」等が幕府の発禁処分;綾部藩お預け;幽囚のうちに病死、
[広城の通称/号]通称;権之丞、号;忍軒/忍屋しのぶのや隠士/忍辱舎/忍廼屋/藥園[樵園しょうえん]
- F1912 **香城**(こうじょう・喜多村きたむら、槐園男) 1804-76⁷³ 医者;安積良斎門/1841幕府医学館教諭、侍医、
法眼、詩歌、「医方類聚」「太平御覧」等多数の医書刊行、多紀元堅・小島尚質と三名医と称、
1828「医噓いさやく」「三余医草」「多疾彙箋」/54「服薬要抄」/55「医方淵源考」「晋唐名医方選」、
「医方記聞」「栲窓医考」「栲窓雜藁」「南柯医話」「柄燭医談」、1868隨筆「五月雨草子」外著多、
[香城(;)号]の名/字/通称/別号]名;直寛、字;士栗、通称;安斎/安正、
別号;栲窓こうそう/楽山/竜尾
- J1982 **江城**(こうじょう・松橋まつはし、名;純真/字;埜逸やいつ、服部氏の養子) 1813-56⁴⁴ 彦根藩士;服部家継承、
但し松橋を称す、儒/詩;梁川星巖・菊池五山門、病のため致仕;京山崎観音寺住;詩を教授、
1855刊「学詩堂詩鈔」著
- 広丈(こうじょう・調所) → 広丈(ひろたけ・調所ちようしよ、藩士/国学/政治) J 3 7 8 9
 広乗(こうじょう;字、広乗坊) → 日成(にちじょう;法諱・智見院、日蓮僧) C 3 3 3 6
 広城(こうじょう・堀内) → 広城(ひろき・堀内ほりうち、地士/国学者) F 3 7 7 4
 広城(こうじょう・太田) → 広城(ひろき・太田おた/喜満多、藩士/詩歌) I 3 7 9 0
 弘繩(こうじょう・中西) → 弘繩(弘綱ひろつな・中西/度会、神職/国学) G 3 7 4 1
 弘乗(こうじょう・中西) → 弘乗(ひろり・中西/度会、神職) G 3 7 8 7
 弘驤(こうじょう;初法諱) → 神童(しんりゅう;道号・寂驤;法諱、黄檗僧) Q 2 2 1 0
 公乗(こうじょう・石川) → 侃斎(かんさい・石川いしかわ、絵師) D 1 5 6 7
 公乗(こうじょう/きんのり・関) → 元洲(げんしゅう・関せき、藩士/儒者) D 1 8 8 4
 公城(こうじょう・徳大寺) → 公城(きんむら・徳大寺、廷臣/記録) R 1 6 8 6
 公城(こうじょう・姉小路) → 基名(もとな・石山いしやま/姉小路/藤原、権大納言) J 4 4 2 5
 公条(こうじょう・三条西) → 公条(きんえだ・三条西/西三条、古典/歌学/連歌) 1 6 5 6
 公繩(こうじょう・阿野) → 公繩(きんのり・阿野あの、廷臣/記録) R 1 6 6 2
 光常(こうじょう・山名) → 玉山(ぎやくざん・山名、幕臣/歌人) 1 6 4 0
 光浄(こうじょう;法諱) → 後円融天皇(ごえんゆうてんのう、歌人) C 1 9 1 2
 幸常(こうじょう・藤野) → 幸常(ゆきつね・藤野ふじの、俳人) G 4 6 1 8
 高常(こうじょう・佐久間) → 立斎(りつさい・佐久間さくま、兵学者) B 4 9 8 3
 綱条(こうじょう)すべて → 綱条(つなえだ)
- J1983 **豪盛**(ごうじょう;法諱) ? - ? 戦国江戸初期1532-1615頃天台僧/叡山正覚院住、
法印/大僧正、1582?探題、信長焼討後の叡山再建に尽力、「為醒眠書」「豪盛口作」「正集」、
「天台宗玄旨私記」「豪盛僧正私記」「豪盛僧正七ヶ口決」「比叡山戒壇院再興縁起」外著多数、
1600?「謡抄」入(天台宗の注釈を担当)
- 香松庵(こうしょうあん;庵号) → 青蘿(せいら・松岡、俳人) 2 4 1 4
 岡松一品(こうしょういっばん → おかまつのいっばん) → 宣子(せんし・日野ひの/藤原、典侍/歌人) F 2 4 6 3
 興正院(こうしょういん) → 日意(にちい;法諱・英和、日蓮僧) 3 3 4 1
 広性院(こうしょういん) → 日応(にちおう;法諱、日蓮僧) 3 3 9 0
 黄裳閣(こうしょうかく、黄裳園) → 芝山(しざん、大高坂、藩儒/南学) D 2 1 7 1
 考証閣(こうしょうかく) → 由豆流(ゆずる・岸本/平/朝田、国学者) 4 6 1 3
 江松軒(こうしょうけん) → 正相(まさすけ・今村/源、藩士/兵法家) C 4 0 9 0
 岡松軒(こうしょうけん) → 西吟(さいぎん・水田/落月庵、俳人) 2 0 7 1
 江相公(こうしょうこう) → 音人(おとんど・大江、廷臣/詩人) 1 4 2 1
 江上舎(こうじょうしゃ) → 巴紋(はもん・江上舎、俳人) F 3 6 7 0
 興讓書院(こうじょうしよいん) → 朗廬(ろうろ・阪谷さかたに、儒者/詩文) 5 2 4 6
 高照正灯国師(こうしょうしやうとうこくし) → 宗峰(しゅうほう・妙超、臨濟僧) Y 2 1 3 8
 広照禅師(こうしょうぜんじ) → 孤山(こざん;道号・至遠しおん;法諱、臨濟僧) M 1 9 5 6

- 広照禅師(こうしょうぜんじ) → 梵鶴(ぼんかく;法諱・貫之:道号、曹洞僧) F 3 9 4 0
 光照大士(こうしょうだいし) → 源空(げんくう;法諱・法然、浄土宗開祖) 1 8 1 1
 岡丈堂(こうじょうどう) → 芦麿(あしまろ・豊川、絵師) E 1 0 4 1
 高尚坊(こうじょうぼう) → 超然(ちょうねん;法諱、真宗本願寺派僧) J 2 8 6 3
 香象房(こうじょうぼう) → 信永(しんえい、香象房、僧/歌人) D 2 2 5 0
 光静房(光乗房こうじょうぼう) → 良忍(りょうにん;法諱、融通念仏祖/声明中興) J 4 9 1 6
 光乗坊(こうじょうぼう;号) → 宗淵(しゅうえん;法諱、天台僧/声明) G 2 1 8 6
 迎接房(ごうじょうぼう) → 教懐(きょうかい;法諱、真言僧/高野聖祖) I 1 3 1 6
 興正菩薩(こうじょうぼさつ) → 叡尊(えいそん;法諱、真言律僧) 1 3 3 9
 開上老隠(こうじょうろういん) → 雀汀(かくてい・岡おか、儒者/詩人) K 1 5 2 2
 開上老隠(こうじょうろういん) → 玩鷗(がんおう・太田おた、儒者/詩人) G 1 5 1 4
 巧諸勝(こうじよかつ) → 諸勝(もろかつ・巧こう、詩人) H 4 4 1 5
 幸殖(こうじよく・平巖/近藤) → 幸殖(ゆきたね・近藤/平巖、藩老/詩) E 4 6 8 0
 好植(こうじよく/よしうえ・秋山) → 好頼(よしより・秋山あきやま/源、藩士/歌) L 4 7 1 4
 好色外史(こうじよくがいし) → 文京(ぶんきやう・花笠、合巻/歌舞伎作者) F 3 8 0 2
 好色軒円水(こうじよくけんえんすい) → 円水(えんすい・増田、雑俳) B 1 3 1 5
 衡汝舎人(こうじよしゃしんじん) → 一江(いっこう・和田わだ、儒者) H 1 1 0 7
 耕書堂(こうじよどう) → 重三郎(じゅうざぶろう・蔦屋、地本問屋) 2 1 4 2
 耕書堂(こうじよどう/4世蔦屋重三郎) → 春馬(2世しゅんば・三亭、書肆/合巻/狂歌) L 2 1 7 5
 苟且堂(こうじよどう) → 為長(ためなが・水野/萩原、歌人) H 2 6 1 9
 B1939 恒助法親王(こうじよほっしんのう;法諱、号;金竜寺宮、後深草天皇皇子) 1288-1310早世²³ 鎌倉期;
 円満院門跡、母;別当典侍(藤原茂通女)、無品法親王/三部大法/天王寺別当、
 歌、新後拾遺1518、
 [さのみなどにごる心ぞ石清水さこそ流れの数ならずとも](新後拾;神祇1518)
 皞如楼(こうじよろう・永井) → 青崖(せいがい・永井、藩士/蘭学者) H 2 4 7 6
 1912 幸四郎(初世こうしろう・松本、初名;小四郎) 1674-1730⁷⁵ 下総小見川の生、
 江戸の歌舞伎役者;多四郎門、1716改名、荒事;当役は鬼王・金時・忠信など、
 俳名:小見川/男女川みなのがわ
 B1940 幸四郎(四世こうしろう・松本、高麗屋) 1737-1802⁶⁶ 京の生/江戸歌舞伎役者:瀬川菊之丞門、和事、
 1772襲名、94極上上吉/当役;曾我十郎・亀屋忠兵衛など、
 [四世幸四郎の別号]1754瀬川錦次/市川武十郎/市川高麗蔵/1801男女川京十郎、
 俳名:錦考/錦江、屋号;高麗屋
 B1941 幸四郎(五世こうしろう・松本、4世男) 1764-1838⁷⁵ 江戸歌舞伎役者、実悪、三都随一の評判、
 4世鶴屋南北の作品に出演、合巻作者、「三日月太郎物語」補、「千葉模様好の新形」補
 [五世幸四郎の別号] 初世市川純蔵/3世市川高麗蔵、錦江/錦升/金升、秋夜亭、屋号高麗屋
 B1942 幸四郎(六世こうしろう・松本、錦升、5世男) ?-1849; 37歳? 歌舞伎役者/父の芸風継承
 幸四郎(二世こうしろう・松本) → 団十郎(4世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役者/俳人) 2 6 9 0
 幸四郎(三世こうしろう・松本) → 団十郎(5世だんじゅうろう市川、歌舞伎役者/狂歌) I 2 6 3 1
 幸四郎(こうしろう・来原) → 良蔵(りょうぞう・来原くるはら/福原、藩士) I 4 9 6 8
 幸四郎(こうしろう・熊谷) → 直治(なおはる・熊谷くまがい/益田、藩士/国学) L 3 2 9 8
 甲四郎(こうしろう・船田) → 耕山(こうざん・船田ふなだ、書家) B 1 9 4 7
 甲四郎(こうしろう・荒井) → 公履(こうり・荒井あらい、藩士/儒者) L 1 9 5 5
 甲子楼(こうしろう・太田) → 午庵(ごあん・太田おた、藩士/詩文) H 1 9 0 5
 香四郎(こうしろう・後藤) → 慕庵(ぼあん・後藤ごとう、医者) 3 9 0 6
 J1984 孝次郎(こうじろう;通称・西野にしの)?-? 江後期水戸藩士/穀菜種芸とその用法書「権介心得草」
 J1985 耕治郎(こうじろう;通称・和田わだ)?-? 大阪高台林麓の書肆:一枚摺版、
 「楽しみそう紙」書
 J1986 亨次郎(こうじろう・永持ながもち、柴田順蔵男) 1826-64³⁹ 幕臣/永持勘之丞養子、江戸小石川住、
 1842学問所講釈弁書の試業合格/45学問所勤番/徒目付/62外国奉行支配組頭/64京目付介、
 「俄羅斯使節始末」、「永持亨次郎筆記」編、

[享次郎(；通称)の名/号]名；穀明、号；槐屋かいおく

幸次郎(こうじろう・杉/細井)→ 隆音(たかね・細井/杉、廷臣/歌人) C 2 6 5 5
幸次郎(こうじろう・原田)→ 梅年(ばいねん・原田/服部、俳人) B 3 6 9 3
幸次郎(こうじろう・山村/森)→ 壺仙(こせん・森もり/山村、商家/俳人) M 1 9 9 7
幸次郎(こうじろう・田中)→ 五竹坊(ごちくぼう・田中、獅子門4世/俳人) D 1 9 2 6
幸次郎(こうじろう・吉川)→ 従門(よりかど・吉川よしかわ、幕臣/神道) L 4 7 4 4
幸次郎(こうじろう・中山)→ 葦菘(あしが・中山なかやま、医・藩儒者) 2 4 8 5
幸次郎(こうじろう・高橋)→ 豊珪(とよあき・高橋たかはし、剣術/書家) V 3 1 6 5
幸次郎(こうじろう・新庄)→ 道雄(みちお・新庄/藤原、商家/国学者) B 4 1 2 6
幸次郎(剛次郎こうじろう・奥平)→ 棲遲庵(せいちあん・奥平/源、藩士/闇齋学) C 2 4 5 8
幸次郎(こうじろう・菅野)→ 元健(もとたけ・菅野すがの、和算家) C 4 4 8 7
幸次郎(こうじろう・伊勢屋)→ 邦則(くにのり・池村いけむら、染物業/国学) E 1 7 0 1
幸二郎(こうじろう・熊谷くまや)→ 五右衛門(4代ごえもん・熊谷/熊屋、商家/藩政) L 1 9 7 4
幸二郎(こうじろう・井上)→ 酒船(さけふね・問屋といや/とんや、狂詩/狂歌) B 2 0 5 6
孝次郎(こうじろう・前田)→ 孝友(たかとも・前田、孝享男/藩士/記録) M 2 6 4 9
孝次郎(こうじろう・藤田)→ 雅言(まさこと・藤田ふじた、藩士/国学者) S 4 0 3 1
孝次郎(こうじろう・室)→ 方義(まさよし・室むろ、国学/勤王/政治家) T 4 0 1 4
広次郎(こうじろう・三島)→ 中洲(ちゅうしゅう・三島みしま、藩士/儒者) G 2 8 2 3
光治郎(こうじろう・藤井)→ 高雅(たかまさ・藤井ふじい、神職/歌人) D 2 6 7 4
光次郎(こうじろう・土井)→ 光華(みつあき・土井どい、国学/政治家) J 4 1 8 3
甲次郎(幸次郎こうじろう・加藤)→ 一周(かずかね・加藤、歌人) M 1 5 1 6
恒次郎(こうじろう・池田)→ 冠山(かんざん・松平、藩主/和漢学/文筆) D 1 5 8 0
鏗二郎(こうじろう・梶)→ 琴悟(きんご・梶あがた、儒者) Q 1 6 8 7
剛次郎(こうじろう・間宮)→ 士信(ことぶ・間宮、儒者/昌平黌総裁) F 1 9 8 2
剛治郎(こうじろう・野田)→ 知彰(ともあき・野田のだ、藩士/天文家) P 3 1 1 2
剛治郎(こうじろう・島津)→ 久慶(ひさやす・島津しまう、藩士/記録) C 3 7 0 9
肴次郎(こうじろう・大村)→ 致知(むねとも・大村、藩士/日記) B 4 2 9 1

- B1943 **高信**(こうしん;法諱、初法諱;行澄/字;順性房) 1193-1264 72 鎌倉前期華嚴教学:明恵[高弁]門、
1235高山寺行遍門;伝法灌頂を受/丹波神尾山の金輪寺創建、師高弁を顕彰、
1238「梶尾明恵上人遺訓」48「明恵上人歌集」編纂/53「高山寺縁起」55「明恵上人行状」編
[清滝の波にともなふ松風にくちよ秋か心すむべき](明恵上人歌集;141/師への返歌、
安貞2[1228]初秋明恵贈歌140;秋の夜はわきぞかねつる清滝の波にともなふ峰の松風)
J1987 **光信**(こうしん;法諱・源海げんかい;号、俗名;安藤隆光/本姓;日野) 1221-78 58 武州荒木村の真宗僧、
1256真仏門/出家、のち親鸞門;甲州万福寺24世、各地布教/1258東山渋谷興正[仏光]寺3世、
武州児玉郡荒木村に満福寺開山;荒木門徒を形成、「三機往生意」「三経往生意」著、
「一向帰西鈔」「善信聖人親鸞伝」絵、1275「浄土法門見聞鈔」76「親鸞聖人渋谷仏光寺伝」著
J1988 **弘真**(こうしん;法諱・文観;字、後小野僧正) 1278-1357 80 鎌倉期;初め天台僧;播州法華山書写山住、
南都で律を修学/真言;小野報恩院道順で灌頂受/伊豆配流中の仁寛より秘契印訣を伝受、
立川流を樹立/大成、1323醍醐寺64世座主兼天王寺別当、1330関東調伏を祈願;硫黄島配流、
1333幕府陥落;召還され醍醐寺座主/35東寺120世長者/大僧正、南朝に従属、吉野河内住、
「三観秘抄」「最極秘密鈔」「理趣経秘註」1337「金峰山秘密伝」著
B1944 **興信**(こうしん;法諱、俗名;紀宗信、紀宗尚男)?-? 鎌倉後期廷臣/1265出羽守、御厨子所預、
正五下/隼人正/院北面/民部大輔/出家;法師、歌人:新後撰1561、続千載1734、
[何としてうき身ひとつの残るらん同じ昔の人はなき世に](新後撰:十九1561興信法師)
F1921 **弘心**(こうしん;法諱) ? - ? 室町期永享1429-41頃天台僧、
「義科講案立抄一仏始終」著
J1989 **江心**(こうしん;道号・承董しょうどう;法諱)?-?1558-70頃没 臨濟僧:竹岩寿貞門/法嗣、天竜寺三秀院住、
天竜寺186世、五山文学、詩人:聯句に長ず、聯句;1556三条西公条催「大覚寺和漢千句」参加、
「嵐斎疏藁」著、
[江心承董の号] 芳隠/嵐斎、策彦周良と交流

- G1971 幸信(こうしん) ? - ? 丹波峰山俳人、1690言水「新撰都曲」91似船「勢多長橋」入
- F1914 高信(こうしん/たかのぶ;名・望月もちづき、号;志随軒)?-? 江中期18c丹波亀山の隠士/講釈師?、
実録「石井明道士」著
- J1990 考謙(こうしん;法諱) 1775 - ? 1832存 天台宗叡山本覚院住僧/1829権僧正/32僧正、
「観音玄義記私科」著
- F1915 高振(こうしん/たかぶり、葦廼屋)?- ? 江後期洒落本作者;
1826「色深狭睡夢いろふかみそらねのゆめ」上巻著(下巻は柳園種春著)
- J1991 孝臻(こうしん;法諱) ? - ? 江後期天台宗叡山行光坊住僧、1849「大会記目安」著
- 江岑(こうしん、江岑宗左) → 宗左(初世そうさ・千せん、茶人) B 2 5 5 4
- 高親(こうしん・島津) → 道義(どうぎ、島津、武士/法師/歌) C 3 1 5 7
- 高信(こうしん・望月/志随軒) → 高信(たかのぶ・望月、隠士/実録作者) M 2 6 6 9
- 高信(こうしん・三宅) → 高信(たかのぶ・三宅、絵師) M 2 6 6 7
- 高信(こうしん・雀部) → 高信(たかのぶ・雀部ささべ、藩士/国学/歌) X 2 6 4 0
- 高真(こうしん・中原) → 高真(たかざね・中原なかはら、廷臣/歌人) C 2 6 7 8
- 光信(こうしん・土佐) → 光信(みつのぶ・土佐とき/藤原、土佐派絵師) E 4 1 3 1
- 光信(こうしん・細見) → 光信(みつのぶ・細見、武将/連歌) E 4 1 3 2
- 光信(こうしん・狩野) → 光信(みつのぶ・狩野かのう、絵師) E 4 1 3 4
- 光信(こうしん・長谷川) → 光信(みつのぶ・長谷川はせがわ、絵師) E 4 1 3 7
- 光信(こうしん・後藤) → 光信(みつのぶ・後藤ごとう、金工/白銀師) E 4 1 3 5
- 光信(こうしん・岡野) → 光信(みつのぶ・岡野おかの、医者/歌人) I 4 1 0 3
- 光信(こうしん・渋谷) → 光信(みつのぶ・渋谷しぶや、藩士/歌人) E 4 1 4 0
- 光信(こうしん・池上) → 光信(みつのぶ・池上いけがみ、藩士/歌/書) L 4 1 1 8
- 光信(こうしん・樋口) → 光信(みつのぶ・樋口ひぐち/源/北原、国学/銀行家) K 4 1 1 9
- 光心(こうしん;法諱) → 泰林(たいりん;道号・光心、曹洞僧) L 2 6 2 5
- 光真(こうしん;初法諱) → 慈俊(じしゆん;法諱、真宗僧) D 2 1 9 9
- 光真(こうしん・狛) → 光真(みつざね・狛こま、楽人) D 4 1 4 7
- 光親(こうしん・藤原) → 光親(みつちか・藤原/葉室、西親、承久変) D 4 1 8 4
- 光親(こうしん・度会) → 光親(みつちか・度会わたらい、神職/祈祷師) C 4 1 6 3
- 光親(こうしん・外山) → 光輔(みつより・外山とやま/藤原、廷臣) D 4 1 6 8
- 光辰(こうしん・荒木) → 素白(そはく・荒木あらかき、書家) K 2 5 3 2
- 公信(こうしん・藤原) → 公信(きんのぶ・藤原、為光男/廷臣/歌) E 1 6 5 2
- 公信(こうしん・藤原) → 公信(きんのぶ・藤原、実信男/廷臣) W 1 6 0 4
- 公信(こうしん・源) → 公信(きんのぶ・源、廷臣/歌人) E 1 6 5 3
- 公信(こうしん・宇喜多) → 可為(よしため・宇喜多/藤原・豊臣、絵師) L 4 7 7 1
- 公信(こうしん・多湖) → 貫斎(かんさい・多湖たこ、儒者) Q 1 5 6 3
- 公信(こうしん/きみのぶ・浅野/丹羽) → 仙庵(せんあん・丹羽にわ/浅野、医者) L 2 4 4 9
- 公親(こうしん・大中臣) → 公親(きんちか・大中臣おなかとみ、廷臣/歌) V 1 6 9 2
- 公親(こうしん・三条) → 公親(きんちか・三条/転法輪三条、歌人) E 1 6 3 1
- 行親(こうしん・祝部) → 行親(ゆきちか・祝部はふりべ、神職/歌人) E 4 6 8 3
- 行信(こうしん・世尊寺) → 行信(ゆきのぶ・世尊寺/藤原、廷臣/書家/歌) F 4 6 2 0
- 行信(こうしん・南部) → 行信(ゆきのぶ・南部なんぶ、藩主/歌人) F 4 6 2 1
- 行信(こうしん・佐藤) → 行信(ゆきのぶ・佐藤、伊豆諸島蝦夷巡見) F 4 6 2 3
- 行晟(こうしん・度会) → 行晟(ゆきあき/ゆきあきら・度会、神職/歌) H 4 6 6 3
- 行岑(こうしん・小川) → 行岑(ゆきみね・小川おがわ、藩士/歌) G 4 6 6 8
- 弘臣(こうしん・足代) → 弘臣(ひろおみ・足代/度会/中山、神職/俳人) H 3 7 9 6
- 広臣(こうしん・橋本) → 広臣(ひろおみ・橋本はしもと、藩士/歌人) F 3 7 6 2
- 広臣(こうしん・平野) → 広臣(ひろおみ・平野ひらの、医者/国学) I 3 7 3 3
- 広信(こうしん・垂水) → 広信(ひろのぶ・垂水たるみ、廷臣/文筆) G 3 7 7 9
- 広身(こうしん・柿沼) → 広身(ひろみ・柿沼かきぬま/紀、神職/国学) J 3 7 0 0
- 好信(こうしん・西堀) → 好信(よしのぶ・西堀にしほり、国学者/歌人) O 4 7 3 5

- 好信(こうしん・吉成) → 好信(よしのぶ・吉成よなり、神職/和漢学) Q 4 7 0 8
 好信(こうしん・吉田) → 好信(よしのぶ・吉田よしだ、儒者/歌/神職) Q 4 7 0 5
 恒信(こうしん/つねのぶ・速水) → 春暁斎(初世しゅんげいざい・速水はやみ、商家/読本) J 2 1 4 0
 恒親(こうしん・田代) → 恒親(つねちか・田代たしろ、藩医/国学) F 2 9 9 0
 幸辰(こうしん・伊藤) → 幸辰(ゆきとき・伊藤いとう、武家故実家) F 4 6 0 2
 幸進(こうしん・二川) → 相近(すげちか・二川ふたがわ、藩士/書/詩歌) C 2 3 4 1
 幸親(こうしん・中山) → 重孝(しげたか・庭田/中山/源、大納言/日記) R 2 1 1 8
 孝親(こうしん・橘) → 孝親(たかちか・橘、詩人) C 2 6 9 7
 孝親(こうしん・中山) → 孝親(たかちか・中山、廷臣/連歌) M 2 6 2 3
 孝臣(こうしん・宗崎) → 孝臣(たかおき・宗崎むねざき、藩士/国学) Z 2 5 8 6
 興親(こうしん;法諱) → 存覚(そんかく;号・光玄、真宗僧) E 2 5 7 1
 興信(兼松/山鹿) → 高恒(たかつね・山鹿/兼松/岡/津軽、藩士/兵学) M 2 6 2 9
 興臣(こうしん・井手) → 夢沢(ぼりたく・千村/井出/井、藩士/詩) E 3 9 5 7
 康真(こうしん/やすざね・蘆田/依田) → 宗月(そうげつ・加藤/依田/松平/蘆田、武将) H 2 5 0 2
 康信(こうしん・西村) → 康信(やすのぶ・西村、歌人) F 4 5 0 4
 康親(こうしん・中山) → 康親(やすちか・中山/藤原、廷臣/記録) C 4 5 0 0
 康親(こうしん・堀河) → 康親(やすちか・堀河/藤原/萩原、廷臣) C 4 5 0 3
 綱信(こうしん・平井) → 綱信(つなのぶ・平井ひらい、歌人) G 2 9 2 1
- B1945 工人(こうじん) ? - ? 熱田蕉門俳人、1684芭蕉と「熱田三歌仙」
 J1992 紅塵(こうじん・伊藤) ? - ? 出羽秋田の商人/俳人:其雲門、沾山・淡々門、
 1744刊「埋火」著、
 [紅塵の通称/別号]通称;久右衛門、別号;虫二房/風月亭
- J1993 幸人(こうじん;号) ? - ? 大阪俳人:1716-41頃雑俳点者、梅門と交流、
 1736「はいかいはつを花」評、「俳諧呼子鳥」著
 広人(こうじん・馬場) → 杉羽(杉雨さんう・馬場はば、藩士/俳人) L 2 0 7 6
 光尋(こうじん;別法諱) → 慈俊(じしゅん;法諱、真宗僧) D 2 1 9 9
 光尋(こうじん・森田) → 光尋(みつね・森田もりた、神職/歌人) D 4 1 9 1
 亘人(こうじん・吉田) → 芳章(よしあき・吉田よしだ、神職/歌人) B 4 7 9 7
 篤人(こうじん・渡辺) → 玄包(はるかね・渡辺わたなべ、神職/国学) L 3 6 0 0
- J1994 豪信(ごうしん;法諱、藤原為信男)?-? 南北期1312-50頃絵師;父門/兄為理の養子、
 天台僧/法印、花園天皇はじめ皇族大臣等の肖像画、「天子撰関御影」「大臣影」著、
 1333(正慶2)「熾盛光法日記」著、「三十六歌仙残卷」画
- J1995 豪親(ごうしん;法諱) ? - ? 江前期寛文延宝1661-81頃天台僧正、
 1678(延宝6)「東福門院御経供養法則」著
 豪信(ごうしん;初法諱) → 頼瑜(らいゆ;法諱・俊音;字、真言僧) 4 8 9 7
 高真院(こうしんいん;法号) → 直政(なおまさ・松平、藩主/歌人) C 3 2 3 6
 壺簪窩主人(こうしんかしゅじん) → 君山(くんざん・松平まつだいら、藩士/儒者) 1 7 2 8
 黄心居(こうしんきよ) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7
 更新軒(こうしんけん) → 有国(ありくに・浦井、商人/俳人) B 1 0 6 7
 耕心斎(こうしんさい) → 常久(つねひさ・大島、槍術家) D 2 9 3 8
 荒津桃花舎(こうしんとうかしや) → 元華(げんか・内野うちの、儒者/農政) I 1 8 0 3
 後神竜霊神(こうしんりゅうれいしん) → 兼満(かねみつ・ト部うらべ/吉田、神職) O 1 5 9 6
 壺簪楼主人(こうしんろうしゅじん) → 浚明(まつあけ・山岡/大伴、幕臣/国学) J 4 0 6 6
- E1983 江水(こうすい) ? - ? 大阪の俳人;来山門
 1681来山編「大坂八五十韻おおさかはちごじゅういん」入(8人で五十韻;
 江水と来山・如要・快用・和尹・白水・夕扉・正察)
- B1946 江水(こうすい・華山叟/流木堂)?-? 1701存 江前期元禄1688-1704頃近江柏原の俳人:信徳門、
 1689から前句付十余余句を撰/1691「元禄百人一句」「柏原集」編、
 「道中ぶり」編/1690言水「新撰都曲」4句入、
 [次つぎの夜は唯ひとりゆくすゞみ哉](元禄百人一句;99)

- P1969 **江水**(こうすい) ? - ? 江中期俳人;湖中3世の風窓社中、
1773(安永2)馬卯「双猿路談そうえんろだん」入、
[けさひとつ稲光して初鯉](双猿路談)
- J1996 **耕水**(こうすい・高木たかぎ、名;書英/通称;内蔵助)1790-1859 70 上州桐生梅田の儒者、
江戸で儒・剣を修学;旗本の家士/帰郷;私塾松広舎を開;子弟教育、
1855「釈尊佛舍利儀軌」著
- F1917 **香水**(こうすい) ? - ? 京俳人/1696円水「住吉おどり」入
- J1997 **香水**(こうすい・小橋こはし、名;以文、静学男)1808-72 65 讃岐香川郡円座村出身;高松藩士/儒者、
儒/和算;伊藤南岳門/儒;篠崎小竹・後藤松陰・古賀侗庵・大槻磐溪門、1844藩に海防策建議、
尊攘運動に奔走;1863義挙計画;失敗捕縛/64幽閉/65投獄/68政府軍により出獄、
「香水先生詩文」1863「文久三年藩へ差出セシ小橋安蔵政事改革意見書草稿」著、
[香水(;号)の幼名/字/通称]幼名;友之輔、字;伯友、通称;安蔵やすぞう、
木内竜山・小橋橋陰の兄
- 江水(好水こうすい・加倉井)→ 松山(しょうざん・加倉井かくらい、医/儒者) S 2 2 5 2
 広水(こうすい;号) → 信直(のぶなお・佐藤さとう、藩士/刀奉行) C 3 5 4 8
 公睨(こうすい・大久保) → 一岳(いちがく・大久保おおくぼ、絵師) G 1 1 1 2
 公遂(こうすい・姉小路) → 公遂(きんかつ・姉小路あねがこうじ、廷臣) Q 1 6 7 7
 香醉(こうすい;号) → 随慧(ずいゑ;法諱、真宗大谷派僧) E 2 3 1 1
 光穂(こうすい・八羽) → 光穂(みつほ・八羽はつば/荒木田、神職/国学) E 4 1 8 1
 幸穂(こうすい・足達) → 儀正(よしまさ・足達あだち、藩士/歌人) L 4 7 0 3
 黄萃(こうすい) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7
 功垂(こうすい・相川) → 功垂(くだる・相川、藩士/歌人) B 1 7 4 0
 交翠(こうすい・松浦) → 交翠軒(こうすいけん・松浦、儒者/幕臣) F 1 9 1 6
 交翠(こうすい・守村) → 抱儀(ほうぎ・守村[邨]、商家/俳人) 3 9 3 9
 交翠(こうすい・志村) → 麗沢(れいたく・志村しむら、藩儒/詩) 5 1 5 0
 交翠(こうすい・大久保) → 来(きたる・大久保おおくぼ、藩士/歌人) T 1 6 7 4
 交水館(こうすいかん) → 魚丸(うおまる・佐藤、狂歌・浄瑠璃作者) 1 2 0 1
- F1916 **交翠軒**(こうすいけん・松浦まつら、名;黙)1644-1707 64 播磨揖西郡室津の生/1658姫路藩主榊原家出仕、
江戸留学;儒;林鷲峰門/藩主没のため江戸で講説業/1691甲斐谷村藩主秋元家賓師、
1694幕臣;近習番、1677「孝経大義証解」79辞書「芥東俗談」編、「芥東野語」「交翠窩集」著、
「世諺故事」「大学授蒙資講」「論語証解」「勢免天嘉多連」著、
[交翠軒の字/通称別号]字;成之、通称;藤五郎、別号;交翠、諡号;光翠
- 紅翠軒(こうすいけん) → 重政(初世しげまさ・北尾きたお/中村、絵師) 2 1 1 5
 岡水居士(こうすいこじ) → 宗朗(しゅうろう;法諱・若拙、本願寺派僧) Y 2 1 5 2
 黄瑞居士(こうずいこじ) → 探元(たんげん・木村/平、絵師) T 2 6 4 0
 紅翠斎(こうすいさい) → 重政(初世しげまさ・北尾きたお/中村、絵師) 2 1 1 5
 恒醉夫(こうすいふ) → 重政(初世しげまさ・北尾きたお/中村、絵師) 2 1 1 5
- J1998 **高崧**(こうすう・越智おち/修姓;越えつ、名;崧、宮内吉通男)1808-80 73 伊予の眼科医;長崎で西洋医学、
蘭語精通/京で開業、「眼医金針」「眼科全針」「眼医秘笈」「内翳書」著、1861「科字誤作料」訳、
[高崧(;字)の通称/号]通称;仙心、号;桂荘/静慎
- 高崧(こうすう・藤堂) → 高崧(たかすけ/たかたけ・藤堂とうどう、国学) C 2 6 8 9
 功崇院(こうすういん) → 継高(つぐたか・黒田くるた、藩主/芸能) F 2 9 6 6
- J1999 **幸助**(幸祐/幸介こうすけ・田木たぎ)?-? 江中期歌舞伎作者;1734京の亀屋座出勤、
1734顔見狂言「親譲子金家督蔵」野田碁文と合作/35「けいせい日高川」「けいせい足曳山」、
1738「行平磯馴松」、1741大阪で活動;「鳴戸鏝盛衛」「一心宝珠台」、「新羅源氏鬘軍法」著
- K1900 **幸助**(こうすけ;通称・佐藤さとう、名;尚友)?-? 江中期尾張春日井郡鳥居松の農業、1769-74京遊学、
1783「静斎先生教諭録」著
- K1901 **幸輔**(こうすけ・高橋たかはし)? - ? 江後期上州南牧岩戸村一宮大社の社司、
1822「上野国甘楽郡一宮根元記」「上野国一宮正一位拔銚大神御記録」著
- K1902 **効輔**(こうすけ・榎田うめだ/梅田)?- ? 江戸末期江戸の歌舞伎作者、3世瀬川如臯と交流、

1850「雪花音高木蘇山」52「御伽譚博多新織」54「絵本更科譚」57「入躰曾我和取楫」著

- 江助(江介こうすけ・前川)→ 由平(ゆうへい・よしひら・前川まにかわ、俳人) D 4 6 6 8
 公助(こうすけ・西原) → 公和(よしかず・西原一甫、藩士/国学) C 4 7 5 0
 広介(こうすけ・本田) → 広海(ひろみ・本田ほんだ、藩士/国学者) J 3 7 6 8
 広助(こうすけ・野城) → 広助(広介ひろすけ・野城のしろ、国学/勤王) K 3 7 5 8
 広輔(こうすけ・井上) → 常之(つねゆき・井上/小原、端木/商家/歌/画) E 2 9 1 5
 幸輔(こうすけ・関) → 載甫(さいほ・関、儒者/教育) F 2 0 0 1
 幸輔(こうすけ・吉井) → 友実(ともざね・吉井、薩摩藩士/国事) P 3 1 5 3
 幸助(こうすけ・田中) → 桜洲(おうしゅう・中井なかい、国事/詩) C 1 4 4 9
 幸助(こうすけ・辰松たつまつ)→ 八郎兵衛(2世はちろべゑ・辰松、浄瑠璃人形遣/作者) F 3 6 0 6
 幸助(幸祐/幸佑こうすけ・大村/玉木)→ 正英(まさひで・玉木/橘、神道家) G 4 0 6 6
 幸助(こうすけ・坂内/北川)→ 親懿(ちかよし・北川/坂内、儒/神道/歌) C 2 8 2 1
 幸助(こうすけ・阪/坂静山)→ 光淳(みつあつ・阪/坂ばん・さか、歌人) D 4 1 0 5
 幸助(幸介こうすけ・高木)→ 貞武(さだたけ・高木たかぎ、絵師) F 2 0 3 1
 幸助(こうすけ・徳田) → 良方(よしかた・徳田とくだ、藩士/故実家) C 4 7 6 6
 幸助(こうすけ・江川) → 百洲(ひやくしゅう・江川えがわ、俳人) E 3 7 5 5
 幸助(こうすけ・栗田) → 貞良(さだよし・栗田くりた、商家/国学) O 2 0 4 1
 幸助(こうすけ・稲室/糟屋)→ 足穂(たりほ・稲室/糟屋、農業/歌) S 2 6 9 9
 幸助(こうすけ・長谷川/橘)→ 常樹(恒樹つねき・橘/淡輪、国学者) C 2 9 0 0
 幸助(こうすけ・中村) → 義方(よしかた・中村なむら、藩士/和算家) C 4 7 7 4
 幸助(こうすけ・高須) → 葦根(あしね・高須たかす、商家/歌人) H 1 0 9 3
 孝助(幸助こうすけ・那須)→ 敬英(のりひで・那須、国学者) F 3 5 5 8
 孝助(こうすけ・牧田) → 成越(なりおき・牧田またた/徳岡、国学/歌) O 3 2 7 5
 孝助(こうすけ・里見;変名)→ 聿(いつ・木村きむら、藩士/勤王/日記) G 1 1 7 1
 孝助(こうすけ・広江;変名)→ 孝允(たかよし・木戸/桂/和田、藩士/討幕) N 2 6 7 9
 幸介(幸助/衡介こうすけ・静岡)→ 三積(みさか・静岡しづま、藩士/国学者) 4 1 8 2
 康助(こうすけ・石王) → 塞軒(そっけん・石王いしおう、儒者) E 2 5 0 2
 慊甫(こうすけ・下村/島村)→ 弘堂(こうどう・島村しまむら、儒者) G 1 9 4 2
 剛介(こうすけ・沖おき) → 天外(てんがい・沖おき、儒者/勤王派) D 3 0 2 4
 耕甫(こうすけ・久田) → 湖山(こざん・久田ひさだ、儒者:経学) M 1 9 6 0
 耕助(こうすけ・太田) → 広城(ひろき・太田おた/喜満多、藩士/詩歌) I 3 7 9 0
 贛助(贛助こうすけ・赤川)→ 忠郷(たださと・赤川あかがわ、藩士/神職) V 2 6 1 0
 上野(こうすけ・新院) → 新院上野(しんいんのこうすけ、崇徳院女房/歌) D 2 2 4 7
 上野(こうすけ・伊達) → 村和(むらより・伊達だて、領主/歌人) D 4 2 2 5
 上野(こうすけ・檜垣) → 貞晋(さだしげ・檜垣/度会、神職) B 2 0 2 9

K1903 郷助(こうすけ・小沢おざわ、名;和英)1794-1868 75 陸前松山村の茂庭家家臣、経史;菅野東門門、
 劍術;狭川将長門/長沼流軍学;片平定広門、文武の道場を開;教授/のち主家の家老職、
 狂歌/俳諧を嗜む、「兵要録」「敵防録」「練兵叢記」「円陣図式」著、

[郷助(;通称)の字/別通称/号]字;伯順、別通称;主税/蔵之助、号;竜家/犬丸太夫

- 郷助(こうすけ・富田) → 省斎(せいさい・富田とみだ、藩士/書家) I 2 4 1 8
 剛甫(こうすけ・神谷) → 田楽(でんがく・椒芽きのめ/このめ、医者/戯作) D 3 0 2 5
 剛助(こうすけ・八木) → 籟洞(らいどう・八木やぎ、藩士/砲術家) 4 8 8 6
 上野正(こうすけのしょう・永井)→ 精古(せいこ/あきひさ/きよひさ・永井ながい、神職/国学) B 2 4 3 4

D1952 上野介(こうすけのすけ・多おのおの)? - ? 江戸期楽人、「知行所之覚書」「知行高覚帳」著、
 多氏の忠兼ただかね・忠敬ただたか・忠豊ただもりのいづれかを指すか?

- 上野介(こうすけのすけ・友田)→ 興藤(おきふじ・友田、武将/連歌) C 1 4 9 8
 上野介(こうすけのすけ・下間)→ 頼慶(らいけい・下間しもつま、本願寺坊官) 4 8 3 5
 上野介(こうすけのすけ・吉良)→ 義定(よしただ・吉良きら/源、武将) D 4 7 3 6
 上野介(こうすけのすけ・吉良)→ 義弥(よしみつ・吉良きら/源、幕臣/高家) K 4 7 3 6

上野介(こうずけのすけ・吉良)→ 義央(よしなか・吉良、幕臣/赤穂事件) F 4 7 2 3
 上野介(こうずけのすけ・羽倉)→ 信美(のぶよし・荷田/羽倉はくら、国学者) D 3 5 8 8
 上野介(こうずけのすけ・津守)→ 国礼(くにあや・津守つもり、神職/歌人) C 1 7 6 2
 上野介(こうずけのすけ・渡辺)→ 重名(しげな・渡辺わたなべ、神職/国学者) C 2 1 5 8
 上野介(こうずけのすけ・笠因)→ 直麿(なおまる・笠因かさより、神職/国学) K 3 2 1 7
 上野介(こうずけのすけ・加藤)→ 吉彦(よしひこ・加藤かとう、神職/国学/歌) M 4 7 1 1
 上野介(こうずけのすけ・津守)→ 国美(くによし・津守つもり、神職/歌学) D 1 7 3 6
 上野介(こうずけのすけ・小栗)→ 忠順(ただまさ・小栗、幕臣、造船所計画) Q 2 6 8 5
 上野介(こうずけのすけ・松田)→ 顕業(あきなり・松田まつだ/橘、神職/歌) I 1 0 4 6
 上野介(こうずけのすけ・宮地)→ 常盤(とこわ・宮地みやじ/菅原、神道家) K 3 1 3 7
 上野亮(こうずけのすけ・水沢)→ 清敏(きよとし・水沢みずさわ、神職/国学) V 1 6 3 8
 上野法印(こうずけのほういん)→ 家寛(けかん; 法諱、天台僧/声明家) G 1 8 8 4
 上野法眼(こうずけのほうげん)→ 頼慶(らいけい・下間しもつま、本願寺坊官) 4 8 3 5

R1979 光清(こうせい; 法諱、法印頼清男) 1084-1137⁵⁴ 社僧; 石清水八幡宮第25代別当; [垂位]と称す、
 妻に小大君がなったという説話あり、金葉集1首入(ただし意尊の歌か?)、
 [十月十日頃に鹿の鳴きけるを聞いてよめる、
 なに事にあきはてながらさを鹿の思ひかへして妻を恋ふらん](金葉; 冬265/法印光清)、
 (袋草紙; 実は蔵人君意尊[法師]が石清水八幡を参詣時の詠歌で、
 意尊の使いの小兒から歌を受けた俊頼が八幡別当光清の歌と誤認したという逸話入)

B1949 孝清(こうせい; 号) ? - ? 室町後期三河西郡村の連歌作者、
 1544宗牧を迎え千句連歌:「天文十三年閏十一月二十五日孝清孝順何人百韻」

F1919 康盛(こうせい) ? - ? 江前期江戸の俳人、1645玄札・玄圃らと一座

F1920 光正(こうせい・勝円寺) ? - ? 江前期僧/俳人・西武門、
 1657西武「沙金袋」184句入

G1985 弘誓(こうせい/ぐせい) ? - ? 浄土僧・撰津遠里小野の西方寺住、
 俳人: 1659梅盛「捨子集」「貝殻集」入、狂歌; 1666行風「古今夷曲集」1首入、
 [足がらに灸をするがの富士ならばひねるもぐさやたごにいつぱい](夷曲集; 雑583、
 足に足柄・灸をするに駿河・担桶たごに田子浦を掛ける)

B1951 岡成(こうせい) ? - ? 俳人、伊丹人、1725「和国丸」入

K1904 幸正(こうせい; 名・中野なかの、通称; 清右衛門) ?-? 江中期1704-36頃陸奥八戸藩士、
 「南部家譜」「南部中興記」著

K1905 光盛(こうせい; 法諱・号; 智雲/啓巖坊、俗姓; 八木) 1776-1840⁶⁵ 備中有田村の真言僧: 金剛福寺入、
 観月・円明門/1785高野山; 覚道・覚満門/1817宝亀院住; 本堂護摩堂修復; 中興の祖、
 1822集議席/28退隠; 潜心事相の研究、「安流伝授記」「安流伝授記目録」「三憲伝授目録」著

K1906 幸生(こうせい・八田はつた) ? - ? 江後期大阪の文筆家、
 1809中山元貞の遺著「野人私草」校訂刊行、1861「芦政秘録」著

B1950 公成(こうせい; 名・河村かわむら/仁壁) 1808-68暗殺⁶¹ 周防山口の商人; 京住/俳人: 蒼虬(そうきゅう)門、
 諸国行脚、京東山双林寺芭蕉堂に住; 5世/毎年花供養を催、勤王派; 暗殺された、
 1859「芭蕉堂三代発句集」編(関更/蒼虬/千崖の四季別発句)、1853-67「花供養」編、
 1859「永代奉額発句合」著、
 [公成の通称/号]通称; 藤右衛門、号; 一事庵/百古/錦波、芭蕉堂5世、南無庵6世

光清(こうせい、俗姓; 紀) → 光清(こうしゅう、僧; 石清水25世別当) J 1 9 7 2

光清(こうせい・欲賀) → 光清(みつきよ・欲賀ほしが、歌人) D 4 1 2 8

光清(こうせい・鈴木) → 光清(みつきよ・鈴木すずき、国学者/歌) J 4 1 3 9

光清(こうせい・松本) → 光清(みつきよ・松本まつもと、歌人) K 4 1 5 7

光精(こうせい・丹下) → 光精(みつきよ・丹下たんげ、歌人) I 4 1 5 8

光正(こうせい・土佐) → 光正(みつまさ・土佐とさ/藤原、絵師) E 4 1 8 3

光正(こうせい・土岐) → 光正(みつまさ・土岐とき/今峯/源、武将/歌人) E 4 1 8 4

光成(こうせい・源) → 光成(みつなり/みつしげ・源みなもと、廷臣/歌) E 4 1 1 9

光成(こうせい・藤原) → 光成(みつなり・藤原/大炊御門、廷臣/歌) E 4 1 2 0

光成(こうせい・広橋/藤原)→ 光成(みつげ・広橋、准大臣/武家伝奏) D 4 1 5 6
 光成(こうせい・檜村) → 光成(みつなり・檜村ならむら、歌人) L 4 1 0 3
 光成(こうせい・惟宗) → 光成(みつなり・惟宗、廷臣/歌) E 4 1 2 1
 光成(こうせい・榎並) → 光成(みつなり・榎並えなみ、神道家) E 4 1 2 4
 光成(こうせい・土佐) → 光成(みつなり・土佐とき/藤原、絵師) E 4 1 2 5
 光成(こうせい・塩田) → 光成(みつなり・塩田しおだ、鍼医/国学/歌) E 4 1 2 6
 光成(こうせい・半井) → 瑞策(ずいさく・半井なからい/和気、医者) E 2 3 5 5
 光成(こうせい/みつなり・鷺田)→ 光時(3世みつとき・鷺田わしだ、金工) E 4 1 0 0
 光世(こうせい・蜂屋) → 光世(みつよ・蜂屋はちや、幕臣/歌人) F 4 1 0 8
 光政(こうせい・秋山) → 光政(みつまさ・秋山あきやま/源、武士/歌) L 4 1 0 8
 光政(こうせい・鳥丸) → 光政(みつまさ・鳥丸/藤原、廷臣/歌人) E 4 1 9 0
 光政(こうせい・畠山) → 光政(みつまさ・畠山はたけやま、藩医) K 4 1 0 7
 光盛(こうせい/みつもり・川喜多/菅原)→ 玄無(げんむ・法諱、真言僧/歌) D 1 8 1 0
 光盛(こうせい・藤原) → 光盛(みつもり・藤原、廷臣/歌人) F 4 1 0 0
 光濟(こうせい) → 光濟(こうさい;法諱、真言僧/歌人) B 1 9 4 8
 光晴(こうせい・常如) → 常如(じょうにょ;号・光晴;法諱/東本願寺15世、俳人) B 2 2 0 8
 光生(こうせい・多田/後藤)→ 梨春(りしゅん・後藤、蘭学/本草/談義本) B 4 9 2 3
 光世(こうせい・鳥丸/裏松)→ 固禪(こぜん・裏松うらまつ、廷臣/故実家) D 1 9 1 8
 幸生(こうせい・億岐) → 幸生(さちなり・億岐おき、国造/神職/歌) O 2 0 1 0
 幸清(こうせい) → 幸清(きょうしやう・こうせい、社僧/歌人) C 1 6 6 3
 幸成(こうせい・青山) → 幸成(ゆきなり/ゆきしげ・青山/藤原、城主/歌) 4 6 2 3
 幸成(こうせい/ゆきなり・斎藤)→ 月岑(げつしん・斎藤さいとう、名主/随筆家) B 1 8 0 7
 幸政(こうせい・内堀) → 幸政(ゆきまさ・内堀うちぼり、藩士/歌人) G 4 6 6 5
 幸盛(こうせい・小松) → 幸盛(ゆきもり・小松こまつ、地誌家) F 4 6 8 6
 幸盛(こうせい・岡内) → 幸盛(ゆきもり・岡内おかうち/平、医者/歌) G 4 6 7 0
 幸盛(こうせい・藤原) → 幸盛(ゆきもり・藤原ふじわら、書肆/国学者) H 4 6 2 2
 公誠(こうせい・平) → 公誠(きんざね/きんまさ・平、歌人) E 1 6 0 6
 公盛(こうせい;法諱) → 公盛(こうしやう;法諱、東大寺華嚴僧) J 1 9 7 7
 公盛(こうせい・近藤) → 棠軒(とうけん・近藤、儒者/経史) D 3 1 3 5
 公清(こうせい・福井) → 公清(きみきよ・福井/栗野・足代、神職) M 1 6 0 2
 公成(こうせい・藤原) → 公成(きんなり・藤原/閑院、廷臣/歌人) E 1 6 5 0
 公成(こうせい・荒木田) → 公成(きみなり・荒木田、神職) G 1 6 2 5
 公成(こうせい・正親町) → 実垂(さねたる・正親町おおぎまち/藤原、廷臣) K 2 0 9 6
 公成(こうせい・渋谷) → 三貫(さんかん・渋谷しぶや、絵師) L 2 0 9 4
 公正(こうせい・藤原) → 公正(きんなお・清水谷しみずたに/藤原、歌) R 1 6 5 4
 公正(こうせい・渋谷) → 松石(しょうせき・渋谷、儒者/藩士/神職) T 2 2 8 4
 公正(こうせい・由利) → 公正(きみまさ・由利ゆり/三岡、藩士/財政/政治) I 1 0 7 5
 公政(こうせい・武蔵) → 安兵衛(やすべゑ・武蔵/藤原、商家/華道) C 4 5 9 2
 公声(こうせい・都賀つが) → 庭鐘(ていしやう・都賀、医者/唐話/読本) B 3 0 2 0
 公世(こうせい中西) → 石樵(せきしやう・中西なかにし、藩士/刻印) K 2 4 1 7
 公静(こうせい・松田) → 雪柯(せつか・松田まつだ、神職/儒/書家) K 2 4 7 7
 公静(こうせい・小野) → 寿(ひさし・小野おの、庄屋/詩歌人) I 3 7 7 1
 江西(こうせい/こうせい;道号)→ 龍派(りゅうは;法諱・江西、臨濟僧/詩) 4 9 1 2
 江西(衡正こうせい・李) → 梅溪(ばいけい・李、漢学者) B 3 6 0 0
 江生(こうせい・大江) → 佐国(すけくに・大江おおえ、漢学者/詩人) C 2 3 0 9
 恒成(こうせい・瀬川) → 恒成(つねなり・瀬川/山川、戯作者) C 2 9 9 5
 恒成(こうせい・安濃) → 恒成(つねなり・安濃あの、薬輔/国学/神職) F 2 9 1 0
 高盛(こうせい・松堂) → 松堂(しょうどう・高盛、曹洞僧) L 2 2 1 4
 高清(こうせい・海住山) → 高濤(たかきよ・勘解由小路・海住山、廷臣/歌人) C 2 6 6 8
 高成(こうせい・小野) → 高潔(たかきよ・小野おの、幕臣/国学者) C 2 6 6 9

高成(こうせい・児島/佐々木)→	高成(たかなり・佐々木/児島/源、神道)	M 2 6 6 3
高政(こうせい・菅野谷) →	高政(たかまさ・菅野谷すげのや、俳人)	2 6 1 6
高盛(こうせい:法諱) →	松堂(しょうどう:道号・高盛、曹洞僧)	L 2 2 1 4
高世(こうせい) すべて →	高世(たかよ)	
剛正(こうせい・寺田) →	剛正(たけまさ・寺田、藩士)	O 2 6 7 6
行誓(こうせい、僧名) →	尾頭(びとう、蕉門俳人)	E 3 7 1 1
行成(こうせい・藤原) →	行成(こうせい・藤原、廷臣/書家:三蹟)	1 9 1 3
行成(こうせい・業亭) →	行成(ゆきなり・業亭ぎょうてい、人情本作者)	F 4 6 1 7
行清(こうせい・市川) →	行清(ゆききよ・市川いちかわ)	
行精(こうせい・巽) →	静庵(せいあん・巽たつみ、書家)	H 2 4 2 7
行正(こうせい・肥田) →	行正(ゆきまさ・肥田ひだ、藩士/歌人)	H 4 6 5 3
行正(こうせい・津田) →	行正(ゆきまさ・津田つだ、天文家)	C 4 6 4 2
行政(こうせい・近藤) →	行政(ゆきまさ・近藤こんどう、国学者)	G 4 6 8 4
行世(こうせい・小田野) →	清軒(せいけん・小田野おだの、儒者)	I 2 4 0 0
行政(こうせい・惟宗) →	行政(ゆきまさ・惟宗これむね、廷臣/歌人)	F 4 6 5 8
行盛(こうせい) すべて →	行盛(ゆきもり)	
厚生(こうせい・朝夷/井上)→	厚生(あつなり・朝夷あさいな、藩士/文筆)	E 1 0 7 1
孝正(こうせい・浦野) →	孝正(たかまさ・浦野うらの、国学/歌人)	V 2 6 8 8
孝成(こうせい・佐野) →	竹亭(ちくてい、佐野さの、儒者/詩文)	D 2 8 5 2
孝成(こうせい・竹中/河田)→	東岡(とうこう・河田、藩士/漢学者)	D 3 1 7 6
孝成(こうせい・千屋) →	孝成(たかしげ・千屋ちや、医者/勤王派)	M 2 6 0 8
孝成(こうせい・前田) →	孝成(たかなり・前田まえだ、幕臣)	M 2 6 6 4
孝清(こうせい・藤原) →	孝清(たかきよ・藤原ふじわら、廷臣/歌人)	2 7 7 6
孝靖(こうせい・高辻) →	福長(とみなが・高辻たかつじ、廷臣)	O 3 1 9 0
孝済(こうせい・福岡) →	孝済(たかのり・福岡、教育者)	M 2 6 8 7
孝政(こうせい・永原) →	孝政(たかまさ・永原ながはら、藩士/書翰)	N 2 6 1 7
孝政(こうせい・佐々木) →	孝政(たかまさ・佐々木ささき、儒者)	N 2 6 1 8
孝晴(こうせい・村松) →	孝晴(たかはる・村松むらまつ、俳人)	D 2 6 5 1
孝盛(こうせい・森山) →	孝盛(たかもり・森山、幕臣/国学/歌)	D 2 6 9 1
弘正(こうせい・与村) →	弘正(ひろまさ・与村よむら、神職/神典)	H 3 7 1 1
弘省(こうせい・馬場) →	弘省(ひろみ・馬場ばば、官吏/神社記録)	H 3 7 1 7
弘政(こうせい・久保倉) →	弘政(ひろまさ・久保倉/橘、神職/歌人)	H 3 7 1 2
好井(こうせい・谷) →	好井(よしい・谷たに/大神、藩士/国学)	C 4 7 1 6
好成(こうせい・前田) →	玄通(げんつう・前田まえだ、医者)	L 1 8 4 6
好生(こうせい→よしなり・遊佐)→	木斎(ぼくさい・遊佐ゆさ、藩儒/教育)	D 3 9 0 8
好静(こうせい・長田) →	好静(よししず・長田ながた、名主/神職)	O 4 7 2 5
好盛(こうせい・手塚) →	律蔵(りつぞう・手塚てづか、洋学者/訳書)	C 4 9 1 0
興成(こうせい・千手) →	旭山(ぎよくざん・千手せんじゅ、藩士/儒者)	O 1 6 9 7
興正(こうせい・福島) →	松江(しょうこう・福島/福、儒者/詩文)	S 2 2 1 4
広生(こうせい・目々沢) →	鉅鹿(きよろく・目々沢めめざわ、儒者)	Q 1 6 4 4
広世(こうせい・高円) →	広世(ひろよ・高円たかまど、奈良期廷臣)	H 3 7 6 7
広世(こうせい・和氣) →	広世(ひろよ・和氣わけ、漢学者/廷臣)	H 3 7 6 8
広世(こうせい・宇野) →	蘭斎(らんさい・宇野うの、蘭方医者)	C 4 8 2 2
広世(こうせい・細川) →	広世(ひろよ・細川ほそかわ、医者/書記官)	H 3 7 6 9
広生(こうせい・鶴殿) →	平七(へいしち・鶴殿うどの、藩士)	2 7 5 1
広成(こうせい) すべて →	広成(ひろなり)	
広正(こうせい) すべて →	広正(ひろまさ)	
広政(こうせい・堀家) →	広政(ひろまさ・堀家ほりけ、神職/国学)	K 3 7 9 6
広精(こうせい・/高橋)→	広精(ひろきよ・高橋たかはし、神職)	F 3 7 7 8
広盛(こうせい・平) →	広盛(ひろもり・平たいら、武将/歌人)	H 3 7 5 2

宏生(こうせい・後藤) → 宏生(ひろなり・後藤ごとう、国学/歌) J 3 7 5 6
 厚生(こうせい・畑) → 柳安(りゅうあん・畑はた/安藤、医者/教育) C 4 9 6 5
 垢成(こうせい・曾我部) → 正興(まさおき・曾我部そがべ、国学/歌人) Q 4 0 4 1
 綱世(こうせい・宇都宮) → 綱世(つなよ・宇都宮うつのみや/藤原、武将/歌) G 2 9 8 1
 綱正(こうせい/つなまさ・小貫/初岡) → 敬治(けいじ・初岡はつおか、藩士/儒者) F 1 8 9 0
 綱政(こうせい・黒田) → 綱政(つなまさ・黒田/松平、藩主/連歌) B 2 9 2 9
 綱誠(こうせい・青柳/塩谷) → 綱誠(つなのおぶ・塩谷しおのや/青柳、武芸者) B 2 9 1 9
 綱晟(こうせい・浅野) → 綱晟(つなあきら・浅野、藩主) B 2 9 0 0
 康正(こうせい・松平) → 康正(やすまさ・松平まつだいら、藩家老/尊攘) C 4 5 9 8
 康成(こうせい・松平) → 康成(やすなり・松平、藩家老/漢・国学) C 4 5 4 8
 康誠(こうせい・松平) → 康誠(やすのぶ・松平まつだいら、幕臣/歌) E 4 5 7 8
 康政(こうせい・榊原) → 康政(やすまさ・榊原さかきばら、武将/城主) C 4 5 9 3
 康盛(こうせい・松平) → 康盛(やすもり・松平まつだいら、幕臣) E 4 5 6 5
 康清(こうせい) すべて → 康清(やすきよ)
 康晟(こうせい・大脇) → 康晟(やすあき・大脇おおわき、藩士) 4 5 8 3
 降世(こうせい・堀河) → 康致(やすむね・堀河/藤原/鷲尾、廷臣) G 4 5 5 8
 侯正(こうせい・伊達) → 宗紀(むねただ・伊達だて、藩主/築庭/歌) D 4 2 5 4
 瀧西(こうせい・堀) → 友直(ともなお・堀ほり/新田、藩士/儒者) Q 3 1 0 4

1913 行成(こうせい/ゆきなり/ゆきしげ・藤原、義孝男/母;源保光女) 972-1027 56 974(3歳)父に死別、
 外祖父保光に養育/祖父伊尹の養子/廷臣;1001参議/20正二位権大納言、一条朝四納言の1、
 保光より伝領の桃園第を世尊寺とした、書家;筆跡を権跡と称;;世尊寺流の祖(三蹟の1)、
 日記「権記ごんき」、「麒麟抄」「新撰年中行事」「烏羽玉霊抄」、詩;「行成詩稿」、文粹2首入、書多数、
 歌;和漢兼作集・万代集入、勅撰9首;後拾遺(542)新勅(582)続古(256/1404)玉(3首)以下
 [遅れじとつねのみゆきは急ぎしを煙にそはぬたびのかなしき](後拾遺;哀傷542、
 円融院を紫野に葬送時の詠/茶毘の煙に旅と度を掛る)

妻;源泰清女(姉のち妹)・橘為政女、

息子;子薬助・実経・良経・行経・永親/息女;源頭基室・源経頼室・藤原長家室

B1952 仰誓(ごうせい;法諱、寂便男) 1721-9474 真宗本願寺派僧;1734(14歳)得度;僧樸門、
 伊賀上野明覚寺住職/1761石見の長門円空を糾問/64石見浄泉寺住職/1771本山で教育係、
 1782法主より実成坊を受/87本山典教、「妙好人伝」編/「合明集」「仰誓教訓」「弾妄編」外多数、
 [仰誓の字/号]字;欽願、号;合明閣/貳牛山人/実成坊、諡号;実成院

豪盛(ごうせい・正覚院) → 豪盛(ごうじょう;法諱、天台僧) J 1 9 8 3
 剛正(ごうせい・寺田) → 剛正(たけまさ・寺田てらだ、藩士/佐幕派) O 2 6 7 6
 弘誓庵(こうせいあん/ぐせいあん) → 学心(がくしん;法諱、真宗本願寺派僧) K 1 5 1 1
 広正院(こうせいいん) → 頼救(よりすけ・松平/徳川、藩主/俳人) I 4 7 8 1
 弘誓院法印(こうせいいんのほういん) → 厳恵(げんゑ;法諱、真言僧/歌) E 1 9 6 5
 盍静翁(こうせいおう) → 一溪(いっけい・曲直瀬まなせ、医者) G 1 1 9 4
 厚生館(こうせいかん) → 竜眠(りゅうみん・村上/中江、医者/蘭方) F 4 9 7 5
 孔世傑(こうせいけつ) → 世傑(せいけつ・日下、儒者) B 2 4 1 7
 向西子(こうせいし・信蓮社) → 湛澄(たんちよう;法諱・染問、浄土僧/歌) I 2 6 5 2
 好生先生(こうせいせんせい) → 養僊(やうせん・中井なかい、医者) B 4 7 3 4
 高清亭(こうせいてい;初世) → 三津五郎(みつごろう・坂東、歌舞伎役者) D 4 1 3 9
 向西道人(こうせいどうじん) → 良巖(りようがん;法諱・霊玉、天台学僧) H 4 9 5 4
 江西文内(こうせいぶんない) → 常省(じょうせい・中江、儒者) O 2 1 2 5
 興正菩薩(こうせいぼさつ) → 叡尊(ゑいそん;法諱、真言律僧) 1 3 3 9

K1907 敲石(こうせき・中村なかむら、名;知足、氏数男/本姓;藤原) 1696-1788 長寿 93 武州埼玉郡谷原村の里正、
 連歌;1775「賦物或問」編、俳人;眠牛めんどぎゅう門、楼川・百庵と交流、「俳諧原通」「金花石葉集」、
 [敲石の通称/別号]通称;太左衛門、別号;匍匐庵2世/酔月、法号;匍匐院徳誉幽讚覚道居士

F1922 公績(こうせき・清田せいだ/きよた、名;勲、江村北海3男/叔父清田僭叟の養嗣子) 1747-1808 62 儒者;
 家学を受、福井藩儒、詩人、「北海先生詩抄」3篇編、1789「竜川先生詩鈔」「竜川文集」著、

- [公績(；字)の通称/号]通称；大太郎、号；**竜川**りゅうせん、法号；寂誉静庵雪溪居士
- K1908 **黄石**(こうせき・岡野おかの、名；和、書賈岡野得入男)1756-1822**67** 加賀の人/幼少より経籍を讀破、江戸遊学/1814(59歳)加賀藩儒臣に登用さる、「東遊紀行」「暁月楼詩稿」「暁月楼聽雨記」、1800「觀銅雀瓦硯説」07「永字八法」09「容儀集覽」13「魯語卿大夫篇」、「恩故楼書語」著、[黄石(；号)の字/通称/別号]字：芝瑞、通称；友輔、別号；嘿翁もくおう/暁月楼/青黎閣/恩故楼
- K1909 **紅磧**(こうせき・小此木おこのぎ、名；当能)1784-1869**86** 上州伊勢崎の俳人；藩老関逾白門、「小雀の日記」「男草紙」著、[紅磧(；号)の通称/別号]通称；利左衛門/源藏、別号；薬園舎
- B1953 **公石**(こうせき・尺木堂、月院社何丸男)?-? 江後期俳人、1823「続猿蓑註解」(実作者は父何丸)編
- K1910 **耕石**(こうせき・中西なかにし、名；寿/格)1807-84**78** 筑前芦屋の生/父；陶物師/大阪で儒；篠崎小竹門、京で絵師；小田海僊門、山水・花鳥画、日根野対山・前田暢堂に並称、「秋風集」、「雑俎耗」著、[耕石の字/通称/別号]字；龜年、通称；寿平、別号；竹叟/摘翠/荃岡/石山断流閣
- F1923 **黄石**(こうせき・岡本おかもと/本姓；宇津木、字/久純男)1811-98**88** 近江彦根藩家老、儒・詩；梁川星巖門、大橋訥庵ら尊攘派と交流；藩主井伊直弼に疎まれる、桜田門外の変後藩士の鎮静に努める、藩政を主導、戊辰戦で新政府側に参加出兵、維新後；東京に麴坊きくぼう吟社を興す、「黄石齋詩集」、「東瀛詩選」著、[黄石(；号)の名/字/通称]名；迪/宜迪、字；吉甫、通称；半助
- K1911 **孔碩**(こうせき・杉本すぎもと) ? - ? 江後期能登七尾の医者、1830「畠山軍記評註」著
孝錫(こうせき・前田) → 孝錫(たかてる・前田まねだ、藩士/家老) M 2 6 3 5
厚積(こうせき・富田) → 鷗波(おうは・富田とみた、儒者) C 1 4 6 2
公績(こうせき・堀) → 利照(としひろ・堀ほり、幕臣/海防・交渉) N 3 1 6 2
公積(こうせき・正親町三条) → 公積(きんつむ・正親町三条おおぎまちさんじょう/藤原、権大納言) T 1 6 8 2
香積房(こうせきぼう) → 倫円(りんえん；法諱、天台僧/歌人) K 4 9 0 1
- B1954 **江雪**(こうせつ・板部岡いたべおか/岡おか/岡野/初姓；田中、名；融成とおなり、田中泰行男)1536-1609**74** 武将、北条氏政家臣/北条滅亡後秀吉の御伽衆/のち家康家臣、歌；北条幻庵門、茶道；山上宗二門、連歌、能に通ず、幽齋・近衛信尹らと親交、「融成ゆうせい百首」「江雪詠草」著
- K1912 **江雪**(こうせつ；道号・宗立そうりゅう；法諱)1595-1666**72** 和泉臨濟僧；旭蓮社入/沢庵宗彭・江月宗玩門、江月の嗣法/大徳寺竜光院の首座/1644大徳寺181世/46退隱、51江戸東海寺輪番、東海寺桂昌院・京松泉庵・大原即心庵・同東向庵を開創/1666後西上皇より禅師号、墨画、「江月玩和尚年譜」編/「江雪和尚韻百詩」「江雪和尚詩卷」著、江雲宗竜の同門先輩、[江雪宗立の号] 不如無/不如子/破鞋子はあい/古體子ころし、諡号；大綱智海禅師
- K1913 **衡雪**(こうせつ・三宅みやげ、名；尚三/可三、鞆革斎男/本姓清原)1634-72**39** 京の儒者(家学)；父門、1653頃父と江戸住/1658岡山藩主池田光政に招聘；藩校で講説/詩文を能くす、1668「江府回録記」著、[衡雪(；号)の幼名/字]幼名；三郎、字；伯省、沃地の兄
- B1955 **紅雪**(こうせつ・虚白庵；号、姓；永井、芳水の兄)?-1693 美作津山の人/讃岐高松に住；俳人、1693(元禄6)弟芳水の許で没、1692「佐郎山」；没後弟芳水が継承し1693編刊、弟 → 芳水(ほうすい・永井、俳人) B 3 9 8 5
- G1972 **耕雪**(こうせつ) ? - ? 江前期美濃大垣の俳人；木因門、1691江水「元禄百人一句」目録入/98「続猿蓑」入、[齒朶じだの葉に見よ包尾つみをの鯛のそり](続猿蓑；卷下、鯛尾の反りと齒朶の葉の対照、元日に小鯛2尾を藁縄で結び齒朶とゆずりはを挿し竈の上に懸け六月朔日に食し祝う)
- K1914 **光撰**(こうせつ；法諱・本如ほんによ；号、西本願寺18世光暉[文如]男)1778-1826**49** 九条尚実の猶子、真宗本願師派本願寺19世、1792得度/1802宗務継承/03大僧正、智洞・諦忍両派對立の調停、1806「御裁断御書」「善智識御書」、「信明院殿御書」、「本如上人御書」「本如上人御消息」著、[光撰の幼名/号]幼名；孟丸/光崇君、号；本如/碧山/不捨、諡号；信明院

- K1915 **香雪**(こうせつ・北条ほうじょう、名;敬) 1799-1848.50 常陸の書家:藤田幽谷門、
1841(天保12)弘道館手跡指南、1828(文政11)「集字孝経」著、
[香雪(;号)の字/通称]字;德基、通称;惣五郎
- K1916 **香雪**(こうせつ・山内やまうち、名;晋) 1799-1860.62 岩代会津藩士/1820江戸勤番/儒:亀田鵬斎門、
大窪詩仏門/市河米庵門、書;1823上方で墨跡を訪ねる、書;長崎の清人江雲閣門、
帰郷;会津藩校日新館に招聘、1823-25「香雪日記」57「梅廼屋詠草」著、
「墨海探珠」「古筆珍奇」「梅花集」「風流日記」「名家手簡」著、
[香雪(;号)の字/通称/別号]字;希逸、通称;熊之助、別号;一枝堂
- K1917 **降雪**(こうせつ・萩野はぎの、名;学/簡)?-? 江戸麻布新町の絵師:崋山と親交、
1852「崋山翁墨意」編、太白堂歳旦句集「桃家春帖」の崋山画を模写、崋山「全楽堂日録」入、
[降雪(;号)の字/通称/別号]字;子彦、通称:彦六、別号;湖柳園/塊山書屋
- 公説(こうせつ・四辻) → 公説(きんこと・四辻よつじ、廷臣/雅楽) E 1 6 0 2
好雪(こうせつ・立花) → 忠茂(ただしげ・立花、藩主/歌人) F 2 6 1 2
光雪(こうせつ・法諱) → 峯山(ほうざん:道号・光雪、曹洞僧) B 3 9 0 1
紅雪(こうせつ・福永) → 淑人(しゆじん/祥人よしと・福永、儒者) E 4 7 8 2
黄雪[園](こうせつ[えん]) → 長昭(ながあきら・市橋、藩主/儒者) D 3 2 1 7
香雪(こうせつ・前田綱紀) → 松雲(しょううん・前田、藩主/藩政改革) F 2 2 3 2
香雪(こうせつ・前田) → 夏繁(なつげ・前田また、幕臣/国学者) G 3 2 6 7
香雪(こうせつ・片山) → 恒斎(こうさい・片山、藩士/儒者) F 1 9 0 3
香雪(こうせつ・佐沢) → 広胖(こうはん・佐沢さざわ、藩士/儒者) L 1 9 0 0
香雪(こうせつ・沼田) → 宇野(うの・沼田ぬまた、詩歌人) E 1 2 8 3
香雪(こうせつ・石榴堂) → 可澄(よしずみ・森もり/荒木、国学/歌) P 4 7 6 2
香雪(こうせつ・李家) → 隆彦(たかひこ・李家りのいへ/河内山、侍医/歌) 2 7 2 5
鴻雪(こうせつ・大含だいがん) → 雲華(うんげ・大含、真宗大谷派僧) B 1 2 0 7
浩雪(こうせつ・坂本) → 浩然(こうねん・坂本、医/本草/絵師) K 1 9 9 0
高節(こうせつ・狛) → 高節(たかまさ・狛こま/辻、楽人) N 2 6 2 3
弘泄(こうせつ・中西) → 弘繩(ひろつな・中西/度会、神職/国学) G 3 7 4 1
毫撰(ごうせつ・覚如) → 覚如(かくによ・宗昭、真宗本願寺3世) B 1 5 7 0
広説院(こうせついん;号) → 法宣(ほうせん;法諱、真宗大谷派僧) C 3 9 1 1
紅雪軒(こうせつけん) → 道海(どうかい・芦屋あしや、陰陽家) C 3 1 0 4
江雪斎(こうせつさい・板部岡いたべおか) → 江雪(こうせつ・板部岡、武将/歌人) B 1 9 5 4
- B1956 **耕雪亭**(こうせつてい・柳川、別号;桂子けいし・琴霞亭きんかてい)?-? 江中期1765-79頃江戸の戯作者:
草双紙・黄表紙作者、1780以後は不明、1765「御伽艶金衡」75「十二支化物退治」「風流瀬川咄」、
1776「敵討山吹流」78「相州白旗社」「化物四国猿」79「寿渡海物語」「昔扇金平骨」外著多数
香雪堂(こうせつどう) → 通溥(みちひろ・河野こうの、国学/歌人) J 4 1 1 1
- F1924 **弘詮**(こうせん・右田うだ) ? - ? 周防大内氏の部将、「吾妻鏡吉川本」作成:20年間集む
- K1918 **光闡**(こうせん;法諱・法如;号、播磨本徳寺昭尊男) 1707-89.83 真宗本願寺派本願寺17世、
播磨亀山の生、1720剃髪(常剛名)/河内顕証寺住職、1743本願寺継承(光闡名)、
九条植基の猶子/47大僧正、異安心の取締・宗名公称事件等の解決に尽力、
1763「真宗法要」編、「御消息類集」「三法帖」著、
[光闡(;法諱)の別法諱/字/号]別法諱;常剛、字;子武/蕙堂けいどう、
号;法如/寂峰/薫堂/乾享斎、諡号;信慧院
- K1919 **恒川**(こうせん;道号・白竜:法諱)?-? 曹洞僧:天桂伝尊門/嗣法、豊前興国寺12世、
1749「参同契宝鏡三昧異譚」/「参同契薫蕙談」「宝鏡三昧薫蕙談」著
- K1920 **広川**(こうせん・鈴木すずき/修姓;廬、名;惟親) 1780-1838.59 上州佐波郡保泉の里正、
儒:徂徠学・闇齋学を独学、数学・地歴にも通ず/詩文に長ず、
1809(文化6)「浴泉漫筆」、「漂麦園集」「漂麦園自詠」「凶荒歌」「続凶荒歌」「伏枕漫草」著、
「諷百園狂詩文集」「廬惟親文稿」著、
[広川(;号)の字/通称/別号]字;克敬、通称;四九郎、別号;漂麦園/黙山/木任陳
- B1958 **高泉**(こうせん・小野おの) ? - ? 江後期本草家、1818「本草和名釈義」

K1921 **洪川**(こうせん;道号・宗愠そうん;法諱、今北いまきた忠久男)1816-9277 撰津西成福島の儒者;1834教授、1840出家臨濟僧;相国寺大拙承演門/53印可受、1858周防岩国藩主吉川家の招聘;永興寺住、維新後鎌倉円覚寺管長、詩文/書、「飲醍醐」、1862「禅海一瀾」著、
[洪川の幼名/号]幼名;眞三郎、号;蒼竜窟/虚舟/案山子

- 広暹(こうせん;法諱) → 鉄鞭(てつべん;道号・広暹、黄檗僧) E 7 0 7 8
広川(こうせん・井戸) → 九如(きゅうじょ・井戸/本多/董、幕臣/絵師)M 1 6 7 0
広川(こうせん・高見) → 祖厚(そこう・高見たかみ、藩士/国学/書) L 2 5 0 4
広泉(こうせん・物部) → 広泉(ひろいずみ・物部ものべ、平安期医者)F 3 7 5 4
広宣(こうせん・久世) → 広宣(ひろのぶ・久世くぜ/源、武将/連歌) G 3 7 8 0
弘宣(こうせん・久保倉) → 弘宣(ひろのぶ・久保倉/大中臣、神職/歌)G 3 7 8 1
弘宣(こうせん/ひろのぶ・小川) → 可進(かしん・小川おがわ、医者/煎茶道) M 1 5 0 0
後川(こうせん・小寺) → 後川(ごせん・小寺、暮柳舎2世、俳人) B 1 9 5 7
幸川(こうせん・富永) → 幸陽(しんよう・富永/長深/神墨、陽明学) 2 2 9 0
幸川(こうせん・狩野) → 董川(とうせん・狩野かのう、奥絵師) T 3 1 4 1
幸専(こうせん・真田) → 幸専(ゆきたか・真田/井伊、藩主/歌人) 4 6 1 9
高泉(こうせん;道号・性激) → 性激(しょうとん;法諱・高泉、黄檗僧) P 2 1 5 7
高宣(こうせん・京極) → 高宣(たかあつ・京極きょうごく/稻垣、幕臣/歌)U 2 6 0 9
光宣(こうせん・烏丸) → 光宣(みつるふ・烏丸からすまる/藤原、廷臣/連歌)E 4 1 3 3
光宣(こうせん/みつるふ・一色/一井) → 鳳梧(ほうご・一井いちのい/一色、儒者/教育)F 3 9 1 6
候鮮(こうせん) → 利謹(としのり・南部なんぶ、有職故実/歌) N 3 1 3 2
公詮(こうせん・今出川) → 公詮(きんあき・今出川いまでがわ、廷臣/日記)Q 1 6 6 2
公鮮(こうせん;字) → 雪象(せつぞう・公鮮、真宗本願寺派僧) L 2 4 1 7
公宣(こうせん・三条) → 公宣(きんのり・三条/藤原、廷臣/歌人) R 1 6 6 0
公遷(こうせん・頼) → 養堂(ようどう・頼らい、儒者/詩文) 4 7 0 7
孝倩(こうせん/たかつら?・水落) → 梅欄(ばいかん・水落みずおち、医者/詩) 3 6 9 2
孝先(こうせん・岡井) → 嶮州(けんしゅう・岡井おかい、藩士/儒者) C 1 8 0 5
孝泉(こうせん・多田) → 孝泉(たかみつ・多田ただ、天台僧/歌) N 2 6 3 0
興先(こうせん・多田) → 義俊(よしとし・多田/桂/源、神道/故実/浮世草子)4 7 1 8
興宣(こうせん・柴田/高宮) → 興宣(おきのぶ・柴田/高宮、神職) C 1 4 9 3
行詮(こうせん・二階堂) → 行詮(ゆきあきら・二階堂/藤原、廷臣/歌)E 4 6 2 1
行宣(こうせん・法師) → 行宣(ぎょうせん;法諱/天台僧/音楽) W 1 6 0 0
行宣(こうせん/ゆきのぶ・冢田) → 旭嶺(ぎょくれい・冢田つかた、医/儒者) P 1 6 4 4
行宣(こうせん・石井) → 行宣(ゆきのぶ・石井いらい/平/樋口、廷臣)F 4 6 2 4
行宣(こうせん・菊岡) → 如幻(じょげん・菊岡きくおか、商家/郷土史家)M 2 2 3 0
行宣(こうせん・笠井) → 行宣(ゆきのぶ・笠井かさい、国学者) G 4 6 7 2
行賤(こうせん・長沢) → 楽浪(らくろう・長沢ながさわ、藩儒/詩) B 4 8 2 9
康詮(こうせん・松平) → 康詮(やすあきら・松平まつだいら/松井/源、幕臣/歌)H 4 5 1 3

K1922 **興然**(こうぜん・こうねん・こうせん;法諱・理明房;字)1121-120383 真言宗勸修寺慈尊院2世、1153念範門;伝法灌頂、初尊法・儀軌の蒐集、「図像集」「伝授集」「曼荼羅集」「伝授集」、「肝要集」「金剛界七集」「興然鈔」「護身抄」「香藥抄」「四種類聚抄」「彼岸抄」「理趣経法」、「愛染明王念誦次第」「両界伝授法灌頂作法」「文治二年灌頂日記」外著多数、門弟;覚禅・文覚・高弁(明恵)、

[興然の別法諱/通称]別法諱;智海、通称;勸修寺御房/慈尊院阿闍梨

B1959 **公禅**(こうぜん;法諱、右大臣三条実親男?)?-? 鎌倉期僧;法印/歌人;玉葉集2570、
[こしかたの夢うつつをぞ分きかぬる老のねぶりの覚むるよなよな](玉葉;雑2570、
寢覚述懐といふことを)

K1923 **弘全**(こうぜん;法諱) ? - ? 僧;法印、連歌作者;1356成立「菟玖波集」3句入、
[とにかくにむかしの夢のまたまた見えて](菟;十三雑235、
前句;老の心ぞかかずかうき)

R1955 **興然**(こうぜん・こうねん;法諱)? - ? 南北期の僧/歌人;1400菊葉集9首入、

[応永百首歌奉りける時(応永;1394-1428)、
山深く茂れる谷の時鳥鳴く音ばかりにしられけるかな](菊葉;夏340)

- K1924 **弘全**(こうぜん;法諱・浄英坊;号)1403-6967 和泉の真言僧;高野山金剛三昧院で修学、
1454(享徳3)高野金剛三昧院長老となる、「伝法灌頂愚記」著
- K1925 **宏善**(こうぜん;法諱・舜叔しゆんしゆく;字)1475-155783 浄土宗西山派僧:一仲融舜門、本山禅林寺住、
布教活動/粟生光明寺住、後柏原天皇より紫衣勅許、「禅林寺縁起」「当麻曼荼羅首書」著
- P1906 **浩然**(こうぜん・洪こう) 1582 - 1657殉死76 豊臣秀吉の朝鮮出兵で鍋島直茂らにより捕虜、
12・13歳で朝鮮から肥前佐賀に連行、能書;藩主鍋島直茂・勝茂父子の右筆、
上京し修学/佐賀儒学創始、帰国許されず/勝茂の江戸に没を知り佐賀阿弥陀寺で殉死、
「扁舟意不忘」書(;虜囚の辛苦を述)、
絶筆「忍」書(;忍ぶはすなはち心の宝 忍ばざるは身のわざわひ)、
古賀精里の「洪浩然伝」がある
- F1925 **昂然**(こうぜん・中村なかむら) ? - ? 漢学者;1704「通俗続三国志」訳
- F1926 **晃全**(こうぜん;法諱・版橈はんとう/はんじょう;道号)1627-9367 讃岐曹洞僧:馥州門/永平寺35世、
「正法眼蔵」95巻編:法語年代順配列:道白と、1685中国僧伝「僧諱冠字韻類」;10年かけ完成
[版橈晃全の号/諱号] 号;野水、 諱号;応安万国禅師
- K1926 **高全**(こうぜん・高野たかの、名;征休)?-1833 江戸小児科医/1804-30頃田安家の医、
牛込御門内住;中国の医書により小児科治方を立つ、1807「幼幼新書」訳
[高全(:通称)の字/号]字:子逸、 号:春園
- Q1983 **皎然**(こうぜん;法諱、号;如鉄、俗姓;宮川)1835-190571 越前丹羽郡の天台僧;大講義、国学者、
延暦寺住職;第239代天台座主(坊城皎然名)
- 広善(こうぜん/ひろよし・坂倉)→ 茂樹(しげき・坂倉さかくら、神職/国学) Q 2 1 8 7
- 好全(こうぜん・芝崎) → 好全(よしなり・芝崎しばさき、神職/国学) N 4 7 3 1
- 洪然(こうぜん・鍋島) → 直能(なおよし・鍋島なべしま、藩主/歌人) C 3 2 9 0
- 浩然(こうぜん・西田) → 直養(なおかい・西田、国学/歌人) 3 2 8 1
- 浩然(こうぜん・坂本) → 浩然(こうねん・坂本、医/本草/絵師) K 1 9 9 0
- 浩然(こうぜん・中村) → 浩然齋(こうぜんか・中村、儒者) K 1 9 2 8
- 浩然(こうぜん・杉原) → 心斎(しんさい・杉原すぎはら、幕府儒官) O 2 2 5 4
- 公善(こうぜん/きみよし?・松平)→ 乗完(のりさだ・松平、藩主/老中/儒) E 3 5 5 5
- 公善(こうぜん・関) → 海南(かいなん・関せき、医者/詩人) J 1 5 0 2
- 公然(こうぜん;法諱) → 公然(こうねん;法諱、真言僧) K 1 9 8 8
- 公全(こうぜん・四辻) → 季顕(すえあき・四辻/室町/藤原、大納言) B 2 3 0 7
- 公全(こうぜん) → 湛空(たんくう・聖心房、浄土僧/歌人) I 2 6 0 6
- 公前(こうぜん・風早) → 公長(きんなが・風早かざはや、廷臣) G 1 6 6 1
- 光善(こうぜん・日野西) → 光善(みつよし・日野西ひのにし/藤原、神職) H 4 1 3 5
- 恒全(こうぜん・大村) → 恒全(つねあき・大村おおむら、歌人) F 2 9 4 2
- 孝善(こうぜん・藤原) → 孝善(たかよし・藤原ふじわら、廷臣/歌人) E 2 6 0 4
- 孝善(こうぜん・堀) → 孝善(たかよし・堀ほり、藩士/算用者) N 2 6 7 5
- 康善(こうぜん・立入) → 康善(やすよし・立入たてり、廷臣) D 4 5 4 9
- 鴻漸(こうぜん;法諱) → 雲室(うんしつ;号、真宗僧/絵師) B 1 2 1 6
- 鴻漸(こうぜん・井土) → 学圃(がくほ・井土いど/喜多岡、藩儒) H 1 5 3 7
- 剛先(こうぜん・岸) → 熊野(ゆうや・岸きし/崖、藩士/儒者) D 4 6 8 9
- 豪選(こうぜん・大鳥居/菅原)→ 信全(しんぜん・大鳥居、社僧/国学/連歌) P 2 2 1 6
- K1927 **豪禅**(こうぜん;法諱) ? - ? 江戸中期享保1716-36頃天台僧;叡山正覚院探題執行、
法印/大僧正、1724「法勝寺戒灌諸本目錄」、「重授戒私記」「戒灌瓶加持作法」著、
- 弘宣庵(こうせんあん) → 諦盛(たいじょう;法諱、真宗大谷派僧) X 2 6 9 5
- 広宣院(こうせんいん;諱号)→ 了義(りょうぎ;法諱、真宗本願寺派僧) L 4 9 3 6
- 宏善院(こうぜんいん) → 日感(にちかん、日蓮僧) B 3 3 0 9
- 興善院(こうぜんいん) → 日饒(にちりょう;法諱・英月、日蓮僧) D 3 3 0 4
- 興禅院(こうぜんいん;法号)→ 光仲(みつなか・池田いけだ、藩主/国学・歌) E 4 1 1 2

- 杭川翁(こうせんおう) → 木因(ぼくいん・谷、俳人) 3 9 6 1
- K1928 浩然窩(こうぜんか・中村なかつら、名;良直、篁溪男) 1679-1738⁶⁰ 儒者;林鳳岡門、
1708(宝永5)水戸藩に出仕、
1694(元禄7)「常陸孝子伝」、「浩然窩小集」「中村雑記」「二孝子伝」著、
[浩然窩(;号)の字/通称/別号]字;子養、通称;彦五郎、別号;浩然
後穿窟主人(こうせんくつしゅじん) → 魚丸(うおまる・佐藤、狂歌) 1 2 0 1
- 皓然齋(こうぜんさい) → 宗辰(むねとき・前田まえた、藩主/和学) E 4 2 2 3
- 鴻漸齋(こうぜんさい) → 磐溪(ばんけい・大槻、儒者/洋学者) 3 6 4 0
- 光禪寺(こうぜんじ) → 義光(よしあき・最上もがみ/源、藩主/連歌) B 4 7 8 6
- 興禪大燈国師(こうぜんだいてうこくし) → 宗峰(しゅうほう・妙超、臨濟僧) Y 2 1 3 8
- 合川亭(ごうせんてい) → 珉和(みんわ・合川あいかわ、絵師) H 4 1 2 6
- 光闡坊(こうせんぼう) → 兼順(けんじゅん・顕誓、真宗僧/歌人) J 1 8 7 0
- K1929 好祖(こうそ;名・黒川くろかわ、字;子述) ?-? 江中・後期;寛政1789-1801頃甲斐文筆家:
和算家井上昌倫と親交;1793昌倫「帙算須知」序、1797「富士水碑」著
- K1930 洪祚(こうそ・小島) ? - ? 江後期蘭学者;佐藤信淵のぶひろ門、
1842常陸水戸藩の軍事操練見学;43「水藩聞見録」著
- 光祖(こうそ・烏丸) → 光祖(みつもと・烏丸からすまる/藤原、廷臣/歌) E 4 1 9 8
- 光旒(こうそ・こうりゅう・狩野/角田) → 無幻(むげん;法諱、修験僧/書家) 4 2 4 9
- 弘祖(こうそ/ひろもと・菅野) → 眞斎(しんさい・菅野すげの、儒者) O 2 2 4 6
- 弘素(こうそ・山本) → 弘素(ひろもと・山本やまもと/久保田/近藤、国学/尊攘) J 3 7 6 1
- 孝祖(こうそ・大野/土山) → 孝祖(たかそ・土山つちやま/大野、幕臣/記録) M 2 6 1 4
- 公素(こうそ・玉乃) → 五竜(ごりゅう・玉乃たまの/枝えだ/桂かつら、儒者) N 1 9 9 6
- 公楚(こうそ・荒木) → 素履(もとぶむ・荒木あらき、国学/歌) J 4 4 1 1
- 後素(こうそ・大塩) → 中斎(ちゅうさい・大塩平八郎、儒者/義挙) G 2 8 0 7
- 康祖(こうそ・やすもと?・本多) → 康桓(やすたけ・本多ほんだ、藩主/詩歌) G 4 5 6 0
- 興祖(こうそ・浅野) → 惟親(これちか・浅野あさの/源、儒者) O 1 9 5 1
- K1931 耕叟(こうそう;道号・仙源せんげん;法諱) ?-? 鎌倉中期臨濟僧;東福寺円爾門/建長寺無学祖元門、
五山文学、筑前承天寺住寺/檀那の菊池家建立の肥後竹林寺の開山、「耕叟和尚遺稿」
- B1960 光宗(こうそう/こうしゅう) 1278 - 1350⁷⁵ 鎌倉後期天台僧;叡山黒谷の興円門(恵鎮と同門)、
穴太流台密;澄豪門、恵鎮と黒谷流を開く、黒谷慈眼房住、「記録部私苗」「愛染王法」、
1311-47「溪嵐拾葉けいらんじゅうよう集」(学書・説話)/1318「不動口決」、「以心伝心鈔」外著多数、
[光宗(;法諱)の別法諱] 性印/道崇/道光
- P1983 光宗(こうそう・岡田おかだ) ? - ? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、
[野辺に声きく日くらしの門](物種集/前句;飾り屋がみがき立てたる秋の菊、金物細工人、
日暮らしの門;聚楽第・江戸城などの日暮れても帰るを忘れるほど美を尽くした門)
- K1932 江艸(こうそう) ? - ? 伊勢俳人;1771樗良門;藤沢にて会う、
1776樗良「月の夜」入;[星ありと外面そともの声を聞く時雨](月の夜;100、晴雨定めなき空)
- K1933 耕想(こうそう・長雄ながお) ? - ? 江後期大阪の書家;1803加藤景範門、歌、
1808「長尾耕想消息帖」書
- G1938 香窓(こうそう・豊田とよだ、名;靖、天功男) 1834-66^{暗殺} 33 水戸藩士/儒者;父門/藩校弘道館入学、
藩命で蘭学;1853大島高任門、57上京;建議書を青蓮院宮と三条実方に呈す;発覚謹慎、
1860彰考館入/64家督;大番組/66彰考館総裁代役、維新前の混乱で暗殺、詩人、
「分折小史」「香窓詩稿」「上国游記」「丁巳記遊」「大日本史職官志稿」1864「松岡先生年譜」著、
[香窓(;号)の通称] 小太郎
- 広相(こうそう・橘) → 広相(ひろみ・橘/薄、廷臣/詩人) H 3 7 1 6
- 広聡(こうそう・真壁/上野) → 広聡(ひろとし・栄名井さかない/上野/真壁、神職/和漢学) G 3 7 5 1
- 江叟(こうそう・山鹿) → 素行(そこう・山鹿やまが、儒/軍学者) 2 5 2 2
- 亨宗(こうそう;道号) → 祖覚(そかく;法諱・亨宗こうそう、臨濟僧) J 2 5 3 6
- 香草(こうそう・白田うすだ) → 竹老(ちくろう・白田、儒者/歌) D 2 8 9 7
- 香窓(こうそう・柴田) → 弘器(ひろき・竜廼屋・柴田、藩医/狂歌) F 3 7 7 5

公聡(こうそう・姉小路)	→	公聡(きんとし・姉小路あねがこうじ、廷臣)	F 1 6 2 0
公宗(こうそう・洞院)	→	公宗(きんむね・洞院とういん、廷臣/歌人)	E 1 6 7 1
公宗(こうそう・西園寺)	→	公宗(きんむね・西園寺さいおんじ、廷臣/歌)	E 1 6 7 2
公操(こうそう・平井)	→	樗堂(ちよどう・平井ひらい、藩士/詩人)	K 2 8 4 4
公叟(こうそう・松木)	→	智彦(ともひこ・松木/度会、神職/歌)	Q 3 1 3 3
行宗(こうそう・源)	→	行宗(ゆきむね・源みなもと、廷臣/歌人)	4 6 1 0
行宗(こうそう・藤原/伊達)	→	朝村(あさむら・伊達/藤原、歌人)	B 1 0 0 5
行宗(こうそう・藤原/二階堂)	→	行円(ぎょうえん、二階堂、幕臣/歌人)	C 1 6 2 6
光宗(こうそう・伊達)	→	光宗(みつむね・伊達だて、世子/歌)	E 4 1 9 3
弘早(こうそう・足代)	→	弘早(ひろとし・足代/度会、神職/歌)	G 3 7 5 2
弘相(こうそう・杉)	→	弘相(ひろすけ・杉すぎ/平、武将/連歌)	G 3 7 0 9
高宗(こうそう・平)	→	高宗(たかむね・平たいら、廷臣/歌人)	D 2 6 8 7
高操(こうそう・藤井)	→	高操(たかもち・藤井ふじい、神職/国学)	Z 2 6 3 3
洵窓(こうそう・喜多村)	→	香城(こうじょう・喜多村、幕府医官)	F 1 9 1 2
洵窓(こうそう・深川)	→	恋稻(れんとう・深川、俳人)	B 5 1 3 8
洪宗(こうそう・木造)	→	洪宗(ひろむね・木造こうくり、絵師)	H 3 7 4 7
耕叟(こうそう・宮田)	→	義昌(よしまさ・宮田みやた/星野、国学/歌)	P 4 7 4 6
興藪(こうそう・桂川)	→	邦教(くにみち・桂川/家祖、幕府蘭医)	D 1 7 2 1
幸早(こうそう・舟木)	→	伝内(初世でんない・舟木、料理人)	C 3 0 1 4
幸総(こうそう・藤村)	→	和吹(わすい・藤村ふじむら/藤、俳人)	5 3 3 1
香草(こうそう・白田)	→	竹老(ちくろう・白田うすだ、儒者/教育)	D 2 8 9 7
香巢(こうそう・関島)	→	良載(よしのり・関島せきしま、医者/歌人)	N 4 7 5 7
恒曾(こうそう・野々村)	→	良澄(よしずみ・野々村のむら、藩士/儒者)	O 4 7 4 5
康宗(こうそう・紀)	→	康宗(やすむね・紀き、廷臣/歌人)	D 4 5 1 9
綱宗(こうそう・伊達)	→	綱宗(つなむね・伊達だて、藩主/歌人)	B 2 9 3 6

- B1961 **幸三**(初世こうそう・松井まつい、姓名;島地島三)?-1815/28? 上方の僧?/歌舞伎作者;初世並木五瓶門、のち初世金井由輔門:1798江戸森田座で鴻蔵を名乗る/99沢村宗十郎(4世)門;幸三と改名、五瓶・2世瀬川如臯・4世鶴屋南北の助作/1812市村座付立作/15引退、1803「江戸紫縁十徳」、1811「東都名物錦絵始」、12「詠繻子帯屋」「御撰恵雨」、13「戻橋背御撰」「伊達姿花見御殿」、14「隅田川花御所染」「染纏竹春駒」「世界花菅原伝受」、15「其盞色三組」外著多数、[初世松井幸三(;通称)の別通称] 松井鴻蔵/松井鴻三、本町(;本町新道に住した)
- B1962 **幸三**(二世こうそう・松井まつい) 1793-1830/38 歌舞伎作者;初世松井幸三門、初め囃子方;杵屋和蔵名、幸三門作者;1810江戸中村屋初出勤/桐座で2世幸三を襲名、のち4世鶴屋南北門/1829市村座立作者、吉原揚屋町住;替間兼業、作詞;清元「かさね」、富本「戻駕」、1825「東海道四谷怪談」27「伊達劇場根元礎」28「当梅伊達抄」など助作、1829「色一座曾我大寄」「浮名草紅のべ紙」、1830「色直肩毛氈」「江戸桜衆袖土産」外著多数、[二世松井幸三の別通称] 杵屋和蔵(;歌舞伎囃子方)/松井新幸
- F1927 **高蔵**(こうそう・浅野あさの、名;直隆)?-?1818前没 大阪高麗橋・本町四丁目住の文筆家、歌謡収集、料理書編集、1805「歌曲時習考」07「琴曲大全」、「大成糸のしらべ」、1803-20「素人庖丁」著、1806「会席料理細工庖丁」編/07「精進鼎」/14「容顔美艶考」補填/15「袖中歌袋」著、[高蔵(;通称)の別通称/号]別通称;高造/安蔵、号:松蘿坊
- K1935 **鴻蔵**(江三こうそう・島田しまだ)?- ? 江中期天明寛政1781-1801頃歌舞伎作者;筒井三鳥門、1784大阪嵐他人座の「日本花赤城塩竈」の創作に協力/嵐文吉座に協力、1788「言時花女夫振袖」著、[島田鴻蔵(;号)の別号] 島田江三(;初号)/島田三芝
- K1936 **耕蔵**(こうそう;通称・和田が、名;獲山)?-? 江後期寛政1789-1801頃金沢藩士/の和算家:独学、1792京藩邸勤務;大橋充敷門;関流印可皆伝/金沢関流の祖、藩校明倫館算学師範、「算学源流諸約巻帙」注、中野庄兵衛の師
- K1937 **孝蔵**(こうそう・徳弘とくひろ、名;益/益孝、石門男) 1807-81/75 土佐藩士;1825家督;筒持役、藩命で江戸遊学;洋式砲術;下曾根信敦門/絵師;光明寺雲室・広瀬台山・春木南溟門、

1842帰郷、1849「蘭式火術」著、砲術の門人；武市瑞山・坂本龍馬・門田毅ら、
 [孝蔵(；通称)の字/別通称/号]字；貞吉、別通称：賀大夫/祥吉、号；董斎/石塚せきたい

- 甲蔵(こうぞう・塩谷) → 宥陰(とういん・塩谷しおのや、儒官/詩人) 3 1 0 3
 恒蔵(こうぞう・新庄) → 貞老(さだおい・新あたらし/衣笠、藩士/国学) B 2 0 7 3
 恒蔵(こうぞう・小川) → 蒼山(そうざん；号・小川おがわ、俳人) H 2 5 4 9
 恒蔵(こうぞう・会沢) → 正志斎(せいしさい・会沢あいざわ、儒者/尊攘) B 2 4 9 1
 恒蔵(こうぞう・赤川) → 玄悦(げんえつ・赤川かがわ、藩侍医/歌人) N 1 8 5 8
 幸三(こうぞう・小川) → 忠篤(ただあつ・小川、儒者/勤王派) P 2 6 1 8
 幸造(こうぞう・依田) → 学海(がつかい・依田よだ、儒/詩/日記) F 1 5 4 0
 幸蔵(こうぞう・中井) → 国次(くにつぐ・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 9 1
 幸蔵(こうぞう・菊池) → 大瓠(たいこ・菊池/菊地、藩士/儒者) B 2 6 3 4
 幸蔵(こうぞう・橋田) → 春湖(しゅんこ・橋田きつた、俳人) J 2 1 5 9
 幸蔵(こうぞう・中村) → 義方(よしかた・中村なかむら、藩士/和算家) C 4 7 7 4
 江三(こうぞう・島田) → 鴻蔵(こうぞう・島田、歌舞伎作者) K 1 9 3 5
 行蔵(剛蔵こうぞう・村士) → 玉水(ぎよくすい・村士すぐり、儒者/兵学) I 1 6 8 5
 行蔵(剛蔵こうぞう・青木) → 東山(とうざん・青木、儒者/詩) E 3 1 6 4
 行蔵(こうぞう・下条) → 竹塙(ちくお/ちくう・下条、医者/歌) C 2 8 6 6
 行蔵(こうぞう・根岸) → 混処(こんしょ・根岸ねぎし、藩儒者) D 1 9 7 9
 行蔵(こうぞう・平山) → 兵原(へいげん・平山ひらやま、兵学/武芸者) 2 7 2 5
 行蔵(こうぞう・田能村) → 竹田(ちくでん・田能村たのむら、儒者/詩/絵師) D 2 8 5 4
 行蔵(こうぞう・羽柴) → 光枝(みつえ・大村/藤原、国学者/歌人) D 4 1 1 1
 行蔵(こうぞう・半井/和氣) → 柳斎(りゅうさい・和氣わけ/半井、藩儒) E 4 9 0 4
 行蔵(こうぞう・中沢/沢) → 雪城(せつじょう・中沢なかざわ/沢、書家) L 2 4 1 0
 行蔵(こうぞう・四屋) → 穂峰(すいほう・四屋よつや、藩儒) E 2 3 9 9
 行蔵(こうぞう・井阪；変名) → 惣太郎(そうたろう・越/塚越/斎藤、藩蘭医/尊攘) I 2 5 4 0
 行蔵(こうぞう・湯谷) → 喬(たかし・湯谷ゆや、国学者) 2 7 2 4
 高蔵(こうぞう・尾藤) → 水竹(すいちく・尾藤びとう、儒者/幕臣) 2 3 8 0
 鋼蔵(剛蔵こうぞう・三宅) → 友信(ともぶ・三宅みやげ、蘭学者) Q 3 1 2 2
 耕蔵(こうぞう・松井耕象) → 永賢(ながよし・松井、官人/歌人) G 3 2 5 1
 耕蔵(こうぞう・町田) → 松和(しょうわ・町田まちだ、製紙業/俳人) M 2 2 1 3
 光増(こうぞう・土佐) → 光益(みつあき・土佐/藤原、絵師) E 4 1 9 1
 光蔵(こうぞう・富田) → 織部(おりべ・富田とみた、勤王家) C 1 4 0 0
 弘三(弘蔵こうぞう・中井) → 桜洲(おうしゅう・中井なかい、国事/詩) C 1 4 4 9
 弘蔵(こうぞう・杉浦) → 義成(よしなり・島山、藩士/渡航日記) F 4 7 4 5
 弘蔵(こうぞう・小川) → 含章(がんしょう・小川おがわ、儒者) R 1 5 0 8
 弘増(こうぞう・ひろます・三橋) → 夕流(せきりゅう・三橋みつはし、藩士) K 2 4 5 2
 亢三(こうぞう・徳田/鳥居) → 清種(きよたね・鳥居/徳田、絵師) P 1 6 8 6
 貢蔵(こうぞう・奥村) → 邦秀(くにひで・奥村おくむら/橘、国学/茶人) E 1 7 0 8
 鴻蔵(鴻三こうぞう・松井) → 幸三(初世こうぞう・松井、歌舞伎作者) B 1 9 6

K1938 豪宗(こうぞう；法諱) 1384 - ? 1448存 京の天台宗の宝菩提院6世、大和尚/法印、
 1426(応永33)「兩行毘羅灌頂見聞」、「十八道加行用意私注文」著

- 剛造(こうぞう・可部) → 赤遷(あかに・可部かべ、医/国学者) G 1 0 4 0
 剛蔵(こうぞう・国友) → 忠連(ただつら・国友くにとも、藩士/国学者) P 2 6 8 9
 剛蔵(こうぞう・阿部) → 正弘(まさひろ・阿部、藩主/老中/条約) H 4 0 0 1
 剛蔵(こうぞう・小国) → 嵩陽(すうよう・小国おぐに、儒者/国事) B 2 3 0 4
 江霜庵(こうそうあん) → 鶴樹(たづき・浅見、俳人) 2 6 3 6
 広蔵院(こうぞういん) → 日辰(にっしん；法諱、日蓮僧) E 3 3 4 2
 傲霜園(ごうそうえん) → 栄武(よしただけ・中島なかじま、大庄屋/歌人) O 4 7 1 8
 傲霜窟(ごうそうくつ) → 巖丸(いずまる・安武やすたけ、藩士/儒者) F 1 1 7 3
 広莊嚴院(こうそうごんいん；法号) → 尊賞法親王(尊昭そんしょうほうしんのう、興福寺別当) F 2 5 5 5

- 鴻爪子(こうそうし) → 密(ひそか・前嶋/前島、諸学/郵便制度) C 3 7 5 5
 弘宗定智禅師(こうそうていぢぜんじ) → 蘭洲(らんしゅう; 道号・良芳; 法諱、臨濟僧) C 4 8 5 0
 公餗(こうそく・古屋) → 愛日齋(あいじつさい・古屋ふるや、儒者) C 1 0 1 8
 広足(こうそく)すべて → 広足(ひろたり)
 広則(こうそく・藤/遠藤) → 広則(ひろのり・藤とう/遠藤/藤原、曆算家) G 3 7 8 8
 行則(こうそく・春日) → 行則(ゆきのり・春日かすが/藤原、国学/歌) G 4 6 2 7
 光則(こうそく・土佐) → 光則(みつりのり・土佐とさ、絵師) E 4 1 4 4
 光則(こうそく・保田) → 光則(みつりのり・保田、藩士/国学者) 4 1 2 8
 光則(こうそく・高橋) → 光則(みつりのり・高橋たかはし、神職/国学) J 4 1 6 2
 公則(こうそく・正親町三条) → 公則(きんのり・正親町三条、廷臣/歌) R 1 6 6 3
 恒足(こうそく・国友) → 恒足(つねたり・国友くにとも、国学者) C 2 9 4 5
 幸足(こうそく・富樫) → 広蔭(ひろかげ・富樫/井手、商家/国学) 3 7 1 4
K1939 恒足軒(こうそくけん・丹治たじひ、名; 庶智/恒治、沾涼男?)?-?1772前85歳 地誌家、
 1772「江戸砂子」補筆、牧冬涉齋の師、
 [恒足軒(;号)の字] 丹阿たんあ
 後素軒(こうそけん) → 蘭庭(らんてい・後素軒、断本作者) D 4 8 0 1
 後素軒(ごそけん) → 守国(もりくに・橋たちばな/檜村、絵師) F 4 4 3 7
 後素軒(こうそけん) → 保国(やすくに・橋たちばな、絵師) B 4 5 3 3
 香祖軒(こうそけん) → 東陽(とうよう・細井、医/本草学) H 3 1 8 5
 香祖堂(こうそどう) → 正栄(しょうえい・本木、通事/対訳辞書) H 2 2 1 6
B1963 後村(こうそん) ? - ? 江中期伊丹の俳人:
 1714月尋「伊丹発句合」参加(才磨判)、
 [餅を売る舟にわかるゝ柳かな](伊丹発句合;二番)
K1940 光遜(こうそん; 法諱・靈麟いりん; 字) 1732-1802 71 武州荻島の真言僧; 秩父常明寺弘濟門; 出家、
 法明門; 1754依鉢戒・64比丘戒を受、文珠院復興/84湯島靈雲寺7世、「理趣経伝授目録」著
K1941 香村(こうそん・遠藤えんどう・猪狩いかり) 1787-64 78 会津若松大戸の農家/絵師; 四条派黒河内会山門、
 江戸の谷文晁門・京の岸駒門、油絵; 亞欧堂田善門、帰郷; 会津藩御絵師補; 本草写生に従事、
 俳諧/詩を嗜む、1855「画学須知」著/59「会津猪湖一覽」編、「会津三十六俳仙」著、
 [香村(;字)の通称/号]通称; 平次郎、号; 瘦梅/水石/如圭/十五山水精舎/幽竹山窓/石田農夫
K1942 篁村(こうそん・宮本みやもと、名; 鉉、平右衛門高重男) 1788-1838 51 常陸潮来の儒/折衷学; 北山門、
 遊歴、文政1818-30頃仙台櫓町で開塾; 門弟多数、「醸経亭叢書」「醸経亭文集」「醸経漫筆」、
 「醸経亭正言」「曠古録」「卸笈録」「逝濯録」「戦国策稗闕」「警枕雜綴」「荀子樹説」外著多数、
 [篁村(;号)の字/通称]字; 士鉉/伯鼎、通称; 鼎吉、茶村ちやそんの兄
G1939 江村(こうそん・石合いあい/古畑、名; 克/文之、田口了翁男) 1818-73 56 本貫; 備前児島田口村/江戸生、
 儒/経学; 古畑玉函門/師の失明により代講、父の死により田口より一時古畑に改姓/復姓、
 宗家の石合家を継承、肥前唐津藩士、1862生麦事件の際に藩主小笠原長行に建言し不採用、
 館林藩に招聘され賓師、「論語読本」「玉琴精舎論語説」、1856「雪鴻紀踪」著、高橋蘭舟の師、
 [江村(;号)の字/通称/別号]字; 子礼/文蔵、通称; 喜太郎、別号; 黙翁
G1966 黄村(こうそん・向山むこうやま、名; 栄/一履、一色真浄男) 1826-97 72 江戸本所の生/1833向山家養子、
 儒; 千坂完爾門/昌平黌出、幕臣; 教授方出役/1863目付/66外国奉行; 駐仏公使; 隼人正、
 渡仏; ナポレオン3世に謁見、維新後慶喜の随従; 藩校静岡学問所頭取; 沼津に住、詩人、
 詩社晩翠吟社結成、「科場辨書」「御用留」「景蘇軒詩鈔」「遊晃小草」著、
 [黄村(;号)の字/通称]字; 欣文、通称; 栄五郎/隼人正はやとのしょう
K1943 香村(こうそん・小菅こすが、名; 揆/字; 果卿/通称; 揆一)?-? 江後期江戸の儒者/詩人、
 「香村居士詩巻」「古香齋詩鈔」著
K1944 篁村(こうそん・島田しまだ、本姓; 源、重規6男) 1838-1898 61 武蔵国荏原郡下大崎村名主の家、
 早く両親と死別; 長姉に養育される、1852大沢赤城に修学/儒者; 海保漁村門、
 1859安積良齋門/863昌平黌に修学/昌平黌儒員、考証学的研究、
 越後村上藩主内藤信民に招聘; 賓師; 禄百石、1869東京下谷長者町に私塾; 双桂精舎設立、
 のち東京大学で教鞭; 文学部に古典講習科漢書課を設置、門弟多数、毛沢本多数、

「篁村遺稿」(息子鈞一の編纂)、

[篁村(；号)の幼名/名/字]幼名;源六郎、名;重礼ちやうれい、字;敬甫

- Q1952 **光尊**(こうそん・大谷おおたに、西本願寺20世広如5男)1850-1903⁵⁴ 母;徳如(光威)長女の枝子げに、浄土真宗本願寺派僧;新門跡の河内顯証寺徳如の養子;1868新門跡継嗣、1872(明治4)父没;西本願寺法主21世、維新後の近代教団の制度改革を遂行、伏見の別荘[三夜荘]建設/本願寺護持財団設立/学林(後の龍谷大学)改革;人材育成、仏教社会事業の基礎を築く、1873太政官公布により浄土真宗を公称;一向宗を廃す、実子;大谷光瑞(鏡如)・大谷光明(浄如)・大谷尊由・九条武子・木辺孝慈(真宗木辺派)、歌人;「大谷光尊和歌集」(六華集)あり、

[光尊(；法諱)の名/法名/号]名;峨君、法名;明如みょうにょ(上人)、号;六華、院号;信知院

光村(こうそん・三室戸) → 光村(みつむら・三室戸みむろど/冷泉/藤原、歌人) K 4 1 6 9

后村(こうそん・吉島) → 斐之(あやゆき・吉島よしじま、商家/国学) I 1 0 5 6

菘村(こうそん) → 豊彦(とよひこ・岡本、絵師) R 3 1 4 9

高邨(こうそん→たかむら・蔵重/片山) → 高岳(たかおか・片山/蔵重、藩士/国学) L 2 6 6 3

篁邨(こうそん・賀茂) → 経春(つねはる・賀茂/岡本、神職/国学) D 2 9 2 9

篁邨(こうそん・榊) → 令輔(れいすけ・榊さかき、幕臣/洋学者) 5 1 4 4

篁邨(こうそん・大藪) → 文雄(あやお・大藪おおやぶ、神職/詩歌) H 1 0 3 0

蒿村(こうそん・伊能) → 穎則(ひでのり・伊能いのう、商人/国学/歌) D 3 7 6 5

肯尊(こうそん;法号) → 通相(みちまさ・久我こが/源、太政大臣/歌) B 4 1 6 5

香邨(こうそん・坂本) → 浩然(こうねん・坂本、医/本草/絵師) K 1 9 9 0

- K1945 **功存**(こうぞん;法諱・字;子成/義洞)1720-96⁷⁷ 越前今立明正寺生/真宗本願寺派僧;平乗寺恵鐘門、本山学林法霖の講席出席/大和軽邑の道場で修学/60足羽郡平乗寺住職、69能化職(17代)、実明院を賜号、1762無帰命を否定し三業帰命論発表;智洞により三業惑乱とされ論争発生、1765「願生帰命辨」、「願生帰命辨記」、「帰命辨々疑」/78「功存安心示教」、「詩歌雑草」外著多、[功存の号] 靈山/実明院

- K1946 **豪尊**(ごうそん;法諱・秀山しゅうざん;字)?-? 江前期元禄1688-1704頃天台僧;日光山妙道院住、法曼流、「護摩私記」 「護摩供私記法曼流」 「胎記供養会」著

- Q1985 **豪尊**(ごうそん;法諱、桜園さくらぞの;号)1844-1906⁶³ 美濃不破郡の大垣藩士/歌;渡忠秋(1811-81)門、出家;天台宗大律師/上野佐波郡三郷村の普光寺住職、「柵園詠草拾遺」編

江村(ごうそん・小保内) → 定知(さだとも・小保内おほない、神職/国学) O 2 0 0 6

光尊院(こうそんいん;号) → 眞詮(しんせん;法諱、真宗大谷派僧) P 2 2 1 2

江村軒(こうそんけん) → 正員(まさかず・今村/佐々木/源、兵法家) B 4 0 7 5

- B1964 **杲尊法親王**(こうそんほつしんのう、恒明親王男or後醍醐天皇皇子)?-1399 南北朝歌人、南朝醍醐寺座主、母;藤原隆資の女少納言内侍、兄深勝より後醍醐天皇灌頂御影を相承/弟尊勝に伝う、歌;新葉集3首506/1213/1399、

[なに事をなすともなくてあすか風いたづらに又くるる年かな](新葉集;六冬506)、

[杲尊法親王の初法諱/号]初法諱;尊真、号;佐山殿

康太(こうた・朝枝) → 文信(ふみのぶ・朝枝あさえだ/長多、藩士/歌) H 3 8 9 4

光多(こうた・中津) → 光多(みつな・中津なかつ/中村、国学者/歌) J 4 1 9 1

広太(こうた・沼沢) → 豊貫(とよつら・沼沢ぬまざわ/藤原、藩士/詩) W 3 1 0 4

高兌(こうた・藤堂) → 高兌(たかさわ・藤堂、藩主) L 2 6 9 3

高朶(こうた・藤堂) → 高朶(たかえだ・藤堂、藩主/歌人) C 2 6 5 3

庚妥(こうた・三浦) → 庚妥(つぐやす・三浦、謡曲研究) 2 9 8 8

- K1947 **勾堆**(こうたい・奥田おくた、名;盛直/直輔、盛喜男)1757-1802⁴⁶ 仙台藩士、詩文、劍槍術/江戸番馬上、江戸・大阪に遊ぶ;井上四朗・関松窓・中井竹山らと交遊、「解蒙」「政論」「道範」著、父盛喜は仙台の富商で功績あって土籍、橘園(きつえん、藩士/儒者)の父、[勾堆(；号)の字/通称]字;良弼、通称;太郎/一郎左衛門

- Q1977 **光泰**(こうたい;法諱、俗姓;高野)1829-1894⁶⁶ 江戸の僧/上野勢多郡富田の正法院住職/国学、[光泰の通称/号]通称;啓南、号;観月

公泰(こうたい・洞院) → 公泰(きんやす・洞院とういん、南朝右大臣/歌) E 1 6 8 1

光泰(こうたい・佐藤/高津)→ 溜川(しせん・高津たかつ、藩儒/従軍記録) E 2 1 4 3
 光泰(こうたい・蜂谷) → 光泰(みつやす・蜂谷はちや、藩士/歌人) K 4 1 0 8
 光泰(こうたい・本間) → 光泰(みつやす・本間ほんま、商家/神職/国学) K 4 1 4 7
 高泰(こうたい・毛利) → 高泰(たかやす・毛利もうり、藩主/歌) U 2 6 2 3
 綱泰(こうたい・朽木) → 綱泰(つなひろ・朽木くつき/源、幕臣/蔵書家) B 2 9 2 7
 厚戴(こうたい・服部) → 滄洲(そうしゅう・服部はつとり、藩儒者) H 2 5 8 3
 弘泰(こうたい・山崎) → 弘泰(ひろやす・山崎やまさき、国学者/歌) H 3 7 5 7
 弘泰(こうたい・高橋) → 弘泰(ひろやす・高橋たかはし、代官家臣/国学) K 3 7 1 2
 江太(こうたい・大江) → 澄明(すみあきら・大江おおえ、廷臣/詩人) 2 3 1 7
 弘代(こうだい) → 弘代(ひろよ、連歌) G 3 7 2 6
 公台(こうだい・野村) → 東臯(とうこう・野村/野、藩士/儒者) 3 1 0 9
 広大(こうだい・村上) → 松堂(しょうどう・村上むらかみ、絵師) R 2 2 6 2
 光大(こうだい・岡田) → 光大(みつひろ・岡田、故実家) E 4 1 7 5
 高台(こうだい・谷井) → 敬英(のりひで・谷井、医/儒者) F 3 5 5 7
 合大(ごうだい・津田/田) → 養(よう・津田つだ/修姓; 田、医者/俳人) 4 7 5 3

K1948 **高台院**(こうだいいん・名; 寧子ねね/吉子ねね、杉原定利女) 1549?-1624? 1561秀吉正室、
 秀吉と大阪城住、秀吉の関白就任; 北政所となる/1598落飾して高台院; 京東山高台寺建立、
 歌; 「高台院和歌集」著/連歌; 1621正次らと「元和七年五月千句三物」

[高台院(落飾後の通称)の通称/法号]通称; ねね/北政所、法号; 高台院湖月心公

広大院(こうだいいん) → 寔子(ただこ・近衛このえ/島津、広大院/家齊室) U 2 6 3 6
 皇太后宮大進(こうたいごうぐうのだいじん) → 若水(わかみず、後白河皇后忻子女房) 5 3 1 2
 皇太后宮陸奥(こうたいごうぐうのむつ) → 陸奥(むつ、後冷泉后歎子[教通女]女房) 4 2 9 2
 皇太后宮若水(こうたいごうぐうのわかみず) → 若水(わかみず、後白河皇后忻子女房) 5 3 1 2
 江大府卿(こうだいふきょう) → 匡房(まさふさ・大江/江、漢学者/詩歌) 4 0 1 9
 後宇多院宰相典侍(ごうだいのさいしやうのないしのすけ) → 宰相典侍(さいしやうのすけ・後宇多院) 2 0 8 7
 後宇多院新兵衛督(ごうだいのしんひやうえのかみ) → 新兵衛督(しんひやうえのかみ・後宇多院)

1914 **広沢**(こうたく・細井ほそい/本姓; 藤原、辻つ輔庵男/本姓; 源) 1658-1735? 母; 山本富、
 辻芝山の弟、遠州掛川の生/父と播州明石移住; 初め医; 父門/江戸で儒; 坂井伯元門、
 1677書; 北島雪山門、1690頃川越藩士; 柳沢吉保の近習鉄炮頭/1702致仕、
 1708水戸家出仕; 山本藤次郎名、1724与力、唐様の書家として活動/篆刻、歌; 清水谷実業門、
 武術; 剣は堀部安兵衛と同門、測量学に精通/1722上総下総の検地、
 1701「細井知慎詠草」、「広沢歌集」、「広沢翁和歌」、1725「観鷺百譚」、「広沢翁道の記」著、
 「広沢記」、「伊呂波之記」、「国字国訓辨」、「蕉林漫鈔」、「字考」、「八仙歌」、「東海長歌」、「求艾録」著、
 「和漢字誌」、「奇勝堂筆余」著、「西湖十景」、「万書千字文」書、
 [広沢(号)の名/字/通称/変名/別号]名; 知堅/知慎ともちか、字; 公謹、通称; 次郎太夫/弁庵、
 別号; 玉川/思貽斎いさい/君子亭/菊叢/蕉林庵/奇勝堂、法号; 豪徳院、
 変名; 辻弁庵/山本藤次郎、
 ☆歌; 蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入の[弁庵]と同一?、
 [治まれるときも忘るな弓取の大和ごころを世世に伝へて]、
 (大江戸倭歌; 雑1927/唐櫃のふたに)

K1949 **厚沢**(こうたく; 通称・中井なかい、名; 潤) 1775-1832? 安芸宮島の医者; 星野良悦門、
 師の製作「身幹儀」(木製人体骨格)を持って江戸に行く/蘭医学; 杉田玄白・宇田川玄眞門、
 帰郷後子弟に蘭学教育; 広島蘭学の始祖、さらに長崎でフェイルケ・吉雄耕牛門;
 升永霜製法を伝受; 新製品を製出、「弼離力考」、「升永丹製法秘訣」訳

K1950 **光沢**(こうたく; 法諱・広如こうじ; 号、顕証寺暉宣男) 1798-1871? 母; 顕証寺闍教女/九条輔嗣の猶子、
 1809得度/河内顕証寺住職/1819本山真宗本願寺派本願寺20世を法嗣/24大僧正、勤王方、
 西本願寺21世を息子の光尊(明如みょうじよ)が継嗣、
 「釈教御詠」、「春の小車」、「東国紀行」、「南海の旅」、1828「東越日記」、「光沢上人東路日記」著、
 [光沢の幼名/別法諱]幼名; 祥寿丸、別法諱; 本了/撰衆、諡号; 信法院

K1951 **江沢**(こうたく; 号・吉田よしだ、通称; 嘉右衛門) 1799-1873? 近江野洲兵主村の天文学者、

易・和算;京の榎浄門門、1842「方鑑日撰発蒙捷徑」著

幸沢(こうたく・猪熊/吉雄) → 種通(たねみち・吉雄よしお、蘭外科医) S 2 6 0 8
行宅(こうたく・諏訪) → 行宅(ゆくいえ・諏訪すわ/一戸、藩士/神職) G 4 6 9 4
好琢(こうたく・千々和) → 俊(たかし・千々和ちぢわ、医者/国学/歌) Y 2 6 2 0
公沢(こうたく・藤井) → 正麗(まさよし・藤井ふじい、商家/町役) S 4 0 2 7
光沢院(こうたくいん;法号) → 近儔(ちかとも・松平、藩主/俳人) B 2 8 3 4
広沢隠士(こうたくいんし/ひろさわのいんし) → 長孝(ながよし・望月、歌人) 3 2 2 2
行達(こうたく・永井) → 愿求(いんきゅう・永井ながい、儒者) I 1 1 4 7
行達(こうたく・三宅) → 行達(ゆきみち・三宅みやげ/宗岡、官人) H 4 6 3 0
公達(こうたく・工藤) → 工十(こうじゅう・工藤どう、俳人/連歌) J 1 9 5 5
公達(こうたく・木下) → 蘭阜(らんこう・木下/豊臣/木、藩士/漢学) B 4 8 9 8
公達(こうたく・森) → 公道(きんみち・森もり、秋成の友/歌人) M 1 6 4 1
幸達(孝達こうたく・柄井) → 川柳(3世せんりゅう、2世弟/川柳点者) 2 4 4 1

B1965 後宇多天皇(ごうだてんのう、名;世仁・亀山天皇第2皇子)1267-1324⁵⁸ 1274(文永11、8歳)で即位、母;左大臣洞院実雄女の佶子[皇后/京極院]、1287(弘安10)讓位/のち持明院統天皇2代;院政が執れず幕府に両統迭立を迫り実現;後二条・1代おき後醍醐天皇治世の院政を執る、1307(徳治2)大覚寺で出家;東大寺で受戒、仙洞御所は亀山殿;歌会開催、歌;歌会を度々主催/二条為世に勅撰1303「新後撰集」20「続千載集」を撰進させる(院宣)・その新後撰資料1303「嘉元仙洞御百首」・続千載資料1319「文保御百首」を詠進させた、「嵯峨のひかり」/1311「宝珠抄」15「弘法大師伝」、1320亀山殿七百首催;自歌96首入、「後宇多院宸記」「後宇多院御記」著、

小倉実教[藤葉集]5首入、

勅撰146首;新後撰(20首18/38/70/81以下)玉葉(8首60/124以下)続千載(52首3以下)以下、

[春くれば雪とも見えず大空の霞をわけて花ぞちりける](新後撰;春18)、

[久堅のあまのかご山霞めるぞ春立つけふのそらには有りける](亀山七百;冒頭歌)

[後宇多天皇の法名/通称]法名;金剛智/金剛性、通称;大覚寺殿/万里小路殿

G1968 光太夫(幸太夫こうだゆう・大黒屋だいくや)1751-1828⁷⁸ 伊勢白子の船頭、神昌丸の船長;

1782江戸へ向かう途中時化で漂流しアリューシャン列島漂着;カムチャッカ移動、イルクーツクに移住;帰国を許されずキリル=ラクスマンの助力でペテルスブルグへ、エカテリーナ2世に拝謁;帰還の許可がおりる/1793松前到着;

ロシア修交使節アダム=ラクスマン(キリルの男)から幕府へ引渡し;番町薬園に軟禁、光太夫の知識は桂川甫周・大槻玄沢の陰の力となる、「日記」「夜咄集」著、梅陰(儒者)の父

幸太夫(こうだゆう・下田) → 師古(もろひさ・下田/大江、幕臣/国学者) H 4 4 7 5

幸太夫(こうだゆう・戸川) → 威佐(かんすけ・戸川とがわ、藩士/書家) R 1 5 1 5

幸太夫(こうだゆう・早川/矢野) → 一貞(かずさだ・矢野やの、藩士/地誌) M 1 5 2 3

光太夫(こうだゆう → みつだゆう・豊竹/竹本) → 専助(せんすけ・菅すが、浄瑠璃太夫/作者) G 2 4 1 1

甲太夫(こうだゆう・大曲) → 正和(まさかず・大曲おおまがり、神職/歌人) O 4 0 4 6

高大夫(高太夫こうだゆう・高向) → 湛契(たんけい;法諱・義学;字、天台僧/廷臣) T 2 6 3 2

剛太夫(こうだゆう・氏家) → 竜溪(りゅうけい・氏家うじえ、藩士/語学) D 4 9 5 6

光太郎(こうたろう・森) → 嘉基(よしもと・森もり、藩士/国学者/歌) H 4 7 6 8

好太郎(こうたろう・鈴木) → 新(あらた・鈴木すずき、国学者/歌人) B 1 0 6 3

甲太郎(こうたろう・高橋) → 確堂(かくどう・高橋たかはし、藩士/志士) K 1 5 3 1

恒太郎(こうたろう・藤沢) → 南岳(なんがく・藤沢、藩士/儒者/教育) J 3 2 9 6

恒太郎(こうたろう・土屋) → 本因坊秀和(ほんいんぼうしゅうわ、棋士) E 3 9 9 6

恒太郎(こうたろう・田崎) → 草雲(そううん・田崎たさき、藩士/絵師) 2 5 5 9

恒太郎(こうたろう・武谷) → 栄国(ひでくに・武谷たけたに、藩士/歌) L 3 7 5 2

恒太郎(こうたろう・星野) → 恒(ひさし・星野ほしの、儒者/史家) K 3 7 9 4

幸太郎(こうたろう・宮村/杉本) → 樗園(ちよえん・杉本/宮村、幕府侍医) K 2 8 1 7

幸太郎(こうたろう・吉雄) → 献作(けんさく・吉雄よしお、医者) J 1 8 1 1

幸太郎(こうたろう・浅見) → 伝十郎(でんじゅうろう・松田、幕臣/樺太探検家) D 3 0 7 7

- 幸太郎(光太郎こうたろう・岸)→ 充豊(みつとよ・岸きし/中村、和算家) H 4 1 3 4
 幸太郎(こうたろう・芳村) → 芳樹(よしき・大橋おおはし/秋元、教育/神職) L 4 7 9 9
 幸太郎(こうたろう・児島) → 利涉(としただ・児島こじま、国学者) V 3 1 1 7
 孝太郎(こうたろう・檜林) → 高明(たかあき・檜林ならばやし、オランダ通詞) L 2 6 4 9
 孝太郎(こうたろう・小田村)→ 素彦(もとひこ・楫取/松島/小田村、藩士) D 4 4 9 5
 広太郎(こうたろう・中山) → 光雄(みつお・中山なかやま、国学者) J 4 1 9 5
 高太郎(こうたろう・高橋/近藤)→ 篤山(とくざん・近藤、儒/詩歌/教育) K 3 1 7 7
 耕太郎(こうたろう・阿部) → 耕雲(こううん・阿部あべ、農家/儒者) H 1 9 4 8
 耕太郎(こうたろう・鴨井) → 熊山(ゆうざん・鴨井かもい、儒者/詩文) C 4 6 0 1
 貢太郎(こうたろう・奥野) → 安行(やすゆき・奥野おくの、国学/神職) F 4 5 6 0
 康太郎(こうたろう・後藤) → 重郷(しげさと・後藤ごとう、商家/国学/歌) O 2 1 4 5
 剛太郎(こうたろう・佐瀬) → 主計(かづえ・佐瀬させ/させ、藩家老/狂歌) M 1 5 0 9
 剛太郎(こうたろう・小栗おぐり)→ 忠順(ただまさ・小栗上野介、幕臣/軍政) Q 2 6 8 5
 剛太郎(こうたろう・樋口) → 眞幸(まさき・樋口ひぐち、藩士/漢学者) S 4 0 0 7
- B1966 叩端(こうたん) ? - ? 熱田蕉門俳人、1684芭蕉と「熱田三歌仙」
 K1952 幸且(こうたん;名・広川ひろかわ、号;黙忍)?-? 江中期岩代会津の歌人;1713「己詠記」著
 K1953 孝端(こうたん;法諱) ? - ? 江中期;宝暦明和1751-72頃天台僧;比叡山白毫院住、
 1768「東宮御元服中堂御修法記」70「御讓位中堂御修法記」71「御即位御祈記」著
 K1954 江淡(こうたん・芙蓉斎ふようさい)?- ? 江中期大阪の狩野派絵師/挿絵、1783「狂歌栗置裏」画
 光端(こうたん・水津/風月窩)→ 風月窩光端(ふうげつかこうたん・連歌/俳諧) 3 8 5 1
 高寛(こうたん・京極) → 高寛(たかあつ・京極きょうごく/稲垣、幕臣/歌) U 2 6 0 9
 恒端(こうたん;号) → 卓盈(たくえい;号、修験僧) N 2 6 9 2
 綱端(こうたん・木村) → 綱端(つなもと・木村きむら、藩士) B 2 9 3 9
 公坦(こうたん・西田) → 耕耘(こううん・西田にしだ、医者/茶人) H 1 9 4 7
 蛟潭(こうたん・豊田) → 美稻(よしね・豊田とよだ、文武/勤王家) O 4 7 0 5
- B1967 河内(こうち/かわち・高丘たかおかの連むらじ、初姓;楽浪ささなみの河内、百済渡来沙門詠の男)?-? 奈良期廷臣;
 712播磨大目、721佐為王・山上憶良らと東宮に侍す;褒賞、724高丘連を賜姓/731外従五下、
 742紫香楽の離宮の造宮輔/746従五下/754正五下/伯耆頭/大学頭、
 万葉四期歌人2首1038-9(;743年久邇京/1039は妻の歌か)/3926左注(746宮中の宴;歌不記)、
 [故郷ふるさととは遠くもあらず一重山越ゆるがからに思ひそ我がせし](万葉;六1038)
- K1955 広智(こうち;法諱、通称;広智菩薩)?-? 平安前期僧;道忠(鑑真の弟子)門;下野小野寺住、
 天台叡山僧;最澄門/三部三摩耶を受戒、上野緑野寺で両部灌頂を受、勅命で下野鎮国師、
 天台宗を東国に拡大、空海とも交流、和上、円仁・徳円の師、「広智阿闍梨付法文」著
- B1968 河内(こうち/かわち・百合花ゆりはな・前斎宮さきのさいぐうの、藤原永相女)?-? 堀河院女御苅子(実季女)の女房、
 のち前斎宮俊子内親王(後三条天皇皇女)の女房、永縁僧正・前斎宮内侍の姉妹、
 1102堀川院内裏艶書合せそふみあわせ参加/1105頃堀河百首出詠、後葉集2首・続詞花・雲葉集入、
 勅撰7首;金葉(161/436)千載(135/238/643)新古今(653)新拾遺(260)、
 [あふことのひさしにふけるあやめ草ただかりそめのつまとこそみれ]
 (五月五日/金葉集;二度本436)
 [堀河院御時(在位1086-1107)百首歌奉りけるに、
 賢木(榊)とる庭火の前に降る雪をおもしろしとや神も見るらん](続詞花;神祇363)
- K1956 光知(こうち) ? - ? 室町期歌人;1457武家歌合参加(正徹・心敬らと);3首入、
 [身にぞしむ夕日色こき小山田をやまのいな葉の風に鳴の立つ声こゑ](武家歌合;八番右9)
- G1986 光知(こうち) ? - ? 大和地藏院の僧/狂歌、
 1666行風「古今夷曲集」2首入;274/622、
 [あたるまの久しき程に墨の火も尉ぞうとなりてや足のひゆらん](古今夷曲;274/火桶)
- K1970 河内(こうち/かわち) ? - ? 江中期江戸浅草の俳人;雑俳、1762「川柳評万句合」入;
 [焼餅のやうに武蔵が申上げ](謡曲「船弁慶」大物浦の義経と静御前との別れ)
 河内(こうち/かわち・疋田) → 千益(ちます・疋田/匹田ひきた、医/歌人) F 2 8 4 0
 河内(こうち/かわち・檜垣) → 常之(つねよし・つねひで・檜垣/度会、神職) E 2 9 2 3

- 孝知(こうち・赤座/永原)→ 孝知(たかとも・永原/赤座、藩士) M 2 6 4 7
 光知(こうち・中臣) → 光知(みつとも・中臣/富田、神職/歌) E 4 1 0 6
 光智(こうち) → 光厳天皇(こうごんてんのう、北朝初即位/歌人) B 1 9 0 9
 光智(こうち;初諱) → 光誉(こうよ;法諱・甚仙房、真言僧) L 1 9 4 4
 光致(こうち/みつまさ・片柳/石井)→ 磯岳(きかく石井いし、絹織業/儒者) I 1 6 4 5
 幸智(こうち;名) → 天真親王(てんしんしんのう、輪王寺門跡) D 3 0 9 1
 幸智(こうち・望月) → 幸智(ゆきとも・望月もちづき、医者/歌人) H 4 6 3 5
 公知(こうち・姉小路) → 公知(きんとも・きんさと・姉小路あねがこうじ、廷臣/尊攘) Q 1 6 7 7
 行知(こうち・安川) → 行知(ゆきとも・安川やすかわ、藩船手/国学) H 4 6 4 1
 香池(こうち・白米) → 満直(みつなお・白米はくまい、神職) K 4 1 0 6
 香釋(こうち・池原) → 香釋(かわか・池原いけはら、医者/国学) T 1 5 6 3
 高知(こうち・京極/羽柴)→ 高知(たかとも・京極、藩主) M 2 6 4 5
 高知(こうち・平山) → 高知(たかとも・平山ひらやま、漢学) D 2 6 2 5
 好知(こうち・大久保) → 鷲山(しゅうざん・大久保、藩士/儒者) H 2 1 4 7
 弘致(こうち・小峯) → 弘興(ひろおき・小峯こみね、兵法家) F 3 7 6 0
 弘致(こうち・入江) → 杉蔵(すぎぞう・入江、藩士/尊攘派) F 2 3 9 1
 康致(康知こうち・堀河) → 康致(やすむね・堀河/藤原/鷲尾、廷臣) G 4 5 5 8
 広智(こうち;法諱) → 百叡(ひやくえい;法諱、真宗本願寺派僧) E 3 7 4 4
 広智院(こうちいん;法号) → 利里(としさと・土井どい、藩主/法典編纂) M 3 1 5 0
- B1969 香竹(こうちく・伴はん、名;暢/資矩) 1659-1732? 美作国学者;歌/書、武芸遍歴中に安藤為実と知友、
 1685常陸水戸藩に出仕/彰考館入;大日本史編纂参加、光圀「积万葉集」編纂参加、
 1687「印案」編/1704「歌林備考」29「詠堀河太郎百首和歌」、「草露集」「印園雑草」著、
 [香竹(;号)の字/通称/別号]字;叔雄/子中、通称;武平、別号;香竹堂、助当の父、
- E1999 江竹(こうちく) ? - ? 江前期俳人;1693不角「二息」入、
 [無筆よく無筆の人の文ふみよみて](二息/牛は牛連れ馬は馬連れ;諺)
- K1957 虹竹(こうちく) ? - ? 江中期俳人;1772几董「其雪影」入
 [天津風名もしれぬ葉の落にけり](其雪影;巻尾377)
- K1958 功竹(こうちく) ? - ? 江中期俳人;1777江涯こうかい「仮日記」2句入
 [花園の花かつ散るや斧の音](仮日記;114、詞書「志賀の古都」)
- 江竹居(こうちくきよ、江竹山人)→ 高陽(こうよう・中山、詩人/絵師) C 1 9 0 0
 香竹堂(こうちくどう) → 香竹(こうちく・伴はん、国学者;歌/書) B 1 9 6 9
 広智国師(こうちこくし) → 士曇(しどん;法諱・乾峯けんぼう、臨濟僧) F 2 1 3 6
 孝秩(こうちつ・片山) → 北海(ほっかい・片山かたやま、儒者/詩人) 3 9 7 1
 鉤致堂(こうちどう) → 豊文(とよふみ・水谷みづたに、藩士/本草学) R 3 1 5 7
- B1970 河内王(こうちのおおきみ、川内王) ?-694 大和期廷臣;686(朱鳥元)新羅客の金智祥の饗応接待役、
 689(持統3)大宰帥/694没後;浄大肆じょうたい(従四上相当)と賻物(香典の品)を下賜、
 万葉集四期の人物;417-9(;河内王を豊前鏡山に葬る時の手持女王たもちのおおきみの挽歌)、
- B1971 河内女王(こうちのおおきみ、高市皇子女) ?-779 奈良期;739(天平11)従四上/748正四下/759従三位、
 764押勝乱・不破ふわ内親王事件に連座?;無位/773正三位復位、
 万葉集四期歌4059(;738年元正天皇行幸に供奉)、
 [橘の下照る庭に殿との建てて酒さかみづきいます我が大君かも](万葉;十八4059)
- B1972 河内百枝娘女(こうちのももえおとめ) ?- ? 奈良期万葉四期歌人;四701-2(;家持への贈歌)
 [ぬばたまのその夜の月夜今日までに我あは忘れず間なくし思へば](万葉;四702)
- 巧智房(こうちぼう) → 観応(かんおう;法諱、真言僧) G 1 5 1 1
 広智菩薩(こうちぼさつ) → 広智(こうち;法諱、天台僧) K 1 9 5 5
 公著(こうちやく・到津) → 公著(きみあき・到津いとうづ、神職) L 1 6 9 8
- F1928 行中(こうちゅう) ? - ? 京の俳人;1677高政「後集こうしゅう絵合千百韻」独吟入、
 浜川自悦と同一? → 自悦(じえつ・浜川はまかわ、俳人) B 2 1 2 0
 行中(こうちゅう/ゆきなか;名・浜川) → 自悦(じえつ・浜川はまかわ、俳人) B 2 1 2 0
 行忠(こうちゅう・西河原) → 行忠(ゆきただ・西河原にしがわら/度会、神職/歌) E 4 6 6 8

行忠(こうちゆう・世尊) → 行忠(ゆきただ・世尊寺/藤原/勘解由小路、書家/歌人) E 4 6 7 1
 行忠(こうちゆう・加藤) → 行忠(ゆきただ・加藤かとう、藩侍医/国学) G 4 6 7 1
 行忠(こうちゆう・中神) → 行忠(ゆきただ・中神ながみ、地誌家) E 4 6 7 2
 行忠(こうちゆう・堀) → 行忠(ゆきただ・堀ほり、兵学者) E 4 6 7 3
 行忠(こうちゆう・石井) → 行忠(ゆきただ・石井いらい/平、廷臣/日記) E 4 6 7 4
 行忠(こうちゆう・青木) → 行忠(ゆきただ・青木あおき/宗岡、官人/歌) G 4 6 4 4
 公仲(こうちゆう・大江) → 公仲(きんなか・大江おおえ、廷臣/歌人) W 1 6 0 1
 公仲(こうちゆう・間宮/大草) → 公弼(きみすけ・大草おおくさ、幕臣/国学/史家) G 1 6 2 3
 公忠(こうちゆう・三条) → 公明(きんあきら・三条/正親町三条、歌) D 1 6 7 7
 公忠(こうちゆう・三統) → 公忠(きんただ・三統みむね、廷臣/歌人) E 1 6 2 8
 公忠(こうちゆう・源) → 公忠(きんただ・源・滋野井弁、廷臣/歌) 1 6 6 4
 公忠(こうちゆう・巨勢) → 公忠(きんただ・巨勢、絵師) I 1 6 4 0
 公忠(こうちゆう・三条) → 公忠(きんただ・転法輪三条、廷臣/歌) E 1 6 2 9
 公忠(こうちゆう・二邨) → 公忠(きみただ・二邨ふたむら、医者/篆刻家) C 1 6 8 5
 公忠(こうちゆう・深野) → 公忠(きみただ・深野ふかの/小泉、書肆) M 1 6 0 3
 公忠(こうちゆう・佐藤) → 蘭山(らんざん・佐藤さとう、儒者) C 4 8 3 4
 広儔(こうちゆう・石野) → 広儔(ひろとも・石野いしの/中原、幕臣/歌) I 3 7 2 6
 広儔(こうちゆう・佐藤) → 広儔(ひろとも・佐藤さとう、和算家) G 3 7 5 5
 弘忠(こうちゆう → ひろただ・安部) → 石斎(せきさい・黒沢/安部/与村、藩儒) D 2 4 4 8
 孝忠(こうちゆう・藤原) → 孝忠(たかただ・藤原、廷臣/歌人) M 2 6 1 8
 孝忠(こうちゆう・飯田) → 孝忠(たかただ・飯田いいだ、歌人) U 2 6 5 9
 恒忠(こうちゆう・長谷川) → 恒忠(つねただ・長谷川/橘、藩士/兵学) C 2 9 4 2
 浩忠(こうちゆう・星野) → 浩忠(ひろただ・星野ほしの、藩士/歌人) G 3 7 2 7
 幸忠(こうちゆう・山中) → 幸忠(ゆきただ・山中やまなか、歌人) E 4 6 7 7
 幸忠(こうちゆう・金子) → 幸忠(ゆきただ・金子かねこ、藩士/語学) E 4 6 7 8
 興忠(こうちゆう・金谷) → 興詩(おきうた・金谷かなや、儒/国学/歌人) C 1 4 8 6
 興忠(こうちゆう・荒木田) → 興忠(おきただ・荒木田、神職) C 1 4 8 8
 光宙(こうちゆう・広橋) → 光宙(みつおき・勘解由小路かでのこうじ/藤原、廷臣/日記) D 4 1 1 6
 光中(こうちゆう・伊藤) → 光中(みつなか・伊藤いとう、藩士/国学者) E 4 1 1 3
 光忠(こうちゆう)すべて → 光忠(みつただ)
 光仲(こうちゆう・池田) → 光仲(みつなか・池田いけだ、藩主/国学・歌) E 4 1 1 2
 黄中(香中こうちゆう・香川) → 景柄(かげもと・香川、歌人) 1 5 1 1
 黄中(こうちゆう・生川) → 春明(はるあきら・生川なるかわ、商/国/歌/俳) 3 6 2 9
 黄中(こうちゆう・山本) → 抱中(ほうちゆう・山本やまもと、医者) C 3 9 3 1
 黄中(こうちゆう・岡本) → 通理(みちまさ・岡本おかもと、儒者/国学) C 4 1 5 5
 黄中(こうちゆう・江幡) → 通理(みちまさ・江幡えはた、医者/国学) I 4 1 2 3
 高忠(こうちゆう・今村) → 高忠(たかただ・今村いまむら、歌人) 2 7 8 5
 高忠(こうちゆう・田でん/寺田) → 思明(しめい・寺田/田、書肆/音曲関係) V 2 1 8 0
 高忠(こうちゆう)すべて → 高忠(たかただ)
 綱忠(こうちゆう)すべて → 綱忠(つなただ)

K1959 **剛中**(ごうちゆう;道号・玄柔げんじゆう;法諱) 1318-8871 豊後臨濟僧;玉山玄提門;出家、1334上洛修学、
 無徳至孝・竺仙梵僊・虎関師鍊門、師玉山は入元を不許;師没後日向大慈寺に40余年住、
 1383京普門寺住寺/87東福寺54世、同寺寿塔即宗庵を創設、「剛中和尚語録」著

K1960 **豪忠**(ごうちゆう;法諱) 1389 - ? 室町期天台僧;毘沙門堂住;台密小川流を相承、
 1415「私聞抄」、「密教雑集」、「灌頂私聞書抄」、「秘々極々西山」著

剛中(ごうちゆう・井沢) → 強斎(きょうさい・井沢いざわ、儒者) N 1 6 8 0
 剛中(ごうちゆう・桜木) → 闇斎(あんさい・桜木、儒者/垂加神道) Q 1 6 9 8
 剛中(ごうちゆう・曾根) → 柳涯(りゅうがい・曾根そね、篆刻家) D 4 9 2 1
 剛中(ごうちゆう・越智) → 通清(みちきよ・越智おち、里正/歌人) I 4 1 3 0
 綱忠(こうちゆう・神保) → 蘭室(らんしつ・神保じんぼ、藩士・漢学者) C 4 8 4 5

- 豪中(ごうちゅう・大鳥居) → 信観(しんかん・大鳥居/高辻/二条、社僧/連歌) N 2 2 7 5
 豪忠(ごうちゅう;法諱) → 亮顯(りょうぎょう;法諱、天台僧) L 4 9 3 7
 行輒齋(こうちゅうさい・こうしゅうさい) → 涪州(せんしゅう・貴志、俳人) F 2 4 8 8
 公著(こうちよ・到津) → 公著(きみあき・到津いとう、神職) L 1 6 9 8
 B1973 公朝(こうちよう;法諱、称;託麻僧正、姉小路実文男/北条朝時猶子)?-1296 鎌倉期天台園城寺僧、
 1250円位より受戒、1288園城寺別当(関東住)/法印/僧正、歌人;主として鎌倉歌壇で活動、
 1261宗尊親王家百五十番歌合参加、東撰和歌六帖・人家集・拾遺風躰集等に入、
 別本和漢兼作集に詩4首・歌3首入、
 勅撰29首;続古(4首501/1142/1817/1852)続拾(6首501/542/597/621/638/1207)、
 新後撰(90/372/641/1148/1296/1333)玉葉(705/2677)続千(472/798/1093/1925)以下、
 [秋の色をいかにまちみん常磐山ときはや時雨も露も染めじと思へば](続古今;秋501)
 B1974 公澄(こうちよう;法諱、法印公堯男、西園寺実氏猶子)?-? 天台叡山僧;1259西塔院主/北野別当、
 法印大僧正、勅撰10首;続拾遺(1134/1401)新後撰(5首428/617以下)続千載(933)以下
 [我ばかりすむと思ひし山里に月もやどかる苔のさむしろ](続拾;雑1134)
 K1961 公澄(こうちよう;法諱) ? - ? 鎌倉期1264-93頃京天台僧;北嵯峨住、僧正/法印、
 1289「私雑抄」、「尊勝浄私雑秘」著
 K1962 光長(こうちよう/みつなが) ? - ? 連歌、1453宗砌そうぜい等「享徳二年何路百韻」執筆しゅひつ(挙句)
 1464?盛長「熊野千句」連衆、
 [花に相あひあふ日こそ稀まれなれ](賦何路百韻;挙句/御幸あるこんな花盛の日に逢うは稀、
 前句宗砌;御幸みゆきする桜が本もとの今日の春)
 K1963 光澄(こうちよう;道号・慧湛えん;法諱、俗姓;伊藤) 1638-1706 69 肥前小城蘆刈村曹洞僧;14歳で出家、
 筑後千光寺の安室隆国門/嗣法、福聚寺住寺/1676千光寺14世、1705(宝永2)永禅寺に退隠、
 1706「光澄禅師語録」著
 K1964 光潮(こうちよう) ? - ? 俳人;東潮門、1696大魚「留守見舞」連句参加
 F1929 光暢(こうちよう・赤田あかだ、臥牛がぎゅう男)?-? 江後期飛騨高山の酒造業/儒者;父門、
 1827「臥牛集」編校:廷賢と協力
 K1965 公長(こうちよう・上田うへだ) ? - 1862? 父;元稻荷座太夫説?、大阪絵師;呉春門、山水花鳥画;
 1817「禹士廼騰始」38「紀伊国名所図会」47「精華帳」50「水雲略画」63「公長略画」画、
 [公長(;名)の字/通称/号]字;有秋、通称;順蔵、号;雍州/雍洲/水雲閑人、屋号;紀伊国屋
 公長(こうちよう・大中臣) → 公長(きんなが・大中臣おおなかとみ、神職/歌) E 1 6 4 7
 公長(こうちよう・西園寺) → 公長(きんなが・西園寺さいおんじ、南朝廷臣/歌) R 1 6 5 5
 公長(こうちよう・風早) → 公長(きんなが・風早かざはや、廷臣) G 1 6 6 1
 公長(こうちよう・八代) → 柳圪(りゅうた・八代やしろ、儒者/教育) F 4 9 1 0
 公澄(こうちよう・滋野井) → 公澄(きんずみ・滋野井、廷臣/故実家) I 1 6 0 7
 公澄(こうちよう・正親町) → 公澄(きんずみ・正親町おおぎまち、廷臣/歌) S 1 6 1 0
 公徴(こうちよう・新岡) → 旭宇(きよく・新岡にいおか、書家) O 1 6 7 9
 公寵(こうちよう・萩原) → 緑野(りよく・萩原はぎはら、儒/講説/詩) J 4 9 8 2
 広長(こうちよう・松前) → 広長(ひろなが・松前、藩家老/修史事業) G 3 7 5 9
 広長(こうちよう・増田) → 広長(ひろなが・増田ますだ、藩士) G 3 7 6 1
 広長(こうちよう・田所) → 広長(ひろなが・田所たどころ、藩士/国学) K 3 7 0 5
 広澄(こうちよう・青木) → 広澄(ひろずみ・青木あおき、歌人) L 3 7 8 4
 広激(こうちよう・宮川) → 広激(ひろずみ・宮川みやがわ、神職/国学) L 3 7 4 0
 光長(こうちよう・藤原) → 光長(みつなが・藤原ふじはら、廷臣/歌人) E 4 1 1 5
 光長(こうちよう・常盤) → 光長(みつなが・常盤ときわ、絵師) E 4 1 1 4
 光長(こうちよう/みつなが・生駒) → 元珉(げんみん・生駒いこま、医者) M 1 8 4 6
 光長(こうちよう・堀田) → 光長(みつなが・堀田ほった、藩士/和算家) E 4 1 1 8
 光長(こうちよう・手塚) → 律蔵(りつぞう・手塚てつか、洋学者/訳書) C 4 9 1 0
 光朝(こうちよう・藤村) → 秀賀(しゅうが・鶴亭かくてい、戯作者) G 2 1 9 6
 光昶(こうちよう・小林/広辻) → 光春(みつはる・広辻ひろつじ/橘/小林、歌/茶人) K 4 1 2 8
 光暢(こうちよう・赤田) → 光暢(みつのが・赤田、詩人) E 4 1 3 9

功長(こうちょう・滋岡) → 功長(なるなが・滋岡しげおか/飛鳥井、神職/歌) N 3 2 3 0
 高聴(こうちょう・藤堂) → 高聴(たかより・藤堂、藩主) N 2 6 8 3
 興長(こうちょう・石田) → 梅岩(梅巖ばいがん・石田いしだ、心学の祖) 3 6 0 3
 孝長(こうちょう・滋岡) → 孝長(たかなが・滋岡しげおか、神職/歌人) X 2 6 4 4
 孝朝(こうちょう・小田/源) → 孝朝(たかとも・小田、武将/歌人) D 2 6 2 3
 孝澄(こうちょう・神田) → 孝澄(たかすみ・神田かんだ、鑑識/国学) W 2 6 6 5
 孝徴(こうちょう・佐藤) → 孝徴(たかあきら・佐藤さとう、藩の神学師) X 2 6 2 2
 孝暢(こうちょう・池野) → 長川(ちようせん・池野いけの、儒者) J 2 8 2 9
 孝肇(こうちょう→たかもと) → 二洲(じしゅう・尾藤びとう、儒者/詩) 2 1 2 1
 幸長(こうちょう) → 日近(にちごん・遠成院、日蓮僧) B 3 3 9 7
 幸長(こうちょう・浅野) → 幸長(よしなが・浅野あさの、藩主/連歌) F 4 7 2 6
 更張(こうちょう/つぐはる・梅辻) → 秋漁(しゅうぎよ・梅辻/琴、神職/儒者) W 2 1 9 0
 恒長(こうちょう・東坊城) → 恒長(つねなが・東坊城ひがしぼうじょう、詩歌) C 2 9 8 4
 好澄(こうちょう・徳田/加賀掾) → 加賀掾(かがのじょう・宇治、浄瑠璃太夫) 1 5 0 4
 弘朝(こうちょう/ひろとも・伊藤) → 海嶠(かいきょう・伊藤、儒者/詩) B 1 5 0 2
 江長(こうちょう・金) → 蘭斎(らんさい・金こん、医/漢学;老荘) C 4 8 1 3
 康兆(こうちょう・松平) → 康兆(やすよし・松平まつだいら、幕臣) D 4 5 5 1
 康長(こうちょう・石井) → 康長(やすなが・石井/;平、幕臣/御伽草子作者) C 4 5 3 8
 行長(こうちょう)すべて → 行長(ゆきなが)
 行朝(こうちょう・二階堂) → 行朝(ゆきとも・二階堂/藤原、幕臣/歌) F 4 6 0 7
 亨長(こうちょう・福井) → 亨長(ゆきなが・福井ふくい/杉原、国学/歌) H 4 6 1 9
 葎町(こうちょう/たてまち) → 雪臣(ゆきおみ・垣本かきもと/菅原、歌/画) E 4 6 3 7

K1966 **豪潮**(こうちょう;法諱・寛海かんかい;字、真宗専光寺貫道男)1749-1835⁸⁷ 肥後の僧;寿福寺豪旭門、
 1764(16歳)天台叡山僧;正覚院豪怨門、勅命で京森積善院住/1823尾張柳原長栄寺建立、
 書、1818「準提懺摩法」19「仏母準提供私記」、「立身出世延寿開運子孫長久二世安樂記」著、
 [豪潮の号] 寛海大師/洞竜/八万四千煩惱主人/無所得道人

皇朝学士(こうちやうがくし) → 橋守(はしもり・関せき、歌人) E 3 6 4 4
 広長軒(こうちやうけん) → 元閑(げんかん・遠藤えんどう、医者/茶人) B 1 8 4 5
 後凋軒(こうちやうけん) → 和清(かずきよ・中山、藩士/兵学者) M 1 5 1 7
 黄鳥散人(こうちやうさんじん) → 惟朝(これとも・梅園/土師/菅原、神職/国学) F 1 9 9 8
 後凋子(こうちやうし) → 貞固(さだかた・藤田ふじた、藩士/武術/茶) P 2 0 8 7
 後凋子(こうちやうし) → 舟泉(しゅうせん・永田ながた、俳人) H 2 1 9 1
 黄鳥亭(こうちやうてい/うぐひすてい) → 白芹(はつきん・関根、俳人) F 3 6 1 6
 黄鳥亭声音(こうちやうていせいおん) → 主計(かづえ・佐瀬させ/させ、家老/狂歌) M 1 5 0 9
 黄蝶堂(こうちやうどう) → 信之(のぶゆき・高柳、俳人) D 3 5 6 9
 孔張堂(こうちやうどう) → 鷲南(しゅうなん・菅間すがま、儒者) Y 2 1 1 6
 後凋堂(こうちやうどう) → 松軒(しょうけん・木村きむら、医者/儒者) I 2 2 4 4

B1975 **光朝母**(こうちやうのはは、因幡守橋行平女)?-? 平安期歌人、橋則光の妻、光朝法師の母、
 則光は清少納言の前夫(993離婚)(則光男の則長は清少納言の子・季通も同じ?)、
 1019陸奥守となった則光に同道し陸奥に行く、後拾遺2・721、
 [出でて見よいまは霞も立ちぬらん春はこれより過ぎとこそ聞け](後拾遺;一春2)
 (題詞;みちのくにゝ侍りける時春立つ日よみ侍り)

夫 → 則光(のりみつ・橋たちばな、廷臣/歌人) F 3 5 8 7
 香蝶楼(こうちやうろう) → 国貞(初世くにさだ・歌川、3世豊国/絵師) 1 7 2 9
 公直(こうちよく・今出川) → 公直(きんなお・今出川/菊亭、廷臣/歌) E 1 6 4 5
 好直(こうちよく/よしなお・牛丸/菊池) → 景福(けいふく・菊池きくち、医者) G 1 8 6 0
 好直(こうちよく・立石) → 好直(よしなお・立石たていし、藩士/歌人) N 4 7 8 6
 光直(こうちよく/みつなお・小林) → 真中(まなか・小林/度会、神職/狂言) J 4 0 9 7
 行直(こうちよく・祝部) → 行直(ゆきなお・祝部はふりべ、神職/歌人) F 4 6 1 0
 幸直(こうちよく;号) → 江波(ごうは・梅田、絵師/俳人) K 1 9 9 3

- 幸直(こうちよく・永井) → 幸直(さちなお・永井ながい、名主/国学/歌) N 2 0 2 4
 幸直(こうちよく・玉木) → 幸直(ゆきなお・玉木たまき、神職/歌人) H 4 6 0 0
 幸轟(こうちよく・和田) → 重善(しげよし・和田/湯本、藩士/詩人) T 2 1 1 6
 孝直(こうちよく・土屋) → 綱直(ただなお・土屋つちや/源、幕臣/歌) U 2 6 0 6
 孝直(こうちよく・曾根) → 孝直(高直たかなお・曾根/曾禰、国学者) M 2 6 5 4
 高直(こうちよく・深沢) → 高直(たかなお・深沢ふかざわ、儒医/歌人) D 2 6 3 3
 貢直(こうちよく・古川/工藤) → 他山(たざん・工藤/古川、藩士/儒者) E 2 6 6 0
 康直(こうちよく・三宅) → 康直(やすなお・三宅みやけ/酒井、藩主) C 4 5 3 6
 剛直(ごうちよく・中村) → 剛直(たけなお・中村なかむら、儒者) O 2 6 5 5
- F1930 光鎮(こうちん) ? - ? 堺の人、連歌・肖柏門?、1536再昌草入
 K1967 光珍(こうちん;号) ? - ? 桃山江戸初期の連歌作者、秀吉のお伽衆か?、
 1586-90頃山科言経と交友、大村由己らの連歌・和歌会に参加、1823玄陳らと薄何百韻
 K1968 宏珍(こうちん;法諱) ? - ? 江末期比叡山麓の天台宗蓮光院住僧、
 1859「止観義例私記」著
- 公陳(こうちん・河鱒) → 公陳(きんつら・河鱒かわばた、廷臣) R 1 6 4 6
 広鎮(こうちん・毛利) → 広鎮(ひろしげ・毛利もうり、藩主/詩歌) G 3 7 0 1
 高陳(こうちん・藤堂) → 高陳(高延たかのぶ・藤堂、藩主/歌人) D 2 6 4 1
 高陳(こうちん・佐々木) → 高陳(たかのぶ・佐々木、幕臣/砲術) M 2 6 7 1
 光陳(こうちん・上田) → 堂山(どうざん・上田うえだ、酒造業/詩歌) E 3 1 7 0
 光鎮(こうちん・藤村) → 光鎮(みつね・藤村ふじむら/篠崎、国学者) K 4 1 3 7
- K1969 豪鎮(ごうちん;法諱、俗姓;坊城) ?-1372 京の天台僧;14歳で出家/19歳入壇/48歳で灌頂、
 宝菩提院住僧;天台密教事相の研究、「穴太一流伝授次第」編/「諸尊法見聞抄」著、嚴豪の師、
 B1976 豪珍(ごうちん;法諱) ? - ? 江初期1651-88頃天台宗僧;蓮華院中興5世、
 1664「三大部序聞書」著
- 高枕斎存胤(こうちんさいぞんいん) → 輔景(すけかげ・長尾/平、武家/連歌) G 2 3 1 5
 香椿亭(こうちんてい) → 梨一(りいち・関・高橋/一祚・一紹、幕臣/俳人) 4 9 3 1
 幸槌(こうちつ・熊谷くまや) → 五右衛門(4代ごえもん・熊谷/熊屋、商家/藩政) L 1 9 7 4
- Q1992 弘通(こうつう・島しま、旧姓;中島) 1839-1893⁵⁵ 信濃伊那郡向関村の浄土宗の宗円寺住職、
 国学/歌人、
 [弘通(;名)の法諱/号]法諱;大伝、号;稲葉園
- 公通(こうつう・藤原) → 公通(きんみち・藤原、廷臣/歌人) E 1 6 6 9
 公通(こうつう・石川) → 艇斎(ていさい・石川いしかわ、藩士/儒者) 3 0 8 7
 公通(こうつう・上柳) → 四明(しめい・上柳うわなぎ/柳、儒者/詩) F 2 1 8 1
 弘通(こうつう・中西) → 弘通(ひろみち・中西/度会/春木、神職) H 3 7 3 3
 弘通(こうつう・秋山) → 弘通(ひろみち・秋山あきやま、藩儒) H 3 7 3 0
 広通(こうつう) すべて → 広通(ひろみち)
 行通(こうつう・梅溪) → 行通(ゆきみち・梅溪うめたに/源、廷臣/日記) F 4 6 6 8
 交通(こうつう・市島) → 屏山(へいざん・市島いちじま、詩人/弹琴) 2 7 4 0
 高通(こうつう;字) → 日答(にっとう;法諱・随演院、日蓮僧) F 3 3 4 2
 高通(こうつう/たかみち・中川/藤波) → 氏養(うじもり・藤波/荒木田、神職) C 1 2 7 7
 高通(こうつう/たかみち・寺田) → 臨川(りんせん・寺田/源/田/寺、藩儒) K 4 9 5 8
 高通(こうつう・山鹿) → 高通(たかみち・山鹿やまが、藩士/兵学者) N 2 6 2 9
 高通(こうつう・藤堂) → 高通(たかみち・藤堂、藩主/俳・歌人) D 2 6 8 2
 高通(こうつう・松本) → 高通(たかみち・松本まつもと、文筆家) N 2 6 2 7
 孝通(こうつう/たかみち・町田) → 清興(きよおき・町田まちだ、儒者/書家) O 1 6 6 4
 恒通(こうつう・稲葉) → 恒通(つねみち・稲葉いなば、藩主/記録) D 2 9 8 6
 恒通(こうつう/つねみち・文川堂) → 野逸(やいつ・文川堂、俳人) 4 5 3 4
 康通(こうつう・越智) → 康道(康通やすみち・越智おち、幕臣/歌人) D 4 5 0 4
 興通(こうつう・出雲寺) → 興通(おきみち・出雲寺いずみじ、神職) D 1 4 8 5
 綱通(こうつう・蜂須賀) → 綱通(つなみち・蜂須賀/源、藩主/歌) B 2 9 3 3

高津野々翁(こうづのやおう・無名庵)→野坡(やば・志太じだ/斎藤、俳人) 4 5 1 2

B1977 行貞(こうてい) ? - ? 江前期俳人;梅盛門、
1663「木玉千句」参加(;倫員「木玉こたま集」所収)

1915 栲亭(こうてい・村瀬むらせ、名;之熙、医者村瀬周節男/本姓;源) 1746-1818 73 京の医者;堀元昌門、
儒者;武田梅竜門/1766梅竜代行で妙法院眞仁親王の侍講/古註学、83秋田藩に招聘、
藩政参与/1791致仕/帰京し文雅に遊ぶ;特に書画、上田秋成と親交、1779「風邪樹詩纂」、
1779「垂糸海棠詩纂」編/81「大学集義」/1783-1826「栲亭稿」、「芸苑日涉」「周易拾象稿」、
「万象一旨」「毛詩術義」「論語集註箋」「左伝徴義」「栲亭詩稿其他」、「栲亭遺稿」、石齋の父、
[栲亭(;)の字/通称/別号]字;君績、通称;掃部かもん/嘉右衛門、別号;小華陽/神州

G1940 煌亭(こうてい・岡田/岡田おかだ、名;欽) 1792-1838 47 上総の儒者;朝川善庵門;折衷学、
「七経割記」「韓非子考異」「孔子家語考異」「代奕漫鈔」、1822「聖学私言」36「皇清経解一斑」、
[煌亭の字/通称/別号]字;彦輔/秀三、通称;彦助、別号;南岳/南嶺

K1971 公鼎(こうてい;通称・上田うねだ、礼右衛門男) 1802-1841 40 肥後天草富岡の医者;初め古医方を修学、
のち眼科医、蘭学を折衷し旧来の眼科の陋習を改革、
1840(天保11)備中の門人安田玉海家に寓居、備前岡山に住、
国学;本居大平門、平井及淵しきぶちを養嗣子とす、「上田家眼目篇」著、
「眼科明鏡」「眼科涇渭」著、「眼科一家言」(;公鼎の説を門人安田玉海が編集)
[公鼎(;)通称]の名/通称/号]名;体/定経さだつね、通称;半内/民五郎、号;椿年/齡椿年

K1972 孝貞(こうてい・竹内たけうち) ? - ? 江後期江戸の教育家;道学の概略を平易に解説、
1831「桂一枝」著、
[孝貞(;)字]の通称/号]通称;善右衛門、号;鼎吟

F1931 香亭(こうてい/きょうてい・中根/本姓;曾根、名;淑しゅく) 1839-1913 75 幕臣、史家/漢学/国学、
維新後;文部省編輯官、「香亭雅談」著、
[香亭(;)号]の字/通称]字;君艾くんがい、通称;造酒みき/逸郎

孝弟(こうてい・福岡) → 孝弟(たかちか・福岡、藩士/新政府高官) M 2 6 2 5

孝弟(こうてい・前田) → 孝弟(たかくに・前田まへだ、藩士) L 2 6 8 1

考亭(こうてい・豊島) → 豊洲(ほうしゅう・豊島としま/中岡、儒者) B 3 9 4 3

厚定(こうてい・高島) → 厚定(あつさだ・高島たかばたけ、藩士/記録) E 1 0 5 8

台定(こうてい・木下) → 台定(きんさだ・木下、藩主/文教奨励) R 1 6 0 2

公定(こうてい・藤原) → 公定(きんさだ・藤原、廷臣/歌人) E 1 6 0 3

公定(こうてい・洞院) → 公定(きんさだ・洞院とういん、左大臣/文筆家) E 1 6 0 4

公庭(こうてい・末松) → 公庭(きみにわ・末松すえまつ、神職/歌人) U 1 6 5 2

広貞(こうてい・出雲) → 広貞(ひろさだ・出雲いずも/菅原、医者) F 3 7 8 1

広定(こうてい・蒔田) → 広定(ひろさだ・蒔田まいた、武将/藩主) F 3 7 8 3

広定(弘定こうてい/ひろさだ・住吉) → 弘貫(ひろつら・住吉すみよし、幕府絵師) G 3 7 4 5

光定(こうてい;法諱) → 光定(こうじょう;法諱、天台僧) F 1 9 1 3

光定(こうてい・高向) → 光定(みつさだ・高向たかむこ、神職/連歌) D 4 1 4 3

光氏(こうてい・小笠原/松平) → 定能(さだまさ・松平/小笠原、幕臣/地誌) J 2 0 7 0

光貞(こうてい・杉木) → 光貞(みつさだ・杉木/幸田/荒木田、神職/歌・俳人) D 4 1 4 5

光貞(こうてい・土佐) → 光貞(みつさだ・土佐/藤原、宮廷絵師) D 4 1 4 6

光貞(こうてい・徳川) → 光貞(みつさだ・徳川/松平/源、藩主) D 4 1 4 4

光貞(こうてい・島村) → 光貞(みつさだ・島村しまむら、国学者) J 4 1 2 9

光庭(こうてい・惟宗) → 光庭(みつにわ・惟宗これむね、医者/歌人) E 4 1 2 8

光棣(こうてい・広橋/竹屋) → 光棣(みつとみ・竹屋/藤原、廷臣/故実) E 4 1 0 3

行貞(こうてい・二階堂) → 行貞(ゆきさだ・二階堂にかいどう/藤原、幕臣/歌) H 4 6 5 9

行貞(こうてい/ゆきさだ・張) → 月樵(げっしょう・張ちよう、絵師) H 1 8 1 0

行貞(こうてい・安部) → 行貞(ゆきさだ・安部あべ、藩士/歌人) G 4 6 4 2

弘貞(こうてい・南淵) → 弘貞(ひろさだ・南淵みなぶち、廷臣/漢学者) F 3 7 8 2

幸定(こうてい・反町) → 幸定(ゆきさだ・反町そりまち、武将) E 4 6 4 7

幸亭(こうてい・柿沼) → 広身(ひろみ・柿沼かきぬま/紀、神職/国学) J 3 7 0 0

- 高定(こうてい・堀川) → 高定(たかさだ・堀川ほりかわ、廷臣/歌人) C 2 6 7 7
高定(こうてい・馬淵) → 高定(たかさだ・馬淵、藩士/弓馬故実) L 2 6 8 9
高定(こうてい・黒河内) → 十太夫(じゅうだゆう・黒河内くろこうち、藩士/兵学) X 2 1 9 9
高貞(こうてい・中原) → 高貞(たかざね・中原なかはら、廷臣/歌人) C 2 6 7 8
高亭(こうてい・鉄) → 復堂(ふくどう・鉄てつ、儒者/教育者) B 3 8 6 0
高庭(こうてい・蔵重) → 高岳(たかおか・片山/蔵重、藩士/国学) L 2 6 6 3
香亭(こうてい・片岡) → 芸亭(うんてい・片岡、商家/儒者) D 1 2 9 7
恒貞(こうてい・吉田) → 恒貞(つねさだ・吉田よしだ、狂歌) B 2 9 7 6
恒貞(こうてい・原田) → 恒貞(つねさだ・原田はらだ、藩士/歌人) G 2 7 1 9
恒亭(こうてい・富田) → 徳風(とくふう・富田/陸、商家/儒/国学) L 3 1 3 3
好貞(こうてい・平岡) → 好貞(よしさだ・平岡ひらおか、神職/国学) O 4 7 7 6
興貞(こうてい・おきさだ・関口/篠田) → 行休(こうきゅう・篠田/関口、書家) I 1 9 2 5
興禎(こうてい・朝岡) → 興禎(さきさだ・朝岡/狩野、幕臣/絵師) H 2 0 1 7
敲亭(こうてい・久代) → 寛斎(かんさい・久代くしろ、儒者) H 1 5 5 9
篁亭(こうてい・足代) → 弘臣(ひろおみ・足代/度会/中山、神職/俳人) H 3 7 9 6
蒿亭(こうてい・水元) → 其梁(きりょう・水元みずもと、俳人) D 1 6 7 4
樺亭(こうてい・古山) → 藍田(らんでん・古山ふるやま・こやま、医者) D 4 8 0 6
槇亭(こうてい・西川) → 吉輔(吉介よしすけ・西川にしかわ、国学者) D 4 7 8 0
綱貞(こうてい・朽木) → 綱貞(つなさだ・朽木くつき/源、藩主/歌人) B 2 9 0 6
康定(こうてい・前田/松平) → 康定(やすさだ・松平/前田、藩主/歌人) 4 5 2 3
康貞(こうてい・文室) → 康貞(安貞やすさだ・文室ぶんや、神職/国学) G 4 5 5 5
五雨亭(ごうてい) → 史邦(ふみに・中村、俳人) D 3 8 8 5
五雨亭(ごうてい) → 恂益(じゆんえき・芳村よしむら、医者) M 2 1 4 7
紅泥子(こうでいし) → 鉄石(てつせき・藤本、勤王/天誅組) C 3 0 5 1
康貞女(こうていじよ) → 康貞女(やすさだのむすめ・平たいら、歌人) B 4 5 5 6
康貞女の女(こうていじよのじよ) → 康貞女の女(やすさだのむすめのむすめ・平、歌人) B 4 5 5 7
孝的(こうてき・賀茂) → 友信(とものお・賀茂/幸徳井、陰陽/暦学) Q 3 1 1 8
公迪(こうてき・徳大寺) → 公迪(きんなり・徳大寺、廷臣/記録) R 1 6 5 7
K1973 高徹(こうてつ;法諱・廓盤かくばん;道号、俗姓深堀) 1672-1729 58 上州花高曹洞僧;10歳で覚海門/出家、
加賀の徳翁門;嗣法/1713上州補陀寺22世、「補陀続伝記」編/「兜率往生問論」著
高哲(こうてつ・三宅) → 西浦(せいほ・三宅みやげ、絵師) O 2 4 5 1
K1974 光天(こうてん;法諱・義彦ぎげん;字、俗姓;半田) 1711-1743 33 武州礼羽村の真言僧;
1717靈雲寺慧光門、胎蔵界・金剛界の密灌を受、湯島靈雲寺宝光院5世、
1740慧曦(えぎ・義燦)に[安流最極大事]等を受、太宰春台の慧曦誹謗に反駁、
1723「東大寺戒壇慶讃雑録」38「日月運行略解」41「大疏伝授記」41「解春台瀆謗」著、
[光天の別法諱/号]別法諱;義賢、号;如々子
広典(こうてん・吉田) → 広典(ひろのり・吉田、武家/出家/語学) G 3 7 8 6
広典(こうてん・大橋) → 広能(ひろよし・大橋/高井、神道家) H 3 7 7 0
高典(こうてん・林) → 高典(たかのり・林はやし、考証) D 2 6 4 8
孝典(こうてん・佐藤) → 孝典(たかのり・佐藤さとう、藩の神学督) X 2 6 2 3
孝典(こうてん・井手) → 孝典(たかのり・井手いで、和算家) M 2 6 7 5
行天(こうてん・杉原) → 寿山(じゅざん・杉原すぎはら、銅山方) Y 2 1 8 5
行典(こうてん・田代) → 行典(ゆきのり・田代たしろ/藤原、歌人) G 4 6 4 0
耕天(こうてん・孫福) → 弘孚(ひろさね・孫福まごふく、神職) F 3 7 8 5
靠天(こうてん・岡) → 了允(りょういん・岡おか、医官) G 4 9 2 6
K1975 幸伝(こうてん;名・神西じんさい、通称;伝左衛門) ?-? 江前期岡山の書家;松花堂門/神西流の祖、
岡山藩主池田光政に筆道で出仕、「筆の跡」書
K1976 衡田(こうてん;道号・祖量そりょう;法諱) 1702-79 78 曹洞僧;面山瑞方門・法嗣/1735上州双玄寺20世、
越後慈光寺29世、「永福和尚逸録」「面山和尚年譜」「面山考説辨文」編/「衡田和尚語録」著
行伝(こうてん・神谷) → 蘿父(らふちちち・神谷、俳人/書) B 4 8 5 0

- 荒田(こうでん・安永) → 荒田(あらた・安永やすなが、藩士/国学) I 1 0 6 2
 K1977 豪天(ごうてん;法諱) 1714 - 1761 48 天台僧;叡山横川華嚴院住/大僧都、
 1749「慈慧大師応化佛来由」著
 荒田翁(こうでんおう) → 兼利(かねとし・諏訪すわ、藩家老/歌人) O 1 5 7 1
 皎天斎(こうてんさい) → 国雄(くにお・橋たちばな・酢屋、絵師) C 1 7 6 4
 光天堂(こうてんどう) → 竜洲(りゅうしゅう・柘植つげ/柘、医者) E 4 9 5 7
 広田満穂(こうでんまんすい) → 弘竜(こうりゅう、俳人/芭蕉句碑建立) L 1 9 5 8
 公図(こうと・稲津/梁川) → 星巖(せいがん・梁川やながわ、詩人) 2 4 0 5
 公図(こうと・松平) → 茂昭(もちあき・松平、藩主/歌人) B 4 4 2 8
 弘度(こうど・小野) → 弘度(ひろのり・小野おの、商人/心学者) G 3 7 9 0
 広度院(こうどいん) → 秀忠(ひでただ・徳川/松平/源、将軍/歌) D 3 7 1 4
 G1941 江東(こうとう・清水しみず、名;嘉英) 1740-95 56 江戸下谷の商家/儒;宮瀬竜門門/三礼の研究、
 「周礼解」「儀礼解」「周礼訓詁」「儀礼訓詁」「三冬余話」「礼記纂成」著、
 [江東(;号)の字/通称/別号]字;子癸、通称;大坂屋嘉右衛門、別号;明經典閣
 江東(こうとう;号) → 月溪(げつけい;道号・聖澄、臨濟僧/詩文) G 1 8 9 8
 江濤(こうとう・小保内) → 定身(さだみ・小保内おぼない、神職/教育) O 2 0 0 7
 公冬(こうとう・今出川) → 公冬(きんふゆ・今出川、南朝廷臣/歌) R 1 6 7 5
 公冬(こうとう・三条) → 公冬(きんふゆ・三条/転法輪三条、歌) E 1 6 6 4
 公藤(こうとう・藤原/清水谷) → 公藤(きんふじ・清水谷しみずたに、廷臣) R 1 6 7 3
 公藤(こうとう・西園寺) → 公藤(きんふじ・西園寺、廷臣/連歌) R 1 6 7 4
 公透(こうとう・正親町) → 定俊(さだとし・野宮/藤原/正親町、廷臣/国学) F 2 0 3 6
 公董(こうとう・正親町) → 公董(きんただ・正親町おおぎまち、尊攘派) R 1 6 3 9
 公董(こうとう・山崎/高橋) → 復斎(ふくさい・高橋/山崎、藩儒/詩文) B 3 8 5 3
 広当(こうとう・高木/岩越) → 広当(ひろまさ・高木たかぎ/岩越、和算家) H 3 7 1 4
 広当(こうとう・ひろまさ・加藤) → 広正(ひろまさ・加藤かとう、詩人) H 3 7 1 3
 広当(こうとう・五十君) → 広当(ひろまさ・五十君いそぎみ、歌人) L 3 7 0 7
 勾当(こうとう・安永) → 安永検校(やすながけんぎょう、地唄歌手) C 4 5 4 3
 勾当(こうとう・滝野) → 滝野勾当(たきのこうとう、浄瑠璃節付) E 2 6 1 5
 勾当(こうとう・赤木) → 赤木勾当(あかぎこうとう、歌謡作者) C 1 0 2 0
 行藤(こうとう・祝部) → 行藤(ゆきふじ・祝部はふりべ、神職/歌人) F 4 6 5 5
 行藤(こうとう・二階堂) → 行藤(ゆきふじ・二階堂/藤原、幕臣/歌) F 4 6 5 4
 行登(こうとう/ゆきなり・東条) → 有儘(ゆうじん・東条とうじょう、藩士/俳人) C 4 6 7 8
 行冬(こうとう・惟宗) → 行冬(ゆきふゆ・惟宗これむね、歌人) F 4 6 5 7
 甲東(こうとう・大久保) → 利通(としみち・大久保、藩士/新政府樹立) R 3 1 7 8
 孝悼(こうとう;諡号) → 竜潭(りゅうたん・林はやし、幕臣/儒者) F 4 9 1 7
 光当(こうとう・八羽) → 光当(みつまさ・八羽はつば/太田、神道家) K 4 1 1 1
 光当(こうとう・奈越江) → 光当(みつまさ・奈越江だなごえ/源、藩士/歌) J 4 1 9 0
 光陶(こうとう・荻野) → 光陶(みつすえ・荻野/紀/藤原、神職) D 4 1 6 1
 光稲(こうとう・時田) → 流翠(りゅうすい・時田ときた、商家/俳人) E 4 9 8 7
 光等(こうとう・保々) → 光等(みつとも・保々ほぼ、藩士/国学) K 4 1 3 9
 高当(こうとう・谷) → 高當(たかまさ・谷たに、国学者) Y 2 6 1 4
 康棟(こうとう・松平) → 康棟(やすたか・松平まつだいら、幕臣/歌人) 4 5 0 5
 崆峒(こうとう・前田) → 重靖(しげのぶ・前田まえだ、藩主/詩歌) R 2 1 9 6
 隆棟(こうとう・大河平) → 隆棟(たかむね・大河平おこひら、藩士/国学) N 2 6 3 3
 興藤(こうとう・友田) → 興藤(おきふじ・友田、武将/連歌) C 1 4 9 8
 鴻東(こうとう・杉) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2
 B1978 広幢(こうどう;号、猪苗代兼載の叔父?)?-? 僧;禪師/兼純の父、連歌;正徹門、兼載と親交、
 磐城白河会津地方に住、「広幢付句集」(前句付)、1478「連歌三十五句付発句十句」
 K1978 泉堂(こうどう;道号・元昶げんちょう;法諱、俗姓;楊) 1663-1733 71 浙江省石門県の黄檗僧、
 1721長崎に渡来/興福寺悦峰道章門/嗣法、1722長崎興福寺8世/23万福寺12世、

1731伏見海宝寺に退隱、

「請唐僧書簡草稿」「黄檗第十二代杲堂禪師語録」著、1726「黄檗宗鑑録」補填

- K1979 **光道**(こうどう;法諱) ? - ? 1725存 江戸湯島靈雲寺の真言僧;慧光門?、
1723「浄厳大和尚年譜艸稿」、「靈雲開山浄厳和尚年譜」著
- K1980 **弘堂**(こうどう・渡辺わたなべ、名;毅/孝恭/存泰、謙斎男)1689-176072 京の儒者:1697伊藤仁斎・東涯門、
のち並河天民門;仁斎説を批判、1722?「天民先生遺稿」編集、詩・歌、1719「字義諺解」著、
1734「私擬喪儀」、53「論語臆説」「論孟臆説」著、
「孟子臆説」「祭喪儀」「傷寒論辨疑」「字義辨解」著、
[弘堂(;号)の通称/別号]通称;新蔵、別号;葭谷かく、孟弘の父
- K1981 **弘道**(こうどう;法諱) 1725 - ? 1773存 真言僧;智山の学匠/山城蟹満寺住、
尾張八事山興正寺に転住、
1755「秘密曼荼羅宗教主義」60「大日経疏伝燈記」「峨山講黒印」著
- K1982 **弘道**(こうどう・野沢のざわ、名;勝房/勝輝、勝武男)1747-181064 伊予松山藩士/1771大小姓、
1776領内代官、1791目付、兵法;向井義介・義保門;源家古法修得、
1774免許皆伝;81師位を継承;門弟指導、地歴にも精通、
「軍要雑集」「発動集」「瀬越七芝」「幼武須知」「鎧初之式筆記」「武功短歌」著、
[弘道(;字)の通称/号]通称;才次郎、号;象水、養嗣子;勝隼
- 1917 **慊堂**(こうどう・松崎まつぎ、名;圭次/密/明復/復、恵法男)1771-184474 肥後益城郡北木倉の人、
初め益城下無田の宗専寺で出家;1785(15歳)江戸で浅草称念寺住/86還俗/儒者:90林家門、
昌平黌で修学;1796塾生失行に連座;離門/98赦免復帰、1802掛川藩校徳造書院の教授、
1811朝鮮通信使の応接に林述斎と対馬赴任/14致仕;江戸目黒羽沢の石経山房に隠棲、
1842將軍家慶に謁見;掛川藩の用人格、蛮社の獄に渡辺華山の赦免運動、「慊堂詩文集」、
「対馬紀行」「接鮮紀事」「木倉詩集」「凸凹問答」「縮刻唐石経」「慊堂文草」「慊堂日曆」、
「慊堂先生答問書」「慊堂先生詩稿」外著多数、門弟;塩屋宕陰・安井息軒外多数、明遠の父、
[慊堂(;号)の字/別号]字;退蔵/希孫/明復、別号;木倉/益城/当帰山人、出家号;教応
- G1942 **弘堂**(こうどう・島村しまむら、名;鼈、下村信来男)1822-7655 但馬豊岡の儒者/島村光恭の養子、
但馬出石藩校弘道館で修学/大阪で藤沢東暎・遠藤義斎門/帰郷;藩校弘道館教授、
「弘堂叢書」「弘堂詩文稿」「弘堂雑著」「弘堂牋議」著、
[弘堂(;号)の字/通称]字;千金、通称;慊甫こうすけ/衡平
- 広道(こうどう) すべて → 広道(ひろみち)
- 耕道(こうどう・津軽) → 間雲(かんうん・喜多村、家老/兵学) P 1 5 9 6
- 耕堂(こうどう・相沢) → 月邦(げっぽう・相沢あいざわ、俳人) H 1 8 3 9
- 耕堂(こうどう・小田村) → 素彦(もとひこ・楫取/松島/小田村、藩士) D 4 4 9 5
- 行道(こうどう・速水) → 行道(ゆきみち/ゆきつね・速水はやみ、藩士/国学) F 4 6 7 1
- 行道(こうどう・佐藤) → 行道(ゆきみち・佐藤さとう、国学者) G 4 6 8 7
- 行道(こうどう・藤井) → 行道(ゆきみち・藤井ふじい/ト部、廷臣/歌) H 4 6 2 1
- 弘道(こうどう;字) → 光和(こうわ・弘道、讃岐真言僧) L 1 9 6 6
- 弘道(こうどう/ひろみち・宮本) → 愚翁(ぐおう・宮本みやもと、藩士/心学者) C 1 7 3 2
- 弘道(こうどう・斎藤/富田) → 高慶(たかよし・富田とみた、藩家老/農政) E 2 6 0 8
- 弘道(こうどう・橋本) → 弘道(ひろみち・橋本、藩士/神職/歌) H 3 7 3 4
- 弘道(こうどう・橋本) → 左内(さない・橋本、藩士/蘭医/勤王家) K 2 0 6 1
- 弘道(こうどう・太田) → 弘通(ひろみち・太田おた、国学者/歌人) I 3 7 9 2
- 弘道(こうどう・山中) → 弘道(ひろみち・山中やまなか、役人/国学者) M 3 7 2 3
- 弘道(こうどう・村松) → 弘通(ひろみち・村松むらまつ、絵師/国学) L 3 7 4 8
- 弘道(こうどう・関) → 雪江(せつこう・関せき、儒者/書家) E 2 4 2 3
- 弘道(こうどう・竹島) → 弘通(ひろみち・竹島たけしま、歌人) L 3 7 5 7
- 好道(こうどう・尼坂) → 好道(よしみち・尼坂あまさか、俳人) G 4 7 0 9
- 幸道(こうどう・真田) → 幸道(ゆきみち・真田さなだ、藩主/詩人) F 4 6 6 6
- 光道(こうどう・山上) → 光道(てるみち・山上やまがみ、和算家) C 3 0 9 8
- 光道(こうどう・松平) → 光道(てるみち・松平まつだいら、藩主) F 3 0 0 1

光道(こうどう・本間) → 光道(みつみち・本間ほんま、富豪/藩士/俳) K 4 1 4 6
 晃堂(こうどう;法名) → 政成(まさしげ・内藤ないとう/井伊、藩主) L 4 0 9 0
 黄堂(こうどう・白石しらい) → 桃花洞(とうかどう・白石、儒/道学) C 3 1 2 5
 公堂(こうどう・川口) → 道斎(どうさい・川口、医者) E 3 1 4 3
 公道(弘道こうどう・礪野) → 希声(きせい・礪野いその、医者) L 1 6 0 6
 公道(こうどう・原) → 念斎(ねんさい・原はら、藩儒) 3 4 6 3
 公道(こうどう・森) → 公道(きんみち・森もり、秋成の友/歌人) M 1 6 4 1
 康道(こうどう・越智) → 康道(康通やすみち・越智おち、幕臣/歌人) D 4 5 0 4
 康道(こうどう・九条/二条) → 康道(やすみち・二条/藤原/九条、摂政) D 4 5 0 5
 高堂(こうどう・六角) → 鬼洞(きどう・六角ろっかく、儒者) L 1 6 6 2
 高道(こうどう・山鹿) → 高道(たかみち・山鹿やまが、藩士/兵学者) N 2 6 2 6
 衡道(こうどう・三木) → 隆盛(たかもり・三木みき、国学者/俳人) N 2 6 4 8
 興道(こうどう・三宅) → 興道(おきみち・三宅みやけ、藩士/日記) C 1 4 9 9
 興道(こうどう・宮崎) → 興道(おきみち・宮崎みやさき、医者) D 1 4 0 0
 宏道(こうどう;字) → 覚融(かくゆう;法諱・宏道、真言僧) K 1 5 5 4
 恒堂(こうどう;号) → 汎海(まんかい;道号・宗珊;法諱、曹洞僧) K 4 0 4 1
 恒道(こうどう・高橋) → 恒道(つねみち・高橋たかはし、藩士/国学/教育) F 2 9 9 6
 恒道(こうどう・藤枝) → 恒道(つねみち・藤枝ふじえだ、家老/国学者) G 2 9 2 9
 皓堂(こうどう・田中) → 為善(ためよし・田中たなか/桑原、藩士/国学) X 2 6 8 8
 孝道(こうどう) すべて → 孝道(たかみち)
 拘堂(こうどう・中根) → 雪江(ゆきえ/せこう・中根、藩士/国事) E 4 6 3 3
 肯堂(こうどう・加藤) → 景纘(かげよし・加藤かとう、儒者/詩画) L 1 5 5 0
 綱道(こうどう・佐野) → 綱道(つなみち・佐野さの、歌人) Q 2 9 9 2
 鴻堂(こうどう・山本) → 復一(またかず・山本やまもと、本草/官吏) T 4 0 5 9
 合同(こうどう・津田/田) → 養(よう・津田つだ/修姓;田、医者/俳人) 4 7 5 3
 香稻庵(こうとうあん) → 竿秋(かんしゅう・橋本・松本、俳人) D 1 5 9 1
 耕堂窩(こうどうか) → 竹坡(ちくは・川村、藩士/儒者/詩) D 2 8 7 0
 耕耨館(こうどうかん) → 通則(みちのり・滑川なめかわ、藩士/儒者) C 4 1 2 7
 耕道軒(こうどうけん・津軽) → 間雲(かんうん・喜多村、家老/兵学) P 1 5 9 6
 江東公子(こうとうこうし) → 高明((たかあきら・京極、幕臣/詩人) L 2 6 5 0
 荒唐齋(こうとうさい) → 尚房(なおふさ・野村、歌人) 3 2 0 3
 紅荳詞人(こうとうしじん) → 竹田(ちくでん・田能村、儒/絵師/詩人) D 2 8 5 4
 弘道先生(こうどうせんせい) → 淇園(きえん・皆川みながわ、儒者) 1 6 0 4

R1967 勾当内侍(こうどうのないし、) ? - ? 鎌倉後期;花園天皇時の女官;掌侍、
 歌人;1315京極為兼[正和四年詠法華経和歌]参加、
 [みそぢあまり三のかたちにはらはれてのりをときてぞみなわたすなり]、
 (詠法華経歌;28/普門院)

R1968 勾当内侍(こうどうのないし、長橋局、藤原経伊女?) ?-? 鎌倉・南北期後醍醐天皇時の女官(美女)、
 新田義貞の妻;[大平記]に逸話入;夫義貞が湊川合戦敗北・越前藤島で戦死;獄門、
 内侍は獄門の様を見て剃髪;比丘尼となる、武将を惑わした伝説的人物(作者創作?)

勾当内侍(こうどうのないし) → 春子(はるこ・四辻、歌人/連歌) G 3 6 3 3

勾当掌侍(こうどうのないし) → 房子(ふさこ・高野たかの、女官/日記) C 3 8 0 4

江都園(こうとえん) → 常恒(つねつね・板屋/山村吉衛門、狂歌) C 2 9 5 4

K1983 光徳(こうとく・本阿弥ほんあみ、別名;益忠、宗家8世光利男) 1556-1619⁶⁴ 鑑定家;宗家9世、
 松田流軍学師範、「日本鍛冶集」「御物七十三腰之図」著

P1937 広得(こうとく・藤井ふじい、通称;鉄屋くろがねや与一郎) ?-? 備後福山俳人;立圃門/貞門系、
 1661立以「烏帽子箱/入智集」/70種寛「俳諧詞友集」/72種寛「続詞友俳諧集」入

P1935 孝徳(こうとく・鄭てい) ? - ? 琉球詩人/1758清国北京国子監の官生、
 潘相はんそう「琉球入学見聞録」入

光徳(こうとく・吉村) → 光徳(みつり・吉村よしむら、里正/国学者) K 4 1 9 4

光徳(こうとく・樋口) → 三益(さんえき・樋口ひぐち/清水、幕府侍医) N 2 0 4 7
 光徳(こうとく・木下) → 光徳(みつり・木下きのした、藩士/国学) I 4 1 8 1
 光徳(こうとく・仲居) → 光徳(みつり・仲居なかい/高橋、国学/歌) J 4 1 9 6
 光徳(みつり・鳥丸) → 光徳(みつえ・鳥丸からすまる、廷臣/政治家) K 4 1 3 8
 恒徳(こうとく・木梨) → 恒徳(つねり・木梨きなし、藩士) D 2 9 1 0
 恒徳(こうとく・太田代) → 東谷(とうこく・太田代おたしろ、儒者) E 3 1 1 4
 恒徳(こうとく・田沢/奈須) → 恒徳(つねり・奈須なす/田沢、幕医) D 2 9 1 8
 恒徳(こうとく・大塚) → 恒徳(つねり・大塚おつか、藩士/歌人) F 2 9 3 8
 厚徳(こうとく・林) → 厚徳(あつり・林はやし、藩士/歌人) B 1 0 3 7
 公篤(こうとく・名越) → 公篤(きんあつ・名越なごえ/北条、武家/歌) D 1 6 7 9
 公篤(こうとく・柴田) → 弘器(ひろき・竜廻屋・柴田、藩医/狂歌) F 3 7 7 5
 公篤(こうとく・柴田) → 公篤(きんあつ・河口かわぐち、歌人) T 1 6 1 9
 公德(こうとく・きんり・関) → 元洲(げんしゅう・関せき、藩士/儒者) D 1 8 8 4
 公德(こうとく・服部) → 滄洲(そうしゅう・服部はつとり、藩儒者) H 2 5 8 3
 好徳(こうとく・稲川) → 好徳(よしのり・稲川いながわ/水野、家老/歌) L 4 7 5 9
 広篤(こうとく・毛利) → 元蕃(もとみつ・毛利もうり/大江、藩主) E 4 4 4 0
 弘篤(こうとく) すべて → 弘篤(ひろあつ)
 行篤(こうとく・関) → 行篤(ゆきひろ・関せき、幕臣/奉行/歌) G 4 6 7 0
 行篤(こうとく・玉井) → 行篤(ゆきあつ・玉井たまい、藩士/国学) G 4 6 9 9
 行篤(こうとく・中山) → 行篤(ゆきあつ・中山なかやま/柴田、藩執政) H 4 6 0 7
 孝徳(こうとく・渋井) → 太室(たいしつ・渋井/井、藩士/儒者) 2 6 0 4
 幸得(こうとく・大岡) → 元房(もとふさ・大岡おおおか/杉本、国学/歌) J 4 4 5 1
 高德(こうとく・宮地) → 要三(ようさん・宮地みやじ、蘭医/外科) B 4 7 0 3
 高得(こうとく・高島) → 米護(よねもり・高島たかばたけ、商家/国学) N 4 7 7 3
 綱徳(こうとく・河原) → 綱徳(つなり・河原かわはら、藩士/文筆家) B 2 9 2 0
 高德院(こうとくいん) → 利家(としいえ・前田まえだ、武将) M 3 1 0 7
 高德院(こうとくいん) → 正往(まさゆき・稲葉いなば、藩主/老中/茶) N 4 0 7 3
 高德院(こうとくいん) → 重矩(しげり・板倉いたくら、藩主/遺訓) C 2 1 8 1
 光徳院(こうとくいん) → 忠升(ただたか・本多ほんだ、藩主/儒/詩歌) F 2 6 2 3
 亨徳院(こうとくいん) → 一溪(いっけい・曲直瀬まなせ/堀部、医者) G 1 1 9 4
 亨徳院(こうとくいん) → 是盛(よしもり・曲直瀬まなせ/和氣/六人部、是香男/医/勤王) H 4 7 7 1
 亨徳院(こうとくいん) → 正純(しょうじゅん・曲直瀬、一溪門医者) J 2 2 6 7
 広徳院(こうとくいん; 法号) → 忠利(ただとし・酒井さかい、藩主) Q 2 6 0 2
 広徳院(こうとくいん) → 利長(としなが・本多ほんだ、藩主) N 3 1 1 8
 興徳院(こうとくいん) → 政義(まさよし・内藤/井伊、藩主/歌) I 4 0 6 9
 興徳院(こうとくいん; 号) → 春登(しゅんとう; 法諱、時宗僧/国学者) 2 1 6 3
 耕読園(こうどくえん) → 輝星(てるせき・松井まつい、易占家) B 1 6 3 6
 弘徳円明国師(こうとくえんめいこくし) → 紹瑾(じょうきん・瑩山けいざん) K 2 1 0 4
 恒徳公(こうとくこう) → 為光(ためみつ・藤原、太政大臣/歌人) H 2 6 5 0
 興徳寺(こうとくじ; 号) → 義重(よししげ・斯波しば、武将/管領/歌人) D 4 7 5 6
 光徳勝妙国師(こうとくしょうみょうこくし) → 慧玄(えげん; 法諱・関山、臨濟僧) 1 3 6 1
 広徳正宗禅師(こうとくせいしゅうぜんじ) → 宗胃(そうい; 法諱・清庵; 道号、臨濟僧) 2 5 5 0

B1979 **孝徳天皇**(こうとくてんのう、茅渟ちぬ王男)?-654 天智帝の叔父、難波遷都、律令整備、間人はしひと皇女の夫、
 中大兄に妻を飛鳥に連れて行かれ孤立失意のうちに崩御、有間皇子の父、
 紀に辞世歌; [かなきつけ我が飼ふ駒を引き出せず我が飼ふ駒を人見つらむか]

恒徳堂(こうとくどう) → 士清(こすが・谷川、医者/神道/語学) 1 9 3 6
 孝徳坊(こうとくぼう) → 玄智(げんち; 法諱、真宗僧大谷派僧) L 1 8 1 1
 剛訥子(ごうとつし・林) → 読耕斎(どっこうさい・林はやし、幕府儒官) O 3 1 4 8
 江都督(ごうととく) → 匡房(まさふさ・大江、廷臣/漢学; 詩歌) 4 0 1 9
 江都竜門生(こうとりゅうもんせい) → 利謹(としのり・南部なんぶ、有職故実/歌) N 3 1 3 2

- 1918 **篁墩**(こうとん・吉田よしだ/修姓;吉/佐々木、名;坦/漢官、藤井ふい沢右衛門定行男)1745-9854 江戸生、1759吉田篤信[慎斎]養嗣;水戸藩小普請組/67表医師/79罷免;佐々木坦蔵と改名;江戸町医、儒学:井上金峨門、中国古鈔善本の校勘/書画古器の蒐集、「近聞寓筆」「活版経籍考」、「欣然悦耳録」「論語集解攷異」「北棧紀聞」「七国指掌図考」「骨董小説」「篁墩消息」外著多数、[篁墩の字/通称/別号]字;資坦/学儒/学生、通称;林庵/坦蔵、別号;竹門
- K1984 **篁墩**(こうとん・庄原しょうばら、名;懿)1810-6152 周防徳山の儒者:江戸で安積良斎・佐藤一斎門、江戸小川町住;子弟教育/詩、1852「篁墩詩鈔」著、[篁墩の字/通称/別号]字;彝卿いけい、通称;文助、別号;柳暗
- K1985 **篁墩**(こうとん・芳賀はが、名;勝安)1829-191486 羽後雄勝郡湯沢の儒者/秋田藩士;1842時習書院直館、同教官に昇進;24年間在職、詩文;小野湖山・王治本(漆園)らと交流、藩命で樺太巡歴、戊辰戦役で政教の要70余条を藩主に建言;実戦参加、「九宣楼詩草」「篁墩文集」「六朝名家詩醇」「本朝嘉言善行録」「経子諸考」「夫人伝」著
- F1932 **高惇**(こうとん・牟田むた、文之助)1830-9061 佐賀藩士、1853-55「諸国廻歴日録」、「鉄人流剣術」著
- 公敦(こうとん・三条) → 公敦(きんあつ・三条/正親町三条、歌人) D 1 6 7 8
 公敦(こうとん・三条) → 公敦(きんあつ・三条/転法輪三条、歌人) Q 1 6 6 4
 幸敦(こうとん・木崎) → 幸敦(ゆきあつ・木崎ささき、国学者) E 4 6 2 5
 弘敦(こうとん・岸) → 熊野(ゆうや・岸きし/崖、藩士/儒者) D 4 6 8 9
 高敦(こうとん・藤堂) → 高嶺(たかさと・藤堂、藩主/詩文) L 2 6 9 1
 高敦(こうとん・木村) → 高敦(たかあつ・木村毅斎、巷談研究) C 2 6 4 9
 寄居(ごうな・近藤) → 芳樹(よしき・近藤/田中、国学者/歌) 4 7 0 9
- F1933 **幸内**(広内こうない;通称・山下やました、名;長亮)??-? 江中期紀州浪人?;江戸青山の謙信流兵学者、1727享保改革批判「山下幸内上書」を吉宗に親書;百金を賜う(;「鄙雑俎」入)、「広内記」著、「公辺雑集」「武門大和大乘」「誉訕諫言記よせんかんげんき」、1757「諫鼓」著
- 孝内(こうない・斎藤) → 桃源(とうげん・斎藤、藩士/詩人) D 3 1 4 3
 江納言(ごうなごん) → 維時(これとき・大江おおえ、漢学/詩歌) 1 9 4 9
 寄居子庵(ごうなしあん) → 芳樹(よしき・近藤/田中、国学者/歌) 4 7 0 9
- G1943 **江南**(こうなん・田中たなか/修姓;田でん、宇留野/山野辺、土浦藩士高島舛見男)1728-8053 江戸の生、磐城守山藩士宇留野家の養子;藩主松平頼寛に出仕/投壺の書研究/1756致仕;高島姓復帰、1757水戸藩家老山野辺義胤の養子;60水戸で開塾;経義学を講義/江戸で甘谷園を開塾、1770-79上京し上方滞在;田中に改姓/79岡山に移住;医業、1770「投壺指南」「投壺説」、「投壺矢勢図解」「婦人投壺花濃図」「江南陳言」「優游社漫筆」/1777「絶句解国字解」著、[江南(;号)の名/字/通称/別号]名;応清/清/菊満、字;子纓しえい、通称;三郎右[左]衛門、別号;甘谷園/優游社
- K1986 **江南**(こうなん・司馬しば、名;伋きゆう?)??-? 江後期文化1804-18頃絵師:司馬江漢門?、1808「天羽衣」、「画像百首」「三十六人狂歌合」画
- 漢南(こうなん・関) → 克明(かつあき・関せき、書家/儒者) N 1 5 2 0
 江南(こうなん・三宅) → 寄斎(きさい・三宅みやげ、漢学者/茶) I 1 6 4 9
 江南(こうなん・箕浦) → 立斎(りつさい・箕浦みのうら、藩士/儒者) B 4 9 8 6
 後南海(こうなんかい) → 雲羅(云良うんら、俳人) E 1 2 1 0
 江南漢翁(こうなんかんおう) → 植通(たねみち・九条/藤原、関白/古典) 2 6 4 5
 香楠居(こうなんきよ) → 幹雄(みきお・三森みつもり、俳人) 4 1 6 8
 江南舎(こうなんしゃ) → 大梅(たいばい・中西、伊勢屋、俳人) K 2 6 9 5
 向南亭(こうなんてい) → 季吟(きぎん・北村きたむら、俳人/古典学) 1 6 0 6
 江南亭唐立(こうなんていからたち) → 唐立(からたち・江南亭、戯作/狂歌) P 1 5 6 6
 向南亭閑人(こうなんていかんじん) → 季文(きぶん・北村、歌人) B 1 6 7 5
 江南野水翁(こうなんやすいおう) → 寄斎(きさい・三宅、漢学者/茶) I 1 6 4 9
 高二(こうに・松川/奥) → 半山(はんざん・松川まつかわ、絵師) H 3 6 8 2
 江二(ごうに) → 維時(これとき・大江おおえ、漢学/詩歌) 1 9 4 9
 広如(こうにょ) → 光沢(こうたく・真宗西本願寺20世) K 1 9 5 0
 孝女(こうにょ・川島) → 孝女(こうじょ・川島かわしま、) J 1 9 6 9

- 好女(こうじょ・松岡) → 好女(こうじょ・松岡まつおか、於好およし、俳人) J 1 9 7 0
 光任(こうにん・中御門) → 光任(みつとう・中御門/藤原、南朝廷臣/歌) D 4 1 9 8
 光任(こうにん/みつとう・上松) → 木導(もくどう・上松/奈越江なおえ、俳人) B 4 4 0 4
 隆任(こうにん・松平) → 隆任(たかとう・松平、幕臣/歌人) D 2 6 1 1
 高任(こうにん・大島) → 高任(たかとう・大島、蘭学/鉄山開発) M 2 6 3 6
 弘任(こうにん・小野) → 弘任(ひろとう・小野おの、医者/詩歌人) I 3 7 7 3
 興仁(こうにん/おきひと) → 崇光天皇(すこうてんのう、歌人) D 2 3 2 9
 康任(こうにん・松平) → 康任(やすとう・松平、藩主/万葉研究) C 4 5 1 6
- K1987 **豪仁**(ごうにん;法諱) ? - ? 安桃期1532-92頃天台僧;叡山浄土院僧/探題/法印、
 1553「般若心経法則」、「法華廿八品大意」「七社略記戸津説法楽」著
 公仁親王(こうにんしんのう) → 公仁親王(きんひとしんのう、歌人) E 1 6 5 9
 幸仁親王(こうにんしんのう) → 幸仁親王(ゆきひとしんのう、高松宮/有栖川宮/歌人) F 4 6 4 3
 公仁親王妃室子(こうにんしんのうひし) → 室子女王(しつじょおう) E 2 1 9 2
 公仁親王妃壽子(こうにんしんのうひじゆし) → 公仁親王妃壽子(きんひとしんのうひじゆし) R 1 6 7 0
- B1980 **光仁天皇**(こうにんてんのう、白壁王、志貴皇子6男)709-78173 母;紀椽姫(贈太政大臣紀諸人女)、
 716(8歳)父没、妻;井上内親王、759(天平宝字3/50歳)従三位/762中納言、
 764藤原仲麻呂の乱鎮圧に功;称徳天皇の信頼を得る;766(天平神護2)大納言、
 770(神護景雲4/62歳)称徳天皇没;遺言と藤原百川の暗躍で立太子;即位:宝亀に改元、
 政治改革:道鏡左遷、清麻呂を召喚、
 772密告により井上内親王が呪詛大逆罪で皇后を廃・息子他戸親王は皇太子を廃される、
 773山部親王(桓武天皇)が立太子;百川ら藤原式家の陰謀説あり、
 776秋篠寺の勅願(開基善珠僧正)、転変地異多数/781正月天応に改元、讓位;没、
 [光仁天皇の諡号]天宗高紹天皇あまつむねたかつぎのすめらみこと
- 光寧(こうねい・多田/後藤) → 梨春(りしゅん・後藤、蘭学/本草/談義本) B 4 9 2 3
 光寧(こうねい・宇治) → 光寧(みつやす・宇治、歌人) I 4 1 1 5
 光寧(こうねい・不破) → 光寧(みつやす・不破おむ、国学者) K 4 1 2 9
 光寧(こうねい・谷) → 麗国(よしくに・谷たに/小林、国学者) P 4 7 7 9
 公寧(こうねい・田安/松平) → 春嶽(しゅんがく・松平まつだいら、藩主/詩歌) J 2 1 3 3
 公寧(こうねい・山本) → 実政(さねのり・山本やまもと、廷臣/歌人) P 2 0 7 4
 高寧(こうねい・藤田/早川) → 高寧(たかやす・早川/本田/藤田、和算家) N 2 6 5 8
 洪寧(こうねい・筑井) → 昆陽(こんよう・筑井つぐい、儒者) P 1 9 3 0
- K1988 **公然**(こうねん;法諱、姉小路実文男)1252-? 鎌倉期真言宗醍醐寺釈迦院住僧;定濟門、法眼、
 「阿闍梨位印口伝」「厚大士口伝」著
- K1990 **浩然**(こうねん・坂本さかもと、名;直大/直久、純庵男)1800-5354 紀州の医者;父門/本草家;曾槃門、
 絵師;狩野派/写生;樺島雪亭門/桜の画を得意、高槻藩主永井家出仕:江戸青山六道辻住、
 1829「草木写占底稿」31「百卉存真図」33「百花図纂」35「桜草勝花品」36「宇奈為婆那理問答」、
 「桜花譜」「群桜花譜」「解蘭毒法」「救飢食品考」著/「富嶽真景」画、種樹家うつきや金太と親交、
 [浩然の字/別号]字;桜字、別号;浩雪/桜香/香邨こうそん/写蘭/嘗草林処/復元、
 葦溪じんげい主人/純沢/五快楼/永斎、法号;浩雪院
- B1982 **庚年**(こうねん;号・冬至庵)? - ? 江後期江戸俳人:一具[1781-1853]門、
 1835「小田刈」編/37「俳諧今七部集」「落穂集」編/41「発句万題集」編、「木乃葉籠」著
- 庚年(こうねん・中田) → 正朔(まさもと・中田なかつ/沢瀉、神職) R 4 0 1 3
 皎然(こうねん;法諱) → 皎然(こうぜん;法諱、天台僧/国学者) Q 1 9 8 3
 光年(こうねん・伊藤) → 貞子(ていし・伊藤、俳人) B 3 0 0 2
 光然(こうねん;法名) → 光頼(みつより・葉室/藤原、廷臣/歌人) F 4 1 2 5
 弘年(こうねん/ひろとし・加納) → 東阿(とうあ・加納、医者/詩/俳人) 3 1 7 4
 幸年(こうねん・岩沢) → 幸年(ゆきとし・岩沢いわさわ、藩士/歌人) G 4 6 5 8
 孝念(こうねん;法名) → 知信(とものぶ・藤原ふじむら、廷臣/歌人) Q 3 1 1 3
 高年(こうねん・菅野) → 高年(たかとし・菅野すがの、廷臣/漢学者) D 2 6 1 7
 興然(こうねん;法諱) → 興然(こうぜん;法諱、真言僧) K 1 9 2 2

- 興然(こうねん;法諱) → 興然(こうぜん;法諱、南北期僧/歌人) R 1 9 5 5
香年(こうねん・池原) → 香釋(かわか・池原いけはら、医者/国学) T 1 5 6 3
広年院(こうねんいん) → 波響(はきょう・蠣崎/松前、家老/絵師) C 3 6 4 6
B1983 光能(こうのう) ? - ? 俳人:1675高牧「俳諧総合」独吟入
光能(こうのう) → 房能(ぼうのう;法諱、天台宗園城寺僧) C 3 9 4 5
広能(こうのう・大橋) → 広能(ひろよし・大橋/高井、神道家) H 3 7 7 0
公能(こうのう・藤原) → 公能(きんよし・藤原/徳大寺、廷臣/歌) E 1 6 8 6
行能(こうのう・藤原) → 行能(ゆきよし・藤原ふじわら、廷臣/歌人) F 4 6 9 2
行能(こうのう・世尊寺) → 行能(ゆきよし・世尊寺/藤原、廷臣/書家/歌人) 4 6 2 6
高能(こうのう・榎並) → 高能(たかよし・榎並えなみ、連歌) E 2 6 0 7
康能(こうのう・藤原) → 康能(やすよし・藤原ふじわら、廷臣/歌人) D 4 5 4 6
幸濃亭(こうのうてい・柿沼) → 広身(ひろみ・柿沼かきぬま/紀、神職/国学) J 3 7 0 0
香廼園(こうのえん) → 顕(あきら・高橋、藩士/歌) E 1 0 2 1
江三位(こうのさんみ) → 美作三位(みまさかのさんみ、藤原道綱女豊子) F 4 1 8 4
B1984 江侍従(こうのじじゅう、大江匡衡女/母;赤染衛門)?-? 平安中期女房歌人:はじめ藤原道長家に出仕、次に道長女の枇杷皇太后宮(三条天皇中宮)妍子の女房、のちその女陽明門院(禎子内親王)に出仕、高階業遠(-1010)の妻;源俊房の乳母、夫に死別、藤原兼房との間に後拾遺歌人少輔を産む(和歌色葉入)、大江挙周(たかちかの)姉妹、歌;1049後冷泉院御時内裏歌合/50賀陽院一宮歌合等多くに参、続詞花集入、1038源大納言師房家歌合の侍従乳母と同一か、勅撰15首:後拾遺(6首292/460/588以下)金葉(Ⅱ100/471、Ⅲ248/451)詞花(317)以下[小倉山立ちども見えぬ夕霧に妻まどはせる鹿ぞ鳴くなる](後拾遺;四秋292)
侍従乳母と同一? → 侍従乳母(じじゅうのめと) D 2 1 9 2
幸之丞(こうのじょう/さちのじょう・安養寺) → 禾麿(のぎまろ・安養寺あんようじ、儒/故実) H 3 5 2 0
K1991 効進(こうのしん・最上もがみ、徳内とくない男)?-? 江後期;父徳内の著述を援助、1830「詩文押韻策」注
香之進(こうのしん・毛利) → 貞斎(ていさい・毛利もうり、儒者) 3 0 8 0
香之進(こうのしん・高野) → 蘭亭(らんてい・高野、儒者/詩人) 4 8 0 9
幸之進(こうのしん・二川) → 相近(すけちか・二川ふたがわ、藩士/書/詩歌) C 2 3 4 1
恒之進(こうのしん・関口) → 雪翁(せつおう・関口せきぐち/関、儒者) K 2 4 7 4
耕之進(こうのしん・倉田) → 聖純(せいじゆん・倉田くらた、書家) I 2 4 7 3
耕之進(こうのしん・広田) → 正方(まさかた・広田ひろた/度会/有江、神職/国学) S 4 0 1 9
剛之進(こうのしん・千手) → 廉斎(れんさい・千手せんじゆ/三浦、藩儒) B 5 1 0 7
鋼之進(こうのしん・日置) → 忠尚(ただひさ・ただなお・日置へき/池田、藩老/画) Z 2 6 4 0
高嵩谷(こうのすうこく) → 嵩谷(すうこく・高、絵師) 2 3 9 9
光之助(こうのすけ・大森) → 隆公(たかきみ・大森おおもり/藤原/大守、神職/国学) W 2 6 2 0
孝之助(幸之助こうのすけ・大蔵) → 虎光(とらみつ・大蔵おおくら、能楽師;狂言) R 3 1 8 0
孝之助(こうのすけ・長山) → 樗園(ちよえん・長山ながやま、幕臣/海防論) K 2 8 1 9
孝之助(こうのすけ・広瀬) → 林外(りんがい・広瀬ひろせ、儒者/詩人) K 4 9 0 5
孝之介(こうのすけ・姫井) → 栗谷(りつこく・姫井ひめい/成田、藩儒) B 4 9 8 0
甲之助(こうのすけ・伊藤) → 和義(かずよし・伊藤いとう、藩士/勤王派) M 1 5 5 7
幸之允(こうのすけ・岡田) → 鶴鳴(かくめい・岡田おかだ、神職/儒者) H 1 5 3 9
幸之介(こうのすけ・加納) → 貞清(さだきよ・加納かのう、藩士/記録) I 2 0 1 1
幸之助(こうのすけ・松田) → 千秋(ちあき・松田、歌人) 2 8 3 4
幸之助(こうのすけ・稲葉) → 正謹(まさのぶ・稲葉いなば、藩主/記録) F 4 0 7 2
幸之丞(こうのすけ・田中) → 風香(ふうこう・田中たなか、藩士/俳人) 3 8 5 9
枕之丞(こうのすけ・伊丹) → 直祝(なおせつ・伊丹いたみ/藤原、歌人) K 3 2 4 6
興之助(こうのすけ・中村) → 尚輔(ひさすけ/なおすけ・中村、藩士/国学者) B 3 7 1 7
鴻之允(こうのすけ・滝) → 高渠(こうきよ・滝たき/河野、藩士/儒者) I 1 9 2 9
鴻之佐(鴻佐こうのすけ・堤/塘) → 它山(たざん・堤/塘つみ、儒者/詩人) E 2 6 5 9

- 鴻之丞(こうのすけ・弘) → 通光(みちみつ・弘ひろ、和洋算家/教育) C 4 1 6 4
 耕之助(こうのすけ・河北) → 房種(ふさたね・河北かわきた、囲碁棋士) C 3 8 1 2
 耕之助(こうのすけ・宮田) → 義昌(よしまさ・宮田みやた/星野、国学/歌) P 4 7 4 6
 荒之介(こうのすけ・西村) → 昌良(まさよし・西村にしむら、藩士/歌人) R 4 0 4 1
 行之助(こうのすけ/ゆきのすけ・大西) → 椿年(ちんねん・大西おおにし、絵師) K 2 8 9 5
 綱之助(こうのすけ/つな・鈴木) → 重樹(しげき・鈴木すずき/穂積、藩士/国学) Z 2 1 0 8
 江帥(ごうのそち) → 匡房(まさふさ・大江/江、漢学者/詩歌) 4 0 1 9
 高内侍(こうのないし、儀同三司母) → 貴子(たかこ、高階成忠女/歌人) 2 6 9 9
- K1992 紅葩(江波こうは・秋山あきやま、藩士秋山源右衛門の母)?-?1730-36頃没 遠江浜松の歌人、
 1729(享保14)藩主の国替で三河吉田に住、歌人、1730(享保15)「鳳来寺詣」著
- F1934 香坡(こうは・橋本はしもと、名;通、藩士坦翁男)1809-65獄死57 上州沼田儒者:篠崎小竹門/篠門4才子、
 1839近衛忠熙に招聘;伊丹明倫堂学頭/大阪で開塾/勤王派;同志戸交流/65幕吏に捕縛;
 隠岐流刑前に獄中病死、1857「西遊詩稿」「蒙養篇」、「月瀬紀行」「西遊詩草」「香坡詩草」著、
 [香坡の字/通称/別号]字;大路、通称;桂太郎(けいたろう/半助、法号;静修院/憂国院、
 別号;静庵/毛山/毛山人/東山/戴盆子/小梅道人/適園/適々園/江山風月主人/程方珍
 甲馬(こうば・本多) → 忠憲(ただのり・本多、国学/故実/歌/俳) F 2 6 6 3
- K1993 江波(ごうは・梅田うめだ、年風男)1815-6046 代々金沢藩出仕の狩野派絵師/梅田家9世、
 俳人;翠台/北枝堂を継承、1849「花の賀集」編/50「東蓬萊」、「武部見水」著、
 [江波の通称/別号]通称;九栄、別号;幸直/著六齋/翠台/趙翠台/北枝堂
 鰲波(ごうは・吉田) → 鰲岐(ごうき・吉田/吉、儒者/歌) I 1 9 2 3
- K1934 紅梅(こうばい:組連) ? - ? 江中期江戸本郷天沢寺前の雑俳;川柳の組連、
 取次;1762「川柳評万句合」入;
 取次例;[富の札会日くわいじつまでは生きて見え](1762;前句;りきみ社こそすれ々々)
 (当選発表までは夢を与える生き物)
- 侯梅(こうばい・板倉) → 勝彪(かつたけ・板倉いたくら、藩士/武芸者) N 1 5 5 0
 紅椽園(こうばいえん) → 其馨(きけい・長屋ながや、俳人) K 1 6 6 4
 幸梅園(こうばいえん) → 利躬(りきゆう・坂本さかもと、俳人) 4 9 5 9
- B1985 紅梅軒(こうばいけん・西川にしかわ、別号;海鷗かいおう)?-? 江前期遠江浜松住の俳人:俳諧会所、
 1704「小夜しぐれ追加」編/05「俄雨」編
 江梅散人(こうばいさんじん) → 正阿(しょうあ/せいあ・河合、医者/俳人) Q 2 2 7 0
 紅梅堂(こうばいどう) → 酔月(すいげつ、雑俳点者) 2 3 4 8
 黄梅軒(こうばいけん/おうばい-) → 禅諾(ぜんだく・独園、道号、臨濟僧) M 2 4 9 0
 紅梅楼(こうばいろう) → 興齋(こうさい・宇田川うだがわ、医者/蘭学) B 1 9 1 9
- R1951 幸伯(こうはく) ? - ? 江前期;歌人、1688浅井忠能[難波捨草]10数首入、
 浅井家の人か?
 [布引の滝見に人々伴いてまみり皆歌よむが中に、
 くりかへし滝のしらいと織りはへてたが手作りの布引の滝](難波捨草;雑763)
- 広博(こうはく・清水) → 広博(ひろみ・清水しみず、藩士/記録) H 3 7 2 2
 光博(こうはく・源) → 光博(みつひろ・源みなもと、儒者) E 4 1 6 8
 好博(こうはく・竹村) → 好博(よしひろ・竹村/武村、藩士/和算家) G 4 7 6 8
 孝伯(こうはく・菅) → 基(もとき・菅すげ、藩士/儒者) C 4 4 4 1
 孝伯(こうはく・伊良子) → 光顕(みつあき・伊良子いらこ/源、外科医) D 4 1 0 1
 孝伯(こうはく・佐藤) → 信季(のぶすえ・佐藤、殖産家) B 3 5 6 5
 孝伯(こうはく・佐藤) → 信淵(のぶひろ・佐藤、経世家/医者) D 3 5 1 2
 康伯(こうはく・衣笠) → 鳩陵(きゅうりょう・衣笠きぬがさ/蓋、儒者) M 1 6 9 8
 康伯(こうはく・古沢) → 康伯((やすのり・古沢、藩士/槍術家) I 4 5 7 3
 剛伯(ごうはく・五十川) → 霍臯(かくこう・五十川いかわ、儒者) H 1 5 2 5
 高白齋(こうはくさい) → 政武(まさたけ・駒井、武将) D 4 0 3 1
 合漢舎(ごうはくしゃ) → 淡遊(たんゆう・弭間はずま、俳人) T 2 6 6 0
 紅白仙(こうはくせん) → 旭庵(きよくあん・吉田、俳人) O 1 6 7 8

- 紅白堂(江白堂こうはくどう)→ 晚翠(ばんすい、俳人) I 3 6 1 4
 幸八(こうはち・福嶋) → 東雄(はるお・福嶋、名主/国学/地誌) G 3 6 0 2
 幸八(こうはち・山下) → 蚊丈(ぶんじょう・山下やました、神職/俳人) F 3 8 7 9
 幸八(こうはち・児島) → 基隆(もとたか・児島こじま、絵師/神職/歌) J 4 4 9 6
 耕八(こうはち・福嶋) → 貞雄(さだお・福嶋/成田、名主/救民) H 2 0 8 1
 郷八(こうはち・畠山) → 常操(じょうそう/つねもち・畠山、故実/歌学) U 2 2 0 3
 郷八(こうはち・畠山) → 常書(つねふみ・畠山、歌人) D 2 9 6 0
 幸八郎(こうはちろう・増子)→ 毅斎(きさい・増子まじ、藩士/文筆家) K 1 6 4 5
 幸八郎(こうはちろう・後藤)→ 芝山(しざん・後藤ごとう、藩儒/詩人) 2 1 2 0
 幸八郎(こうはちろう・楠木)→ 紫石(しせき・宋そう、楠木、絵師) E 2 1 3 1
 恒八郎(こうはちろう・伊藤)→ 正明(まさあき・伊藤いとう、庄屋/歌人) N 4 0 4 1
 岡白駒(こうはく) → 白駒(はく・岡田、儒/白話) 3 6 2 1
- K1994 **公範**(こうはん;法諱、幼名;鶴満/称;法輪院、三条西公保の猶子)1435-8955 近江天台僧:心勝門、
 尊応准后に出仕/僧正;善興寺・慈恩寺別当を兼任、1468「宗要集聞書」著
- K1995 **高範**(こうはん;法諱) 1655 - 172369 大和薬師寺の法相学僧:南都唯識教学の復興と大成、
 1680「薬師寺濫觴私考」編/1710「成唯識論訓読記」11「成唯識論科」14「成唯識論講轍」著
- K1996 **高半**(こうはん;法諱、高半居士)?-? 江中期安永1772-81頃越中高岡辺の曹洞僧:洞水月湛門、
 1778「禅宗落草義」、「難徠学」著
- K1997 **広胖**(こうはん・坂部さかべ/戸田/山田)1759-182466 江戸幕府火消与力、和算;本多利明・安島直円門、
 浪人して子弟教育、楢円周・三次方程式に精通、1795「数術山田集」、98「鉤股鬻沸ひつぷつ」編、
 1803「立法算願術」10「算法点竄指南録」11「今世地方算法」16「天球図」20「矮立円之術正論」著、
 「絵本工夫之錦別術解」編/「地球略図説」「角術式」「逐索術」「坂部広胖草稿」外著多数、
 [広胖(;名)の字/通称/号]字;子顕、通称;勇左衛門、号;中嶽/潤水かんすい/晩成堂
- K1998 **公般**(こうはん;法諱) ? - 1848 江後期奈良東大寺竜松院住の華嚴僧/法印権大僧都、
 1807「堂司方世用等記」24「長州道の記」29「仁王講着到」42「御後見之記」、「御後見方記」著
- K1999 **広胖**(こうはん・小野おの、小守宗次男)1817-9882 小野柳五郎の養嗣子;常陸笠間藩士、
 和算;甲斐広永門、長谷川弘門/1852幕臣天文方に拔擢;江川坦庵門/1855長崎留学、
 幕府軍艦教授、咸臨丸で航海測量/造船所設置建議、勘定奉行並、維新後;製塩業経営、
 1860「米里堅紀行」62「江都海防真論」著、
 [広胖(;名)の通称/号]通称;友五郎/内膳正ないぜんのしょう、号;東山、法号;観月院
- L1900 **広胖**(こうはん・佐沢さざわ)1835- 190874 仙台藩士;町奉行物書役/徒士目付、京・松前に赴任、
 儒;大槻習斎・眞柳双松門、戊辰戦時;勤王派として奔走、
 1862「刀頭割記」63「公遊日記」著、「支倉雜纂」「仙台風雅集」編、
 [広胖(;名)の字/通称/号]字;子約、通称;良平、号;摘翠/香雪
- 公範(こうはん;字) → 雲室(うんしつ;号、真宗僧/絵師) B 1 2 1 6
 公範(こうはん・富取) → 益斎(えきさい・富取とみとり、篆刻家) D 1 3 6 4
 公胖(こうはん・毛利) → 斉広(なりとお・毛利、藩主/文筆) H 3 2 7 1
 広範(こうはん・藤原) → 広範(ひろのり・藤原ふじわら、廷臣/歌人) G 3 7 8 5
 広範(こうはん・林) → 広範(ひろのり・林はやし/太秦うずまさ、楽人) G 3 7 9 2
 広胖(こうはん・林) → 広胖(ひろやす・林はやし/太秦うずまさ、楽人) H 3 7 5 6
 広胖(こうはん・中坊) → 広胖(ひろなお・中坊なかのぼう/藤原、和学者) I 3 7 4 6
 広胖(こうはん・中村) → 祇歎(まさよし・中村なかむら、藩士/尊攘) R 4 0 1 8
 広胖(こうはん・並河) → 広胖(ひろなお・並河なみかわ/平、国学/歌) K 3 7 4 7
 広伴(こうはん・小栗) → 広伴(ひろとも・小栗おぐり、国学/歌人) G 3 7 5 4
 広繁(こうはん・沢渡) → 広繁(ひろしげ・沢渡さわたり/紀、絵師) G 3 7 0 3
 光範(こうはん・藤原) → 光範(みつり・藤原ふじわら、廷臣/歌人) E 4 1 4 1
 光範(こうはん・飯川) → 光範(みつり・飯川いがわ、武将/連歌) G 4 1 9 0
 弘範(こうはん・神吉) → 弘範(ひろのり・神吉かんき、本陣主人/国学) G 3 7 8 9
 弘般(こうはん・倉沢) → 弘般(ひろかず・倉沢くらさわ、国学者) J 3 7 4 7
 行範(こうはん・惟宗) → 行範(ゆきのり・惟宗これむね、廷臣/歌) F 4 6 2 6

孝範(こうはん・藤原) → 孝範(たかひ・藤原、廷臣/漢学/詩人) D 2 6 4 4
 孝範(こうはん・木戸) → 孝範(たかひ・木戸、関東管領/歌人) D 2 6 4 5
 孝繁(こうはん・荒木) → 翠軒(すいけん・荒木あらかき、儒者/詩人) E 2 3 4 2
 高範(こうはん・千秋) → 高範(たかひ・千秋せんしゅう、廷臣/歌人) D 2 6 4 3
 高般(こうはん・藤堂) → 高般(たかかず・藤堂とうどう、詩人) L 2 6 7 1
 高伴(たかとも・藤田/栗田) → 高伴(たかとも・栗田/藤田/大林、歌人) D 2 6 2 4
 康伴(こうはん・本多) → 康伴(やすとも・本多/藤原/酒井、藩主) C 4 5 3 3

L1901 弘鏝(こうばん;法諱、通称;按察あんさつ)1362-1426⁶⁵ 真言宗醍醐寺光明心院の学僧;弘濟門、
 1385伝法職位灌頂を受/92付法状を受/定忠より光助所伝の聖經法具を相伝、
 1394「石清水社仁王経法記」、「醍醐物語記」、「醍醐聞鈔」、「弘鏝口説」著

業蕃(ごうばん・祝部) → 業蕃(なりしげ・祝部はふりべ/ほうりべ/生源寺、神職/歌) H 3 2 4 0
 考槃翁(こうはんおう) → 金峨(きんが・井上/井、儒;折衷学者) 1 6 5 8
 考槃窩(こうはんか) → 読耕斎(どっこうさい・林、儒者) O 3 1 4 8
 考槃窩(こうはんか) → 観瀾(かんらん・大塚おおつか、藩士/儒者) H 1 5 7 5
 広胖窩(こうはんか) → 惺窩(せいか・藤原、儒者) 2 4 0 3
 高半居士(こうはんこじ) → 高半(こうはん;法諱、曹洞僧) K 1 9 9 6
 考槃洞(こうはんどう) → 長秋(ながあき・帆足ほあし、神道/歌学) D 3 2 1 0
 考槃堂(こうはんどう) → 金峨(きんが・井上/井、儒;折衷学者) 1 6 5 8
 考槃窩(こうはんまい) → 読耕斎(どっこうさい・林、儒者) O 3 1 4 8
 厚比(こうひ・飯野/木下) → 厚比(あつとも・飯野いひの、国学/歌人) B 1 0 3 4
 公貴(こうひ・植木) → 雨鼎(うてい・植木うえき、医者/詩文) D 1 2 1 6
 公斐(こうひ・久米) → 幹文(もとぶみ・久米/石河、藩士/国学) E 4 4 2 3
 公飛(こうひ・原) → 脩斎(しゅうさい・原はら、儒者/詩人) X 2 1 3 2
 光被(こうひ・柳沢) → 光被(みつひ・柳沢やなぎさわ、藩主) H 4 1 7 0
 光被(こうひ・所) → 光被(みつひ・所ところ、歌人) H 4 1 8 6

B1986 弘美(こうび・正住しょうじゅ、岡村鳳水長男)1808-68⁶¹ 伊勢山田の四条派絵師;父門/正住弘能の養子、
 茶道;表千家堀内茶閑門、「貝あはせ」著、

[弘美(;名)の字/通称/号]字;千鍾、通称;正治郎/将監/隼人、号;肃叟

公美(こうび/きみよし・曾禰/柳沢) → 淇園(きえん・柳沢、藩士/詩/絵師) 1 6 0 3
 公美(こうび・武田/龍) → 公美(きんよし・龍たつりゅう、儒者/詩人) E 1 6 8 7
 公美(こうび・上柳) → 四明(しめい・上柳うわなぎ/柳、儒者/詩) F 2 1 8 1
 公美(こうび・善/三宅) → 蘭溪(らんけい・三宅みやけ/善ぜん、儒;講説) B 4 8 8 6
 公美(こうび・横井/上条) → 柳廬(りゅうろ・上条かみじょう/横井、官吏/儒者) F 4 9 0 8
 公眉(こうび・草間) → 宗仙(そうせん・草間くさま、医者) I 2 5 2 8
 孝備(こうび・前田) → 孝備(たかよし・前田、藩士・家老) N 2 6 7 6
 広備(こうび・高橋) → 垣室(たんしつ・高橋、藩士/歴史編纂) I 2 6 8 0
 弘美(こうび/ひろよし?・伊藤) → 東里(とうり・伊藤、儒者) I 3 1 1 4
 好美(こうび・河野) → 好美(よしはる・河野こうの、神職/国学者) M 4 7 9 0
 光美(こうび・斉藤/室田) → 霞亭(かてい・室田/脇坂/膝とう、医/詩文) O 1 5 0 7
 光美(こうび・上田) → 光美(みつよし・上田うえた、庄屋/国学/歌) F 4 1 2 3
 光美(こうび・中臣) → 光美(みつよし・中臣/富田、神職/歌舞) F 4 1 2 4
 行美(こうび・橋村) → 正令(まさのり・橋村/度会、神職/和漢学/書) R 4 0 7 2
 高美(こうび・山鹿) → 高美(たかよし・山鹿やまが、藩士/兵学者) N 2 6 7 1
 高備(こうび・京極) → 高備(たかまさ・京極きょうごく、藩主/歌人) D 2 6 7 2
 荒尾(こうび・鹿子田) → 清廬(きよたか・鹿子田かのた、藩士/国学) P 1 6 8 0
 苟美(こうび・富田) → 春郭(しゅんかく・富田とだ、藩士/詩人) M 2 1 6 2
 黄薇(こうび・千秋) → 藤範(ふじのり・千秋せんしゅう、藩士/儒者/尊王) C 3 8 6 0
 黄薇庵(こうびあん) → 藤範(ふじのり・千秋せんしゅう、藩士/儒者/尊王) C 3 8 6 0
 公弼(こうひつ・中村) → 八兵衛(はちべえ・初代中村宗哲、千家塗師) J 3 6 4 3
 公弼(こうひつ・中村) → 漆翁(しつおう・3代中村宗哲、千家塗師/俳人) F 2 1 1 1

- 公弼(こうひつ・蒔田) → 雲処(うんしょ・蒔田まさた、詩文/仏道) D 1 2 8 1
 公弼(こうひつ・間宮/大草) → 公弼(きみすけ・大草おおくさ、幕臣/国学/史家) G 1 6 2 3
 公弼(こうひつ・坂口) → 公弼(きみすけ・坂口さかくち、藩士/国学) U 1 6 4 0
 孝弼(こうひつ・浦上) → 玉堂(ぎよくどう・浦上うらがみ、詩/画/琴) D 1 6 0 7
 孝姫(幸姫こうひめ・伊達) → 通子(道子みちこ・伊達だて/久我、歌人) J 4 1 5 6
 鋼姫(こうひめ・松平) → 鋼姫(かたひめ・松平まつだいら/戸田/酒井、藩主妻/歌) V 1 5 7 8
- G1978 康瓢(こうひょう) ? - ? 江前期俳人;1691不角「若みどり」入、
 [打ちぬけて相手のなきを基の病やまひ](若みどり/標準の域を抜出ると相手がない病弊)
- B1987 敲氷(こうひょう・上矢かみや/初姓;野沢) 1732-1801 70 甲斐南八代村生/山梨郡川田村の上矢家を相続、
 歌・国学;加賀美光章みつあき門/江戸;俳人:門瑟門/1766宗匠(平蕪庵鳥我の号)、
 帰郷後平橋庵を結庵、諸国行脚;也有と交流、
 1771「仮のやどり」74「深山木」76「埋火」80「甲斐か根百韻」81作法書「新編俳林良材」編、
 1783「折鶴」90「何れ長」93「とをかはず」編、「猿の面」「俳諧作意早伝授」「平橋庵発句集」
 [敲氷(;師の号踏襲)の別号] 平蕪庵/鳥我/平橋庵、法号;眞誉実鏡敲氷居士
- L1903 光豹(こうひょう・佐久間さくま) 1779-1854 76 盛岡南部藩儒/和算:志賀吉倫門、1801「整数集」編、
 1835「造曆捷術」42「土曜考」44「求故蝕限」45「造曆秘録」50「算法雑記」著、「算法挙要」編、
 [光豹(;名)の通称/号]通称;宇助、号;温知斎/忘憂斎/立斎
- 孝標(こうひょう・菅原) → 孝標(たかすえ・菅原、更級日記作者の父) 2 6 0 9
 孝標(こうひょう/たかひで・畑中) → 青霞(せいか・畑中はたなか、藩士/詩文) H 2 4 5 4
 高標(こうひょう・毛利) → 高標(たかすえ・毛利、藩主/教育振興) C 2 6 8 5
 敲氷(こうひょう・小宮山) → 門瑟(もんしつ・小宮山こみやま、俳人) I 4 4 2 4
 光彪(こうひょう・秋山) → 光彪(てるたけ・秋山、原、兵学/国学) C 3 0 7 9
 孔彪(こうひょう・勝部) → 青魚(せいぎよ・勝部/勝、医者/儒/俳人) B 2 4 0 1
 高品(こうひん・山口) → 高品(たかただ・山口、幕臣/蝦夷調査) M 2 6 2 1
 公賓(こうひん・東条) → 英庵(えいあん・東条、洋学/兵学者) C 1 3 5 1
 公賓(こうひん・酒井) → 晦堂(かいどう・酒井さかい、藩士/儒者) H 1 5 1 9
 公敏(こうびん・洞院) → 公敏(きんとし・洞院とういん、廷臣/歌人) E 1 6 3 9
 公敏(こうびん・池野) → 大雅(たいが・池/池野、絵;文人画) B 2 6 1 2
 公敏(こうびん・杉山) → 熊台(ゆうだい・杉山すぎやま、藩士/儒者) D 4 6 3 7
 広敏(こうびん・加納) → 広敏(ひろとし・加納かのう、商家/歌人) I 3 7 9 9
 幸敏(こうびん・松田) → 秋池(しゅうち・松田まつだ、儒者/詩) Y 2 1 0 0
 広浜堂(こうひんどう) → 長見(ながみ・森、国学者) F 3 2 8 4
- L1904 孔阜(こうぶ・長井ながい、通称;左兵衛、別号;百常観)?-? 江後期文化1804-18頃伊勢の俳人、
 士朗門系、1780「安永九集」著、「百常観点取帳」評
- 亨父(こうぶ・阿部) → 樸斎(れきさい・阿部あべ、医者/本草家) 5 1 7 5
 洪夫(こうぶ・山厓) → 洪(こう・山厓やまぎし、医者) H 1 9 1 3
 広父(こうぶ・那波) → 山斎(さんさい・那波なば、医者/儒) M 2 0 2 3
 広布(こうぶ・服部) → 広布(ひろたえ・服部はっとり、藩士/国学) I 3 7 3 4
 広富(こうぶ・秋山) → 広富(ひろとみ・秋山あきやま、農業/藩士/歌) L 3 7 9 6
 交孚(こうぶ・高橋) → 交孚(かたざね・高橋たかはし、医/儒者) U 1 5 9 3
 光傳(こうぶ・堀江) → 光傳(みつせ・堀江/藤原、武家/連歌) D 4 1 6 5
 光孚(こうぶ・幸田) → 光孚(みつたか・幸田/度会、神職) C 4 1 9 8
 光孚(こうぶ・木下) → 光徳(みつなり・木下きのした、藩士/国学) I 4 1 8 1
 光浮(こうぶ・本庄/井上) → 安彦(やすひこ・井上いのうえ/本庄、神職) F 4 5 2 5
 幸夫(こうぶ・早川/矢野) → 一貞(かずさだ・矢野やの、藩士/地誌) M 1 5 2 3
 幸夫(こうぶ・内田) → 幸夫(ゆきお・内田うちだ、医者/国学者) G 4 6 6 3
 幸夫(こうぶ・森岡) → 幸夫(ゆきお・森岡もりおか、藩士/国学/歌) H 4 6 3 6
 甲夫(こうぶ・吉田/塚原) → 鰲岐(ごうき・吉田/吉、儒者/歌) I 1 9 2 3
 厚父(こうぶ・佐枝) → 尹重(これしげ・佐枝/佐岐さえた、兵法家) E 1 9 2 4
 弘孚(こうぶ・孫福) → 弘孚(ひろさね・孫福まごぶく、神職) F 3 7 8 5

弘敷(こうふ・足代)	→	弘敷(ひろのぶ・足代あじろ/度会、神職)	G 3 7 8 4
弘敷(こうふ・服部)	→	広布(ひろたえ・服部はっとり、藩士/国学)	I 3 7 3 4
皓輔(こうふ・法諱)	→	仁英(にんえい:道号・省輔せいほ、臨濟僧)	G 3 3 1 7
綱敷(こうふ・横田)	→	綱敷(つなのぶ・横田よこた、商家/史家)	B 2 9 0 7
耕夫(こうふ・井田)	→	澹泊(たんぱく・井田いだ、藩士/儒者)	I 2 6 5 7
康富(こうふ・中原)	→	康富(やすとみ・中原なかはら、廷臣/詩歌)	C 4 5 2 8
貢父(こうふ・鈴木)	→	新蔵(しんぞう・鈴木、医者)	P 2 2 2 1
興夫(こうふ・南部)	→	麿男(みかお・南部なんぶ、勤王家)	H 4 1 3 9
高武(こうぶ・小野)	→	高尚(たかひさ・小野おの、幕臣/国学者)	D 2 6 5 6
弘武(こうぶ・多田)	→	弘武(ひろたけ・多田ただ/田、和算家)	G 3 7 2 4
弘武(こうぶ・本間)	→	弘武(ひろたけ・本間ほんま、武術家)	G 3 7 2 4
光武(こうぶ・神崎)	→	光武(みつたけ・神崎かんざき/大中臣、神職)	I 4 1 7 5
光武(こうぶ・浅野)	→	光武(みつたけ・浅野あさの/源、藩士/歌人)	D 4 1 7 8
好武(こうぶ・久山)	→	好武(よしたけ・久山ひさやま、医者/歌人)	L 4 7 0 7

B1989 **行風**(こうふう/ぎょうふう・生白堂せいぱくどう[庵]・姓;朝倉、字;懐中) 1619?-1684?(1688前没) 大阪の商人、狂歌作者、大坂高津のち常磐町住、1666「古今夷曲集」73「後撰夷曲集」79「銀葉夷歌集」編、1673「有馬私雨」78「迎湯有馬名所鑑」著、1664重頼「佐夜中山集」73西鶴「哥仙大坂俳諧師」81賀子「山海集」82春林「難波色紙」入、[行風の通称] 伊勢屋山右衛門

[山眉にかすみをひきて腰すそも優うなる春の立ち姿哉](古今夷曲集;一立春)
(春山を美女に見立てる/かすみは霞と眉墨を掛ける)

L1905 **香風**(こうふう・別号;悠寛斎/宗祇庵)?-? 江後期紀伊牟婁郡田辺の俳人/連歌、陸奥の歌枕を行脚;途中信州で菅江真澄と出会う、1783「笠やどり」、1801宗祇3百年忌「田乃保刀李」編、

香風(こうふう・尾山屋)	→	薫(かおる・梅本うめもと、経師/歌・俳人)	T 1 5 7 9
興風(こうふう・藤原)	→	興風(おきかぜ・藤原、古今歌人)	1 4 1 1
好風(こうふう・藤原)	→	好風(よしかぜ・藤原、廷臣/歌人)	C 4 7 5 7
好風(こうふう・平)	→	好風(よしかぜ・平、廷臣/歌人)	C 4 7 5 8
好風(こうふう・姓不詳)	→	好風(よしかぜ、廷臣/歌人)	F 4 7 0 7
江風(こうふう・滝)	→	牛郷(うしさと・滝たき/柳田、藩士・歌人)	E 1 2 7 7
光風(こうふう・八田八田宮内少輔)	→	都の錦(みやこのにしき、浮世草子)	4 1 3 9
光風(こうふう・佐久間)	→	立斎(りつさい・佐久間さくま、兵学者)	B 4 9 8 3
光風(こうふう・近藤)	→	南海(なんかい・近藤こんどう、儒者)	I 3 2 6 2
広封(こうふう→ひろあつ・毛利)	→	元徳(もとりのり・毛利/大江、藩主/歌人)	D 4 4 8 6
広風(こうふう・中坊)	→	広風(ひろかぜ・中坊なかのぼう、幕臣/奉行)	I 3 7 4 7
広風(こうふう・藤井)	→	広風(ひろかぜ・藤井ふじい、神職/国学)	K 3 7 8 3
弘風(こうふう・伊藤)	→	弘風(ひろかぜ・伊藤いとう、国学者)	F 3 7 7 0
高風(こうふう・宮道)	→	高風(たかかぜ・宮道みやじ、廷臣/歌人)	C 2 6 6 1
高風(こうふう・村田)	→	了阿(りょうあ・村田むらた、和漢学/書)	G 4 9 0 1
皇風(こうふう・鈴木)	→	八束(やつか・鈴木すずき、国学/歌人)	G 4 5 0 5
紅風軒(こうふうけん)	→	和海(わかい・梅原うめばら、柿園3世、俳人)	5 3 0 3

F1936 **江府散人**(こうふうさんじん、本名不祥)?-? 江中期;1744随筆「野藪談話」序

公福(こうふく・三条西)	→	公福(きんとみ・三条西/西三条、歌人)	E 1 6 4 1
広福(こうふく・隠岐)	→	広福(ひろとみ・隠岐おき・藤原、廷臣/儒)	G 3 7 5 3
高福(こうふく・三井)	→	高福(たかよし・三井、商家;財閥の礎)	N 2 6 7 7
弘福(こうふく・中西)	→	弘乗(ひろのり・中西/度会、神職)	G 3 7 8 7
光福(こうふく・河路)	→	光福(みつとみ・河路かわじ、商家/歌人)	I 4 1 7 3
光福(こうふく・森)	→	光福(みつとみ・森もり、藩の儒者)	E 4 1 0 4
康福(こうふく・松平)	→	康福(やすよし・松平まつだいら、藩主/老中)	D 4 5 5 2
幢幅軒(こうふくけん)	→	立斎(りつさい・桑田くわた、医者/種痘実施)	B 4 9 9 7

光福寺前内大臣女(こうふくじさきのないだいじんのむすめ;風雅集)→

冬氏女(ふゆうじのむすめ・大炊御門おおいみかど、歌人) E 3 8 2 4

講武軒(こうぶけん・近藤) → 富蔵(とみぞう・近藤、地誌家/遠島) O 3 1 8 6

郷英台禾英(ごうふだいかい) → 義暁(よしあき・錦織にしごり、商家/庄屋/日記) O 4 7 3 6

講武堂(こうぶどう) → 白龍子(はくりゅう・神田、兵学/談義本) E 3 6 0 8

高芙蓉(こうふよう、篆刻) → 芙蓉(ふよう・高/大島、書家/篆刻) E 3 8 4 7

F1937 黄吻(こうぶん) ? - ? 江前期俳人、1680?言水「江戸弁慶」入

L1906 耕文(こうぶん・長尾ながお/数楽かずら、字;富利)?-? 江中期江戸呉服町の書家;長雄耕雲門、
長雄耕文と称す、1772「長尾書札集」74「世話千字文」75「鶏明帖」89「散書かな文章」外多数

幸文(こうぶん・木下) → 幸文(たかふみ・木下、農業/歌人) 2 6 1 5

光文(こうぶん・土山/小佐治) → 光文(みつふみ・小佐治こさじ/藤原、廷臣/日記) E 4 1 7 9

光文(こうぶん・土佐) → 光文(みつふみ/みつあや・土佐/藤原、絵師) E 4 1 8 0

好文(こうぶん・茂木) → 知亮(ともすけ・茂木もてぎ、藩士/歌/俳人) P 3 1 6 0

好文(こうぶん・よしふみ・田中) → 止邱(止丘しきゅう・田中/田、儒者) B 2 1 5 8

好文(こうぶん・徳川/南部) → 明子(あきこ・南部、歌/紀行) D 1 0 3 6

好文(こうぶん・柳河) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1

好文(こうぶん・上田) → 好文(よしふみ・上田うえだ、国学者) L 4 7 7 3

好文(こうぶん・藤井) → 良文(好文よしふみ・藤井ふじい松林、藩絵師) O 4 7 8 6

好文(こうぶん・翠川) → 好文(よしふみ・翠川みどりかわ、駅吏/国学) P 4 7 3 4

公文(こうぶん・飯田) → 豹(はだら・飯田、詩歌) E 3 6 8 1

公文(こうぶん・石山) → 瀛洲(えいしゅう・石山いしやま、医者/詩歌) C 1 3 9 2

公文(こうぶん・姉小路) → 公文(きんふみ・姉小路あねがこうじ、権大納言) T 1 6 4 1

公文(こうぶん・宮沢) → 行(すむ・宮沢みやざわ、国学者) J 2 3 2 8

弘文(こうぶん・三矢田) → 弘文(ひろふみ・三矢田、玉田玉枝、神道講釈) H 3 7 0 8

興文(こうぶん・細川) → 興文(おきのり/おきふみ・細川、藩主/歌) 1 4 7 6

行文(こうぶん・消奈) → 行文(ぎょうもん・消奈しょうな/背奈せな、博士/詩歌) C 1 6 8 6

高文(こうぶん・藤堂) → 高文(たかふみ・藤堂、藩国老/漢学者) D 2 6 6 9

洪文(こうぶん・牧) → 東海(とうかい・牧/橘、儒者/兵学/歌) B 3 1 9 1

孝文(こうぶん・大江/坂平) → 孝文(たかふみ・大江おおえ/坂平、藩士/歌) W 2 6 0 6

興聞閣(こうぶんかく) → 原甫(げんぼ・堀/小川、書肆) J 1 8 4 7

甲文丘(こうぶんきゅう/かめおか) → 守手(もりて・中村/永井、神職/国学/歌) F 4 4 8 7

光文景(こうぶんけい・豊田) → 頼筐(よりゆき・有馬ありま、藩主/和算家) J 4 7 9 3

好文舎(こうぶんしゃ) → 青氏(せいし・好文舎、歌舞伎用語集) B 2 4 8 6

好文舎花兄(こうぶんしゃかけい) → 花兄(かけい・好文舎、嘶家) E 1 5 9 2

弘文天皇(こうぶんでんのう) → 大友皇子(おおとものみこ) B 1 4 0 5

興文堂(こうぶんどう) → 徳恒(とくこう・高橋、書肆/俳人) K 3 1 6 9

弘文堂(こうぶんどう) → 義兵衛(ぎへえ・細谷ほそや、書肆) L 1 6 8 9

耕文堂(こうぶんどう) → 素狄(そてき・伏屋ふせや/吉村、医者) K 2 5 1 4

好文堂(こうぶんどう) → 直温(なおほる・山田、儒者) C 3 2 1 6

好文堂武泰(こうぶんどうたけやす) → 武泰(たけやす・好文堂、歌人) O 2 6 8 6

F1938 孝平(こうへい・たかひら・神田かんだ、名;孟恪、孟明男) 1830-9869 美濃不破郡岩手村の儒者;牧善輔門、
江戸で儒;塩谷宕陰・安積良斎門、蘭学者;杉田成卿・伊東玄朴門、1862蕃所調所教授出役、
1868開成所教授・頭取/維新後新政府出仕:1等訳官/兵庫県令/文部少輔/1876元老院議官、
1890貴族院議員/錦鶏間祇候、脊髄病で没、考古学精通、「明六雑誌」に投稿/翻訳多数、
1861「ヨンケル・ファン・ロデレイキノ件」訳(楊牙児奇談)、61「農商建国辨」67「経済小学」、
1879「評点経世余論」

[孝平(;通称)の号] 唐華陽/淡崖/有不為楼、法号;神性院

L1908 宏平(広平こうへい・原はら、別名;広方、桂助男) 1838-192487 越後新発田の醤油醸造業住吉屋の分家、
儒;丹羽思亭門/歌人;井上桐麿(桐斎)門/八田知紀・本居豊穎門、一日千首詠/草体の書家、
「松堂翁一日五百首」著、

[宏平(；名)の通称/号]通称；富次郎、号；松堂/蟹庵

公平(こうへい・広川/植原) → 正方(まさかた・植原/広川、藩士/水練) B 4 0 9 9
公平(こうへい・岡沢) → 公平(きんひら・岡沢おかざわ、藩士/歌人) T 1 6 8 3
光平(こうへい・二条) → 光平(みつひら・二条/藤原、撰関/記録) E 4 1 6 4
広平(こうへい・森田) → 清堅(きよかた・宇仁うに、儒者) O 1 6 7 0
幸平(こうへい・賀茂) → 幸平(ゆきひら・賀茂かも、神職/歌人) F 4 6 4 5
幸平(こうへい・鹿子木) → 量平(りょうへい・鹿子木かのこぎ、庄屋/勸農家) J 4 9 3 5
幸平(孝平こうへい・中村/中島) → 喜勝(よしかつ・中島/中村、砲術家) C 4 7 9 0
弘平((こうへい・奥山) → 鳳鳴(ほうめい・奥山おくやま、儒者) C 3 9 5 6
弘平((こうへい・成宮) → 弘平(ひろひら・成宮なるみや、里正/歌人) K 3 7 5 1
行平(こうへい・在原) → 行平(ゆきひら・在原ありわら、廷臣/歌人) 4 6 0 9
宏平(こうへい・原) → 宏平(ひろひら・原はら、国学/歌人/町長) K 3 7 7 1
恒平(こうへい・橘) → 恒平(つねひら・橘たちばな、廷臣/歌) D 2 9 4 5
孝平(こうへい・金沢) → 椿山(ちんざん・金沢、薬種業) K 2 8 7 5
孝平(こうへい・橘) → 孝平(たかひら・橘たちばな、医者/国学/歌) Y 2 6 1 1
好平(こうへい・小泉) → 好平(よしひら・小泉こいずみ、庄屋/国学) M 4 7 6 8
高平(こうへい)すべて → 高平(たかひら)
高炳(こうへい・三宅) → 高炳(たかあき・三宅みやけ、絵師) Z 2 6 7 0
耕平(こうへい・吉田) → 利和(としかず・吉田、歌人) M 3 1 1 4
綱平(こうへい・九条/二条) → 綱平(つなひら・二条/九条、関白/歌人) B 2 9 2 5
綱平(こうへい・小林) → 脩(おさむ・小林、医者) D 1 4 0 9
洪平(鴻平こうへい・藤井) → 樗亭(ちよてい・藤井ふじい、医/詩文) K 2 8 4 2
衡平(こうへい・下村/島村) → 弘堂(こうどう・島村しまむら、儒者) G 1 9 4 2
衡平(こうへい・小久保/桑田) → 省庵(せいあん・桑田/小久保、医者) H 2 4 3 2
衡平(こうへい・中島) → 操存斎(そうそんさい・中島/加峰、藩儒) C 2 5 4 1
衡平(こうへい・島地) → 保定(やすさだ・島地しまじ、藩士/歌人) F 4 5 9 9
衡平(こうへい・館川) → 衡平(やすひら・館川たちかわ/小島、国学/尊攘) G 4 5 2 3
興平(こうへい・森) → 遜亭(そんてい・森もり/源、儒者) F 2 5 6 5

L1909 **剛平**(ごうへい・代島だいじま) 1816-1874⁵⁹ 蝦夷松前藩士；箱館の町方頭取/砲・柔・剣術修得、心学；西川晩翠門；師没後誠終舎で講師、藩主命で西洋砲術・兵隊操練；福山の竹田作郎門、藩士を訓練、砲台改良/台場改築に尽力、1854米露来航時に応接掛、箱館奉行支配定役、維新後小学校開設/明正会を興し夜間に心学講義/神道を布教、「函館砲台新築書類」著

L1907 **剛屏**(ごうへい・中居なかい、幼名；武之助、黒岩幸右衛門男) 1820-61⁴² 母；杉村霞皐女、上州中居村の人、1842江戸本町書肆和泉屋善兵衛に勤務/佐久間象山の塾に入門、蘭学；伊東玄朴門、1859横浜で生糸貿易商(屋号中居屋)；横浜一の富商となる、幕府に捕縛；獄死説or逃亡説？、1854「子供教草」55「砲薬新書」59「昇平日録」著、[剛屏(；号)の字/通称/別号]字；儀倚、通称；撰之助/撰之介/重兵衛、別号；梅遅(；俳名)、法号；大乘院

広平親王(こうへいしんのう) → 広平親王(ひろひらしんのう、歌人) H 3 7 0 0
公平女(こうへいのむすめ・橘) → 公平女(きんひらのむすめ・橘たちばな、歌人) E 1 6 6 2
幸兵衛(こうべえ・林) → 麿甫(みかとし・林はやし、庄屋/国学者) K 4 1 1 3
候兵衛(こうべえ・門田) → 候兵衛(そろべえ・門田、歌伎作者) E 2 5 5 9
孝兵衛(こうべえ・佐野屋) → 淡雅(たんが・菊池/大橋、商家/儒者) T 2 6 2 1
孝兵衛(こうべえ・佐野屋) → 澹如(たんじょ・菊池、淡雅男/儒/難民救済) I 2 6 8 4
孝兵衛(こうべえ・杉谷) → 範成(のりしげ・今小路いまこうじ/杉谷、坊官) H 3 5 4 2
恒兵衛(こうべえ・綾部) → 重麗(じゅうれい・綾部あやべ、藩儒者) I 2 1 4 3
耕兵衛(こうべえ・菅沼) → 定敬(さだたか・菅沼すがぬま、国学者) O 2 6 8
剛兵衛(ごうべえ・山下) → 盛徳(もりり・山下やました、藩士/国学) L 4 4 7 9

L1910 **光遍**(こうへん；法諱・号；乗如じょうにょ/愚船、東本願寺17世光性[真如]男) 1744-1792⁴⁹ 真宗大谷派僧、近衛内前の猶子/大谷派本願寺19世、1756得度/60宗務継承/88堂宇焼失；大谷別院移住、

1770「乗如上人御示御書」「越後御裁判御書」72「無量寿経聞書」78「乗如上人御書」著、
[光遍の幼名/諡号]幼名;説磨/光養磨、諡号;歓喜光院

行遍(こうへん;僧)すべて→ 行遍(ぎょうへん)

- 1919 **高弁**(こうべん;法諱・明恵みょうえ;号、初諱;成弁、母尾上人、平重国男)1173-123260 母:湯浅宗重女、
紀州在田郡石垣庄生、8歳で両親死別/高尾真言神護寺入山;1188出家/華嚴;東大寺景雅門、
密教;神護寺修学/渡印度を試み病で断念/1206母尾高山寺開祖、華嚴密教の新教団組織、
源空に反駁;「摧邪輪ざいじりん」、夢の重視「夢記」、歌人;家集「遺心和歌集」、「明恵上人歌集」、
「華嚴唯心義」「華嚴修禪觀照入解脱門義」「眞聞集」「明恵上人法語」、「明恵上人遺訓」外著多、
勅撰27首;新勅(5首;624-627/1081)続後撰(2首)続古(2首)以下

[木に刻み絵に書きたるを生身しうじんと思へえばやがて生身にて有るなり]

(彫刻絵画の仏も真仏となる:絵本法然、明恵上人遺訓)

[あかあかやあかあかあかあかやあかあかやあかあかあかやあかあかや月](明恵上人集;152)

- B1990 **亨弁**(高弁こうべん;法諱/上人)?-1755 江中期江戸麻布の日蓮宗長幸寺6世住職、
歌学;連阿門/烏丸光栄門、1745頃から江戸堂上歌道の指導者;伊藤松軒・萩原宗固らの師、
1747家集「招嘲集」、47「萩の名残」、54歌語学「和歌童翫抄」、「身延紀行」「影見草」外多数、
石野広通「霞関集」入、

[時雨をばよそなる松も吹く風やあらそひかねて積る白雪](霞関;冬649/常磐木雪)、

[守り捨てて荒れ行く小田の仮庵にたえだえ残る水の音信おとぬ](同初撰;田家の笈の水)、

[亨弁の号/法号]号;習古庵/習古堂/遁危子、法号;法住院日義

- L1911 **好弁**(こうべん) ? - ? 時宗僧;蓮阿門、「小補竹葉集」編

広弁(こうべん・角) → 広弁(ひろべ・角朝臣つのおそみ、万葉歌人) H 3 7 1 0

孝弁(こうべん;字) → 日堯(にちぎょう;法諱・一妙院、日蓮僧) B 3 3 3 8

好弁(こうべん;字) → 日裕(にちゆう;法諱・見竜院、日蓮僧) D 3 3 3 5

公冕(こうべん;字) → 無幻(むげん;法諱、修験僧/書家) 4 2 4 9

- B1991 **公弁法親王**(こうべんほっしんのう、俗名;秀憲、後西天皇皇子)1669-171648 母:梅小路定子、天台僧、
山科毘沙門堂公海門/法嗣/82毘沙門堂継承/90江戸寛永寺入/93一品;天台座主、
1707准三宮/15山科隠棲、詩人;1711「和李嶠百二十詠」催、「東叡山毘沙門天像靈異記」著、
「常憲大相国公事蹟」、「久遠寿院准三宮伝」「久遠寿院准三宮略記」著、
[公弁法親王の幼名/号/通称]幼名;貴宮、号;玄堂、通称;大明院准三宮/久遠寿院准三宮

- L1912 **功甫**(こうほ;道号・玄勲げんくん;法諱)?-1524 美濃の臨濟僧;大雅崙匡(たいがたんきょう)門/嗣法、

美濃大仙寺住寺、1520守護土岐家の法要の導師、「梅北集」著

- L1913 **功甫**(こうほ;道号・洞舟とうしゅう;法諱)?-? 室町期臨濟僧;桃溪桂悟門/嗣法、

1533建仁寺274世;不入、南禅寺住寺;不入、1520「釈門排韻」著

- L1914 **孝甫**(こうほ、宗長の弟) ? - ? 歌/連歌、1567三条西実枝編「古今血脈」書写

- L1915 **光甫**(こうほ・本阿弥ほんあみ、号;空中斎、光瑳男)1602-8281 京鑑定家:父門、母;宗家9世光徳女妙山、
1641法眼、陶芸;[空中信楽]制作、香/画に通ず、「本阿弥行状記」編纂参加、「空中斎艸鈔」著、
「大伝太刀由來記」「小鍛冶薙刀由來記」「空中斎秘伝書」「空中艸」「古代銘尽」著

- R1974 **孝甫**(こうほ・北村みきたむら) ? - ? 江中期;歌人;宮川松堅門(妻の楚濃そとと共に)、

1722松堅[倭譚五十人一首]入/頭糺[同追加]5首入(妻と入/娘以波いわも[追加]入集)、

[かならずとまつにかひなきまきの戸に聞きたがへたる萩の上風]、

(倭歌五十人一首;28/違約恋/まきの戸;[ま]は美称/木戸)、

[かげ深くなる春日野の若草に妻こもれりときぞす鳴くなる](同追加;雉子)

- L1916 **光甫**(こうほ) ? - ? 摂津灘の俳人;1772几董「其の雪影」入

[川下に難波なにはもあるか真菰まも売り](其の雪影;巻尾272)

- L1917 **好甫**(こうほ・秋田あきた、別号;慰日庵、秋田坦々男)?-? 江後期俳人:一具門(父と同門)、

1850「あこめ垣」尋香と共編

- L1918 **阜畝**(こうほ・宮脇みやわき、名;令典)?-? 江後期石見の俳人、1854「濤々庵句集」編

[阜畝の字/通称/別号]字;子章、通称;清之助、別号;一松井いっしょうせい

高歩(こうほ→たかゆき・小野)→ 鉄舟(てつしゅう・山岡、武芸;剣術) C 3 0 4 3

高輔(こうほ→たかすけ・平)→ 高輔(たかすけ・平たいら、廷臣/記録) C 2 6 8 8

- 高保(こうほ・服部) → 高保(たかやす・服部はつとり、国学者/歌学) D 2 6 9 5
- 考甫(こうほ・井上いのうえ) → 東溪(とうけい・井上、儒者) D 3 1 0 5
- 考保(こうほ・北村) → 考保(としやす・北村きたむら、商家/歌人) U 3 1 9 9
- 行甫(こうほ・大地) → 東川(とうせん・大地おおち、藩士、儒者/詩) G 3 1 1 2
- 行甫(こうほ・小野田) → 素寧(もとやす・小野田おのだ/雲井、医/詩歌/画) J 4 4 4 9
- 行保(こうほ/ゆきやす・赤石) → 蒲池(ほち・赤石あかいし、藩士/俳人) E 3 9 4 7
- 行保(こうほ・菌田) → 行保(ゆきやす・菌田そのだ、神職) F 4 6 8 8
- 行輔(こうほ・九条) → 行輔(ゆきすけ・九条/藤原、廷臣/歌人) E 4 6 5 5
- 皓輔(こうほ;法諱・仁英) → 仁英(にんえい:道号・省輔、臨濟僧) G 3 3 1 7
- 紅圃(こうほ;号) → 信親(のぶちか・森もり、蒔絵師/俳人) B 3 5 9 6
- 香圃(こうほ) → 経亮(つねあきら・橋本/橋、神職/故実/歌) B 2 9 5 9
- 公甫(こうほ/きみすけ?・堤/塘) → 它山(たざん・堤/塘つみ、儒者/詩人) E 2 6 5 9
- 公甫(こうほ・有吉) → 高陽(こうよう・有吉、藩士/漢学/経済) L 1 9 4 8
- 公甫(こうほ・藤田) → 容斎(ようさい・藤田ふじた、儒/教育者/詩) B 4 7 0 0
- 公保(こうほ・三条西) → 公保(きんやす・三条西/西三条、歌人) E 1 6 8 2
- 公輔(こうほ・高向) → 湛契(たんけい;法諱・義学;字、天台僧/廷臣) T 2 6 3 2
- 公輔(こうほ・草加) → 驪川(りせん・草加くさか、儒者) B 4 9 3 8
- 公輔(こうほ・河本) → 公輔(きんすけ・河本かわもと、国学者/歌人) C 1 6 5 5
- 公輔(こうほ・周布/麻田) → 政之助(まさのすけ・周布すぶ、藩政改革) F 4 0 4 8
- 光保(こうほ・小泉) → 松卓(しょうたく・小泉こいずみ、和算家) K 2 2 7 5
- 光保(こうほ・森) → 光保(みつやす・森もり、国学者・歌人) K 4 1 8 1
- 光保(こうほ・八幡) → 光保(みつやす・八幡やわた、神職/国学) K 4 1 8 4
- 光葆(こうほ・牧) → 光葆(みつげ・牧まき、絵師/国学) K 4 1 5 1
- 光甫(こうほ・吉村) → 光甫(みつとし/みつよし・吉村、国学者/画) E 4 1 0 2
- 光甫(こうほ・吉村) → 幹斎(かんのさい・吉村よしむら、藩士/儒者) Q 1 5 5 9
- 光甫(こうほ・早川) → 広海(ひろみ・早川/安田、医者/国学/俳) H 3 7 2 1
- 光輔(こうほ・外山) → 光輔(みつすけ/みつね・外山とやま/藤原、廷臣) D 4 1 6 8
- 光輔(こうほ・近藤) → 光輔(みつすけ・近藤こんどう、国学者/歌) D 4 1 6 7
- 光輔(こうほ・時田) → 光介(みつすけ・時田ときだ、藩士/実業家) J 4 1 8 5
- 広甫(こうほ/ひろすけ・宮沢) → 竹堂(ちくどう・宮沢みやざわ、詩人) D 2 8 6 3
- 厚甫(こうほ・吉田) → 臥龍(がりよう・吉田よしだ、藩士/漢学者) P 1 5 7 5
- 厚甫(こうほ・青木) → 昆陽(こんよう・青木、儒/蘭学/甘藷研究) 1 9 5 5
- 厚保(こうほ/あつやす?・古森) → 痴雲(ちうん・古森こもり、書家/俳人) 2 8 4 1
- 耕甫(こうほ・久田) → 湖山(こざん・久田ひさだ、儒者:経学) M 1 9 6 0
- 慊甫(こうほ/こうすけ・下村/島村) → 弘堂(こうどう・島村しまむら、儒者) G 1 9 4 2
- 弘保(こうほ;名) → 教仁法親王(きょうにんほつしんのう、天台座主) O 1 6 4 4
- 康甫(こうほ・巽) → 静庵(せいあん・巽たつみ、書家) H 2 4 2 7
- 康保(こうほ・松平) → 康保(やすもち・松平まつだいら、幕臣/歌人) D 4 5 2 3
- 光謨(こうほ・柳井/浦野) → 光謨(みつり・浦野/柳井、藩士/農政) E 4 1 4 6
- L1919 **合浦**(ごうほ;道号・永琮えいそう;法諱、細川持有男) 1431-8656 臨濟僧:1438(8歳)出家/惟忠通如門、
建仁寺永得庵5世/越中金剛寺・山城安国寺住寺/建仁寺225世、「合浦録」著
- 剛甫(こうほ・神谷) → 田楽(でんがく・椒芽きのめ、医者/戯作者) D 3 0 2 5
- 剛甫(こうほ・内藤) → 尚賢(なおかた・内藤、本草家) 3 2 9 7
- L1920 **光宝**(こうほう;法諱・鳥羽法印、堀河中納言藤原光雅男) 1177-123963 真言僧、
1201成宝門;灌頂を受/17醍醐寺三宝印成賢門;伝法灌頂を受、
1218醍醐寺座主/21衆徒から追放/28還補、成賢流光宝方の祖、
1202「座主相承大事」20「秘要鈔」、「自行秘記」、「如法愛染王法」、「諸尊法」著、
[光宝の通称] 鳥羽法印/式部律師/左衛門督法印さえもんのかみのほういん/平等心院大僧都
- L1921 **幸方**(こうほう/ゆきかた?・安平次あへいじ) ?-? 江前期大阪の俳人;1678西鶴「物種集」入、
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、91賀子「蓮実」4句入、

[妹が手の爪の跡ある五加木にぎ哉](蓮実;162/妻の摘んだ若葉に爪の跡を発見)

- L1923 **江峯**(こうほう;道号・宗激[そうきょう];法諱)?-1730 臨濟僧;建仁寺317世/1711改衣/18再任、
「五嶽廻状公儀触書控」著
- L1924 **幸豊**(こうほう/ゆきとよ) ? - ? 江戸中期連歌;1743吉宗還曆「御賀おんが千句」参加
- L1925 **高峰**(こうほう;道号・東峻[とうしゅん];法諱、初号;魯峰) 1714-7966 撰津池田臨濟僧;東陵曇延門、
師没後;在溪慈穆・性堂慧杲門/性堂に嗣法、1755建仁寺335世/南禅寺住寺、
「枝蔓録」「靈松一枝」「東山歴代」編/「俗語便覧」外多数、妙在「若木集」に「拾遺・附録」補
- 高峰(こうほう;道号・顕日)→ 顕日(けんいち;法諱・高峰、仏国禅師、臨濟僧) C 1 8 8 6
- 高方(こうほう・佐久間) → 立斎(りつさい・佐久間さくま、兵学者) B 4 9 8 3
- 高包(こうほう・京極) → 高本(たかもと・京極きょうごく、幕臣) N 2 6 3 9
- 高包(こうほう・中山) → 高包(たかかね・中山なかやま、歌人/代官臣) Y 2 6 6 6
- 高宝(こうほう・早雲) → 高宝(たかとみ・早雲はやくも、藩士/神職) Z 2 6 0 2
- 高豊(こうほう) すべて → 高豊(たかとよ)
- 厚豊(こうほう・山内) → 豊雍(とよちか・山内やまのうち、藩主/歌) R 3 1 2 6
- 公豊(こうほう・正親町三条)→ 公豊(きんとよ・三条/正親町三条、歌) E 1 6 4 3
- 公方(こうほう・惟宗) → 公方(きんかた・惟宗これむね、明法家) H 1 6 7 6
- 公方(こうほう・藤原) → 公方(きんまさ・藤原、文章博士/歌) R 1 6 7 9
- 公報(こうほう;法諱) → 眞証(しんしゅう;法諱、真宗高田派僧) O 2 2 8 9
- 公鳳(こうほう・山県/村瀬/野沢)→ 昌樹(まさき・野沢/村瀬/山県、与力/詩歌) C 4 0 2 2
- 広方(こうほう・占部うらべ) → 広方(ひろかた・占部うらべ、防人/万葉歌) 3 7 1 6
- 広方(こうほう・寺崎) → 広方(ひろかた・寺崎てらさき、藩奉行/宿老) K 3 7 2 3
- 広方(こうほう・原) → 宏平(ひろへい・原、商家/歌人) L 1 9 0 8
- 広方(こうほう・大江) → 広方(ひろかた・大江おおえ、神職/儒者) I 3 7 8 1
- 広邦(こうほう・鶺鴒) → 拙斎(せつさい・鶺鴒うがい、藩士/攘夷派) K 2 4 9 9
- 広豊(こうほう・四辻/芝山)→ 広豊(ひろとよ・芝山/四辻、廷臣/語学) G 3 7 5 6
- 広豊(こうほう・守山) → 広豊(ひろとよ・守山もりやま、神職/歌人) L 3 7 5 0
- 行方(こうほう・藤原) → 行方(ゆきかた・藤原、廷臣/歌人) E 4 6 4 1
- 行方(こうほう・蒲坂) → 青荘(せいそう・蒲坂ほさか、漢学者) C 2 4 4 9
- 行豊(こうほう・平松/石井)→ 行豊(ゆきとよ・石井いらい/平/平松、廷臣) F 4 6 0 8
- 光方(こうほう・惟宗) → 光方(みつかた・惟宗これむね、南北期歌人) L 4 1 1 8
- 光方(こうほう・田中) → 光方(みつかた・田中、銀竹軒/俳人) D 4 1 2 2
- 光芳(こうほう・土佐) → 光芳(みつよし・土佐とさ・藤原、絵師) F 4 1 1 8
- 光葆(こうほう・牧) → 光葆(みつしげ・牧まき、絵師/国学) K 4 1 5 1
- 光邦(こうほう・木下) → 光邦(みつくに・木下きのした、商家/歌人) I 4 1 7 8
- 光邦(こうほう・梅谷) → 光邦(みつくに・梅谷うめたに/荒木田、国学) D 4 1 3 4
- 光包(こうほう・久世) → 光包(みつかね・久世くぜ、国学者) I 4 1 9 1
- 光宝(光憲こうこう・木下)→ 光宝(みつとみ・木下きのした/鷺津、商家/陪臣/国学) I 4 1 8 0
- 光豊(こうほう・勸修寺) → 光豊(みつとよ・勸修寺かじゅうじ/藤原、廷臣/歌・連歌) E 4 1 0 7
- 孝芳(こうほう・中田) → 孝芳(たかよし・中田なかつ、国学者) Y 2 6 5 4
- 孝包(こうほう・橋本) → 孝包(たかかね・橋本はしもと/藤原、神職/国学) Y 2 6 9 8
- 好芳(こうほう・吉川) → 重貴(しげたか・吉川きつかわ、国学者) O 2 1 2 6
- 興邦(こうほう/おきくに・安藤)→ 自笑(3世じしゅう・八文字、書肆/俳人) E 2 1 0 9
- 弘邦(こうほう/ひろくに・大倉)→ 古音(こおん・大倉おおくら、神職/俳人) C 1 9 1 7
- 弘方(こうほう・近藤) → 弘方(ひろかた・近藤こんどう、商家/歌人) J 3 7 6 0
- 1920 **杲宝**(ごうほう;法諱/初法諱;弘基、俗姓;源?) 1306-6257 下野?の真言僧/幼少時高野山で出家、
東寺宝蔵院頼宝門/小野の栄海門;伝法灌頂を受/1347権少僧都/48東寺勸学会学頭、
1358法印/59大僧都、東寺塔頭觀地院創建、勸修寺流杲宝方の祖、1330「悉曇綱要鈔」編、
1352東寺史「東宝記」、53「小野方血脈抄」、「釈論私記」「雑秘見聞抄」「雑々見聞抄」外著多数、
東寺三宝(頼宝・賢宝と)と称される
- L1926 **岡坊**(こうぼう;号・井上いのうえ、名;宣宗) 1793-187280 豊前英彦山の儒者・広瀬淡窓門、詩人、

「水月楼詩抄」「彦山名所図絵」著

- 光房(こうぼう・狛) → 光房(みつふさ・狛こま、神職/歌) E 4 1 7 6
光房(こうぼう・中村/清水) → 光房(みつふさ・清水/藤原/中村、国学者・歌) E 4 1 7 8
恒房(こうぼう・石崎) → 恒房(つねふさ・石崎いしぎ、歌人) F 2 9 0 0
行房(こうぼう・世尊寺) → 行房(ゆきふさ・世尊寺/藤原/一条、廷臣/書家/歌) F 4 6 5 3
興房(こうぼう・伊勢) → 興房(おきふさ・伊勢、平安期廷臣/通事) C 1 4 9 7
興房(こうぼう・陶) → 興房(おきふさ・陶すえ/多々良、武将/連歌) 1 4 7 5
公望(こうぼう・矢田部) → 公望(きんもち・矢田部やたべ、廷臣/漢学者) I 1 6 2 9
公望(こうぼう・巨勢) → 公望(きんもち・巨勢、絵師) S 1 6 0 8
公望(こうぼう・きんもち・小田村) → 彫山(ろくざん/ふざん・小田村/山本、儒者) 5 2 8 4
広房(こうぼう) すべて → 広房(ひろふさ)
弘房(こうぼう・中西) → 弘房(ひろふさ・中西/度会、神職/記録) H 3 7 0 4
高房(こうぼう・三輪田) → 高房(たかふさ・三輪田みわた、和漢学/神職) Z 2 6 7 2
好芳園(こうほうえん) → 有年(ありとし・西村にしむら/藤原、藩士/歌) I 1 0 2 2
黄袍園(こうほうえん) → 春思(しゅんし・山多/山田やまだ、俳人) J 2 1 8 4
弘法大師(こうぼうだいし) → 空海(くわい、日本真言宗祖) 1 7 0 1
B1992 公木(こうぼく・井筒いつ) ? - ? 江戸期前期:西鶴の知人・1679六日飛脚を送らる
L1927 槇木(こうぼく・陶山すやま、名;儀信、儀明男) 1804-7269 庄内藩郡代、磯釣名人;磯釣案内書著作、
「垂釣筥」「槇木翁筆淵抄」著、竿師運平の兄、
[槇木(;号)の通称/別号]通称;七平、別号;亮軒
幸木(こうぼく・塩谷) → 則満(のりみつ・塩谷しおたに、神職/歌人) H 3 5 9 4
公木(こうぼく→きみき・渋江) → 晩香(ばんかう・渋江しぶえ、教育/神職) K 3 6 2 8
公睦(こうぼく・三条) → 公睦(きんむつ・三条/転法輪三条、故実) R 1 6 8 5
広睦(こうぼく・鬼島) → 広睦(ひろちか・鬼島きじま/富樫、神職/国学) J 3 7 2 1
光璞(こうぼく:法諱・猷甫) → 猷甫(けんぽ;道号・光璞、臨濟僧) M 1 8 2 2
光穆(こうぼく/みつやす・白米/大主) → 耕雨(こうう・大主おおぬし、神職/俳人) H 1 9 4 0
香木園(こうぼくえん) → 円(まどし・泉/和泉いずみ、歌人) J 4 0 9 1
香木園(こうぼくえん→かつらのその) → 大秀(おおひで・田中たなか、国学者) 1 4 0 6
孔ト軒(こうぼくけん) → 高寛(たかひろ・中田、藩士/和算家) N 2 6 0 7
口木子(こうぼくし) → 維則(これのり・西田、儒者/白話翻訳) O 1 9 6 9
荒牧子(こうぼくし) → 尚茂(ひさしげ・玉虫たまむし、藩士/兵学) B 3 7 1 2
江北の隠士(こうほくのいんし) → 北流山人(ほくりゅうさんじん、俄にわか師) E 3 9 0 7
香木舎(香木廼舎こうぼくのや) → 御調(みつき・松岡/佐野、神職/国学) D 4 1 2 7
L1928 広本(こうほん;法諱・覚芝かくし;道号) 686-174661 京の黄檗僧;福寿寺桂堂元昌門/嗣法、福寿寺住持、
医;太田見良門、俳人原松と交流、「桂堂禅師語録」編、「福寿禅師開堂録」著
孝本(こうほん・前田) → 孝本(たかもと・前田まえだ、藩士/記録) N 2 6 4 4
高本(こうほん・京極) → 高本(たかもと・京極きょうごく、幕臣) N 2 6 3 9
小馬命婦(こまのみょうぶ) → 小馬命婦(こまのみょうぶ) 3人
幸麿(こうまる・村田) → 幸麿(ゆきまろ・村田むらた、商家/国学者) H 4 6 3 4
公万(こうまん・四辻) → 公万(きんかず・四辻よつじ、廷臣/催馬楽) Q 1 6 7 6
光満(こうまん・小田) → 光満(みつまる・小田おだ、国学者) E 4 1 9 2
広満(こうまん・羽倉) → 広満(ひろまる・羽倉はくら;/荷田、神職) H 3 7 1 5
広満(こうまん・山本) → 広満(ひろみつ・山本やまもと、国学者) H 3 7 3 9
広満(こうまん・萩原) → 広満(ひろみつ・萩原はぎはら、国学者/歌人) I 3 7 3 2
F1939 高慢斎(こうまんさい) ? - ? 洒落本作者、1772-81「大通伝」著
高味(こうみ・京極) → 高亶(たかあつ・京極きょうごく/稲垣、幕臣/歌) U 2 6 0 9
L1929 幸明(こうみょう;法諱・教悟房;字) ?-1297 高野山釈迦文院の真言学僧;修善院明聖門、
1281執行代、「伝法灌頂三卷式」「胎蔵界伝法灌頂作法」著
孝明(こうみょう;字) → 日詳(にっしょう;法諱・守眞院、日蓮僧) E 3 3 2 6
光明庵(こうみょうあん;号) → 時照(ときひろ・山名やまな/源、武将/歌人) J 3 1 9 3

公明(こうめい・大草) → 公明(きみあき・大草おおくさ、振鷲、幕臣/儒官) G 1 6 2 2
 公明(こうめい・河内) → 公明(きみあき・河内かわうち、医者/国学/詩歌) M 1 6 0 0
 公明(こうめい・河村) → 秀穎(ひでかい・河村かわむら、藩士/国学者) C 3 7 8 9
 公明(こうめい・山梨) → 亮平(りょうへい・山梨やまなし、医者) E 4 9 4 4
 公明(こうめい・小倉) → 実麿(さねあき・小倉おぐら/林、幕臣/歌) K 2 0 6 9
 公名(こうめい・西園寺) → 公名(きんあ・西園寺、太政大臣/歌) E 1 6 3 5
 広名(こうめい・小浦) → 広名(ひろあき・小浦こうら、藩士/国学/歌) J 3 7 5 2
 広明(こうめい・宇夫方) → 広明(ひろあき・宇夫方うぶかた、儒者/神職) F 3 7 4 9
 広明(こうめい・石野) → 広明(ひろあきら・石野いしの/中原、幕臣/歌) I 3 7 2 5
 広明(こうめい・半井) → 広明(ひろあき・半井なからい、医者; 典薬頭) I 3 7 4 2
 宏明(こうめい・林/新井) → 文山(ぶんざん・新井/林、儒/詩文/藩士) F 3 8 4 2
 弘明(こうめい・伊藤) → 東臯(とうこう・伊藤いとう、儒者/詩文) D 3 1 9 1
 幸名(こうめい・檜崎) → 幸名(ゆきな・檜崎ならさき、藩士/国学/歌) H 4 6 0 8
 恒明(こうめい・日置/今枝) → 恒明(つねあき・今枝いまえだ、藩士/日記) B 2 9 5 0
 行明(こうめい・成田) → 行明(ゆきあき・成田なりた、藩士/国学者) H 4 6 1 0
 厚明(こうめい・加藤) → 洞庭(どうてい・加藤、医者) G 3 1 6 3
 衡明(こうめい・佐々原) → 梅操(ばいそう・佐々原ささはら、儒者) B 3 6 7 5
 光名(こうめい・杉原/御巫/福井/秦) → 清生(きよなり・御巫みかんなぎ、神職/詩歌) P 1 6 6 2
 光明(こうめい・土岐/源) → 光明(みつあきら・土岐/外山/源、武将/歌) D 4 1 0 2
 光明(こうめい・高瀬) → 光明(みつあき・高瀬たかせ、国学者) J 4 1 5 9
 孝明(こうめい/たかあき・日比野/水谷) → 民彦(たみひこ・水谷、商家/国学) S 2 6 2 8
 高明(こうめい・源) → 高明(たかあきら・源みなもと、左大臣/歌人) 2 6 0 7
 高明(こうめい・檜林) → 高明(たかあき・檜林ならばやし、オランダ通詞) L 2 6 4 9
 高明(こうめい・川崎/小島) → 有卿(ゆうけい・小島こじま、藩医) B 4 6 3 5
 高明(こうめい・町田) → 高明(たかあき・町田まちだ、国学/歌人) Z 2 6 5 2
 高名(こうめい・白鳥/長岑) → 高名(たかな・白鳥しらとり/長岑ながみね、廷臣/漢学) M 2 6 5 1
 康明(こうめい・鈴木) → 康明(やすあき・鈴木すずき、藩士/歌人) G 4 5 0 8
 合明閣(ごうめいかく) → 仰誓(ごうせい; 法諱、真宗本願寺派僧) B 1 9 5 2
 恒明親王(こうめいしんのう) → 恒明親王(つねあきらしんのう・常盤井宮、歌) B 2 9 5 6
 行明親王(こうめいしんのう) → 行明親王(ゆきあきらしんのう、歌人) E 4 6 2 3
B1994 孝明天皇(こうめいてんのう、統仁おさひと、仁孝天皇皇子) **1831-66.36** 母; 新待賢門院雅子(正親町実密女)、
 在位1846-66、尊王攘夷・条約問題・公武合体等の国事多難に苦悩、歌人: 飛鳥井雅久門、
 「宇佐宮奉納五十首御製和歌」「幻夢書」「慨然集」/「孝明天皇御製」「孝明天皇御詠草」、
 「孝明天皇宸記」「孝明天皇宸翰」「坊中日次記」「内々月次記」外著多数、
 [孝明天皇の幼名/号] 幼名; 熙宮、号; 此花しか/天淵、親子内親王(和宮)の兄
 光明天皇(こうめいてんのう) → 光明天皇(こうみょうてんのう、14ct歌人) B 1 9 9 3
 皇明遊士(こうめいゆうし) → 言石(ごんせき・下村、京俳人) E 1 9 7 4
 小椋散人(こうめさんじん) → 君山(くんざん・唐橋かたはし、儒医/狂詩) B 1 7 2 2
 小梅道人(こうめどうじん) → 香坡(こうは・橋本はしもと、儒者/詩/勤王) F 1 9 3 4
 貢免庵(こうめんあん) → 祐之(ひろゆき・村上むらかみ、文筆家) H 3 7 6 1
 広茂(こうも・大江) → 広茂(ひろしげ・大江おおえ、廷臣/歌人) F 3 7 9 6
 公茂(こうも・三条) → 公茂(きんもち・三条/転法輪三条、歌) E 1 6 7 7
 行茂(こうも・祝部) → 行茂(ゆきしげ・祝部はふりべ/生源寺、神職) E 4 6 5 2
 恒茂(こうも/つねしげ・速水) → 春暁斎(2世しゅんぎょうさい・速水、絵師) M 2 1 7 4
 高茂(こうも・松浦/檜林) → 栄哲(2世えいてつ・檜林ならばやし、医者) D 1 3 1 9
 高茂(こうも・山名/岡田) → 高穎(たかひで・岡田/山名、藩士/儒/国学) N 2 6 0 1
 高茂(こうも・加地井) → 高茂(たかしげ・加地井かじい、薬学者) M 2 6 0 4
 高茂(こうも・片岡) → 高茂(たかしげ・片岡かたおか、国学者) W 2 6 4 7
 光茂(こうも・土佐) → 光茂(みつもち・土佐、絵師) E 4 1 9 4
 光茂(こうも・鍋島) → 光茂(みつしげ・鍋島なべしま、藩主/歌人) D 4 1 5 4

- 光茂(こうも・原) → 光茂(みつげ・原はら、歌人) L 4 1 2 1
 光茂(こうも/みつげ・大窪) → 池屋(ちおく・大窪おおくぼ、医者) 2 8 5 1
 孝茂(こうも・福岡) → 孝茂(たかしげ・福岡ふくおか、藩老/和漢学) Z 2 6 2 8
 厚茂(こうも・古森) → 厚茂(あつげ・古森こもり/秦/河崎、神職/歌) H 1 0 5 1
 興茂(こうも・森田) → 興枝(おきえだ・森田もりた、国学者/歌人) E 1 4 1 9
 綱茂(こうも・鍋島) → 綱茂(つなげ・鍋島、藩主/儒者) B 2 9 0 8
- L1932 江蒙(こうもう) ? - ? 江中期丹後湊の俳人;1777江涯こうがい「仮日記」入
 [隴氣おぼろげの空そら惜をし雁の友音ともね哉](仮日記;74/霞む春空を惜しみ北帰行する雁の声)
 幸猛(こうもう・田近/伊藤) → 鏡河(きょうか・伊藤いとう、儒者) N 1 6 3 8
 鴻濠陳人(こうもうちんじん) → 文次右衛門(ぶんじえもん・周しゅ、通詞) F 3 8 6 0
 公黙(こうもく;字・中根) → 初斎(じんさい・中根なかね、医者/詩人) O 2 2 5 6
- L1934 光門(こうもん・薄庵すずきあん、矢島やじま) ?-? 高崎狂歌作者:水魚連判者、1861「狂歌七福集」編
 光門(こうもん・矢内) → 光門(みつかど・矢内やない、国学者) K 4 1 8 5
 広門(こうもん・広川) → 獬(かい・広川ひろかわ、医者;蘭漢医) E 1 5 3 1
 広門(こうもん・伊野部) → 広門(ひろかど・伊野部いのべ、国学者) L 3 7 0 9
 広門(こうもん・城) → 広門(ひろかど・城じょう、国学者) J 3 7 8 4
 弘門(こうもん・富処/志倉) → 西馬(さいば・富処ふどころ/志倉、俳人) B 2 0 0 5
 黄門(こうもん・水戸) → 光圀(みつくに・徳川/源・松平、藩主/修史) 4 1 2 5
 黄門(こうもん・水無瀬) → 兼成(かねなり・水無瀬みなせ/藤原、権中納言/歌) C 1 5 9 2
 高門(こうもん・京極) → 高門(たかかど・京極、幕臣/禅門/歌人) C 2 6 6 3
 高門(こうもん・大館) → 高門(たかかど・大館おおだち、医者/国学者) C 2 6 6 4
 高門(こうもん・石場) → 高門(たかかど・石場いしば/藤原、幕臣/蝦夷調査) U 2 6 3 4
 康門(こうもん・松平) → 康門(やすかど・松平まつだいら、幕臣/和学) G 4 5 7 1
 好問(こうもん・村瀬/井野) → 審卿(しんけい・井野/村瀬、藩士/儒/書) O 2 2 0 2
 好問(こうもん・萩原) → 西疇(せいちゅう・萩原はぎわら、漢学者) C 2 4 6 0
 好問斎(こうもんさい) → 氏晴(うじはる・大館おおだち、故実家) C 1 2 6 0
 好問斎(こうもんさい) → 元甫(もととし・藤堂とうどう、藩士/地誌家) D 4 4 2 9
 好問子(こうもんし) → 潜庵(せんあん・芳賀はが、藩医者) L 2 4 5 4
 好問子(こうもんし) → 蒼山(きざん・星野ほしの、儒者/尊王派) I 1 6 5 8
 好問亭(こうもんてい) → 春明(はるあきら・生川なるかわ、商/国/歌/俳) 3 6 2 9
 好問堂(こうもんどう) → 美成(よししげ・山崎やまさき、商家/国学者) 4 7 1 2
- B1995 興也(こうや・壺醉軒) ? - ? 江前期俳人;調和門、1679調和編「富士石」序
- L1935 好也(こうや・梅廼舎うめのみや、河野こうの、通称;要蔵/伊予七) 1777-1854 78 江後期周防徳山の畳業、
 儒;黒神直民門、狂歌;福井貞国門、「面影百首」「諺百人一首」、「おとけ歌心覚」著
 空也(こうや;沙彌名) → 空也(くうや、念仏浄土教/歌人) 1 7 3 9
 公野(こうや・武者小路) → 公野(きんの・武者小路むしやのこうじ/藤原、廷臣/歌) V 1 6 4 5
 曠野(こうや・小野/山岡) → 鉄舟(てっしゅう・山岡、幕臣/武道家) C 3 0 4 3
 高野御房(こうやごぼう) → 成清(せいせい・静清じょうしゅう;法諱、社僧/歌人) T 2 2 3 5
 幸夜叉磨(こうやしやまる・立入) → 宗継(むねつぐ・立入たり、廷臣/和議奔走) B 4 2 6 3
 高野入道(こうやにゅうどう) → 教長(のりなが・藤原、観蓮、歌人) 3 5 2 1
 高野天皇(こうや→たかてんのう) → 称徳天皇(しょうとくてんのう、孝謙天皇) 2 1 9 9
 高野御室(こうやのおむろ) → 覚法法親王(かくほうほっしんのう、真言僧/歌) B 1 5 7 4
 高野宰相入道(こうやのさいしやうにゅうどう) → 成頼(しげより/なりより・藤原、廷臣/平家作者?) D 2 1 3 9
 高野の八傑(こうやのはっけつ) : 高野山の8人の優れた真言学僧
 → 覚海(かくかい;法諱・南勝房;号、1142-1223) J 1 5 6 3
 → 法性(ほっしょう;法諱・覚円;字、?-1245) E 3 9 6 8
 → 道範(どうはん;法諱・本覚;字、1178-1252) G 3 1 9 6
 → 尚祚(しょうそ;法諱・覚体;字、?-1245) T 2 2 9 5
 → 眞辨(しんべん;法諱・琳光房;字、?-?) 2 2 2 9
 → 信日(しんにち;法諱、禅智;字、1241-1320) P 2 2 5 1

- 信堅(しんけん;法諱・円智;字、1259-1322) O 2 2 0 9
→ 玄海(げんかい;法諱・真乗;字、1267-1347) I 1 8 1 2
高野聖(こうやのひじり) → 時頼(ときより・齋藤・滝口入道、武士/真言僧) J 3 1 4 6
高野法親王(こうやほっしんのう) → 覚法法親王(かくほうほっしんのう、真言僧/歌) B 1 5 7 4
B1996 公諭(こうゆ) ? - ? 保元物語著?(新続古事談説)
公瑜(こうゆ) → 公順(こうじゆん;法諱、華嚴僧/歌人) B 1 9 3 2
公瑜(こうゆ;王/板部/渋川) → 虚庵(きょあん・渋川/板部/万里小路/王、絵師) N 1 6 0 8
豪愉(ごうゆ) → 因空(いんくう・豪愉、藤家流朗詠) D 1 1 2 2
公唯(こうい・河本) → 公唯(きみただ・河本かわもと、商家/国学) U 1 6 0 2
B1997 公猷(こうゆう;法諱、俗姓藤原、寂蓮男)?-? 三井寺園城寺権律師、歌人;1225九条基家歌会参加、
1231日吉撰歌合参加、勅撰4首:新古今339/新勅263/続後撰401/続拾遺420、雲葉集入、
[ふじばかまぬしはたれともしら露のこぼれてにはふ野辺の秋風](新古;秋339/蘭ふじばかま、
本歌;古今集/素性法師;主知らぬ香こそ匂へる秋の野に誰が脱ぎかけし藤袴ぞも)
L1936 弘融(こうゆう) 1287? - ? 1347存? 真言仁和寺の心蓮院住僧;弘舜門/律師、
1337「誂遮要秘鈔」著、1347(61歳)伊賀仏性寺遍照院住(林羅山[野槌]入)、
徒然草82・84段入;兼好の友人、
G1919 綱有(こうゆう) ? - ? 鎌倉後期僧?;日吉神社関係者、「比叡社歌合」参加、
[かづらきや雲のよそなる霞まで花にうつろふ春も夕暮れ](比叡社歌合;九番右)
L1937 光融(こうゆう;法諱・円如えんによ;号、称;大納言、実如男/蓮如孫) 1491-1521³¹ 真宗山城本願寺住職、
1501青蓮寺尊応門/祖父蓮如[兼寿]の消息収集編集;「御文章」編、母;高倉永継女
B1998 泉祐(こうゆう) ? - ? 連歌師、1555「梅千句」入
B1924 光祐(こうゆう;法諱) ? - ? 戦国期の僧(石山本願寺関係の僧)、歌人、
1563(永禄6)「十五夜三首歌合(永禄歌合)」参加(;判者柳原資定)、
[吹きはらふ空にもくまや残るらむ月の桂に松風の声](永禄歌合;月前松風六番右)
L1938 光宥(こうゆう;法諱) 1588 - 1652^{65歳} 但馬の真言僧;高野山蓮華三昧院の学僧、
1621無量寿院門主を覚雄と争う;伊豆配流、1650赦免/練行修験;伊豆山修業、権大僧都、
「高野山眞俗興廢記」「遠島紀行」「御庵室流浪記」「種間寺之由来記」著、
歌;古今夷曲集2首入、
[人間の八九七十二はくしじふの年も心はもとのてうちげげがこ](夷曲集;468、
八九;八苦を掛る/手打ち・・・小兒をあやす詞/72歳になっても童心を忘れず;67歳で没)
L1939 幸雄(こうゆう;法諱、魚山ぎよさん大僧都)?-? 1648-1704頃天台宗魚山宝泉房僧;大僧都、
1649「仙洞御懺法講記」、66/70「法皇御懺法講記」、「よろづの御法御懺法講記」
P1980 幸友(こうゆう・川村かわむら) ? - ? 江前期上方の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第一水祝第三句入、
[粉糠雨や柳の木末こぞ降りぬらん](生玉万句;水祝第三、
脇句;西鶴;恋風ぞ吹く風呂の焼初たきぞめ;水祝は元日新郎に水を浴びせる水掛祝い、
新郎は風呂を焚き酒宴を開く)
P1982 光友(こうゆう・玉造たまつくり)? - ? 江前期上方の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第四茄子第三句入、
[内井戸や夏のしるしにのぞくらん](茄子第三句/内井戸;屋内の井戸、
脇句一志;夕禊とて祭客人、
新勅;藤原家隆;風そよぐならの小川の夕暮はみそぎぞ夏のしるしなりける)
1916 好友(こうゆう・池西) ? - ? 京の俳人、1689言水「前後園」-90言水「新撰都曲」3句入
[立てるよりつくばふて見よ杜若かきつばた](新撰都曲;下318)
L1940 校遊(こうゆう) ? - ? 江前期俳人;1689「あら野」入
[風吹かぬ日はわがなりの柳哉](あら野;卷二、泰然自若の姿)
L1941 泉宥(こうゆう;道号・寂堂じやくどう;法諱)?-1696 真言僧;1687名古屋真福寺宝生院29世、
「真福寺列祖伝」著
L1902 幸有(こうゆう) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(71)

L1942 綱猷(こうゆう;法諱) ? - ? 1798存 豊前本願寺派長浄寺僧、1798智洞の演説に質問書、

「文類聚鈔講録」「教観綱宗記」「讃阿弥陀仏偈聞書」著

行祐(こうゆう)	→ 行祐(ぎょうゆう、歌人)	O 1 6 5 9
行祐(こうゆう)	→ 行祐(ぎょうゆう、連歌)	C 1 6 8 8
行祐(こうゆう→ぎょうすけ・高妻)	→ 秀馨(ひでか・高妻こうづま、儒者/教育者)	J 3 7 5 7
行雄(こうゆう・豊島)	→ 権平(ごんべい・豊島とよしま、砲術家)	P 1 9 2 8
行雄(こうゆう・嶋原)	→ 行雄(ゆきお・嶋原しげはら、藩士/歌人)	G 4 6 9 1
好幽(こうゆう;号)	→ 本高(ほんこう;法諱・風外;道号、曹洞僧/絵師)	F 3 9 3 3
好裕(こうゆう・桃井/桃)	→ 筋山(せつざん・桃井/桃もも、藩儒)	E 2 4 3 9
好雄(こうゆう・久山)	→ 好雄(よしお・久山ひさやま、医者/歌人)	L 4 7 0 6
好雄(こうゆう・林)	→ 好雄(よしお・林はやし、国学者)	O 4 7 6 1
公友(こうゆう・熊谷)	→ 直孝(なおたか・熊谷くまがい、商人/勤王家)	B 3 2 5 1
公有(こうゆう)	→ 公有(きんなり・藤原/清水谷、廷臣/歌)	E 1 6 5 1
公雄(こうゆう・洞院/小倉)	→ 公雄(きんお・小倉おぐら、家祖/歌人)	D 1 6 8 0
公雄(こうゆう・風早)	→ 公雄(きみお・風早かざはや、廷臣/歌人)	M 1 6 0 1
公雄(こうゆう;初法諱)	→ 亮研(良憲りょうけん;法諱、天台僧)	H 4 9 3 1
公雄(こうゆう・尾上)	→ 公雄(きみお・尾上おのえ、国学者)	S 1 6 8 4
公雄(こうゆう・渋江)	→ 晩香(ばんかう・渋江しぶえ、教育/神職)	K 3 6 2 8
公祐(こうゆう;法諱)	→ 宣存(せんそん/せんぞん;法諱、天台僧)	M 2 4 8 7
公祐(こうゆう・高松)	→ 公祐(きみすけ/きんさち・高松、廷臣/歌)	B 1 6 8 3
公裕(こうゆう・孫福)	→ 公裕(きみひろ・孫福まごぶく/度会、神職/詩)	M 1 6 0 7
交遊(こうゆう・司馬)	→ 全交(初世ぜんこう・芝/司馬、狂言師/戯作)	2 4 2 9
弘雄(こうゆう・桑原)	→ 弘雄(ひろお・桑原くわばら、神道家)	F 3 7 5 8
弘有(こうゆう・澁川)	→ 弘有(ひろあり・澁川みおがわ、国学者)	L 3 7 3 7
孝雄(こうゆう・豊蔵坊)	→ 信海(しんかい・豊蔵坊、社僧/狂歌)	2 2 1 8
孝友(こうゆう・前田)	→ 孝友(たかとも・前田、孝昌男/藩士/記録)	M 2 6 4 6
孝友(こうゆう・前田)	→ 孝友(たかとも・前田、孝享男/藩士/記録)	M 2 6 4 9
幸雄(こうゆう・市川)	→ 梅客(ばいかく・市川/福原、幕臣/儒者)	3 6 8 5
幸雄(こうゆう・斎藤)	→ 幸雄(ゆきお・斎藤さいとう、名主/地誌)	E 4 6 3 4
幸雄(こうゆう・二斗庵)	→ 幸雄(ゆきお・二斗庵にとあん、洒落本作者)	E 4 6 3 6
幸雄(こうゆう・鎗木)	→ 幸雄(ゆきお・鎗木かぶらき、神職/国学)	G 4 6 2 3
幸雄(こうゆう・小野)	→ 幸雄(ゆきお・小野おの、国学者/歌人)	G 4 6 6 6
幸雄(こうゆう・後藤)	→ 幸雄(ゆきお・後藤ごとう、国学者)	G 4 6 8 3
幸雄(こうゆう・島田)	→ 幸雄(ゆきお・島田しまだ、藩士/国学者)	G 4 6 9 3
幸雄(こうゆう・土持)	→ 幸雄(さちお・土持ちもち/山室、国学・神道)	Q 2 0 9 8
幸雄(こうゆう・幡鎌)	→ 幸雄(ゆきお・幡鎌はたかま/勾坂さぎさか、神職/歌)	H 4 6 1 4
幸猷(こうゆう・杉本/壱岐)	→ 桐園(とうえん・壱岐いき、藩士/儒者/詩)	B 3 1 4 8
光由(こうゆう・吉田)	→ 光由(みつよし・吉田よしだ、和算家)	F 4 1 1 4
光有(こうゆう・堀川)	→ 光有(みつあり・堀川ほりかわ、廷臣/歌人)	D 4 1 0 6
光雄(こうゆう・中御門)	→ 光任(みつとう・中御門/藤原、南朝廷臣/歌)	D 4 1 9 8
光雄(こうゆう・烏丸)	→ 光雄(みつお・烏丸からすまる/藤原、廷臣/歌)	D 4 1 1 2
光雄(こうゆう・平瀬)	→ 光雄(みつお・平瀬ひらせ、弓術家)	D 4 1 1 3
光雄(こうゆう・伴林)	→ 光雄(みつお・伴林ともばやし、国学者/勤王)	J 4 1 8 8
光祐(こうゆう・小林)	→ 光祐(みつすけ・小林/鴨、廷臣/記録)	D 4 1 6 6
光裕(こうゆう・北原)	→ 光裕(みつひろ・北原、藩士/史家/画)	E 4 1 7 1
光融(こうゆう・幸田)	→ 光融(みつなが・幸田こうだ/度会、神職/国学)	J 4 1 0 7
好友(こうゆう・北野)	→ 好友(よしとも・北野きたの、名主/国学)	M 4 7 4 8
好裕(こうゆう・桃)	→ 筋山(せつざん・桃井/桃もも、藩儒/和学)	E 2 4 3 9
高融(こうゆう・岩松)	→ 高融(たかなが・岩松いわまつ、武士/詩歌)	2 7 5 1
高猷(こうゆう・藤堂)	→ 高猷(たかゆき・藤堂とうどう、藩主/歌)	N 2 6 6 6

- 高猷(こうゆう・三井) → 高猷(たかおり・三井みつゐ、商家/国学) Z 2 6 7 9
隆有(こうゆう・大河平) → 隆棟(たかむね・大河平おこひら、藩士/国学) N 2 6 3 3
興右(こうゆう・神崎/八剣) → 興寿(おきなが・八剣やつるぎ/神崎、神職) C 1 4 9 1
広邑(こうゆう・山内) → 琴台(きんだい・山内やまのうち、藩士/儒者) R 1 6 3 4
広猶(こうゆう・林) → 広猶(ひろさね・林はやし/太秦、楽人) H 3 7 8 0
広雄(こうゆう・林) → 広雄(ひろたか・林はやし/太秦、楽人) G 3 7 1 7
広雄(こうゆう・阪) → 広雄(ひろお・阪/坂ほん、神職/国学) K 3 7 7 2
恒由(こうゆう・宮坂) → 恒由(つねよし・宮坂みやさか、酒造業/国学) E 2 9 9 1
恒雄(こうゆう・宮路) → 恒雄(つねお・宮路みやじ、農業/歌人) F 2 9 9 8
綱雄(こうゆう・岩崎) → 綱雄(つなお・岩崎、里正/国学者) B 2 9 0 4
L1943 豪祐(ごうゆう;法諱) ? - ? 1367存 天台僧;1367叡山覚林房で承祐より相伝を受?
1367「三輪山王口決」「山王一心三観相伝」著
高遊外(こうゆうがい) → 元昭(げんしょう;法諱・月海、黄檗僧/売茶翁) C 1 8 1 9
弘裕斎(こうゆうさい・戸田) → 光行(みつゆき・戸田とだ/松平、藩主) F 4 1 0 6
更幽斎(こうゆうさい・津田) → 宗及(そうきゆう/-ぎゆう・津田、政商/茶人) B 2 5 0 2
更幽山房(こうゆうさんぼう) → 桂叢(けいそう・桑原くわばら、絵師) G 1 8 2 8
紅友堂(こうゆうどう) → 可松(かしょう・上田うえだ、俳人) L 1 5 9 4
F1940 光融入道(こうゆうにゅうどう・戸田茂睡か?)?-? 1682茂睡の遺作地誌「紫の一本」書写
戸田茂睡 → 茂睡(もすい・戸田、国学/歌学者) 4 4 0 5
B1999 公誉(こうよ;法諱、称;霊山坊/檀那房、左中将三条実平男?)?-? 鎌倉期叡山権僧正/尊源から灌頂、
天台楞嚴院検校、1269「胎灌」88「法曼流灌頂道場私」、歌;続拾1369/玉葉1077
L1944 光誉(こうよ;法諱/初諱;光智・字;甚仙房、俗姓友松ともまつ?)-1624 江前期和泉or但馬生/真言僧;
但馬出石福生寺光盛門/長谷寺・高野山修行/1609筑波知足院住持、以心崇伝と交流、
知足院は將軍家祈禱寺となる、「常陸国筑波山縁起」
L1945 厚誉(こうよ;法諱・号;春鶯廓玄?)?-? 江中期僧;大和来迎寺住持、観音霊場や巡礼歌研究、
説話作者;怪談・故事、1716「本朝怪談故事」20「孝道故事要略」26「観音霊場記」、
1730「勸化法音辨類鈔」著
広誉(こうよ;法名/心阿・真蓮社) → 貞億(ていおく;法諱、浄土僧) 3 0 3 9
広誉(こうよ;法名) → 竜哲(りゅうてつ;法諱、僧) L 4 9 3 2
広誉(こうよ・久世) → 広誉(ひろやす・久世くぜ/源、藩主) F 3 7 0 3
興誉(こうよ;号) → 正舎(しょうがん;法諱、浄土僧;大僧正) H 2 2 8 6
興誉(こうよ・神田) → 道伴(どうはん・神田かんだ、古筆鑑定家) G 3 1 9 9
興誉(こうよ;通称) → 臨随(りんずい;法諱、浄土僧) M 4 9 5 1
香誉(こうよ・清蓮社;法名) → 蒼山(さざん;法諱・玄海、浄土僧) K 1 6 5 5
香誉(こうよ・曇蓮社) → 専壽(せんじゆ;法諱、浄土僧/歌人) M 2 4 4 2
香誉(こうよ・拈蓮社) → 祐海(ゆうかい;法諱・愚蒙、浄土僧) 4 6 9 8
厚誉(こうよ・盤察;法諱) → 盤察(ばんさつ・厚誉、浄土宗布教僧) H 3 6 7 3
巧誉(こうよ・円蓮院) → 念成(ねんじよう;法諱、浄土僧) 3 4 6 6
光誉(こうよ・明蓮社) → 一空(いっくう;法諱・光誉こうよ、浄土僧) G 1 1 9 1
光誉(こうよ・円蓮社) → 法岸(ぼうがん;法諱、浄土僧) 3 9 3 4
向誉(こうよ・一蓮社) → 関通(かんつう;法諱・無礙、浄土僧) R 1 5 4 3
康誉(こうよ;号) → 弁旭(べんきよく;法諱・北条、浄土宗大僧正) B 2 7 5 5
高誉(こうよ・高丘) → 重名(しげな・高丘たかおか、詩人) C 2 1 5 6
高誉(こうよ;号) → 性愚(しょうぐ;字・聖伝;法諱、浄土僧) I 2 2 1 2
高誉(こうよ;号) → 素中(そちゆう;法諱・浄土僧) K 2 5 0 5
孝与(こうよ・稻生) → 孝与(たかよ・稻生のう/修姓;稻、本草学) N 2 6 6 8
名蓮社号誉称阿(めいれんしゃごうよしょうあ) → 徳本(とくほん、浄土僧) L 3 1 4 6
L1946 好葉(こうよう) ? - ? 江前期俳人;1689「あら野」入
[御手洗(みたらし)の木の葉の中の蛙哉](あら野;卷八)
L1947 香葉(かうよう) ? - ? 江前期大阪の俳人;1691賀子「蓮実」2句入

[あけぼのは蚊の血を恥づる娘哉](蓮実;257)

- C1900 **高陽**(こうよう・中山なかやま、利右衛門勝久男) 1717-8064 土佐の唐物商阿波屋の生/儒詩;富永惟安門、書;江戸の関思恭門/画;京の彭城百川門、1758大阪住/59江戸住;絵師として活動、1761藩の士分、画;「象瀉図」「蘭亭図巻」、1748「京撰游記」51「梅道人墨竹譜」、1772紀行「奥游おゆう日録」、75「画談雞肋」76「熱海紀行」、「高陽山人詩稿」「富士登山記」、[高陽(;)号)の名/字/通称/別号]名;清/適/象先/修錫/廷沖、字;汝/子達/子和/子修、通称;清左衛門、別号;鎌川れんせん/玩世道人/江竹山人/江竹居/酔墨山人/清修居士/松石斎/清松白石人家
- L1948 **高陽**(こうよう・有吉ありよし、名;公甫) 1741-8747 周防山口の人/長門萩藩士、漢学者/経済学、「隴山現神伝」「経済議譚」「経野」「窮談」著、[高陽(;)号)の字/通称]字;蒸民、通称;新禄/新六
- G1953 **荒陽**(こうよう・渡辺わたなべ、名;之望のぶもち、村名主渡辺直宣男) 1752-183887 武州大袋村恩間の儒者、1790江戸の町儒者;開塾/99越後高田藩儒、1814国学に転ず;平田篤胤門、1816篤胤に随従し常総を遊歴/大平・篤胤の三大考論争参加/篤胤を批判、「珮玉詩稿」、「珮玉文集」「老荘古柏」「論語」「春秋時習」「時習学的」「時習説苑」、1835「神明憑談睫廼鏡」「四民睫の鏡」「珮玉斎漫筆」「研幾録」「馬耳風譚」「俳諧鬚鏡」「読書木鐸」「四海一家言」著、[荒陽(;)号)の字/通称/別号]字;万夫、通称;政之助/源太兵衛/源太左衛門/玄禄(玄六)、別号;花朝子/七福翁/珮玉斎ちようぎょくさい/能曾丸/瓢ひさごの屋/時習堂
- L1949 **紅葉**(こうよう;号・高梨たかなし/修姓;高、名;一魯・魯/字;聖誕) 1774-182249 信濃中野の儒者;柏木如亭門;木百年と双璧の高弟、大窪詩仏と親交、「紅葉遺詩」(1826刊)
- L1950 **向陽**(こうよう・佐々木ささき/初姓;直木、名;玷てん・かける/景衡) 1801-6363 実父直木某は長崎通詞、家学漢学;海外事情に精通、熊本の新島塩井門/上方江戸に遊学、周防阿知須で文学を教授、長門宇部の郷校晩成堂学頭/宇部領主の命で佐々木家を継承;邑学菁莪堂教授、経史・詩・書・歌・俳諧・管絃に精通、「逸史」編、「日本外史俚諺抄」著、岡白駒「箋註蒙求」に標疏の校訂、[向陽(;)号)の字/通称]字;圭甫/瓊浦、通称;並枝
- Q1916 **光葉**(こうよう・中川なかがわ) ? - ? 江後期;歌人、幕臣?、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[のどけさに小川の岸の花すみれふたたびさける神無月かな](大江戸倭歌;冬1347冬花)
- L1951 **孝養**(こうよう;名・村瀬むらせ、通称;弥八/称八) ?-? 江後期和算家;御粥おかゆ安本やすもと門、「直線上一十円解義」「市ヶ谷八幡祠算術四題之解義」著
- | | | | |
|-------------------|---|--------------------------|-----------|
| 広葉(こうよう・奈良) | → | 松荘(しょうそう・奈良なら、詩歌人) | K 2 2 5 6 |
| 孔陽(こうよう・市河) | → | 米庵(べいあん・市河、儒者/詩/書家) | 2 7 0 0 |
| 孔陽(こうよう・木村) | → | 石居(せききよ・木村、商家/兼葭堂2世) | J 2 4 9 9 |
| 公雍(こうよう・安野) | → | 南岳(なんがく・安野やすの、儒者/詩文) | I 3 2 7 6 |
| 公瑤(こうよう・原) | → | 双桂(そうけい・原はら、医/漢学/詩文) | B 2 5 1 9 |
| 光暉(こうよう・時田) | → | 光介(光輔みつつけ・時田しときだ、藩士/実業家) | J 4 1 8 5 |
| 光庸(こうよう・分部) | → | 光庸(みつね・分部わけべ、藩主/歌) | K 4 1 9 7 |
| 光庸(こうよう・村田) | → | 光庸(みつもち・村田むらた、医者/国学者) | K 4 1 7 6 |
| 光膺(こうよう;法号) | → | 為邦(ためくに・冷泉れいぜい、歌人) | G 2 6 7 6 |
| 光鷹(こうよう・手塚) | → | 紀興(のりおき・手塚てづか、藩士/和算家) | E 3 5 3 2 |
| 香陽(こうよう・赤井) | → | 忠常(ただつね・赤井あかい/源、里正/歌) | V 2 6 0 9 |
| 幸養(こうよう;法諱) | → | 亮典(りょうてん;法諱・文性、真言僧/教育) | J 4 9 0 5 |
| 幸養(こうよう・近藤) | → | 幸養(さちひさ・近藤こんどう、藩老/国学) | O 2 0 4 6 |
| 孝庸(こうよう・宮城) | → | 孝庸(たかつね・宮城みやぎ/宮木、藩士/歌) | Z 2 6 8 1 |
| 高陽(こうよう・西村) | → | 高陽(たかあき・西村にしむら、歌人) | Y 2 6 8 4 |
| 高庸(こうよう/たかやす?・木村) | → | 八甲(はっこう・木村きむら、藩士/医/儒) | F 3 6 2 1 |
| 瀆陽(こうよう・舟山ふなやま) | → | 万年(ばんねん・舟山/船山、郷土史家) | D 3 6 3 3 |
| 紅葉庵(こうようあん) | → | 賀子(がし・斎藤、俳人) | C 1 5 0 7 |
| 紅葉庵(こうようあん) | → | 桃祖(桃鼠とうそ・二階堂、修験者/俳) | G 3 1 2 6 |
| 黄陽庵(こうようあん) | → | 意安(いあん・小泉、藩医) | E 1 1 7 2 |

高陽院泰子(こうよういん→かやいのやすこ)→ 泰子(やすこ・藤原忠実女) B 4 5 3 6
 紅葉園(こうようえん) → 輝文(てるふみ・星野、郷士/商家/勤王) C 3 0 9 1
 紅葉園(こうようえん) → 春彦(はるひこ・大野おの、酒造業/国学) J 3 6 8 5
 黄楊園(こうようえん) → 広海(ひろみ・早川/安田、医者/国学/俳) H 3 7 2 1
 黄葉園主人(こうようえんしゅじん)→ 永常(ながつね・大蔵おおくら、農政家) E 3 2 5 4
 紅葉館(こうようかん・関) → 橋守(はしもり・関せき、歌人) E 3 6 4 4
 向陽館(こうようかん) → 寧親(やすちか・津軽つがる、藩主/俳人) G 4 5 2 7
 向陽居(こうようきょ) → 春園(はるぞの・田島たじま、神職/詩歌) K 3 6 3 3
 紅葉軒(こうようけん) → 蝶々子(ちようちようし・神田、俳人) J 2 8 4 7
 向陽軒(こうようけん) → 春勝(はるかつ・林、鷺峰、羅山男/儒者) 3 6 3 0
 向陽軒(こうようけん) → 梅橋(ばいきょう・向陽軒、華道家) 3 6 9 8
 向陽軒(こうようけん) → 青牛(せいぎゅう、向陽軒、俳人) H 2 4 8 7
 紅葉社謙誉上人(こうようしゃけんよしょうにん)→ 暢妙(ちようみょう; 法諱、浄土僧) M 2 8 9 4
 黄葉夕陽村舎(こうようせきやうそんしゃ; 書齋号)→ 茶山(ちやざん・菅/菅波、儒/詩/教育者) 2 8 4 0
 向陽堂(こうようどう) → 好春(こうしゅん・児玉、俳人) B 1 9 3 3
 向陽堂(こうようどう) → 兼勝(かねかつ・上坂かみさか、書肆) F 1 5 6 7
 綱要導師(こうようどうし) → 日導(にちどう; 法諱・一妙院、日蓮僧) C 3 3 9 9

P1987 香楊尼(こうように、諏訪頼安女)?-? 江中期歌人; 旗本森山盛芳の妻、
 森山源五郎孝盛(もりやまごんごろう) [1738-1815/旗本/槍奉行]の母; 熱心に学問教育、
 歌; 1798刊石野広通「霞関集」入(: 息子孝盛と共に入集)、
 [をしへこし宿りはそこと尋ねても人の心をなほやたどらん](霞関; 恋737/尋恋)

黄楊門(こうようもん) → 石牙(せきが・安田/早川、医者/俳人) D 2 4 3 6
 黄楊門(こうようもん) → 雷石(らいせき・安田/早川、石牙の孫/医者/俳) 4 8 7 2
 黄楊門(こうようもん) → 広海(ひろみ・早川/安田、雷石男/医者/国学/俳) H 3 7 2 1
 紅葉楼(こうようろう・関) → 橋守(はしもり・関せき、歌人) E 3 6 4 4
 高養楼(こうようろう) → 天民(てんみん・志賀しが/布ぬの、医者/蘭学) E 3 0 3 6
 公翼(こうよく・岡) → 澹斎(たんさい・岡おか、医者/詩人/本草) T 2 6 4 8
 公翊(こうよく・野呂) → 静処(せいじょ・野呂のろ、藩儒者) I 2 4 7 6
 高翼(こうよく・糸井/奥山)→ 榕斎(ようさい・奥山/糸井、藩士/儒者) 4 7 9 4
 厚誉春鶯廓玄(こうよしゅんおうかくげん)→ 厚誉(こうよ; 法諱、説話作者) L 1 9 4 5
 缸余真人(こうよしんじん) → 潜庵(せんあん・芳賀はが、藩医者) L 2 4 5 4
 香誉宗哲(こうよそうてつ) → 勝重(かつしげ・板倉、幕臣/法度制定) C 1 5 4 5

L1952 交来(こうらい・武田たけだ、高麗屋金三郎男) 1827-8256 江戸木挽町芝居茶屋高麗屋を継承、
 備書家; 宮城[梅素亭]玄魚門; 興画連の一員、歌舞伎狂言の合巻作者/勘亭流の名手; 父門、
 1864「蔭戯場猿若真似」/65「興画帖」/67「浪輝黄金鯉」(玄魚と共作)、「葉唄糸之枝折」編、
 [交来(;号)の通称/別号]通称; 孝吉/勝次郎、別号; 山閑人

公頼(こうらい・橘) → 公頼(きんより・橘たちばな、廷臣/歌人) E 1 6 8 9
 公頼(こうらい・三条) → 公頼(きんより・三条/転法輪三条、記録) R 1 6 9 4
 公頼(こうらい・高階) → 春帆(しゅんぱん・高階たかしな、漢学/詩人) K 2 1 4 1
 公磊(こうらい・石河) → 明善(めいぜん・石河いしかわ、藩の儒者) 4 3 2 6
 光頼(こうらい・葉室) → 光頼(みつより・葉室/藤原、廷臣/歌人) F 4 1 2 5
 光頼(こうらい・高橋) → 光頼(みつより・高橋たかはし、神職/神仏分離) J 4 1 6 5
 広頼(こうらい・菌) → 広頼(ひろより・菌その/太秦、楽人) H 3 7 7 3
 行頼(こうらい・橘) → 行頼(ゆきより・橘たちばな、廷臣/歌人) F 4 6 9 9
 行頼(こうらい・源) → 行頼(ゆきより・源みなもと、廷臣/歌人) G 4 6 0 0
 行頼(こうらい・紀) → 行頼(ゆきより・紀、廷臣/歌人) G 4 6 0 1
 好頼(こうらい・秋山) → 好頼(よしより・秋山あきやま/源、藩士/歌) L 4 7 1 4
 幸来(こうらい・山田) → 左幾久(さきく・山田やまだ、国学/歌) N 2 0 2 5
 康頼(こうらい・丹波) → 康頼(やすより・丹波たんば宿禰、医者) D 4 5 6 0
 康頼(こうらい・中原/平) → 康頼(やすより・平たいら/中原、廷臣/歌人) D 4 5 6 1

- 高麗屋(こうらいや) → 幸四郎(四世こうしろう・松本、歌舞伎役者) B 1 9 4 0
 高麗屋(こうらいや) → 幸四郎(五世こうしろう・松本、歌舞伎役者/合卷) B 1 9 4 1
 高麗屋蔵釜(こうらいやぞうふ) → 正七(初世しょうしち・清水しみず、歌舞伎作者) S 2 2 7 5
 L1953 康楽(こうらく) ? - ? 俳人; 1691北枝「卯辰集」2句入
 [借り蚊帳かやの庵いほりにあまる笑ひ哉] (卯辰集; 上二230)
 (借りた蚊帳の中で客人と語り合う楽しさ)
 後楽(こうらく・高野) → 倫兼(ともかね・高野たかの、藩士/詩歌) P 3 1 3 5
 黄落庵(こうらくあん) → 嵐雪(らんせつ・服部、俳人) 4 8 0 6
 香楽庵(こうらくあん) → 珠光(じゅこう・村田、禅僧/華道/茶人) Y 2 1 7 5
 後楽翁(こうらくおう) → 可進(かしん・小川おがわ、医者/煎茶道) M 1 5 0 0
 後楽閑人(こうらくかんじん) → 玄道(げんどう/はるみち・矢野、儒/国学者) C 1 8 8 4
 康楽寺(こうらくじ; 号) → 浄賀(じょうが; 法諱、真宗僧/絵師) F 2 2 7 7
 耕楽舎(こうらくしゃ) → 正作(まさなり・伊藤、医者/農業研究) F 4 0 4 5
 後楽堂(こうらくどう) → 可進(かしん・小川、医者/煎茶道) M 1 5 0 0
 後楽堂(こうらくどう・田崎) → 草雲(そううん・田崎たさき、藩士/絵師) 2 5 5 9
 L1954 浩瀾(こうらん・松田まつだ、名; 健) ? - ? 江中期享保1716-36頃若狭小浜藩儒、
 藩命で音楽関係書編纂、「楽説紀聞」1723「楽説紀聞補註」著
 C1901 紅蘭(紅鸞こうらん・梁川やながわ/修姓; 張、名; 景/景婉、稻津長好女) 1804-79? 母; 川瀬貞子、
 美濃安八郡曾根村の詩人: 1812頃華溪寺の太随和尚門/1817梁川星巖の梨花村草舎入門、
 1820星巖の妻/22夫と西遊/32江戸・46京住、
 1858安政大獄に半年入獄/夫は大獄直前コレラで急逝、京で開塾; 詩文を教授、
 画; 中林竹洞門、1841「紅蘭小集」著、「紅蘭遺稿」、
 [紅蘭の幼名/字/法号] 幼名; きみ/芸香うんこう、 字; 玉書/月華/道華、 法号; 高岩院
 夫 → 星巖(せいがん・梁川やながわ、詩人) 2 4 0 5
 C1902 高欄(こうらん) ? - ? 江後期俳人/雑俳; 松鱸門、大阪住、
 1831松鱸の定連会「狂句むめ柳」入
 Q1903 広覧(こうらん・ひろみ?・数原かずはら、法眼) ?-? 江後期; 医者/法眼、幕府奥医の数原通玄の一族?、
 歌; 1858蜂屋光世「大江戸和歌集」入、
 [吹く風のぬすみこし香やこれならん霞みこめたる山桜ばな] (大江戸和歌; 春230)
 Q1904 高藍(こうらん・品川しながわ/本姓; 源) ?-? 江後期; 歌人、幕臣?、
 歌; 1858蜂屋光世「大江戸和歌集」入、
 [初声をつげの枕の郭公また思ひねの夢かとぞ聞く] (大江戸和歌; 夏436)
 [散りうせぬ松の言の葉世世かけて守るも久し住吉の神] (同; 雑2048)
 弘瀾(こうらん・河合) → 正阿(しょうあ/せいあ・河合、医者/俳人) Q 2 2 7 0
 香嵐(こうらん・前野) → 清臣(きよおみ・前野まえの/竹中、国学/歌) V 1 6 2 0
 好蘭齋(こうらんさい) → 蘭齋(らんさい・江馬えま/鷲見、蘭医者) C 4 8 1 8
 後嵐雪(こうらんせつ) → 吏登(りとう・桜井、俳人) 4 9 0 4
 好蘭堂(こうらんどう) → 松齋(しょうさい・江馬えま、医者) J 2 2 0 3
 L1955 公履(こうり・荒井あらい、鳴門男) 1815-62? 山城淀藩儒(; 父を継承)、
 1858「事物異名類」編、「錫難詞藻」著、
 [公履(; 名)の通称/号] 通称; 甲四郎、号; 坦々
 好里(こうり・小板橋) → 好里(よしさと・小板橋こいたばし、国学・歌) D 4 7 4 4
 興里(こうり・細川) → 興里(おきさと・細川、藩主/歌人) C 1 4 2 2
 篁里(こうり・二川) → 相近(すけちか・二川ふたがわ、藩士/書/詩歌) C 2 3 4 1
 光利(こうり・根津) → 六郎右衛門(ろくろうえもん・根津ねづ/滋野/渡辺、幕臣/鷹匠) B 5 2 2 2
 孝利(こうり・青柳) → 孝利(たかとし・青柳あおやぎ、幕臣/歌人) V 2 6 0 5
 綱利(こうり・細川) → 綱利(つなとし・細川/源、藩主/詩人) B 2 9 1 4
 黄鸞園(こうりえん) → 廬元坊(ろげんぼう・佐野/仙石、俳人) 5 2 0 3
 光陸(こうりく・鈴木) → 麦藁笛也(むぎわらのふえなり、狂歌作者) 4 2 4 4
 公栗(こうりつ・牛田/大岡) → 雲峯(うんぼう・大岡おおおか、絵師) E 1 2 0 5

- 岡立庵(こうりつあん) → 芝山(しざん・大高坂、藩儒/南学) D 2 1 7 1
- F1942 高利刈主(こうりのかりぬし) ? - ? 本所一ツ目御旅所茶屋主人、狂歌; 两国連、
1785東作「百鬼夜狂」・87才蔵集入;
[虫入の琥珀とみゆる手水鉢氷の中にひと葉南天](才蔵集)
- L1956 江流(こうりゅう・洛陽隠士、姓名不詳)?-? 京の人/1663榎条軒の仮名草子「よだれかけ」序、
俳人; 1673西鶴「生玉万句」第十歳暮第三句入、
[四方髪また四海なみうたぬ世に](生玉万句; 歳暮第三/四方髪; 総髪; ここは占者、
脇句似扇; 寒声聞きて調子ううらなふ)
- P1974 黄龍(こうりゅう) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
[とく寝るに厚き紙残る衾ふすまかな](丁卯集; 父子有信)
- Q1978 宏龍(こうりゅう: 法諱) ? - 1729 江前中期; 信濃飯田の曹洞宗正永寺13世、
歌人; 依田正純まさずみ(1681-1749)門
- C1903 好柳(こうりゅう) ? - ? 元禄期雑俳点、前句付、1702松淵「冠独歩行かんむりひとりあるき」入
- C1904 敲柳(こうりゅう・月夕窓) ? - ? 江中期俳人: 調和の後裔、
1758調和句集「俳林不改楽」「俳林不改楽続」編
- L1957 光隆(こうりゅう・村田むらた、字; 不耀/不曜) 1747-1831 85 伊勢津藩士/和算家: 本多利明門、
規矩術; 溝口林卿門、「括要算法解」1867「規矩要法条目口伝私録図解」84「精要算法解」著、
[光隆(; 名)の通称/号]通称; 佐十郎、号; 如拙/朽木軒
- L1958 弘竜(こうりゅう) ? - ? 江後期信州穂高等々力の俳人: 三四坊門、
1821-23穂高社境内に芭蕉句碑建立; 木曾美濃伊勢大和四国を行脚、狂歌、
1824「波那瑚字起」編
[弘竜の別号] 臥明楼/蜀相館/蜀相勸/広田満穂
- 恒隆(こうりゅう・望月) → 恒隆(つねたか・望月もちづき、藩士/民政) C 2 9 3 5
- 興隆(こうりゅう・宝巖) → 宝巖(ほうがん・興隆、曹洞僧/古典学) 3 9 3 3
- 興隆(こうりゅう・篠崎) → 東海(とうかい・篠崎、儒者/和学) 3 1 0 5
- 興隆(こうりゅう: 字) → 僧音(そうおん: 法諱、真宗本願寺派学僧) G 2 5 4 0
- 興隆(こうりゅう・おきたか・倉野/唐金) → 梅所(ばいしょ・唐金からかね/倉野、商家/詩文) B 3 6 5 3
- 興竜(こうりゅう・小篠) → 敏(御野みね・小篠/篠/田淵、藩士/儒・国学) F 4 1 4 2
- 幸隆(こうりゅう・細川) → 幸隆(ゆきたか・細川/源、歌学/連歌) 4 6 2 0
- 幸隆(こうりゅう・ゆきたか・池田) → 光政(みつまさ・池田いけだ、藩主/儒者) E 4 1 8 7
- 幸隆(こうりゅう・松井) → 幸隆(ゆきたか・松井/山田、国学/歌人) E 4 6 6 0
- 光竜(こうりゅう; 字) → 宝巖(ほうがん; 法諱・光竜; 字、真言律僧) 3 9 7 7
- 光竜(こうりゅう・奈良) → 一徳斎(いっとくさい・奈良なら、医者/書) H 1 1 7 3
- 光竜(こうりゅう・田鎖) → 鶴立斎(かくりゅうさい・田鎖たぐさり、藩士/絵師) K 1 5 5 9
- 光隆(こうりゅう; 字) → 鳳健(ほうけん; 法諱・光隆、真言学僧) F 3 9 0 5
- 光隆(こうりゅう・蜂須賀) → 光隆(みつたか・蜂須賀/松平/源、藩主/歌) D 4 1 7 3
- 光隆(こうりゅう・幸田) → 光隆(みつたか・幸田こうだ/度会、神職) D 4 1 7 4
- 光隆(こうりゅう・川角) → 光隆(みつたか・川角かわすみ、歌人) D 4 1 7 5
- 光隆(こうりゅう・みつたか・熱海) → 又治(またじ・熱海あつみ、和算家/教育) J 4 0 4 4
- 光隆(こうりゅう・岡田) → 光隆(みつたか・岡田おかだ、国学者) I 4 1 5 3
- 光旒(こうりゅう・こうそ・狩野/角田) → 無幻(むげん; 法諱、修験僧/書家) 4 2 4 9
- 公竜(こうりゅう・亀田) → 鵬斎(ほうさい・亀田かめだ、儒者/詩/教育) 3 9 5 4
- 公竜(こうりゅう・西尾) → 公龍(きみたつ・西尾にしお、医者/歌人) K 1 6 4 6
- 公隆(こうりゅう・坂本) → 皆山(かいざん・坂本さかもと、医者) I 1 5 6 5
- 公隆(こうりゅう・武者小路) → 公隆(きんなが・武者小路むしやのこうじ/藤原/三条西、廷臣/歌) V 1 6 4 4
- 広隆(こうりゅう) すべて → 広隆(ひろたか)
- 行隆(こうりゅう・藤原) → 行隆(ゆきたか・藤原ふじわら、廷臣) E 4 6 5 7
- 行隆(こうりゅう→ぎょうりゅう) → 師忠(もろただ・二条、関白/歌人) H 4 4 3 7
- 宏隆(こうりゅう・大江) → 宏隆(ひろたか・大江おおえ、神道家/国学) G 3 7 1 6
- 黄竜(こうりゅう・松平) → 頼寛(よりひろ・松平まつだいら、藩主/儒家) J 4 7 6 5

- 高柳(こうりゅう・田中) → 秋浦(あきうら・田中/市村、役人/国学) H 1 0 8 3
 康隆(こうりゅう・天野) → 康隆(やすたか・天野あまの、幕臣/歌人) F 4 5 1 8
- C1905 剛立(ごうりゅう・麻田あさだ、名; 妥彰、綾部綱斎男) 1734-9966 蘭学・独学で天文暦算修得、医学修得;
 1767杵築藩の侍医/71脱藩、大阪住; 麻田剛立と改称/暦学に専念; 家暦作製し天体観測、
 1795幕府より改暦依頼; 老齢のため辞退、高橋至時・間重富・山片蟠桃らの師、
 「暦算全書」「暦象考成」「赤道日食法」「月景日食法」「月景奇法」「麻田家両食実測」外著多数、
 [剛立(;字)の通称] 正庵/璋庵
- 更竜庵(こうりゅうあん) → 治泉(ちせん・横山よこやま、俳人) E 2 8 5 7
 江竜院(こうりゅういん) → 光之(みつゆき・黒田、藩主/連歌) F 4 1 0 5
 香流院(こうりゅういん;号) → 了暎(りょうおう;法諱、真宗大谷派僧) G 4 9 5 8
 高隆公(こうりゅうこう) → 忠之(ただゆき・水野、藩主/老中/享保改革) R 2 6 1 3
 黄竜公子(こうりゅうこうし) → 頼寛(よりひろ・松平まつだいら、藩主/儒家) J 4 7 6 5
 向竜斎(こうりゅうさい) → 姫岳(きがく;号・明洗、天台僧/俳人) J 1 6 8 4
 甲竜山樵(こうりゅうさんしゅう) → 為栄(ためしげ・五条ごじょう/菅原、廷臣/国学) X 2 6 0 6
 香隆寺僧正(こうりゅうじそうじょう) → 寛空(かんくう;法諱、真言僧) Q 1 5 2 3
 行留舎(こうりゅうしゃ) → 彦文(ひこぶみ・道工どうく、長伯歌人/紀行) 3 7 7 0
 耕瑠堂(こうりゅうどう) → 嘉孝(よしたか・岩橋いわはし、天文家) E 4 7 0 2
 敲柳堂(こうりゅうどう) → 和推(わすい・堀尾ほりお、調和2世、俳人) 5 3 2 9
 光侶(こうりよ・後藤) → 廉乗(れんじょう・後藤ごとう、金工家) B 5 1 1 9
- G1944 広陵(こうりょう・唐崎からさき、名; 欽) 1714-5845 安藝竹原の儒者/詩人、2歳で父と死別; 兄に養育、
 初め神道; 松岡雄淵(仲良)門; 師の儒排斥に反発/闇齋学; 稲葉迂斎・三宅尚斎門、
 1743江戸遊学/44伊勢長島藩主増山氏に出仕; 儒臣/54致仕・帰郷、詩文; 宇野明霞門、
 「物学辨証」「詩則編」「拘幽操講筆」「拘幽操口義」「敬斎箴講義」「広陵筆録」、「竹原遺稿」、
 [広陵(;号)の字/通称]字; 信々/彦明、通称; 乙之助/万助/多門/金吾/金四郎/欽四郎、
 竹原八左衛門、養子; 唐崎常陸介ひたちのすけ
- L1959 黄良(こうりょう;通称・富沢とみさわ、名; 治雄) ?-? 江後期上総の産科医: 蛭田玄仙門、
 沼野玄昌と師説を記述; 1816「産科新編」著
- C1906 広陵(こうりょう・芙蓉楼) ?-? 下総臼井の俳人: 鳳朗門、1817鳳朗「芭蕉葉ぶね」編
- L1960 交陵(こうりょう・鈴木すずき、名; 親) 1825-? 武蔵妻沼の名主/旅籠業、儒: 寺門静軒門/詩、
 1865「奚囊集」著、
 [交陵(;号)の字/通称]字; 伯長、通称; 三六
- 公量(こうりょう/きんかず・三条) → 公冬(きんふゆ・三条/転法輪三条、歌) E 1 6 6 4
 公諒(こうりょう・土橋) → 友直(ともなお・土橋つちはし/三宅、儒/教育) V 3 1 7 6
 甲領(こうりょう・別所) → 良修(よしなが・別所べっしよ、藩士/歌人) O 4 7 9 7
 亢亮(こうりょう・田村) → 巢居(そうきよ、僧/俳人) B 2 5 0 6
 幸良(こうりょう・真田) → 幸良(ゆきよし・真田さなだ、豊後守/歌) G 4 6 2 4
 光良(こうりょう・岡田) → 光良(みつよし・岡田おかだ、国学/歌人) I 4 1 5 4
 岡陵(こうりょう・田中) → 朋如(ともゆき・田中、国学) Q 3 1 8 0
 岡陵(こうりょう・小瀬/田中) → 朋如(ともゆき・田中/田、藩士/国学者) Q 3 1 8 0
 岡陵(こうりょう・伴林) → 光平(みつひら・伴林ばんばやし、国学/歌/尊王) 4 1 3 0
 向陵(こうりょう・野村) → 望東尼(ぼうとうに/もとに・野村/浦野、歌人) 3 9 5 7
 紅蓼(こうりょう・児島) → 長年(ながとし・児島こじま、篆刻/日記) 3 2 1 3
 広陵(こうりょう・小野/竹原) → 玄路(はるみち・竹原/小野、歌人) G 3 6 9 4
 広亮(こうりょう・石川) → 大椿(たいちん・石川いしかわ、儒者/詩) K 2 6 6 6
 高亮(こうりょう・京極) → 高亮(たかすけ・京極きょうごく、幕臣) M 2 6 1 1
 高良(こうりょう・多賀/箕浦) → 高良(たかよし・箕浦みのうら、藩士/記録) N 2 6 6 9
 孝亮(こうりょう・小槻) → 孝亮(たかすけ・小槻おぎき・壬生、廷臣) M 2 6 1 0
 香陵(こうりょう) → 慧巖(えいげん;法諱、真宗大谷派僧) D 1 3 7 9
 弘亮(こうりょう・伊達) → 峰宗(みねむね・伊達だて、藩士/詩文) F 4 1 5 6

- 弘梁(こうりょう・本多/井戸) → 九如(きゅうじょ・井戸/本多/董、幕臣/絵師) M 1 6 7 0
興良(こうりょう・神崎/八剣) → 興寿(おきなが・八剣やつるぎ/神崎、神職) C 1 4 9 1
綱良(こうりょう・華山/大山) → 綱良(つなよし・大山/華山、藩士/勤王) B 2 9 4 1
紅蓼庵(こうりょうあん) → 双鳥(そうじゅう・戸谷、商家/俳人) 2 5 5 8
香涼院(こうりょういん) → 行忠(ぎょうちゅう; 法諱、真宗僧/詩歌) O 1 6 3 1
向陵院招月望東禅尼(こうりょういんしゅうげつぼうとうぜんに) → 望東尼(ぼうとうに・野村) 3 9 5 7
香流軒(こうりゅうけん) → 直矩(なおのり・新居にい、神職) C 3 2 0 7
- F1944 江陵散人(こうりょうさんじん・夢中庵)?-? 江中期洒落本作者:1782「古今三通伝」(南畝跋)
江陵山人(こうりょうさんじん) → 其楽(きらく・楠里亭なんりてい/小林、読本) H 1 6 6 3
興良親王(こうりょう→おきながしんのう) → 宗良親王(むねながしんのう) 4 2 0 8
- C1907 光隣(こうりん: 法諱・芳郷[卿]ほうきょう: 道号、俗姓; 赤松)?-1536 播磨の臨濟僧; 東福寺斯立光幢門、
師を継承; 東福寺宝勝院2世/足利学校に遊学/三聖寺住寺/1524東福寺200世、
豊後豊光寺住寺; 日支通交書契を司る、「芳卿和尚文集」著、
[芳郷光隣の号] 安枕あんちん/愚島
- L1961 光隣(こうりん: 法諱・玉峯ぎよくほう: 道号)?-? 1653存 東福寺宝勝院臨濟僧: 天倫光沢門; 嗣法、
1621「琳汗疏」を製/1635朝鮮往復書簡監修で対馬下向、1628元和九年漢和聯句(玄仲と)
- C1908 光琳(こうりん・尾形おがた、名; 惟富/伊亮/方祝、宗謙男) 1658-1716 59 京呉服商雁金屋の生、乾山の兄、
諸芸; 父門/絵師; 狩野派山本素軒門/工芸・装飾、二条綱平より厚遇; 法橋、1672「花伝抄」、
「燕子花屏風」「紅白梅図屏風」、「尾形光琳鳥獸類写生帖」「光琳画譜」「光琳百図」外画多数、
[光琳(;号)の通称/別号]通称; 市之丞/藤三郎、
別号; 浩臨/道崇/寂明/澗声かんせい/長江軒/青々斎
- L1962 紅林(こうりん) ? - ? 俳人、1686仙化「蛙合」/88不ト「続の原」入、
[ほそ道やいづれの草に入いる蛙かはう](蛙合かはうあはせ; 七右14)
- L1963 孝隣(孝隣こうりん: 法諱・)? - ? 江前中期; 元禄期1688-1704頃丹後宮津の歌人、
天橋山智恩寺雪山禅師の要請で天橋立付近の古歌を撰出、1690「天橋立和歌集」、
☆1722宮川松堅[倭譚五十人一首]入・内海頭札[同追加](2首)入の[孝隣清天]と同一?、
[いく夕ゆふ妻をうらみも山陰に暁かけて雄鹿をじかなくらし](五十人一首; 46/山暁鹿)、
[をのづから今朝吹きそむる声ぞともしらずおどろく荻の上風うはかせ](同追加; 初秋の心)
- L1964 光林(こうりん・自在庵: 号)? - ? 大阪俳人、1849-53「類題詞花発句集」著、
1859「さざれ貝」編、62「掌中詞華集」「俳諧節用硯具ぜんぐ」著
- 光林(こうりん・亀山) → 蝶(ちょう・亀山かめやま/河地、国学) M 2 8 3 6
光森(こうりん・賀川) → 玄悦(げんえつ・賀川かがわ/三浦、産科医) H 1 8 8 7
光隣(こうりん; 法諱・呑海) → 呑海(どんかい; 道号・光隣、曹洞僧) S 3 1 1 2
江林(こうりん・辻尾) → 意楽(いらく・辻尾つじお、大阪の俳人) D 1 1 1 8
紅林(こうりん; 字) → 台律(だいりつ; 法諱、真宗僧/歌人) X 2 6 9 8
公林(こうりん・多田) → 竹子(ちくし・多田惣平、俳人) G 2 8 3 0
公倫(こうりん・小島) → 蕉園(しやうえん・小島こじま、医者) F 2 2 5 2
公麟(こうりん・野呂) → 見龍(けんりゅう・野呂のろ、医者/詩文) M 1 8 8 5
公麟(公麟こうりん・野呂) → 深処(しんしょ・野呂のろ、藩儒) O 2 2 8 1
功林(こうりん・武田) → 国信(くにのぶ・武田、武将/連歌) D 1 7 0 6
行林(こうりん・大久保/土岐) → 忠政(ただまさ・大久保/土岐、幕臣) T 2 6 7 3
広林(こうりん・西永) → 広林(ひろしげ・西永、藩士/和算家) F 3 7 9 8
広林(こうりん・小島) → 広林(ひろしげ・小島、藩士/同心) F 3 7 9 9
弘麟(こうりん・馬田) → 柳浪(りゅうろう・馬田うまた/広津、医者/戯作者) F 4 9 8 8
猴林(こうりん・杉) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2
高霖(こうりん; 法諱) → 南麟(なんりん: 初法諱/高霖、本願寺派僧) I 3 2 8 2
高林(こうりん・武元) → 北林(ほくりん・武元/明石、庄屋/儒者) E 3 9 0 8
高林院(こうりんいん; 法号) → 貞昌(さだまさ・片桐かたぎり、藩主/茶人) J 2 0 6 6
興林院(こうりんいん) → 日徳(にっとく; 法諱・学林、日蓮僧) F 3 3 5 0

高林斎(こうりんさい) → 貞昌(さだまさ・片桐かたざり、藩主/茶人) J 2 0 6 6
 高林斎(こうりんさい) → 宗洸(そうぶつ・隠岐おき、茶人) I 2 5 8 3
 降臨時人(こうりんじじん) → 頼則(ひでのり・伊能いのう、商人/国学/歌) D 3 7 6 5
 向林亭(こうりんてい) → 広秋(ひろあき・中村なかむら、藩士/歌人) K 3 7 3 7
 香林堂(こうりんどう) → 未生斎一甫(みしょうさいいつぽ、華道家) 4 1 8 7
 孝類(こうるい・永原) → 孝類(たかとも・永原ながはら、藩士/国学者) Y 2 6 6 8

B1981 衡嶺(こうれい;道号・崇松すうしょう;法諱)?-? 江中期常陸巖前の曹洞僧;大光寂照門/法嗣、
 大慈庵に幽棲、1756「大光禪師語録」編

C1909 公麗(こうれい・荒井) ? - ? 江後期漢学者、1823「虞初新誌」の点

公礼(こうれい→きみひろ・樺島) → 石梁(せきりょう・樺島かばしま/樺、藩儒/詩) 2 4 1 7
 公礼(こうれい・綿引) → 文山(ぶんざん・綿引わたひき、医者/随筆) F 3 8 4 3
 公礼(こうれい・室谷) → 賀親(よしちか・室谷むろたに、商家/国学者) E 4 7 5 8
 公礼(こうれい・三宅) → 公禮(きみひろ・三宅みやけ、庄屋/歌人) V 1 6 3 2
 公麗(こうれい・滋野井) → 公麗(きんかず・滋野井しげのい、故実家) D 1 6 8 6
 光嶺(こうれい・高橋) → 光嶺(みつね・高橋たかはし、神職/国学) J 4 1 6 1
 行礼(こうれい・熊懷) → 行礼(ゆきのり・熊懷くまがい、神職/国学) G 4 6 7 9
 弘令(こうれい・中西) → 弘令(ひろのり・中西なかにし、神職/国学) G 3 7 9 3
 公嶺(こうれい・狩野) → 永岳(えいがく・狩野、絵師) C 1 3 5 9
 好礼(こうれい・伊東) → 見龍(けんりゅう・伊東いとう、藩医者) M 1 8 8 1
 好礼(こうれい・富田) → 春郭(しゅんかく・富田とだ、藩士/詩人) M 2 1 6 2
 好礼(こうれい・阪部) → 好礼(よしのり・阪部さかべ、書家/絵師) G 4 7 0 0
 高礼(康礼こうれい・岡田) → 啓(けい・岡田、藩士/国学/地歴) D 1 8 3 2
 香嶺(こうれい;号) → 徳潤(とくじゆん;法諱・深慧、真宗僧) K 3 1 9 2
 江嶺流人(こうれいりゅうじん) → 蕉雨(しやうう/蕉雨斎・人見、藩士/詩文) G 2 2 9 3
 香列(こうれつ) → 近嶺(ちかね・沢/谷沢、商家/歌文) B 2 8 5 0

C1910 孝廉(こうれん・王おう) ? - 815.5 渤海大使、814九月三十日来朝、

815(弘仁6)正月七日従三位、正月20日饗宴/22日帰国に当たり親書を託される、
 5月18日帰国途中船が難破;漂着/越前で代船を用意したが瘡を患い没、録事仁貞も没、
 副使高景秀が親書を携え帰国、詩;文華秀麗集5首入、
 [海国来朝遠き方よりし 百年一酔天裳に謁まみゆ 日宮座外何の見る伎とこそ

五色の雲飛び万歳ばんざいに光る](文華秀麗;卷上/宴集16/勅を奉じて内宴にはべる詩)

公連(こうれん・西園寺/洞院) → 公連(きんつら・洞院とういん、廷臣/連歌) R 1 6 4 5
 公連(こうれん・小倉) → 公連(きんつら・小倉おぐら/藤原、廷臣/歌) T 1 6 7 0
 公廉(こうれん・荒井) → 鳴門(めいもん・荒井あらい、儒者/詩人) 4 3 4 1
 光連(こうれん・藤原) → 光連(みつつら・藤原ふじむら、廷臣/連歌) D 4 1 9 2
 孝連(こうれん・前田) → 孝連(たかつら・前田まえだ、監物家/藩主) M 2 6 3 3
 孝廉(こうれん・川合) → 孝廉(たかやす・川合かわい、歌人) U 2 6 9 7
 幸連(こうれん・花房) → 正矩(まさのり・花房はなぶさ、幕臣/歌) F 4 0 9 8
 高廉(こうれん・中島) → 予斎(よさい・中島/中嶋なかじま、藩儒) B 4 7 8 2
 高廉(こうれん・早雲) → 高廉(たかかど・早雲はやくも、神職/国学) Z 2 6 0 4
 高連(こうれん・檜林) → 栄哲(えいてつ・檜林ならばやし、藩医/詩) F 1 3 7 6
 交簾舎(こうれんしゃ) → 里溪(りけい・長谷川/水町、藩士/俳人) 4 9 8 9
 広蓮社統誉道阿(こうれんしゃとうよどうあ) → 円宣(えんせん;法諱、浄土僧) F 1 3 1 4
 広蓮社信譽(こうれんしゃしんよ) → 巖宿(がんしゆく;法諱、浄土僧) Q 1 5 9 9
 興蓮社法誉仁阿(こうれんしゃほうよにんあ) → 大雲(だいうん;法諱、浄土僧) J 2 6 1 7
 光蓮社明誉念称(こうれんしゃめいねんしょう) → 遊安(ゆうあん;法諱、浄土僧) G 4 6 5 0
 高蓮社理本(こうれんしゃりほん) → 良栄(りやうえい;法諱、浄土僧名越派) G 4 9 4 6
 宏廬(こうろ・多田) → 誠明(ともあき・多田ただ、儒者) P 3 1 1 1
 交蘆(こうろ;号) → 周鏡(しゅうきやう;法諱・月翁げつおう・げつとう、臨濟僧) H 2 1 1 0
 広路(こうろ・遠藤) → 広路(ひろみち・遠藤えんどう、歌人) L 3 7 9 1

- L1965 **峯嘯**(こうろう・田中たなか、名;由恭、由昌男/本姓;橘)1695-1770⁷⁶ 和歌山藩士/1724大小姓、
1725近習番、のち致仕/家督も放棄、詩;祇園南海門、
1736-「南海先生集」編(外題「南海先生集初編」)、「峯嘯こうろう詩集」著、
[峯嘯の字/通称/別号]字;履道、通称;七三郎、別号;鳳泉
- 高朗(こうろう・梶村) → 高朗(たかあき・梶村/柁村かじむら、儒者) L 2 6 4 8
 高朗(こうろう・京極) → 高朗(たかあきら・京極きょうごく、藩主/詩人) L 2 6 5 1
 高朗(こうろう・名越) → 高朗(たかあき・名越なごや/なごえ、郷土/農業) Y 2 6 4 4
 高老(こうろう・伊能) → 高老(たかとし・伊能いのう/大神、国学/歌) V 2 6 5 5
 幸録(こうろく・田中) → 俊民(としたみ・田中たなか、歌人) V 3 1 5 2
 孝六(こうろく・渡辺) → 昭(あきら・渡辺わたなべ、歌人) I 1 0 8 3
 孝禄(高禄こうろく・沖おき) → 天外(てんがい・沖おき、儒者/勤王派) D 3 0 2 4
 交蘆道人(こうろうどうじん;号) → 宗播(そは:法諱・叔英:道号、臨濟/五山文学) C 2 5 7 6
- F1945 **幸和**(こうわ・よしかず・江崎えさき、剃髪後;春学/一翁)?-1644 京の医者/俳人:野々口立圃門、
1633立圃「誹諧発句帳」200句入、立圃「小町躍」57句入、
追善「底拔磨そぬけりす(鶺鴒千句)」立圃編;独吟千句入
[かずの子を取あげいはふ睦月哉](誹諧発句帳)
- L1966 **光和**(こうわ;法諱・弘道;字、坊城俊逸猶子)1748-91⁴⁴ 讃岐金刀比羅神恵院観音寺71世、
真言;光厳門、法印、「神供調進之記」著
- 幸和(こうわ・吉見) → 幸和(よしかず・ゆきがず・吉見/菅原/源、神職/国学) 4 7 0 6
 孝和(こうわ・関) → 孝和(たかかず・関、幕臣/和算家) C 2 6 6 0
 孝和(こうわ・前田) → 孝和(たかかず・前田まえだ、藩士/記録) L 2 6 7 0
 公和(こうわ・西原) → 公和(よしかず・西原一甫、藩士/国学) C 4 7 5 0
 公和(こうわ・安田) → 放庵(ほうあん・安田やすだ、儒者/詩人) 3 9 1 2
 公和(こうわ・中野) → 順台(じゅんたい・中野なかの、医者/詩) L 2 1 4 6
 光和(こうわ・外山) → 光和(みつかず・外山とやま/藤原、廷臣) D 4 1 2 0
 好和(こうわ・川口) → 好和(よしかず・川口、随筆) C 4 7 5 1
 行和(こうわ・丹治) → 行和(ゆきかず・丹治たじ、神職/国学) G 4 6 9 7
 黄和(こうわ・無曲軒) → 長伯(ちやうはく・有賀あるが、歌学) 2 8 2 5
 厚和(こうわ・周防) → 厚和(あつかず・周防すおう、歌人) E 1 0 5 3
 幸若丸(こうわかまる・桃井) → 直詮(なおあき・桃井、幸若舞の祖) 3 2 0 1
 高或(たかもち・京極) → 高或(たかもち・京極、藩主/俳諧) N 2 6 3 6
 荒湾漁人(こうわんぎょじん) → 厚載(あつり・金子かねこ、藩士/測量/歌) E 1 0 7 9
- L1967 **古雲**(こうん;法諱) ? - ? 江中期1716-44頃天台僧:光謙靈空門;随従、
1724「前東彼漫談」33「靈空和尚和語雑録」38「靈空和尚和語続雑録」編
- L1968 **虎云**(こうん;道号・郁繡いくしゅう;法諱)?-1828 越中の曹洞僧:機王虎関門、陸奥州伝寺19世、
江戸松久寺22世、1817「引導抄」編/26「晷変蛇足」、「虎云和尚語録」著、
[虎云郁繡の号] 竜山/海林/竜華庵老人
- 孤雲(こうん;道号・懷犇) → 懷犇(えいじゅう;法諱、曹洞僧/永平寺2世) 1 3 6 5
 孤雲(こうん・高尾) → 嘉文(よしぶみ・高尾/今井、幕臣/和学) N 4 7 6 9
 孤雲(こうん・小林) → 脩(おさむ・小林、医者) D 1 4 0 9
 孤雲(こうん・西大路) → 隆共(たかとも・西大路にしのおおじ/藤原、廷臣) Y 2 6 8 1
 孤雲(こうん・平野) → 深淵(しんえん・平野ひらの、藩士/儒者) N 2 2 4 6
- L1969 **呉雲**(ごうん;道号・法曇ほうどん;法諱、俗姓;渡辺)1654-1720⁶⁷ 京堀川の曹洞僧:
1671悦心欣門;得度、1685長崎皓台寺首座/93天徳寺の心越興壽門、水戸天徳寺2世、
「呉雲法曇禅師語録」、「東阜呉雲禅師語録」著
- C1911 **五雲**(ごうん・岡おか、別号;不夜庵2世/必化坊)1720-? 1795存 江戸の俳人:太祇門、
1752太祇と九州行脚、1772京住/のち島原住し不夜庵継承;2世となる、
1795(寛政7)江戸に帰郷;以後消息不明、
1773「石の月」、77「太祇句選後編」編、1789「ふた夜乃月」91「ふたり道」93「その秋」著、
1795「あきの余波なごり」、「花かつみ」、「越の長はま」著

- F1946 **五運**(ごん・吉野) ? - ? 大阪売薬業/歌舞伎研究:
1827歌国編「許多あまた/きよた脚色帖じょう」企画
- L1970 **五雲**(ごん・今田いまだ、名;真静、仙台藩士今田定静男) 1808-59⁵² 仙台俳人、「千賀浦名所一覽」著、
[五雲の通称/別号]通称;善作、別号;西南居
- Q1981 **五雲**(ごん・高妻こうづま、医者 of 秀備ひでつね2男) 1820-91⁷² 日向宮崎郡本庄村六日町の儒者、
和漢学の秀馨ひでか(騰雲)の弟、漢学;医者松田道本門/兄と同様1840広瀬淡窓の咸宜園入門、
高弟となり塾生指導/さらに大坂の篠崎小竹門/江戸の石川藤蔭の門、
平田篤胤や秋月橋門らと交流、書・詩歌を修学、1869日田県少属、信州柏原で子弟指導、
1871致仕帰郷;子弟教育に専念/郷里の小学校学長や戸長歴任/家塾[稽衆園]開設、
兄の家塾[会友園]と連携し地域教育に貢献;兄弟の門弟1千余名、
1859の大干魃以来本庄台地に用水路計画/村民と苦勞の末に1889本庄南用水路を完成、
[五雲(;号)の名/通称]名**秀遠**ひでとお、通称;寛平/圭一郎
- 五雲(ごん・源) → 世昭(せいしょう・源、儒者) I 2 4 7 7
 五雲(ごん・平野) → 鶴歩(かくほ・平野、俳人) K 1 5 4 2
 五雲(ごん・川端) → 陶丘(すえたか・川端かわはた、藩士/俳人) I 2 3 3 0
 五雲(ごん・源) → 世昭(せいしょう・源みなもと、儒者/詩人) I 2 4 7 7
 五雲庵(ごんあん) → 玄鶴(げんかく・大野おおの、医者/地誌) I 1 8 2 7
 孤雲館(ごんかん) → 北海(ほっかい・片山かたやま、儒者/詩人) 3 9 7 1
 五雲軒(ごんけん・林) → 五郎兵衛(ごろべえ・林はやし、医者/和算) P 1 9 1 3
 湖雲齋(ごんさい) → 長時(ながとき・小笠原、武将/故実/兵法) E 3 2 7 0
 呼雲齋(ごんさい・谷) → 宗臨(そうりん・谷たに、商家/連歌作者) D 2 5 2 0
 虚雲齋(ごんさい) → 不角(ふかく・立羽たちばな/山崎、書肆/俳人) 3 8 0 3
 孤雲子(ごんし・馬島) → 光昭(みつあき・馬島まじま、藩士/歌人) K 4 1 4 9
 五雲井(ごんせい) → 槐堂(かいどう・佐野、俳人) J 1 5 0 1
 壺雲亭(ごんてい) → 利視(としみ・南部、藩主/俳人) N 3 1 7 8
 五雲亭(ごんてい) → 杉風(さぶらう・杉山、俳人) 2 0 5 6
 孤雲坊(ごんぼう) → 十右衛門(じゅうえもん・荒川、藩士/俳人) W 2 1 7 0
 孤影(こい・森脇) → チセ(・森脇もりわき/二宮、国学/歌) N 2 8 6 9
- L1933 **五英**(ごえい) ? - ? 江中期女流川柳作者、
[まあうんといゝなんしよとつめり上](誹風柳多留;一七)
- L1971 **五英**(ごえい・田中たなか) 1754 - 1812⁵⁹ 江戸本所林町の書家、1793「画讚懷玉」編
[五英(;名)の字/通称/号]字;清友、通称;喜左衛門、号;帰春
- 悟英(ごえい・法諱・天瑞) → 天瑞(てんずい・道号・悟英、黄檗僧) D 3 0 9 5
 五英(ごえい・高橋) → 卦齋(かいさい・高橋たかはし、藩士/俳人) I 1 5 6 4
 古易館(こえきかん) → 白蛾(はくが・新井あらい、儒者) C 3 6 8 3
 古永徳(こえいとく) → 永徳(初世えいとく・狩野、絵師) 1 3 4 3
 小枝(こえだ・楠瀬) → 小枝(さえ・楠瀬すのせ、医者/歌人) O 2 0 3 4
 肥人(こえびと) → 肥人(うまひと・田氏、万葉歌人) 1 2 8 9
- L1972 **小右衛門**(こえもん・木名瀬きなせ、名;直行) 1720-97 代々陸前岩沼邑主古内家家臣/故実家;
小笠原流礼法秘伝修得、息子;直方[直賢]も小右衛門を称す、
1785「呪術伝書」、「軍礼伝記」著、[これらの著作は息直方の可能性もある]、
[小右衛門(;通称)の号] 虎溪
- L1973 **小右衛門**(こえもん・田中たなか/後姓;松宮、名;由予、田中左膳男) 1820-? 常陸笠間藩士;1838家督、
物頭格/番頭/用人勝手懸/中老/年寄/1861家老、兵学/砲術;市川一学門、
武備改良策主張;容れられず解任;赦免/大阪城代就任の藩主に随従;罪を得て隠居;
松宮に改姓、維新後農政:農業改良・養蚕振興、1859「信管截断表」、「農家須知」編、
[小右衛門(;通称)の別通称/号]別通称;清之進、号;猶夢
- 小右衛門(こえもん・得能) → 巴兮(はげい・得能/其然堂、俳人) E 3 6 2 0
 小右衛門(こえもん・孕石) → 元政(もとまさ・孕石はらみいし、家老/日記) E 4 4 3 0
 小右衛門(こえもん・久須美) → 疎安(そあん・久須美/久須見、茶人) F 2 5 8 1

小右衛門(こえもん・藤咲)→ 僊潭(せんたん・藤咲ふじさき、儒者/藩士) M 2 4 9 2
 小右衛門(こえもん・匹田/疋田)→ 以正(これまさ・匹田/疋田、神道) G 1 9 0 5
 小右衛門(こえもん・服部)→ 南郭(なんかく・服部はつとり、儒/詩歌) 3 2 3 1
 小右衛門(こえもん・加藤)→ 北溟(ほくめい・加藤/中川、儒者/詩) D 3 9 9 3
 小右衛門(こえもん・岡田)→ 清(きよし・岡田おかだ、藩士/国学/地誌) H 1 6 4 0
 小右衛門(こえもん・鶴屋)→ 丑二(ちゅうじ、鶴屋、俳人) G 2 8 1 5
 小右衛門(こえもん・志賀)→ 吉倫(よしみち・志賀しが、藩士/和算家) H 4 7 4 3
 小右衛門(こえもん・滝川)→ 惟一(これかず・滝川/滝/佐久間、幕臣) O 1 9 1 8
 小右衛門(こえもん・野口屋)→ 重矩(しげのり・河地かわち、町役/国学) O 2 1 1 5
 小右衛門(こえもん・山崎)→ 籍侃(よりただ・山崎やまさき、藩士) I 4 7 9 7
 小右衛門(こえもん・田沼)→ 渡(わたる・六橋園ろつきょうえん、狂歌作者) 5 3 4 5
 小右衛門(こえもん・市河)→ 得庵(とくあん・市河いちかわ、書家) K 3 1 4 3
 小右衛門(こえもん・八木田)→ 政徳(まさのり・八木田やきた、藩士/詩歌俳) T 4 0 2 9
 小右衛門(こえもん・佐竹)→ 義維(よしの・佐竹さたけ、官吏/国学者) N 4 7 0 8
 古右衛門(こえもん) → 紅器(こうき・高月たかつき、商家/俳人) I 1 9 1 8

B1918 **五右衛門**(ごえもん・石川いしかわ) 1558?-1594^{37?} 安桃期の大盗賊/1594京三条河原で釜煎かまじり、伝説化;

浄瑠璃:並木宗輔「釜淵双級巴かまがふちふたつどもえ」/歌舞伎;五瓶「楼門五三桐さんもんごさんのきり」等に脚色

L1974 **五右衛門**(4代ごえもん・熊谷/熊屋くまや、名;義比よしかず、庄右衛門男) 1795-1860⁶⁶ 萩商家熊谷家4代目、萩藩御用達;豪商、1818永代上方町人格、足の病で長崎でシーボルトの治療;西洋事情聴取;「ショール」日用百科全書等を贈与され藩に献上/藩政改革に協力、「藍染法」「早稲植付方」著、
 [五右衛門4代(;通称)の蘭名/別通称/号]蘭名;ホーヘン、別通称;幸槌/幸二郎/新三郎、号;驪溟/澹菴たんあん、法号;一誉誠心居士

五右衛門(ごえもん・寺井)→ 知清(ともしよ・寺井てらい、武家/連歌) P 3 1 3 8
 五右衛門(ごえもん・竹永)→ 百合坊(ひやくごうぼう・竹永/武長、俳人) E 3 7 4 7
 五右衛門(ごえもん・斎/斎藤)→ 静斎(せいさい・斎いつき/斎藤/斎宮、儒者) B 2 4 5 7
 五右衛門(ごえもん・泉屋/松村)→ 李郭(りかく・松村まつむら、商家/俳人) 4 9 4 5
 五右衛門(ごえもん・樋口)→ 正冬(まさふゆ・樋口ひぐち、与力/歌人) L 4 0 6 8
 五右衛門(ごえもん・福島屋)→ 滄洲(そうしゅう・津野つの、商家/詩/狂歌) B 2 5 8 5
 五右衛門(ごえもん・美濃屋)→ 輪田丸(わだまる・山本、醸造業/狂歌) 5 3 4 2
 五右衛門(ごえもん・米屋)→ 白推(はくすい・米屋、俳人) D 3 6 3 9
 五右衛門(ごえもん・岩原)→ 恵規(よしのり・岩原いわはら、藩士) G 4 7 0 2
 五右衛門(ごえもん・森田)→ 正憲(まさのり・森田もりた、国学者) T 4 0 2 6
 五右衛門(ごえもん・大鳥居)→ 政明(まさあき・大鳥居おとりい、藩士/歌人) O 4 0 3 7
 五右衛門(ごえもん・越前屋)→ 誠(まこと・白崎しろさき、一恭/商家/国学) Q 4 0 2 3
 五右衛門(ごえもん・越前屋)→ 正(ただし・白崎しろさき、一実/商家/歌人) X 2 6 5 7
 五右衛門(ごえもん・越前屋)→ 永(ながし・白崎しろさき/鑑谷、商家/歌人) N 3 2 3 7
 五右衛門(ごえもん・福島屋)→ 滄洲(そうしゅう・津野つの、商家/詩歌人) B 2 5 8 5
 五右衛門(ごえもん・福島屋)→ 文卿(ぶんけい・津野つの、商家/儒者/詩) I 3 8 4 9
 五右衛門(ごえもん・福島屋)→ 千萱(ちがや・津野、文卿男/商家/国学) M 2 8 9 8
 五右衛門(ごえもん・飯野)→ 香古(よしひさ・飯野いいの/佐藤、里正/歌) L 4 7 4 8
 五衛門(ごえもん・大内) → 清衛門(清右衛門せいえもん・大内、問屋/藩士) H 2 4 4 5

L1975 **古淵**(こえん・辛島からしま、名;惟明/道珠、医者辛島良室男) 1631-93⁶³ 熊本藩儒、儒;常光寺日叟門、山崎闇斎門、程朱学講義、

「塩井雑抄」、「肥後陳迹略史」「肥後名勝略記」「肥之後州古城主考」著、

[古淵(;号)の字/別号]字;之宝、別号;塩井えんせい/蔵斎/朴庵

虎園(こえん・文尚堂) → 春馬(しゅんば・三亭、戯作者) 2 1 6 5
 虎淵(こえん・鳥山) → 時驕(ときなが・鳥山とりやま、藩士/詩文) J 3 1 5 9
 虎范(こえん・古賀) → 竹堂(ちくどう・古賀こが、藩儒/教育) D 2 8 6 4
 蛄園(こえん) → 重賢(しげかた・小野おの/伴、廷臣/歌人) C 2 1 0 7

- L1976 **五猿**(ごえん) ? - ? 江戸の俳人、1773馬卯「双猿路談そうえんろだん」入(；3世湖十中心)
 悟円(ごえん；法名) → 致平親王(むねひらしんのう、天台僧/歌人) C 4 2 3 6
 梧園(ごえん・斎藤/室田) → 霞亭(かてい・室田/脇坂/藤とう、医/詩文) O 1 5 0 7
 梧園(ごえん・長谷) → 信篤(のぶあつ・長谷ながたに/高倉、廷臣) 3 5 9 4
 梧遠(ごえん・穂積) → 忠吾(ちゅうご・穂積ほづみ、国学/歌) N 2 8 4 4
 孤円齋(ごえんさい) → 四山(しざん・松平まつだいら、藩主/俳人) D 2 1 7 9
 後円成院(ごえんじょういん) → 兼香(かねか・一条、関白/太政大臣、歌) O 1 5 3 9
 孤鶯亭(ごえんてい) → 七珍万室(しちちんまんぼう、商家/戯作・狂歌) 2 1 2 8
 後円明寺(ごえんみょうじ) → 兼冬(かねふゆ・一条、廷臣/関白/歌) D 1 5 0 4
- C1912 **後円融天皇**(ごえんゆうてんのう、名；緒仁、後光厳天皇皇子) 1358-93³⁶ 母；崇賢院仲子(紀通清女)、
 北朝在位1371-82、1393出家、1375二条為遠に「新後拾遺集」撰進の院宣、「永徳百首」催、
 1376「菊十首和歌」、「後円融院御百首」「後円融院宸記」著、
 勅撰27首；新後拾(24首27/37/78/134/182/233/293以下)新続古(3首131/727/1740)、
 [後円融天皇の法諱] 光浄
 [けさはまづ野守を友とさそひてやしらぬ雪まの若菜摘ままし](新後拾；春27/若菜)
 子老(小老こおい・葛井) → 子老(小老こおひ・葛井連ふいのむらじ、万葉歌人) 1 9 2 3
- L1977 **虚応**(こおう；道号・円耳えんに；法諱、号；無染、俗姓；斎藤) 1559-1619⁶¹ 京の日蓮僧；1577意東門、
 妙満寺日重門/大応寺を開、臨濟宗に改宗/1603大応寺の西隣に興聖寺開山/東国歴遊、
 1615後陽成天皇に仏法を講説、「心経円耳註」1609「般若心経註解」著
- G1973 **湖翁**(こおう) ? - ? 岐阜の俳人、「寝物語」編、1691江水「元禄百人一句」目録入
 古甕(こおう・小野) → 務(つとむ・小野、豪農/藩政改革/歌人) 2 9 9 8
 孤鷗(こおう・小沢) → 蘆庵(ろあん・小沢おざわ/平、歌人) 5 2 0 1
 後桜園(ごおうえん) → 春樹(はるき・吉村よしむら、藩士/国学/歌) K 3 6 9 7
 後往生院(ごおうじょういん) → 兼晴(かねはる・九条/鷹司、左大臣/歌) O 1 5 8 7
 悟往亭(ごおうてい) → 朝保(ちようほ・宜湾ざわ、琉球廷臣/歌) J 2 8 8 5
- 1924 **小大君**(こおおきみ・こだいのきみ・こおいきみ、女房名；左近) 950?-? 1011後没 平安中期女房歌人、
 出生不詳(「三品式部卿重明親王女・母；貞信公忠平女」の説[後拾遺集勸物]は誤り?)、
 嬪子(こうし、円融天皇中宮、藤原兼通女)に出仕/のち三条天皇東宮在位中の女蔵人、
 藤原朝光と恋愛、平兼盛・藤原実方・藤原道信らと交流、36歌仙の1、
 1002頃東三条院追善八講菊合/1007頃公任前十五番歌合に参加、家集「小大君集」、
 栄花物語に逸話、1146-52頃成立[玄々集]3首・後葉集・続詞花集4首入、
 勅撰21首；拾遺(797/1147/1201)後拾遺(5首；1[巻頭歌]/455/889/1005/1213)、
 千載(784)新古(3首1042/1156/1489)続後撰(96/1007)続拾(893)以下/金葉(Ⅲ2首)、
 [いかに寝て起くる朝あしたにいふことぞ昨日きのふをこそと今日をことしと](後拾遺巻頭)
 (詞書；正月一日よみ侍りける、小大君集入)
 「わづらふころ 参河入道(寂昭/962-1034)をよびて戒受けたるに程なくていにければ、
 ながき世の闇に迷へるわれをおきて雲がくれぬる空の月かな]、
 (玄々集；43/続後拾1258)、
 [小大君の別称] 三条院女蔵人左近さんじょういんによくろうどのさこん/東宮左近とうぐうのさこん、
 東宮女蔵人左近とうぐうのよくろうどのさこん
 参考 → 嬪子(こうし・藤原、堀河中宮/歌人) B 1 9 2 3
- C1913 **孤屋**(こおく・小泉こいずみ、通称；小兵衛)?-? 越後屋の手代、俳人；芭蕉門、初出；1686「蛙合」入、
 1687「続虚栗」入、94「炭俵」野坡・利牛と共編(発句9、编者三吟百韻・芭蕉立句四吟歌仙等入)
 [空豆の花さきにけり麦の縁へり](炭俵；上/題詞；ふか川にまかりて)
 梧屋(ごおく/あおぎりや・根本) → 精器(せいき・根本ねもと、鑄師/俳人) H 2 4 8 5
- C1914 **子祖父**(こおじ・安倍朝臣あへのあそみ)?-? 舍人親王の大舍人、万葉三期十六3838・39(無心所著の歌)
 [我が背子が犢鼻たぶさきにする円石つぶれいの吉野の山に氷魚ひをそ懸さされる](万葉集；3819)
 (無心所著歌とは意味の通じない歌)
- C1915 **子忍男**(こおしお・神人部みわひとべ/かむとべ)?-? 755防人、信濃主帳丁埴科郡はしなのこおり、万葉廿4402

[ちはやふる神のみ坂に幣ぬき奉まり齋いはふ命は母父おもちがため](万葉集;4402)

- F1947 **子首**(首・子人こおびと/こびと・忌部いむべ、姓;首おびと・連むらじ・宿禰すくね) **?-719** 大和期廷臣;
672壬申乱で天武側大伴吹負の軍に参、680連姓/684宿禰姓、704伊勢奉幣使/708出雲守、
681天武天皇の命で「帝紀及上古諸事の記定」に参加(12名の1)、719以前;大宰大貳正四下、
忌部色弗にむちの兄、万葉十六3832戯笑歌の作者(忌部首)説あり?
→ 忌部首(いむべのおびと、万葉歌人) B 1 1 9 0
参考 → 帝紀及上古諸事の記定者(ていきおよびじょうこしよじのきていしゃ)
- L1978 **子首**(こおびと/こびと・平群首へぐりのおびと) **?-?** 大和期廷臣/681頃;大山下(だいせんげ;従六下相当)、
681天武天皇が川島・忍壁皇子など12名に命じ「帝紀及上古諸事の記定」をした時の筆記者;
中臣大島なかとみのおおしまと共に記録(のちの日本書紀の母体となった)
参考 → 帝紀及上古諸事の記定者(ていきおよびじょうこしよじのきていしゃ)
- C1916 **子首**(こおびと・こびと・左[佐]氏さじ・佐伯直ささきのあた) **?-?** 万葉三期歌人830(;730年旅人の梅花宴)、
筑前介/正三位(正六位か?)上勲五等、
[万代よろぎよに年は来経きふとも梅の花絶ゆることなく咲き渡るべし](万葉集:五830)
- 1923 **子老**(小老こお・葛井連ふじいのむらじ) **?-?** 奈良期廷臣(渡来人系);736遣新羅使人、
743新羅使来朝時饗応役、万葉四期3691[長歌]・3692・3693[反歌](;雪宅満への壱岐挽歌)
[はしけやしつまでも子どもも高々に待つらむ君や島隠れぬる](万葉集;十五3692)
郡山散人(こおりやまさんじん) → 淇園(きえん・柳沢、藩士/詩/絵師) 1 6 0 3
- C1917 **古音**(こおん・大倉おおくら、名;弘邦/別号;三居庵、飛良[三居庵]男/本姓;菅原) **?-1774** 大垣の神職、
京住;京祇園社祠官、俳人、「秘伝ちか道集」(父飛良「俳諧近道集」)に加筆、
「俳諧秘事満津毛」(1791刊)「俳諧実語教」(1793刊)著
- L1979 **古音**(こおん・菰口もぐち、大戸文里の弟) **1761-182666歳** 備中笠岡の俳人、1807「心のしみつ」著、
1808「後の清水」、「古音等句帳」著、
[古音の通称/別号]通称;綿屋次郎三郎じろさぶろう、別号;延養亭
瓢瓜(こか・山崎) → 直方(なおかた・山崎やまさき、医者/詩文) 3 2 9 3
- C1920 **呉華**(ごか) **? - ?** 難波の俳人・1694「市の庵」入(;洒堂と五十韻)
- L1980 **瑚海**(こかい:道号・仲[中]珊ちゆうさん:法諱、俗姓;橘) **1390-146980** 河内or備中の曹洞僧;叡山で出家、
真言僧能演門/曹洞宗南英謙宗門/嗣法/1448-53入明、下野赤田の洞福寺2世、
越後の雲門寺を開山、「傑堂勝禪師伝」
- L1981 **巨海**(こかい:道号・良達りょうたつ:法諱) **?-1599** 曹洞僧;総寧寺養室寿孝門/法嗣、常陸玄勝院5世、
下総総寧寺13世、「巨海代」「巨海代鈔」著
- C1921 **瓠界**(こかい:瓠海こかい・北村きたむら、名;宗俊、瓢界?) **1650?-1716?67?** 大阪俳人;宗因門?、行脚、江戸住、
1691「犬丸」97「其法師」編、「俳諧難波順礼」編、
1690鬼貫「俳諧大悟物狂」7句/91江水「元禄百人一句」賀子「蓮実」/1701轍士「花見車」入、
[ひるがほの花も咲きけり鈴の音](花見車;164/鈴を鳴らせて一人旅)
- P1938 **巨海**(こかい) **? - ?** 江中期俳人、1702「俳諧石見銀」編(言水跋)
- L1982 **巨海**(こかい:道号・宗如そうに:法諱、号;如幻) **1696-177075歳** 臨濟僧;密雲宗察門/嗣法、
1744大徳寺349世、宇治蔵勝庵を再興、1767「大燈国師[宗峰]年譜」編、
[巨海宗如の禪師号] 眞機広演禪師
- L1983 **巨海**(こかい:道号・匡津きょうしん:法諱) **?-1790** 丹波の曹洞僧;希胤靈遷門/法嗣、越前竜泉寺住寺、
1769金沢宝円寺9世、丹波香林寺を開山/77隠居、1779「戒説」著
- L1984 **巨海**(こかい:道号・東流とうりゅう:法諱、俗姓;小林) **1780-185374歳** 越後古志郡山本村の曹洞僧、
1793(14歳)出家;長岡長福寺梁山全棟門/遍歴/相戒良重門;法嗣、1815信州大聖寺17世、
1816志摩常安寺20世/33武州豪徳寺22世、詩文、1807「碧巖百葛藤」17「碓房随筆」著、
1851「碧巖録註」、「碓房録摘鈔」「東流和尚語録」「碓房録摘鈔」「永平高祖発菩提心」著、
[巨海東流の号] 号;碓房/梅道人/金粟
古海(こかい・奥平) → 小太郎(こたろう・奥平、藩士/勤王家) N 1 9 0 5
古海(こかい・西野) → 古海(ふるみ・西野にしの、国学/歴史) I 3 8 5 9
- G1974 **湖外**(こかい・一松軒) **? - ?** 京の俳人、1691江水「元禄百人一句」入、
[岡見おかみする人に欠あくびはなかりけり](元禄百人一句)

- (岡見;大晦日夜に蓑をさかさまに着て岡に登り我が家を望見して来年の吉凶を占う)
- F1948 **古崖**(こがい・宮崎みやざき/修姓;宮、名;文忠/忠、佐野忠基男)1687-1739⁵³ 尾張の儒者;伊藤東涯門、父の生家宮崎家を継承/尾張藩儒松平君山と親交、1734一家で上京、1716夢沢「熙朝文苑」後序、30「古崖先生文稿」、「倦遊草」著、
[古崖(;)の字/通称]字;舜弼しゅんすけ、通称;春助、筠圃いんぼの父
- L1985 **故厓**(こがい・遠藤えんどう)1815- 1884^{70歳} 相模小田原の俳人:西馬門、1852「小車集」/56「蓬萊集」編
[故厓の通称/別号]通称;市太郎、別号;由阿弥/青霞庵/可布庵
古凱(こがい;号) → 弁旭(べんきょく;法諱・北条、浄土宗大僧正) B 2 7 5 5
- Q1912 **悟海**(ごかい;法諱) ? - ? 江後期;僧、歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[時雨れきて錦織りなすもみち葉は雲のはたてのしわざなりけり]、(大江戸倭歌;980/紅葉如錦)
- C1922 **呉厓**(ごがい・笹山ささやま) ? - 1868 京の医者:荻野元凱門/御池衣棚東で開業、俳人:1843頃夜半亭継承、狂歌、1833「発句常盤集」、「春能寿佐斐はるのすざび」編、
[呉厓の通称/別号]通称;源吉/元吉、別号;呑舟斎/夜半亭6世
五街遊人調布(ごがいゆうじんちょうふ) → 治助(じすけ・2世桜田、初世松島半二) 2 1 2 4
五街遊調布(ごがいゆうちょうふ) → 半二(2世はんじ・松島、歌伎作/合巻) 3 6 4 4
五快楼(ごかいろう) → 浩然(こうねん・坂本、医/本草/絵師) K 1 9 9 0
五家園(ごかえん) → 名垂(なたり・沢田、国学/歌人) 3 2 2 3
護花関(ごかかん) → 六林(ろくりん・堀田、恒山、詩/俳人) B 5 2 1 8
- L1986 **虎角**(こかく;字・雲潮うんちょう;法諱、俗姓;飯田)1539-93⁵⁵ 戦国時代々甲府の武田家家臣、出家、浄土僧:下総大巖寺道誉貞把門/禅・儒学も修学、諸国布教;寺院開創/1575大巖寺2世、大巖寺檀林の基礎確立、「浄土頌義序」「浄土四義宛然古轍」「浄土四義建立私」著、
[虎角の法名] 穩蓮社安誉/安誉
- F1908 **孤鶴**(こかく) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」2句入(254/264)、
[やよ胡蝶さかづき嘗めて啼ないてみよ](二葉之松;254/酒宴に這い込んだ蝶に無茶な注文)
- F1954 **鼓角**(こかく) ? - ? 銚子口の俳人;1692不角「千代見草」
[猫めとは君ふりむけのまぎらかし](千代見草/前句;石を包みて投付くる文)、
(この猫めと相手に注意を引きふりむかせて恋文を投げる)
- C1923 **虎角**(こかく・吉田、別号;月杵庵)?-? 江中期享保1716-36頃俳人:巴人門、越後新潟住、1725「俳諧古紙子」編
- L1987 **壺角**(こかく) ? - ? 江中期俳人;1772几董「其雪影」入
[へたへたと笑て下手な齋なぬ哉](其雪影;巻尾231、七種粥の囃し打ちの光景)
- L1988 **古岳**(こかく;道号・宗亘そうごう;法諱、俗姓;佐々木)1465-1548⁸⁴ 近江臨濟僧:実伝宗眞門/嗣法、1509大徳76世;大仙院を開/1521禅師号/36国師号、「生苕稿」「入寺法語」「古岳和尚語録」
[古岳宗亘の号] 生苕しやうちょう/苕波ちやうは/夕巢庵/仏心正統禅師/正法大聖国師しやうほうだいしやうこくし
- L1989 **古岳**(こかく;道号・日峻にっしゅん;法諱)1670-1742^{73歳} 曹洞僧:駿河大林寺槐国万貞門/法嗣、1707永平寺修行/14筑後定林寺住持/17大林寺住持、20幕命で長崎皓台寺11世、38退隠、1717「参同契宝鏡三昧測海」26「海雲山歴住略記」、「古岳和尚語録」「古岳和尚大林開堂録」
- L1990 **壺岳**(こかく・西村にしむら、名;和廉、和索男)1733-1807⁷⁵ 伊勢の文筆家、1781「勢陽俚諺」
[壺岳の字/通称/別号]字;子孝/子行、通称;与三左衛門、別号;耕雲/水甫
- F1949 **鼓岳**(こかく・西にし、名;賛、忠能男)1803-57⁵⁵ 肥前佐賀の儒者・郷校多久聖堂入;草場佩川門、藩校弘道館入、1825江戸の古賀侗庵門、帰郷;多久聖堂助教兼監察、詩;「芳隣舎詩鈔」著、「鼓岳遺稿」、
[鼓岳の字/通称/別号]字;叔襄、通称;在三郎、別号;芳隣舎
- L1991 **湖学**(こかく・西にし、名;小角)?- ? 江戸期薩摩の儒者、「古学叢書」「歴史便覧」「詩經古義」著
古岳(こかく;号) → 幽真(ゆうしん;法諱、真言僧/詩歌) C 4 6 7 7
- L1992 **五岳**(五嶽ごかく・勝田かつた/原、名;良延)1717-84⁶⁸ 讃岐丸亀藩士/京江戸に遊学;儒・詩文・書、医者;吉益東洞門、1739「鳴洲聯珠」編、「明詩礎」共編(田重卿と)、「二考録」著、

「五嶽集」「五嶽人文集」「傷寒論古義解」「五嶽老人主方考」「葦洲尺牘標注」著、

[五岳(；号)の字/通称]字；士寿、通称；九八郎くはちろう/精兵衛せいべい

- F1950 **五岳**(ごがく・福原) 1730 - 1799 70歳 備後尾道の南画家；京の池大雅門/大阪住、
当時流行の中国風の画を修得；唐絵師；特に山水人物画が得意/文人画隆昌の先駆者、
1772「洞庭湖図屏風」、「陶淵明図」「秋海棠図」、門人；浜田杏堂・岡熊嶽・鼎春嶽・黒田綾山等
- C1925 **五岳**(ごがく・平野ひろの、名；岳) 1809-93 85歳 豊後日田の真宗専念寺住職/儒詩；広瀬淡窓咸宜園門、
画；前田暢堂門/田能村竹田に私淑、能書、「緑陰亭詩鈔」「禦夷照奸録」「古竹老衲詩集」著、
「臥遊清賞」著、1857梅外「梅外詩抄」入、1888「五岳詩鈔」、「続五岳詩鈔」著、
[五岳(；字)の号] 号；古竹園/竹邨ちくそん/方外仙史、法諱；聞恵、法号；玄通院
- C1924 **護岳**(ごがく) ? - ? 江後期俳人、1843「諸国名所風景発句集」著
- 五岳(ごがく・茂呂) → 金朝(かねとも・茂呂もろ、絵師/歌) O 1 5 7 4
吾岳(ごがく・横山) → 清暉(せいき・横山よこやま、絵師) O 2 4 4 3
古学庵(ごがくあん・市河) → 恭斎(きょうさい・市河/稻毛、書家/詩) N 1 6 8 2
古学庵仏兮(ごがくあんぶつげい) → 仏兮(ぶつげい・古学庵、俳人；芭蕉研究) D 3 8 2 9
古岳院(ごがくいん) → 忠恭(ただすみ・酒井さかい、藩主/和漢学) P 2 6 6 8
孤鶴軒(こかくけん・志村) → 常仙(じょうせん・志村むら、俳人) T 2 2 9 3
五岳斎(ごがくさい・藤) → 広則(ひろのり・藤とう/遠藤/藤原、暦算家) G 3 7 8 8
古学舎(ごがくしゃ) → 富兄(とみえ・高橋、藩士/国学/歌人) O 3 1 8 0
古学先生(ごがくせんせい) → 仁斎(じんさい・伊藤、儒者；古義学) 2 2 2 3
孤鶴汀(こかくてい・志村) → 常仙(じょうせん・志村むら、俳人) T 2 2 9 3
五楽堂(ごがくどう) → 楽真(がくしん・高川たかがわ、藩士/詩/書) K 1 5 1 0
古学道人(ごがくどうじん) → 栗斎(りつさい・小南こみなみ、藩儒) B 4 9 9 2
木隠の翁(ごがくれのおきな) → 名垂(なたり・なたる・沢田、藩士/国学) 3 2 2 3
五岳楼(ごがくろう) → 識正(としまさ・武田たけだ/白玉、国学/歌) V 3 1 2 3
- Q1932 **木蔭**(こかげ・池田いけだ、) 1811-1837 早世 27歳 上野勢多郡の狂歌作者；2世浅草庵守舎(大垣)門
[木蔭(；号)の通称/別号]通称；権兵衛、別号；麓庵/潦亭らうてい/葵園/守瓶/壺翫楼2世
- 小樾(こかげ・寺井) → 謙蔵(けんぞう・寺井てらい、藩士/故実家) K 1 8 7 2
樾屋(こかげや・寺井) → 肇(はじめ・寺井てらい、藩士/故実家) E 3 6 4 1
久我前右大臣(こがさきのうだいじん) → 通博(みちひろ・久我こが/源、太政大臣/歌) C 4 1 3 6
後花山院(ごかざんいん) → 兼雅(かねまさ・花山院かざんいん、左大臣) H 1 5 0 4
後花山院(ごかざんいん) → 定雅(さだまさ・花山院/藤原、右大臣/歌) C 2 0 4 3
後花山院前内大臣(ごかざんいんさきのないだいじん；風雅) → 師信(もろのぶ・花山院) H 4 4 6 5
後花山院内大臣(ごかざんいんないだいじん；続後拾/新千以下) → 師信(もろのぶ・花山院) H 4 4 6 5
五華山人(ごかざんじん) → 香山(こうざん・井部いべ、儒者/詩人) G 1 9 3 7
- C1926 **後柏原天皇**(ごかしわばらてんのう、名；勝仁かつひと、後土御門天皇皇子) 1464-1526 63 母；庭田長賢女朝子、
1500踐祚/在位1500-25、皇室窮乏期、古典学/歌；飛鳥井雅親・三条西実隆門、詩/連歌、
仏教(浄土教)信仰、月次歌会催/1503「三六番歌合」催、家集「柏玉はくぎよく集」「後柏原院御集」、
1501「内裏花見続歌」26「内裏御屏風和歌」、連歌；「伊勢物語詞百韻」外百韻・千句・聯句多数、
新菟玖波；発句6句など50余句入、蹴鞠/管弦にも通ず、謎の集成「後奈良院御撰何曾」撰？
[蟬の声しぐれし跡に待ち出でて木の葉色づく月ぞもりくる]、
(三六番歌合；樹蔭夏月一番左/女房名)
- 久我太政大臣(こがだいていじん) → 雅実(まさざね・源/久我こが、歌人) C 4 0 6 0
五月(ごがつ・平) → 五月(さつき・平たいら、廷臣/漢学/詩人) G 2 0 2 5
古雅堂(ごがどう) → 五松(ごしょう・松田まつだ、国学/俳人) M 1 9 7 9
古雅堂(ごがどう) → 丘高(きゅうこう・笹ささ、神風館13世/俳人) M 1 6 5 2
古雅堂(ごがどう) → 元兆(もとよし・松田/上部、国学者) E 4 4 7 7
五花堂幽山(ごかどうゆうざん) → 東行(とうこう・樋口、俳人) D 3 1 7 4
久我右大将(こがのうだいしょう) → 通忠(みちただ・久我こが/源、大納言/歌) B 4 1 7 6
久我右大臣(こがのうだいじん) → 師房(もろふさ・源みなもと、右大臣/詩人) H 4 4 8 6
久我内大臣(こがのないだいじん) → 雅通(まさみち、源/久我、廷臣/歌人) 4 0 2 0

- C1927 **こがね**(・百足むかで、百足こがね)?-? 狂歌師、徳和歌後万載集182・557
 [ひつたりと抱いだきしめつゝなく蟬は日々に通へるきむすめの許もと](後万載;二182)
 小金厚丸(黄金厚丸こがねあつまる)→あつ丸(あつまる・小金、狂歌/洒落本) 1 0 2 3
 黄金舎(こがねのや) →曙覧(あけみ・橘/正玄、商人/国学/歌) 1 0 1 4
- L1993 **黄金升成**(こがねますなり、姓;辻)?-? 日本橋小料理店経営/狂歌:三陀羅法師門/判者、
 1832「狂歌遊覧集」54「春の霜」編、「狂歌水魚金石集」「狂歌藤川百首」「狂歌五十人一首新抄」、
 [黄金升成の通称/別号]通称;升屋多三郎/江戸升、別号;宝市亭/宝山人/楓川舎
- C1928 **後龜山天皇**(こがめやまてんのう、後村上天皇皇子) 1347?-1424? 母;嘉喜門院勝子(藤原経忠女)?、
 南朝最後:4代、1383踐祚/1392南北朝合体により吉野を出て嵯峨大覚寺住(在位9年)、
 合体後の幕府の態度に不満;1410吉野潜幸/16大覚寺に籠居、
 歌;1365[正平廿年三百六十首](無品親王名)/1375南朝五百番歌合(源資氏名)参加、
 勅撰;新統古(4首;104/1622/1711/2034)、
 [春はまたわが住むかたに帰るなりあし屋のあまの衣かりがね](新統古;春104)、
 [後龜山天皇の名/法名/通称]名;熙成、法名;金剛心、
 称;大覚寺殿/大覚寺法皇/嵯峨法皇
- 木枯庵(こがらしあん) →丘高(きゅうこう・笹ささ、神風館13世/俳人) M 1 6 5 2
 木枯の調実(こがらしのちようじつ)→調実(ちようじつ・一ノ瀬、紙漉業/俳人) I 2 8 5 9
 午花林(ごかりん) →平砂(2世へいさ・皐月さつき、俳人) 2 7 3 1
 小川殿(こかわどの) →満詮(みつあきら・足利、義満弟、歌人) D 4 1 0 3
- 1925 **虎関**(こかん;道号・師鍊;法諱、俗姓藤原) 1278-1346? 京の臨濟僧;1280(3歳)三聖寺東山湛照門、
 南禅寺規庵祖円/円覚寺桃溪徳悟門、外典・儒学;一山一寧門、五山文学の祖、
 1322仏教史書「元亨釈書」完成、32東福寺/39南禅寺住持、41東福寺海蔵院退隱、
 「元亨釈書微考」「済北集」「済北詩話」「興禅論」「海蔵略韻」「紀年録」「出塵集」「仏語心論」、
 「虎関国師語録」「虎関和尚十禅支録」「虎関和尚統禅支録」外著多数、
 [虎関師鍊こかんしれんの諡号] 本覚国師/海蔵和尚
- L1994 **古澗**(古澗こかん;道号・慈稽じけい;法諱、俗姓;土田) 1544-1633長寿90 信濃臨濟僧;建仁寺大統院入、
 建仁寺奎文けいぶん門;嗣法、博多聖福寺住持/建仁寺大統院住持/1605建仁寺294世
 1608南禅寺住持、のち建仁寺大統院に退隱、儒典研究;大統院寓の林羅山の師、
 詩人;後陽成天皇招聘で三体詩を進講、1600?「謡抄」の禅注釈、
 「法語集」「廬瀑集」「口永集」「絶句抄」「古澗詩偈」著、
 漢和かな聯句;慶長十三年1608・同十六1611・同十七1612・元和四1618・同八1622
- L1995 **古礪**(こかん;法諱) 1653 - 1717? 浄土僧;大和郡山西岸寺住/のち京報恩寺住職、絵師;
 狩野永納門/雪舟画風に私淑、大黒天像を得意、1697「円光大師号絵詞伝」(知恩院法会図)、
 1700「円光大師伝」画、「元興寺別院極楽坊縁起」「向阿上人伝」「人間一代戯画」画、
 [古礪の法名/号]法名;澄蓮社明誉/明誉、号;虚舟
- L1996 **虎関**(こかん) ? - ? 江中期宝暦1751-64頃尾張の曹洞宗永安寺僧、
 「頑翁石和尚行業記」著
- C1929 **湖関**(こかん、別号;蘭窓) ? - ? 江戸中期江戸の俳人:湖十門、
 1767「俳諧不断佐久良ふだんざくら初篇」編/71「江戸高点附句集」編
- L1997 **古貫**(こかん;法諱、号;淡谷/遠水楼)?-? 安藝高田郡栗屋村真宗本願寺派専徳寺の住職、
 本願寺義教と親交;義教の論敵智暹と屢々諍論、1766夏安居の代講師、
 「鑑鞠篇」「無量寿経勸策」「浄土論註聴記」「安楽集講録」「観無量寿経序題標説」著
- L1998 **顧鑑**(こかん;道号・古范こはん;法諱、俗姓;尾関) 1770-1843? 美濃厚見の臨濟僧;伊豆の東嶺円慈門、
 諸国歴遊、江戸麟称院峨山慈棹門/関道霊枢門;法嗣、1804輝東庵住、1832「大黒天略縁起」著、
 [顧鑑古范の諡号] 霊眼弘明禅師
- 古澗(こかん;道号) →稽洲(けいしゅう;法諱・玉澗、臨濟僧) G 1 8 0 1
 虎寛(こかん・大蔵) →虎寛(とらひろ・大蔵おおくら、狂言宗家) R 3 1 7 9
 湖貫(こかん・河合) →来々(らいらい・河合かわい、俳人) 4 8 9 9
- F1951 **古岸**(こがん) ? - ? 江戸中期俳人:鳥酔門、
 1745鳥酔「けふの時雨」巻頭の発句(;鳥酔の箱根湯治から帰庵を祝す)

- G1975 **古巖**(こがん・村井/邑井/邨井むらい、名;敬義たかよし) 1741-8646 京の呉服商、国学を修学;
古書を愛し書籍商に転ず、
1785伊勢林崎文庫に和書3707部献納(のち塙保己一が類従校輯に利用)、1786塩竈で客死、
「勤思堂随筆」「古廟陵并植物之図」「古凶纂」「百一録」「陽春白雪帖」著、
1784「林崎文庫書目」編、
[古巖の通称/別号]通称;新兵衛、別号;勤思堂、屋号;菱屋
- L1999 **湖岳**(湖嶺こがん) ? - ? 京の俳人;几董門、1780「安永九年初懐紙」入、
1782蕪村「花鳥篇」2句入、83維駒「五車反古」3句入
[つと(早朝)に起て見れば花ちる麦畠](花鳥篇;花桜帖13)
- 古眼(こがん・沖) → 勝間(加都麻かつま・沖おき、藩士/国学) U 1 5 0 3
故巖(こがん・渋谷) → 故巖(ひさいわ・渋谷しぶや、藩士/歌人) 3 7 8 6
- F1952 **五観**(ごかん・いづみ・内田うちだ、別名;恭/観よしみ) 1805-8278 江戸の和算家;1815(11歳)日下誠門、
1822関流宗統の伝受/26和田寧より円理表伝受;円理豁術を発展させる、蘭学;高野長英門、
「瑪得瑪弟加まてまてか塾」(詳証館)を開、幕命で江川太郎左衛門に従い伊豆相模海岸の測量、
維新後天文局で太陽暦採用に尽力、「内田五観草」「宇宙堂余算」「豁術草」「観斎叢書」、
「算法草術」「招差術」「天文測量叢書」「翻訳和蘭曆表用法」「ガラードボーゴ用法」外著多数、
[五観(;名)の字/通称/号]字:思敬/子敬、通称;弥太郎、号;東瞳/観斎/宇宙堂、法号;最勝院
- M1900 **五丸**(ごがん) ? - ? 江中期但馬生野俳人;1773几董「明鳥」/76樗良「月の夜」入、
[散てさへうきに椿の落にけり](あけ鳥:183/椿花は散らず落ちる)
- 壺菅園(こかんえん) → 信元(のぶもと・野沢のざわ/藤原、神職/国学) J 3 5 5 4
- M1901 **古巖斎**(初世ごがんさい・通称;綿屋甚六、別号;余祥)?-1836? 名古屋の商家/俳人;雑俳点者、
1816「納八橋山一軸」、追善「狂俳 春御幸 千賀の由縁」(1836友人三省軒其恪編)
- M1902 **古巖斎**(2世ごがんさい) ? - ? 江後期三河三好村の俳人;雑俳点者、
1859「久礼多気集初編」編
- 鼓缶子(こかんし) → 正守(まさもり・庄田しょうだ、藩士/歌人) Q 4 0 2 1
御願寺僧都(ごがんじそうず) → 観教(かんきょう;法諱、天台僧/歌人) D 1 5 5 6
顧鑑室(こかんしつ) → 九峰(きゅうほう;道号・主拙;法諱、臨濟僧) M 1 6 9 1
鼓閑亭(こかんてい) → 尹里(いんり・岡部おかべ、俳人) E 1 1 7 1
五貫屋(ごかんや) → 如見(じよけん・樋口ひぐち、俳人) C 2 2 3 9
坪翫楼(2世ごかんろう) → 木蔭(こかげ・池田いけだ、狂歌) Q 1 9 3 2
古達(こき・近藤) → 古達(ふるみち・近藤こんどう、神職・国学) I 3 8 2 6
古廬庵(こきあん) → 吾山(ござん・会田/越谷、俳人) C 1 9 6 6
五鱗翁(ごきおう) → 正英(まさひで・玉木/橋、神道家) G 4 0 6 6
古器観(こきかん) → 木米(もくべい・青木あおき、陶工) B 4 4 1 0
虎毅(こき・吉田) → 澹軒(たんけん・吉田よしだ、藩家老/財政) T 2 6 3 7
古稀一翁(こきいちおう) → 瑞々(ずいずい・柴田しばた、国学者) I 2 3 6 0
古疑園(こぎえん) → 十知(十雉じゅうち・深沢、商家/俳人) Y 2 1 0 2
古義軒(こぎけん) → 雅澄(まさずみ・鹿持かもち/飛鳥井/柳村、藩士/国学者) 4 0 0 9
小吉(こきち・成瀬) → 正親(まさちか・成瀬なるせ、家老/城主) D 4 0 7 1
小吉(こきち・谷村) → 昌武(まさたけ・谷村、藩士/海軍) D 4 0 4 3
小吉(こきち・西郷) → 隆盛(たかもり・西郷さいごう、藩士/倒幕) D 2 6 9 2
小吉(こきち・谷村) → 昌武(まさたけ・谷村たにむら、藩士/海軍) D 4 0 4 3
小吉(こきち・勝) → 夢酔(むすい・勝かつ/男谷、幕臣) 4 2 7 7
小吉(こきち・岩崎) → 利記(としのり・岩崎いわさき、里正/歌人) U 3 1 3 0
子吉(こきち・河合) → 菊泉(きくせん・河合かわい、藩士/儒者) I 1 6 4 6
子吉(こきち・高橋) → 祐雄(すけお・高橋たかはし、藩士/代官/儒) G 2 3 1 1
小吉郎(こきちろう・桂) → 久武(ひさたけ・桂/島津、藩士/日記) B 3 7 2 7
五橋亭(ごきつてい) → 風圭(ふうけい・吉田よしだ、藩士/俳人) 3 8 4 8
五亀亭(ごきてい) → 貞房(さだふさ・歌川/大沢、絵師) F 2 0 5 1
五粽亭(ごそうてい) → 貞広(初世さだひろ・歌川うたがわ、絵師) F 2 0 5 0

- M1903 **弘徽殿女御** (こきでんのによご、藤原述子、四條御息所、藤原実頼女) 933-947 15歳 母;藤原時平女、
村上天皇の女御(東宮時代に入内/946女御)、懐妊中に没、菟玖波集入
- M1904 **弘徽殿女御** (こきでんのによご、藤原低子てい・よしこ、藤原為光女) ?-985 花山天皇女御、
栄花物語に悲恋逸話
弘徽殿女御(こきでんのによご、円融天皇皇后) → 遵子(じゆんし/のぶこ・藤原) J 2 1 8 0
弘徽殿女御(こきでんのによご、一条天皇女御) → 義子(ぎし・藤原公季女) W 1 6 0 2
弘徽殿女御(こきでんのによご、後朱雀帝女御) → 生子(せいし、歌人) B 2 4 7 9
古義堂(こぎどう;塾名) → 仁斎(じんさい・伊藤、儒者) 2 2 2 3
古義堂(2世こぎどう) → 東涯(とうがい・伊藤、儒者) 3 1 0 6
古義堂(3世こぎどう) → 東所(とうしょ・伊藤、儒者) F 3 1 1 8
古義堂(4世こぎどう) → 東里(とうり・伊藤、儒者) I 3 1 1 4
古義堂(5世こぎどう) → 東峯(とうしょう・伊藤、儒者) H 3 1 1 5
古義堂(こぎどう) → 雅澄(まさずみ・鹿持/飛鳥井、万葉研究) 4 0 0 9
- C1930 **子君** (こきみ・笠かさ[姓;朝臣あそみ]、伝不詳) ?-? 万葉集注の人物/卷十九4228左注入;
三形沙弥みかたのさみの歌を久米広縄ひろつなに伝承
- M1905 **古客** (こきやく) ? - ? 元禄期大阪の俳人;1690之道「江鮭子あめご」入、
[七月しちぐわつは船の中にも踊かな](あめ子;169/文月は踊りの季節)
- C1931 **胡弓** (こきゆう) ? - ? 元禄期尾張名古屋の俳人、
1689「阿羅野」四吟歌仙入、1691北枝「卯辰集」入/91江水「元禄百人一句」目録入、
[けふの梅勝ちたり右も椿かな](卯辰集;上一36/花合では左右の椿の中で白梅の勝)
- F1986 **小弓** (こきゆう) ? - ? 江前期武蔵銚子口の俳人;1692不角「千代見草」、
[色好む城は音なくゆる地震](千代見草/殿様が色に耽るとまさに傾城)
- F1953 **壺邱** (こきゆう・毛利もうり/修姓;膝とう、豊後佐伯藩主高慶男/本姓藤原) 1730-86 57 一時山野辺家養子、
実家に帰る/儒:服部南郭/宇佐美瀧水/大内熊耳門;徂徠学修学、詩文に長ず、
「壺邱詩稿」(嬰編)/「壺邱文稿」「楽律考」「経済考」「書籍考」「制度考」「扶揺園筆録」著、
[壺邱の名/字/通称/別号]名;娶けい/泰高/義方、字;公錦、通称;函書、別号;扶揺子/南豊
壺丘(こきゆう・葉山) → 高行(たかゆき・葉山はやま、藩士/儒者) N 2 6 6 4
- G1976 **呼牛** (こきゆう) ? - ? 元禄期大阪の俳人、1691賀子「蓮実」8句入
[此身にも若菜つみけり比丘尼寺](蓮実;137)
- M1906 **呼牛** (こきゆう・富沢とみさわ、知化堂) ?-? 江後期華道;庸軒流生花、「插花四季枝折」著
- M1907 **五休** (ごきゆう・岡本/大岩) 1823-1891? 69? 伊勢の俳人/江戸吉原住、各地行脚、
1855「さとしぐれ」編、61「三一日記」/63「俳諧いのか草」著
[五休の通称/別号]通称;四郎兵衛、別号;芦明庵/麦阿/一水、法号;観音竹窓五休居士
五宮(ごきゆう/ごのみや) → 覚性法親王(かくしょうほつしんのう、歌人) 1 5 6 2
- C1932 **枯魚** (こぎよ) ? - ? 俳人、
「芭蕉翁俳諧大全」(原本不詳)編(;似春「芝肴」[原本散佚]の百韻等を収)
枯魚(こぎよ、枯魚釣叟) → 梅侶(ばいか・喜多川、医/俳人) 3 6 7 9
- M1908 **故郷** (こきよう) ? - ? 江中期俳人;1777蕪村「夜半楽」入(;安永六初会歌仙参)
湖鏡(こきよう・名張なばり) → 梨春(りしゆん・後藤/多田、蘭学/本草/談義本) B 4 9 2 3
虚凝(こきよう;字) → 豪恕(ごうじよ;法諱、天台僧) J 1 9 7 1
- M1909 **五橋** (ごきよう;号) ? - ? 江中期播磨生/浪花の俳人;1773几董「明鳥」入
[鴈かりもまた鳴くや沼田の朧月](あけ鳥;173/北帰行準備の雁)
- M1910 **呉郷** (ごきよう;号) ? - ? 江中期山城伏見の俳人;1776几董「続明鳥」入
- M1911 **五橋** (ごきよう・田中たなか、名;孝、汲古館) ?-? 江中期京の書肆/俳人;蕪村門、
1784「花のちから」編、「汲古堂画譜」著
- M1912 **五橋** (ごきよう;号) ? - ? 江後期文政1818-30頃;筑前の俳人;魯白門、
師魯白追善集「磯の藻屑」編
- G1945 **午橋** (ごきよう・小笠原おがさわら、名;勝修、長坂勝満男) 1822-81 60 会津藩士/小笠原家養嗣/昌平鬻出、
藩校日新館教授、経史/詩文、
「愛国偉績」「続愛国偉績」「続国史略後篇」「午橋先生詩文稿」著、

[午橋の字/通称/別号]字;勝之、通称;常次郎、別号;雁木子

五橋(ごきょう・菊池) → 清彦(きよひこ・菊池わかき/宇野、国学/庄屋/神職) U 1 6 1 3
呉橋(ごきょう・荒木) → 素履(もとむむ・荒木あき、国学/歌) J 4 4 1 1
御郷(ごきょう・稲垣) → 御郷(みさと・稲垣いなぎ/源、歌人) I 4 1 0 9
五行(ごきょう、木食上人) → 行道(ぎょうどう・五行、遊行僧) O 1 6 3 5
戸櫃園(ごきょうえん) → 茂栄(しげひで・木村きむら、国学/歌人) O 2 1 1 9
壺喬園(ごきょうえん) → 下蔭(したかげ・峯みね、国学者) Z 2 1 3 9
五橋翁(ごきょうおう) → 暮四(ぼし・石井、俳人) E 3 9 1 9

C1933 後京極院(ごきょうごくいん・名;禧子きし、初号;礼成門院、西園寺実兼女) 1303-3331 母;藤原孝泰女孝子、
後醍醐天皇の中宮(1318女御/19中宮)/宣政門院権子の母、1320天皇都落ち;礼成門院号、
1320落飾/21天皇が隠岐より帰還;中宮復帰/天皇没;後京極院号、歌人、女房に;宣旨など、
勅撰14首;続千載(5首59/1227/1320以下)続後拾(3首)新千(5首)新拾(203)、新葉1首1294
[吉野山みねとびこえてゆく雁のつばさにかかる花のしら雲](続千載集;一春59)

後京極院宣旨(ごきょうごくいんのせんじ) → 宣旨(せんじ後・京極院、歌人) F 2 4 7 5
後京極摂政(ごきょうごくせつしょう) → 良経(よしつね・九条・藤原、歌人) 4 7 1 6
後京極摂政前太政大臣(ごきょうごくせつしょうさきのだいじょうだいじん) → 良経(よしつね・藤原) 4 7 1 6
古狂生(ごきょうせい・頼) → 三樹三郎(みきさぶろう・頼らい、儒者/詩) 4 1 6 9
五行菩薩(ごきょうぼさつ、木食上人) → 行道(ぎょうどう・明満、遊行僧) O 1 6 3 5
湖鏡楼(ごきょうろう;号) → 見龍(けんりゅう;号・湖鏡楼、俳人) M 1 8 8 2
五玉(ごきょう・吉田) → 元瑞(げんずい・吉田よしだ、医者) K 1 8 3 1
五極軒(ごきょうけん・万积庵) → 意語(いご・奥村おくむら/村、伝記作者) B 1 1 0 0
枯魚堂(初世ごきょうどう、枯魚釣叟) → 梅俣(ばいか・喜多川、医/俳人) 3 6 7 9
枯魚堂(2世ごきょうどう) → 祭魚(さいぎょ・北川、梅俣男/俳人) G 2 0 6 4
御記録本屋(ごきろくほんや) → 由蔵(よしぞう・須藤すどう、商家/日記) D 4 7 8 8

M1913 孤念(ごきん) ? - ? 江前期加賀小松の俳人;1691北枝「卯辰集」1句入、
[秋の雨鶏にはとりの尾のしだりけり](卯辰集;434)

古今(ごきん・村山) → 古今新左衛門(ごきんしんざえもん・村山、役者/古今節) M 1 9 1 4
孤吟(ごきん・小沢) → ト尺(ぼくせき・小沢おざわ、名主/俳人) D 3 9 5 4

C1934 五琴(吾-ごきん) ? - ? 江中期京の俳人・太祇門/1773太祇追善歌仙「その秋」入、
1782蕪村「花鳥篇」2句入、

[掛茶屋の杓子で払ふさくら哉](花鳥篇;19/寺社境内の仮説の茶屋;花盛りの時は多忙)

五禽[堂](ごきん[どう]) → 枳園(きえん・森、医者/国学) F 1 6 0 3
古今園亀寿(ごきんえんきじゅ) → 延齡(えんれい/ながとし・平出、医者) C 1 3 2 4
古金吾(ごきんご・大沢) → 稻彦(いなひこ・大沢おおさわ/松尾、庄屋/歌) K 1 1 0 4

M1914 古今新左衛門(ごきんしんざえもん・村山) 1637?-? 1721存 歌舞伎道化方役者/古今節の祖、
江戸前期貞享1684-88頃江戸・京・大阪で歌舞伎立役道化方役者、
元禄1688-1704頃舞臺で歌った小歌が古今節として流行、座本、1699「はやり歌古今集」著、
[古今新左衛門の通称] 村山古今/村山古今九郎二郎ごきんくろじろう

谷(こく・日野西) → 国豊(くにとよ・日野西ひのにし、廷臣/記録) C 1 7 9 9
穀(こく・渡辺/内田) → 陶丘(とうきゅう・内田、絵師) C 3 1 6 7
穀(こく・大田おた) → 稻香(とうこう・大田、儒者) D 3 1 9 4
穀(こく・加藤) → 梅崖(ばいがい・加藤かとう、藩士/儒者) 3 6 8 3
穀(こく・大倉) → 笠山(りつざん・大倉おくら、絵師/詩人) M 4 9 0 4
穀(こく・横山) → 隆従(たかより・横山よこやま、藩士) N 2 6 8 1
克(こく・奥村) → 蒙窩(もうか・奥村おくむら、藩士/儒家) 4 4 4 6
克(こく・大関) → 劍峰(けんぼう・大関おおせき、国学/儒者) M 1 8 3 1
克(こく・石川) → 克(かつ・石川いしかわ、詩人) G 1 5 0 8
克(こく・福原) → 瀨水(はすい・福原ふきはら、儒者) E 3 6 6 6
克(こく・小倉) → 三省(さんせい・小倉、藩士/儒者;南学) 2 0 5 3
克(こく・室) → 桜関(おうかん・室むろ、儒者/兵学/詩) C 1 4 0 7

克(こく・山崎) → 九臯(きゅうこう・山崎やまざき、医者/儒) M 1 6 5 1
 克(こく・稲葉) → 文礼(ふみのり・稲葉いなば、医者) E 3 8 0 0
 克(こく・大島) → 秋琴(しゅうきん・大島、音曲家/鑑定) W 2 1 9 4
 恣(こく・高見) → 祖厚(そこう・高見たかみ、藩士/国学/書) L 2 5 0 4
 国(こく・松平) → 国(くに・松平まつだいら、藩主室/歌人) E 1 7 5 2
 国(こく・岡田) → 米山人(べいさんじん・岡田おかだ、文人画家) 2 7 4 6
 鵠(こく・木村) → 巽斎(そんさい・木村きむら、商家/博物学) E 2 5 8 3
 鷺(こく・春田) → 九臯(きゅうこう・春田はると、藩士/儒者) I 1 6 7 3

M1915 古愚(こご・西村にしむら、名;直/字;孟清)?-1779 大阪道修町江戸積綿問屋;袴屋仁右衛門、
 詩;崧岳すうがく門、混沌社友

古愚(こご・田原) → 直助(なおすけ・田原たわら、蘭学/洋式軍船) B 3 2 3 8
 古愚(こご・遠藤) → 鶴州(かくしゅう・遠藤、藩士/儒者) H 1 5 2 9
 古愚(こご・臼杵/牧野) → 黙庵(もくあん・牧野/臼杵、儒者) 4 4 6 5
 古愚(こご・柴野/柴) → 栗山(りつざん・柴野、幕府儒官/異学の禁) 4 9 0 3

R1973 国阿(こくあ・法諱) ? - ? 江中期;京の時宗僧/靈鷲山正法寺住職;
 開祖以来代々[国阿]と称す、歌;宮川松堅門;1722[倭譚五十人一首]入;何世国阿か不詳、
 [年のをやよりくる皺もます鏡見る影しばしくれずもあらなむ](五十人一首;25歳暮、
 掛詞;尾と緒・縊り繰ると寄り来る・増すと真澄

国阿(こくあ・清蓮社) → 原澄(げんちよう:法諱、浄土僧) L 1 8 3 9
 克庵(こくあん・山野辺) → 弘軒(こうけん・山野辺やまのべ、藩儒) G 1 9 2 9
 穀庵(こくあん・山本) → 君清(くんせい・山本やまと、医者) B 1 7 2 3
 国維(こくい・高橋/鮎沢) → 国維(くにつな・鮎沢あゆさわ、藩士/尊王派) C 1 7 9 0
 国彝(こくい・竜) → 国彝(くにつね・竜たつ、藩儒/歌人) E 1 7 3 1
 克一(こくいち・宇佐美) → 樸仙(ぼくせん・宇佐美うさみ、医者/儒) D 3 9 6 5
 黒衣の宰相(こくいのだいしょう) → 満濟(まんさい、真言僧/室町幕政) 4 0 3 6
 黒衣の宰相(こくいのだいしょう) → 天海(てんかい、天台僧/江戸幕政) D 3 0 2 2
 黒衣の宰相(こくいのだいしょう) → 崇伝(すうでん;法諱・以心;道号、臨濟僧/幕政参画) 2 3 0 5
 克允(こくいん・三井) → 梅巖(ばいがん・三井みつゐ、書家/絵師) 3 6 9 5
 谷飲(こくいん・林) → 葛廬(かつろ・林はやし、幕府儒官) O 1 5 0 4
 国員(こくいん・歌川) → 国員(くにかず・歌川うたがわ、絵師) C 1 7 6 9
 虚空庵(こくうあん) → 似雲(じうん;法諱、真宗僧/歌人) 2 1 0 1
 虚空素白(こくうそはく) → 素白(そはく・荒木あらき、書家) K 2 5 3 2
 穀雨堂(こくうどう) → 峯梅(せんばい・中村なかむら、俳人) N 2 4 5 2
 国英(こくえい/くにひで・北小路) → 俊包(としかね・北小路きたのこうじ、廷臣/日記) M 3 1 2 9
 国英(こくえい・歌川) → 国英(くにひで・歌川うたがわ、絵師) D 1 7 1 4
 国永(こくえい・北畠) → 国永(くになが・北畠はたけやま、歌人) 1 7 8 2
 国英法鑑禅師(こくえいほうかんぜんじ) → 天倫(てんりん;道号・宗忽、臨濟僧) E 3 0 5 8

E1991 谷園(こくえん・船曳ふなびき、名;有貞、有賢[仙斎]男)1724-180178 播磨佐用郡本郷の医者;
 大坂で医を開業、儒/経義;中井齋庵門、歌/俳諧、「傷寒通明」「中風通明」「仮名傍示」著

穀園(こくえん・岡村) → 御蔭(みかげ・岡村、神職/歌人) H 4 1 4 1
 榭園(こくえん) → 猛彦(たけひこ・市岡、藩士/国学・歌) E 2 6 4 9
 榭園(こくえん) → 和雄(にぎお・市岡、猛彦男/国学/歌) 3 3 1 3
 榭園(こくえん) → 貞庵(ていあん・浅井、医者/詩人) 3 0 2 6
 黒淵漁夫(こくえんぎよふ) → 天来(てんらい・牧岡/反古庵、俳人) E 3 0 5 3
 谷王(こくおう・柴田) → 方庵(ほうあん;号・柴田しばた、蘭医/種痘) 3 9 0 9
 谷鷺山人(こくおうさんじん、谷鷺老人) → 正英(まさひで・玉木/橘、神道家) G 4 0 6 6
 国華(こくか・坂本) → 英臣(ひでとみ・坂本、藩士/砲術師範) D 3 7 3 3
 国華(こくか) → 国華(こくか・松永、儒者詩人) G 1 9 5 4
 国華(こくか) → 国華(こくか・西川、儒者詩人) G 1 9 5 5
 国華(こくか・南部) → 景春(かげはる・南部なんぶ、藩士/儒者/詩) L 1 5 2 4

- 国華(こくか・桂川) → 国華(くにてる・桂川かつらがわ、幕府医師) C 1 7 9 3
 国夏(こくか・津守) → 国夏(くになつ・津守つもり、神職/歌人) 1 7 8 4
 M1916 穀我(こくが) ? - ? 俳人:介我門、1720介我3回忌追善「飛ほたる」編
 1926 谷峨(初世こくが・梅暮里うめぼり、反町そりまち与左衛門伴秀男)1750-1821⁷² 上総久留里藩士;1794家督、
 馬廻席/江戸詰大目付、1788洒落本作者;人情本の基礎、1790「文選臥坐」98「傾城買二筋道」、
 1799「廓さとの癖」(傾城買二筋道後篇)/1801「廓の桜」09「絵本金花夕映」10「伊吾物語」外著多、
 [智者にも一失あれば愚者にも一徳あり](傾城買二筋道の序)、
 [初世梅暮里谷峨の通称/別号]通称;三郎助/三郎兵衛/与左衛門、
 別号;梅月堂梶人/遊里山人/薺亭(しゅんてい/あさがおてい)
 C1935 谷峨(二世こくが・梅暮里うめぼり、姓;森もり/萩原、旗本森宗兵衛男)1826-86⁶¹歳 国学;戊申門、
 俳諧;山本為山門/道彦門?、うた沢節;歌沢笹丸門、書家萩原秋庵の養子、
 人情本/読本/合巻作者、うた沢節作詞・注釈、
 1849「葉唄くらべ」52人情本「春色連理の梅」54「夜雨眠玉草紙」著、
 1857「哇節用集」59「度独逸大成」60「色葉韻歌沢大全」編、「新古端唄集」、俳「対梅宇日涉」刊、
 [谷峨二世(;)号)の名/号]名;語一郎、別号;(人情本号;)梅暮里谷峨2世、
 (音曲号;)歌沢能六斎/鈴亭主人/金竜山人/隆興堂/皷寒翁かんかんおきな、
 (俳号;)対梅宇乙彦/萩原乙彦/梅星爺/蔦の本/十時庵/蕉華庵
 国雅(こくが・北村) → 国雅(くにもと・北村きたむら、国学/歌人) E 1 7 1 3
 国学斎詞宗文彬先生(こくがくさいしそふんひんせんせい) → 三冬(みふゆ・友安ともやす、儒/国) F 4 1 7 8
 克寛(こくかん・大野木) → 克寛(かつひろ・大野木おおのぎ、藩士/記録) N 1 5 8 1
 克寛(こくかん・久野) → 克寛(かつひろ・久野くの、古銭研究者) N 1 5 8 2
 国幹(こくかん・桂川) → 国幹(くにもと・桂川/8世、蘭学;化学) D 1 7 2 7
 国幹(こくかん・野上) → 国幹(くにもと・野上のがみ、神職/詩歌) D 1 7 2 5
 国幹(こくかん・浅井) → 篤太郎(とくたろう・浅井あさい、漢方医) T 3 1 0 0
 国寛(こくかん・くにひろ・大貫) → 杜哉(とさい・大貫、俳人) L 3 1 7 8
 克己(こくき・人見) → 美至(のりゆき・人見ひとみ、幕府儒官) G 3 5 1 1
 国貴(こくき・津守) → 国貴(くにたか・津守つもり、神職/歌人) 1 7 7 1
 国基(こくき・津守) → 国基(国元くにもと・津守、神職/歌人) 1 7 1 0
 国規(こくき・前田) → 国規(くにのり・前田まえだ、藩士/系図) D 1 7 0 8
 国器(こくき・松平) → 定賢(さだよし・松平、藩主/国学/詩) K 2 0 2 4
 国器(こくき・中西) → 国器(くにかた・中西なかにし、儒者/詩歌) E 1 7 3 8
 国義(こくぎ・前田綱紀) → 松雲(しょううん・前田、藩主/藩政改革) F 2 2 3 2
 極喜堂(ごくきどう) → 実詮(じつせん;法諱、真言僧) U 2 1 8 8
 国窮(こくきゆう・篠崎) → 睽孤(けいこ・篠崎しのさき、漢学者/兵法) F 1 8 5 3
 国教(こくきよう・津守) → 国教(くにのり・津守つもり、神職/歌人) D 1 7 0 7
 国郷(こくきよう・歌川) → 国郷(くにさと・歌川うたがわ、絵師) C 1 7 7 4
 国橋(こくきよう・西林) → 要人(かなめ・西林にしばやし、神職/神楽) V 1 5 3 2
 克欽(こくきん・伊地知) → 季安(すえやす・伊地知いちち、藩士/記録) F 2 3 7 2
 国均(こくきん・木下) → 国均(くにまさ・木下きのした、惣庄屋/国学) E 1 7 1 2
 国具(こくぐ・奥村) → 国具(くにとも・奥村おくむら、和算家) C 1 7 9 8
 国訓(こくくん・桂川) → 国訓(くにとき/くにのり・桂川/3世、幕府蘭医) B 1 7 5 7
 国契(こくけい・文挙契選) → 契選(けいせん・文挙、曹洞僧) 1 8 7 8
 国景(こくけい;号) → 宗純(そうじゆん;法諱・一休;道号、臨濟僧) 2 5 1 1
 国景(こくけい・歌川) → 国景(くにかげ・歌川うたがわ、絵師別) C 1 7 6 7
 国景(こくけい・錦葩楼) → 国景(くにかげ・錦葩楼、絵師) C 1 7 6 8
 国経(こくけい・藤原) → 国経(くにつね・藤原ふじわら、廷臣/歌人) 1 7 7 5
 克敬(こくけい・山本) → 健斎(けんさい・山本やまもと、藩士/儒者) I 1 8 8 9
 克敬(こくけい・鈴木) → 広川(こうせん・鈴木/廬、儒/詩文) K 1 9 2 0
 極月楼主人(ごくげつろうしゅじん) → 敬忠(のぶただ・瀬下せしも、国学・俳) B 3 5 8 3
 国堅(国賢こくけん・小野) → 国堅(国方・国賢くにかた・小野、万葉歌人) 1 7 1 8

- 国頭(こくけん・津守) → 国頭(くにあき・津守、神職/歌人) 1 7 5 7
 国頭(こくけん・渡辺/杉浦) → 国頭(くにあきら・杉浦さざうら、神職/国学) 1 7 1 7
 国兼(こくけん・歌川) → 国兼(くにかね・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 4 9
 国兼(こくけん・津守) → 国兼(くにかね/くにかね・津守、神職/歌) 1 7 6 3
 国賢(こくけん・清原) → 国賢(くにかた・清原、廷臣/日本紀研究) 1 7 6 1
 国賢(こくけん・船山) → 輔之(すけゆき・船山ふなやま、藩士/和算家) D 2 3 5 3
 黒犬(こくけん・武知) → 方獲(まさかり・武知たけち、藩儒/詩人) P 4 0 1 6
 罔彦(こくげん・高橋) → 罔彦(くにひこ・高橋たかはし、国学者) B 1 7 6 0
 古愚軒(こぐけん) → 栗山(りつざん・柴野、幕府儒官/異学の禁) 4 9 0 3
 黒犬斎(こくけんさい・原田) → 忠徹(ただとお・原田はらだ、旗本家臣/歌) Z 2 6 1 2
 谷玄甫(こくげんぼ) → 藍水(らんすい・横谷よこや/-たに、鍼医/詩人) C 4 8 7 3
 P1936 国興(こくこう・東とう) ? - ? 琉球首里の漢学者/詩人、1840清国留学官生、
 「東国興詩稿」著(国興ら共編「琉球詩課」所収)
 穀侯(こくこう・塩谷しおのや) → 宕陰(とういん・塩谷、幕府儒官/詩) 3 1 0 3
 黒肱(こくこう・長坂/長阪) → 円陵(えんりょう・長坂、藩士/儒者) C 1 3 3 5
 国光(こくこう・藤原) → 国光(くにみつ・藤原、廷臣/歌人) D 1 7 2 2
 国光(こくこう・津守) → 国光(くにみつ・津守つもり、神職/歌人) 1 7 9 7
 国光(こくこう・津守) → 国光(くにみつ・広橋/藤原、廷臣) D 1 7 2 3
 国光(こくこう・歌川) → 国光(くにてる・歌川、絵師) C 1 7 9 4
 国孝(こくこう・歌川) → 国孝(くにたか・歌川うたがわ、絵師) C 1 7 8 3
 国行(こくこう・藤原) → 国行(くにゆき・藤原ふじわら、廷臣/歌人) 1 7 2 3
 国香(こくこう・木村) → 世祭(つぐあき・木村きむら、医者/国学) F 2 9 5 9
 国綱(こくこう・宇都宮) → 国綱(くにつな・宇都宮、武将/記録) C 1 7 8 9
 M1917 克斎(こくさい・広瀬ひろせ、名;以文/以礼、清八男)?-1811 常陸土浦藩士/1794勘定人格;素読指南、
 儒;手塚坦斎門/医、1799藩校郁文館教官/右筆見習格/中小姓、「諸筆記」著、
 [克斎(;号)の通称] 伊三郎/繁蔵
 克斎(こくさい・庭田) → 経有(つねあり・庭田/源、廷臣/歌人) B 2 9 6 5
 克斎(こくさい・鈴木) → 抱山(ほうざん・鈴木、医者/詩人) B 3 9 1 7
 克斎(こくさい・大熊) → 秦川(しんせん・大熊おおくま、眼科医/詩人) P 2 2 1 3
 穀斎(こくさい・小野/竹原) → 玄路(はるみち・竹原/小野、歌人) G 3 6 9 4
 鵠斎(こくさい・並河) → 寒泉(かんせん・並河なみかわ/なびかわ、儒者) G 1 5 4 7
 黒斎(黒斉こくさい・阿蘇) → 玄与(げんよ・阿蘇あそ/宇治、武将/歌人) D 1 8 2 3
 齧斎(こくさい・谷川) → 護物(ごぶつ・谷川、俳人) D 1 9 6 9
 国济国師(こくさいこくし) → 覚明(かくみょう;法諱・孤峰、臨濟僧) B 1 5 7 3
 小草亭(こぐさいてい) → 李東(りとう・鈴木すずき、里長/俳人) C 4 9 2 9
 F1955 穀山(こくざん・小田おだ、修姓;田/陳、名;煥章/敏、佐藤武求男) 1739-180466 越後岩手村漢学者、
 豪族小田吉成養嗣子、江戸で鵜殿子寧・片山兼山門、1840江戸四谷で開塾/87芝三島町住、
 のち一時駿府住/1803江戸住、1781歌謡「越風こしり石臼歌」、99「穀山先生詩文集」、
 1803「邇言解」「駿府詩選」「唐後詩江戸選」「標注訓点荀子」「毛詩古伝」「論語翼大成」著、
 [穀山の字/通称]字;子文、通称;定右衛門/五兵衛、諡号;適清先生
 Q1915 黒山(こくざん・平田ひらた、名;清時きよとき/通称;孫左衛門) 1777-99早世21 江中期;近江彦根歌人、
 歌;仏山慈芳じほう(百如)門、[彦根歌人伝・続寿]入、
 ☆1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入の[黒山]と同一?
 [窓あけて軒端の雪を見るたびに寒さも袖につもりぬるかな](大江戸倭歌;冬1253)
 穀山(こくざん・富田) → 定徴(さだあきら・富田とみた/小寺、役人/国学) O 2 0 8 8
 鵠之(こくし・若林) → 靖亭(せいてい・若林友輔、藩士/詩人) J 2 4 2 6
 克施(こくし・藤江) → 梅軒(ばいけん・藤江ふじえ、藩儒者/詩文) B 3 6 0 9
 国児(こくじ・松平/大須賀) → 忠次(ただつぐ・榊原、藩主/歌人) F 2 6 3 0
 国次(こくじ・中井) → 国次(くにつぐ・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 9 1
 国治(こくじ・津守) → 国治(くにはる・津守つもり/三宅、神職/歌) E 1 7 3 4

国字垣(こくじえん→かながき)→歌志久(かしく・国字垣かながき、藩士/狂歌) L 1 5 7 8
 国実(こくじつ・津守) → 国実(くにざね・津守つもり、神職/歌人) 1 7 6 5
 黒日売(こくじばい) → 黒日売(くろひめ、吉備海部直女/歌謡) 1 7 2 7
 国字屋(こくじや) → 趙斎(ちようさい・関根、書家) I 2 8 3 9
 克灼(こくしゃく・寺尾) → 知若(ちじゃく・寺尾/川崎、和算家) E 2 8 3 1
 黒主(こくしゅ・大伴) → 黒主(くろぬし・大伴/大友、歌人) 1 7 1 2
 谷守(こくしゅ・羽生) → 谷守(たにもり・羽生、里正/俳人) R 2 6 7 5
 国種(こくしゅ・歌川) → 国種(くにたね・歌川うたがわ、絵師) C 1 7 8 6
 国周(こくしゅう・豊原/歌川) → 国周(くにちか・豊原、荒川/大島、絵師) B 1 7 5 5
 国秀(国秀こくしゅう→くにほ・生田) → 万(よろづ・生田いくた、藩士/国学/救民) 4 7 4 2
 国重(こくじゅう・歌川) → 国重(初世くにしげ・歌川うたがわ、絵師) C 1 7 7 7
 国重(3世こくじゅう・歌川) → 国重(3世くにしげ・歌川、絵師) C 1 7 7 8
 克従(こくじゅう・小島) → 大梅(だいまい・小島/児島、詩/俳人) C 2 6 0 9
 刻舟漁人(こくしゅうぎょじん) → 畏堂(いどう・小林こぼやし、儒者) E 1 1 1 6
 黒樹園(こくじゅえん) → 道旧(みちひさ・清原、藩士/国学/俳人) C 4 1 3 2
 克寿軒(こくじゅけん) → 一也(かずや/かずなり・河辺かわべ、歌人) M 1 5 5 4
 克隼(こくしゆん→かつとし・野沢) → 勝隼(かつとし・野沢、藩士/兵法家) N 1 5 6 0
 克俊(こくしゆん/かつとし・高橋) → 竹中(ちくちゅう・高橋たかはし、漢学者) D 2 8 4 5
 国春(こくしゆん・くにはる・佐々木) → 中沢(仲沢ちゅうたく・佐々木、蘭医者) G 2 8 6 2
 国春楼(こくしゆんろう) → 可侯(かこう・一筆庵、溪斎英泉、絵師/戯作) 1 5 1 3
 国助(こくじょ・津守) → 国助(くにすけ・津守つもり、神職/歌人) 1 7 0 7
 黒女(こくじょ・宇遅部) → 黒女(くろめ・宇遅部うぢべ、防人の妻/万葉歌人) 1 7 1 5
 克助(こくじょ・山地) → 介寿(すけとし・山地やまじ、藩士/国学者) G 2 3 6 3
 谷樵(こくしゅう・川崎) → 道義(みちよし・川崎、代官/儒者) C 4 1 8 7
 国章(こくしょう・藤原) → 国章(くにあき/のり・藤原ふじわら、廷臣/歌) 1 7 1 6
 国章(こくしょう/くにあき・内山) → 眞弓(まゆみ・内山うちやま、歌人) 4 0 3 3
 国章(こくしょう/くにあき・岸) → 岱(たい・岸きし、岸岱、絵師) 2 6 0 0
 国章(こくしょう/くにあき・樋口) → 邦古(くにひさ・樋口ひぐち、国学/文筆家) D 1 7 1 2
 国昌(こくしょう・近藤) → 国昌(くにまさ・近藤こんどう、国学者) E 1 7 1 9
 国昭(こくしょう・津守) → 国昭(くにあき・津守、神職) C 1 7 5 9
 克紹(こくしょう・小原) → 克紹(かつつぐ・小原おはら、儒/絵師/地誌) N 1 5 5 3
 克昌(こくしょう/かつまさ・馬場) → 仲達(ちゅうたつ・馬場ばば、幕臣/本草家) G 2 8 6 3

C1936 克讓(こくじょう; 法諱、乗信2男) 1787-1865 79 松山真宗本願寺派正覚寺僧; 父が住職、
 杉山熊台門、石見・京に出て仏道修行、生涯住職不就、諸国を巡錫; 仏道を説き詩歌俳を詠、
 詩歌; 7万首/書画を嗜み奇石を収集、酒を愛す、中島正賢寺に没、
 紫人撰「俳諧四国集」入、「遠久留麻」「二州雑録」「石陰雑抄」「雲窓雑鈔」「本覺雑鈔」著、
 [克讓の幼名/字/号] 幼名; 恵忠、字; 大痴、号; 石室/二州道人/玩石/道楽山人

克讓(こくじょう→かつじょう・津久井) → 克讓(かつじょう・津久井、医者/詩) N 1 5 4 6
 国条(こくじょう・津守) → 国条(くになが・津守つもり、神職/歌人) D 1 7 0 1
 穀城(こくじょう・立木) → 定保(さだやす・立木たちき/源、藩士/国学) Q 2 0 9 2
 後九条内大臣(ごくじょうのないだいじん) → 基家(もといえ・九条/藤原、廷臣/詩歌) C 4 4 1 2
 国信(こくしん・源) → 国信(くにざね・源、廷臣/歌人) 1 7 1 9
 国信(こくしん・武田) → 国信(くにのぶ・武田、武将/連歌) D 1 7 0 6
 国信(こくしん・歌川) → 国信(初世くにのぶ・歌川、絵師/草双紙) B 1 7 5 8
 国親(こくしん・大中臣) → 国親(くにちか・大中臣、神職/連歌) C 1 7 8 8
 谷神(こくしん・長井) → 松堂(しょうどう・長井/大江、医者/漢学) L 2 2 2 3
 国人(こくじん・馬史) → 国人(くにひと・馬史うまのふひと/馬毗登/武生連、万葉歌人) 1 7 8 7
 国人(こくじん・丹比) → 国人(くにひと・丹比真人/多治比たじひ、万葉歌人) 1 7 8 8
 国人(こくじん・丹比部) → 国人(くにひと・丹比部たじひべ、万葉防人歌人) 1 7 0 9
 谷神子(こくしんし) → 可為(よしため・宇喜多/藤原・豊臣、絵師) L 4 7 7 1

- 国岑樵夫(こくしんしょうふ) → 雅澄(まさずみ・鹿持かもら/飛鳥井/柳村、藩士/国学者) 4 0 0 9
- C1937 谷水(こくすい) ? - ? 江前期俳人、1689露川「花虚木」歌仙入
1691不角「二葉之松」入(54)、
[僧脇(そうわき)は刈田に残る案山子にて](二葉之松;54/前句;しびれ来る迄かしこまりけり)、
(能舞台の僧形のワキは動き少なく用のない案山子のようだ)
- G1948 谷水(こくすい・雨雪軒) ? - ? 江後期洒落本作者、1813「阿部川の流」著
- G1949 黒水(こくすい・中村なかむら、名;元起、中俣ちゅうそう男/元鎧弟) 1820-8465 高遠藩儒;家学父門/1845儒官、
1849事に連座し追放された父に同行/藩学門の衰退により1853赦免復帰/54昌平黌入学、
林復斎門/昌平黌塾頭、1860藩校進徳館創設;教授/尊王派、維新後松本開智学校開校;教育、
「駒嶽紀游」「戸隠山記」「中邨元起詩稿」「武林拾葉」著、「露原拾葉」父と共編/「続編」完成、
「経書考」「学易」、
[黒水(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;竜治郎、字;喜卿、通称;忠蔵/郁之丞、別号;半狂
谷水(こくすい・常見) → 浩斎(こうさい・常見つねみ、藩士/儒者) I 1 9 8 9
克酔(こくすい;法諱) → 太白(たいはく;道号・克服、曹洞僧) T 2 6 8 6
- P1988 黒生(こくせい・野間のみ、通称;甚四郎)?-? 江中期尾張の歌人;賀茂真淵門、
本居大平「八十浦の玉」入、
[雪降れど春としへばしかすがに待たるるものは花にぞ有りける]、
(八十浦;上12/1758[宝暦8]真淵家宴)
- 克清(こくせい/かつきよ・寺尾) → 鶴雲(かくうん・寺尾てらお、儒者/詩人) J 1 5 5 1
克清(こくせい・内海) → 克清(かつきよ・内海うつみ/田村/本姓;中臣、国学) T 1 5 7 8
克成(こくせい・田村) → 克成(かつなり・田村たむら、儒/藩政参画) N 1 5 6 9
克正(こくせい・中村) → 克正(かつまさ・中村なかむら、藩士/記録) N 1 5 8 7
克正(こくせい・大野木) → 克正(かつまさ・大野木おおのぎ、藩士/国学) T 1 5 9 4
克正(こくせい・中松) → 克正(かつまさ・中松なかまつ/中村、藩士/国学) V 1 5 2 2
克征(こくせい・大野木) → 克征(かつゆき・大野木おおのぎ、藩士/記録) N 1 5 9 5
克精(こくせい・関) → 藍梁(らんりょう・関せき、儒者/詩人) D 4 8 2 7
国盛(こくせい・歌川) → 国盛(くにもり・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 6 7
国成(こくせい・藤原) → 国成(くにしげ/くになり・藤原、廷臣/詩人) 1 7 6 7
国清(こくせい・畠山) → 国清(くにきよ・畠山はたけやま、武将/歌) C 1 7 7 0
国靖(こくせい・大内/鶴沼) → 国靖(くにやす・鶴沼うづま/旧姓大内、家老/詩人) D 1 7 3 0
穀生(こくせい・馬島) → 穀生(としなり・馬島まじま/水野、医・国学) W 3 1 3 9
穀盛(こくせい・北村) → 松山(しょうざん・北村きたむら、詩人) J 2 2 2 5
黒石斎(こくせきさい) → 文彦(ふみひこ・大槻おおつき、国学/辞書) I 3 8 0 6
克仙(こくせん・冢田) → 旭嶺(ぎよくれい・冢田つかだ、医/儒者) P 1 6 4 4
国姓爺(こくせんや) → 成功(せいこう・鄭てい/朱、明の武将) 2 4 7 3
国造(こくぞう・馬来田) → 元儻(もとよし・深川/深河/小林、本草家) E 4 4 7 9
虚空蔵院(こくぞういん) → 増咩(ぞういん・虚空蔵院、真言僧) G 2 5 1 0
穀蔵院ひよつと斎(こくぞういんひよとさい) → 利太(としたか・前田、武将/日記) M 3 1 1 7
虚空蔵座主(こくぞうざす) → 惟首(ゆいしゅ;法諱・法興房、天台座主) 4 6 3 5
- C1938 黒蔵主(こくぞうず、浪岡なみおか/並木)?-? 江中期大阪堂島の浄瑠璃作者、雑俳宗匠、
1751宝暦元より浪岡橋平・並木鯨児・浪岡鯨児名で豊竹座で活動/黒蔵主と改名;合作に参加、
俳諧;百子[潘山]門、1751「浪花文章夕霧塚」「一谷嫩軍記」/56「双扇長柄松」57「義仲勲功記」、
1761「人丸万歳台」62「岸姫松響鑑」/64「いろは歌義臣鑿(ぎしんのかぶと)外多数、雑俳:「兎の目」入、
1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集)入、
[玉琴の絃へ弛めず雪の垣](しぐれの碑/貞峨懐旧)、
[黒蔵主(;号)の別号]別号;鯨児げい/蟹蔵/橋平/啓子/啓字けい、俳号:朝濤閣啓子
克則(こくそく・中村) → 克則(かつり・中村なかむら、藩士/歌人) V 1 5 2 3
国足(こくそく) → 国足(くにたりorくにたる)
国村(こくそん・加茂) → 国村(くにむら・加茂/高橋、俳人) 1 7 9 8
穀太郎(こくたろう・浦田) → 長民(ながたみ・浦田、神職/勤王派) E 3 2 2 2

- 国端(こくたん・馬田) → 柳浪(りゅうろう・馬田うまた/広津、医/戯作者) F 4 9 8 8
- 克知(こくち・藤田) → 克友(かつとも・藤田ふじた/田村、国学) V 1 5 5 5
- 国忠(こくちゅう・佐久間) → 象山(しょうざん・佐久間、儒/蘭学/兵学) S 2 2 5 4
- 国忠(こくちゅう・芝) → 国忠(くにただ・芝しば/源、神職/歌人) E 1 7 2 4
- 国柱(こくちゅう・本田/白尾) → 国柱(くにはしら・白尾しらお、藩士/国学) D 1 7 0 9
- 刻楮(こくちよ) → 周鳳(しゅうほう・瑞溪、臨濟僧/詩) 2 1 4 9
- 克長(こくちやう・生野) → 臨犀(りんさい・生野いくの、儒者/教育) K 4 9 3 0
- 国俔(こくちやう・片山) → 円然(えんぜん・片山かたやま、幕臣/天文学) F 1 3 1 5
- 刻楮子(こくちよし;号) → 周鳳(しゅうほう;法諱・瑞溪;道号、臨濟僧) 2 1 4 9
- M1918 国珍(こくちん・伊東いとう、通称;洞逸、号;菊斎/瑞三甫) ?-? 尾張藩医者/江戸で開業医、詩、
「傷寒五種伝」著、1838「傷寒五種伝正文」編、「五山堂詩話」入(巻九に詩入)
- 国鎮(こくちん・村松) → 善政(よしまさ・村松むらまつ、神職/国学) P 4 7 5 6
- F1957 鶴亭(こくちやう・榎亭こくちやう・岡崎おかざき、名;元軌、廬門男/本姓;平) 1766-1832 67 京の儒者;家学;父門、詩文、
1783「中夏俗語藪」編(:中語辞書)、84「尺牘断錦せきとくだんきん」、「鶴亭詩集」「榎亭詩草」、
「京師地震記」「詩工推鑿」「詩語拔錦」「日本名家詩礎」「詩学字苑」、妻;永田観鷺女、
[鶴亭の字/通称/別号]字;伯則、通称;彦太郎/彦五郎、別号;鶴汀/榎亭こくちやう/霞亭
- 克楨(こくちやう・神谷) → 克楨(かつさだ・神谷かみや、藩士/故実) N 1 5 3 2
- 克貞(こくちやう・村瀬) → 克貞(かつさだ・村瀬むらせ、藩士/国学/歌) V 1 5 9 5
- 国鼎(こくちやう・五味) → 釜川(ふせん・五味ごみ、医者/儒詩) D 3 8 0 2
- 国典(こくちやう・香山) → 崇峰(すうほう・香山かやま、儒者/詩) B 2 3 0 3
- 克典(こくちやう・岡) → 克典(かつのり・岡おか、商家/国学者) T 1 5 9 9
- 黒顛(こくちやう・青木) → 北海(ほっかい・青木殿岡、和漢学者) E 3 9 5 3
- 黒甜病叟(こくちやう・びようそう) → 蕉雨(しやうう・蕉雨斎・人見、藩士/詩文) G 2 2 9 3
- 黒当(こくちやう・丈部) → 黒当(くろまさ・くろた・丈部はつせべ、防人;万葉歌人) 1 7 1 9
- 国藤(こくちやう・津守) → 国藤(くにふじ・津守つもり、神職/歌人) 1 7 9 1
- 国冬(こくちやう・津守) → 国冬(くにふゆ・津守つもり、神職/歌人) B 1 7 2 1
- 国頭(こくちやう・歌川) → 国頭(くにあき・歌川、絵師) C 1 7 6 0
- 国頭(こくちやう・渡辺/杉浦) → 国頭(くにあきら・杉浦さぎうら、神職/国学) 1 7 1 7
- C1939 穀堂(こくちやう・古賀こが、名;燾おおう、精里男/本姓;劉) 1777-1836 60 佐賀藩士/儒;1797江戸の父門、
柴野栗山・尾藤二洲・頼春水らの感化を受、帰藩;藩校弘道館教授/1817世子鍋島直正の傅、
江戸藩邸内に明善堂・講武所を設置し文武督励/年寄役;藩政補佐、1816「瓊浦竹枝」、
「琴鶴堂詩鈔」「潜窩詩稿集」「潜窩文草」「穀堂文集」「清風堂小酌聯句」「清風楼詩文稿」、
「紅梅書屋独語」「歳晚感慨賦」「如蘭集」「東游漫草」、「穀堂先生詩帖」「穀堂遺稿抄」外著多数、
[穀堂(;号)の字/通称/別号]字;溥卿、通称;文太郎/敬一/太郎右衛門/太郎左衛門、
別号;清風堂/琴鶴堂/潜窩/頑仙/花顛
- 穀堂(こくちやう・野村) → 藤陰(とういん・野村、儒者) B 3 1 0 8
- 克堂(こくちやう・羽栗) → 春望(はるもち・羽栗はぐり/和栗、儒/国学) K 3 6 5 7
- 国道(こくちやう・大伴) → 国道(くにみち・大伴おおも、廷臣/暗殺連座) D 1 7 2 0
- 国道(こくちやう・津守) → 国道(くにみち・津守つもり、神職/歌人) 1 7 9 6
- 国道(こくちやう・藤原) → 国通(くにみち・藤原ふじわら、廷臣/歌人) 1 7 9 5
- 国道(こくちやう・清水) → 国通(くにみち・清水しみず、商家/歌人) E 1 7 2 2
- 古愚堂(こくちやう) → 成勝(しげかつ・野田のだ、幕臣/歌) Q 2 1 8 1
- F1956 極蕩山人(ごくとうさんじん) ? - ? 狂詩:1839棕隠「天保佳話」芸子連作7編入
- 国徳(こくちやう・檜原) → 国徳(くにのり・檜原ならはら、藩士/歌人) E 1 7 3 9
- 国任(こくにん・津守) → 国任(くにとう・津守つもり、神職/歌) 1 7 7 6
- 国寧(こくねい・桂川) → 国寧(くにやす・桂川/6世、蘭医) D 1 7 3 1
- 国能(こくにのり・藤原) → 国能(くによし・藤原ふじわら、廷臣/歌人) D 1 7 3 4
- 国能(くによし・源) → 俊国(としくに・源みなもと、国信くにざね男、廷臣/歌) X 3 1 3 5
- 国博(こくはく・津守) → 国博(くにひろ・津守つもり、神職/歌人) 1 7 9 0

- 谷蟻(こくぼく/たにく・矢野)→ 玄道(げんどう/はるみち・矢野、国学) C 1 8 8 4
- 国繁(こくはん・横瀬/由良)→ 国繁(くにしげ・横瀬/由良、武将/連歌) C 1 7 7 6
- 国繁(こくはん・歌川) → 国繁(初世くにしげ・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 8 9
- 国藩(こくはん・堀田) → 正朝(まさとも・堀田ほった、藩主/茶道) S 4 0 4 3
- 国範(こくはん/くにのり・北畠)→ 国永(くになが・北畠はたけやま、歌人) 1 7 8 2
- 国美(こくび・津守) → 国美(くによし・津守つもり、神職/歌学) D 1 7 3 6
- 国備(こくび・杉浦) → 国備(くにとも・杉浦すぎうら、神職/歌) D 1 7 7 5
- 克敏(こくびん・大野木) → 克敏(かつとし・大野木おおのぎ、藩士/勤王) T 1 5 9 5
- 穀夫(こくふ・浦田) → 長民(ながたみ・浦田、神職/勤王派) E 3 2 2 2
- 国富(こくふ・歌川) → 国富(初世くにとみ・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 9 3
- 国富(2世こくふ・歌川) → 国富(2世くにとみ・歌川うたがわ、絵師) C 1 7 9 7
- 克布庵(こくふあん) → 知伸(とものおぶ・大橋おおはし、絵師/仏師) Q 3 1 2 3
- M1920 靉風(こくふう・菅沼、五嶺)? - ? 宝暦-天明1751-89頃京相法家/観相卜筮業、
1771「婦女決」著
- 国風館(こくふうかん) → 喜昌(よしまさ・宮坂みやさか、和算家/歌) H 4 7 1 7
- 克復(こくふく・今井) → 克復(かつまた・今井いまい、与力/紀行) N 1 5 8 9
- 国福(こくふく・津守) → 国福(くによし・津守つもり、神職/歌人) D 1 7 3 5
- 国馥(こくふく・大庭) → 松風(しょうふう大庭おおば、商人/紀行文) L 2 2 5 0
- 国府吞義(こくふどんぎ) → 渡(わたる・六橋園ろつきょうえん、狂歌作者) 5 3 4 5
- 克文(こくぶん;法諱) → 杭州(こうしゅう;道号・克文;法諱、臨濟僧) J 1 9 5 0
- 克文(こくぶん・安井) → 克文(かつふみ・安井やすい、酒豪業/国学) W 1 5 0 5
- 国分山叟(こくぶんさんそう) → 玄妙(げんみょう;法諱、真宗本願寺派僧) M 1 8 4 5
- 国平(こくへい・津守) → 国平(くにひら・津守つもり、神職/歌人) 1 7 8 9
- M1921 国甫(こくほ・吉田、通称;弥太郎)?-? 江戸後期文化文政1804-30頃江戸の俳人:
3世蓼和門、1805「復古集」14「淇岸追善集」編/20「しらかみ集」著、
[国甫(;号)の別号] 海鶴斎/松隣庵/柳隣庵
- 国輔(こくほ・櫻) → 国輔(くにすけ・櫻さくら、農家/儒者/勤王) E 1 7 2 1
- 国宝(こくほう・近藤) → 峨眉(がび・近藤こんどう/藤原、儒者/書) P 1 5 2 0
- 国宝(こくほう・大野) → 拙斎(せつさい・大野/紀、医者/儒者) E 2 4 3 2
- 国宝(こくほう・大倉) → 笠山(りつざん・大倉おおくら、絵師/詩人) M 4 9 0 4
- 国豊(こくほう・津守) → 国豊(くにとよ・津守つもり、神職/歌人) 1 7 7 8
- 国豊(こくほう・日野西) → 国豊(くにとよ・日野西ひのし、廷臣) C 1 7 9 9
- 穀木子(こくぼくし) → 光起(みつおき・芳賀/木村、藩士/産物方) D 4 1 1 5
- 谷蟻(こくま/たにく・矢野)→ 玄道(げんどう/はるみち・矢野、儒/国学者) C 1 8 8 4
- 国満(こくまん・杉浦) → 国満(くにまる・杉浦すぎうら、神職/国学) 1 7 2 2
- 極妙(ごくみょう;字) → 義観(ぎかん;法諱・極妙、真言律僧) J 1 6 8 8
- 国民(こくみん・安富) → 国民(くにたみ・安富やすとみ、国学者) C 1 7 8 7
- 克明(こくめい・高橋) → 道斎(どうさい・高橋、儒者) E 3 1 3 7
- 克明(こくめい・葛巻/大野木)→ 克明(かつあきら・大野木おおのぎ、藩士/記録) N 1 5 2 3
- 克明(こくめい・大立目) → 克明(よしあき・大立目おおだつめ、儒者) B 4 7 9 9
- 克明(こくめい/かつあき・山崎)→ 九臯(きゅうこう・山崎やまさき、医者/儒) M 1 6 5 1
- 克明(こくめい/かつあき・百々)→ 俊徳(しゅんとく・百々どど、医者) L 2 1 6 7
- 克明(こくめい・蛭田) → 玄仙(げんせん・蛭田ひるた、産科医) K 1 8 6 3
- 克明(こくめい・服部) → 壺仙(こせん・服部はつとり、商家/詩人) M 1 9 9 8
- 克明(こくめい・黒田) → 克明(かつあき・黒田くろだ、町役/国学) U 1 5 5 9
- 国明(こくめい・歌川/平沢)→ 国明(初世くにあき・歌川、絵師) B 1 7 4 6
- 国明(こくめい・福島くしま) → 国明(くにあきら・福島くしま、幕臣/軍学) C 1 7 6 1
- 国明(こくめい・赤松) → 国明(くにあき・赤松あかまつ、伊予の文人) D 1 7 9 5
- 穀明(こくめい・永持) → 亨次郎(こうじろう・永持ながもち、幕臣) J 1 9 8 6
- 国祐(こくゆう/くにすけ・松浦/橋)→ 星洲(せいしゅう・松浦まつうら、星占家) B 2 4 9 9

- 克友(こくゆう・藤田) → 克友(かつとも・藤田ふじた/田村、国学) V 1 5 5 5
 谷茂(こくも・谷田) → 貞風(さだかぜ・谷田たにだ、藩士/国学/歌) Q 2 0 9 3
 谷遊[軒](こくゆう[けん]) → 貞之(ていし・谷崎、俳人) 3 0 9 7
 国譽(こくよ・界蓮社) → 恢麟(かいりん; 法諱、浄土僧) J 1 5 1 5
 極誉(ごくよ; 号) → 恵頓(えとん; 法諱、浄土僧) E 1 3 1 4
 谷羊(こくよう; 俳号) → 三碩(さんせき・戸坂とさか、医者/俳人) M 2 0 5 0
 国用(こくよう・藤原) → 国用(くにもち・藤原ふじわら、廷臣/歌人) 1 7 3 0
- M1922 **黒駱**(黒鴿こくらく・村岡むらおか、別号; 暉雪庵) ?-1839 江戸の俳人、1826「名月帖」著
 極楽庵主人(ごくらくあんしゅじん) → 残夢(ざんむ・井上いのうえ、藩士/詩人) M 2 0 7 9
 極楽院(ごらくいん) → 良巖(りょうがん; 法諱・靈玉、天台学僧) H 4 9 5 4
 極楽院月海(ごらくいんげっかい) → 定祐(じょうゆう・竹田/藤原、医者/歌人) I 2 2 2 6
 極楽寺殿(ごらくじどの) → 重時(しげとき・北条/平、鎌倉幕臣/歌人) C 2 1 5 1
 極楽坊(ごらくぼう) → 円空(えんくう; 字・立信、浄土僧/歌人) 1 3 9 3
 極楽坊(ごらくぼう; 号) → 承澄(しょうちやう; 法諱、天台僧/歌) U 2 2 2 3
 極楽房(ごらくぼう) → 憲深(けんじん; 法諱、真言僧) K 1 8 1 3
 極楽坊法印(ごらくぼうほういん) → 顕幸(けんこう; 法諱、天台僧) I 1 8 6 1
 国鸞(こくりん・赤松) → 滄洲(そうしゅう・赤松/大川/舟曳、儒者) B 2 5 8 2
 国利(こくり・歌川) → 国利(くにとし・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 9 2
 穀里(こくり・馬場) → 佐十郎(さじゅうろう・馬場、通詞/洋学者) B 2 0 6 5
 国量(こくりやう・津守) → 国量(くにかず・津守つもり、神職/歌人) 1 7 6 0
 鵠林(こくりん・白隠慧鶴) → 慧鶴(えかく・白隠、臨濟僧) C 1 3 0 9
 国倫(こくりん・くにとも・津島) → 恒之進(つねのしん・津島つしま、本草家) C 2 9 9 7
 国綸(こくりん・宮原) → 桑州(そうしゅう・宮原みやはら、藩儒/兵法/説話集) H 2 5 8 2
 国礼(こくれい・錦小路/津守) → 国礼(くにあや・津守つもり、神職/歌人) C 1 7 6 2
 国礼(こくれい・平野) → 玄幹(げんかん・平野ひらの、儒者) I 1 8 3 3
 国廉(こくれん・津守) → 国廉(くにかど/くにずみ・津守、神職/歌人) 1 7 6 2
- C1940 **黒露**(こくろ・山口やまぐち、名; 守常、太郎右衛門男) 1686-1767 82 江戸の商人; 俳人: 素堂門、
 蔵前米屋の子として某家に婿入; 破産し諸国流浪、江戸で五色墨派と親交、箏、茶、
 1717「通天橋」20「俳諧やすらひ」44「駿河百韻」44「老山集」54「俳諧陽廿歌仙」57「住吉文集」、
 1761「有渡日記」65「摩訶十五夜」67「いなか集」「俳諧硯沢ずりざわ」著、追善「滯標集」、
 [黒露の別号] 雁山/鴈山、稲中庵/うつの山坊/芹草斎/堂々々/庵々々/須磨山/台鄰居
 五九郎(ごくろう・猪飼) → 愚仏(ぐぶつ・淤足斎おそくさい、書肆/狂詩) B 1 7 0 2
- 1997 **古桂**(こけい; 道号・弘稽こうけい; 法諱、号; 揖松ゆうしょう) ?-1527 室町期臨濟僧: 建仁寺元華良曇門、
 1498眞如寺の公帖/1501建仁寺243世、「古桂録」「古桂疏」「桂子禅味」「雞肋集」著
- M1924 **古溪**(こけい; 道号・宗陳そうちん; 法諱、俗姓; 朝倉) 1532-97 66歳 越前臨濟僧: 驢雪鷹瀾門、
 足利学校に修学、1561大徳寺笑嶺宗訢そうきん門/法嗣、1573大徳寺117世、
 1582の秀吉創建の洛中紫野総見院の開山、秀吉と対立; 博多下向/赦免;
 洛北市原村に常楽庵を結庵/1596禅師号、利休と親交、
 「古溪和尚録」「蒲庵稿」「三百箇条註解」著、
 [古溪宗陳の号] 蒲庵/大慈広照禅師
- M1925 **胡兮**(こけい・坂部さかべ、通称; 弥堅) ?-? 江前期豊前中津の俳人: 季吟門、
 1676「到来集」編/78「筑紫琴」著、「俳諧三部抄」入
- C1941 **壺桂**(こけい) ? - ? 俳人・蕉門、1695芭蕉百日忌歌仙「後の旅」入
- M1926 **古溪**(こけい; 道号・秀蓮しゅうれん; 法諱) ?-1761 山城曹洞宗神応寺23世、1731「道元禅師伝」、
 「古溪蓮禅師試頌/附以呂波囀」著
- M1927 **戸圭**(こけい) ? - ? 俳人; 1776樗良「俳諧月の夜」入、
 [さゝ栗のかくし(れ?)落ちけんあきの月](月の夜: 174)
- C1942 **湖桂**(古桂こけい・香月、月湖男) ?-? 筑前植木俳: 浮風門、1761「龍門滝」/86「諸九尼句集」編
- M1928 **鼓溪**(こけい・秀島ひでしま、名; 義剛よしたけ) 1785-1871 87 肥前松浦郡川内村の代々庄屋、
 儒; 1798(14歳)進藤確斎の塾希賢堂に入、1803(19歳)父より庄屋を継嗣、

1823家塾を開き子弟教育/1838金比羅嶽騒動が起る;41庄屋側代表の責任で村を追放、1849巖木村に会輔かほ塾を開く/60中島村に転居;五惇堂を設置;子弟教育に専念、晩年は著述活動専念、古記蒐集;1807(文化4)「松浦記集成」、「農桑道利」「鼓溪劄記さつき」、「邇言録」「積慶録」「報国志」著、

[鼓溪(;)号)の幼名/字/通称/別号]幼名;達治、字;子泉、通称;寛三郎/亀一、別号;信斎別称;河東義剛

M1929 **古溪**(こけい・高橋たかはし、名;宗彰、方孝男)1831-61³¹ 会津の儒者:1849昌平黌入学/舎長、詩文、岡鹿門・松本奎堂と親交、1859病のため帰郷、「河上詩史」著、
[古溪(;)号)の字/通称]字;有常、通称;誠三郎

古溪(こけい) → 徹定(てつじょう;法諱・瑞蓮社、浄土僧) C 3 0 4 4
古溪(こけい・渡辺) → 眞蒼(まさあき・渡辺わたなべ、神職/歌人) T 4 0 8 1
帛溪(虎溪こけい;号) → 超倫(ちようりん;字・僧遵/真宗僧/詩人)M 2 8 9 3
虎溪(こけい・木名瀬) → 小右衛門(こえもん・木名瀬きなせ、故実家;礼法) L 1 9 7 2
虎継(こけい・紀) → 虎継(とらづぐ・紀き、平安期詩人) I 3 1 7 2
鼓溪(こけい・武田) → 吉貞(よしさだ・武田たけだ、国学者) N 4 7 8 3
顧卿(こけい・猪俣) → 昌之(まさゆき・猪俣いのまた、通事/翻訳) I 4 0 2 9
固卿(こけい・源) → 堅(かたし・源みなもと、歌人) M 1 5 9 3
固卿(こけい・杉浦) → 蒙々斎牛貫(もうもうさいうしつら、狂歌作者) 4 4 6 0

M1930 **悟溪**(ごけい;道号・宗頓そうとん;法諱)1416-1500⁸⁵ 尾張臨濟僧:1430日峰宗舜門/出家、義天玄詔門、桃隠玄朔門・雪江宗深門/嗣法、美濃瑞竜寺開、1480大徳寺52世、97禅師/48国師号、「虎穴録」著、
[悟溪宗頓の号] 号;大興心宗禅師、諡号;仏徳広通国師

G1965 **五溪**(ごけい・宮田みやた、名;華竜)?-1843 武州吉田村の儒者/1827近江水口藩儒、江戸藩邸内に開塾;藩士に講義、朝川善庵・猪飼敬所と交流、詩人、1786「花間百詠」1794「古文孝経解詁」1812「花帝堂梅百首集」31「折妄弄丸」35「古文尚書総辨」、「梅窩詩話」、「剪雪百詠」「梅花百絶」「緑陰百詠」「黄葉百詠」「放適幽間集」「三体古制考」「葦田劄記」、「古本大学解詁」「孟子条辨」「毛詩鉤沈」「梅花道人文集」著、1841明良「典籍秦鏡」序跋、
[五溪(;)号)の字/通称/別号]字;子雲/史雲、通称;清蔵/清介、別号;梅花道人/古香楼

F1959 **梧溪**(ごけい;法諱) ? - ? 僧/詩;1836海荘「溪琴山房詩」:熊中聯句入

M1931 **五景**(ごけい・八島やしま、岳亭丘山男)?-? 江後期絵師;父門、1829-68「俊傑神稲水滸伝」著

呉継(ごけい・岡) → 呉継(くれつぐ・岡おか/神辺、商家/国学) E 1 7 0 7
瓠形庵(ごけいあん) → 白居(はくきょ・山田、俳人) C 3 6 9 4
瓠形庵(2世ごけいあん) → 雄淵(ゆうえん・大場、神職/俳人) 4 6 8 0
瓠形庵(3世ごけいあん) → 一止(いっし・宮下、俳人) H 1 1 2 5
壺珪園(ごけいえん) → 妙智尼(みょうちに;法号、稻垣諏訪子/歌人) G 4 1 5 8

F1960 **虎溪山人**(ごけいさんじん) ? - ? 1788嘶本「独楽新話」著(重三郎刊)

古経堂(ごけいどう) → 徹定(てつじょう;法諱・瑞蓮社、浄土僧) C 3 0 4 4
御形宣旨(ごけいのせんじ) → 御形宣旨(みあれのせんじ・平安期歌人) 4 1 5 0
後桂蓮院(ごけいれんいん;諡号) → 尊証法親王(そんしょうほつしんのう、青蓮院門跡/書) E 2 5 9 2
壺珪楼(ごけいろう) → 宣秋(のぶあき・吉田よしだ、商家/歌人) K 3 5 3 5
古外記(ごげき) → 信政(のぶまさ・狩野、絵師) D 3 5 2 8

M1932 **湖月**(こげつ;道号・自音/慈音じおん;法諱)?-1431 室町期曹洞僧:月菴良円門/法嗣、1406出羽真証寺開山、「月菴良円禅師行状」著

P1955 **湖月**(こげつ;道号・信鏡しんきやう;法諱)?-1534? 伊勢の人/上京し臨濟僧;東福寺商霖信佐門/嗣法、伊勢無量寿寺住寺/1517東福寺196世、1517「湖月和尚語録」、「湖鏡集」「古文眞宝抄」著、
[湖月信鏡の号] 簑庵さあん/豊阜/楠溪

M1934 **古月**(こげつ;道号・禅材せんざい;法諱、俗姓;金丸)1667-1751⁸⁵ 日向佐賀利村臨濟僧:1676(10歳)出家、松巖寺一道禅棟門、京妙心寺修学/豊後多福寺賢巖禅悦門、1721佐土原藩主命で自得寺開創、1744久留米藩主建立の福聚寺開山/同寺濟松軒に隠棲;法系を古月派と称す、「古月録」著、「かぞえ歌」「いろは口説き」作?

- [古月禅材の号] 号: 奚疑、諡号; 本妙広鑑禅師
- M1935 **湖月** (こげつ) ? - ? 江中期曹洞僧: 無隠道費[1688-1756?]門、
1740「無隠禅師無孔笛」編
- C1943 **湖月** (こげつ) ? - ? 江戸雑俳点者/前句付の興行(川柳評より前)、
1702「赤糸ぼし」/轍士「花見車」入、1755(宝暦5)刊「あづまからげ」編、
[腰元や主あるしの雛を我れが顔](花見車; 90/主は幼い姫君か)
- M1936 **湖月** (こげつ) ? - ? 越中井波女流俳人; 1776樗良「俳諧月の夜」入
[脊戸口に砧きぬうちうち月見かな](月の夜: 27)
- C1944 **孤月** (こげつ・江口えぐち) 1789-1872 江後期江戸の俳人; 萊石いせき門、太白堂継承、
歳旦帖「桃家春帖」編(華山の画)、1827「花の集」/45「桃家月下稿」編、「華陰稿」「月下稿」編、
[孤月の通称/別号]通称; 辰之助、別号; 老庭/太白堂6世/桃翁(剃髪後)
- F1961 **帛月** (壺月こげつ・石川いしかわ・崎山さきやま、初号; 帛堂こどう) ?-1734 江戸の俳人・沾州門、
1716風葉「江戸筏」入(独吟歌仙253-288)、1730「続江戸筏」編、
[梅が香の遠きは母の給仕かな](江戸筏; 253第八発句/諺に「遠きが花の香」)
(老母は奥の部屋にいたので給仕には遠いが妻ともうまくゆく)
- 湖月(こげつ・信鏡) → 信鏡(しんきょう・湖月、臨濟僧) D 2 2 8 1
湖月(こげつ・五十嵐) → 正之(まさゆき・五十嵐いがらし、大庄屋/歌) N 4 0 2 8
古月(こげつ; 道号) → 元長(もとなが・甘露寺/藤原、廷臣/歌・連歌) 4 4 1 8
狐穴庵(こけつあん) → 眞琴(まこと・宮永みやなが、神職/和漢学) T 4 0 0 2
古月庵(こげつあん) → 淇楽(きらく・鷺見屋さざみや、洒落本/狂歌) H 1 6 6 2
壺月庵(こげつあん) → 幾晡(きぎょう、雲蝶、僧/俳人) 1 6 9 2
湖月庵(こげつあん、湖月亭/湖月堂) → 貞山(ていざん・桐淵きりぶち、医/俳) 3 0 9 1
湖月齋(こげつさい) → 萩石(しゅうせき・湖月齋、俳人) X 2 1 8 2
湖月亭(こげつてい) → 季吟(きぎん・北村きたむら、俳人/古典学) 1 6 0 6
湖月亭(こげつてい) → 昭美(あきよし・鳥居、藩士/俳人) E 1 0 0 9
湖月亭(こげつてい) → 敬斎(けいさい・渡部、神職/俳人) F 1 8 6 7
- F1962 **湖月堂玄二** (こげつどうげんじ) ? - ? 俄にわかの名手: 1848淀川「古今二和歌集」付録入
梧月堂素六(こげつどうそろく) → 浮素(ふそ・藤生ふじお、国学者) I 3 8 6 8
孤月尼(こげつに) → 嫁々(かか・節松ふしまつ・管江妻、狂歌) 1 5 0 3
後月輪(こげつりん → のちのつきわ) → 兼孝(かねたか・丸条くじょう、関白/故実) O 1 5 5 6
湖月楼(こげつろう) → 国訓(くにとき/くにのり・桂川/3世、蘭医) B 1 7 5 7
蘇舎(こげつや) → 尚輔(ひさすけ/なおすけ・中村、藩士/国学者) B 3 7 1 7
苔の屋(こげつや) → 棟貫(むねぬき・隈元くまもと/清水、藩士/歌) D 4 2 7 7
小けん(こけん・松岡) → 小鶴(こつる・松岡まつおか、医者/漢学) R 1 9 3 3
古剣(こけん; 道号) → 妙快(みょうかい; 法諱・古剣、臨濟僧) G 4 1 8 9
古剣(こけん; 号) → 周沢(しゅうたく; 法諱・龍湫りゅうしゅう; 道号、臨濟僧) I 2 1 0 6
- C1945 **湖元** (こげん・北村きたむら、湖春男) 1676-1749 74 江戸の歌学者、俳人、幕府和歌所に出仕、
季吟の孫/父が祖父に先立ち没; 1705季吟没後に遺跡継嗣; 幕府歌学所に出仕; 歌学方、
将軍徳川綱吉の和歌指南、再昌院法眼、春水の父、
[湖元(名)の通称/号]通称; 季根/湖源、号; 信安斎/再昌院
- C1946 **顧言** (こげん・松本まつもと、樺柯さいか[東杵庵2世]男) 1817-81 65 江戸湯島・下谷の医者/俳人; 父門、
画に長ず、1854「俳諧茶話」著、
[顧言(号)の字/通称/別号]字; 子春/子圭、通称; 順亭、
別号; 可磨斎/空羅/桃谿/了兔庵/南々斎/東杵庵とうしよあん3世、
- 顧言(こげん・中村) → 篁溪(こうけい・中村なかむら、儒者/詩文) G 1 9 2 3
顧言(こげん・加古川) → 遜斎(そんさい・加古川/糟谷、医/儒者) F 2 5 3 9
古慊(こげん・虎杖庵) → 天姥(てんぼ・宮本、農業/俳人) E 3 0 2 5
- G1951 **伍軒** (ごけん・原はら、名; 忠成/忠敬、十左衛門雅言男) 1830-67 刺殺 38 水戸藩士/儒; 従兄藤田東湖門、
昌平鬻入; 古賀茶溪・塩谷宕陰門、長崎で露使プチャーチン応接/1856弘道館訓導、
1862一橋慶喜付用人; 将軍職就任に奔走/幕臣目付、67部下に刺殺、1865「督府紀略」著、

「西遊記」「西遊録」「偉事随筆」「登山録」「西上遊録」「尚不愧斎秘笈」著、「尚不愧斎遺稿」、
[伍軒(；号)の幼名/字/通称/別号]幼名；小熊、字；仲寧、通称；任蔵/市之進、
別号；尚不愧斎しょうふきさい

- 梧軒(ごけん・小寺) → 信正(のぶまさ・小寺、兵学/郷土史) D 3 5 3 0
顧軒(ごけん・前田綱紀) → 松雲(しょううん・前田、藩主/藩政改革) F 2 2 3 2
M1937 五紘(ごげん・別号；烏銀室うぎんしつ/宗賀)？-？ 江中期江戸の俳人、1736軽子を迎え連句を催、
1722「遠忌集」編
小源吾(こげんご・藤原) → 宗衡(むねひら・藤原ふじわら、国学者) E 4 2 2 1
古言斎(こげんさい・丁野) → 遠影(とおかげ・丁野ちやうの、藩士/官吏/歌) V 3 1 7 5
古硯子(こげんし) → 草寿(そうじゆ・南部なんぶ、儒者) B 2 5 7 8
小源治(こげんじ・日下部) → 波静(はじよう・日下部、俳人) E 3 6 5 3
小源治(こげんじ・小野) → 正雄(まさお・小野おの/篠屋、商家/歌人) O 4 0 1 5
小源次(こげんじ・小野) → 正博(まさひろ・小野おの、正雄兄/商家/歌) O 4 0 1 6
小源太(こげんた・大島) → 常久(つねひさ・大島、藩士/槍術家) D 2 9 3 8
小源太(こげんた・島津) → 元直(もとなお・島津しまつ、領主/詩文) D 4 4 4 2
小源太(こげんた・日原) → 坦斎(たんさい・手塚てつか、藩士/儒者) T 2 6 5 0
小源太(こげんた・日原) → 一斎(いっさい・手塚てつか、坦斎男/儒者) H 1 1 1 8
小源太(こげんた・斎田) → 茂先(しげゆき・斎田さいだ、藩士/地誌家) T 2 1 0 5
小源太(こげんた・長岡/米田) → 是著(これあき・米田こめだ、藩士/儒/詩) O 1 9 0 5
小源太(こげんた・飯田) → 清茂(きよしげ・飯田いいた、幕臣/歌人) T 2 6 0 6
小源太(こげんた・妻木) → 頼門(よりかど・妻木つまき/源、幕臣/歌) K 4 7 6 9
小源太(こげんた・片岡) → 道長(みちなが・片岡かたおか/中村、国学/役人) I 4 1 6 9
小源太(こげんた・三輪) → 照路(てるみち・三輪みわ、陪臣/神職) F 3 0 2 6
小源太夫(こげんだゆう・虎屋) → 永閑(えいかん・虎屋、古浄瑠璃永閑節祖) B 1 3 9 4
五原亭(ごげんてい・深山) → 江左(こうさ・深山、俳人) I 1 9 8 1
古硯堂(こげんどう・戸川) → 正章(まさあき・戸川とがわ、藩士/国学) R 4 0 0 1
護彦霊社(ごげんれいしゃ；神号) → 近房(ちかふさ・西郷さいごう、藩家老) B 2 8 7 5
古研楼(こげんろう) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2
C1947 戸々(ここ・べべ、読み方不詳)？-？ 平安後期遊女/歌人、藤原仲実の愛人；
1099頃備中守の仲実随に随行、千載819(；仲実の愛情が薄れてきた時の歌)、
[数ならぬ身にも心のありがほにひとりも月をながめつるかな](千載集；十三恋819)
C1948 胡故(ここ、吹万亭) ？-？ 江前期近江膳所の俳人、
1695「有磯海」入：曲翠浪化と歌仙、98続猿蓑入
[きつと来て啼て去りけり蟬のこゑ](続猿蓑：巻下、きつとは急にの意)
M1938 故吾(ごご) ？-？ 俳人；1776樗良「俳諧月の夜」入
[起たつ鳥の踏み残しゆく柳かな](月の夜；121)
五湖庵(ごこあん) → 来々(らいらい・河合かわい、俳人) 4 8 9 9
五々庵(ごごあん) → 桃水(とうすい・河原、医者/俳人) F 3 1 7 8
G1987 湖虹(ここう) ？-？ 江前期俳人、1691不角「二葉之松」6句入、
[華はなまでは袖に呉服の折目あれ](二葉之松；5)
(今は正月、花見まで晴着の折目が消えないでいてほしい/同じ呉服ですませたい女心)
C1952 虎岡(ここう) ？-？ 武蔵野俳人、1748涼袋と百韻「いせのはなし」
M1939 汗虹(ここう・高橋たかはし/伏見/高) 1699-1773 75 越後新発田俳人；支考・廬元坊門、京で没、
1746「夏座敷」48「秋田路」49「此秋集」52「杖のはしめ」57「俳諧衆議」著/66「俳諧十論衆議」編、
[汗虹の別号] 汗虹きようこうは誤字・信杖坊/画一庵
M1940 古江(ここう・寺田でらだ/修姓；田、名；元恭) 1746-1819 74 安藝広島の薬種商/俳人；風律門、
儒仏を修学、1773「弥生次郎」堺の呉逸と共編/93「幻々集」編、「古江文叢」著、
江左[養花園3世]の父、
[ほととぎす裏なかりけり夏衣](「幻々集」)、
[古江(；号)の字/通称/別号]字；伯敬、通称；世並屋市郎左衛門、

別号;筵史/蓬海/青霞亭/積藻亭/半日庵/養花園、屋号;丸一

- M1941 **古好**(古貢こう) ? - ? 丹波篠山俳人;1782蕪村「花鳥篇」入83維駒「五車反古」入
[花に棹さすや夕日の片便かたどり](花鳥篇:21)
(片便は一方だけの伝達、夕陽を棹に見立てる)
- M1942 **虎光**(こう・神子田みこだ、名;忠成)?-1853 陸奥盛岡の稻富流砲術師範/俳人:「俳句稿」著、
[虎光の通称/法号]通称;皆人、法号;軒生院皆誉翁居士
虎光(こう・大蔵) → 虎光(とらみつ・大蔵おおくら、能楽師;狂言) R 3 1 8 0
古香(こう;号) → 教遵(きょうじゆん;法諱・桂巖;字、真宗僧) N 1 6 9 9
古香(こう・鳥飼/大塚) → 毅斎(きさい・大塚おおつか、藩士/儒者) I 1 6 5 4
古香(こう・沢) → 近續(ちかね・沢/谷沢、商家/歌文) B 2 8 5 0
古香(こう・秋園/江口) → 古香(ひさか・江口/神方/小笹/鈴木、歌人) 3 7 8 9
古侯(こう・塩谷) → 老田(らうでん・塩谷しおのや、儒;藩校教授) 5 2 4 2
古厚(こう・小野) → 古厚(ひさあや・小野おの/松平/源、藩老/歌) I 3 7 7 2
故交(こう・春日) → 紀重(のりしげ・春日かすが、神職/国学者) H 3 5 9 1
- M1919 **小督**(ごごう、桜町中納言藤原成範げのり女)?-? 平安後期高倉天皇の寵姫、琴の名手、
初め冷泉隆房と相愛/建礼門院の推挙で入内;平清盛に忌み嫌われ嵯峨野に隠れる、
勅により源仲国に採し出され宮中に連行/娘を出産/清盛に捕まり強引に出家(23歳)、
嵯峨に隠棲(平家物語;巻六小督)、後世金春禅竹の能「小督」や山田檢校の箏曲に潤色
- C1949 **小督**(ごごう・中務卿宗尊親王家)?-? 鎌倉中期歌人、宗尊むねたか親王家の女房、
1261宗尊百五十番歌合・62三十六人大歌合参加、拾遺風体集入、
勅撰6首;続古今(1197/1222/1304)続拾遺(881)新後撰(1008/1343)、
[かぎりありてめぐりあふべき命とも思はばこそはのちも頼まめ](続古;恋1197)
- C1950 **小督**(ごごう・昭訓門院、仁和寺法眼行濟ぎょうさい女)?-? 鎌倉後期歌人、法眼行胤ぎょういんの妹、
昭訓門院瑛子(龜山天皇の妃/西園寺実兼女)の女房、1314為世「春日社三十首和歌」参加、
勅撰4首;続千載(1109/2087;為世女の為子を追悼)続後拾(1171)新千載(286)、
[知られじなすくもたく火夕けぶり名には立てじと忍ぶおもひを]、
(続千載;恋1109/為世春日社卅首歌、行胤法師妹名)
- C1951 **小督**(ごごう・瓊子けいし内親王家、田楽道蓮女)?-? 南北期歌人、
瓊子内親王(後醍醐天皇皇女)家の女房、
勅撰2首;新千載1622/新後拾590、
[水無瀬河あふせはよそにありて行く流れの末をいかがを頼まん](新千;恋1622)
- G1947 **梧岡**(梧崗ごう・津田づ、昌阜男)1779-184769 加賀金沢藩士/漢学;1803藩校明倫堂読師、
1804助教/家督;馬廻組、1822書物奉行本役:金谷文庫の管理/33南土蔵奉行/40書物方御用、
1843馬廻頭/47致仕、史学考証/韓非子を愛読、斉広の命で「尚古今」編、1812「遊三国嶺記」、
1817「韓非子解詁全書」42「遊梅田洞記」、「笠間郷游記」「蟹谷郷游記」「訪古游記」外著多数、
[梧岡(;号)の名/字/通称]名;鳳卿、字;邦儀、通称;亮之助
呉江(ごう・荒木) → 東水(とうすい・荒木、書家) F 3 1 7 4
後光(ごう/のちみつ?・庵原) → 朝光(ともみつ・庵原いおはら/いはら、家老/歌) U 3 1 1 5
梧岡(ごう・藤生) → 浮素(ふそ・藤生ふじお、国学者) I 3 8 6 8
古香庵(ごこうあん) → 陳令(のぶはる・野上、藩士/儒者) C 3 5 8 5
孤耕庵(ごこうあん) → 魯九(ろきゅう・堀部ほりべ、俳人) 5 2 6 3
五更庵(ごこうあん) → 敬秀(たかひで・西沢にしざわ/伊香、国学者) X 2 6 8 4
後香園院(ごこうえんいん) → 師嗣(もろつぐ・二条、関白/歌人) H 4 4 4 4
後光恩院明空(ごこうおんいんみょうくう) → 兼親(かねちか・中山、廷臣) O 1 5 6 1
古香外史(ごこうがいし) → 米華(べいか・中島なかじま、藩士/儒者) 2 7 1 5
後光厳院小少将(ごこうごんいんのこしょうしょう) → 小少将(こしょうしょう、歌人) C 1 9 9 9
- C1953 **後光厳天皇**(ごこうごんてんのう、名;弥仁いやひと、茨宮、光厳天皇皇子)1338-7437 北朝4代天皇、
生母;広義院(西園寺寧子)、1352踐祚;1353即位-1371まで在位、
足利義詮に擁立されたが南朝軍入京で再三都落、歌人;1356-7「延文百首」催、
1356二条為定に新千載集・63二条為明に新拾遺集の撰進を宣旨、

1357「後光厳院百首和歌」、「後光厳院文和歌合」「後光厳院御記」、「枕草子絵巻」書、
勅撰46首;新千載(12首31/183以下)新拾(17首)新後拾(10首)新続古(7)、連歌;菟玖11句入
[こののへに八重の霞も立ちそひて雲の上にや春はきぬらん](延文百首;冒頭歌)、
[踏み分けて野沢の若菜けふ摘まん雪まをまたば日数へぬべし](新千;春31/延文百首5)

古香女(ここうじよ) → 古香(ひさか・江口えぐち/神方/小笹、歌人) 3 7 8 9
古香荘(ここうそう) → 熙(ひろむ・河田かわた、幕臣/渡欧) F 3 7 9 4
後光台院御室(ごこうだいいんのおむろ) → 静覚法親王(じょうかくほつしんのう、真言仁和寺僧) H 2 2 7 8
五香亭(ごこうてい) → 貞信(さだのぶ・歌川うたがわ、絵師) J 2 0 1 8
五巷堂一雲(ごこうどういちうん) → 有仲(ありなか・慈光寺じこうじ、廷臣/記録) F 1 0 5 7
後光明寿院(ごこうみょうじゆいん;法号) → 守愨親王(しゅじょしんのう、歌人) O 2 1 0 6
後光明照院(ごこうみょうしょういん) → 道平(みちひら・二条/押小路、関白左大臣/歌人) C 4 1 3 5
後光明照院前関白家宣旨(ごこうみょうしょういんさきのかんぱくけのせんじ、連歌) → 宣旨(せんじ) F 2 4 6 4
後光明照院前関白家二条(ごこうみょうしょういんさきのかんぱくけのにじょう、歌人) → 二条(にじょう) 3 3 2 6
後光明照院前関白左大臣(ごこうみょうしょういんさきのかんぱくさだいじん) → 道平(みちひら・二条/押小路) C 4 1 3 5

C1954 後光明天皇(ごこうみょうてんのう、名;紹仁つぐひと、後水尾天皇皇子) 1633-54 早世22 1643-54在位、
母;壬生院光子(園基任女)、儒(朱子学):冷泉為景門、「星窩文集」序、詩:「鳳啼集」著、
「後光明院御製詩集」著

後光明峯寺(ごこうみょうほうじ;号) → 家経(いえつね・一条、廷臣/歌人) 1 1 4 5
後高野御室(ごこうやおむろ) → 道法親王(どうほうしんのう、仁和寺僧) H 3 1 2 0
古香楼(ここうろう、古香楼主人) → 五溪(ごけい・宮田みやた、藩儒/詩人) G 1 9 6 5
後々栄軒蓄伝(ごごえいけんちくでん) → 金陵(きんりょう・半井、浮世草子) E 1 6 9 2
後久我前太政大臣(ごごがさきのだいにじょうだいじん:続古/玉葉) → 通光(みちてる・久我がが、太政大臣) 4 1 1 9
後久我太政大臣(ごごがだいにじょうだいじん:続後撰以下) → 通光(みちてる、久我/源、歌人) 4 1 1 9

M1943 コ谷(ここく) ? - ? 江前期俳人、1698「続猿蓑」入
[山陰やまかげや猿が尻抓かく冬日向ひなた](続猿蓑;卷下)

M1944 虎国(ここく) ? - ? 江中期伊勢の俳人/鳳尾庵坡仄はそく連、
1776樗良「誹諧月の夜」、[文よりも梅を先づ見る春見舞](月の夜;97)

古谷(ここく・井土) → 学圃(がくぼ・井土いど/喜多岡、藩儒) H 1 5 3 7

M1945 午谷(ごこく、香川かがわ、名;牧、琴山男) 1808-53 46 周防岩国藩士、儒者/詩文、「午谷遺稿」
[午谷(;号)の字/通称/別号]字;伯羊、通称;新左衛門、別号;午睡軒

檜谷(ごこく・安田) → 雷石(らいせき・安田やすだ/早川、医者/俳) 4 8 7 2

護国院(ごこくいん) → 吉徳(よしのり・前田まえだ、藩主/書翰) F 4 7 8 2

壺谷軒(ごこくけん) → 艶士(えんし・横田、医者/俳人) C 1 3 2 3

護国禅師(ごこくぜんじ) → 太原(たいげん・崇孚そうふ、臨濟僧) J 2 6 8 7

虚々斎(ごこさい) → 蓬平(ほうへい・佐竹さたけ/野口、絵師) C 3 9 4 9

五五斎(ごごさい) → 素道(そどう・五五斎、俳人) E 2 5 1 0

後己心院(ごこしんいん) → 忠基(ただもと・九条、関白/記録/歌人) F 2 6 9 2

後己心院前関白左大臣(ごこしんいんさきのかんぱくさだいじん) → 忠基(ただもと・九条) F 2 6 9 2

後己心院前内大臣(ごこしんいんさきのないだいじん) → 公修((きんおさ・三条/転法輪三条、記録) Q 1 6 7 1

五湖釣翁(ごこちようおう) → 良基(よしもと・二条、廷臣/歌/連歌) 4 7 2 9

壺々陳人(ごこちんじん) → 市人(おちんど・浅草、狂歌) 1 1 1 8

五湖亭(ごこてい) → 貞景(初世さだかげ・歌川、小島、絵師) H 2 0 8 9

五々堂(ごごどう) → 眞清(まさきよ・川津かわづ/萩原、神職/国学) P 4 0 0 3

小説家主人(こごとのやしゅじん) → 重恭(しげたか・川崎、国学者) R 2 1 2 3

小説家大人(こごとのやのうし) → 重恭(しげたか・川崎、国学者) R 2 1 2 3

後近衛関白(ごこのえかんぱく → ちのこのえかんぱく) → 家基(いえもと・近衛、関白/歌) 1 1 6 7

G1906 九重組(このえぐみ;組連) ? - ? 江中期江戸京橋の雑俳の組連、

取次;1737「収月評万句合」入、

取次例;[人は武士花はくれずに懐に](万句合/前句たしなみにけりたしなみにけり)、

(花は桜木人は武士を踏まえる/この花は祝儀;野暮な武士)

- 九日庵(ここのかあん/くにちあん) → 后雛丸(のちのひなまる、狂歌師) 3 5 6 5
 子子孫彦(こまごひこ) → 子子孫彦(このまごひこ、狂歌) F 1 9 8 3
- C1955 後小松天皇(ごまつてんのう、幹仁もとひと、後円融天皇皇子) 1377-1433⁵⁷ 1382親王宣下なしに即位、
 1392(明德3)南北朝合一の議により南朝後龜山天皇より神器を受、在位30年、
 1412(応永19)讓位;以後院政/31出家、足利義満全盛期、母;通陽門院殿子(三条公忠女)、
 歌人/連歌、1407「内裏九十番歌会」催、「後小松院御百首」、「八景和歌」「むくさのたね」著、
 新続古今(26首2/137/220/275以下)、菊葉集入(御製名)、新菟玖波集4句入(発句2句)、
 [志賀の浦や寄せて返へらぬ波のまに氷うちとけ春は来にけり](新続古;春2)
- C1956 癡(こごる・源、勤つとむ[828-881]男/嵯峨天皇孫)?-? 898存 平安前期廷臣;筑前守/従五上刑部大輔、
 歌人、898宇多上皇宮滝御幸に随従、続古今827、浣村ぐと兄弟、
 [あかずして今日の別れを思ふこそゆくにまさりてかなしかりけれ](続古今;九離別827)
- 戸古郎(こごろう・古川) → 古松軒(こしょうけん・古河/古川、医/地誌) 1 9 3 3
 小五郎(こごろう・中西) → 伯圭(はくけい・中西なかにし、神職/書) C 3 6 9 7
 小五郎(こごろう・三浦) → 竹溪(ちくけい・三浦、藩士/儒;徂徠学) C 2 8 8 4
 小五郎(こごろう・山本) → 親成(ちかなり・山本やまと、幕臣/歌人) O 2 8 0 8
 小五郎(こごろう・五十嵐) → 篤好(あつよし・五十嵐、測量/国学/歌) 1 0 2 5
 小五郎(こごろう・平石) → 定則(さだり・平石ひらいし、藩士/歌人) P 2 0 2 0
 小五郎(こごろう・久子) → 翠峰(すいほう・久子くす、儒者/詩人) E 2 3 9 8
 小五郎(こごろう・横山) → 政孝(まさたか・横山よこやま、藩士/詩人) D 4 0 2 4
 小五郎(こごろう・北原) → 信維(のぶこれ・北原きたはら、国学・歌人) I 3 5 2 0
 小五郎(こごろう・桂) → 孝允(たかよし・木戸/桂/和田、藩士/新政参画) N 2 6 7 9
 小五郎(こごろう・日野) → 資始(すけもと・日野/藤原、歌人/狂歌) H 2 3 1 6
 こゝろ内子(こころないし) → てう子(ちようこ・寒川さむかわ/吉田、歌人/狂歌) M 2 8 6 5
 心種俊(こころのたねとし) → 種彦(初世たねひこ・柳亭、高屋知久、旗本/戯作) 2 6 4 3
 古根(ここん) → 古根(ふるね・飛田、俳人) E 3 8 6 8
 古今亭青人(ここんていあおんど) → 音人(おとんど・鳴滝、狂歌/狂文) 1 4 9 8
 古今亭三鳥(ここんていさんちよう) → 三鳥(さんちよう・古今亭、三河屋吉兵衛/戯作者) E 2 0 5 6
 古今亭塵塚散人(ここんていちりつかさんじん) → 音人(おとんど・鳴滝、狂歌) 1 4 9 8
 古今堂(ここんどう) → 種彦(2世たねひこ・柳亭、高橋、初世笠亭仙果、戯作者) 2 6 4 4
 古今独歩我慢坊(ここんどっぽがまんぼう) → 源内(げんない・平賀ひらが、洋学/戯作) 1 8 2 8
 固佐(こさ・角館) → 子章(ししょう・角館かくのだて、儒者) T 2 1 7 7
- M1946 虎哉(こさい:道号・宗乙そうおつ:法諱、俗姓;福地) 1530-1611⁸² 美濃鵜飼庄の臨濟僧:岐秀元伯門、
 岐秀の嗣法、1571米沢藩主招聘;米沢資福寺住/86政宗建立の仙台覚範寺開山、妙心寺69世、
 「古聯句集叢」「松島伽藍之記」、「虎哉和尚語録」著、
- C1957 コ斉[斎](こさい・浅野あさの/小川、別号;野水やすい)?-1688 俳人;蕉門、1685風瀑「一楼賦」入、
 1686清風「俳諧一橋」歌仙入、「あら野」「花摘」入/1688不卜「続の原」4句入、
 辞世 [あはれなり灯笼とうろ一つに主ぬコ斉](あら野;七)
 (灯笼は孟蘭盆会の精霊供養用、施主の名の自分がやがて供養されるのか/7月21日没)
 コ斉3回忌追悼「その人の麩いびきさへなし秋のくれ」(浅草誓願寺で其角;あら野入)
- G1977 觚哉(こさい・石川いしかわ) ? - ? 江前期丹波与謝郡の俳人、
 1690言水「新撰都曲」2句入、
 [橋過ぐる牛の影追ふ早鯨さばえ哉](都曲;下345)
- G1950 顧斎(こさい・長良ながら、名;承芳) 1746-1806⁶¹ 伊勢津の代々医者/儒者;奥田三角・伊藤東所門、
 推挙され古義堂都講/医;吉益東洞門、1773津藩主藤堂高嶺に招聘;医員兼儒員、古銭蒐集、
 「傷寒論私説」「楠正義北降論」著、
 [顧斎(;号)の字/通称/別号]字;子軌、通称;洞彦、別号;十金堂;(古銭蒐集家の号)
- 戸斎(こさい・津田) → 休甫(きゅうほ・津田、俳人/狂歌) C 1 6 1 0
 乎哉(こさい・長瀬) → 宗敏(むねとし・長瀬ながせ、歌人) E 4 2 1 5
 顧斎(こさい・有馬) → 泰賢(やすかた・有馬ありま、藩家老/歌人) F 4 5 2 0

- 顧齋(ごさい・井上) → 智信(ともゆぶ・井上いのうえ、国学/書) T 3 1 0 7
 壺齋(ごさい・佐河田) → 昌俊(まさとし・佐河田さかわだ/高階、歌/連歌) 4 0 1 5
 觚哉(ごさい・中尾) → 樗軒(ちよげん・中尾、鑑定/文筆) K 2 8 3 6
 胡齋(ごさい・岡おか) → 道恕(どうじよ・岡おか昌敏、医者) F 3 1 2 7
 固齋(ごさい・岸) → 信之(のぶゆき・岸きし、儒者) 3 5 6 6
 湖齋(ごさい・橋→橋湖齋さつごさい) → 白竜(はくりゅう・橋たちばな、華道家) E 3 6 0 9
 伍齋(ごさい・伊東) → 玄朴(げんぼく・伊東、蘭医) M 1 8 3 9
 五彩(ごさい・仁木) → 桐栖(とうせい・仁木にき、俳人/茶道) F 3 1 9 3
 護齋(五柴ごさい・今井) → 秀馨(ひでか・今井いまい、藩士/国学) I 3 7 5 4
 後西園寺入道太政大臣(ごさいおんじにゅうどう) → 実兼(さねかね・西園寺) 2 0 3 7
- C1958 **小宰相**(ごさいしやう・土御門つちみかどいん・承明門院しやうめいもんいん、藤原家隆女) **?-1265?** 鎌倉期女房歌人、土御門院に出仕/その生母の承明門院在子に出仕/後嵯峨天皇にも出仕?、1236遠島歌合/47後嵯峨院百三十番歌合/48宝治歌合/51影供歌合/56百首歌合参加、1265文永二年八月十五夜歌合参加、秋風・雲葉(9首)・閑月集入、建礼門院右京大夫集入、鳴門中将物語に有識女房逸話入、1237刊[檜葉集]入(無品親王家侍従への返歌592)、勅撰39首;新勅撰(327/1038)続後撰(6首288/376/665以下)続古(12首77/226以下)以下、[月の色もささえゆく空の秋風にわが身ひとつと衣うつなり]、(新勅;秋327/承明門院小宰相名)
 [建長二年(1250)仙洞詩歌合侍りしに山中秋興を 土御門小宰相、しらまゆみいるさのやまの夕霧にたちかくれてや鹿のなくらん](雲葉集:秋480)
- C1959 **小宰相**(ごさいしやう・徽安門院きあんもんいん、九条隆朝女) **?-?文和1352-56頃没** 南北期女房歌人;徽安門院寿子内親王[1318-58、光厳院后]の女房、後京極派歌人、九条行輔ゆきすけの姉妹、1343花園院六首歌合・48七夕仙洞百首・49光厳院三十六番歌合・50仙洞歌会参加、1367新玉津社/70仙洞歌合に参加、1352-文和年間法華和歌にも参加、勅撰9首;風雅(5首411/1203/1359/1866/1859)新拾遺(1630)新続古今(91/154/1438)、[降り弱る雨を残して風はやみよそになり行く夕立の雲](風雅;夏411)
- M1947 **小宰相**(ごさいしやう) **? - ?** 室町期歌人;1443前摂政家歌合参加
 御在所僧正(ごさいしよのそうじやう) → 覚源(かくげん;法諱、真言僧) J 1 5 7 2
- C1960 **後西天皇**(ごさいてんのう、良仁ながひと、桃園宮/桜町宮、後水尾天皇皇子) **1637-85** **49** 在位1655-63(9年)、後光明天皇の弟/母;逢春門院隆子(櫛笥隆致女)、1647高松宮を相続;桃園宮・桜町宮に改称、花町殿に住/1654踐祚/56即位、古典/歌学;父門/古今伝授を受、詩歌書画/茶花香道、「禁裏仙洞御会和歌」催、「後西院御集」(水日集)、1662「易然集」、「三皇和歌集」外歌多数
 「新(院)女歌仙」「集外歌仙」「新院御会」編
- 五彩堂(ごさいどう) → 矩州(くしゅう・那須/伊東/椎本、俳人) 1 7 4 8
 五彩堂(ごさいどう) → 桐栖(とうせい・仁木、俳人/茶人) F 3 1 9 3
 五彩楼(ごさいろう) → 国丸(くにまる・歌川うたがわ、絵師) 1 7 9 3
- M1948 **小左衛門**(ごさえもん) **? - ?** 平安期女房歌人/物語作者;六条齋院に出仕?、1055(天喜3)六条齋院物語合;「をかの山たづぬる壬生卿」作
- F1963 **小左衛門**(初世ごさえもん:通称、中野なかの、名;道也) **?-1662** 江前期京書肆・豊興堂、市衛門道伴弟、1625「八雲御抄」版
- F1964 **小左衛門**(ごさえもん、井上いのうえ、瀬兵衛定義?) **?-?** 江前期;1647仮名草子「悔草」著
- G1979 **小左衛門**(3世ごさえもん:通称・中野なかの) **?-?** 江前期17c京書肆、「新版大般若経60巻」刊
- M1949 **小左衛門**(ごさえもん:通称・水野みずの) **?-?** 江前期幕臣;1680肥前長崎十善村薬草園の監理、1680「波丹人漂流記」著
- M1950 **小左衛門**(ごさえもん:通称・山内やまうち) **?-?** 江中期飛騨地方役人/白木方地方の役員も兼帯、1727「飛州地方御尋答書」著
- 小左衛門(ごさえもん・甲良) → 宗広(むねひろ・甲良こうら、工匠/幕臣) C 4 2 3 9
 小左衛門(ごさえもん・庄田) → 安照(やすてる・庄田しょうだ、幕臣/記録) C 4 5 1 4
 小左衛門(ごさえもん・石野) → 広明(ひろあきら・石野いしの/中原、幕臣/歌) I 3 7 2 5
 小左衛門(ごさえもん・森) → 清長(せいちやう;号、森もり、俳人) C 2 4 6 2

小左衛門(ござえもん・亀屋)→ 近吉(ちかよし・松江まつえ、俳人/狂歌) L 2 8 0 9
 小左衛門(ござえもん・河原崎)→ 権之助(初世ごんのすけ・河原崎、歌舞役者/座元) E 1 9 7 8
 小左衛門(ござえもん・土田)→ 杜若(とじやく・土田つちだ、藩士/俳人) N 3 1 9 7
 小左衛門(ござえもん・渡辺)→ 南岳(なんがく・渡辺わたなべ、絵師) I 3 2 7 7
 小左衛門(ござえもん・高/王)→ 葛坡(かっぱ・高こう、漢学者) H 1 5 8 3
 小左衛門(ござえもん・山瀬/市河)→ 寛斎(かんさい・市河/河、詩人) 1 5 4 8
 小左衛門(ござえもん・市河)→ 米庵(べいあん・市河、寛斎男/儒/詩/書家) 2 7 0 0
 小左衛門(ござえもん・上林)→ 職応(つねまさ・上林かんばん、郷土史家) D 2 9 6 8
 小左衛門(ござえもん・朝江)→ 種寛(しゅかん・朝江/浅江、俳人) K 2 1 5 7
 小左衛門(ござえもん・内藤)→ 忠盛(ただもり・内藤ないとう/藤原、幕臣/歌) Y 2 6 4 9
 小左衛門(ござえもん・伊東)→ 西帰(さいき・伊東いとう、藩士) G 2 0 6 1
 小左衛門(ござえもん・大内)→ 定盛(さだもり・大内おおうち、藩士/儒者) J 2 0 9 9
 小左衛門(ござえもん・柳瀬)→ 方塾(みちいゑ・柳瀬やなせ、商家/歌人) B 4 1 1 8
 小左衛門(ござえもん・鳥居)→ 吉武(よしたけ・鳥居とりい/平、故実家) K 4 7 6 4
 小左衛門(ござえもん・川原塚)→ 清雄(きよお・川原塚かわらづか、国学者) H 1 6 0 8
 小左衛門(ござえもん・家根屋)→ 釘武(くぎたけ・檜皮ひはだの、狂歌) 1 7 4 2
 小左衛門(ござえもん・大根屋)→ 敬起(けいき・石田いしだ、蹴鞠/歌) F 1 8 4 0
 小左衛門(ござえもん・佐々木)→ 春夫(はるお・佐々木、商家/国学;万葉) G 3 6 0 5
 小左衛門(ござえもん・岸) → 静知(しずとも・岸さし、藩士/国学者) O 2 1 2 1
 小左衛門(ござえもん・村田)→ 了阿(りょうあ・村田むらた、和漢学/書) G 4 9 0 1
 小左衛門(ござえもん・西尾)→ 重知(しげとも・西尾にしお/源、歌人) Q 2 1 9 8
 小左衛門(ござえもん・井上)→ 信義(のぶよし・井上いとうゑ、国学) H 3 5 2 3
 小左衛門(ござえもん・小野)→ 顕允(あきのぶ・小野おの、国学者) H 1 0 1 7
 小左衛門(ござえもん・坂本)→ 成方(しげかた/なりかた・坂本さかもと、幕臣/国学) O 2 1 6 4
 小左衛門(ござえもん・高杉)→ 春樹(はるき・高杉たかすぎ、藩士/歌人) K 3 6 3 7
 小左衛門(ござえもん・竹鼻)→ 纒山(らんざん・竹鼻たけはな、詩人/書) C 4 8 3 6
 小左衛門(ござえもん・太田)→ 正直(まさなお・太田おた、藩家老/歌人) O 4 0 4 9
 小左衛門(ござえもん・長瀬)→ 年宗(としむね・長瀬ながせ、歌人) V 3 1 9 6
 小左衛門(ござえもん・渡辺)→ 直記(なおり・渡辺わたなべ、藩士/歌人) P 3 2 3 6
 小左衛門(ござえもん・内藤)→ 貞久(さだひさ・内藤ないとう、和算家) J 2 0 4 3
 小左衛門(ござえもん・喜多山)→ 永隆(ながたか・喜多山きたやま、国学/兵学) L 3 2 8 5

M1951 **五左衛門**(ござえもん・高橋たかはし、名;又助)?-? 江初期幕府料理方の四条家園部流;高橋権兵衛門、
「料理切形」「料理切形秘伝抄」著、

[五左衛門(:通称)の別通称] 五左衛門尉ござえものじょう、五郎左衛門

M1952 **五左衛門**(ござえもん・田口たぐち、五左衛門男) 1658-1744 87 母;藁谷善右衛門女、羽前新庄藩士;
1684家督嗣、御目付/藩主御部屋付/物頭/旗奉行/1729致仕(号;常仙)、
1732嫡子の乱心で知行家屋召上、1736功績によりお家再興、1736頃「新庄古老覚書」著、
養嗣子;五左衛門(宗家九左衛門男)、

[五左衛門(:通称)の別通称/号] 初通称;武右衛門、号;常仙、法号;悦山桃林居士

M1953 **五左衛門**(ござえもん・中津なかつ/津打つうつ/つうち)?-? 江前期歌舞伎作者:初世津打治兵衛門、
山村座狂言に協力、1699「女鶴艶頼政」/1700「頼政万年暦」/01「小栗蓬萊山」「愛護十二段」、
1701「文覚上人かほる姫荒行の段」、02「曙曾我夜討」「弐ゆんぜい男山八幡太郎」著

五左衛門(ござえもん・近藤)→ 正次(まさつぐ・近藤こんどう、幕臣/武将) D 4 0 8 6

五左衛門(ござえもん・加藤)→ 巨橙(きょとう・加藤、俳人) P 1 6 9 3

五左衛門(ござえもん・松平)→ 近壽(ちかとも・松平、藩主/俳人) B 2 8 3 4

五左衛門(伍左衛門ござえもん・魏)→ 竜山(りゅうざん・魏ぎ、東京通事/語学書) E 4 9 1 7

五左衛門(ござえもん・辻葩)→ 百済(ひやくせい・辻葩つじはな、藩士/儒者) E 3 7 6 0

五左衛門(ござえもん・徳田)→ 錦江(きんこう・徳田とくだ、藩士/儒者) J 1 6 1 2

五左衛門(ござえもん・吉原)→ 黄山(こうざん・吉原よしはら、藩士/俳人) B 1 9 2 1

五左衛門(ござえもん・万屋)→ 杜鷲(としゅう・北国/北村、商家/俳人) O 3 1 0 7

- 五左衛門(ごさえもん・杉本/壹岐)→ 桐園(とうえん・壹岐いき、藩士/儒者/詩) B 3 1 4 8
 五左衛門(ごさえもん・柴山/草川)→ 次綱(つぐな・草川、藩士/記録) 2 9 7 3
 五左衛門(ごさえもん・浦野)→ 幸盈(ゆきみつ・浦野うらの、和算家/狂歌) F 4 6 7 6
 五左衛門(ごさえもん・塚村)→ 敏(さとし・塚村かわら陽谷/加藤、絵師) Q 2 0 9 7
 五左衛門(ごさえもん・戸川)→ 安昌(やすまさ・戸川とがわ/堀、幕臣) C 4 5 9 5
 五左衛門尉(ごさえもんのじょう・高橋)→ 五左衛門(ごさえもん・高橋、料理人) M 1 9 5 1
 小棹(こさお・樋口) → 小棹(おさお・樋口ひぐち/真木、歌人) E 1 4 0 8
 後嵯峨院宮内卿(ごさがいんのくないきょう)→ 宮内卿(くないきょう、女房/歌) 1 7 5 6
 後嵯峨院大納言典侍(ごさがいんのだいなごんのすけ)→ 大納言典侍(だいなごんのすけ) B 2 6 9 7
 後嵯峨院中納言典侍(ごさがいんのちゅうなごんのすけ)→ 親子(しんし、真観女) E 2 2 3 5
 後嵯峨院兵衛内侍(ごさがいんのひゅえのないし)→ 兵衛内侍(ひゅえのないし、連歌) F 3 7 1 4
- C1961 後嵯峨天皇(ごさがてんのう、名;邦仁、法名;素覚、土御門天皇皇子) 1220-7253 母;源通子(源通宗女)、
 在位1242-46/院政26年間/幕府と協調;1252宗尊親王を將軍に東下、鳥羽離宮・龜山殿造宮、
 歌;1247百三十番歌合・48宝治百首・51影供歌合・65白河殿七百首/十五夜歌合/龜山殿五首・
 などを主催、続後撰/続古今和歌集の撰進を院宣、「後嵯峨院御集」「後嵯峨院御文類」著、
 勅撰208首;続後撰(23首10/11/55/78以下)続古(54首6/27以下)続拾(33首)以下、
 雲葉集入/菟22句、
 [敷島のやまとしまねの朝霞もろこしまでも春はたつらし]、
 (続後撰;春10/在位中の歌/太上天皇名)
- 小坂仁聖(こさかにんしょう) → 仁聖(にんしょう、天台宗小坂流僧) G 3 3 4 9
 五作(ごさく・常見) → 浩斎(こうさい・常見つねみ、藩士/儒者) I 1 9 8 9
 五作(ごさく・石附) → 痔茂(まさしげ・石附いづき、商家/詩歌/能) N 4 0 6 0
- C1962 後桜町天皇(ごさくらまちてんのう、名;智子としこ、桜町天皇皇女) 1740-181374 母;青綺門院舎子(吉忠女)、
 女帝117代/在位1762-70、1750内親王/62踐祚/63即位、歌学;有栖川宮職仁親王門、歌文、
 1756-80「後桜町院御日記」、「後桜町天皇御製」「後桜町院御製百首」「桂鷹峰松虫和歌」著、
 [後桜町天皇の幼名]以茶宮/緋宮
- C1963 小左近(こさこん、中原経相女)?- ? 1066存 三条院の女房?(年代的に無理?)、
 歌人、源経信[1016-97]と交渉、師賢と交流、1066源経成つねげ没後弔問歌(後拾遺552)
 勅撰4首;後拾遺(240/552/898)続古今(206;経信を待つ歌)、続詞花集2首入、
 後拾遺歌人の新左衛門の姉、
 [織女たなばたはあさひく糸の乱れつゝとくとやけふの暮を待つらん](後拾遺;240)
 (朝と麻・疾くと解く・心の乱れと糸の乱れを掛る/麻・解く・乱れは糸の縁語)
 [後朱雀院御時 梅壺の女御御方の人々細殿に上の人々と物語して侍るに、
 経信卿しばしかくて待ち給へとて一品宮の御方へ参りにける程に時鳥の鳴きければ、
 きかましや山時鳥一こゑもまてとたのむる人なかりせば](続詞花;夏111)
- 参照 → 新左衛門(しんざえもん、女房/歌人) E 2 2 2 7
 小左近(こさこん・吉田) → 大蔵(おおくら・吉田よしだ、大蔵派弓術祖) C 1 4 7 8
 小笹子(こささこ→ささこ) → 小笹子(ささこ・竹尾たけお、神官の妻/歌人) Q 2 0 9 0
- F1965 小三郎(こさぶろう・藤井) ? - ? 浄瑠璃の手妻人形名手、豊竹座で活動
 M1954 小三郎(こさぶろう・川辺かわべ)?- ? 江後期幕臣;代々甲府勤番、砲術;佐々木高陳門、
 求玄流砲術を伝受;1835「火繩制」「風力度量之巻」、37「倭戦法論」「籠城大意之巻」外著多数、
- M1955 小三郎(こさぶろう・赤松あかまつ/本姓;源、名;友裕、芦田勘兵衛友故男) 1831-67殺害37 赤松弘の養子、
 上田藩士;藩校明倫堂修学/数学;植村重遠・内田弥太郎門/蘭学;手塚律蔵・佐久間象山門、
 洋式兵学;下曾根信敦門、勝海舟門;長崎で兵学修学、薩摩藩西洋兵式師範、
 大村益次郎・西郷隆盛らと交流、上田藩に召喚;帰藩前に殺害された、「円理称平術」校訂、
 1855「長崎航路日記」著、57「新銃射放論」訳、67「英国歩兵練法」訳、
 [小三郎(;通称)の別通称/号]別通称;清次郎/惟敬、号;宇宙堂、法号;良寛院
- 小三郎(こさぶろう・大橋) → 重政(しげまさ・大橋、書家) S 2 1 5 8
 小三郎(こさぶろう・松浦) → 霞沼(かしょう・松浦まつうら、儒者) F 1 5 1 2
 小三郎(こさぶろう・加藤) → 歩籥(ほしょう・加藤かとう、国学者/俳人) E 3 9 2 7

- 小三郎(こさぶろう・加藤) → 李充(りじゅう・加藤、歩齋男/国学/俳人) B 4 9 2 2
 小三郎(こさぶろう・津村) → 淙庵(そうあん・津村/円、商家/随筆/歌) 2 5 4 7
 小三郎(こさぶろう・門田) → 樸齋(朴齋ぼくさい・門田もんでん/山手、儒者) D 3 9 1 6
 小三郎(こさぶろう・田中) → 玄宰(はるなか・田中、藩家老/儒/歌) G 3 6 6 2
 小三郎(こさぶろう・松平) → 乘興(のりおき・松平まつだいら、幕臣/和学) K 3 5 0 4
 小三郎(こさぶろう・有沢) → 倚貞(よりさだ・有沢ありさわ、藩士/日記) K 4 7 1 4
 小三郎(こさぶろう・滝川) → 惟一(これかず・滝川/滝/佐久間、幕臣) O 1 9 1 8
 小三郎(こさぶろう・川崎) → 道義(みちよし・川崎/近藤、儒者/救民) C 4 1 8 7
 小三郎(こさぶろう・三田/虎屋) → 北鷺(ほくが・葛飾かつしか/三田、絵師) C 3 9 9 5
 小三郎(こさぶろう・速水) → 行道(ゆきみち・速水はやみ、藩士/国学) F 4 6 7 1
 小三郎(こさぶろう・原田) → 種徳(たねのり・原田はらだ、藩士/国学/歌) Z 2 6 1 3
 小三郎(こさぶろう・熊倉) → 吉葛(よしつら・熊倉くまくら/源、国学/歌) M 4 7 6 1
 小三郎(こさぶろう・加藤) → 景澄(かげすみ・加藤かとう、地役/国学者) U 1 5 0 6
 小三郎(児三郎こさぶろう・中島) → 範武(のりたけ・中島なかじま、国学者/歌) J 3 5 3 7
 古三郎(こさぶろう・高橋) → 祐雄(すけお・高橋たかはし、藩士/代官/儒) G 2 3 1 1
 五三郎(ごさぶろう・小野) → 久誠(ひささね・小野おの、郡奉行/国学) I 3 7 7 0
 五三郎(ごさぶろう・山岡) → 蓮成(れんじょう; 法諱、日蓮僧/歌人) B 5 1 5 3
 五三郎(ごさぶろう・辻) → 秋広(あきひろ・辻つじ、歌人) H 1 0 9 8
 護三郎(ごさぶろう・藤田) → 適(かなう・藤田ふじた、絵師/国学) V 1 5 5 6
 古佐磨(胡佐磨こさまろ) → 智仁親王(としひとしんのう・八条宮、歌/連歌) N 3 1 5 5
- C1964 **古佐美**(こさみ・紀き、宿奈磨男) 733-79765 奈良期武將、767丹波守/771兵部少輔/式部大輔、
 778征東副使/781陸奥守/782左兵衛督・但馬守/783式部大輔・春宮大夫/785近衛中將/參議、
 788征東大將軍/大和守/794中納言/正三位/796大納言・式部卿/皇太子傅、贈從二位
 小三(こさん; 芸妓名) → 美佐子(三草子みさこ・小川おがわ、松乃門、歌人) H 4 1 6 6
- M1956 **孤山**(こざん; 道号・至遠しおん; 法諱、俗姓; 紀) 1278-136689 紀伊の臨濟僧; 無本覺心門/嗣法、
 のち約翁徳儉・明極楚俊・清拙正澄・一山一寧に參禪、紀伊興国寺住、1333「頂相靈驗記」著、
 [孤山至遠の諡号] 広照禪師
- M1957 **孤山**(こざん・堀ほり、名; 正竜、杏庵男) 1631-9565 母; 茅原田貞正女、京の儒・医者; 父門、
 名古屋藩儒、1644剃髮(; 道隣号)/52法橋、「本朝鶴林玉露」著、
 [孤山の幼名/別号] 幼名; 七九郎、別号; 三遷子/道隣
- M1958 **孤山**(こざん・吉田よしだ、名; 有隣ありちか) ?-? 江前中期肥前大村藩士/儒者; 荻生徂徠門、
 1711「訳文筌蹄」14「徂徠先生文戒」、「詩源」「文淵」編、「孤山詩稿」著、
 [孤山の字/通称] 字; 臣哉、通称; 孫兵衛
- C1970 **願山**(ござん・中谷なかたに、別号; 無尽齋) ?-? 大阪の古銭研究家; 日本の銭書出版の初め、
 1721「古今百錢図」28「孔方図鑑」/29「古銭図録」「珍貨孔方鑑」編、33「富嶽之記」、
 「皇和錢譜」「弄錢記」「世宝記」「世宝録」「珍貨百錢図」著
- G1960 **壺山**(ござん・本多ほんだ、名; 忠如ただゆき、大和郡山藩主忠直男/本姓; 藤原) 1714-7360 讃岐守/越中守、
 遠州相良藩主忠通(次兄)の養子/1721家督; 相良藩主/46磐城泉へ移封/54致仕、書画、
 儒詩; 太宰春台・高野蘭亭・服部南郭門、1759「壺山集」/「巢雲閣集」/「千秋館葆眞居二稿」著、
 [壺山(; 号)の字/通称/別号] 字; 子璋、通称; 時之助、別号; 沖翁/瀛州いしゅう/千秋館、
 法号; 葆眞院ほしんいん
- M1959 **湖山**(こざん・興津おきつ、名; 方副、岡野弥右衛門男) 1718-180285 興津正辰まさひでの養子、松代藩士;
 江戸普請奉行、病のため1753(36歳)致仕、のち兵学興伝流中興; 甲州流軍学・規矩術を教授、
 国学を修得/1787頃心学講舎の匡直舎開設; のち舎主、1767「一心の棚卸し身苦去の神宝」、
 「真田諸士系図」「神道瀛津いしん鏡」著、
 [湖山(; 号)の幼名/通称/神号] 幼名; 民之進、通称; 藤左衛門、神号; 道厚神靈
- C1967 **古山**(こざん・森川、別号; 麦湖楼/倉階亭) ?-? 江中期宝暦1751-64頃大和の俳人; 乙由門、
 乙由四天王の1、1748「いせのはなし」入、52「其葉すじ」編
- C1968 **孤山**(こざん・藪やぶ、名; 愨、慎庵男) 1735-180268 母; 稲津頼勝の妹、肥後飽田郡富尾村の儒者、
 1757藩命で江戸留学/58京で修学/61熊本藩校時習館訓導/66教授(; 鉄砲十丁頭同列)、

1775再上京;中井竹山・頼山陽と交流、78奉行次座待遇/90隠居、詩文、海内かいだい3才子の1、1775「崇孟」78「楽津集」、「七情配当説」「凡鳥館集」「孤山詩抄」「孤山詩稿」「孤山先生文集」著、槐堂の弟、将泰の父、孤山の主な門弟;古賀精里・赤崎海門・樺島石梁、

[孤山の字/通称/別号]字;子厚/士厚、通称;茂次郎/茂二郎、別号;大沢/朝陽[山人]

- M1960 **湖山**(ござん・久田ひさだ、名;梨)?-? 江後期近江の儒者;京に遊学/経学;師に付かず独学、孟子を尊重;徂徠学に反駁、居構えず講説、1791「聖学問答辨」、「湖山贅言」「非大学解」著、[湖山(;号)の字/通称]字;耕甫、通称;典膳
- G1961 **庫山**(ござん・村田むらた、名;常道)?-1837 摂津兵庫の儒者;伊藤東里門/書;藤田撫山門、京の衣棚御池北に住、猪飼敬所と交流、1820「大学正義」25「新論」26「正論」32「源々論」、「庫山日記」「村子集」「酔郷三種」「中庸正義」「論孟約義」著、[庫山の通称/別号]通称;兵部、別号;酔古堂/楽国生
- M1961 **壺山**(ござん・中川なかがわ、凶南[修三]男)1773-1850/78 近江の医者;京の鈴木蘭園・紀伊華岡青洲門、京の吉益南涯門/蘭学;海上随鷗門、京・大坂で開業、大阪難波村に隠棲、「壺山楼筆記」、1807「韜方選粹」15「医家古籍考」17「祈寿論」21「成蹟録」22「漫遊一得」27「傷寒発微」、1832「浪華尚歯会乃記」42「浪華後尚歯会記」、「唾科筌蹄」「女科筌蹄」「芳翁医談」外著多数、[壺山(;号)の名/字/通称/別号]名;故/定故、字;其徳、通称;修亭/周貞、別号;抱神堂主人、法号;修山眞翁居士
- C1965 **虎山**(ござん・坂井さかい、名;華か、東派男)1798-1850/53 安藝広島段原村の儒者(家学);父門、藩学問所で岡田嘉祐・頼春水門、家督;広島藩江戸講学所教授、文章4大家、門弟多数、「虎山詩文集」「虎山詩鈔」「亦佳楼日記」「杞憂策」、1849「今世名家文鈔」、「虎山先生文集」著、[虎山(;号)の字/通称/別号]字;公実、通称;百太郎、別号;臥虎/臥虎山人、諡号;文成先生
- C1969 **湖山**(ござん・小野おの、名;卷/長愿ちやうげん、医者横山玄篤男)1814-1910/長寿97 近江の詩人、儒;1830梁川星巖門/31江戸;尾藤水竹・藤森弘庵門、星巖の玉池吟の社友、51三河吉田藩儒臣、藤田東湖らと親交/安政大獄で幽閉/小野に改名、維新後は詩人として上野池の端住、1840「湖山楼百律」49「湖山楼詩屏風」49「湖山楼詩稿」54「湖山楼詩鈔」、「湖山詩集六種」著、[湖山の字/別号]字;侗翁/懐之/舒公/士達、通称;僊助/侗之助、号;玉池仙史/狂々生/晏斎
- 孤山(ござん;号) → 剛外(ごうがい;道号・令柔、臨濟僧、詩偈)H 1 9 9 2
- 孤山(ござん/孤山堂) → 大梅(だいばい・小島/児島、詩/俳人) C 2 6 0 9
- 孤山(ござん/孤山堂) → 卓朗(たくろう・小森/正阿弥、大梅門俳人)E 2 6 3 2
- 孤山(ござん・鍋島) → 直郷(なおさと・鍋島なべしま、藩主/詩歌) B 3 2 2 3
- 孤山(ござん・中島) → 浮山(ぶざん・中島、儒者) C 3 8 2 8
- 孤山(ござん・富本) → 竹徳(たけのり・富本とみもと/杉野、神職/歌)Y 2 6 4 3
- 孤山(ござん・篠野) → 一方(いっぽう・篠野ささの、医者/狂歌詩)H 1 1 9 2
- 孤山(ござん・年梅) → 昌之(まさゆき・年梅ねんばい、接骨医/国学)R 4 0 4 6
- 湖山(ござん;号) → 集雲(しゅううん;道号・守藤;法諱、臨濟僧)W 2 1 6 2
- 湖山(ござん・大口) → 知常(ともつね・大口、心学者) P 3 1 8 7
- 湖山(ござん・萩原) → 信芳(のぶよし・萩原はぎわら、和算家) E 3 5 0 1
- 鼓山(ござん・丁) → 南洋(なんよう・丁/丁野ちやうの、売薬/儒者)3 2 4 6
- 鼓山(ござん・進しん) → 鴻溪(こうけい・進しん、藩士/儒者) G 1 9 2 5
- 庫山(ござん・和田) → 則孝(のりたか・和田、医者) E 3 5 8 8
- M1963 **梧山**(ござん・重田じげた、別号;寄[奇]石店)1696-1733/38 京の俳人:淡々門/白鶴門、廻文即吟が得意、「謎車氷室桜」/1731「俳諧青海波」著、1729隆志「俳諧草結」入
- C1966 **吾山**(ござん・会田あいだ/越谷こしがや、名;秀真(ほつま)1717-87/71 武州越谷の豪農/俳人:佐久間柳居門、2世沾山/鳥酔門、江戸馬喰町で宗匠;沾徳座/1777(享保6)法橋、1775方言の研究;日本最初の方言研究書「物類称呼」著、1786「東海藻」編/79「俳諧翌檜」、1784評釈「朱紫」、「俳諧本草」「俳諧月と汐」「和漢通記」「俳諧見聞之記」著、追善「雪と花」貫四編、馬琴兄弟の師、[吾山(;号)の通称/別号]通称;文之助、別号;古廬庵/師竹庵/涼華坊
- M1964 **呉山**(ござん・三浦みうら) ? - 1809 越中富山の俳人:3世湖十門、諸国遊歴、1798「寿々幾能月」1802「無底籠」編、「続無底籠」編

[吳山の別号] 宝晋堂/雲羅坊

1927 **五山**(ござん・菊池きくち/修姓;池、室山男)1776-1859⁸⁴(一説1769-49⁸¹・1772-55⁸⁴)高松の儒/詩人、儒;父門/後藤芝山門、上京;柴野栗山門、1787頃江戸;市河寛斎の江湖詩社に参加、関西/伊勢に流寓/1805(文化2)江戸住;1807「五山堂詩話」巻一出版;化政期詩壇で活躍、1825讃岐高松藩に出仕、「攬轡録」「西湖竹枝詞」「猫経」「五山堂詩存」「五山先生百絶」著、1815「今四家絶句」、「水東竹枝三十首」「読西廂才子詩」/52「清人詠物詩鈔」外著多数、[五山(;号)の名/字/通称/別号]名;桐孫、字;無絃/無弦、通称;左太夫、

別号;娛庵/五山堂/小釣雪

M1965 **吳山**(ござん・神野、名;仲雄/仲達)1789-1828⁴⁰尾張の大道寺家の家隸/俳人、1821「みなれし」編、[吳山の通称/別号]通称;権右衛門、別号;九華園/三朝園/桃亭/山吹庵/眉山

吳山(ござん・金井/増山)→ 金八(初世きんぱち・増山・金井、歌舞伎作者) E 1 6 5 6

吳山(ござん・増山) → 金八(2世きんぱち・増山、歌舞伎作者) R 1 6 6 5

牛山(ござん・香月) → 牛山(きゅうざん/ござん・香月かつき、医者) M 1 6 6 6

梧山(ござん・中村) → 敬字(けいじゅう・中村なかむら、幕臣/教育家) E 1 8 6 4

古山庵(ござんあん) → 天姥(てんぼ・宮本みやもと、農業/俳人) E 3 0 2 5

孤山軒(ござんけん) → 快音(かいおん・孤山軒、華道家) I 1 5 4 6

五三居士(ごさんこじ) → 純造(じゆんぞう・郷ごう、農家/剣術/幕臣) O 2 1 4 8

小三次(ごさんじ・谷) → 重遠(しげとお・谷、秦山/神道/儒・南学) 2 1 1 3

後三条(ごさんじょう) → 公親(きんちか・三条、内大臣/歌人) E 1 6 3 1

後三条院越前(ごさんじょういんのえちぜん) → 越前(えちぜん・源経宗女、歌人) 1 3 7 3

後三条前内大臣(ごさんじょうさきのないだいじん:新千載以下) → 実忠(さねただ・三条) 2 0 4 1

後三条左大臣(ごさんじょうさだだいじん) → 実量(さねかず・三条、歌人) C 2 0 9 6

C1971 **後三条天皇**(ごさんじょうてんのう、尊仁たかひと、後朱雀天皇2皇子)1034-73⁴⁰ 1068踐祚/在位1068-72、母;陽明門院禎子(三条天皇皇女)、1073落飾、摂関家を外戚とせず;荘園整理に尽力、妃;藤原公成女の茂子(白河天皇の母/1062東宮妃のとき病没;贈皇太后宮)、白河天皇の父、仏教/学芸に通ず;詩宴催、「禁秘記抄」「後三条天皇御記」著、法諱;金剛行、歌人;1073(延久5)住吉御幸の和歌御会催(;院政期歌壇の出発点)、勅撰7首;後拾遺(922/1062/1090)新古今(877)続古今(2首)玉葉(773)、[まだ咲かぬまがきの菊もあるものをいかなる宿にうつろひにけん](後拾;雑922)、(妻茂子が東宮の女御のとき里帰りに菊をよこしたので返歌/愛の移ろいを疑う)

後三条左大臣(ごさんじょうさだだいじん) → 実量(さねかず・三条/転法輪三条、左大臣/歌) C 2 0 9 6

後三条内大臣(ごさんじょうないだいじん) → 公教(きんのり・三条/転法輪三条/藤原) E 1 6 5 4

後三条内大臣(ごさんじょうないだいじん) → 公豊(きんとよ・三条/正親町三条/藤原、歌) E 1 6 4 3

後三条内大臣(ごさんじょうないだいじん) → 公豊(きんとよ・三条/正親町三条、歌) E 1 6 4 3

後三条内府(ごさんじょうないふ) → 実忠(さねただ・三条) 2 0 4 1

後三条入道前太政大臣(ごさんじょうにゅうどうさきのだいじょうだいじん:新後拾) → 実重(さねしげ・三条) D 2 0 0 5

後三条入道前太政大臣(ごさんじょうにゅうどうさきのだいじょうだいじん:新続古) → 実冬(さねふゆ・三条) D 2 0 5 8

後三条入道前太政大臣女(ごさんじょうにゅうどうさきのだいじょうだいじんのむすめ:新続古) →

実冬女(さねふゆのむすめ・三条) D 2 0 5 9

後三条入道相国(ごさんじょうにゅうどうしやうこく) → 実冬(さねふゆ・三条/藤原、太政大臣/歌) D 2 0 5 8

後三条后(ごさんじょうのきさい) → 西院皇后宮(さいいんのこうごうぐう) G 2 0 2 7

→ 馨子内親王(けいし・けいこないしんおう) F 1 8 0 4

孤山人(ごさんじん) → 卓朗(たくろう・小森/正阿弥、俳人) E 2 6 3 2

孤山堂(ごさんどう) → 大梅(だいばい・小島/児島、詩/俳人) C 2 6 0 9

孤山堂(ごさんどう) → 卓朗(たくろう・小森、大梅門俳人) E 2 6 3 2

五山堂(ござんどう) → 五山(ござん・菊池/修姓;池、儒/詩人) 1 9 2 7

娛山堂(ござんどう) → 通泰(みちやす・宮崎/栗原、医者/歌) C 4 1 7 5

古杉坡(ごさんば) → 双鳥(そうじゅう・戸谷、商家/俳人) 2 5 5 8

C1972 **小三馬**(ごさんば・式亭しきてい、姓;菊池、名;德基、三馬男)1812-53⁴²江戸本町売薬店経営(父継承)、合巻執筆/父の遺稿編纂、1834小三馬に改名、1829「娘暦振袖始」「花紅葉芳野竜田」、

- 1836「操競優軍配」37「江戸紫手染色揚」40「稻妻染女伊達姿」41「浮世又平名画誉」著、
1841「福話」42「福話の後日」、46-57刊「竜王太郎英雄譚」著、父遺稿「式亭狂文集」編、外著多、
[式亭小三馬(；号)の通称/別号]通称；虎之助/大輔、別号；本町庵、法号；光誉朋善榮照信士
古山半酔(ござんはんすい) → 梅翁(ばいおう・本庄ほんじょう、儒者) 3 6 7 1
後三昧座主(ござんまいざしゅ) → 慶円(きやうえん・けいえん、天台座主) N 1 6 2 6
- M1966 虎髭(こし・寺田てらだ) ? - ? 江中期大阪布袋町の浮世草子作者、
1768刊「神農花合戦」著
古志(こし・春日) → 花叔(かしゆく・春日かすが、俳人) L 1 5 8 8
古史(こし・寺尾) → 古史(ひさふみ・寺尾てらお、商家/歌人) K 3 7 2 2
古嗣(こし・山田) → 古嗣(ふるつぐ・山田、廷臣/漢学/詩人) E 3 8 6 7
庫子(こし・滝山) → 庫子(倉子くらこ・滝山たきやま/小林、歌) E 1 7 2 9
庫次(こし・市川) → 彬斎(ひんさい・市川いちかわ、儒者/日記) 3 7 3 5
古児(こし・森崎) → 是空(ぜくう・森崎もりさき、吏員/俳人) K 2 4 5 6
- C1973 碁師(ごし、碁師きし) ? - ? 万葉三期歌人、卷九1732・33(；近江の旅)
[思ひつつ来れど来きかねて三尾みをの崎真長まながの浦をまたかへり見つ](万葉；九1733)
碁檀越(ごのだんをちと同一説あり) → 檀越(だんおち・たにおち・碁ご) H 2 6 9 9
参考 → 碁檀越妻(ごのだんおちのめ、万葉歌人) D 1 9 5 4
- C1974 五師(ごし) ? - ? 東大寺僧/連歌作者、
1241「仁治連歌懐紙残闕」の発句(寛乗書写「東大寺要録」卷一裏文書所収)、
[しかのねもまつのとにこそおとづるれ](仁治連歌懐紙発句)
- C1975 五始(ごし・中島なかじま、名；雅英) 1710-7566 大阪/京俳人；羅人門、1745「握墨」49「五始初老賀集」編、
「ひろはとり」貞至・風状らと共編(1748序)、58「御射山翁追善」60「裸嘶」70「菊かさね」編、
1772几董「其雪影」入/72・75「除元吟」編、75雑俳「神酒みきのくち」撰、「雲の浜」「誹諧福」著、
[心なき石とも見えぬ暑さ哉](其雪影；巻尾春夏の部320/石も暑そう)、
[五始の別号] 甫羅庵/鳥車園/春要斎
護次(ごじ) → 護次(もりつぐ・歌人) J 4 4 0 1
護持院僧正(ごじいんのそうじょう) → 頼意(らいい；法諱、真言大僧正/歌人) 4 8 1 4
小知恵伊豆(こちえいず；綽名) → 信明(のぶあきら・松平、老中/詩歌人) 3 5 8 7
小塩(こしお → おしお・盛田) → 小塩(おしお・盛田もりた、戯作者) D 1 4 1 0
少鹿(こじか → おしか、紀少鹿女郎) → 紀女郎(きのいらつめ、歌人) 1 6 2 4
- Q1999 越方(こしかた・峯みね) 1762 - 181150 上野緑野郡の国学者、峯下蔭・武正茂恒の父、
[越方(；名)の別名/通称]別名；篠夫、通称；直右衛門
- F1966 越貫道(こしかんどう) ? - ? 漢詩人、1755麩山びざん「芙蓉詩集」編序
古式(こしき・鈴木) → 古式(ひさのり・鈴木すずき、藩士、国学者) J 3 7 9 6
五色墨の五子(ごしきずみのごし)；1731「五色墨」編により俳諧革新を試みた5人；沾洲派に対立
→ 柳居(りゅうきよ・佐久間、長水) D 4 9 3 3
→ 宗瑞(初世そうざい・中川、風葉、白兔園) C 2 5 2 5
→ 珪琳(けいりん・松木、蓮之れんし) 1 8 9 4
→ 寥和(りょうわ・大場、咫尺/只尺しせき) J 4 9 6 6
→ 素丸(そまる・長谷川、馬光、2世其日庵) 2 5 2 9
顧自棄斎(こじきさい) → 草雲(そううん・田崎たさき、藩士/絵師) 2 5 5 9
- C1976 小式部(こしきぶ、祐子ゆうし内親王・裸子ばい(妹)内親王家女房、藤原義忠のりただ女) ?-? 平安後期歌人、
祐子内親王(後朱雀の皇女1038-1106)家出仕/次にその妹裸子内親王(1039-96)家出仕；
女房名；斎院小式部、多くの歌合や物語合に参加、
1055六条斎院(裸子内親王)物語合で「逢坂越えぬ権中納言」[堤中納言入]作、
勅撰3首；後拾遺(863/873)千載843、
[たのめずは待たでぬる夜ぞ重ねましたれゆゑか見る有明の月](後拾遺；雑863；、
小弁への返歌；私があなたにあてにさせたから月が見られたのですよ)、
(行くと行って来なかった小式部への小弁の恨みの贈歌；
862；なほざりのそらだのめせでははれにも待つにかならず出づる月かな、

約束を守らないあなたと違って月は必ず出ますよ)

- 参照 小弁 → 小弁(こべん、宮の小弁/一宮の小弁、祐子内親王家女房) D 1 9 7 4
こしきぶ(狂歌) → 味噌こしきぶ(みそこしきぶ) G 4 1 9 7
小式部(こしきぶ) → 小式部内侍(こしきぶのないし、女房歌人) 1 9 2 8
小式部(こしきぶ、遊女) → 武女(たけじよ・鈴木、藩主側室/紀行) E 2 6 3 7
- 1928 **小式部内侍**(こしきぶのないし、橘道貞女、母;和泉式部)997-9頃-102527-29 平安中期女房歌人、
上東門院彰子(道長女/988-1074)家女房(母と宮仕;小式部名)、
藤原教通のりみち(996-1075)妻(;静円じょうえん[1016-74]の母/公円の祖母)、
のち藤原公成きんなり(999-1043)の妻(;頼仁よりひとの母)、
のち藤原範永のりなが妻(;範永女の母)、説話集入、玄々集入、
歌;勅撰10首;後拾遺(1001)金葉(Ⅱ550/Ⅲ44/176/[543])詞花(280)続後撰(2首)玉葉以下、
[大江山いく野の道の遠ければふみもまだ見ず天の橋立](金葉;550)
息子女も歌人 → 静円(じょうえん、木幡権僧正) L 2 1 5 5
→ 公円母(こうえんのはは・二条教通女、後拾遺歌人) 1 9 7 9
→ 範永女(のりながのむすめ、尾張) F 3 5 3 6
小式部命婦(こしきぶのみょうぶ) → 式部命婦(しきぶのみょうぶ、後冷泉院女房) B 2 1 5 7
小自在(こじざい・加藤) → 小自在(しょうじざい・加藤かとう、僧/歌/俳) U 2 2 7 4
小自在庵(こじざいあん) → 守易(もりやす・木俣きまた/橘、藩老/楽焼) J 4 4 7 9
五市居士(ごしじ) → 隆庵(りゅうあん・能美のうみ、医者/藩医) C 4 9 6 9
小自在庵(こじざいあん) → 玉岡(ぎょくこう・森もり、医者/詩人) O 1 6 9 1
小自在庵(こじざいあん) → 理準(りじゆん・平松ひらまつ、真宗大谷派僧/詩歌) L 4 9 8 6
後自在院(ごじざいあん) → 高演(こうえん;法諱、真言醍醐寺僧) H 1 9 6 6
后獅子(ごしじ/うしろじし) → 朔花仙(さつかせん、俳人) K 2 0 4 8
- M1968 **小侍従**(こじじゆう) ? - ? 平安前期三条左大臣頼忠家女房/歌人;977頼忠前裁合参加、
[秋のゆく水の底まではなすすき招くかたをもたづねてしかな](頼忠前裁合;85)
- C1977 **小侍従**(こじじゆう・大宮、石清水別当紀光清こうしょう女)1121?-? 1201存(81歳) 母;菅原在良女小大進、
二条天皇・近衛天皇中宮多子(二条大宮)・高倉天皇に出仕の女房、一時藤原伊実の妻、
歌人:1166重家家歌合/67平経盛家歌合/70住吉社・72広田社歌合参加、1179出家、
1182頃家集「小侍従集」自撰、1200正治二年初度百首出詠、1201千五百番歌合参加、
続詞花集3首・月詣・玄玉・雲葉集入集、当時殷富門院大輔いんぶもんいんのたいふと並ぶ女流歌人、
勅撰55首;千載(4首528/835/892/924)新古(7首183/678以下)新勅(4首)続後撰(2首)以下、
[草枕おなじ旅寝の袖にまた夜半の時雨も宿は借りけり]、
(千載;羈旅528/旅の袖はなみだに濡れる)、
[待宵に更けゆく鐘の声聞けばあかぬ別れの鳥はものかは](新古今;恋1191/続詞花565)
[大宮小侍従の別女房名] 太皇太后宮小侍従・八幡小侍従、**待宵の小侍従**
父; → 光清(こうしょう、俗姓;紀、僧;石清水25世別当) J 1 9 7 2
母; → 小大進(こだいじん/こだいしん・花園左大臣家、歌人) D 1 9 2 2
兄弟; → 成清(せいせい/じょうしょう、石清水30世別当/歌人) T 2 2 3 5
- C1978 **小侍従命婦**(こじじゆうのみょうぶ・別名;浜荻侍従、加賀守藤原正光女)?-? 1049存 母;大中臣能宣女?、
脩子内親王(一条天皇皇女)家の女房、藤原隆家の妻(;家房の母)、1049脩子葬送の詠歌、
のち祐子内親王家女房?、浜荻はまおぎ侍従;大中国家ゆかりの伊勢に因んでの称という、
勅撰;後拾遺2首(545・546)、
[晴れずこそ悲しかりけれ鳥辺山たちかへりつる今朝の霞は](後拾;哀傷545、
1049入道一品宮[脩子内親王]の葬送に供し翌日同僚の相模に遣る歌、
立返ると霞立つを掛る/晴れ・立つは霞の縁語/霞は火葬の煙と重なる)
- 五芝主人(ごしじゆじん) → 雪柯(せつか・松田まつだ、神職/儒/書家) K 2 4 7 7
小七(こしち・嵐) → 雛助(ひなすけ・嵐、歌舞伎役者人) E 3 7 2 8
五七(ごしち・春川;画号) → 蓬洲(ほうしゅう・神屋かみや、戯作者/絵師) B 3 9 4 8
小七郎(こしちろう・杉) → 重通(しげみち・杉すぎ/平/多々良、武将/連歌) D 2 1 0 0
小七郎(こしちろう・津田) → 通明(みちあき・津田/山田、藩士/馬術家) B 4 1 0 7

- 小七郎(こしちろう・真野) → 安通(安道やすみち・真野まの、武家故実) D 4 5 0 7
- M1969 虚室(こしむ;道号・希白;法諱)?-? 鎌後期臨濟僧:白雲慧暁えぎょう[1228-79]門、承天寺住持、
「仏照禅師(慧暁)語録」編
- 御実(ごじつ・浅沼) → 御実(みさね・浅沼あさぬま、藩士/歌人) I 4 1 0 6
- 五実軒奈々美津(ごじつけんななみつ) → 奈々美津(ななみつ、読本作者) G 3 2 7 9
- 古史拔足(こしばっそく) → 正蔭(おおかげ・中臣、歌人/狂歌) C 1 4 7 5
- 越人道(こしにゅうどう) → 吉門(きつもん・津下、俳人) J 1 6 3 1
- 越の雪中(こしのせつちゅう) → 雪中(せつちゅう・日下くさか、商家/俳人) E 2 4 5 5
- 小柴舎(こしばのや) → 敏雄(としお・渡辺わたなべ、神職/国学) W 3 1 9 8
- C1979 古慈斐(古慈悲こじひ・祐志備/祐信備こしび・大伴宿禰、祖父麻呂男)695-77783 奈良期廷臣;
737従五下/775従三位、752遣唐副使古麻呂餞別宴[万葉4263注]、
756誹謗罪;三船との確執[万葉4476左注];家持族喩歌[万葉4465]、
757奈良磨変連座/回復
- 越部禅尼(こしべのぜんに) → 俊成卿女(としなりきょうのむすめ、俊成養女、歌) 3 1 4 8
- 1929 児島(こじま、筑紫娘子つくしのおとめ)?-? 万葉三期歌3首381/965/966、遊行女婦あそびめ、
730年大伴旅人と水城での送別贈答歌、
[大和道やまどちは雲隠りたりしかれども我が振る袖をなめしと思ふな]
(万葉集;六966/なめしは無礼な行動)
- 子島先徳(こじまのせんとく) → 眞興(信興しんこう/しんごう;法諱、法相/真言僧) E 2 2 0 4
- 子島僧都(こじまのそうず) → 眞興(信興しんこう/しんごう;法諱、法相/真言僧) E 2 2 0 4
- 児島宮(こじまのみや) → 頼仁親王(よりひとしんのう・冷泉宮、流罪) J 4 7 5 7
- 1930 小島法師(こじまほうし) ?-1374 南北期僧/叡山僧?、興福寺年代記の外島とじま法師と同一?、
「洞院公定きんさだ日次記」応安7[1374].5.3条に「太平記」(恵鎮指導)作者とし、死去を記す
- C1981 湖寂(こじやく・碌々子) ?-? 江中期名古屋俳人、
1708「ふたり行脚」編:露川と近畿諸国を行脚
- M1970 故雀(こじやく) ?-? 伊勢俳;1773几董「明鳥」入
[鳥も啼かず時雨ながらに日のくれぬ](あけ鳥157)
- C1980 午寂(ごじやく・人見ひとみ、名;元浩/浩、篤[正竹]男)1661-174181 幕臣、1682番医98儒官/1701家督、
俳人:其角門、1730(享保15)「太郎河」編、「遠州流茶道百首」著、
[午寂(;号)の通称/別号]通称;又八郎/七郎右衛門/甚四郎、
別号;一鳩林/胡雪堂/香山野水/水竹居/葛仙/竹子万仙/竹居万仙、諡号;敬順
- M1971 吾雀(ごじやく・通称;松尾屋伊右衛門)?-? 大阪新町の妓楼主人、俳人:升六門、馬琴と交遊、
1809(文化6)「拳会角力図会」著
- 五車亭亀山(ごしゃていきざん) → 亀山(きざん・五車亭、狂歌) K 1 6 6 0
- 五射夫(ごしゃふ→いさお) → 鯨夫(いさお・木村きむら、商家/歌/神職) K 1 1 1 6
- C1982 湖主(こしゅ) ?-? 江前期越後新潟の俳人、
1692常牧「冬ごもり」;關月との両吟歌仙入
- 古樹(こじゅ・旗野) → 古樹(ふるき・旗野はたの、農業/国学) I 3 8 6 2
- 五株(ごしゅ・橋田) → 春湖(しゅんこ・橋田きつた、俳人) J 2 1 5 9
- 古寿衣(こじゅい) → 苔翁(初世たいおう、俳人) B 2 6 0 5
- M1972 孤岫(こしゅう;道号・宗竣そうしゅん;法諱、大円靈光禅師)?-? 室町期臨濟宗妙心寺僧:仁岫宗寿門、
1545美濃乙津寺中興、「孤岫語録」「孤岫和尚法語」著
- P1972 孤岫(こしゅう) ?-? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
[月桜目にしばらるゝ一期哉](丁卯集/五塵;色)
- M1973 孤舟(こしゅう) ?-? 俳人;1691北枝「卯辰集」8句入
[鳴出してみな鳴く小田だのかはづ哉](卯辰集;89)
- M1967 湖舟(こしゅう) ?-? 江前期俳人、1691不角「二葉之松」2句入(88/235)
[菅菰すがごもの十符とふに五尺の身は独り](二葉之松;88/古歌と違ひ貧窮孤独の独身生活)
([和歌吳竹集]陸奥みちのくの十符の菅菰七符には君を寝させて三符にわが寝ん)
- C1991 菰洲(こしゅう) ?-? 江中期播磨姫路の俳人・惟然門/口語調俳諧、

1703「四山集」編、「当座はらい」入

- C1989 **虎州**(こしゅう・服部はっとり、別号;鶴毛亭、嵐雪の子孫)?-? 江中期宝暦1751-64頃淡路の俳人:
1756(宝暦6)兄多見堂乙貫と嵐雪追善集一葉塚」編
- C1990 **孤舟**(こしゅう) ? - ? 江中期宝暦1751-64頃の京の談義本作者、
談義本:1754「当世花街談義」(俳師仲夷治郎「白増譜言経」の改作;江戸で出版)、
- M1974 **孤舟**(こしゅう・小野おの) ? - ? 俳人;1772几董「其雪影」3句/73几董「明鳥」入、
[道のべに一木ひときの花の散りそめて](其雪影;冒頭連句77/几董の父几圭追善、
前句;76次郎とちやと出よちかづきの牛;几圭遺句/ちやと出よ;ちょっと出て来い)、
[星月夜ほしづくよ空にはぐれし時雨哉](其雪影;394/天には星・地には時雨の矛盾)
- F1902 **孤舟**(こしゅう・重秋亭) ? - ? 江中期天明寛政1781-1801頃京の俳人、
念四房と交流;宗因の草稿「松島紀行」を受け「葛の葉の」(念四房序)に翻刻、
1789(寛政元)「葛の葉の」編(宗因の[葛の葉の]の句碑を芳野本禅院に建立記念)、
- C1992 **湖舟**(こしゅう・蒼竜闕そうりゅうけつ)?-? 洒落本作者、1790「文選臥坐」の北廓の奇説
- M1975 **古秀**(こしゅう・八田はった) 1760- 1822 63 京の絵師;村上東洲・円山応挙門、人物画、
賀茂季鷹と交流、1812「古秀画譜」著
[古秀(;名)の字/通称/号]字;子瑩/士瑩い、通称;宮内、号;希賢/雨涼/数館
- 孤洲(こしゅう・前原) → 梅窓(ばいそう・前原、尊攘派) B 3 6 7 6
湖洲(こしゅう・諏訪) → 安明(やすあき・諏訪すわ、大庄屋/歌人) G 4 5 0 2
- 1931 **湖十**(こしゅう・曾/深川、本姓森部) 1677-1738 62 江戸俳人:鼠肝・其角門、1700-13年間上方行脚;
坊主頭尺余髭の僧形、師没後其角座を主催;秋色を経て其角印を伝受、妻;花千尼(箏曲)、
1713「二ふたのきれ」編/13「このむれ」、23「月の鶴」29「其角廿三回忌集」32「誹太郎」編、
[熊坂が長刀あぶる霜夜かな](青蘆「たつのうら」入/夜盗も焚き火する底冷えの寒さ)、
[初世湖十の別号] 巽山そんざん・老鼠ろうそ・老鼠肝・鼠肝・木者庵・巽籬齋そんりさい・謙堂・亀休板・
壽々坊・永機・巽籬齋永機・天柱庵・露入道
- C1983 **湖十**(2世こしゅう、村瀬;旧姓/深川)?-1746 甲斐の人/俳人;初世深川湖十門/その養子、
1733襲号/「延享」[江戸]二十歌仙など江戸座の中心として活動、
1730「魂祭」編刊(母花千尼1周忌手向句収集;父初世編)、1733「犬新山家いぬしんさんが」、
1735「続花摘」43「古簾ふるすだれ」/44「苧環」「解夏草」/45「江戸廿歌仙」編、
[梅折ればおのれも動く月夜かな](江戸廿歌仙/静寂の中の音と動き)、
[2世湖十の別号] 一黙香/巽窓そんそう/巽/巽籬齋そんりさい/合昏庵/歌舞庵
- M1933 **帛十**(虎十こしゅう) ? - ? 江中期俳人、
1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集)入、
[初霜の置くさへゆかし石の枝](しぐれの碑/かつて貞峨の高津菩提庵に通った懐旧句)
- C1984 **湖十**(3世こしゅう・深川、2世湖十養子)?-1780 江戸俳人/1743湖十2世「江戸廿歌仙」入、46湖十襲号、
其角座平砂側点者、1752「眉斧ひぶ日録」「新石なとり」56「新撰角文字」59「誹花笑」63「石畳」編、
1776「小柴垣」編、1773「双猿路談そうえんろだん」馬卵編、1754竹翁「誹諧童の的」点句入、
[3世湖十の別号] 木髪(初世)/風窓/露柱庵/恋稻庵/雷吼坊/酒鐘齋/露入道/二橋庵、老鼠
- C1985 **湖十**(4世こしゅう・深川) ? - 1800 江戸俳人;蓼太門/のち3世湖十門/1774?湖十襲名、
1773「花実集」編/83「越旦」編、1773馬卵「双猿路談そうえんろだん」入、
[松とてや水に散らした月の雲](双猿路談)
[4世湖十の別号] 歎雷/晋窓/黄花庵/完車/晋吟
- C1986 **湖十**(5世こしゅう・深川、九窓、白雪庵/鏡池庵老鼠)?-1806 江戸俳人、1789湖十襲名
- C1987 **湖十**(6世こしゅう・深川) 1772- 1833 62 江戸俳人:1801湖十襲号、
「湖十句集」、「日光紀行」「二世宝晋斎紀行」「江左翁記行抄」著、
[6世湖十の別号] 木髪もくはつ2世/木者庵/昇窓、2世宝晋斎/江左/黄花庵
- C1988 **湖十**(7世こしゅう・深川) ? - ? 江戸本所表町/駿河台の俳人;6世湖十門、
其角座点者、1839「奥州一覽記」、48沾山せんざん7世「俳諧鱗はいかいけい」点句入、
[7世湖十の別号] 木髪3世/一乗庵/犬長者/霽窓/浣窓/晴窓/新樹庵
- F1967 **呉秀**(ごしゅう) ? - ? 噺家、1780赤良「万の宝」入

- C1993 **五周**(ごしゅう) ? - ? 俳人; 暁台門、
 1768-72 暁台「秋の日」4句入/90師と若狭巡遊
- 吾州(ごしゅう; 号) → 無学(むがく; 道号・愚禪; 法諱、曹洞僧) 4 2 3 2
 五舟(ごしゅう) → 源三郎(げんざぶろう・村瀬、歌舞伎作者) B 1 8 9 1
 悟秀(ごしゅう; 号) → 大悟(だいく; 法諱・中野なかの、本願寺派僧) Y 2 6 5 9
 吳洲(吳州ごしゅう・吉雄) → 忠次郎(ちゅうじろう・吉雄よしお、通詞/シ事件) G 2 8 4 6
 吳舟(ごしゅう・松田) → 豊幹(とよもと・松田まつだ、国学者) W 3 1 4 9
 古萩園(3世ごしゅうえん) → 美信(よしのぶ・三坂みさか、心学/俳人) F 4 7 6 4
 古萩園(4世ごしゅうえん) → 忠成(ただしげ・山根やまね、藩士/俳人) P 2 6 5 9
 古柵園(ごしゅうえん) → 十知(十雉じゅうち・深沢、俳人) Y 2 1 0 2
 古柵園(ごしゅうえん) → 斗昔(とせき・深沢、十知男/俳人) O 3 1 2 9
 古秋園(ごしゅうえん) → 易右衛門(いえもん・金こん、藩士/養蚕/俳) F 1 1 0 4
 壺聚園(ごしゅうえん) → 守弘(もりひろ・河野/越智/石崎、国学/史家) G 4 4 4 1
 五十音社主人(ごじゅうおんしゃしゅじん) → 稲斎(とうさい・三次みよし、医者) E 3 1 2 8
 五十槻(ごじゅうき)すべて → 五十槻(いつき)
 五十狭々小汀漁父(ごじゅうきょうきょうしゅうていぎさふ) → 春信(はるのぶ・広瀬ひろせ、神職/歌/俳人) J 3 6 2 8
 五重軒(ごじゅうけん) → 露月(ろげつ、豊島、謡、俳人) B 5 2 3 3
 古終舎(ごしゅうしゃ) → 黙池(もくち・中島・千葉、俳人) B 4 4 0 0
 湖舟人(こしゅうじん) → 湖舟人(みずうみのふなびと、狂歌) H 4 1 0 3
 五鷺亭(ごしゅうてい) → 乗完(のりさだ・松平、藩主/老中/儒) E 3 5 5 5
 五十輔(ごしゅうほ→いそすけ) → 五十輔(いそすけ・五十いそじ、歌舞伎作者) C 1 1 4 2
 後十楽院(ごじゅうらくいん→のちの-) → 尊応(そんのう; 法諱、天台座主/連歌) F 2 5 0 2
 後十輪院(ごじゅうりんいん→のちの-) → 通村(みちむら・中院なかのいん、歌人) 4 1 2 1
 小十郎(こじゅうろう・羽根) → 尚彦(しょうげん; 法諱、真言僧) I 2 2 5 5
 小十郎(こじゅうろう・蜂屋) → 定章(さだあき・蜂屋はちや、幕臣/和算家) H 2 0 6 3
 小十郎(こじゅうろう・守屋) → 峨眉(がび・守屋もりや、医者/儒者) H 1 5 5 7
 小十郎(こじゅうろう・深沢) → 喬山(きょうざん・深沢ふかざわ、藩士/儒/歌) N 1 6 8 9
 小十郎(こじゅうろう・中村) → 竹香斎(ちくこうさい・中村、藩士/詩文) C 2 8 9 9
 小十郎(こじゅうろう・佐藤) → 牧山(ぼくざん・佐藤さとう、漢学者/教育) D 3 9 3 0
 小十郎(虎十郎こじゅうろう・近藤) → 清石(きよし・近藤、藩士/国学) P 1 6 6 0
 小十郎(こじゅうろう・前野) → 忠道(ただみち・前野まえの、藩士/歌人) Z 2 6 4 7
 小十郎(こじゅうろう・篠田) → 保(たもつ・篠田しのだ、藩士/歌人) X 2 6 4 8
 小十郎(こじゅうろう・伊地知) → 季安(すえやす・伊地知いちち、藩士/記録) F 2 3 7 2
 五樹亭(ごじゅてい) → 高潔(たかきよ・小野、幕臣/国学者) C 2 6 6 9
- 1932 **湖春**(こしゅん・北村きたむら、名; 季重/季順、季吟の長男) 1648-97 50 京の歌・俳人: 父門(家学)、
 1667 俳諧宗匠、89 幕府歌学所; 奥医師並/法印、芭蕉・其角と交流、湖元の父、江戸に没、
 1667「続山井」編、1671「寛文十一年歳旦三ツ物俳諧」、「向南家集」「源氏物語忍草」著、
 1678 西鶴「物種集」/80 自悦「洛陽集」入、1685 風瀑「一楼賦」入/89「あら野」98「炭俵」入、
 [歌に詠まば廻文くわいぶんにせんなづな哉](続山井ぞくやまのい)、
 [湖春(; 号)の通称/別号]通称; 休太郎/久太郎、別号; 湖長/花果院、法号; 華菓院
- 吳春(ごしゅん・松村) → 月溪(げつけい・松村、絵師/俳人) B 1 8 0 4
 五俊(ごしゅん・東) → 東萊(とうらい・東あずま、絵師/詩人) H 3 1 9 5
 五惇(ごしゅん・中内) → 樸堂(ぼくどう・中内なかうち/島川、藩儒) D 3 9 8 3
 湖俊雅(こしゅんが) → 混浄(こんじょう・佐々木、神職/文筆) G 1 9 2 7
 五春荘(ごしゅんそう) → 井眉(せいび・岡おか、俳人) C 2 4 8 8
 五春荘(ごしゅんそう) → 井資(せいし・西にし、井眉門俳人) I 2 4 5 5
 湖春亭(こしゅんてい・歌川) → 景松(かげまつ・歌川、絵師) F 1 5 0 0
 壺春堂(こしゅんどう) → 重章(しげあき・朝日あさひ、藩士/儒者) B 2 1 7 8
- C1994 **古処**(こしょ・原はら、名; 叔燁しゅくやう、手塚辰詮男) 1767-1827 61 筑前秋月藩士、1782 原坦斎の養子;
 1787 養家の家督嗣、儒; 亀井南冥門; 徂徠学、詩文、1800 藩校稽古館教授/11 納戸頭、

藩主より疎んじられ1813致仕、1817甘木に天城詩社を創設、
頼山陽・広瀬淡窓・梁川星巖と親交、「南冥詩集」編、「涵海」著、
「暁月山房集」「古処山堂詩集」「古処山樵詩集」「古処山堂詩抄」「諸家詩文抄」「臥雲余稿」、
「古処山樵詩集」「丁丑稿」「丁卯稿」「丙子稿」「戊寅稿」外著多数、白圭・采蘋さいひん・鳩巢の父、
[古処の字/通称/別号]字;士萌、通称;震平、別号;古処山人/山樵/海鷗、

虎女(こじよ) → 虎女(とらじよ、女流俳人) R 3 1 7 5

五杵(ごしよ・稻次) → 成章(しげあき・稻次いなづ/端山、藩士/国学)) N 2 1 4 2

梧所(ごしよ・石川) → 艇斎(ていさい・石川、藩士/儒者) 3 0 8 7

M1976 孤松(こしょう・美濃みの) ? - ? 大阪の俳人;1678西鶴「物種集」入、
1690言水「新撰都曲みやこぶり」4句入

[見る人も気にせがまるゝ踊かな](新撰都曲;上159/見物人も踊り出す盆踊)

M1988 孤松(こしょう) ? - ? 京の俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」11句入、
[鞘あてて黙礼で済む世なりけり](万国燕;335/斬合いもなく会釈ですむ平和な世)
上記新撰都曲入集の孤松と同一? → 孤松(こしょう、大阪俳人) M 1 9 7 6

F1905 孤松(こしょう) ? - ? 江戸の俳人;1695不角「昼礫ひるつぶて」入、
[我が恋は舌のとゞかぬ鼻の先](昼礫)

C1996 孤松(こしょう・河田) ? - ? 生野住の俳人、
1763既白を迎え選集「ちりの話」編、「怪談重問菁種」著

C1997 湖照(こしょう・松跡庵) ? - ?1751以前没 江中期俳人、淡々と交遊、
1728「蓬莱山」31「続にはくなふり」35「門柳曲」編、39「誹諧会席之古式」著

M1977 孤松(こしょう・沼田ぬまた、名;信挺) 1791-1855 65 羽後横手の秋田藩士、儒者;須田節斎門、
藩校明德館修学、郷校横手育英書院の教授/開塾、詩人、1855「孤松詩鈔初編」著
[孤松(;号)の字/通称]字;勁直、通称;織部

孤松(こしょう・小貫/初岡) → 敬治(けいじ・初岡はつおか、藩士/儒者) F 1 8 9 0

孤松(こしょう・吉田) → 謙斎(けんさい・吉田、藩士/詩文) I 1 8 9 0

孤松(古松こしょう・河田) → 正矩(まさのり・河田かわだ、農家/心学者) G 4 0 0 2

小将(こしょう・三井寺) → 小将(しょうしょう・こしょう・三井寺、童/歌) W 2 2 1 3

小湫(こしょう・北条) → 氏摩(うじあき・北条ほうじょう/伊勢いせ、藩士/詩) E 1 2 8 7

古鐘(こしょう・杉) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2

M1978 固浄(こじよ;法諱・友松軒;号、来光寺住職了春男) 1744-1802 59 讃岐の真宗本願寺派僧;
香川郡の来光寺12世、宗門内紛争で解職、仏典/和漢学/歌・俳諧/狂歌、良山の兄、
西行研究;1795「山家集抄」著、「伊予紀行」「あきたづの記」「神語秘抄」著、
「慈鎮和尚追善和歌集」「御障子絵和歌集」「新撰百人一首」著

古城(こじよ・三宅) → 古城(ふるき・三宅みやけ、国学者/歌人) I 3 8 7 3

古城(湖上こじよ・横井) → 忠直(ただなお・横井よこい、漢学/史学) 2 7 2 7

壺城(こじよ・矢野) → 御蔭(みかげ・矢野やの、商家/国学/歌人) K 4 1 8 6

虎杖(こじよ) → 天姥(てんぼ・宮本、俳人) E 3 0 2 5

虎乗(こじよ・道家) → 大門(ひろかど・道家どうげ/遠藤/津田、藩士/神職) K 3 7 2 9

M1979 五松(ごしょう・松田まつだ、名;元隣/元敏もととし、元茂男) 1723-68 46 伊勢度会郡曾根の和漢学者、俳人、
漢学・国典;神宮禰宜の橋村正身まさのぶ門、
「漢和古雅集録」著(1781刊)、

[五松の字/通称/別号]字;士行、通称;三太夫、別号;古雅堂、俳人玉巒の父

R1911 五升(ごしょう・野田まつだ、名;頼道/通称:正九郎、頼質男) 1803-72 70 伊予八幡浜の俳人;宗匠、
子弟教育の必要性を主唱;私塾[蘭陽堂]を開設;子弟教育、野田幸太(俳号沙陀)の父、
[ぬり盆に春の名ごりや桜餅]

悟章(ごしょう) → 学廼門悟章(がくのもんごしょう、狂歌) K 1 5 3 8

五松(ごしょう・中村) → 春野(はるの・中村なかむら、藩士/国/史学) G 3 6 6 7

C1995 五条(ごじょう・宣光門院せんこうもんいん) ?-? 南北期、宣光門院実子(花園天皇妃/正親町実明女)の女房、
花園院後宮で活動した歌人;1343五四番歌合参加、新千載集2027、
[今さらにうきをうしとて驚くも世のことわりをしらぬなりけり](新千載;雑2027)

G1946 **五城**(ごじょう・志村むら、名; **実因**さねより、実弘男) 1746-1832⁸⁷ 陸前江刺郡羽黒堂村中山の儒者:
 同郡岩谷堂邑主に出仕/昌平黌に修学、儒:柴野栗山・古賀精里・尾藤二洲門、
 仙台藩大番士に拔擢される、藩校養賢堂教授;子弟教育、
 弟2人と共に儒学者;志村三珠樹さんしゅじゅと称される/弟;時恭(東嶼)・弘強(蒙庵)、
 詩文、「燕沢碑考」「蛇田碑考」「志村五城詩集」「五城文抄」著/「諸家七絶集」編、「五城遺稿」、
 [五城(;号)の字/通称/別号]字;子環、通称;勘右衛門、
 別号;東華/士轍(詩号)/森玉軒(齋名)

- 五条(ごじょう) → 実宗(さねむね・藤原/西園寺、廷臣/歌) D 2 0 6 6
- 五常(ごじょう) → 五常(ともつね・高丘/高岳、廷臣/詩人) P 3 1 8 5
- 呉丈(ごじょう・岩本) → 乾什(けんじゅう、岩本、妓楼主人/俳人) C 1 8 0 7
- 呉丈(ごじょう、竹婦人) → 正朔(せいさく・竹島、妓楼主人/俳人) B 2 4 6 9
- 呉丈(ごじょう) → 雪斎(せつさい・珍重庵、俳人) E 2 4 3 5
- 梧条(ごじょう) → 寸風(すんぷう・筒井つひ、鳥取俳人) E 2 3 0 0
- 小响菴(こしょうあん) → 丸三(まるみつ・横山、幕臣/陶宮術) K 4 0 2 2
- 古松庵(こしょうあん) → 雄淵(ゆうえん・大場おおぼ、神職/俳人) 4 6 8 0
- 孤松庵(こしょうあん) → 黙斎(もくさい・稲葉、儒者) 4 4 8 2
- 胡床庵(こしょうあん) → 長翠(ちようすい・常世田とこよだ、俳人) J 2 8 0 9
- 虎杖庵(初世こじょうあん) → 天姥(てんぼ・宮本、農業/俳人) E 3 0 2 5
- 虎杖庵(こじょうあん・2世) → 葛三(かつさん・倉田、俳人) C 1 5 4 4
- 虎杖庵(こじょうあん・3世) → 八朗(はちろう・宮本:天姥男、俳人) E 3 6 9 8
- 虎杖庵(こじょうあん・4世) → 真篤(ますず・宮本:八朗男、俳人) J 4 0 0 5
- 五升庵(ごしょうあん) → 蝶夢(ちょうむ・五升庵、浄土僧/俳人) 2 8 2 6
- 五升庵(2世ごしょうあん) → 瓦全(がぜん・柏原、俳人;蝶夢門) C 1 5 2 8
- 五升庵(ごしょうあん) → 百可(ひゃっか・菱田、俳人) E 3 7 9 3
- 五象庵(ごしょうあん) → 景山(けいざん・大野、俳人) 1 8 5 8
- 五乘院(ごしょういん;諡号) → 宝景(ほうけい;法諱・東海、真宗僧) F 3 9 0 2
- 後成恩寺(ごじょうおんじ;諡号) → 兼良(かねよし・一条、撰関/古典/連歌) 1 5 3 7
- 後成恩寺撰政関白(ごじょうおんじせつしょうかんぱく) → 兼良(かねよし・一条) 1 5 3 7
- 孤松館(こしょうかん) → 謙斎(けんさい・吉田、藩士/詩文) I 1 8 9 0
- 古松丘(こしょうきゅう) → 純固(すみかた・久野くの、藩家老/詩歌) D 2 3 8 8

1933 **古松軒**(こしょうけん・古川/古河ふるかわ/本姓橋、護次男) 1726-1807⁸² 母;勝子(旧姓;池田/1704-33)、
 備中下道郡新本の薬種業/医者、地誌家、1759長崎で蘭学、地理学を修学;「西遊雑記」著、
 蝦夷を視察;1788「蝦夷松前諸説」89「東遊雑記」著、
 幕府より武蔵の調査依頼;1794「四神地名録」著/備中岡田藩より士分;岡田藩士、
 「都の塵」「吉備の志多道」外著多数
 [古松軒(;号)の名/字/通称/別号]名;辰/正辰まさとき、字;子曜、通称;戸古郎/平次兵衛、
 別号;黄薇山人/竹亭、法号;竹亭院

M1980 **古照軒**(こしょうけん・国友くにとも、溪雲[卜蔵]男) 1823-84⁶² 肥後熊本藩士/儒;塩谷岩陰門、
 藩校時習館訓導、幕末期は国事奔走/のち開塾;子弟教育、「遊東日誌」「水竹居集」著、
 [古照軒(;号)の幼名/名/通称]幼名;常彦、名;重昌/昌、通称;半右衛門/鉄叟/淡水

- 古照軒(こしょうけん) → 茂昌(しげまさ・糸永いとなが、神職/国学) N 2 1 4 0
- 孤松軒(こしょうけん) → 雨行(うこう・清水しみず、俳人) C 1 2 1 7
- 孤松軒(こしょうけん) → 寒秀(かんしゅう・森垣もりがき/市橋、俳人) Q 1 5 9 2
- 孤松軒(こしょうけん) → 正孝(まさたか・長尾ながお、藩士/詩・書) D 4 0 2 6
- 孤松軒(こしょうけん) → 方策(ほうさく・斎藤さいとう、蘭方医者) 3 9 9 3
- 小松軒(こしょうけん) → 百亀(ひゃっき・小松こまつ、薬屋/嘶本) E 3 7 9 4
- 五松軒(ごしょうけん) → 公澄(きんずみ・滋野井、廷臣/故実家) I 1 6 0 7
- 五松軒(ごしょうけん) → 梅溪(ばいけい・李り、漢学者) B 3 6 0 0
- 古松斎(こしょうさい) → 平旦(へいたん・難波なんば、俳人) 2 7 7 0
- 五松斎(ごしょうさい) → 允讓(まさよし・伊藤いとう、陶工/里正) N 4 0 4 0

- F1968 午松齋宗珠(ごしょうさいそうしゅ)?- ? 江前期説話伝承者;「奇異雑談さいぞうだん集」入
 孤松散人(ごしょうさんじん) → 寒秀(かんしゅう・森垣もりがき/市橋、俳人) Q 1 5 9 2
 古城山人(ごじょうさんじん) → 維良(これよし・片岡かたおか/平尾、藩儒) Q 1 9 6 2
 孤松子(ごしょうし) → 徳右衛門(とくえもん・小嶋、書肆) K 3 1 4 7
 小荘司(ごしょうじ・津田) → 典(てん・津田つだ、国学者/歌) E 3 0 9 0
 孤松主人(ごしょうしゅじん) → 五明(ごめい・吉川、商家/俳人) D 1 9 9 3
- C1998 小少将(ごしょうしょう・上東門院じょうとうもんいんの、源時通or扶義の女)?-1013? 上東門院彰子の女房、
 [時通女説(栄花物語の「大納言君」を小少将とする)]によると;もと但馬守源則理の妻/
 彰子に出仕後道長に寵愛される、
 歌人;紫式部と親交;歌の贈答、紫式部集入、勅撰4首;新古223/407新勅380/1059、
 [なべて世のうきに流るゝあやめ草今日までかゝるねはいかゞ見る](新古;夏223)、
 (隣合せの局の紫式部へ五月六日長い根を包み贈る;宮仕えの辛さに声を出し泣く)、
 (紫式部集の贈答歌群/憂きと泥土・泣かると流る・かくあると掛かる・根と音を掛る)、
 (紫女の返歌224;何事とあやめはわかで今日もなほ袂にあまるねこそ絶えせね)
- C1999 小少将(ごしょうしょう・後光厳院ごうごんいん)?-? 南北期;後光厳院の女房/歌人、新拾遺1061
 [あだにおく露の情のことはにわがいのちさへかかるとはかなさ](新拾遺;十三恋1061)
 五条少納言入道(ごじょうしやうなごんにゅうどう) → 良賢(よしかた・清原きよはら、廷臣/漢学者) C 4 7 6 2
 古松亭(ごしょうてい) → 柳菫(りゅうそう・今井いまい、代官/俳人) F 4 9 0 3
 古樟亭(ごしょうてい) → 青蛾(せいが・田村たむら、俳人) H 2 4 6 7
 孤松亭(ごしょうてい) → 寒秀(かんしゅう・森垣もりがき/市橋、俳人) Q 1 5 9 2
 五松亭(ごしょうてい) → 公麗(きんかぜ・滋野井しげのい、故実家) D 1 6 8 6
 虎嘯堂(ごしょうどう) → 竹禎(ちくてい・木代きしろ、儒者/書) D 2 8 4 9
 五章堂(ごしょうどう) → 斗雪(とせつ・入江、俳人) O 3 1 3 4
 後浄土寺(ごじょうどじ → のちのじょうどじ) → 道房(みちふさ・九条/藤原、摂政/記録) C 4 1 4 2
 五条殿(ごじょうどの) → 忠平(ただひら・藤原、撰関/格式/歌人) F 2 6 7 1
 後照念院関白太政大臣家讃岐(ごじょうねんいんかんぱくたじやうだいじんけのさぬき)
 → 讃岐(さぬき・右大臣家、歌人) C 2 0 8 0
 後照念院前関白太政大臣(ごじょうねんいんさきのかんぱくたじやうだいじん) → 冬平(ふゆひら・鷹司) E 3 8 3 8
 五条の翁(ごじょうのおきな) → 貞徳(ていとく・松永、歌/俳人) 3 0 0 8
 五条后(ごじょうのきさい) → 明子(あきらけいこ・藤原良房女/文徳天皇皇后) 1 0 3 9
 五条后(ごじょうのきさい) → 穩子(おんし・藤原、醍醐天皇中宮/歌) B 1 4 2 6
 五条三位(ごじょうのさんみ) → 俊成(としなり・藤原/葉室、歌人) 3 1 4 7
- F1969 五疊多他見(ごじょうのたたみ)?- ? 狂歌四方連、1785「徳和歌後万載集」2首、
 [もゝ草の中なる萩に見とれつゝいくせんにも通をうしなふ](後万載;秋236、
 幾千人・仙人を掛る;ももはぎに久米仙人の神通力喪失を連想)
 五条局(ごじょうのつばね) → 加賀(かが・美福門院、定家母) E 1 5 5 5
 五城房(ごじょうぼう) → 旧山(きゅうざん、俳人) C 1 6 0 1
 五条坊三逕(ごじょうぼうさんけい) → 木児(もくじ・伊藤、俳人) 4 4 9 0
 後称名院(ごしょうみやういん) → 公保(きんやす・三条西/西三条、歌人) E 1 6 8 2
 後浄明珠院(ごじょうみやうしゅいん) → 康道(やすみち・二条/藤原/九条、摂政) D 4 5 0 5
 後常瑜伽院御室(ごじょうゆかいのおむろ) → 永助親王(えいじよしのう、門跡/歌人) 1 3 3 6
 湖上漁人(ごじょうりやうじん) → 素行(もとゆき・村田むらた/大沢、商家/詩文) L 4 4 6 7
 護松廬(ごじょうろ) → 経春(つねはる・賀茂/岡本、神職/国学) D 2 9 2 9
 後如雲院(ごじょうんいん) → 兼賢(かねかた・広橋、廷臣/歌) O 1 5 4 0
 古処山人(ごじょうさんじん) → 古処(こじょ・原、儒者/詩人) C 1 9 9 4
 娛渚堂(ごしょうどう) → 白応(はくおう・郁々堂、俳人) C 3 6 7 3
 後白河院京極(ごしらかわいんのきやうごく) → 京極(きやうごく・後白河院、俊成女、歌人) C 1 6 4 6
- 1956 後白河天皇(ごしらかわてんのう、雅仁まさひと、鳥羽天皇皇子) 1127-1192/66 母;藤原公実女璋子、
 在位1155-58/5代にわたり院政:源平波乱の情勢の中で朝廷の舵取りに尽力、多芸、今様合催、
 催馬楽・声明を愛す/深く仏教信仰/歌人、俊成に千載集撰進の院宣、1169出家、「梁塵秘抄」編、

1169「梁塵秘抄口伝集」著、後葉集入、菟玖波集1句入、
勅撰15首；千載(7首78/360/606以下)新古(4首146/以下)続古(447)玉(2首)新千(253)、
[池水にみぎはの桜散りしきて波の花こそさかりなりけれ](千載；春78)、
[後白河天皇の法名；行眞]法名；行眞

後白川入道前右府(ごしろかわにゅうどうさきのうぶ)→公冬(きんふゆ・三条/転法輪三条、歌) E 1 6 6 4

D1900 小四郎(こしろう・榊山さかきやま)1671-174777 大阪歌舞伎：榊山座の座主、榊山勘介を庇護

M1981 小四郎(こしろう；通称・得能とくのう、覚兵衛男)？-？ 越中礪波の庄屋12代目(加賀藩十村組)、
1839編成替えて砺波郡太美組を宰領(組十村)、1844「得能家伝記写」編

F1935 小四郎(こしろう・藤田ふじた信、東湖男)1842-65処刑24 水戸藩士、尊攘派；1864天狗党結成；指揮者、
西上途中加賀藩に降伏；1865敦賀で武田耕雲斎/田丸稻之衛門らと斬罪された

小四郎(こしろう・江馬) → 義時(よしとき・北条ほうじょう、幕府2代執権) E 4 7 8 3

小四郎(こしろう・細川) → 顕氏(あきうじ・細川/源、武将/歌/連歌) 1 0 5 9

小四郎(こしろう・芥川) → 景盛(かげもり・芥川あきたがわ、武将/連歌) L 1 5 3 9

小四郎(こしろう・揚/上野) → 弘斎(こうさい・揚あげ/上野あげの、藩士/国学) I 1 9 9 5

小四郎(こしろう・今井) → 魯斎(ろさい・今井いまい、藩儒者；史官) B 5 2 5 0

小四郎(こしろう・中山) → 正樹(まさき・中山/度会、神職/歌人) C 4 0 2 4

小四郎(こしろう・今井) → 似閑(自閑じかん・今井、商家/国学者) 2 1 0 6

小四郎(こしろう・松本) → 幸四郎(初世こうしろう・松本、歌舞伎役者) 1 9 1 2

小四郎(こしろう・高橋) → 竹中(ちくちゅう・高橋たかはし、漢学者) D 2 8 4 5

小四郎(こしろう・堀) → 利堅(としかた・堀ほり、幕臣/大目付) M 3 1 2 2

小四郎(こしろう・大野) → 典則(つねのり・大野おのの/宮島、国学/歌人) F 2 9 4 1

小四郎(こしろう・金子) → 宜胤(よしたね・金子かねこ、国学者) M 4 7 2 5

小四郎(こしろう・勝屋) → 積(せき・勝屋しょうや/静間、国学者) O 2 4 1 9

小二郎(こじろう・相馬) → 将門(まさかど・平たいら、武将/天慶乱) C 4 0 1 4

小二郎(こじろう・中村) → 重樹(しげき・中村なかむら、国学者) Z 2 1 5 7

小次郎(こじろう・朝山) → 師綱(もろつな・朝山、梵燈庵、幕臣/連歌) 4 4 3 4

小次郎(こじろう・山名) → 政豊(まさとよ・山名やまな/源、武将) E 4 0 8 2

小次郎(こじろう・観世) → 元頼(もとより・観世かんぜ、能楽/章句本) E 4 4 8 4

小次郎(こじろう・松平/本多) → 忠国(ただくに・本多ほんだ、藩主) P 2 6 4 4

小次郎(小二郎こじろう・松平) → 宗武(むねたけ・田安/徳川/松平/源、国学/歌) 4 2 0 6

小次郎(こじろう・山名/岡田) → 高穎(たかひで・岡田/山名、藩士/儒/国学) N 2 6 0 1

小次郎(こじろう・中山) → 葎菘(せいが・中山なかやま、医・藩儒者) 2 4 8 5

小次郎(こじろう・森田) → 良郷(よしさと・森田/山川、藩士/文筆) D 4 7 4 2

小次郎(こじろう・志賀) → 吉倫(よしみち・志賀しが、藩士/和算家) H 4 7 4 3

小次郎(こじろう・佐善) → 松溪(しょうけい・佐善ざぜん/源、藩儒) I 2 2 2 1

小次郎(こじろう・荒巻) → 利蔭(としかげ・荒巻あらまき/黒田/本居、歌人/邦楽) U 3 1 0 1

呉四郎(ごしろう・西尾) → 武陵(ぶりょう・西尾にしお、庄屋/俳人) E 3 8 6 1

小次郎信光(こじろうのぶみつ・観世) → 信光(のぶみつ・観世、能作者) 3 5 1 4

小次郎信貞(こじろうのぶさだ・二宮) → 道阿(どうあ；沙弥、早歌) S 3 1 6 1

M1982 湖心(こしん；道号・碩鼎せきてい；法諱、号；頤賢いけん/三脚)1481-156484 博多の臨濟僧：一華碩由門、
得度/嗣法、1519博多聖福寺住持、39大内義隆の命で使者として数百名引率し入明、
明の世宗より頤賢号/帰国後1545南禅寺住持、
五山文学；「頤賢いけん録」「三脚稿」「得魚筌」著

古信(こしん・狩野栄川) → 古信(ひさのぶ・狩野、絵師) B 3 7 7 5

古信(こしん・佐々木) → 古信(ひさのぶ・佐々木ささき、藩士/歌人) J 3 7 6 3

古心(こしん・前原) → 梅窓(ばいそう・前原、尊攘派) B 3 6 7 6

D1902 悟心(ごしん；道号・元明げんみょう；法諱、松本元活男)1713-8573 伊勢松坂黄檗僧；法泉寺衝天元統門、
1730嗣法/54宝泉寺6世/63近江正瑞寺住持/1773伊勢浄光寺に退隱、篆刻；細井広沢門/詩画、
1743「連珠印譜」、「一雨詩偈」「一雨文抄」、1773「一雨余稿」著、
[悟心元明の号] 一雨庵/荷庵/懶庵らいあん、夢幻叟/逍遙道人/乳熊道人にゅうゆうどうじん/九華山人

- D1901 **午心**(ごしん・岩波いわなみ) ? - 1817 江中期相模小田原の俳人: 蓼太・完来門、
小田原では嵐窓と西相模俳壇の中心/のち江戸移住、「玉田集」「錦袋集」「玉田集後篇」著、
1789「探荷集」編/1795-1815「芳春帖」編、1801「葎雪庵歳旦帖」編、「雪帖」著
[午心(;)の別号/法号]別号;山花/山花人/葎雪庵/柳下、法号;寛量午心居士
 悟心(ごしん;字) → 信慧(しんえ/しんね;法諱・悟心、真言僧) N 2 2 3 5
 悟心(ごしん・聖蓮社) → 靈妙(れいみょう;法諱、浄土僧) 5 1 6 8
 悟眞(ごしん;法名) → 義懐(よしちか/よしかね・藤原、中納言/歌) E 4 7 4 5
 吾慎(ごしん・桜井) → 光章(みつあき・桜井さくらい/桃沢、国学・歌) H 4 1 6 8
 五岑(ごしん;道号・智蘊ちうん;法諱) → 親当(ちかまさ・蜷川新右衛門、幕臣/連歌) 2 8 0 6
 五心(吾心ごしん・岩本) → 五一(ごいち・達摩屋初世・岩本、書肆) E 1 9 8 2
 護信(ごしん;字) → 天恕(てんじよ;法諱、浄土僧) D 3 0 7 9
 護人(ごしん・大藪) → 延親(のぶちか・大藪おおやぶ/香川、神職/国学) H 3 5 7 5
 古心庵(ごしんあん;号) → 弘巖(こうがん;道号・玄猊;法諱、臨濟僧) I 1 9 1 1
 故人庵(ごじんあん) → 玄駁(げんき・松平まつだいら、藩老/俳人) E 1 8 0 4
 己心院前摂政左大臣(ごしんいんさきのせつしょうさだいじん:新千/新拾など) → 師教(もろのり・九条) H 4 4 7 0
 故新軒(ごしんけん) → 山夕(2世さんせき・桃井ももい、俳人) M 2 0 5 1
 古心斎(ごしんさい) → 永言(ながこと・生駒こま、藩士/歌人) L 3 2 0 7
 湖信斎(ごしんさい) → 宗訊(そうじん・小村、連歌) C 2 5 2 2
 後深心院(ごしんじんいん→のちの) → 道嗣(みちつぐ・近衛、堀河関白、詩人) B 4 1 8 6
 古心堂(ごしんどう) → 洞庵(とうあん・古賀、儒/詩人) 3 1 0 2
- D1903 **湖水**(湖水こすい・和田わだ) ? - ? 江中期1704-16頃上州高崎の俳人/雑俳、
1709「新版伊香保」、14「前句付譏草」撰、「鼻闕猿」「西上野国八景詩並序」著、
[湖水(;)の通称/別号]通称;伝左衛門、別号;自寸/自寸斎
- M1983 **古翠**(湖水こすい・高橋たかはし、別号;蕉圃亭) 1773-1851 79 羽前置賜の農業/豪農、俳人:長翠・乙二門、
1827「置賜集」、35「松窓乙二発句集」編、「誹諧蕉門句撰」編、朶峰だほうの父
- M1984 **湖翠**(こすい・田中たなか) ? - ? 江後期文化1804-18頃羽後北秋田郡阿仁の俳人、
1813「月夜庵発句集」著
[湖翠(;)の通称/別号]通称;藤左衛門、別号;玉鈞/三日月庵
 湖翠(こすい;号) → 松径(しょうけい・湖翠、俳人) I 2 2 2 2
 胡醉(こすい・田代) → 陣基(つらもと・田代たしろ、藩右筆) E 2 9 5 0
- D1904 **栢水**(ごすい;号・慈身じしん;法諱、別号;桐洞社) 1726-97 72 三河吉田の天台僧:白雲山神宮寺12世、
俳人;木朶門、1795「たまかつら」編
 呉水(ごすい・常世田) → 長翠(ちようすい・常世田とよよだ、俳人) J 2 8 0 9
 五醉庵(ごすいあん) → 兎国(とこく・新倉、農業/俳人) L 3 1 7 3
 午睡庵(ごすいあん) → 重矩(しげのり・高木たかぎ、和学者) Z 2 1 2 7
 後瑞雲院(ごすいりういん;法号) → 兼宣(かねのぶ・広橋、廷臣/歌) O 1 5 8 2
- F1970 **湖水軒**(こすいけん;号・近松ちかまつ) ?-? 江後期浄瑠璃・歌舞伎作者;近松半二門、
1789-1818頃近松柳らの浄瑠璃助作者/のち歌舞伎作者、1799近松柳「絵本太功記」助作、
1799近松柳「太功後編の簾颯たいこうごにちのはたあげ」助作/1800「鴉湖高見硯」梅枝軒と合作、
1809「廓訛潮来画草紙さとなまりいたこのかながき」中村魚眼と合作/「伊賀越乗掛合羽」佐藤魚丸と合作
 午睡軒(ごすいけん・香川) → 午谷(ごこく・香川かがわ、藩士/詩人) M 1 9 4 5
 壺醉軒興也(こすいけんこうや) → 興也(こうや・壺醉軒、俳人) B 1 9 9 5
 五水坊(ごすいぼう) → 畔李(はんり・南部、藩主/俳人) I 3 6 6 0
 梢少将(こずえのしょうしょう) → 公重(きんしげ・藤原、廷臣/歌人) E 1 6 0 9
 小助(こすけ・長崎/長岐) → 七左衛門(しちざえもん・長崎/長岐、殖産家) U 2 1 3 1
 小助(こすけ・馬淵) → 嵐山(らんざん・馬淵まぶら/馬、儒医) C 4 8 3 3
 小助(こすけ・平元) → 梅隣(ばいりん・平元、儒医/歌人) C 3 6 2 6
 小助(こすけ・樺島) → 孝継(たかつぐ・樺島かばしま、藩士/歌人) W 2 6 5 6
 小助(小輔/小介こすけ・山県) → 有朋(ありとも・山県、藩士/内閣組織) F 1 0 5 3
 小輔(こすけ・柴野) → 貞毅(さだよし・柴野しばの、医者) K 2 0 2 7

小輔(ごすけ・田岡) → 凌雲(りょううん・田岡たおか、藩士/儒者) G 4 9 4 0
 小介(ごすけ・佐野) → 琴嶺(きんれい・佐野さの、藩士/漢学者) I 1 6 4 1
 古助(ごすけ・田中) → 蘭齋(らんさい・田中たなか、藩士/書家) C 4 8 1 5
 小菅(ごすけ・池村) → 邦則(くにのり・池村いけむら、染物業/国学) E 1 7 0 1

D1905 吾輔(ごすけ・金沢かなざわ・並木) ?- ? 1836存 大阪の歌舞伎作者;並木三四助みよけ門、
 1822初世金沢竜玉(3世歌右衛門)門;助作合作、尾上座三枚目・浅尾与三郎座二枚目作者、
 1829京で立作者/37以降不明、1817「敵討御堂前」25「梅浪花早咲源氏」27「中村筭」著、
 1829「当四徳」35「梅桝黄鳥墳うめみじうぐひすのはか」著、36「花魁荅八房」番付

[金沢吾輔の別号] 並木清造/並木清蔵/金沢清造/金沢芝洛/金沢芝楽/並木吾輔

五助(ごすけ・平沢) → 元愷(げんがい・平沢、旭山、儒者) B 1 8 3 9
 五助(ごすけ・荒木) → 忠栄(ちゆうえい・荒木、藩士/馬術家) F 2 8 7 9
 五助(ごすけ・小出) → 英風(ひでかぜ・小出こいで、藩士/歌人) J 3 7 5 1
 五助(ごすけ・石附) → 将茂(まさしげ・石附いじつき、商家/歌/能) N 4 0 6 0
 五介(ごすけ・森川) → 許六(きよろく/きよりく・森川、藩士/俳人) 1 6 5 5
 五介(ごすけ・田中) → 基当(もとまさ・田中たなか/藤原、藩士/歌) K 4 4 2 8
 五介(ごすけ・田中) → 散木(さんぼく・田中、基当男/藩士/儒者) G 2 0 1 6

1934 後崇光院(ごすけいん、名;貞成さだふさ、一字名;松・慶、伏見宮栄仁親王男) 1372-1456⁸⁵ 伏見宮家3代、
 母;阿野実治女、1411元服/17兄治仁王の急死;宮家を相続、後小松天皇の猶子、
 1425親王宣下/出家、1435一条洞院に移住/47太上天皇の称、歌;父および四辻善成門、
 琵琶/文芸に通ず、伏見院歌垣を形成;公家文化圏の中心となる、
 1450[宝徳二年仙洞歌合]催(隠名;二条)、

1416-48日記「看聞御記」、「貞成親王御詠歌」「貞成親王御詠草」「貞成親王御文類」著、
 「椿葉記」、「後崇光院百首」「後崇光院千首和歌」「後崇光院百番御自歌合」「沙玉歌集」著、
 新続古今集6首;9/246/425/924/1901/2007/1797詞書入、連歌;新菟玖波6句入、
 1400[菊葉集]222首入(:従三位政子名)/1434永享百首参加、

[眞榊まさかきの春のみどりの色なれや霞ぞ匂ふあまのかぐ山]、

(新続古;春9/百首歌の時;無品親王名/永享百首12;貞成名)、

[かきくらし天ぎる雪のふる年にそれとも見えぬ春はきにけり](菊葉;春2/従三位政子)

後朱雀院一宮(ごすけいんのいちのみや) → 祐子内親王(ゆうしなしいんのう、母姫子) C 4 6 2 4

後朱雀院中宮(ごすけいんのちゆうぐう) → 姫子(げんし・藤原、祿子内親王母) B 1 8 9 8

後朱雀院中宮宣旨(ごすけいんのちゆうぐうのせんじ) → 宣旨(せんじ・六条齋院) F 2 4 7 4

C1918 後朱雀天皇(ごすけくてんのう、敦良あつなが、一条天皇皇子) 1009-45³⁷ 母;上東門院彰子(道長女)、
 在位1036-45、東宮時1021藤原道長女嬉子(母;倫子)と結婚;皇子(後冷泉天皇)出産後没、
 禎子内親王(三条天皇皇女)と結婚;後三条天皇出産;1036即位後頼通に入内を拒否された、
 荘園整理の発議など天皇親政を推進/病気で譲位後出家;肩の悪性腫瘍で病没、
 「後朱雀天皇御記」著、詩歌人、新撰朗詠集に詩入、

勅撰9首;後拾遺(604/715/897)新古(1250/1252/1727)続古(1875/1882)新千載(2239)、
 息子;後冷泉天皇・後三条天皇、息女;祐子・祿子・正子内親王など;当代文化圏の中心、

[ほのかにも知らせてしがな春霞かすみのうちに思ふ心を](後拾遺;恋604、

東宮の時 尚侍藤原嬉子[1021-25;妃/皇后;19歳で夭折]の許に初めて遣す歌)

参考 → 嬉子(きし・藤原、母倫子、後冷泉天皇の母) F 1 6 4 4

→ 祐子内親王(ゆうしなしいんのう、1038-1106/母姫子) C 4 6 2 4

→ 祿子内親王(らくしなしいんのう・六条齋院/1039-96、母姫子) 3 6 0 5

→ 正子内親王(しょうしなしいんのう、齋院/1045-1114/母延子) S 2 2 8 0

Q1993 小鈴(こすず・鈴木すずき、医者村上忠順ただまさ2女) 1839-93⁵⁵ 母;三千代、三河碧海郡堤村の歌人、
 国学;父門、国学者鈴木重愛しげちか(1839-1913)と結婚、
 姉;深見登之野としの(歌人)・妹;八千代(歌人)・弟;忠明(勤王家)・忠浄(医者)

G1962 小簾菅伎(こすのすがき、清涼亭、通称;五郎平衛) ?-? 江戸京橋の御簾師/狂歌、1787「才蔵集」3首;
 [思へどもせんかたまくらふたり前ひとつは君と抱きしめてねる]

木積屋(こずみのや) → 清蔭(きよかげ・杉本/池田屋、商家/歌人) O 1 6 6 8

- 五瀬(ごせ・日下) → 誠(まこと・日下くさか、和算家) 4 0 7 8
 五瀬(ごせ・喜多) → 維親(継親これちか・喜多きた/飯田、国学) Q 1 9 6 3
 G1984 古生(こせい・柴田) ? - ? 江前期河内白木の住人/狂歌;1666「古今夷曲集」入
 E1998 虎栖(こせい) ? - ? 江前期会津の俳人;1692不角「一息」入、
 [人づかい慈悲は後ろに前は鬼](一息/使用人に対する主人側の心得)
 (当時の諺;慈悲を垂れば糞垂れる)
 D1907 古声(こせい・越智おち、割庄屋兵左衛門忠与男) 1746-182580 備後甲奴郡田房の酒造業/1756家督、
 俳人:蝶夢門;1767伊勢参拝帰途京で入門、麦宇と親交、1779芭蕉塚記念「山里塚」(蝶夢序)、
 1792「ももとせのふゆ」編、1801蝶夢追悼「比叡の月」編、19蝶夢追悼「はまちどり」編、
 1769蝶夢「己丑墨直し」70蝶夢「庚寅墨直し」96蒼虬「花供養」/1803菊谿「ゆめのあきふゆ」入、
 追善;刷物「故眠亭翁」、
 [もどかしきけふのけしきを後の菊](故眠亭翁入)
 [古声(;号)の幼名/通称/別号]幼名:吉之丞、通称:喜十郎/惣左衛門/吉左衛門、
 別号:風路/桃甫/眠亭/道磨/東祐軒、法号:古声道賢居士
 F1943 狐声(こせい) ? - ? 江後期江戸の川柳作者;和的の相評を務める、
 1805から麴町連(初音連)の主評的地位
 D1927 湖静(こせい・便々館べんべんかん、琵琶翁) 1785-? 江後期江戸の狂歌;琵琶連、
 1830「伊呂波集」/58「狂歌三河名勝図会」編/64「狂歌忠臣蔵」編
 古青(こせい・十文字) → 重光(しげみつ・十文字じゅうもんじ/木下、神職/和漢学) O 2 1 8 6
 固成(こせい・安濃) → 恒成(つねなり・安濃あの、菓輔/国学/神職) F 2 9 1 0
 固成(こせい・田沢) → 固成(もとなり・田沢たざわ、国学者/歌人) K 4 4 2 5
 虎清(こせい・大蔵) → 虎清(とらきよ・大蔵、能楽・狂言方宗家) R 3 1 7 3
 虎成(こせい→とらなり・今村) → 楽(たぬし・ら・今村、医/国学/歌) G 2 6 3 4
 湖西(こせい・関) → 藍梁(らんりょう・関せき、儒者/詩人) D 4 8 2 7
 湖静(こせい・青地) → 忠愛(ただよし・青地あおち/あおち、藩士/記録) R 2 6 2 9
 D1906 五晴(ごせい・石原いしはら、通称;茂兵衛/別号;朝陽館)?-? 大阪の書肆朝陽館主人、
 俳人;大魯(蘆陰舎)社中、1775「俳諧五子稿」「素堂句集」「来山句集」編、76「津守船」編、
 1776几董「続明烏」/77江涯「仮日記」入、
 [蚊遣火や勤はじまる国分寺](続明烏;甲247/夕べの勤行)
 M1985 吾声(ごせい・岡本おかもと、通称;伝八郎)?-? 名古屋の俳人:梅裡門、画、1853「百人集」、
 1857「新蕎麦集」編/58「鶯谿百人集」、60「双尾集乾」編、
 [吾声(;号)の別号] 鶯谿舎/鶯娛子
 五井(ごせい・百井) → 塘雨(とうう・百井ももい、商家/俳人) B 3 1 1 6
 五生(ごせい・吉村) → 春樹(はるき・吉村よしむら、国学/歌人) K 3 6 9 7
 五省(ごせい・青木) → 鶯水(ろすい・青木あおき、俳人) 5 2 0 4
 五清(ごせい・抱亭) → 抱亭五清(ほうていごせい、絵師) C 3 9 3 6
 五晴(ごせい・河島) → 春翠(しゅんすい・河島かわしま、漢学者) L 2 1 1 9
 午晴(ごせい・青木) → 金山(きんざん・青木あおき、儒者) R 1 6 0 8
 梧棲(ごせい・間瀬) → 潮月(ちようげつ・間瀬、俳人) I 2 8 0 6
 梧青(ごせい) → 長盛(ちようせい、真言僧/俳人) J 2 8 1 6
 護生(ごせい・谷) → 麗国(よしくに・谷たに/小林、国学者) P 4 7 7 9
 湖青庵(ごせいあん) → 琴台(きんだい・明石あかし、医者/俳人) R 1 6 3 6
 五精庵(ごせいあん) → 只山(しざん・五精庵ごせいあん、俳人) Q 2 1 6 8
 午晴庵(ごせいあん) → 蒲丈(ほじょう・豊津、俳人) E 3 9 2 9
 梧井庵(ごせいあん) → 永貞(ながさだ・有沢、軍学者) D 3 2 6 5
 呉井園(ごせいえん) → 蓬宇(ほうう・佐野さの、商家/俳人) 3 9 1 5
 午晴斎(ごせいさい) → 蒲丈(ほじょう・豊津とよ、俳人) E 3 9 2 9
 古青山史(ごせいさんし) → 重光(しげみつ・十文字じゅうもんじ/木下、神職/和漢学) O 2 1 8 6
 鼓聖堂(ごせいどう) → 眞足(またり・佐々木、能役者/歌人) J 4 0 5 8
 五清堂(ごせいどう) → 武清(ぶせい・喜多、絵師) C 3 8 8 9

- 碁聖法師(ごせいほうし、碁聖きせい法師)→寛蓮(かんれん、橘良利、真言僧、歌人) R 1 5 8 7
 後青竜院宮(ごせいりゅういんのみや)→尊道親王(そんどうしんのう、天台座主/歌人) F 2 5 0 0
 壺星楼(ごせいらう) → 繁門(しげかど・壺星楼/大垣、狂歌) Q 2 1 8 4
- M1986 湖夕(ごせき) ? - ? 近江俳人;1694「炭俵」入
 [炭売の横町さかる吹雪哉](炭俵:下巻、さかるは売声が遠ざかる意)
- D1908 栞石(ごせき) ? - ? 俳人;1768秀億「葛藤かつらぶじ」入
- M1987 伍石(ごせき・永根ながね・初姓;北条、名;鉉) 1765-1838 74 陸中盛岡書家/篆刻、一時江戸御徒町に住、
 1793-95「集古帖」編(;正面摺)/「続帖」、97「清三朝実録採要」編、「大清三朝事略」編、
 「草聖彙弁」、1800中良「桂林漫録」聞書に入
 [伍石(;号)の字/通称/別号]字;仲鼎/元鼎、通称;勇八郎、
 別号;氷斎/氷道人/槃散散人ばんさんさんじん/無仏称尊
- 呉石(ごせき・市山) → ト平(とへい・市山、歌舞伎役/作者) O 3 1 7 4
 五尺(ごせき・並木) → 五瓶(初世ごへい・並木、歌舞伎作者) 1 9 4 0
 語石(ごせき・近藤) → 貞用(さだもち・近藤、幕臣/黄檗参禅) J 2 0 8 8
 呉夕庵(ごせきあん) → 江涯(こうがい・呉夕庵、俳人) 1 9 8 3
 語石庵(ごせきあん) → 精知(せいち・広田ひろた、商家/俳人) J 2 4 2 0
 五席庵(ごせきあん) → 泰里(たいり・橋本、俳人) C 2 6 2 8
 古昔園(ごせきえん) → 信古(のぶひさ・大倉おおくら/菅原、鑑定家) H 3 5 6 5
- D1909 五節(ごせち・枇杷殿皇太后宮びわどのこうたいごうぐうの、藤原方隆女)?-? 平致方の妻、藤原教通男の乳母、
 枇杷皇太后宮藤原妍子[994-1027、三条院后]の女房/歌人、1041修子内親王家歌合参加、
 千載171、栄花物語入、上東門院五節と同一?
 [たゞならぬ花橋のにほひかなよそふる袖はたれとなけれど](千載集;三夏171)
 → 五節(ごせち・上東門院) D 1 9 1 0
- D1910 五節(ごせち・上東門院じょうとうもんいんの)?-? 一条院后上東門院彰子[988-1074]の女房/歌人、
 1032上東門院菊合/1038源大納言師房歌合参加、風雅2021、枇杷殿皇太后宮五節と同一?
 五節君(ごせちきみ)と同一?
 [ちよふべき君がまがきの菊みてぞ花のなかにもひさしかりける](上東門院菊合;四番)
 → 五節(ごせち・枇杷殿皇太后宮) D 1 9 0 9
 → 五節君(ごせちきみ、師房家・定綱家歌合) F 1 9 1 4
- D1913 五節大舍人(ごせちのおおとねり、出自不詳)?-? 平安後期歌人;藤原通宗[1040?-84]家の女房?
 1086若狭守通宗朝臣女子達歌合わかさのかみみちむねあそんのむすめたちのうたあわせ(判者;通俊)参加(隆源らと)、
 [難波江の葦の篠屋しのやも雪降れば花の都におとらざりけり](通宗女子歌合;八番左15)
- F1914 五節君(ごせちきみ) ? - ? 歌人;1041源大納言師房家歌合参、
 1067備中守定綱朝臣歌合参、上東門院五節と同一?
 [さほ姫のみな紅にいはずつじもえぬばかりも染めてけるかな](定綱歌合;十四番右)
 → 五節(ごせち・上東門院) D 1 9 1 0
- M1989 孤雪(ごせつ;号・上田うえだ、名;一道/通称;英八) 1768-1851 84 肥後の儒者;熊本藩校時習館訓導、
 1801「井牧通行図説」著
 古雪(ごせつ・結城) → 香崖(香厓こうがい・結城ゆうき、藩儒/詩) G 1 9 2 1
- M1990 鼓舌(ごせつ) ? - ? 京の俳人;1772几董「其雪影」83維駒「五車反古」入
- M1991 呉雪(ごせつ・鈴木すずき、名;重奉) 1762-1825 64 相模三浦長井の俳人;翠園積翠門、
 「蕉門変化集」、「四季袋」、「四くに吟行」著、
 [呉雪の通称/別号]通称;丈吉、別号;笠窓/潮声窟、法号;南誉嶺源呉雪信士
- 呉雪(ごせつ・三井) → 高福(たかよし・三井、商家;財閥の礎) N 2 6 7 7
 虎雪亭(ごせつてい) → 双飛(そうひ・岩田いわた、俳人) C 2 5 8 0
 胡雪堂(ごせつどう) → 午寂(ごじゃく・人見ひとみ、幕臣/俳人) C 1 9 8 0
 語雪堂(ごせつどう) → 舍羅(しゃら・榎並、俳人) G 2 1 5 5
- D1912 巨勢郎女(ごせいらつめ、巨勢臣人おみひと女)?-? 大伴安麻呂の妻、田主たぬし・旅人・宿奈磨らの母、
 万葉一期歌人;卷二102(;安麻呂への答歌)、
 [玉葛たまがづら花のみ咲きて成らざるは誰が恋ならめ我あは恋ひ思ふを](万葉;二102)

- 古瀬勝雄(こせのかつお→ふるせ)→ 勝雄(かつお・古瀬ふるせ、狂歌) C 1 5 4 1
- D1914 巨勢斐太朝臣(こせのひだのあそみ、名不詳、刑部少輔巨勢斐太朝臣島村男)?-? 万葉十六3844・45左注、色が黒かったため土師水通が[大黒おぐろ]の綽名をつける;3844/45戯笑歌に入、参考 → 水道(みみち・土師宿禰、3844作者) 4 1 3 8
→ 豊人(とよひと・巨勢朝臣、[小黑]、3845作者) 3 1 6 5
- M1992 古先(こせん;道号・印元;法諱、正宗広智禅師、俗姓藤原)1295-1374⁸⁰ 薩摩臨濟僧:1318入元、1326清拙正澄に従い帰国/37甲斐恵林寺住持/58鎌倉長寿寺開山、「古先禅師語録」著
- M1993 古川(こせん) ? - ? 俳;1688不卜「続の原」句合入; [木鉄きばさみに落て本意なし竹の露](続の原;上・秋露51)
- D1915 古扇(こせん・一楽堂) ? - ? 俳人;雑俳点者、1702松葉軒「あかゑぼし」入、「肱まくら」編
- P1941 古泉(こせん・松井) ? - 1761 広島醸造家/詩歌人;似雲門、1750「賀の詩歌集」著、俳人風律と交遊、
- M1994 鼓千(こせん・岩井) ? - ? 大阪の俳人/雑俳;1757律中「耳勝手」入
- M1995 跨仙(こせん) ? - ? 俳人;1773几董「明鳥」入 [蝶の来てこの山里の春辺哉](あけ鳥;184)
- M1996 袴仙(こせん) ? - ? 俳人;1776樗良「誹諧月の夜」入 [風やある梅の光の石にうつり](月の夜;91)
- M1997 壺仙(こせん・森もり/本姓;山村、山村謙卿男)1743-? 1820存 伊勢松阪の綿商/俳人; 1765「いせ参御蔭之日記」、80年代奥羽遊歴「紀行奥羽東行」、97「つとのくさぐさ」、1811「宝暦はなし」著、 [壺仙(;号)の通称/別号]通称;幸次郎、別号;蓬戸亭
- M1998 壺仙(こせん・服部はっとり)1756-1823⁶⁸ 尾張名古屋の富商/詩:岡田新川門、儒・釈・道に通ず、風流を好み古書画・珍器を蒐集、高須の儒者日比野秋江・光真寺僧永山と交流、「壺仙遺稿」、 [壺仙(;号)の名/字/通称/別号]名;徳義/俊徳、字;克明、通称;三星屋吉左衛門、別号;西溟、法号;道還
- 古川(こせん) → 古川(ふるかわ、本郷の俳人) H 3 8 6 1
- 古川(こせん・加藤) → 行忠(ゆきただ・加藤かとう、藩侍医/国学) G 4 6 7 1
- 古仙(こせん・永田) → 忠良(ただよし・永田ながた、藩士/俳人) X 2 6 4 2
- 古船(こせん・津山) → 正行(まさゆき・津山つやま/平野、歌人) Q 4 0 9 1
- 古扇(古仙/古僊こせん・峰村)→ 白斎(はくさい・峰村みねむら、農業/俳人) D 3 6 0 8
- 古扇(壺仙こせん・日下部)→ 令文(よしぶみ・日下部くさかべ、藩士/国学) M 4 7 5 3
- 古僊(古仙こせん・河村)→ 政友(まさとも・河村かわむら、国学者/歌人) P 4 0 0 7
- 孤川(こせん・河田) → 正矩(まさのり・河田かわた、農家/心学者) G 4 0 0 2
- 狐阡(こせん・瀬名) → 貞雄(さだお・瀬名せな、幕臣/故実家) B 2 0 7 2
- 故僊(こせん・法諱) → 卓洲(たくしゅう;道号・故僊、臨濟僧) O 2 6 0 2
- 鼓泉(鼓川こせん・白尾)→ 国柱(くにしら・白尾しらお、藩士/国学) D 1 7 0 9
- Q1971 固禪(こぜん;法諱) ? - ?明和1764-72頃没 武蔵の僧、国学者
- D1918 固禪(こぜん・裏松うらまつ、名;光世みつよ、烏丸[日野]光荣男/本姓;藤原)1736-1804⁶⁹ 廷臣、有職故実家、裏松益光の養嗣子、1758蔵人/左小弁、竹内式部の講筵に連座;塾居/60出家、1778勅免、平安内裏の研究;1788内裏造営に採用、1762「草庵集啓蒙」97「大内裏図考証」、「皇居年表」「清涼殿図考証」「新嘗会部類」著、「本朝年表」「立后雑事鈔」「公卿勅使類聚」外著多数、 [固禪(;出家号)の法号] 浄厳院、息子;恭光/養嗣子;謙光
- 枯禪(こぜん;初道号) → 師静(しじょう;法諱・南堂;道号、曹洞僧) T 2 1 8 0
- D1916 五仙(ごせん・都賀、退市軒)?- ? 撰津都賀の俳人/雑俳点者・灘連所属、1747雑俳撰集「兎の目」(一葉編)の須磨寺外10寺社奉納の願主灘連中の1(:林水・竹比と)、「笠袋」、「冠五千句集」評
- F1972 呉川(ごせん) ? - ? 江中期俳人;

1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因[貞柳貞峨の父]25回忌・貞峨13回忌追善集)入、
[四子の日散るを数へん木の葉哉](しぐれの碑;墓参捻香)

B1957 後川(ごせん/こうせん・小寺こでら/大越/和田、希因男)?-1800 加賀金沢の酒造業/俳人:父希因門、
1768「明和五年歳旦帳」71「梅の草紙」編、-82「こと葉の露」著、父追善集「暮柳発句集」編、
後川の追善集;3回忌「としのうち」17回忌「道のともし」、希也・北巫ほけいの父、
[後川(;号)の通称/別号]通称;綿屋市郎右衛門、別号;百鶴園2世/暮柳舎2世

D1917 吾扇(ごせん・中野なかの、名;良直)1725-1800 76 俳人:「吟社懐旧録」著(1801刊)
[吾扇(;号)の通称/別号]通称;半右衛門、別号;仁風舎/観阿

P1956 五扇(ごせん) ? - ? 川柳作者;牛込築土連、1780「川傍柳」に初出、
1785「玉柳」編/序、[白壁を両の手でぬる花の朝](玉柳;1)

吾川(ごせん・山崎) → 石燕(せきえん・山崎やまざき、儒者/絵師) J 2 4 9 4

御膳(ごぜん、狂歌) → 引割御膳(ひきわりごぜん) H 3 7 9 5

御膳(ごぜん、狂歌) → 赤之御膳(あかのごぜん) D 1 0 2 8

狐阡翁(こせんおう) → 貞雄(さだお・瀬名せな、幕臣/故実家) B 2 0 7 2

後禅河院御室(ごぜんかいはののおむろ) → 覚道親王(かくどうしんのう、真言僧) K 1 5 2 7

後穿窟主人(ごせんくつしゅじん・こう-) → 魚丸(うおまる・佐藤、狂歌/浄瑠璃作者) 1 2 0 1

古仙慶友(こせんけいゆう) → 慶友(けいゆう・古仙/半井・和気、医/俳) G 1 8 7 2

狐阡軒(こせんけん) → 貞雄(さだお・瀬名せな、幕臣/故実家) B 2 0 7 2

小千次(こせんじ・石井) → 定勝(さだかつ・石井いし、幕臣/歌甚) I 2 0 0 5

顧泉舎(ごせんしゃ) → 松江(しょうこう・山本やまと、俳人) S 2 2 1 2

五千仞居士(ごせんじんこじ) → 太華(たいか・福田、藩士/武術/絵師) B 2 6 0 9

古川叟(ごせんそう) → 常信(つねのぶ・狩野かのう、絵師/鑑定/歌) D 2 9 0 2

五千叟(ごせんそう) → 沾洲(せんしゅう・貴志、俳人) F 2 4 8 8

五仙窓(ごせんそう) → 士川(しせん・松岡、酒造業/俳人) E 2 1 3 7

壺仙堂(こせんどう) → 調柯(ちようか、俳人) H 2 8 5 4

五千堂(ごせんどう) → 蒼狐(そうこ・小菅こすげ、俳人) B 2 5 3 1

五千堂(2世ごせんどう) → 宝馬(ほうば・吉成/小菅、蒼狐門俳人) C 3 9 4 7

互扇楼(ごせんろう) → 畔李(はんり・南部、藩主/俳人) I 3 6 6 0

D1919 吾鼠(五鼠ごそ・伊藤) ? - 1752 豊後日田の商家/俳人:野坡門、
1735(享保20)撰集「筑紫野」編

[吾鼠の通称/別号]通称;肥前屋孫兵衛、別号;茅呂人

後素(ごそ・小川) → 忠篤(ただあつ・小川おがわ、医者/儒/勤王) P 2 6 1 8

後素亭(ごそてい・歌川) → 豊国(2世とよくに・歌川うたがわ、絵師) R 3 1 1 4

E1992 狐草(こそう) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入、
[自われ他ひとの嵯峨は心の馬捨場うますてば](二葉之松;409)、
(結庵多い嵯峨は心の馬[欲望]の捨て所)

D1920 胡叟(こそう・松浦まつら、名;元貞)?-? 江戸中後期元禄正徳1688-1716頃三河岡崎の俳人、
路通と親交、上洛紀行「かぶと集」編、1714「俳諧大福帳」著

虎叟(こそう・竹中) → 信恕(のぶひろ・竹中たけなか、家臣/歌人) J 3 5 0 2

小僧(こそう) → 松洗(松泉しょうせん・児玉、松春門俳人) T 2 2 8 9

M1999 伍草(ごそう・鈴木すずき、名;重真/字;子実、重章男)1735-86 52 尾張藩士/犬山城主成瀬家同心組頭、
儒;須賀精斎・亮斎門、1763大阪阿波讃岐を遍歴/64致仕、1772世子伴読/奥側寄合・小納戸、
江戸から帰郷途中長野で客死、「大学講義」著、
[伍草(;号)の通称/別号]通称;治部左衛門、別号;雲荘/習斎/愛蘭堂、法号;広諦院

N1900 梧窓(ごそう・沼ぬま、名;義信/通称;勇造)?-? 江後期越中の医者、
1840「簡易養生記」41「救民必要方」著

N1901 吾雙(ごそう・有田ありた)1789 - 1865 77 俳人:梅室門、1855「仮名朗詠集」編

吾曹(ごそう・福地) → 源一郎(げんいちろう・福地/名村、蘭学/幕臣) H 1 8 6 6

梧窓(ごそう・本木) → 昌造(しょうぞう・本木もとき、通事/近代印刷) K 2 2 6 2

梧窓(ごそう・田所) → 顕秀(あきひで・田所たどころ、神職/国学) H 1 0 8 1

- 梧窓(ごそう・新田) → 景宜(かげよし・新田) 藩士/国学 V 1 5 3 4
 午蔵(ごそう/うまさぞう・長谷川) → 宣昭(のりあき・長谷川、幕臣/国学) E 3 5 2 2
 五蔵(ごそう・井上) → 夏鼎(ひろさだ・井上) いのうえ、商家/歌人 L 3 7 0 8
 虎鼠庵(ごそうあん) → 長翠(ちようすい・常世田) とこよだ、俳人 J 2 8 0 9
 古巢園(ごそうえん) → 去何(きよか・渡辺) わたなべ、国学者/俳人 H 1 6 1 0
 梧窓居士(ごそうこじ) → 嬖堂(かくどう・山田、儒者/詩) H 1 5 3 5
 N1902 吳増左(ごそうさ) ? - ? 黄表紙、1778「夢中御利益」79「金平異国邊」著、
 鳥居清経(浮世絵師)か? → 清経(きよつね・鳥居、絵師) D 1 6 3 7
 五草穂(ごそうすい) → 鯨夫(いさお・木村) きむら、商家/歌/神職 K 1 1 1 6
 五双亭(ごそうてい) → 貞信(初世) さだのぶ・長谷川はせがわ、絵師 F 2 0 4 3
 古創堂(ごそうどう) → 春帆(しゅんぱん・高階) たかしな、漢学/詩人 K 2 1 4 1
 五窓楼(ごそうろう) → 如毛(じよもう・岡崎) おかざき、酒造業/俳人 M 2 2 8 5
 五窓楼(2世) (ごそうろう) → 千兮(せんけい・岡崎/竹内、如毛門) 俳人 M 2 4 1 4
 後素園(ごそえん) → 国直(初世) くになお・歌川) うたがわ、絵師 1 7 7 9
 鼯鼠翁(ごそおう) → 京伝(きょうでん・山東、戯作者) 1 6 3 7
 虎足庵(ごそくあん) → 岳輅(がくろ;号、真宗僧/俳人) B 1 5 8 0
 虎足庵(ごそくあん) → 羅城(らじょう;号、恵階;法諱、真宗僧/俳人) B 4 8 3 9
 五足斎(ごそくさい・宇津木) → 昆台(こんだい・宇津木) [-城]/于、医者 G 1 9 5 9
 五束斎(ごそくさい・古市) → 木朶(もくだ・古市、旅宿業/俳人) 4 4 9 8
 五束斎(ごそくさい・古市) → 木芽(もくが・古市、木朶の孫/俳人) 4 4 7 3
 吾足斎(ごそくさい・館) → 通因(みちよし・館) たち、藩士/国学/詩歌 J 4 1 7 0
 娛息斎延命(五息斎延命/五息斎園莧) (ごそくさいえんめい) → 君山(くんざん・唐橋、儒医/狂詩) B 1 7 2 2
 F1974 五足斎灌園(ごそくさいかんえん) ?- ? 狂歌:1785後万載集4首入、
 [さすが又遠州路とてはたごやに炉をきり釜をかけ川のやど](後万載;羈旅405/旅宿炉、
 小堀遠州の連想で茶の縁語構成/東海道掛川宿)
 虎鼠窟(ごそくつ) → 山海(さんかい・稲村) いなむら、俳人 L 2 0 9 0
 後素軒(ごそけん) → 守国(もりくに・橋) たちばな/檜村、絵師 F 4 4 3 7
 後素軒(ごそけん) → 保国(やすくに・橋) たちばな、男/絵師 B 4 5 3 3
 娛速斎夕朝(ごせくさいせきちやう) → 英琳(えいりん・嶋) しま、絵師 C 1 3 0 8
 F1975 許率母(ごそつも) ? - ? 大和期百濟渡来人、漢学者、大友皇子の師
 古曾部入道(ごそべにゅうどう) → 能因(のういん、歌僧) 3 5 0 2
 F1976 拳(こぞる・源、至いたる男) ? - ? 平安期廷臣;左馬助、源順したごう・頼たのむの父
 N1903 孤村(孤邨) (ごそん・池田) いけだ、名;三信) みつねのぶ/三辰) 1801-66or6866/68 越後北蒲原郡の絵師;
 酒井抱一門、「池田孤村画帖」「孤村絵手本」画、「抱一百画」「光琳新撰百画」編、
 1865「抱一上人真蹟鏡」編、歌;1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
 [ももの音ねの響きに玉と散りにけり雲居の夜の萩の上つゆ](現存百人一首;15)、
 [孤村の別号] 旧松軒/煉心窟/画戦軒、法号;蓮庵孤村居士
 固蒂(こたい・村井) → 知衡(ともひら・村井、藩士/兵法) Q 3 1 3 8
 虎岱(こたい・岸) → 岱(たい・岸) きし、岸岱、絵師 2 6 0 0
 古代(こだい・栗山) → 古代(こよ・栗山) くりやま、国学者/神職の妻) Q 1 9 6 8
 N1904 五大(こだい・菊池) きくち、名;秀前) ?-? 江後期陸中南部閉伊郡山田の俳人:梅外[大梅]門、
 禪;仙台の南山和尚門、諸国行脚;1860頃帰郷、
 1836(天保7)「花車集」、63(文久3)「梅荘見聞録」著、
 [五大の通称/別号]通称;三左衛門、別号;梅荘/天府/五大庵/五大坊/東梅舎
 五台(ごだい) → 周信(しゅうしん;法諱・義堂、臨濟僧/五山文学) 2 1 4 4
 五大庵(ごだいいん) → 五大(こだい・菊池、俳人) N 1 9 0 4
 五大庵一米(ごだいいんいちべい) → 一米(いちべい・五大庵、佐藤) 常範/神職/俳) J 1 1 1 8
 五大院阿闍梨(ごだいいんのあじかり) → 安然(あんなん;法諱、天台僧/悉曇学) C 1 0 4 1
 後大喜院(ごだいきいん) → 経尋(きょうじん、九条、法相僧) C 1 6 7 1
 後醍醐院権大納言典侍(ごだいていごのこんだいなごんのすけ) → 権大納言典侍(ごんだいなごんのすけ) E 1 9 7 5

後醍醐院少将内侍(こだいごいんのしょうしょうのないし)→少将内侍(しょうしょうのないし・後醍醐院) T 2 2 4 8

後醍醐院女蔵人万代(こだいごいんのにょくらうどばんだい)→万代(ばんだい/よろよ、歌人) I 3 6 3 7

- D1921 **後醍醐天皇**(こだいごてんのう、名; 尊治たかはる、後宇多天皇皇子) 1288-1339 52 在位1318-39(21年)、母; 談天門忠子(藤原忠継女)、討幕活動; 隠岐配流/1333建武中興; 北条氏を打倒、足利尊氏と対立; 尊氏が持明院統を擁立、吉野に潜幸; 南朝の創始、妃; 為世女為子、歌人、1323二条為藤に勅撰集下令; 25二条為定「続後拾遺集」奏覧、「建武年中行事」/1320「十種疑滞問」22「十種勅問」/32「後醍醐天皇宸記」著、勅撰84首; 新後撰(193/265/1115)続千載(20首)続後拾(17首10/53以下)風雅(3首)以下、新葉集46首、菊葉集8首入、連歌; 菟玖波9句入、[時鳥過ぎつる里の言問はん同じ寝覚めの人もありやと](新後撰; 193/尊治親王名)[ながむるを同じ空ぞと知らせばや古郷人も月を見るらん](新葉; 羈旅552)
- D1922 **小大進**(こだいじん/こだいしん・花園左大臣家はなぞのさだいじんけの・内大臣家、菅原在良女) ?-? 平後期女房歌人、母; 輔仁親王家の三宮大進、花園内大臣(のち左大臣)源有仁家女房、1116雲居寺結縁経後宴歌合/46頭輔家歌合参加、1150崇徳院久安百首参加、勅撰14首; 金葉(Ⅱ 373/513/572)千載(386/394)新勅(1361)玉(837)続千(712)以下、今鏡/袋草紙/十訓抄などに逸話入、寂超「後葉集」・続詞花集4首・雲葉集入、石清水別当紀光清こうしょうの妻、法印成清じょうしょう・大宮小侍従の母、[ふみそめて思ひ帰りし紅くれぬの筆のすさみをいかで見せけん](金葉; 恋373、文のみで言い絶えた人の許に贈る/文初めと踏み染めを掛る)、[きてかへるものともしらで夏ごろもひとへごころはすかさねにけり]、(続詞花; 戯咲974/新院[崇徳院]百首歌に: 恋1367)
- 夫; 光清 → 光清(こうしょう、俗姓; 紀、僧; 石清水25世別当) J 1 9 7 2
息子 → 成清(静清じょうしょう、石清水30世別当/歌人) T 2 2 3 5
息女 → 小侍従(こじじゅう・大宮、待宵の小侍従、歌人) C 1 9 7 7
- 後大染金剛院(ごだいせんこんごういん)→ 尹房(ただふさ・二条、関白/日記) F 2 6 7 5
五台禅師(ごだいぜんし) → 万亀(ばんき; 法諱、号; 文川、僧/詩人) H 3 6 3 5
後大通院(ごだいつういん/のちの-)→ 貞常親王(さだつねしんのう、伏見宮4世、歌) F 2 0 3 5
小鯛王(こだいのおおきみ) → 小鯛王(おだいのおおきみ、万葉歌人) 1 4 3 6
小大君(こだいのきみ) → 小大君(こおおきみ、歌人) 1 9 2 4
五大坊(ごだいぼう) → 卜友(ぼくゆう・五大坊、華道家) E 3 9 0 4
五大坊(ごだいぼう) → 五大(ごだい・菊池、俳人) N 1 9 0 4
小鷹翁(こたかおう) → 筆太夫(3世ふでだゆう・竹本、浄瑠璃太夫) D 3 8 4 5
五卓(ごたく; 俳号) → 五郎兵衛(ごろべえ・林はやし、医者/和算) P 1 9 1 3
小龍(こたつ) → 小龍(おたつ、万葉防人歌人) 1 4 8 4
小楯(こたて・武市) → 瑞山(ずいざん・武市たけち、剣術/勤王派) E 2 3 5 9
児玉屋英山(こたまやえいざん)→ 英山(えいざん・菊川きくかわ、絵師) 1 3 2 7
- F1977 **小太夫**(こたゆう・日暮ひぐらし) ?- ? 江前期; 歌念仏/説教浄瑠璃; 日暮八太夫門、鉦鼓しょうごを用いた説経節の門付、1662「ゆり若大臣」刊
- 五太夫(ごたゆう・原) → 花祭(かさい・原、儒者/教育) H 1 5 4 3
五太夫(ごたゆう・関) → 輝萼(きかく・関せき、和算家) J 1 6 8 5
五太夫(ごたゆう・須藤) → 睦済(ぼくさい・須藤すどう、藩士/剣術家) D 3 9 1 2
五太夫(ごたゆう・勝野) → 勝延(かつのぶ・勝野かつの、藩士/国学・歌) U 1 5 2 8
五太夫(ごたゆう・松平) → 正喬(まさたか・松平/伊藤、庄屋/記録) D 4 0 2 1
五太夫(ごたゆう・大島) → 為員(ためさだ・大島おおしま/平、藩士/歌) W 2 6 1 3
五大夫(ごたゆう・長尾) → 正孝(まさたか・長尾ながお、藩士/詩・書) D 4 0 2 6
- N1905 **小太郎**(こたろう・奥平おくだいら、名; 穆、枕山男) 1834-60 早世 27歳 丹波丹波亀山藩士/儒; 梁川星巖門、1858江戸; 昌平黌に修学、水戸藩邸に出入; 尊王思想に共鳴; 会沢正志斎らと親交、1859(安政6)伊勢の斎藤拙堂門; 一時帰郷; 幕府の嫌疑を受け藩獄で終身禁固となる、「南冠集」著、[小太郎(; 通称)の字/通称/号]字; 士雍、号; 古海/蔵六山人/遜齋

- R1945 **小太郎**(こたろう・矢幡やた、) 1854-1923 70 豊前上毛郡黒土村石清水八幡社神職の家の生、
太刀彦(1846-81)の弟、1868(15歳)蔵春園に修学/医者戸早春村門、
1889(明治22)黒土村村長;郷土の先人高橋庄蔵の農民救済策を継嗣;甲池完成に尽力、
全村民を会員とする産業組合設立/社会教育基金創設など自治運営を推進
- 小太郎(こたろう・畠山) → 高国(たかくに・畠山はたけやま、武将/歌人) C 2 6 7 1
 小太郎(こたろう・佐竹) → 義篤(よしあつ・佐竹/源、武将/連歌) C 4 7 0 7
 小太郎(こたろう・滝村) → 鶴雄(つるお・滝村、幕臣/歌人) E 2 9 5 8
 小太郎(こたろう・佐竹) → 義篤(よしあつ・佐竹/源、武将/連歌) C 4 7 0 7
 小太郎(こたろう・榊原) → 霞洲(かきゅう・榊原さかきばら、藩士/儒者) L 1 5 8 0
 小太郎(こたろう・梅津) → 其雫(きてき・梅津、家老/俳人) B 1 6 5 5
 小太郎(こたろう・森脇/玉乃) → 九華(きゅうか・玉乃たまの/森脇、藩士/儒者) I 1 6 7 0
 小太郎(こたろう・馬場) → 錦江(きんこう・馬場、幕臣/俳諧/和算) D 1 6 9 7
 小太郎(こたろう・瀬谷) → 桐斎(とうさい・瀬谷せや、藩士/儒者) E 3 1 2 3
 小太郎(こたろう・豊田) → 香窓(こうそう・豊田とよだ、藩士/儒者) G 1 9 3 8
 小太郎(こたろう・長野) → 従業(よりなり・長野ながの、藩士/歌人) O 4 7 2 6
 小太郎(こたろう・滝村) → 鶴雄(つるお・滝村たきむら、幕臣/史家) E 2 9 5 8
 小太郎(こたろう・有沢) → 貞幹(さだもと・有沢ありさわ、藩士/軍学者) J 2 0 9 1
 小太郎(こたろう・荻野/斎藤) → 彦磨(ひこまろ・斎藤/藤原、藩士/国学) 3 7 0 3
 小太郎(こたろう・中田) → 平山(へいざん・中田、藩士/儒者/詩) 2 7 4 3
 小太郎(こたろう・加納) → 諸平(もろひら・加納/夏目、国学/歌人) 4 4 3 5
 小太郎(こたろう・和田) → 正主(まさぬし・和田わだ/橘、商家/国学) L 4 0 8 7
 小太郎(こたろう・伊地知/堀) → 貞馨(貞香さだか・伊地知いちち、藩士/国事) H 2 0 8 7
 小太郎(こたろう・大石) → 良英(りょうえい・大石/本木、藩蘭医) G 4 9 4 9
 小太郎(こたろう・太田) → 誠意(せい・太田おた、歌人) J 2 4 7 9
 小太郎(こたろう・山県) → 通政(みちまさ・山県/河野、藩士/勤王) C 4 1 5 6
 小太郎(こたろう・朝枝) → 一貫(かずつら・朝枝あさえだ、藩士/歌人) T 1 5 3 9
 小太郎(こたろう・葦名) → 盛信(もりのぶ・葦名あしな、邑主/歌人) G 4 4 1 8
 小太郎(こたろう・葦名) → 盛倫(もりとも・葦名あしな、邑主/国学) J 4 4 0 8
 小太郎(こたろう・高田) → 茂敏(しげとし・高田たかた、商家/歌人) Z 2 1 2 8
 小太郎(こたろう・河島;変名) → 杉蔵(すぎぞう・入江いりえ、藩士/尊攘派) F 2 3 9 1
 小太郎(こたろう・木下) → 梅里(ばいり・木下きのした、藩士/儒者) C 3 6 1 7
 小太郎(こたろう・緒方) → 弘国(ひろくに・緒方おがた、神職/国学) I 3 7 7 7
 小太郎(こたろう・河合) → 良翰(さとたか/よしさと・河合かわい/松下、藩老/勤王) O 2 0 3 5
 小太郎(こたろう・松井) → 乗運(じょううん・松井/牧野、仏師/歌) V 2 2 2 3
 胡湛(こたん・田子) → 玄同(げんどう・田子たご、医者) L 1 8 9 1
- 1935 **小团次**(こだんじ・市川、高島屋、米升) 1812-1866 55 江戸歌舞伎役者;市川海老蔵門、
黙阿弥と提携、早替りに長ず
- 五痴(ごち・菅谷) → 帰雲(きうん・菅谷すがや、藩士/儒者/詩) E 1 6 9 8
 東風庵(こちあん) → 虚雄(きょゆう・小林、俳人) Q 1 6 3 8
- D1925 **虎竹**(こちく) ? - ? 江前期刈谷住の俳人、
1677風虎催「六百番発句合」入
- P1976 **古竹**(こちく・三好みよし) ? - ? 江前期上方の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第七礎きぬた千句発句等入、1678西鶴「物種集」入、
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
[月をのせて夜の車やあかり窓](難波色紙;77/明り窓;車仕掛で開閉するの天窗、
謡曲「松風」引用;月は一つ影は二つ満つ潮の夜の車に月を載せて憂しとも思はぬ)
- D1923 **古竹**(こちく) ? - ? 俳人/雑俳・江戸判者、
1702(元禄15)松淵・喜至編「冠独歩行かんわりひとりあるき」(冠付集)入
- D1924 **湖竹**(こちく・斎藤さいとう、別号;蘆月堂/千山舎) ?-? 江中期羽前米沢宮邑の俳人、
1730京へ行脚:棹歌斎信安と交遊、1730「俳諧ほたる行脚」、47「鳥の都」画

F1958	古竹 (こちく・聴松庵2世、致一)?-?	長門の俳人、菟留とりゅう(聴松庵3世)の師
	虎竹(こちく・大矢)	→ 白鷺(はっこう・大矢おおや、京俳人) F 3 6 2 0
	孤竹(こちく;号)	→ 義天(ぎてん;法諱、真宗僧) F 1 6 6 4
	孤竹(こちく・小寺)	→ 翠雨(すいう・小寺こでら、藩士/蘭/兵学) E 2 3 0 6
	五竹(ごちく・足立)	→ 案山子(かがし・達摩堂、俳人) B 1 5 2 0
	呉竹(ごちく・毛利)	→ 斉広(なりとお・毛利、藩主/文筆) H 3 2 7 1
	呉竹(ごちく・毘尼薩)	→ 泰巖(たいごん・毘尼薩ひにさつ、日蓮僧/詩歌) Z 2 6 2 0
	吾竹(ごちく)	→ 笑竹亭(しょうちくてい、嘶家) U 2 2 1 8
	梧竹(ごちく・深川)	→ 水貫(みつら・深川ふかがわ、国学/詩歌) K 4 1 3 0
	小築庵(こちくあん)	→ 春湖(しゅんこ・橋田きつた、俳人) J 2 1 5 9
	五竹庵(ごちくあん)	→ 五竹坊(ごちくぼう・田中、獅子門4世/俳人) 1699-1779 D 1 9 2 6
	五竹庵(ごちくあん)	→ 蝶酔(ちようすい・平山、俳人) 1736-1811 J 2 8 0 8
	五竹庵(ごちくあん・木仙)	→ 駝岳(だがく・竹下/絹原、俳人) 1742-1815 C 2 6 7 0
	五竹庵(ごちくあん)	→ 屋烏(おくう・石井/渡辺、俳人) 1755-1830 B 1 4 4 6
	五竹庵(ごちくあん)	→ 宝井(ほうせい、五竹庵、俳人) B 3 9 9 8
	呉竹庵(ごちくあん)	→ 雨洗(うせん・呉竹庵、俳人) E 1 2 2 1
	呉竹庵(ごちくあん)	→ 眞幸(まさき・樋口ひぐち、藩士/漢学者) S 4 0 0 7
	呉竹庵主(ごちくあんしゅ)	→ 呉竹庵主(くれたけのいおぬし、狂歌) D 1 7 7 0
	古竹園(ごちくえん)	→ 眠牛(3世?めんぎゅう・増田、俳人) 4 3 5 3
	古竹園(ごちくえん)	→ 五岳(ごがく・平野ひらの、真宗僧/儒/詩) C 1 9 2 5
	呉竹園(ごちくえん)	→ 三友(さんゆう・益亭、戯作者/雑俳) E 2 0 7 6
	呉竹翁(ごちくおう、龍草廬たつのそうろ、詩歌人)	→ 公美(きんえ・きみえ・龍) E 1 6 8 7
	壺竹軒(こちくけん)	→ 風和(ふうわ・江原えばら、神職/俳人) B 3 8 1 4
	呉竹軒(ごちくけん)	→ 桃隣(初世とうりん・天野あまの、俳人) 3 1 2 9
	呉竹軒(ごちくけん)	→ 桃隣(2世とうりん・切部、俳人) I 3 1 3 5
	呉竹枯魚翁(ごちくこぎょおう)	→ 梅俣(ばいか・喜多川、俳人) 3 6 7 9
	孤竹斎(ごちくさい)	→ 宗牧(そうぼく・谷、連歌師) 2 5 1 8
	五竹茶寮(ごちくさりょう)	→ 元瑞(げんずい・小石こいし、医者/詩文) E 1 8 2 2
	呉竹舎(ごちくしゃ)	→ 荊山(けいざん・日尾ひお、儒者/詩人) 1 8 0 5
	呉竹世艶(ごちくせいえん)	→ 呉竹世艶(くれたけのよつや、狂歌) B 1 7 8 2
	呉竹亭(初世ごちくてい)	→ 叙来(じょらい、俳人) D 2 2 0 3
	呉竹亭(2世ごちくてい)	→ 府尺(ふしゃく・露木、俳人) C 3 8 6 7
	呉竹亭(ごちくてい)	→ 頼因(よりくに・井上、国学者/歌人) I 4 7 6 0
	古竹堂(ごちくどう)	→ 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2

D1926 **五竹坊**(五筑坊/吾竹坊ごちくぼう・田中たなか) 1699-1779/8081/82 美濃北方の医者、俳人;獅子門道統4世、廬元坊門/1747師追悼「梅雨しめり」編、晩年門人と確執;以哉坊が以哉派(雪炊派)を興す、五竹坊後嗣は再和坊が再和派を称す;美濃派は分裂、「十二夜話」「五竹坊俳話」、「有松」編、1750「墨なをし」52「梅之後」編/53「七めぐり」「月のかゝみ」編/78「塚の葉」79「道理の梅」編、自賛の2句;[雨に香のよわらで哀れ花茨いばり]「袖につく比丘尼の歌や花茨」(十二夜話)、[五竹坊の通称/別号]通称;幸次郎/市郎八、別号;琴左/東伯/帰童仙/五竹庵/獅子門4世後知足院関白太政大臣(ごちそくいん-) → 房嗣(ふさつぐ・近衛、歌人) C 3 8 1 5

五智房(ごちぼう;号) → 融源(ゆうげん;法諱・五智房、真言僧) B 4 6 4 6

五智房(ごちぼう;号) → 禪覚(ぜんかく;法諱・五智房、天台僧) L 2 4 9 7

P1957 **胡仲**(こちゅう) ?-? 江前期越中井波の俳人;浪化集団に属す、「浪化日記」1699一門百韻入

D1928 **壺中**(こちゅう、別号;踏景廬)?-1725? 江前中記京の俳人:芭蕉[1644-94]門(最晩年の門人)、1693「俳風弓ゆみ」(奇なる哉是俳魂)編/93「霜月歌仙」「霜川歌仙」、95「木がらし」芦角と共編、1691林鴻「京羽二重」1704「二葉集」入、[昼顔は日影になりて苦しいか](京羽二重)

- N1906 **壺中** (こちゅう・坂部さかべ) 1708- 1769 62 江中期羽前林崎の僧;尾花沢の隣海谷村地藏院住職、
俳人:壺中斎一中門/柳下斎風草門、1751句碑「蟬塚」建立;「せみ塚」吟里と共編
- D1930 **湖中** (初世こちゅう・太田おた、寿二坊)?-? 水戸藩士;家老/俳人;湖十門、師の「湖」字継承、
師より其角の点印・雪月花・芭蕉葉・半面美人を受く
- D1931 **湖中** (2世こちゅう・近藤こんどう)?- ? 水戸藩士/俳人:初世湖中門
- D1932 **湖中** (3世こちゅう、岡野おかの、名;重成、重寿男) 1776-1831 56 水戸藩士;小十人目附組頭、
俳人:1799湖中を継承、芭蕉研究:1810水戸荒神町に四壁堂建設;仏兮と芭蕉作品を集成、
途中仏兮没し由誓が協力/乙二と親交、1827芭蕉作品集「俳諧一葉集」仏兮と共編、
1826「鶯羽集」編/45「芭蕉翁略伝」「芭蕉句集」編/「四壁堂発句集」「きさらき」著、
[湖中3世の通称/別号]通称;平五郎/庄八、別号;野雀(;初号)/幻窓/四壁堂、
居中(こちゅう・江田) → 居中(やすなか・江田えだ、藩士/歌人) F 4 5 4 6
固仲(こちゅう・矢野) → 容斎(ようさい・矢野やの、儒者/測量術) 4 7 9 0
- D1929 **吾仲** (吾中こちゅう・渡辺わたなべ) 1673-1733 61 京六条の仏画師/俳人;史邦門/1694芭蕉門、
李由・支考門、去来追善「誰身の秋」編、1702「柿表紙」04「麻生」08「吾仲剃髮賀集」著、
1715戸田大川追善「梅のわかれ」、27一字「芋がしら」跋、
支考追善「その魂(梅花仏大祥忌)」編(1734刊)、追善集「秋の名残」、
[吾仲の別号] 柳後園/馬才人/予章台/百阿/百阿仏/百阿弥/百一守/百一字/道秋
居中(こちゅう:法諱) → 嵩山(すうざん:道号・居中こちゅう、臨濟僧) F 2 3 2 6
護中(こちゅう・堀部) → 護中(もりなか・堀部ほりべ、医者/国学) L 4 4 2 4
壺中庵(こちゅうあん) → 梅干丸(うめぼしまる、狂歌/狂詩) D 1 2 4 2
壺中庵(こちゅうあん) → 碩庵(せきあん・鎌田かまた、医者/歌人) J 2 4 9 1
壺中庵(こちゅうあん) → 老仙(ろうせん・姓:生食、俳人) C 5 2 6 0
壺中庵(こちゅうあん) → 養斎(ようさい・奈良なら/青山、藩士/儒者) 4 7 9 7
五仲庵(こちゅうあん) → 有節(ゆうせつ・滝沢たきざわ/沢、俳人) D 4 6 1 3
後中院相国(こちゅういん → のちのなかのいんしょうこく) → 長通(ながみち・久我こが) F 3 2 8 8
壺中隠者(こちゅういんじや) → 桃三(とうぞう・千葉ちば、医者/和算家) G 3 1 3 0
湖中園(こちゅうえん) → 玉蘭(ぎよくらん・谷口、俳人) D 1 6 1 0
壺中軒(こちゅうけん) → 調唯(ちようい・鈴木、旅宿業/俳人) H 2 8 2 2
壺中軒(こちゅうけん) → 良致(よしむね・関せき、医者/神職/教育) N 4 7 5 6
小忠太(こちゅうた・高杉) → 春樹(はるき・高杉たかすぎ、藩士/歌人) K 3 6 3 7
小仲太(こちゅうた・葉山) → 春養(はるみの・葉山はやま、故実家/藩士) K 3 6 5 9
娛中坊(こちゅうぼう) → 乙二(おつに・宍戸ししど、藩士/俳人) D 1 4 7 3
- N1907 **小蝶** (こちよう) ? - ? 美濃大垣俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
- D1934 **己蝶** (こちよう) ? - ? 江中期俳人、1757論書「俳諧古雅談」著
湖長(こちよう・北村) → 湖春(こしゅん・北村きたむら、歌人/俳人) 1 9 3 2
古調(こちよう・酒井) → 仲(ちゅう・酒井さかい、和漢学/狂歌) F 2 8 6 8
故長(こちよう・河辺) → 故長(ひさなが・河辺かわべ/大中臣、神職) B 3 7 6 3
小蝶(こちよう・東) → 佩芳(はいほう・東ひがし/小林、詩人) C 3 6 0 6
蝴蝶(こちよう・園) → 園蝴蝶(そのこちよう、狂歌) E 2 5 1 6
- P1940 **五調** (ごちよう) ? - ? 九州の俳人;野坡門流/1772「暁ののち」編(風律序)
- F1994 **五鳥** (ごちよう) ? - ? 江中期川柳作者、1766?「誹風柳多留二篇」入、
[女房はなんぞの時を待って居る](柳多留;二)
五兆(ごちよう・片岡) → 正占(まさうら・片岡かたおか/平田、国学/神道) O 4 0 8 5
後凋(ごちよう・前田) → 斉泰(なりやす・前田、藩主/謡曲) E 4 0 3 8
午潮(午兆ごちよう) → 可昇(かしょう・木原、俳人) S 1 5 2 3
胡蝶庵(こちようあん) → 聖応(せいおう・しょうおう、真言僧/社僧) 2 4 7 5
胡蝶庵(こちようあん) → 国盛(2世くにもり・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 6 7
後凋子(ごちようし) → 舟泉(しゅうせん・永田ながた、俳人) H 2 1 9 1
- F1978 **胡蝶庵主人** (こちようあんしゅじん)?- ? 洒落本;1832「老楼志おゆるし」著:鐘成画
胡蝶園(こちようえん) → 国盛(2世くにもり・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 6 7

- 古調園(こちょうえん) → 世平(つぐひら・武居たけい、歌人/狂歌) 2982
 狐塚古観(こちょうこかん) → 帯梅(たいばい・村瀬、商家/暮雨巷3世/俳人) C2606
 五朝国師(ごちょうこくし) → 恵鎮(えちん、天台歌僧/太平記原型) 1376
 N1908 呉鳥齋(ごちょうさい) ? - ? 江後期文政天保1818-44頃人情本の挿絵師、
 1829司馬人(曲山人)「恋の萍うきくさ」画、30-3紀山人(2世一九)「仇競今様櫛あだくらべいまようぐし」画
 五蝶齋(ごちょうさい) → 貞升(初世さだます・歌川うたがわ、絵師) F2053
 壺長人(ごちょうじん) → 其雨(きう、俳人) E1696
 小釣雪(ごちょうせつ) → 五山(ござん・菊池/修姓;池、儒/詩人) 1927
 小蝶亭(ごちょうてい) → 正茂(まさもち・蒲がま、商家/国学者) O4097
 小蝶亭(ごちょうてい) → 清民(きよたみ・蒲がま、八十村男/商家/国学) T1694
 胡蝶亭(ごちょうてい) → 八十村(やそむら・蒲がま、正茂男/商/国学/歌) F4577
 五丁亭(ごちょうてい) → 貞幸(さだゆき・歌川うたがわ、絵師) K2015
 五蝶亭(ごちょうてい) → 貞広(初世さだひろ・歌川うたがわ、絵師) F2050
 五蝶亭(ごちょうてい) → 貞升(初世さだます・歌川うたがわ、絵師) F2053
 五蝶亭(ごちょうてい) → 国輝(初世くにてる・歌川うたがわ、絵師) B1798
 小蝶亭春夢(ごちょうていしゅんむ) → 正茂(まさもち・蒲がま、商家/国学者) O4097
 小蝶亭長夢(ごちょうていちようむ) → 清民(きよたみ・蒲がま、正茂孫/商家/国学) T1694
 胡蝶洞(ごちょうどう) → 羅山(らざん・林はやし、幕府儒官祖;幕政) 4802
 後凋堂(ごちようどう) → 松軒(しょうけん・木村きむら、医者/儒者) I2244
 娛渚堂(ごちようどう) → 白応(はくおう・郁々堂、俳人) C3673
 壺枕齋(ごちんさい) → 和英(わえい・岸本きしもと、俳人) 5307
 壺枕楼(ごちんろう、戯作者) → 手枕歌種(たまくらのうたたね・永日庵、狂歌) S2624
 兀庵(ごつあん・嬾徴) → 兀庵(ごつあん;道号・嬾徴らんちよう;法諱、臨濟僧/盤珪研究) N1909
 兀庵(ごつあん;号) → 童童(どうりゅう;法諱・臥雲;道号、曹洞僧) I3126
 乞隠(ごついん、真宗僧) → 文暁(ぶんぎょう・藁井、俳人) F3804
 兀雨(ごつう・熊沢) → 鳥酔(2世ちようすい・熊沢、医者/俳人) L2821
 兀翁(ごつおう) → 宗旦(そうたん・池田/松井、俳人) 2515
 岬翁(ごつおう・渡辺) → 頑石(がんせき・渡辺わたなべ、詩文) R1519
 G1954 国華(ごっか・松永まつなが、名;徳栄のりひで、本明男) 1738-180467 母;高橋家出身、尾張藩士;父を嗣ぐ、
 儒;飯田高嶺門、故実・歌;葎庵河村秀根門、1766(明和3)事に坐し減俸、
 1770(明和7)東門館書史、1789(寛政元)徒組;99江戸出府/帰国後に加増、
 楽曲を好む;箏;四辻大納言公亨門/箏築;安倍季康門/笛;豊東市正時識門、
 律暦を研究/詩人、1778「東窓閑語」79「史記律書曆書補注」著、「公事根源掌故」補、
 [国華(;号)の通称/法号]通称;臆蔵/億蔵、法号;功誉徳栄居士
 G1955 国華(ごっか・西川にしかわ、名;瑚)?-1818/70余歳 近江彦根の儒者;野村東臯門/医;吉田桃源門、
 丹波綾部藩に出仕、詩人、1777「上池秘録」、1780-1812「上池秘録」続編-四編、「鼎左秘録」著、
 1801「外科上池秘録」/05「遺香集」(妻柏子[はくこ/歌人]の遺稿を編刊)/14「蓬藁詩集初篇」著、
 [国華(;号)の字/通称]字;子璉、通称;元章、別号;国華山人
 国華(ごっか・南部) → 景春(かげはる・南部なんぶ、藩士/儒者/詩) L1524
 国華(ごっか・桂川) → 国華(くにてる・桂川かつらがわ、幕府医師) C1793
 国華(ごっか・八木) → 与一(よいち・八木やぎ、藩士) 4751
 国華(ごっか・坂本) → 英臣(ひでとみ・坂本、藩士/砲術師範) D3733
 国華(ごっか・島) → 義勇(よしたけ・島しま、藩士/蝦夷開拓) E4720
 国華散人(ごっかさんじん) → 立助(たつすけ・深海ふかみ、文筆家) R2664
 克己(ごっき・石川) → 鑑吉(かみきち・石川いしかわ、航海日誌) Q1516
 克己(ごっき・石黒) → 千尋(ちひろ・石黒いぐる、藩士/国学者) F2823
 小築庵(ごつきあん) → 春湖(しゅんこ・橘田きつた、俳人) J2159
 克己庵(ごつきあん・佐藤) → 元知(もととも・佐藤、藩士/兵学/心学) D4435
 克己齋(ごつきさい・本内) → 以慎(いしん・本内もとうち、儒者) F1169
 国橋(ごっきょう・西林) → 要人(かなめ/かなと・西林にしばやし、神職/神楽) V1532

- F1979 **小造千万里** (こづくりのちんまり) ?- ? 狂歌、1785「後万載集」/87「才蔵集」入
 国景(こっけい) → 宗純(そうじゅん・一休、臨濟僧) 2 5 1 1
 滑稽堂(こっけいどう) → 団水(だんすい・北条、俳人/浮世草子) 2 6 9 2
 滑稽堂(こっけいどう) → 三馬(さんば・式亭しきてい、戯作者) 2 0 5 5
 国興(こっこう・東とう) → 国興(こっこう・東とう、詩人) P 1 9 3 6
 国香(こっこう・木村) → 世粲(つぐあき・木村きむら、医者/国学) F 2 9 5 9
 兀々翁(こつこつおう) → 陶丘(すえたか・川端かわばた、藩士/俳人) I 2 3 3 0
 兀々老(こつこつろう) → 雁空(がんくう・関せき、俳人) Q 1 5 2 8
 兀齋(こつさい) → 其律(きりつ・永日庵えいじつあん、狂歌/俳人) D 1 6 7 2
 兀山(こつざん・国枝) → 松宇(しょうう・国枝くにえだ、商家/儒者) G 2 2 9 5
- D1936 **兀子** (こつし) ? - ? 俳人、1762作法書「続夏引集」編
 五辻宮(ごつじのみや) → 照明親王(ひろあきらしんのう、歌人) F 3 7 5 0
- N1909 **兀庵** (ごつあん; 道号・嬾懶らんちよう; 法諱) ?-1829 伊予大洲の臨濟宗如法寺遍照庵3世: 盤珪研究、
 1775「富士山志」編、1807「盤珪禪師行業曲記」「盤珪禪師語録」訳、「盤珪和尚紀年録」編
- F1980 **小槌** (こづち・俵の、片岡かたおか庄六、秀民) 1727-90⁶⁴ 新吉原妓楼大黒屋主人/狂歌吉原連、
 1783「万歳集」入
 小槌庵(こづちあん) → 鶯室(おうしつ・中山なかやま、俳人) C 1 4 4 4
 後土御門院勾当内侍(ごつちみかどのこうとうのないし) → 春子(はるこ・四辻、歌/連歌) G 3 6 3 3
- D1937 **後土御門天皇** (ごつちみかどてんのう、名; 成仁ふさひと、後花園天皇皇子) 1442-1500⁵⁹
 在位1464-500(36年)、母; 嘉楽門院信子(藤原孝長女)、
 1467応仁乱; 足利義政の室町第に移住; 76室町第焼失、北小路殿に移住; 79同所焼失、
 諸所移住; 土御門内裏へ移住、漢学: 横川景三門/詩会催、
 歌・連歌会催、「紅塵灰こうじんかい集」、「後土御門院御集」「後土御門院御詠草」「いその玉藻」、
 将軍家千首/玉津島法楽百首、百韻連歌・和漢聯句など多数、新菟83句(発句25句)入、
 [後土御門天皇の法諱] 正等観
 後土御門内大臣(ごつちみかどのないだいじん) → 定通(さだみち・土御門/源、内大臣/歌) C 2 0 4 6
 兀亭子(こつていし) → 元(はじめ、藤元、軍記作者) E 3 6 3 8
 乞童(こつどう、乞童人) → 炭翁(たんおう; 号、俳人) H 2 6 9 7
 骨堂(こつどう; 雅号・三枝) → 蓼(しげる・三枝さいぐさ、僧/尊攘) O 2 1 5 8
 小壺(こつぼ) → 春好(初世しゅんこう・勝川かつか、絵師) J 2 1 6 1
- D1938 **兀峰** (ごつぼう・桜井さくらい/堀金、堀金又右衛門の養子) 1662-1722⁶¹ 近江出身/1678家督; 岡山藩士、
 物頭宮城大蔵組所属/1692江戸勤番; 留守居役/1704片上御用/10御用御免、桜井に改姓、
 俳人: 芭蕉門、1692(元禄5)芭蕉庵の歌仙に一座、93「桃の実」編、幸佐「二番船」入、
 1694炭俵/98続猿蓑に各1句入、
 [すゞしさをしれと杓ひさくの雫かな](炭俵; 上巻涼/亭主の心遣い)、
 [兀峰の通称] 藤左衛門/夫右衛門/武右衛門
 兀峰(ごつぼう) → 豪山(ごうざん、俳人) J 1 9 3 9
- R1933 **小鶴** (こつる・松岡まつおか、儒医松岡左仲女) 1806-73⁶⁸ 播磨神東郡田原村の詩人、1831婿を迎える、
 操の母、父と夫の仲が陰悪となり離縁、操(博文ひろふみ/1832-96/漢学者)を厳しく教育、
 医者; 父門; 女医として開業/のち漢学塾開設、1873(明治6)没、
 井上通泰(眼科医/歌人)・柳田国男(民俗学)・松岡映丘(日本画家)らの祖母、
 [小鶴(;名)の通称/号]通称; 小けん、剃髪後の号; 自謙
- N1910 **古庭** (こてい) ? - ? 1691北枝「卯辰集」2句入、
 [岩にただ口つけて呑む清水哉](卯辰集: 上二265)
 古亭(こてい・秋尾あきお) → 利重(としげ・秋尾、藩士/剣術家) M 3 1 6 0
 顧亭(こてい・十時) → 梅屋(ばいがい・十時とき、儒者/書画) 3 6 8 2
 悟亭(こてい・串田) → 凡十(ほんじゅう・串田、俳人) F 3 9 4 2
 五鼎(ごてい・朝川) → 善庵(ぜんあん・朝川あさかわ/片山、儒者) 2 4 2 4
 五適(ごてき/五適琴史) → 松窠(しょうか・中江なかえ/杜、絵師/琴) H 2 2 4 9
- N1911 **古哲** (こてつ・古林) ? - ? 大阪雑俳人; 1757律中「耳勝手」入

- 小徹(こてつ・釜屋) → 小徹(しょうてつ/こてつ・釜屋かまや/古森、国学/画) U 2 2 7 6
- N1912 **古篆**(こてん;道号・周印;法諱、号;無礙)?-? 室町期応永1394-1428頃美濃の臨濟僧;春屋妙葩門、春屋の法嗣/天竜寺54世/同寺金剛院塔主/建仁寺98世公帖;入寺しなかった、1418「仏祖宗派図」、「無碍集」、「五燈会元抄」、「俯仰天観図」著
- N1913 **壺天**(こてん) ? - ? 江中期安藝広島の俳人:野坡門、1740「竹原紀行」、[山茶花や供養の砂の持ちこぼし](1752野坡追善「十三題」)
- N1914 **壺天**(こてん・田原、別号;汎愛堂)?-? 陸中東磐井郡奥玉の修験者/俳人:1822椋山「不二烟集」入、43「続俳諧十二律」編
- 小殿(こでん) → 平城天皇(へいぜいてんのう、詩歌人) 2 7 6 0
- 袴田(こでん・宮後) → 朝喬(ともたか・宮後みやじり/度会、神職/歌) P 3 1 6 6
- D1939 **呉天**(ごてん・上野、別号;琥珀堂、屋号;近江屋)?-? 羽前鶴岡の菓子商/美濃派俳人:1728芭蕉の奥細道途次に歌仙「初茄子」編
- 五天(ごてん;号) → 良空(りょうくう;法諱、真宗高田派僧/親鸞伝記) H 4 9 1 5
- 吾田(ごでん・宇都宮) → 安浦(やすうら・宇都宮うつのみや/渡部、神職) F 4 5 3 8
- 湖殿閑人(こてんかんじん) → 日智(にち;法諱・通本院、日蓮僧) F 3 3 0 6
- 袴田館磯水(こでんかんきすい) → 朝喬(ともたか・宮後みやじり/度会、神職/歌) P 3 1 6 6
- 壺天館成章(こてんかんせいしょう) → 慶明(よしあき・芳賀はが、肝入/国学者) O 4 7 4 9
- 小伝次(こでんじ・森本/桂) → 重明(しげあき・勝浦/桂/森本、藩士/槍術) B 2 1 7 7
- 小天台房(こてんだいぼう) → 敬雄(けいゆう・きょうおう;法諱・韶鳳;字、天台僧/詩人) D 1 8 6 5
- 壺天堂(こてんどう) → 道善(どうぜん・松山まつやま、医者) G 3 1 2 4
- 壺天楼(こてんろう) → 其程(きてい・壺天楼別、俳人) L 1 6 5 5
- Q1956 **琴**(こと・大堀おほぼり、) 1752 - 1804 53 近江彦根藩士大堀栄久の妻、歌人;近江歌人伝;亀入
- R1918 **琴**(こと・原はら、旧姓;佐々木) 1777-1857 81 信濃伊那郡の歌人
- Q1991 **こと**(琴子ことこ・柴田しばた) 1832-92 61 能登石動山の国学者柴田暉熙あきひろ(1831-99)の妻、歌人特(事負こい・伴) → 信友(のぶとも・伴ばん、藩士/国学者) 3 5 1 0
- P1964 **古旛**(ことう/こどう;道号・周勝しゅうしょう;法諱、俗姓;清水谷) 1370or72-1433 64/62 細川頼之の猶子、臨濟僧;天竜寺の不遷法序・義堂周信・絶海中津門、五山文学者、1419(応永26)將軍義持の命で相国寺住寺/のち南禅寺住寺、諡号;鏡智法明禪師
- N1915 **孤桐**(ことう) ? - ? 江中期俳人;1772高井凡董「其雪影そのゆきかげ」入[ながれ来て立つや螢の水はなれ](其雪影;巻尾317)
- N1916 **孤灯**(ことう;法諱・転誉てんよ;法名) 1781-1827 47 京の浄土僧;西光寺慈雲門/靈巖寺智灯門、漢学・詩文;皆川淇園門、1816非法乱行のため八丈島配流;同島多娛山石室で称名念仏修行、「東溟余課」、「山居集」著
- 湖東(ことう・田中) → 芹坡(きんば・田中たなか、儒者/藩士) J 1 6 0 7
- 古桐(ことう・香川) → 琴橋(きんきょう・香川かがわ、儒者) Q 1 6 8 0
- 虎頭(ことう・田中) → 訥言(とつげん・田中、土佐派絵師/狂歌) O 3 1 4 6
- 虎塘(ことう・奥山) → 榕斎(ようさい・奥山/糸井、藩士/儒者) 4 7 9 4
- P1977 **古道**(ことう、仁和寺) ? - ? 江前期;京仁和寺の住僧?/俳人、1673西鶴「生玉万句」第二仏別第三句/萩第三句等入、[梅が香を唐物棚からものだなに匂はせて](生玉万句;仏別第三/脇;未弁;赤梅檀に来啼く鶯、唐物棚;舶来品の売買店/梅に鶯の付合)
- P1970 **虚洞**(狐洞ことう) ? - ? 江前期俳人;一品門、1685風瀑「一楼賦」・87一品「丁卯集」入、[白魚に散り合せたる桜かな][男浴あみする夕貞ゆがほの家やの陰暗し](一楼賦)
- G1983 **觚堂**(ことう・馬田) ? - ? 江戸の俳人;調和門、清書所、1691不角「二葉之松」6句入、[新麦しんむぎにつられて三日草の庵いほ](二葉之松;283/ご馳走の新麦につられ長滞在)
- D1941 **古道**(ことう・村井むらい、名;道静、道弘男) 1681-1749 69 奈良の外科医/俳人:来山門、1691藤波集入集、1734師の遺稿「いまみや艸」長江らと共編、1734「俳諧いまみや艸」編、1635「津の玉柏」49「花日記」編、地誌;1713「南都名産文集」27「奈良名所記」著、

1630「奈良坊目拙解」48「奈良曝古今俚諺集」著;外編著多数、

[古道の通称/別号]通称;勝九郎/升哲、

別号;水子/無名園/無名居/率川益人/青楓軒/三枝散人/玄々禿/率川隠士一粟散人
法号;古岸道静居士

- D1942 **胡洞**(こどう) ? - ? 安藝巖島連歌作者/俳人;野坡門、1716露川「西国曲」入、
1730里紅(廬元坊)「藤の首途」入、39「伊都岐(巖)島八景」巖島連中共編(以金/胡洞/伴古)、
[庵の戸を明けてや雪を盛牡丹](1752野坡追善「十三題」入)
- N1917 **苳堂**(こどう) ? - ? 丹波篠山俳人;1783維駒「五車反古」入
- E1943 **虎道**(虎道こどう) ? - ? 江後期備後尾道の俳人;
1809六合追善「きさらぎ集」入、1816一瓢「俳諧西歌仙」入、
[つつつと豆振る飯の焚たくあかり](「俳諧西歌仙」名残表七句目)
- N1918 **古棠**(こどう・高橋たかはし、山口六兵衛男)1818-6750 越後南魚沼郡横枕の人/湯沢村高橋家の養子、
旅館業/農業奨励、風俗矯正に尽力、俳人;知可良門、1867「つゆそくさ」編、
[古棠(;号)の別号] 翠隈わい亭/翠隅わい亭/清華廬
- D1943 **古堂**(こどう・松本まつもと、名;元裕もとひろ、元朗男)1819-7860 出雲八束郡の儒者;亀井昭陽門、
儒;梁川星巖・安積良斎門、医修学、帰郷;出雲杵築の両国造家の文学/私塾開塾、
頼三樹三郎らと交流;安政大獄連座、維新後は立命館に招聘、
歌:「名教歌集」「諷詠詩」「古鑑抄」「実学便蒙」「詩道平易」外著多数、
[古堂(;号)の字/通称/別号]字;士竜、通称;巖/太一郎/泰一郎/暢元/暢玄、
別号;尺木氏/錦江鷗史/古風俗人/八雲外史
- N1919 **古道**(こどう;字・実相院じつそういん;号)?-1852 三河吉田の真言僧/飽海村の青竜寺住持、
国学;本居大平門/歌人、1852「磯の藻屑」著、
[実相院古道の法諱/別号] 法諱;円覚、後号;般若院
- | | | | |
|---------------|---|---------------------------|-----------|
| 古道(こどう;法諱) | → | 密庵(みつあん;道号・古道、曹洞僧) | D 4 1 0 7 |
| 古道(こどう・小野) | → | 古道(ふるみち・小野おの、医者/歌人) | E 3 8 6 9 |
| 古道(こどう;号) | → | 正運(消雲しょううん;法諱、真宗本願寺派学僧) | H 2 2 0 3 |
| 古道(こどう・和気) | → | 柳斎(りゅうさい・和気わけ/半井、藩儒) | E 4 9 0 4 |
| 古道(こどう・三浦) | → | 左簾(初世さへん・笠家、妓楼主人/俳人) | E 2 0 0 5 |
| 古道(こどう・高橋) | → | 古道(ふるみち/こどう・高橋たかはし、商家/歌人) | I 3 8 1 2 |
| 古道(こどう・平松) | → | 惟時(これとき・平松ひらまつ、国学者) | R 1 9 1 9 |
| 古道(こどう・館森) | → | 古道(たけみち・館森たてもり、儒者/歌人) | Y 2 6 1 2 |
| 古堂(こどう・岩下) | → | 貞融(さだみち・岩下/滋野、国学者/歌) | C 2 0 4 9 |
| 虚堂(こどう;号) | → | 実融(じつゆう;法諱、天台僧;僧正) | V 2 1 1 4 |
| 虚堂(こどう・大久保) | → | 忠寛(ただひろ・大久保おおくぼ、一翁、幕臣) | U 2 6 3 9 |
| 故道(こどう・鈴木) | → | 七郎(しちろう・鈴木、読本作者) | U 2 1 3 6 |
| 個堂(こどう・黒神) | → | 直民(なおたみ・黒神くろかみ、神職/国学) | B 3 2 6 4 |
| 虎道(こどう・森) | → | 鯨吹(けいすい・森もり、俳人) | D 1 8 5 4 |
| 帟堂(こどう・石川/崎山) | → | 帟月(壺月こげつ・石川・崎山、俳人) | F 1 9 6 1 |
| 顧堂(こどう・千秋) | → | 藤範(ふじのり・千秋せんしゅう、藩士/儒者/尊王) | C 3 8 6 0 |
- D1940 **五桐**(ごどう) ? - ? 江前期元禄1688-1704頃伊勢桑名の俳人、
1703北国行脚を終えた涼菟を迎え歌仙「誹諧行脚戻」編
- N1920 **五棟**(ごどう・津田) ? - ? 江中期大阪の雑俳人;1757律中「耳勝手」入
- N1921 **五棟**(ごどう・高田たかた、名;元道)1758-182871 上州太田西/谷の医者/俳人;長翠・碓嶺門、
「翰苑奇品」著
- | | | | |
|------------|---|--------------------|-----------|
| 梧東(ごどう・羽倉) | → | 信充(のぶみつ・羽倉はくら、国学者) | G 3 5 5 8 |
|------------|---|--------------------|-----------|
- N1922 **梧堂**(ごどう・雀笑庵) ? - 1801 江中期播磨の俳人、1793「塵埃」編
- N1923 **五道**(ごどう;通称;松屋藤兵衛、野雀)?-? 江後期享和文政1801-30頃名古屋俳人;士朗門、
1803「庵の犬」/10「枇杷園随筆」校訂、「飲中八歌仙」著
- | | | | |
|------------|---|------------------------|-----------|
| 五道(ごどう・最上) | → | 義連(よしつら・最上もがみ/源/井上、幕臣) | K 4 7 8 3 |
| 護道(ごどう・内藤) | → | 護道(もりみち・内藤、武将/連歌) | G 4 4 5 5 |

吾堂(ごとう・原) → 元麟(げんりん・原、医師、傷寒論研究) N 1 8 1 0
 梧堂(ごとう;号) → 月性(げっしょう;法諱、真宗僧/海防論) E 1 8 7 9
 梧桐(ごとう・阿部) → 崇広(たかひろ・阿部あべ、儒/歌) V 2 6 0 1
 梧桐(ごとう・大塚) → 云鳳(うんぼう・大塚おつか、真宗僧/歌人) E 1 2 5 9
 颯堂(ごとう・平元) → 謹齋(きんさい・平元、藩士/儒/軍事) J 1 6 0 0
 胡桃庵(ごとうあん) → 千苓(せんれい・井上いのうえ、俳人) L 2 4 9 1
 梧桐庵(ごとうあん) → 近嶺(ちかね・沢、歌人) B 2 8 5 0
 梧桐庵(ごとうあん) → 近嶺(ちかね・沢/谷沢、商家/歌文) B 2 8 5 0
 梧桐庵(ごとうあん) → 梨春(梨春りしゅん・後藤、蘭学/本草/談義本) B 4 9 2 3
 五道庵(ごとうあん) → 竹二坊(ちくじぼう・権田/光谷、医者/俳人) D 2 8 1 6
 小淘庵主(ごとうあんしゅ) → 有朋(ありとも・山県、藩士/内閣組織) F 1 0 5 3
 古道円(ごとうえん) → 道円(どうえん・賀島かしま、医者/藩医/歌) B 3 1 5 6
 梧桐園(ごとうえん) → 賀親(よしちか・室谷むろたに、商家/国学者) E 4 7 5 8
 胡桃下(ごとうか) → 千苓(せんれい・井上いのうえ、俳人) L 2 4 9 1
 湖東学摩訶衍沙門(ごとうがくまかえんしゃもん) → 弄幻子(ろうげんし、学僧) 5 2 2 7
 虎頭館(ごとうかん) → 岸駒(がんとく;通称、絵師) G 1 5 2 3
 虎頭館(ごとうかん) → 岱(たい・岸きし、岸岱、岸駒男/絵師) 2 6 0 0
 古道閑(ごとうかん) → 道閑(初世どうかん・清水しみず、茶人) C 3 1 3 5
 孤桃軒(ごとうけん) → 玄如(げんにょ;法諱、浄土僧/歌人) C 1 8 8 8
 悟道軒(ごとうけん) → 源内(げんない・平賀ひらが、洋学/戯作) 1 8 2 8
 梧桐軒(ごとうけん) → 蟻堂(かどう・山田、儒者/詩) H 1 5 3 5
 胡桃齋(ごとうさい) → 千苓(せんれい・井上いのうえ、俳人) L 2 4 9 1
 五道齋徳人(ごとうさいとくじん) → 一叟(いつそう・鈴木/飛鳥園4世、俳人) B 1 1 5 7
 五島山房(ごとうさんぼう) → 重意(しげおき・竹内、郷土史/詩歌) Q 2 1 7 2
 壺董子(ごとうし) → 神藤子(しんとし/壺董子ごとうし、読本作者) 2 2 6 6
 小藤次(ごとうじ・徳田) → 莖興(むらおき・徳田、藩士/兵法家) D 4 2 1 0
 小藤治(ごとうじ・石黒) → 南門(なんもん・石黒いしぐろ、儒者) 3 2 4 0
 後藤治(ごとうじ・大岡) → 馬円(馬遠ばえん・一峯齋いっぽうさい、絵師) C 3 6 4 1
 梧桐泉(ごとうじ・柳原) → 社笛(しゃてき・柳原、俳人;雑俳点者) G 2 1 4 8
 湖東小史(ごとうしょうし) → 務(つとむ・石黒いしぐろ、藩士/知事/歌) F 2 9 2 6
 小藤太(ごとうた・浅井) → 貞庵(ていあん・浅井あさい、医者) 3 0 2 6
 小藤太(ごとうた・石黒) → 南門(なんもん・石黒いしぐろ、儒者) 3 2 4 0
 小藤太(ごとうた・武藤) → 好春(よしはる・武藤むとう、藩士/攘夷論) G 4 7 1 4
 小藤太(ごとうた・松原) → 御中(三中みなか・松原まつばら/蔵田、国学/歌) I 4 1 9 9
 小藤太(ごとうた・富田) → 篤敬(あつたか・富田とみた、国学者) I 1 0 0 2
 五藤太(ごとうだ・大竹) → 言近(のぶちか・大竹おおたけ/中臣、国学者) H 3 5 6 8
 後藤太(ごとうだ・野尻) → 栄滋(ひでしげ・野尻/杉山、藩士) D 3 7 0
 梧桐亭(ごとうてい) → 西羊(さいやう/せいやう、俳人) B 2 0 1 2
 梧桐久壽(ごとうひさとも) → 五兵衛(ごへえ・桐屋きりや、茶屋/俄興行) N 1 9 5 9

N1924 湖東百足山人(ごとうむかでさんじん、姓名不詳)?-? 俳人;梅室門、

1841「磯の波」編(;天来「七草」に反駁)

異浦の丹後(ごとうらのたんご) → 丹後(たんご・宜秋門院ぎしゅうもんいん、歌人) I 2 6 0 7

壺洞楼駒成(ごとうろうこまなり) → 駒成(こまなり・壺洞楼、狂歌) N 1 9 6 8

R1902 琴緒(ごとう・弾だん、旧姓;団、名;舜平/号;桐園) 1847-1917 撰津伊丹の生/漢学;橋本香坡門、歌;大坂の中村良頭門、1871(明治5)兵庫県戸籍掛;「民法戸籍類纂」編纂、大坂住、「類題秋草集」編、「桐園詠草」著

[焚たきはてし朶うけらの煙うちかすみ八坂の宮居はる立ちにけり](桐園詠草冒頭歌、

京八坂神社の朶おけら祭の焚火;火縄にして持帰り雑煮を煮る)、

[ほととぎす鳴きもやすると村雨のこゝろにかゝる夏は来にけり](桐園詠草;夏冒頭歌)

五斗翁(ごとう) → 迂堂(うどう・眞山まやま、儒者/地理) D 1 2 2 0

- D1944 **言員**(ことかず/とき-/のぶ・小野おの、本姓;藤原) 1584-1655⁷² 近江佐和山藩主井伊直政に出仕、歌人;良恕法親王・九条道房・冷泉為満・松永貞徳門、のち水戸藩主徳川頼房に出仕、1640光圀の傳;歌・学問の師;「小野言員諫草」著、1636「続長秋詠草」編、家集「冷笑集」嗣子陳員のぶかず編、[暮れぬとて立ちやかへらん山深みまだみぬ方の花を残して](茂睡[鳥の迹]春126)[言員(;名)の通称]通称;角太夫/角左衛門/角衛門/角右衛門
- R1915 **言方**(ことかた・林はやし、) 1805 - 1883⁷⁹ 信濃飯田の紙・元結問屋兼質商;若松屋を経営、飯田の紙問屋騒動(1807-09)後の林家再建に尽力、言文ことぶみの父、国学・歌;岩崎長世[飯田では松井(松居)直太郎と変名]門;平田学を修学/歌人、[言方(;名)の通称/号]通称;代次郎、号;梅廼屋、屋号;若松屋
庫徳(ことく・菅原) → 洞斎(とうさい・菅原、絵師) E 3 1 2 2
後徳大寺左大臣(ごとくだいじのさだいじん) → 実定(まねさだ・藤原、歌人) 2 0 3 8
後徳大寺前太政大臣(ごとくだいじのさきのだいじょうだいじん) → 公孝(きんたか・徳大寺、歌人) E 1 6 2 6
後徳大寺前太政大臣女(ごとくだいじのさきのだいじょうだいじんのむすめ) → 公孝女(きんたかのむすめ・徳大寺、歌) E 1 6 2 7
言国(ことくに) → 言国(とくに・山科、故実/歌) J 3 1 1 3
- Q1945 **琴子**(ことこ・小野おの、小野正誠女) 1789-1810^{早世²²} 備中浅口郡長尾村の生、玉島新町の小野正雄(1782-1840)の妻、歌人;木下幸文門、法名;覚智妙性信女
- R1940 **箏子**(ことこ・村岡むらおか、号;貞靖、旧姓;小橋) 1815-70⁵⁶ 讃岐香川郡円座村の生、小橋安蔵の妹、和漢学者;歌人・書家、1831(天保2)讃岐丸亀の村岡藤兵衛竹所(景緝)の妻;夫は商家村岡家4代目・醤油讓造業を営み文学・詩画を愛す、宗四郎正徳(5代目)の母、1851(嘉永4)夫没;家業醤油讓造業経営、家政や子女を教育/さらに勤王家として活動;実兄安蔵らと協力し志士の保護・資金援助、息子正徳も勤王家となる
- R1935 **琴子**(ことこ・的場まとは、勝美かつよしの長女) 1823-88⁶⁶ 山城淀の歌人;父門
琴子(ことこ・柴田) → こと(琴子ことこ・柴田はた、国学/歌) Q 1 9 9 1
琴子(ことこ・森田) → 琴子(きんこ・森田/小倉、漢学者/教育) V 1 6 4 7
言幸舎(ことさきわいのや) → 広蔭(ひろかげ・富樫、国学/歌人) 3 7 1 4
琴繁(ことしば・柳亭) → 柳亭琴繁(りゅうていことしば・合巻) F 4 9 2 7
五斗室(ごとし;号) → 太元(たいげん;道号・孜元げん、臨濟僧) J 2 6 8 8
- Q1933 **琴女**(ことじよ・石神いしがみ、) 1756- ? 信濃伊那郡の歌人;澄月・桃沢夢宅門
- Q1924 **琴女**(ことじよ・浅井あさい/旧姓;大槻、号;智誠院) 1804-91⁸⁸ 陸奥陸前磐井郡の歌人
- Q1929 **琴女**(ことじよ・井出いで/旧姓;大井、) 1818-1904⁸⁷ 信濃佐久郡の歌人;橋道守門
琴後翁(ことじりのおきな) → 春海(はるみ・村田、国学/歌) 3 6 3 6
- N1925 **事代主神**(ことしろぬしのかみ、大国主神と神屋楯比売命との子)?-? 記紀神話;託宣の神;国譲神話の役目、姉妹の媛蹈鞰五十鈴媛命が神武天皇妃/弟娘の五十鈴依媛が綏靖天皇妃、孫娘が安寧天皇妃になる
- 1936 **士清**(ことすが・谷川たがわ、順端男) 1709-76⁶⁸ 伊勢安濃郡刑部の代々医者/医;福井丹波守門、神道;松岡雄淵[仲良]・玉木正英門/1732正英より神道免許を受、35帰郷;医業、国学/語学、森蔭社洞津谷川塾創設;神道教授、1735「神代巻講録」48「日本書紀通証」、「鋸屑譚」、1752-56家集「恵露草めぐみのつゆくさ」/72「石劔頭考」「勾玉考」、国語辞書「倭訓栞」、外著多数、[士清(;名)の字/通称/号] 字;公介、通称;昇/養順、号;淡斎/昇卯/応竜/卯齋/振々翁/琴生糸/恒徳堂/振々霊社/森蔭社、法号;文芸大英居士
五斗先生(ごとせんせい) → 豊信(とよしげ・山内、容堂、藩主/詩歌) R 3 1 1 8
古登曾岐廼舎(ことそぎのや) → 淳風(きよかぜ・橋村、神職/国学/歌) O 1 6 6 9
言霊(ことだま) → 富春(とみはる・小神おがみ、神道/歌人) O 3 1 9 3
言霊翁(ことだまのおきな) → 算木有政(さんぎのありまさ、国学/狂歌) F 2 0 7 2
言霊舎(ことだまのや) → 保之(やすゆき・木間このま/藤原/源、歌人) D 4 5 4 2
言霊舎(ことだまのや) → 誠(まこと・鍋島なべしま/松平/龍造寺、国学) Q 4 0 0 3
言霊舎(ことだまのや) → 勲(いさお・里見さとみ、鍋島誠門人/医者/国学) K 1 1 3 1
- N1926 **言足**(ことたり・大隈/大熊おおくま) 1797-1853⁵⁷ 福岡下名島町の米穀商、歌;青柳種信門、

- 頼山陽・広瀬淡窓と交流、「大熊言足紀行」著、
 [言足(名;)の通称/号]通称;清蔵/清三、号;御風楼、言道ことみちの従兄、
- Q1949 **言愛**(ことちか・大隈おおくま、通称;茂甫、言朝男) 1788-1806夭逝 19 筑前福岡の商家/国学;二川相近門、
 大隈言道ことみちの兄
 士愛(ことちか・唐崎) → 常陸介(ひたちのすけ・唐崎、神職/尊王) C 3 7 6 1
 五渡亭(ごとい) → 国貞(初世くにさだ・歌川、3世豊国/絵師) 1 7 2 9
 言継(ことつぐ→ときつぐ) → 言継(ときつぐ・山科/藤原、廷臣/歌人) 3 1 3 3
- N1927 **士綱**(ことつな・亀山かめやま、梅臣男) 1770-1827 58 尾道の郷土史家、儒;鳥居実斎・菅茶山門、
 京で若槻幾斎門、帰郷後尾道の組頭・年寄、
 1816「尾道志稿」・23「尾道志稿続編」著(;芸藩通志の資料)、
 [士綱(;名)の字/通称/屋号]字;紀卿、通称;元助、屋号;油屋
 言綱(ことつな・山科) → 言綱(ときつな・山科、廷臣/歌人/書家) J 3 1 3 4
 言経(ことつね・山科) → 言経(ときつね・山科、故実/歌) 3 1 3 4
 五渡亭(ごとい) → 国貞(くにさだ・歌川) 1 7 2 9
 古渡堂(ことどう) → 蘭秀(らんしゅう・吉田、横船よこふね、俳人) C 4 8 5 2
- N1928 **言倫**(こととも・吉田よしだ、字;求玄/号;慶斎) ?-? 江前期史家、1714「若狭郡県志」編
- Q1950 **言朝**(こととも・大隈おおくま、) 1763-1805 43 筑前福岡の商家;米屋、国学者、
 妻;刀工信国光昌女/言愛ことちか・言道ことみちの父、
 [言朝(;名)の通称/号]通称;茂助、号;宗繁
- R1916 **言智**(こととも・林はやし、) 1792 - 1860 69 信濃飯田の藩御用達商家[若松屋]の次男、歌人、
 飯田の紙問屋騒動(1807-09)から逃れ酒造りに通じた齊藤重三郎を連れて江戸で酒造業、
 [言智(;名)の通称/屋号]通称;金三郎/伊八、屋号;大坂屋
- D1945 **言直**(ことなお・藤原ふじわら、安縄男) ?-? 904存 平安前期廷臣/歌人、900因幡権掾/内堅頭/六位、
 歌;古今集入、
 [春やとき花やおそきと聞きわかむ鶯だにも鳴かずもあるかな](古今集;一春上10)
- N1929 **言直**(ことなお・ときなお・西にし、伝四郎男) 1791-1859 69 伊勢度会の篆刻家/歌;本居大平・足代弘訓門、
 篆刻;小俣蟻庵門、1853「とばかり」、「本朝印例」著、
 [言直(;名)の通称/号]通称;弥六/芥司、号;野鹿
- D1946 **琴成**(ことなり・其筈そのはずの) ? - ? 狂歌、1785「後万集」;318/87「才蔵集」入
 [誰がたね(種/胤)をここへこぼして大根のち(地/乳)を離れてもかく育ちけん]
- Q1934 **琴成**(琴也ことなり・稲垣いなぎ、通称;進) 1806-88 83 武蔵足立郡の箕田八幡宮祠官、
 国学;平田鉄胤門、歌人;賀茂真淵の擬古風を批難/物集高見・本居宣長の論を祖述、
 村田春海らの江戸派説を主唱、1872(明治5)歌論「歌の言挙ことあげ」著
 長島稲秋いなぎと改名?
 言成(ことなり→ときなり・山科) → 言成(ときなり・山科、故実) J 3 1 6 8
 言繩(ことなわ→ときなお・山科) → 言繩(ときなお・山科、故実) J 3 1 5 3
- F1981 **琴主**(ことぬし・中山なかやま、名;元徳、岸きし正昌男) 1803-80 78 伊予宇摩郡天満村の音曲家(琴)、
 幼時に眼疾/1816(14歳)上京;生田流箏曲菊岡検校門/1820出雲大社参籠;
 霊夢により二弦琴[八雲琴]を創作;祖/諸国行脚;八雲琴を流布/1844京住;門弟指導、
 中山忠能の知遇を得て中山に改姓、1851「八雲琴譜」著、
 [中山琴主(称)の幼名/通称/号]幼名;政衛/建蔵/家郷、通称;弾正太夫/加賀助、号;寿永
- N1930 **ことの**(琴野) ? - ? 江中期女流俳人:1782蕪村「花鳥篇」入
 [うつくしき花のさかりやきのふけふ](花鳥篇;22)
 琴野(ことの・的場) → 三重子(みえこ・的場まとは、歌人) K 4 1 5 8
 琴之一(このいち) → 葛原勾当(くずはらこうどう、生田流箏曲) C 1 7 4 4
 言幸舎(このさきわいのや) → 広蔭(ひろかげ・富樫/鬼島、国学/歌人) 3 7 1 4
- N1931 **言延**(ことのが・高橋たかはし、禰宜民部少輔右延男) 1541-? 1615存 周防山口多賀社大宮司、民部大夫、
 毛利輝元の命により大内氏滅亡の記録を執筆献上;「大内様御家根本記」(言延覚書)
- N1932 **言周**(ことのが・宮崎みやざき/後姓;加集かお、宮崎政太夫政森男) 1679-1746 68 信濃飯田藩士;1696出仕、
 1711御小姓組組頭/江戸詰/国元詰/20讒訴され閉門、母方姓加集に改姓、源太夫を名乗る、

- 子弟教授、「伊那郷村鑑」「伊那郡神社仏閣」「信濃城主得替記」「武家謹慎鑑」著、
 [言周(；名)の幼名/通称/法号]幼名；亀之助、通称；平六/亀右衛門/源太夫、法号；円智院
- F1982 **士信**(ことぶ・間宮まみや、初名；信民、公信男)1777-184165 江戸小日向の幕臣；1798家督継嗣、
 1740二丸留守居、儒者；1810昌平坂学問所地誌修取調所調役/昌平覺風土記等編纂総裁、
 総裁として1823「編脩地誌備用典籍解題」28「記録解題」41「新編相模風土記稿」共編、
 1810-28「新編武蔵風土記稿」共編/16「小野路の記」、「小田原編年録」「江戸古絵図考」著、
 [士信(；名)の通称/号]通称；庄五郎/総次郎/剛次郎、号；白水/槐亭、法号；得成院
- 琴廼舎(ことひ) → 稻彦(いなひこ・橋本、国学者) D 1 1 9 2
 琴廼舎(ことひ) → 音主(おとぬし・石金いしがね、国学者/古言) B 1 4 8 7
 琴廼屋(ことひ) → 通亮(みちすけ・小野崎おのさき、藩士/神道) I 4 1 2 7
 琴廼屋(ことひ) → 直入(なおいり・河津がかわう、藩士/歌人) L 3 2 7 6
 琴廼屋(ことひ) → 直訓(なおふみ・永田ながた/森、国学/歌) O 3 2 1 4
 琴の舎(ことひ) → 成梁(せいりょう・島川/二見、国学者) J 2 4 8 4
 琴舎(ことひ) → 正雄(まさお・村上むらかみ、藩士/国学者) T 4 0 0 8
 琴舎(ことひ) → 旁通(まさみち・守田もりた、国学者/歌人) T 4 0 2 2
 後鳥羽院宮内卿(ごばいんのくなくきょう) → 宮内卿(くなくきょう、歌人) 1 7 0 5
 後鳥羽院下野(ごばいんのしもつけ) → 下野(しもつけ、歌人) F 2 1 9 4
- 1937 **後鳥羽天皇**(ごばてんのう、尊成たかふさ、高倉天皇皇子)1180-123960 母；七条院殖子(坊門信隆女)、
 在位1184-98/院政(上皇)、1221承久乱に敗戦；隠岐配流(在島19年；没)、
 多芸；管絃/蹴鞠/競馬/今様・歌・連歌、歌合催、1200[正治初度百首]催、
 1201和歌所再興/新古今集撰進を院宣；配流後も隠岐本新古今集編、
 1236遠島歌合催、「後鳥羽院御口伝」「後鳥羽院御集」「遠薫集」「後鳥羽院宸記」、
 「後鳥羽院御自宇歌合」「四十五番歌合」「時代不同歌合」「熊野懐紙」外多数、
 勅撰253首；新古(36首2/18/36/99以下)続後撰(29首8/38/67以下)続古(49首)以下、
 御裳濯集45首入/雲葉集35首入/菟玖波4419句入、
 [見渡せば山もとかすむ水無瀬川夕べは秋となに思ひけむ](新古今；一36)
 [人もをし人も恨めしあぢきなく世を思ふゆゑにもの思ふ身は](続後撰1202)
 [後鳥羽天皇の法名/諡号/通称/別名]法名；良然、諡号；顕徳院、
 通称；隠岐院、別名(借名)；藤原親定(；詩歌合催の名)
- 言葉綾知(ことばのあやち、狂歌) → 杜芳(とほう・岸田/櫻川、戯作者) 3 1 5 6
- N1933 **士逸**(ことひや・谷川たにがわ/たにかわ、士清ことすが男)?-1811 伊勢安濃津の医者(；父門)/国学・歌；父門、
 「和魂荒魂考」著、
 [士逸(；名)の通称/法号]通称；端斎/丹斎/順瑞、法号；覺道教授居士
- N1934 **言彦**(ことひこ・小松こまつ) ? - 1844 信州伊那郡木下宿の国学者；矢島敏彦門、
 国学・歌；江戸で小山田与清・朋誠堂喜三二(平沢平荷)門/晩年；羽倉(荷田)訓之門、
 1844(天保15)江戸小伝馬町の客舎で病死、1831「大皇国大道声言霊解」著
 [言彦(；名)の通称/号]通称；弥四郎、号；四十廼舎
- 言彦(ことひこ→のぶひこ・松木) → 言彦(のぶひこ・松木、神職/日記) C 3 5 8 9
- R1938 **士博**(ことひろ・三井みつゐ)、1771-180737 讃岐琴平の医者三井士復ことまの養子；医者、和学、
 [士博(；名)の通称/号]通称；周徳、号；鑑山
- I1983 **壽**(ことぶき；組連) ? - ? 江戸本郷の川柳の；組連、
 取次；1766「川柳評万句合」入、
 取次例；[蚊を焼いて亭主むほんの気にも也](前句；はじめ社こそすれ々々)、
 (蠟燭で蚊屋に入った蚊を焼く；灯の下に見る女房の寝姿)
- 寿庵広貞(ことぶきあんひろさだ) → 広貞(ひろさだ・寿庵、狂歌) H 3 7 7 7
 寿舎(ことぶきのや) → 重匡(しげまさ・小林こばやし、国学/歌) O 2 1 4 1
- R1917 **言文**(ことぶみ・林はやし、言方ことかた男)1832-8655 信濃飯田藩御用達の紙/元結問屋；若松屋の生、
 国学・歌人；父(岩崎長世門人)門、
 [言文(；名)の通称]弥七/数介/一介いちすけ
- 後藤兵衛(ことべゑ・石黒) → 南門(なんもん・石黒いぐろ、儒者) 3 2 4 0

- 後藤兵衛(五斗米ごとべえ・貫洞)→ 卓堂(たくどう・貫洞ぬきどう、俳人) O 2 6 1 5
- R1939 **士復**(ことまた・三井みつい、通称;隆安) 1739-91 53 讃岐琴平の医者、和学、養子;上松士博ことひろ
- 1938 **言道**(ことまち・大隈おおくま/本姓;清原、言朝男) 1798-1868 71 筑前博多の商人/母;刀工信国光昌女、幼時より歌・書;二川相近門、言愛ことちか(19歳で没)の弟/父より家督嗣、家業を弟に譲り歌人として立つ;歌論・1832頃和歌革新を主唱;奇抜で軽妙な歌風、1836隠棲、39儒;広瀬淡窓門、1857約5万首を携え大坂で歌の指導/1867帰郷、1857歌学「ひとりごち」、59「戊午集」60「今橋集」63家集「草徑集」、「続草徑集」「松下集」編、歌論書「こぞのちり」著、野村望東尼の師、
[秋風に門田のいなご吹かれきてをりをりあたる窓の音とかな](草徑集;上260秋風)、
[言道(;名)の通称/号]通称;清助、
号;池萍堂ちへいどう/南堂/篠廼舎/小竹園/観水居/鳧居ふきよ室/平堂/大熊、屋号;米屋
- 言道(ことまち・都) → 良香(よしか・都みやこ、廷臣、詩歌人) 4 7 0 3
- 琴守(こともり・川辺) → 御楯(みたて・川辺かわべ/古賀、藩士/絵師) I 4 1 7 2
- Q1970 **言行**(ことゆき・小島こじま、通称;郷蔵) 1772-1860 89 信濃飯田藩士、歌人;桃沢夢宅・服部菅雄門飯田藩士岡田重威しげたけと交流
- Q1957 **咨之**(ことゆき・大田おおた、号;不知老) 1790-1866 77 大和宇陀郡の国学者
- Q1951 **言志**(ことゆき・大隈おおくま、通称;清三)?-? 江後期筑前福岡商家/歌人;二川相近門、大隈言道(1798-1868)の甥
- 言志(ことゆき・下条) → 竹塙(ちくお/ちくう・下条しもじょう/千村、医者/歌) C 2 8 6 6
- 言行(ことゆき・山科) → 言行(ときゆき・山科、廷臣/日記) K 3 1 2 7
- 言行(ことゆき・倉地) → 言行(ときゆき・倉地、歌人) K 3 1 3 0
- 子虎(こたら・山崎) → 石燕(せきえん・山崎やまさき、儒者/絵師) J 2 4 9 4
- 小虎山房(こたらさんぼう) → 暢斎(ちやうさい・蒔田、書家/篆刻) I 2 8 3 7
- D1947 **後奈良天皇**(ごならてんのう、知仁ともひと、後柏原天皇皇子) 1496-1557 62 在位1626-57;戦国時代、母;豊楽門院藤子(勸修寺教秀女)、漢学;清原宣賢門/歌学;三条西実隆・飛鳥井雅俊門、参禅;大徳寺古岳宗互門等、万民和楽のため全国に般若心経配布を發起;書写、「後奈良天皇宸翰御詠草」「後奈良院御集」「後奈良院御着到百首」「後奈良院二十首」、1553「宮中太神宮法楽百首」催、日記「天聰集」(御記)、連歌百韻・和漢聯句多数、
- Q1918 **湖南**(こなん・北村きたむら、通称;銚也、季文[きぶん1778-1850]の長男) 1817-49 33 江戸の連歌師、国学者/歌学者;代々幕府和歌所出仕、蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[思川おもひふかめて今ぞしるきのふは恋の浅瀬なりきと](大江戸倭歌;恋1463)
- 湖南(こなん・湖南亭) → 祇徳(ちきとく・仲、札差/俳人) B 1 6 6 0
- 湖南(こなん・原) → 雲沢(うんたく・原はら、医者/儒) D 1 2 9 3
- 湖南(こなん・山本) → 探淵(たんえん・山本やまもと、絵師) K 2 6 0 4
- 梧南(ごなん・林) → 復斎(ふくさい・林はやし、幕臣/儒者) B 3 8 5 4
- 湖南人(こなんじん) → 惟然(いぜん) 1 1 2 8
- 軍王(こにきしのおおきみ) → 軍王(いくさのおおきみ) 1 1 0 6
- 小肉翁(こにくおう) → 眞激(まさもと・宍戸ししど/林、藩士/国事) H 4 0 9 6
- 後二条院権大納言典侍(ごにじょういんのごんだいなごんのすけ) →
為子(ためこ・二条、尊良親王の母/為世女) G 2 6 8 0
- 後二条院少将内侍(ごにじょういんのしょうしょうのないし) → 少将内侍(しょうしょうのないし・後醍醐院) T 2 2 4 8
- 後二条関白(ごにじょうかんぱく) → 師道(もろみち・藤原、詩歌) H 4 4 9 5
- 後二条関白家筑前(ごにじょうかんぱくけのちくぜん) → 筑前(ちくぜん・後二条関白家、歌人) D 2 8 3 1
- D1948 **後二条天皇**(ごにじょうてんのう、邦治/追号;後二条院、後宇多天皇皇子) 1285-1308 早世 24歳、母;西華門院基子(堀河具守女)、在位1301-08;
鎌倉幕府の両統迭立案により持明院統から即位、歌人;1303歌会催/「内裏百首」催、1305家集「愚藻」著、「後二条院御集」、1307「一遍上人絵伝」「絵草子」書、[菊葉集]2首入、勅撰101首;新後撰(18首43/73/290/360以下)玉葉(8首90/142以下)続千(21首26以下)、続後拾(8首11/138以下)風雅(8首131/305以下)新千(15首171/209以下)以下、藤葉とうよう集入、連歌;菟玖波集5句入、

- [木のもとはやがて軒端に近ければ風のさそはぬ梅が香ぞする](続後拾;春43/軒梅)
 後二条殿(ごにじょうどの) → 師通(もろみち・藤原、関白/歌人) H 4 4 9 5
 御入唐僧正(ごにゅうとうのそうじょう) → 宗叡(そうえい/しゅうえい、真言僧) 2 5 6 2
 古野(この・高戸) → 此子(このこ・中村なかむら、歌人) R 1 9 0 8
- N1935 古能(このう・ひさよし・喜多きた、初名;光能みつよし、喜多流七大夫長義男)1742-1829⁸⁸ 能楽喜多流9世、
 1754十大夫親能の養子/70家督/99隠居、技法伝書・謡本を刊行;喜多流中興の祖、
 1786「悪魔弘」97「仮面譜」「諸家仮面譜」/99「寿福鈔」、「音曲秘伝書」「難波の春」著、
 「面目利書」「下懸囃謡」「後見心得之書」「地謡楽屋心得書」「曲舞」著、妻;太鼓方葛野知足女、
 [古能(;名)の幼名/号/法号]幼名;栄之丞、
 号;似山/七大夫9世・(隠居後;)健忘斎・湖遊/巖香舎(;香道)、法号;一超院
 小農軒(このうけん・北田) → 重固(しげかた・北田きたた、国学者/歌) O 2 1 2 3
 小農軒(このうけん・北田) → 重郷(しげさと・北田きたた、重固男/歌) O 2 1 2 4
- D1949 近衛(このえ・今出河院、鷹司伊平女/本姓藤原)?-? 龜山院皇后今出河院嬉子[1252-1318]に出仕、
 仏道に精進/和漢兼作の人/歌人;1271-74[人家集]・1277-79[和漢兼作集]入、
 1330北野宝前和歌参加?(長寿?)、藤葉集5首入、
 徒然草67段;若い時に上賀茂の岩本・橋本二社前の水に百首歌を書き奉納の逸話、
 勅撰26首;続古1629続拾797/1092新後撰696/805/1064玉葉1955続千(5首)続後拾(5首)以下、
 [富士のねは雪のうちにもあらはれてうづもれぬなになにつけぶりかな]、
 (続古今;雑1629/冬の歌に/中宮権大納言名)、
 [吉野川こほりとけゆく岩波のはやくも今朝は春風ぞ吹く](藤葉;9/今出河院近衛名)、
 [今出河院近衛(;女房名)の別号] 中宮権大納言/権大納言
 近衛院備前(このえいんのびぜん・近衛院女房) → 備前(びぜん、歌人) C 3 7 4 8
 近衛兼経家民部卿(このえかねつねけのみんぶきょう) → 民部卿(みんぶのきょう、歌) G 4 1 9 0
 近衛関白左大臣(このえかんぱくさだいじん) → 基平(もとひら・近衛) E 4 4 0 4
 近衛関白前右大臣(このえかんぱくぜんうだいじん) → 家基(いえもと・近衛) 1 1 6 7
- D1951 近衛天皇(このえてんのう、名;体仁、鳥羽天皇皇子)1139-1155^{夭折}17歳 母;藤原永実女美福門院得子、
 1141(3歳)即位(鳥羽院政のため実権なし)、後葉集8首/続詞花集入、
 歌:勅撰5首;千載(1000)新古(1090)続古(625)玉葉(2321)続千載(944)、
 [浮雲のかゝるほどだにあるものを隠れなはてそ有明の月](千載;雑1000、
 藤原宗子[作者の准母皇嘉門院聖子の母]の病重く寄せた歌への返歌/な-そは禁止、
 祖母への慰撫の歌、
 宗子の贈歌;山の端の月もろともに隠れなば思ひ出でんや思ひ出でじや[志香須賀本])
 近衛更衣(このえのこうい;近江更衣の誤?) → 周子(しゅうし/ちかこ・源、醍醐天皇更衣) H 2 1 5 1
- D1950 近衛太皇太后宮(このえのたいこうたいごうぐう、二条后多子、藤原公能女)1140-1201⁶² 1150近衛天皇に入内、
 母;藤原俊忠女従三位豪子、藤原頼長養女、皇后/1156皇太后、60二条天皇に入内/65出家、
 藤原実定を支援、歌活動:小侍従が仕える、
 勅撰2首;千載1105/玉葉2000
 [近衛太皇太后宮の通称]太皇太后宮
- N1936 近衛局(このえのつばね、洞院とういん)?-? 室町期歌人、1443前摂政家歌合/46文安詩歌合参加
- N1937 近衛姫君(このえのひめぎみ、兵衛姫君ひょうえのひめぎみ?、源良宗女or経房女?)?-? 平安中期歌人、
 橘俊綱と親交、後拾遺集942、
 [散らさじと思ふあまりにさくら花ことのはをさへをしみつるかな](後拾遺;十六942)、
 (俊綱の度々の執拗な手紙への拒絶の返歌)
 此右衛門(このえもん・服部) → 武喬(たけたか・服部、藩士/儒/語学) E 2 6 3 9
- R1908 此子(このこ・中村なかむら、名;古野この、旧姓;高戸)1775-1845⁷¹ 備中浅口郡の生、
 備後鞆浦の中村孟政たけまさの妻/孟政は保命酒製造の酒造業中村吉兵衛家6代目、
 歌人;木下幸文門(夫と同門)、政憲まさのりの母
- F1983 子子孫彦(このこのまごひこ、村岡むらおか孫右衛門)?-? 幕臣佐久間侯家臣/小川町の狂歌師;四方連、
 1783万載狂歌集/85徳和歌後万載集9首入/87狂歌才蔵集入;
 [鳥屋さへまだしら雪のふるすより春をしらす籠の鶯](才蔵集;一春22)

- Q1920 **この女**(このじょ・菅すが) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[世の中のうきにくらべて今ぞ知る柴の庵の心安さを](大江戸倭歌;雑1707/閑居)
這季(このすえ・中島) → 這季(これすえ/・中島、藩士/和算家) O 1 9 4 0
- F1971 **此助**(このすけ・田島たしま) ? - 1829? 初め御馬屋別当、妻は5世岩井半四郎の妹、
その縁で歌舞伎作者;1796都座狂言方/1821二枚目作者(助作)、1807「さるわか栄曾我」、
1825「皐富士曾我初夢」28「狂乱恋懸畏」29南北「紅葉鹿封文曾我」助作、外多数、
- F1984 **此助**(2世このすけ・田島たしま)? - ? 歌舞伎作者;1845中村座付き作者
己之助(このすけ・林) → 蘭雅(らんが・林はやし/賀茂、絵師) B 4 8 6 4
- D1953 **此蔵**(このぞう・藤井ふじい、園重郎男) 1808-7669 伊予大三島越智郡盛村の農業/宮大工、
日記;「藤井此蔵一生記」著
- 1939 **此太夫**(このだゆう・竹本たけもと) 1702-176863 江戸期浄瑠璃師、二代豊竹座
- N1938 **此太夫**(2世このだゆう・豊竹とよたけ、通称;銭屋佐吉) 1726-9671 大阪堂島の浄瑠璃太夫;初世門、
初世豊竹此太夫の高弟、1749初出座/57此太夫襲名/64江戸下向/66帰坂;北堀江市に操座、
1867豊竹座再興、作曲もした、1788「音曲両節辨」著、
[豊竹此太夫2世(;号)の別号]豊竹八重太夫(初世)/豊竹時太夫(初世)
- D1954 **碁檀越妻**(このだんおちのめ) ? - ? 万葉歌人;四500(伊勢を旅する夫を思う歌)
檀越は施主(仏のために財物を布施する人)を意味し普通名詞か、
[神風かむかぜの伊勢の浜荻折り伏せて旅寝やすらむ荒き浜辺に](万葉集;四500)
参考 碁檀越は碁師と同一か→ 碁師(ごし、万葉歌人) C 1 9 7 3
此花(このはな・伊藤) → 一行花(いちぎょうはな、食行身祿女、富士講行者) J 1 1 2 1
木の花(このはな・跡見) → 滝野(たきの・跡見あとし、絵師/書/教育) V 2 6 2 2
木間庵(このまあん) → 白人(わつじん・遠藤/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1
- N1939 **此麿**(このまる・喜多川きたがわ、別号;煙里亭)?-? 江後期絵師;喜多川歌麿門、
文化1804-18頃歌舞伎根本の挿絵、1808挿絵「春景浅茅原」
此麿(此丸このまる・見田) → 尚之(なおゆき・見田みた、国学/医) C 3 2 8 8
此道蔵伎(このみちのくらき・狂歌) → 蔵伎(くらき・菊屋、戯作) B 1 7 7 4
椒芽田楽(このめでながく) → 田楽(でながく・椒芽きのめ、神谷、医者/戯作者) D 3 0 2 5
此面(このも・菅沼) → 斐雄(あやお・菅沼すがぬま、歌人) B 1 0 5 8
此面(このも・野々村) → 良澄(よしずみ・野々村のむら、藩士/儒者) O 4 7 4 5
此の本(このもと・岸田) → 素屋(そおく・岸田きしだ、町役人/俳人) J 2 5 3 3
- D1955 **湖梅**(こばい) ? - ? 俳人、1706団水「こころ葉」に連句
- D1956 **故貝**(こばい) ? - ? 俳人、1776撰集「蕉門花伝授」著
- 古梅(こばい・芳風舎) → 茂右衛門(もえもん・弭間はずま、俳人) 4 4 6 1
五梅庵(初世こばいあん) → 舍用(しゃよう・小島/目黒、俳人) G 2 1 5 4
五梅庵(2世こばいあん) → 泉溪(せんけい・真柳、藩士/兵学/俳人) M 2 4 1 5
五梅庵(こばいあん) → 畔李(はんり・南部、星霜庵2世、藩主、俳) I 3 6 6 0
五梅庵(こばいあん) → 梅庵(ばいあん・西河にしかわ、藩士/儒/詩) 3 6 5 1
古梅園(こばいえん) → 東庵(とうあん・松井、製墨業/詩人) 3 1 7 9
古梅園(こばいえん) → 元泰(もとやす・松井、東庵男/製墨業/詩) E 4 4 4 7
古梅園(こばいえん) → 元彙(げんい・松井、元泰男/製墨業) H 1 8 6 7
古梅園(こばいえん) → 白枝(はくし・古梅園、俳人) D 3 6 1 9
古萩園(3世こはぎえん) → 美信(よしのぶ・三坂、心学/俳人) F 4 7 6 4
五梅軒(こばいけん) → 梅庵(ばいあん・西河にしかわ、藩士/儒/詩) 3 6 5 1
- N1940 **古梅堂**(こばいどう・上田うねだ/初姓;後藤ごとう、名;爽) 1738-180669 美濃(or三河)の医者;
河内道明寺村の上田家の養嗣子;医業、儒;竜草廬門、詩文、「詩鐘」「難波軍記聞書」著、
[古梅堂(;号)の字/通称]字;雅明、通称;友格
- N1941 **古白**(こはく・牧野まきの/田口、名;利成/利業/成時、牧野成富男/本姓;平)?-1506戦死 三河今橋城主、
今川氏親の家臣、初め宝飯郡一色城居住;のち今橋城築城、1506松平長親と戦闘;戦死、
宗長と親交;一周忌に宗長「古白追悼連歌」あり、新菟玖波1句入、

[古白(；法号)の通称] 田三/田蔵/左衛門尉さえものじょう

- N1942 **虎伯**(こはく；道号・大宣だいせん；法諱)?-1673 京の臨濟僧；東福寺越溪礼格門/法嗣、江戸竜光寺開、1661東福寺240世、「虎伯和尚語録」
- N1943 **古白**(こはく；法諱・皎翁こうおう；号)?-1712 紀伊浄土僧；総持寺27世、「鎮勤用心抄」
- N1944 **孤白**(こはく) ? - ? 江前期俳人；1691北枝「卯辰集」3句入
[稻妻に行く先々の小家こいえ哉](卯辰集；三311、旅先では稻妻のたびに民家で休憩)
- 古博(こはく・清水) → 古博(ひさひろ・清水しみず、国学/歌) L 3 7 9 7
故白(こはく・樋口) → 正冬(まさふゆ・樋口ひぐち、与力/歌人) L 4 0 6 8
虎魄(こはく・陳) → 元贇(げんいん/げんびん・陳、儒者/製陶/拳) B 1 8 2 7
琥珀(こはく・毛利) → 貞斎(ていさい・毛利もうり、儒者) 3 0 8 0
湖白(こはく・有井、諸九尼夫) → 浮風(ふふう・有井、俳人) D 3 8 6 8
- N1945 **五帛**(ごはく) ? - ? 大阪の俳人；1773几董「明鳥」入、
[山吹や谷一筋の春の色](あけ鳥；231)
- 湖白庵(こはくあん) → 浮風(ふふう・有井、俳人) D 3 8 6 8
湖白庵(こはくあん・二世) → 諸九尼(しよきゅうに・もろくに・浮風妻) C 2 2 2 9
五柏園(ごはくえん) → 丈水(じょうすい・大塚/柏木、俳人) K 2 2 1 6
琥珀堂(こはくどう) → 呉天(ごてん・上野、商家/俳人) D 1 9 3 9
古波蔵親方(こはぐらうえかた) → 秉哲(へいてつ・鄭てい/伊差川、史学者) 2 7 7 3
五白楼(ごはくろう) → 菊貫(きくつら・真田幸弘、藩主/歌/俳) 1 6 9 8
- P1950 **小橋**(こはし；組連) ? - ? 江戸神田明神下の雑俳の組連、
取次；1766「露丸評万句合」入；
取次例；[うぐひすというて路考は染めにやり](66万句合/前句；はじめ社こそすれ々々)、
(二代目瀬川菊之丞の路考茶は青黄色ががった茶だが初めは鶯色のくすんだ色だった?)
- 木幡権僧正(こはたのごんのそうじょう) → 静円(じょうえん；法諱、天台僧/歌人) F 2 2 5 5
木幡上人(こはたのしょうにん) → 真空(しんくう；法諱、三論/律/真言僧) N 2 2 9 3
木幡大僧正(こはたのだいそうじょう) → 観修(かんしゅう；法諱、天台僧) D 1 5 9 0
小八(こはち・辻) → 維徳(これのり・辻つじ、儒者) O 1 9 6 7
小八(こはち・夏目) → 麩麿(みかまる・夏目、酒造業/国学者) 4 1 6 1
小八(こはち・中村) → 吾八(ごはち・中山やかやま、歌舞伎作者) F 1 9 8 5
- N1946 **吾八**(五八/伍八ごはち；通称・中田)?-? 江中期1744-7頃歌舞伎作者；京大阪の諸座出勤、
1744「山崎与次兵衛今様姿」45「攝州昆陽池」46「男形裕帷子」47「和州染殿池」外多数
- F1985 **吾八**(ごはち・中山やかやま) ? - ? 1766存 江中期；1746京の歌舞伎作者、
1746「貴大嶋台」47「庭訓往来満足鑑」48「遠州妹背淵」49「操高安系図」54「悟道ノ海操競」、
1756「傾城花街蛙」(；露島山人と合作)/58「振袖現在道成寺」66「けいせい紫雲山」外多数、
[中山吾八(；最終通称)の名号]中村五八(1746初名号)/中村小八(1749)/中村五八(吾八)
- 吾八(五八/呉八/ごはち・並木) → 五瓶(初世ごへい・並木、歌舞伎作者) 1 9 4 0
吾八(ごはち・横浜) → 雅朗(まさあきら・横浜よこはま/浦野、歌人) T 4 0 6 7
後八条入道前内大臣(ごはちじょうにゅうどうさきのないだいじん；新統古) → 実継(さねつぐ・三条) D 2 0 1 8
- D1957 **小八条御息所**(こはちじょうのみやす[ん]どころ、源みなもと昇女貞子)?-? 平安期歌人、宇多天皇の更衣、後撰682
- N1947 **小八郎**(こはちろう・寺尾てらお、別通称；生十郎、藩士田島典司男) 1834-9461 寺尾家の養嗣子、
安藝広島藩士/儒；阪井虎山門/藩校で修学；藩校教授次席/63藩政参加、
薩長藝三藩同盟参画、「定方要旨」著
- 小八郎(こはちろう・幸若) → 直林(ちよくりん・幸若/桃井、舞曲大夫) K 2 8 3 4
小八郎(こはちろう・高井) → 几董(きとう・高井たかい、俳人) 1 6 2 3
小八郎(こはちろう・小西) → 可春(よしはる・小西こにし/柳原、藩士/歌) G 4 7 0 9
小八郎(こはちろう・夏目) → 麩麿(みかまる・夏目、酒造業/国学者) 4 1 6 1
小八郎(こはちろう・加納) → 諸平(もろひら・加納/夏目、麩麿男/国学) 4 4 3 5
小八郎(こはちろう・上林) → 職応(つねまさ・上林かんばんやし、郷土史家) D 2 9 6 8
小八郎(こはちろう・新井) → 広運(ひろゆき・新井あらい、藩士/国学/歌) M 3 7 0 3
小八郎(こはちろう・那須) → 道一(みちかず・那須なす、商家/国学/歌) J 4 1 8 9

- 小八郎(こはちろう・那須) → 宗道(むねみち・那須なす、道一男/国学/歌) E 4 2 0 5
 古八郎(こはちろう・唐津屋) → 三千雄(みちお・松田、酒造業/俳/詩) B 4 1 2 7
- N1948 **五八郎**(ごはちろう・勝井かつい、名;員周、五郎吉男) 1815-65 誅殺 51 対馬藩士/妹;藩主宗義和の側室;
 1861妹の子義達が藩主となる;権勢を得て家老大浦和礼と対立/幕府と結び佐幕派、
 1864(元治元)勤皇派を弾圧し家老に就任/1865暴虐の非を問われ誅戮される、
 「対馬騒動一覽記」著
- N1949 **五八郎**(ごはちろう;通称・名村なむら、名;元度、八右衛門男) 1826-76 51 阿蘭陀通詞(家業);英語修得、
 1853幕府出府/54日米和親条約に活動/箱館勤務;56支配調役下役格/59出府;通詞、
 1860米軍艦ポーハタン号乗船;渡米/66遣露使節随行員;渡露/67帰国、
 1851「エゲレス語辞書和解」訳、「蘭学通辨」「亜行日記」著
- 五八郎(ごはちろう・小永井) → 小舟(しょうしゅう・小永井こながひ/平野、幕臣/儒) S 2 2 9 5
- D1958 **後花園天皇**(ごはなそのてんのう、名;彦仁ひこひと、貞成親王[後崇光院]男) 1419-70 52 在位1429-64、
 1467応仁乱;足利義政の室町第に避難;67出家、寛政大飢饉の際に義政を七言絶句で誠む、
 学問/詩歌/連歌/画、1433「新続古今集」撰進を宣旨(39成立)、1434(永享6)永享百首催、
 1435「玉津島社法楽百首続歌」、37「室町亭行幸和歌」41「松尾社法楽百首」催、
 1442-3「加茂社法楽勸進歌」53「和歌御会詠草」、1450「仙洞歌合」(父の催)入/55「内裏歌合」、
 1461連歌「御・親王等何船百韻」68「後花園院御独吟百韻」、
 「後花園院御集」「詠百首和歌」外多数、1434(永享6)永享百首催、
 勅撰;新続古(12首;76/118/221/256/470以下)、新菟11句入、
 [色も香もたぐひはあらし咲きみちて軒端にあまる梅の下風](新続古今;春76/梅盛開)、
 [いつしかと空も霞みて出づる日の影長閑なる春やきぬらん](永享百首;冒頭歌)、
 [後花園天皇の法名/追号]法名;円満智、追号;後文徳院/後花園院
 こはひと(;女四宮歌合入) → 小隼人(こはやひと/こはひと、歌人) N 1 9 5 0
- N1950 **小隼人**(こはやひと/こはひと) ? - ? 平安期歌人;規子内親王家女房?、
 972規子内親王家前栽[女四宮]歌合参加(題;刈萱かるかや)、
 [ゆく秋の風に乱るるかるかやはしめゆふ露もとまらざりけり](女四宮歌合;17/大系25)
- 小隼人(こはやと・豊田) → 忠知(ただとも・豊田、藩士/茶人) Q 2 6 1 9
 小隼人(こはやと・今村) → 正相(まさすけ・今村/源、藩士/兵法家) C 4 0 9 0
 小針屋五郎治(こはりやごろうじ) → 五郎治(ごろうじ・中川、ロリア抑留/種痘法) P 1 9 0 8
- R1921 **小春**(こはる・藤井ふじい、岡為長女) 1731-1802 72 備前岡山の酒折宮祠官の家、
 備中賀陽郡吉備津神社宮司の藤井高久(1725-1807)の妻、歌人、高尚(たかなお)(1764-1840)の母
- N1951 **古帆**(こはん;道号・周信しゅうしん;法諱)?-1641 相模富塚の臨濟僧;雲如妙意・頤叟周觀門/法嗣、
 円覚寺黄梅院住/相模海蔵寺住持、1634「碧巖古帆密参」、「臨濟録密参請益録」著
- N1952 **虎班**(こはん;法諱) ? - 1824 越後魚沼郡小出の曹洞僧;海雲門、
 信州上田林興庵住/越後三島郡与板の徳昌寺26世、詩、亀田鵬斎と親交、1820「爛葛藤」著、
 [虎班の号] 香山こうざん/卍象まんしょう/逍遙道人
- 古范(こはん;法諱) → 願鑑(ごかん;道号・古范;法諱、臨濟僧) L 1 9 9 8
 虎范(こはん・古賀) → 竹堂(ちくどう・古賀、儒者) D 2 8 6 4
 古帆(こはん・荒井) → 一掌(いっしょう・荒井あらい、茶人) H 1 1 3 4
 古帆(こはん・植田) → 義方(よしかた・植田/高須、商家/歌・俳) C 4 7 6 9
 古帆軒(こはんけん) → 通禱(みちとみ・東久世ひがしぐぜ、廷臣/尊攘) C 4 1 0 1
 小半次(こはんじ・因幡屋) → 五瓶((3世ごへい・並木、歌舞伎作者) 1 9 4 2
 古尾(こび・津山) → 正行(まさゆき・津山つやま/平野、歌人) Q 4 0 9 1
 御鬘眞つみ綿(ごひきのつみわた、狂歌) → 菊之丞(きくのじょう・3世瀬川) 1 6 9 9
- D1959 **子羊**(こひつじ・大伴部おともべ)?- ? 755防人、下総国相馬郡そうまのこおり、万葉廿4394
 [大君の命恐みことかこみ弓のみたさ寝ねか渡らむ長けこの夜を](万葉;防人歌4394)
- 估畢堂(こひつどう) → 遂良(すいりょう・鈴木、藩士/兵学者) F 2 3 1 6
 子首(こびと) → 子首(こおびと・忌部、帝紀等記定者) F 1 9 4 7
 子首(こびと) → 子首(こおびと・平群、帝紀等記定者) L 1 9 7 8
 子首(こびと) → 子首(こおびと・佐伯、万葉歌人;梅花宴) C 1 9 1 6

- 己百庵(こひやくあん) → 百庵(ひやくあん・寺町、茶/俳人) E 3 7 4 3
 五百重娘(ごひやくじゅう→いおえのおとめ) → 五百重娘(いおえのおとめ・歌人) 1 1 0 5
 五百麻呂(ごひやくまろ→いおまる) → 五百麻呂(いおまる・忍海部おしぬみべ) 1 1 6 9
 N1953 湖萍(こひよう・寺本てらもと、名;直廉、直久男)1737-180569 熊本藩士;1760家督/番方;67病で致仕、
 郷土史家・地誌;藩内歴遊;伝承を記録、1772「古今肥後雑記」、「古今雑記」「肥後見聞雑記」、
 「拾玉雑誌」「天草紀年考」著、1793「村上名和家系略」編、嗣;実弟直章、息子;直道、
 [湖萍(;号)の通称/別号]通称;八郎/八郎助、別号;好古齋/包荒、法号;千江院
 虚瓢(こひよう/きよひよう) → 青人(あおんど・上島、俳人) 1 0 5 4
 五瓢(ごひよう・藤井) → 承基(つぐもと・藤井ふじい、商家/国学) G 2 9 2 7
 小兵衛(こひようえ・亀谷) → 和竹(わちく・亀谷かめたに、藩士、和算家) 5 3 4 8
 小兵衛(こひようえ・森田) → 盛昌(もりまさ・森田、藩士/随筆家) G 4 4 5 1
 小兵衛(こひようえ・立川) → 富房(とみふさ・立川たてかわ、大工) O 3 1 9 5
 小兵衛(こひようえ・岡本) → 尚祐(なおすけ・岡本、藩士/文筆家) B 3 2 3 4
 小兵衛(こひようえ・佐々木) → 春夫(はるお・佐々木、商人/国学/歌) G 3 6 0 5
 小兵衛(こひようえ・村田) → 了阿(りょうあ・村田むらた、和漢学/書) G 4 9 0 1
 小兵衛(こひようえ・岡田) → 稍実(しょうじつ・岡田、俳人;雑俳) J 2 2 4 5
 小兵衛(こひようえ・北野) → 好友(よしとも・北野きたの、名主/国学) M 4 7 4 8
 D1960 小兵衛督(こひようえのかみ・永福門院・章義門院[誉子内親王家]、神祇伯資邦女王)?? 鎌倉期歌人;
 章義門院女房/永福門院[鐔子]女房、前期京極派;1297永仁五年八月十五夜歌合参加、
 1299伏見院五種歌合参加、1303仙洞五十番歌合参加、
 勅撰6首;玉葉315/1545/1658/1785/1804続千載1187、
 [いづれともわきてながめん色ぞなき花も霞もにほふ曙](伏見院五種歌合;七番右)
 永福門院右衛門督と同一? → 右衛門督(うえもんのかみ・永福門院) 1 2 0 4
 壺瓢軒(こひようけん) → 調和(ちやうわ・岸本、俳人) 2 8 2 9
 御廟大師(ごびやうだいし) → 良源(りやうげん、天台中興/歌) E 9 4 5 6
 五瓢亭(五瓢亭ごひやうてい) → 貞芳(さだよし・歌川うたがわ、絵師) F 2 0 5 7
 古訃(こふ・白木) → 忠雄(ただかつ・白木うすき、藩士/武士伊呂波歌) P 2 6 2 3
 D1961 故風(こふう) ? - ? 江中期雑俳点者、1723書肆「和哥みどり」入
 D1962 虎風(こふう・東吟堂) ? - ? 江中期近江の俳人、1723木導「水の音」序
 D1963 虎風(こふう) ? - ? 江中期大阪雑俳点者、1782撰集「場付鼻あぶら」
 古風(こふう・加藤) → 古風(ひさかぜ・加藤、藩士/歌人) 3 7 9 1
 古風(こふう・冷泉) → 古風(ひさかぜ・冷泉、藩医/歌人) 3 7 9 2
 M1988 吾風(ごふう;号) ? - ? 江前期俳人;1692不角「二息」入、
 D1964 五風(ごふう;号) ? - ? 浪花の雑俳点宗匠、
 1718波天「万石船」/書肆「富士の高根」入
 N1955 五風(ごふう;号) ? - ? 江中期備後鞆の俳人:野坡の門流、
 1777芭蕉句碑「花塚」建立、「浦の春」編
 D1965 五風(ごふう;号) ? - ? 江戸雑俳点者1834一声「歌羅衣」入
 梧風(ごふう・大沢) → 稻彦(いなひこ・大沢おおさわ/松尾、庄屋/歌) K 1 1 0 4
 孤風庵(こふうあん) → 古来(固来こらい・富川とみかわ、俳人) N 1 9 8 7
 古風俗人(こふうぞくじん) → 古堂(こどう・松本、儒者/勤王) D 1 9 4 3
 顧風亭(こふうてい) → 大江丸(おおえまる・安井/大伴、俳人) 1 4 0 3
 五風亭(ごふうてい) → 貞虎(さだとら・歌川うたがわ、絵師) F 2 0 3 9
 五楓亭(ごふうてい) → 貞房(さだふさ・歌川/大沢、絵師) F 2 0 5 1
 虎風堂(こふうどう) → 額輔(初世がくすけ・絵馬屋えまや、絵師/狂歌) E 1 5 7 4
 P1934 虎風母(こふうのはは) ? - ? 狂歌作者;1787「才蔵集」入;芳野葛子への挽歌
 [よしのてふ姿はあはれ葛のこのはかりもよほどたらぬ一しやう](才蔵集;334、
 吉野葛は秤で売る時一升にしては少ない;一生を掛る/葛子の早世を悼む)
 後深草院少将内侍(ごふかくさいんの-) → 少将内侍(しょうしょうのないし・後深草院、歌) N 2 1 9 1
 後深草院二条(ごふかくさいんのにじよう) → 二条(にじよう・後深草院、日記/歌) 3 3 2 7

後深草院弁内侍(ごふかくさいんの)→弁内侍(べんのないし・後深草院、日記/歌) 2 7 0 6

D1967 後深草天皇(ごふかくさてんのう、名;久仁ひさひと、後嵯峨天皇皇子) 1243-1304⁶² 在位1246-59、父と不和、母;大宮院姞子きつし(西園寺実氏女)、父は弟龜山天皇を愛しその遺詔をめぐり幕府が調停、持明院統の祖;弟大覚寺統との対立に発展、皇子伏見天皇の東宮時に院政(1287-90)、逸話:在位中は「弁内侍日記」「五代帝王物語」に・上皇時代は二条「とはずがたり」に詳しい、歌;玉葉2764、1266「続古今竟宴御記」68「後嵯峨院御落飾記」著、「後深草院宸記」、

[石清水ながれの末のさかゆるは心のそこのすめるゆゑかも](玉葉;神祇2764)、

[後深草天皇の法名/通称]法名;素実、通称;常磐井殿/富小路殿

後福光園院摂政前太政大臣(ごふこうおんいんせつしょうさきのだいじょうだいじん:新統古)→良基(二条) 4 7 2 9

後福照院(ごふくしょういん) → 持基(もちもと・二条、撰関/歌/連歌) 4 4 1 0

鼓腹亭(こふくてい) → 橘実副(たちばなのみぞえ、狂歌) G 2 6 1 5

鼓腹堂(こふくどう) → 団雪(だんせつ・杉井すざい、俳人) I 2 6 4 7

後普光園院(ごふこうおんいん)→ 良基(よしもと・二条、歌/連歌) 4 7 2 9

鼓缶子(こぶくし) → 虎門(こもん・桜田さくらだ、藩士/儒者) F 1 9 9 0

御無事庵春江(ごぶじあんしゅんこう)→ 春江(しゅんこう、洒落本作者) J 2 1 6 2

後伏見院左京大夫(ごふしみいんのさききょうのだいふ)→ 左京大夫(さききょうのだいふ) B 2 0 4 4

後伏見院少納言(ごふしみいんのしょうなごん)→ 少納言(しょうなごん・後伏見院) B 2 2 0 1

後伏見院中納言典侍(ごふしみいんのちゅうなごんのすけ)→ 中納言典侍(ちゅうなごんのすけ・後伏見院) B 2 8 7 5

後伏見院民部卿典侍(ごふしみいんのみんぶきょうのすけ)→ 中納言典侍(ちゅうなごんのすけ・後伏見院) B 2 8 7 5

D1968 後伏見天皇(ごふしみてんのう、名;胤仁たねひと、伏見天皇皇子) 1288-1336⁴⁹ 在位1298-1301、母;准三宮経子(藤原経氏女)、院政2度;311-18/1331-32、1333尊氏挙兵により東国に脱出、尊氏敗退で帰京;剃髪、歌人/御願文案多数、1307「一遍上人絵伝」/「法然上人行状画図」書、「後伏見天皇宸翰御願文」「広義門院御産之記」「後伏見院宸記」「後伏見院御集」著、歌人;1309仙洞歌合・04/05三月歌合等に参加(;[藤原範春]を借名し出詠)、藤葉集入、勅撰94首;新後撰(4首85/268/295/1122)玉葉(16首8/177以下)続千(11首)続後拾(7首)以下、

[ここのへに春はなれにし桜花かはらぬ色をみて忍ぶかな](新後撰;春85/新院名)

[後伏見天皇の法名/号]法名;理覚/行覚、号;持明院殿、

D1969 護物(ごぶつ・谷川たにがわ) 1770- 1844⁷⁵ 伊勢俳人:士朗・關更門、江戸住;道彦門、1806「四時の端書」/19「かたみの蔦」「俳諧新五百題」「俳諧搜玉集」編、1824「ひうち袋」27「俳諧句合」「安詞廻比斗茂渡あしのひとと」(幻住庵記注)、28「俳諧千題集」編、1835「柿袴集」40「嵯峨八景」/44(天保15)「安良太末」編、「俳諧猿鑑」「新梅文庫」著:外多数、「護物発句集」(門弟の見外編)、[啼きもせず蓼に果つるか蓼の蟲]、

[護物の別号] 田喜庵/鷗巢しょうそう閑人/鬻斎こくさい/東寅屋/南濤

語仏老人(ごぶつろうじん、扇翁) → 扇橋(せんきょう・2世船遊亭、落語) F 2 4 1 4

五分亭(ごぶてい) → 和彭(わほう、俳人:雑俳点者) 5 3 5 8

Q1900 古文(こぶん・ひさふみ?・長田おさだ)?-? 江後期;歌人、1862(文久2)文雄「十番歌合」参加、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、[夜もすがらそほふる雨をあかつきの時雨になして秋はいにけり](大江戸倭歌;秋1034)[夜のほどにはや咲きみちて有明の月影おほふ花のしら雲](現存百人一首;54)

古文(こぶん・満田) → 懶斎(らんさい・満田みつた、藩士/儒者) F 1 9 8 6

古文(こぶん・文屋、狂名)→ 東四郎(二世とうしろう・片野善長よしなが) F 3 1 5 7

古文(こぶん→ふるふみ・友垣)→ 友垣古文(ともがきのふるふみ、狂歌作者) S 3 1 5 4

虎文(こぶん・宮原) → 炳友(あきとも・宮原みやはら、儒者/歌人) L 1 0 6 1

D1970 碁文(吾文/五文ごぶん・野田のだ/戸田/中田)?-? 江中期大阪の歌舞伎作者;中田嘉右衛門、1729二枚目作、31京で立作者/39合作者として活躍、44浄瑠璃作者に転向;戸田吾文名、1730「松金富貴礎」32「新舞台鏝礎」33「初夢曾我二人枕」36「親譲子金家督蔵」著、1737「けいせい足曳山」38「伊勢海道銭掛松」39「貫練門兵衛袖湊」、45「三軍桔梗原」外著多

D1971 互文(ごぶん・並木なみき) ?-? 歌舞伎脚本家、1768「関取二代勝負付」

N1956 小文吾(こぶんご・真柄まがら、名;直国)?-1868 出羽鶴岡七日町の旅籠屋/庄内藩の目明しを兼務、1840藩主の長岡国替に反対一揆(;異母兄玉竜寺文隣と)/41幕命撤回、1842「夢乃浮橋」著、

[小文吾(；通称)の別通称/屋号]別通称；文治、屋号；加茂屋

N1957 **小文次**(こぶんじ；通称・杉)? - ? 江後期尾張中島郡三宅庄の文筆、
1791「よしなしぐさ」著

小豊次(こぶんじ・五十嵐)→ 篤好(あつよし・五十嵐、測量/国学/歌) 1 0 2 5
後芬陀利花院(ごふんだりかいん)→ 経通(つねみち・一条、関白/詩人) D 2 9 8 5
後芬陀利花院前関白左大臣(ごふんだりかいんさきのかんぱくさだいじん)→ 経通(つねみち・一条) D 2 9 8 5
後文徳院(ごふんとくいん) → 後花園天皇(ごはなそのてんのう、学門/詩人) D 1 9 5 8
小平(こへい・立川) → 富房(とみふさ・立川たてかわ、大工) O 3 1 9 5
小平(こへい・入谷) → 澄士(すみお・入谷いりや、藩士/歌人) I 2 3 0 9
虎炳(こへい・吉田) → 平陽(へいよう・吉田、藩士/儒者/詩) 2 7 8 3

1940 **五瓶**(初世ごへい・並木なみき) 1747-1808 62 大坂道修町の役木戸和泉屋の生れ、
歌舞伎作者：初世並木正三門、1764頃大阪浜芝居の作者/1772大芝居作者；並木十輔門、
1774京で立作者、上方歌舞伎の代表作者として活躍、1794江戸下向/上方作風を江戸移入、
江戸座俳諧に参加、大阪で煙草・酒屋/江戸で薬屋経営、1777「天満宮菜種御供なたねのごう」、
1778「金門きんもん[楼門さんもん]五三桐ごさんのきり」80「帰命曲輪敦あなかしこくるわぶんしょう」、
1782「けいせい黄金鱸こがねのしゃちほこ」84「思花街容性おもわくるわかたぎ」、
1789「韓人漢文手管始かんじんかんもんてくだのはじまり」93「五大力恋緘ごだいきこいのふうじめ」、1802「葛裏葉」、
1803「江戸紫由縁十徳」05「江戸性男鑑」06「壮平家物語」、1807辞典「俳諧通言」、外著多数、
(1801劇書「戯財録」(入我亭我入作)の著者説?/並木正三2世なみきしょう説が有力：

参考 → 入我亭我入(にゅうがていがにゅう) F 3 3 7 8)

[絶景かな絶景かな 春の詠めは価千金とは小さなたとえ

この五右衛門が目からは万両](金門五三桐；五右衛門の台詞)

[初世五瓶(；号)の通称/別号]通称；五尺/五兵衛、

別号；五八[呉八/吾八](；初号)、吾瓶/浅草堂/並木舎、法号；彩岳院

1942 **五瓶**(3世ごへい・並木) 1789 - 1855 67 江戸歌舞伎作者：初世篠田金治(2世並木五瓶)門、
1819師没後二世篠田金治を襲名/旅芝居/江戸の作者；1833三世並木五瓶襲名；立作者格、
3世菊五郎・5世海老蔵(7世団十郎)のため執筆、1838「当平家世盛ときなりやへいしよざかり」、
1840「騎鯨きばざかり忠臣蔵」「勸進帳」/41「梅初春五十三駅つぎ」42「けいせい大江山」外脚本多数、
合巻；1848「五十三駅梅東路はなのあずまじ」49「いろは蔵水滸伝」54「怪談木幡小平次」著など、
[3世五瓶(；号)の通称/別号]通称；因幡屋小半次、別号；篠田惣六/2世篠田金治/並木舎

五瓶(2世ごへい・並木、葛葉山人)→ 金治(初世きんじ・篠田、歌舞伎作者/戯作) E 1 6 0 8

五瓶(4世ごへい・並木/3世篠田金治)→ 五柳(ごりゅう・並木、歌舞伎作者) E 1 9 0 6

五平(吾平ごへい・丹波屋/今西)→ 小道(こみち・初世柳条亭、商家/狂歌) F 1 9 8 8

五平(ごへい・小川) → 心斎(しんさい・小川おがわ、儒者/治水) E 2 2 2 1

五平(ごへい・贅川) → 貞雄(さだお・贅川にえかわ、国学者) P 2 0 0 3

五平(ごへい・松宮) → 清春(きよはる・松宮まつみや、藩士/詩人) V 1 6 2 6

五平(ごへい・本所) → 保盛(やすもり・本所/木戸、陪臣/歌人) G 4 5 5 9

悟平(ごへい・井上) → 尚賢(ひさかた・井上いのうえ、定紋研究) 3 7 9 5

小平次(こへいじ・大田) → 久知(ひさとも・大田おた、藩士/記録) B 3 7 5 7

小平次(こへいじ・玉置) → 次章(つぐあき・玉置たまき、藩士/地誌) 2 9 6 6

小平次(こへいじ・北川) → 堅壽(かたとも・北川きたがわ、武芸/兵法家) N 1 5 0 1

小平次(こへいじ・奥貫) → 友山(ゆうざん・奥貫おぐぬき/荻生、名主/救荒) B 4 6 9 1

小平次(こへいじ・市場) → 通笑(つうしょう・市場、黄表紙/噺本) 2 9 0 2

小平次(こへいじ・吉田) → 塵助(じんすけ・吉田よしだ、役人/茶人) P 2 2 0 5

小平次(こへいじ・阿部) → 忠秋(ただあき・阿部あべ、藩主/家訓書) P 2 6 0 6

五平治(ごへいじ・紙屋/宮川)→ 孟弼(たけすけ・宮川みやがわ、和算家) O 2 6 4 1

五平次(ごへいじ・辻) → 荻子(てきし・辻、藩士/俳人) B 3 0 9 6

五平次(ごへいじ・黒田) → 梁洲(りょうしゅう・黒田くろだ/森、藩士/儒) H 4 9 8 6

五平次(ごへいじ・奥貫) → 友山(ゆうざん・奥貫おぐぬき/荻生、名主/救荒) B 4 6 9 1

小平太(こへいた・服部) → 一忠(かずただ・服部はっとり、武将) M 1 5 2 5

小平太(こへいた・榊原) → 康政(やすまさ・榊原さかきばら、武将/城主) C 4 5 9 3
 小平太(こへいた・安井) → 則之(のりゆき・安井、藩士/神道家) G 3 5 1 6
 小平太(こへいた・榊原) → 政祐(まさすけ・榊原さかきばら/源、藩主) C 4 0 9 1
 小平太(こへいた・上野) → 忠親(ただちか・上野、藩士/郷土史家) F 2 6 2 7
 小平太(こへいた・萩原) → 広道(ひろみち・萩原、藩士/国学者/歌) 3 7 2 8
 小平太(こへいた・山名) → 豊樹(とよき・山名やまな、藩士/神職/国学) T 3 1 3 5
 小平太(こへいた・水谷) → 惟具(これとも・水谷みづたに、商家/国学者) R 1 9 3 7
 小平太(こへいた・山田) → 義臣(よしおみ・山田やまだ/村井、藩士/神職) P 4 7 8 7
 五平太(ごへいた・竹村) → 眞方(まさかた・竹村たけむら、藩士/歌人) Q 4 0 8 0

Q1925 小兵衛(こへえ・こひょうえ・武藤むとう)?-? 江前期;幕臣;将軍家光が京に赴いたときに随行、
 烏丸光広の宴に列席し詠歌;光広に称讃される、
 [ひと葉散る柳の糸の絶え間より影さへ細き秋の三日月]、
 (松平春嶽[古今百人一首]入;54)

小兵衛(こへえ・久須美) → 疎安(そあん・久須美/久須見、茶人) F 2 5 8 1
 小兵衛(こへえ・森脇) → 正仍(まさより・森脇もりわき/香川、藩士/国学) T 4 0 2 8
 小兵衛(こへえ・清水) → 以義(もちよし・清水しみず、神道家) B 4 4 8 0
 小兵衛(こへえ・岡本) → 祐躬(すけみ・岡本おかもと、藩士) H 2 3 0 4
 小兵衛(こへえ・小泉) → 孤屋(こおく・小泉こいずみ、俳人;炭俵編) C 1 9 1 3
 小兵衛(こへえ・石原) → 為平(いへい・石原、商家/俳人) I 1 1 2 2
 小兵衛(こへえ・稲束) → 嘉包(よしかね・稲束いなづか、商家/記録) L 4 7 6 0
 小兵衛(こへえ・野口) → 小成(おなり・野口のぐち、農事改良/歌人) E 1 4 0 4
 小兵衛(こへえ・扇屋) → 麦藁笛也(むぎわらのふえなり、狂歌作者) 4 2 4 4
 小平衛(こへえ・朝江) → 種英(たねひで・朝江・浅江、儒/俳人) G 2 6 4 1

N1958 五兵衛(ごへえ・名村なむら)?-? 江中期享保1716-36頃阿蘭陀小通詞、「和蘭問答」

N1959 五兵衛(ごへえ・桐屋きりや)?-? 江後期文化1804-18頃;吉原仲之町の茶屋主人/俄の興行、
 「吉原春秋二度の景物」著、
 [桐屋五兵衛(;通称)の号] 梧桐ごとう久儔ひさとも、一團

N1960 五兵衛(ごへえ・銭屋ぜにや、清水/本姓;橘)1773-1852獄中死80 加賀宮腰の海運業(豪商);1787家督、
 金沢藩窮乏時に御用金調達/御手船を裁許;苗字帯刀許可、河北潟新開埋立事業で投獄、
 財産没収/家名断絶、獄中に死す、銭屋の手代能登屋市兵衛も同事件で疑獄;斬首される、
 俳人;千崖・梅通と交遊、1821「東巡紀行」著、
 [五兵衛(;通称)の別通称/号]別通称;(初;)茂助、号;亀巢/橘仙堂/松帆榭(しょうはんしゃ)/松帆亭、
 屋号;銭屋、法号;釈宗啓

五兵衛(ごへえ・九保) → 正永(まさなが・九保くぼ、幕臣/書記) F 4 0 2 0
 五兵衛(ごへえ・並木) → 五瓶(初世ごへい・並木なみき、歌舞伎作者) 1 9 4 0
 五兵衛(ごへえ・栗山) → 大膳(だいぜん・栗山、藩家老/黒田騒動) K 2 6 5 0
 五兵衛(ごへえ・万屋) → 杜鷲(としゅう・北国きたぐに、俳人) O 3 1 0 7
 五兵衛(ごへえ・加賀屋) → 阿彦(あひこ・植松、商人/俳人) E 1 0 9 9
 五兵衛(ごへえ・米屋/小豆屋) → 伊助(いすけ・前原まえはら、藩士/義士) F 1 1 7 2
 五兵衛(ごへえ・佐藤/小田) → 穀山(こくざん・小田/田、漢学) F 1 9 5 5
 五兵衛(ごへえ・田沢) → 昌名(まさな・田沢たざわ/源、幕臣/歌) L 4 0 6 4
 五兵衛(ごへえ・堀内) → 昌郷(まささと/まさくに・堀内、庄屋/国学者) C 4 0 5 9
 五兵衛(ごへえ・今村) → 蓮坡(れんぱ・今村いまむら、藩士/詩人) B 5 1 3 1
 五兵衛(ごへえ・殿村) → 篠斎(しょうさい・殿村安守/大神、商家/国学/歌) J 2 2 0 4
 五兵衛(ごへえ・小笠原) → 貞道(さだみち・小笠原、藩士/文筆家) J 2 0 7 8
 五兵衛(ごへえ・贅川) → 良以(よしもち・贅川にえかわ、儒/地誌家) O 4 7 3 2
 五兵衛(ごへえ・南) → 亮方(すけかた・南みなみ、和算家) G 2 3 1 9
 五兵衛(ごへえ・中根) → 正邦(まさくに・中根なかね/平、歌人) M 4 0 1 5
 五兵衛(ごへえ・藤井) → 靖(やすし・藤井ふじい雪堂/木村、絵師) G 4 5 5 2
 五兵衛(ごへえ・猪熊/吉雄) → 種通(たねみち・吉雄よしお、蘭外科医) S 2 6 0 8

- 五兵衛(ごへえ・苜部) → 竹里(ちくり・苜部、俳人) D 2 8 9 1
 五兵衛(ごへえ・大倉) → 信古(のぶひさ・大倉おおくら/菅原、鑑定家) H 3 5 6 5
 五兵衛(ごへえ・加納) → 清雄(すがお・加納かのう、藩士/国学者) I 2 3 2 6
 五兵衛(ごへえ・竹内) → 堯民(たかたみ・竹内、国学者) Y 2 6 0 7
 五兵衛(ごへえ・平野屋) → 元隆(もとたか・高木たかぎ、商家/歌人) K 4 4 3 8
 五兵衛(ごへえ・錦織) → 義暁(よしあき・錦織にしづり、商家/庄屋/日記) O 4 7 3 6
 五兵衛(ごへえ・山口) → 国雄(くにお・山口やまぐち、商家/歌人) E 1 7 5 8
 五兵衛(ごへえ・彦部) → 知行(ともゆき・彦部ひこべ、機業/詩歌) W 3 1 1 8
 五兵衛(ごへえ・千葉) → 武悦(ぶえつ・千葉ちば、和算家) B 3 8 1 9
 伍兵衛(ごへえ・山田) → 惟雲(いづん・山田、商人/儒者) E 1 1 7 6
- G1989 **小別当**(こべつとう、大納言源俊実女)?-? 平安後期歌人、1093「郁芳門院根合」参加
 [万代はまかせたるべし石清水ながき流れを君によそへて](郁芳門院根合;四番右)
- 1941 **児部女王**(こべのおおきみ、伝不詳)?-? 万葉前期歌十六3821(;嗤ふ歌)、
 [うまし物いづくも飽かじ坂門さかたらが角つなのふくれにしぐあひにけむ](万葉:十六3821)
 (左注:坂門[尺度]娘女おとめが名家の美男子の求婚を断り卑姓の醜男と結婚した事を嗤ふ)
 子部王と同一か → 子部王(こべのおおきみ) D 1 9 7 2
- D1972 **子部王**(こべのおおきみ、伝不詳)?-? 万葉二・三期歌;八1515(但馬皇女の歌)
 (:但し題詞注に「子部王の作といふ」とある)
 [言繁ことげき里に住まはずは今朝鳴きし雁にたぐひて行かましものを](万葉集:八1515)
 児部女王と同一か → 児部女王(こべのおおきみ) 1 9 4 1
- D1973 **許遍麻呂**(こへまる・秦はだ)?-? 万葉四期歌人、738橘奈良麿の集宴参加:卷八1589、
 [露霜にあへる黄葉を手折り来て妹はかざしつのちは散るとも](万葉集:八1589)
- D1974 **小弁**(こべん、別名;宮の小弁/一宮の小弁、祐子内親王家女房、藤原懷尹女)?-? 母;源致書女、
 民部大輔平経方の妻、後朱雀天皇皇女祐子内親王(一宮)家に出仕、紀伊(歌人)の母、
 1032上東門院菊合/41源大納言師房家歌合/49六条齋院歌合/50祐子内親王家歌合等参加、
 物語作者;1055六条齋院祿子内親王家物語合「岩垣沼の中将」作(散佚)、
 万代集・夫木抄・続詞花集・雲葉集4首入、
 勅撰46首;後拾遺(15首15/67/191/203/238/247/655/803/862/874/875/900/995/1190)、
 金葉(解43)/千載(270/357)新古(319/1063/1490)新勅(234)続後撰(4首)以下、
 [寝ぬ夜こそ数つもりぬれほとゝぎす聞くほどもなき一声により]
 (後拾遺;三夏191/祐子内親王家歌合)
 息女;紀伊 → 祐子内親王家紀伊(ゆうしなしいしのうけのきい) 4 6 0 3
 小弁命婦と同一説? → 小弁命婦(こべんのみようぶ) D 1 9 7 5
 参照 小式部と贈答 → 小式部(こしきぶ、祐子/祿子(妹)内親王家女房) C 1 9 7 6
- 小弁(こべん) → 小弁(しょうべん、万葉歌人) B 2 2 5 0
 五返舎半九(ごへんしゃはんく) → 半九(はんく・五返舎、戯作者) H 3 6 4 3
 後遍智院准后(ごへんちいんじゅごう) → 義賢(ぎけん;法諱、真言僧/門跡/歌) B 1 6 0 7
- D1975 **小弁命婦**(こべんのみようぶ、藤原懷尹妹or女)?-? 平安後期歌人、栄花物語に[齋院の小弁の命婦]、
 齋院馨子内親王家の女房、千載集561、
 [かなしさに添えてもものかなしきは別れのうちの別れなりけり](千載:九561)
 (3歳で両親を続けて失い、法会の後姉章子とも別れ別れになる幼宮馨子への思い)
 祐子内親王家小弁と同一説? → 小弁(こべん・宮の小弁、歌人) D 1 9 7 4
- 古甫(こほ・楠本) → 碩水(せきすい・楠本くすもと、藩儒/教育) D 2 4 6 5
- N1962 **古法**(こほう;道号・万英ばんえい;法諱、俗姓;工藤) 1627-8761 秋田の曹洞僧;両親が出家に反対;出奔、
 1643黒石の大播門/44江戸の光紹門/46大播門;師流謫により牡鹿郡江嶋に移住;47赦免、
 輪王寺14世松巖春長門/嗣法、輪王寺15世、1683「輪王寺系譜」、「瑞用寺記」著
- G1967 **虎峰**(こほう・武藤むとう、名;吉祥よしなか、吉士男) 1810-6556 豊後臼杵の儒者(家学);父門、
 1836江戸遊学、儒;東条一堂門/国史・古典;村田春野門、1842臼杵藩校学古館教授/学頭、
 藩主稲葉家侍講、家塾を開く:子弟教育/歌人、
 「知言摘要」「先代行実」「服忌要覧」著、東里(吉紀)の孫、

[虎峰(；号)の字/通称]字;子熊、通称;祝

古峰(ごほう・那波) → 蕉臆(しょうおう・那波なば、漢学者/詩歌) K 2 2 5 3

壺峯(ごほう・松井) → 精(せい・松井、俗語辞書) 2 4 4 7

壺峰(ごほう・深山) → 陸渾(りくこん・深山みやま、儒者/詩人) 4 9 7 2

孤峰(ごほう;道号・覚明) → 覚明(かくみょう;法諱・孤峰、臨濟僧/天台・曹洞学) B 1 5 7 3

孤峰(ごほう・川上) → 不白(ふはく・川上かわかみ、茶人/俳人) D 3 8 6 3

孤鳳(ごほう・三井) → 宗之(むねゆき・三井みつ、眼科医/歌人) C 4 2 7 8

鼓峰(ごほう・河北) → 景楨(かげえだ・河北かわきた、藩士/儒者) F 1 5 0 1

D1976 五鳳(ごほう) ? - ? 山形雜俳点者・1780楓吳「いなか曲紅ばたけ」入、
1803てつ磨「俳風最上土産」入(；初編選者)

N1963 五峰(ごほう・長曾根ながそね、名;玄)?-? 江後期文化1804-18頃讃岐の医者、
下総関宿藩医、詩人:采風集入集、「長曾根五峰自伝麓眞柴」著

N1964 五芳(ごほう・石田いしだ) ? - 1827? 播磨宇佐崎の俳人;1835飾磨大歳社に芭蕉碑建立、
1794「新さむしろ」97「いぬ楨」98「ゑみ栗物語」1816「ひとはかな」編、「つたのや日記」編、
[五芳(；号)の通称/別号]通称;善左衛門、別号;有無庵/羅堂/文雅園

五峯(ごほう・五代) → 秀堯(ひでたか・五代ごだい、藩士/儒者) D 3 7 1 3

五峰(ごほう・折田) → 年秀(としひで・折田、藩士/海防策) N 3 1 5 4

五峰(ごほう・松木) → 偉彦(くすひこ・松木まつき、神職/書画) E 1 7 5 1

五鳳(ごほう) → 畔李(はなり・南部、藩主/俳人) I 3 6 6 0

五鳳(ごほう・羽間) → 重光(しげみつ・羽間はざま、質商/系譜) S 2 1 8 3

悟芳(ごほう;法諱) → 瑞雲(ずいうん;道号・悟芳;法諱、黄檗僧) E 2 3 0 8

孤蓬庵(ごほうあん) → 遠州(えんしゅう・小堀政一、藩主/茶/造園) 1 3 0 1

孤峰庵(ごほうあん) → 葦雄(あしお・関せき、茶道/国学) H 1 0 7 9

護法院(ごほういん) → 日善(にちぜん;法諱、日蓮僧/国学) C 3 3 6 9

護法院(ごほういん) → 哲僧(てつそう、真宗大谷派僧) E 3 0 7 0

護法院(ごほういん) → 村良(むらかた・むらよし・伊達だて、領主) D 4 2 1 1

後報恩院入道前関白左大臣(かごほうおんいんにゅうどうさきのかんぱくさだいじん:新統古)

→ 経教(つねのり・九条、歌人) D 2 9 0 9

古法眼(ごほうげん) → 元信(もとのおぶ・狩野かのう、幕府絵師) D 4 4 6 8

後法興院(ごほうこういん) → 政家(まさいえ・近衛/藤原、関白/日記/歌) B 4 0 2 9

後法興院関白(ごほうこういんかんぱく) → 政家(まさいえ・近衛/藤原、日記/歌) B 4 0 2 9

後法金剛院御室(ごほうこんごういんのおむろ) → 覚道親王(かくどうしんのう、真言僧) K 1 5 2 7

五峰山房(ごほうさんじん) → 栗山(りつざん・柴野、幕府儒官/異学の禁) 4 9 0 3

小法師(ごほうし・伊勢) → 貞興(さだおき・伊勢いせ/平、武将) H 2 0 8 3

小法師(ごほうし・伊勢) → 貞良(さだよし・伊勢/平、故実家) K 2 0 1 9

後法成寺関白(ごほうじょうじかんぱく) → 尚通(ひさみち・近衛、太政大臣、歌/連歌) B 3 7 9 4

後豊神靈神(ごほうしんれいしん) → 兼隆(かねたか・吉田/卜部、神職/日記) C 1 5 8 1

五朋楼(ごほうろう) → 如毛(じょうもう・岡崎おかざき、酒造業/俳人) M 2 2 8 5

後法性寺殿(ごほっしょうじどの) → 兼実(かねざね・九条/藤原、撰関/歌) 1 5 2 9

後法成寺大証(ごほっしょうじのだいしょう) → 尚通(ひさみち・近衛、歌/連歌) B 3 7 9 4

後法成寺入道前太政大臣(ごほっしょうじのにゅうどうさきのだいしょうだいじん) → 兼実(かねざね・九条) 1 5 2 9

N1965 古璞(ごぼく;道号・良玄りょうげん;法諱)?-? 江中期曹洞僧:加賀大乘寺慈麟玄趾門、紀伊法泉寺住持、
能登芳春寺住寺、1780「慈麟和尚全録」「慈麟和尚牛欄隠稿」編

古木(ごぼく・近藤) → 芳樹(よしき・近藤/田中、国学者/歌) 4 7 0 9

枯木(ごぼく・溝口) → 徳成(のりなり・溝口みぞぐち、藩士/弓術家) F 3 5 3 7

枯木(ごぼく;号) → 永恩(えいおん;法諱・春澤、臨濟僧) 1 3 1 6

M1923 伍卜(ごぼく) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(56)

N1966 五木(ごぼく・島津しまづ、別号;五木庵) 1787-1848 日向延岡商家/俳人:野月門/1838家を弟に譲渡、
大阪の五竹庵木遷[駝岳]門、九州四国行脚/今橋住;宗匠として門弟指導、
1841「多計都恵たけつえ集」43「名ひろめ集」53「玉川」編、「誹諧素玄問答」著、

[五木の通称/屋号]通称;安兵衛/平野五木、屋号;平野屋

- 枯木庵(古木庵こぼくあん) → 契史(けいし・本間、俳人) F 1 8 8 9
枯木庵(こぼくあん) → 雲扇(うんせん・井上いのうえ、俳人) D 1 2 8 8
五木庵(ごぼくあん) → 五木(ごぼく・島津、商家/俳人) N 1 9 6 6
後菩提寺大僧正(ごぼだいじだいそうじょう) → 光濟(こうさい;法諱、真言僧/歌人) B 1 9 4 8
後牡丹花老人(ごぼたんかろうじん) → 蕙楼(けいろう・恩田おんだ、儒者) 1 8 9 7
後堀河院民部卿典侍(ごほりかわいんのみんぶきょうのすけ) → 民部卿典侍(みんぶきょうのすけ) G 4 1 9 1
D1977 後堀河天皇(ごほりかわてんのう、名;茂仁ゆたひと、守貞親王男/高倉天皇孫) 1212-34早世²³ 在位1221-32、
歌;1232定家に「新勅撰集」撰進の勅宣/1234新勅撰仮奏覧;御製追加を望まれるが没、
定家は悲嘆し焼却したという、
新勅撰5首(1/27/684/743/1157)、
[あらたまのとしもかはらで立つ春は霞ばかりぞ空に知りける]、
(新勅;春1/年の内に来た春の心を詠む)
N1967 古梵(こぼん) ? - ? 尾張の僧/俳人;1689「あら野」2句入、
[たれ人の手がらもからじ花の春](あら野;卷二/新春の清々しきは人間業ではない)
御本城様(ごほんじょうさま) → 氏康(うじやす・北条、武将/城主/歌人) 1 2 5 5
五本亭万羽(ごほんていまんう) → 万羽(まんう・五本亭、俳人) K 4 0 3 8
Q1936 こま(・魚住うおずみ、別名;春江、福岡藩士魚住明誠あきのぶ2女) 1834-1905⁷² 筑前早良郡地藏ヶ谷生、
早くより和漢の書に精通/歌人、病身の父を助け終生結婚せず、
維新後;福岡医科大学の看護婦長
こま(駒・小馬) → 小馬命婦(こまのみょうぶ、歌人/物語作者) D 1 9 8 2
駒一郎(こまいちろう・枝吉) → 神陽(しんよう・枝吉えだよし、藩儒/勤王派) Q 2 2 0 2
R1944 駒雄(巨摩雄こまお・八代やし、号;桃屋) 1740-1897⁵⁸ 甲斐巨摩郡の代々の医者、国学者、
医・神道;佐藤鶴城(神符鷹しのぶまろ)門/国学・歌;堀秀成門/神道・皇典・医;権田直助門、
国学;井上頼囀門、維新後;甲斐巨摩郡諏訪神社権禰宜、甲斐浅間神社宮司、
山梨県各地の郡長;殖産興業(特に甲斐の織法改良)に尽力
護摩王(ごまおう) → 玄昭(玄照げんしょう;法諱、天台僧) J 1 8 9 1
駒谷散人(こまがやさんじん) → 昭武(あきたけ・榎島まきしま、国学/軍記) C 1 0 5 3
小牧(こまき・河合) → 象子(きさこ・河合かわい/山中、国学/歌人) T 1 6 9 9
駒吉(こまきち・牧野) → 貞幹(さだもと・牧野、藩主/写生) J 2 0 9 2
駒吉(こまきち・神崎;変名) → 孝成(たかしげ・千屋ちや、医者/勤王派) M 2 6 0 8
駒吉(こまきち・白石) → 資風(すけかぜ・白石、商家/国学/勤王) G 2 3 1 6
駒吉郎(こまきちろう・佐藤) → 茂世(しばよ・佐藤さとう、国学者) O 2 1 5 4
D1935 小牧牛歩(こまきのぎゅうほ) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」入:
[不逢恋 わりくどきかけもどしても十露盤にあはぬ恨みのつもりもの哉]
小槇舎(こまきのや) → 直澄(なおずみ・落合、国学者) B 3 2 4 4
駒三郎(こまさぶろう・内海) → 克清(かつきよ・内海うつみ/田村/中臣、国学) T 1 5 7 8
駒三郎(こまさぶろう・村瀬) → 美香(よしか・村瀬むらせ、藩士/詩歌/篆刻/陶芸) P 4 7 5 4
駒次郎(こまじろう・松平) → 雪川(せつせん・松平まつだいら、俳人) E 2 4 4 8
駒次郎(こまじろう・小島屋) → 白駒(はくく・千里亭、狂歌) F 3 6 1 7
駒次郎(こまじろう・谷) → 安之(やすゆき・谷たに、書家) D 4 5 3 9
駒次郎(こまじろう・桑原) → 君仲(くんちゅう・桑原くわばら、湯屋/将棋) C 1 7 1 5
駒次郎(こまじろう・伊達) → 宗翰(むねもと・伊達だて、藩主/歌) D 4 2 5 2
駒次郎(こまじろう・半井) → 眞澄(ますみ・半井なからい、医者/国学) R 4 0 2 9
駒助(こまさけ・河野) → 徳能(のりよし・河野こうの/土持、国学) I 3 5 4 8
駒三(こまぞう・野口) → 日輝(にちき;法諱・優陀那院、日蓮僧) B 3 3 1 8
駒蔵(こまぞう・渡辺) → 明(あきら・渡辺、国学者) E 1 0 1 9
駒蔵(こまぞう・甲斐) → 広永(ひろなが・甲斐かい、和算家/教育) G 3 7 6 2
駒蔵(こまぞう・高野) → 隆礼(たかのり・高野たかの、和算家/教育) M 2 6 8 8
高麗蔵(こまぞう・市川) → 幸四郎(四世こうしろう・松本、歌舞伎役者) B 1 9 4 0

高麗藏(3世こまぞう・市川)→ 幸四郎(五世こうしろう・松本、歌舞伎役者/合巻) B 1 9 4 1

駒太郎(こまたろう・月形)→ 漪嵐(いらん・月形つきがた弘、藩士/儒者) I 1 1 3 6

駒太郎(こまたろう・萩原)→ 嵩嶽(すうがく・萩原楽亭、儒者/講説) 2 3 9 7

- 1943 **小町**(こまち・小野おの、出生は諸説)830前?-? 平安前期期840-50頃仁明天皇期の歌人、六歌仙、
「小町集」、古今集に安部清行・小野貞樹・文屋康秀との贈答あり;の人物、早くから伝説化、
勅撰66首;古今(18首113/552/553/以下)後撰(4首)/新古今以下;小町の歌か疑問、雲葉入、
[花の色はうつりにけりないたづらにわが身世にふるながめせしまに](古今113)、
小町の出生説;①出羽国郡司の女(母;衣通姫)②出羽守小野良真(篁男)③宮廷出仕の采女、
④仁明天皇更衣小野吉子かまたはその妹、等々、
[**小町説話**];①美人説話 ②色好み説話 ③驕慢[男嫌い]説話 ④歌徳説話 ⑤衰老説話

- D1980 **小町姉**(こまちがあね・小野、小町がいとこ)?-? 平安期歌人、伝未詳、
姉の存在が小(年若い)町の名の由来か?
勅撰5首;古今(790)後撰(617、895、1290)、
[時過ぎてかれゆく小野の浅茅には今は思ひぞ絶えずもえける](古今;恋790)、
(契った男が疎遠になり焼けた茅葉を贈る歌/今も野焼き火のごとく恋に燃えている)

- D1981 **小町孫**(こまちがむまご) ? - ? 平安期歌人、小町の結婚出産未確認のため不詳、
後撰集1267、
[うき事をしのぶる雨の下にして我が濡衣ぬれぎぬはほせど乾かず](後撰;十八雑1267)
(浮気の評判が立った頃、ある男に宛てた歌)

小松園(こまつえん) → 和平(かずひら・菊田まきた/小笠原、農家/国学/神職) U 1 5 4 8

小松中納言(こまつちゅうなごん) → 利常(としつね・前田、藩主) M 3 1 9 2

小松内大臣(こまつないだいじん) → 重盛(しげもり・平たいら、武将/歌人) D 2 1 1 9

小松殿(こまつどの) → 重盛(しげもり・平たいら、武将/歌人) D 2 1 1 9

小松僧都(こまつそうず) → 実因(じついん;法諱、天台僧/歌人) E 2 1 7 5

小松帝(こまつのみかど) → 光孝天皇(こうこうてんのう、歌人) 1 9 1 0

独楽亭(こまてい/どくらてい) → 芹水(きんすい・平尾ひらお/西郷、儒者/詩) J 1 6 0 3

- N1968 **駒成**(こまなり・壺洞楼、瓢箪舎)?-? 1818-30頃高崎狂歌、「名引狂歌合兼題桜」編

駒之丞(こまのじょう・野矢) → 常方(つねかた・野矢のや、藩士/槍術/歌) B 2 9 9 6

駒之進(こまのしん・県) → 信緝(のぶつぐ・県あがた、家老/日記) C 3 5 0 6

駒之助(こまのすけ・本多) → 猗蘭(いらん・本多、藩主/詩歌人) B 1 1 9 3

駒之助(こまのすけ・本多) → 忠奄(ただひろ・本多ほんだ、藩主) Q 2 6 7 1

駒之助(こまのすけ・本多) → 忠寛(ただひろ・本多ほんだ、藩主) Q 2 6 7 2

駒之助(こまのすけ・鈴木) → 重視(しげみ・鈴木すずき/佐野、幕臣/奉行) Z 2 1 1 9

駒之助(こまのすけ・本間) → 俊安(しゅんあん・本間ほんま、医者) 2 1 9 2

駒之助(こまのすけ・浅井) → 玄香(げんこう・浅井あさい、藩士/詩) I 1 8 7 5

駒之助(こまのすけ・穎川/葉) → 雅範(まさのり・穎川えがわ/葉/盧、通事) G 4 0 2 7

駒之助(こまのすけ・栗山) → 文行(ふみゆき・栗山くりやま、国学/歌人) I 3 8 1 8

駒之助(こまのすけ・北脇/広瀬) → 保水(ほすい・広瀬/北脇、実業家) E 3 9 3 5

狛僧正(こまのそうじょう) → 行慶(ぎょうけい;法諱、天台僧/歌人) C 1 6 3 7

狛朝葛(こまのともかつ) → 朝葛(ともかつ・狛、楽家) P 3 1 3 4

- 1922 **小馬命婦**(こまのみょうぶ、摂津守藤原棟町女)?-? 円融天皇皇后嬪子(兼通女)女房;嬪子没後に出家、
平安前期歌人;元良親王・清原元輔・大中臣能宣と親交、清少納言の女とは別人、
979「小馬命婦集」、勅撰6首;拾遺(918)新古今(1737)玉葉(1568/1618/2603)新千(1492)
[数ならぬ身はたゞにだに思ほえていかにせよとかながめらるらん](拾遺;恋918、
元良親王の情に対する身分違いなのに自制できない恋を訴える歌)

- N1969 **小馬命婦**(こまのみょうぶ、幼名;狛/俗称;小馬、藤原棟世女)?-? 母;清少納言、上東門院彰子女房、
平安中期歌人;後拾遺908、
[その色の草とも見えずかれにしをいかにいひてかけふは掛くべき](後拾;雑908、
高階為家が情を交わした女にかれがれの後みあれ[賀茂祭まに神事]の日暮には、
と言って葵を贈ってきたので、女に代わって詠む)

新拾遺集の清少納言女と同一? → 清少納言女(せいしょうなごんのむすめ) C 2 4 2 8

- D1982 **小馬命婦**(こまのみょうぶ、掌侍源義子or源家子?)?-? 平安後期女房歌人、後一条院内裏に出仕、章子内親王(後一条院皇女)に供奉、六条齋院祿子内親王家女房、歌人/物語作者、1050-78六条齋院祿子家歌合16回参加;うち1055齋院物語合;「いはぬに人の」作、[小山田のしづのをどもはいつしかとまづ苗代の急ぎをぞする](永承五年1050二月;六条齋院歌合;苗代右18)
[あやめぐさながきねにこそ沼水の底の心のほどは知らるれ](同歌合三番菖蒲さうぶ)
- 駒彦(こまひこ・牧野) → 光照(みつてる・牧野まきの、国学/歌人) K 4 1 5 2
肥人(こまひと・うまひと・ひびと・田氏・少令史) → 肥人(うまひと、万葉歌人) 1 2 8 9
駒人(こまひと・牧亭) → 牧亭駒人(ぼくていこまんど、狂歌/歌人) D 3 9 7 4
駒平(こまへい・田沢) → 仲舒(なかのぶ・田沢、医者/歌人) F 3 2 1 3
高麗麻呂(こまろ・中村) → 春野(はるの・中村なかむら、藩士/国/史学) G 3 6 6 7
ごまめ(・腥[鯉]齋) → 川柳(6世せんにゅう、腥[鯉]齋なまぐさい) 2 4 4 4
- D1983 **古麻呂**(こまろ・上かみ) ? - ? 上氏は百濟系?、万葉三期歌人、卷三356
[今日もかも明日香の川の夕去らずかはづ鳴く瀬のさやけくあるらむ]
(万葉集;三356/夕去らずは夕方ごとにの意)
- D1984 **古麻呂**(こまろ・伊支いき・伊吉・雪/姓;連)?-? 渡来系廷臣、702第七次遣唐使に従い入唐、憶良らと同行/707帰国/713従五下/729従五上、732下野守/上総守、詩;懷風藻107
- D1985 **古麻呂**(こまろ・塩屋しおや/姓;連、吉麻呂?)?-? 廷臣、養老律令撰修に参画、721東宮に侍、722律令撰修の功に田を賜/739従五下/740広嗣乱に連座;配流/741赦免、751大学頭、詩;751「懷風藻」106
- D1986 **古麻呂**(こまろ・調つき/姓;忌寸いみき)?-? 渡来系廷臣、皇太子学士、721学業師範として賜、明経第二博士;七位上/六位上、詩;懷風藻62
- D1988 **古麻呂**(胡麻呂/胡満こまろ・大伴宿禰、旅人の甥、宿奈麻呂男?)?-757杖下死 奈良期廷臣、730大伴旅人の重病時に稻君と大宰府へ西下、733大学寮官人として入唐/749左少弁、750遣唐副使;751古慈悲邸で餞宴/渡唐:唐の朝賀席次の扱いに憤る;新羅への優位を主張、754鑑真を伴い帰国することに尽力、757陸奥鎮守府将軍、757奈良磨変に連座;刑死、万葉集四567(胡麻呂帰京時の山口若麻呂歌)左注/十九4262詞書と左注(入唐送別の歌)
- D1987 **古麻呂**(こまろ・物部ものべ) ? - ? 奈良期755防人/遠江長下郡ながたのしものこおり出身、万葉廿4327、[我が妻も絵に描かき取らむ暇いまもが旅行く我あはれは見つつ偲はむ](万葉集;廿4327)
- F1918 **湖丸**(こまろ) ? - ? 江中期雑俳点者;1746-47「湖丸評万句合」
古丸(こまろ・宗亭) → 明清(あきまよ・山本、国学/歌学) 1 0 6 3
駒六(こまろ・鈴木) → 書緒(書雄/文緒みお・鈴木、国学者) H 3 8 8 2
古満(こまろ・柴田) → 是真(せしん・柴田しばた、絵師/漆芸家) D 2 4 9 9
吾鬢(ごまん・寺山) → 吾鬢(あざら・寺山、藩士/歌人) E 1 0 4 8
後万海(ごまんかい/ごばんかい・武村) → 益友(えきゆう・武村、俳人) 1 3 5 7
五万巻堂主人(ごまんかんどうしゅじん) → 梅堂(ばいどう・浅野、幕臣/和学) B 3 6 9 2
五万巻楼(ごまんかんろう) → 梅堂(ばいどう・浅野、幕臣/和学) B 3 6 9 2
- F1987 **駒人**(こまんど・駒亭えきてい、浜村はまむら・名;輔) ?-? 1818-44頃歌舞伎作/合巻代作・人情本:為永春水門、1824春水編述「三日月於専おせん」(柳魚駒人執筆)、26春水「玉川日記」(第二編駒人校訂)、1826-28春水「婦女今川」(駒亭駒人校訂)、「松之月」、1830「半月夜話」著、読本「総猿僭語そうえんせんご」[1823一輯(瀬川如臯作)27二輯(駒人の如臯代作)29三輯(柳魚名)]
[駒亭駒人の別号] 白頭子柳魚はくとうしりゅうぎよ
駒人(こまんど・牧亭、狂歌/歌人)? → 牧亭駒人(ぼくていこまんど・土屋) D 3 9 7 4
- D1989 **後水尾天皇**(ごみずのおてんのう、名;政仁まさひと、後陽成天皇皇子) 1596-1680⁸⁵ 母;中和院前子(前久女)、1611-29在位、院政、1651落飾、妻(中宮);徳川秀忠女和子、幕府の干渉顕著、公家文化復興、古典に造詣/歌;智仁親王より古今伝受/修学院離宮を造営、詩歌/茶/花/書画/香/禪に通ず、「鷗巢集」「可秘抄」「易然集」、1637「御着到百首」、38[後鳥羽院四百年忌御会]参加、「類題和歌集」撰、「歌道の歌」「曙夕歌集」「後水尾院御製和歌集」「後水尾院御製詩集」、「円浄法皇自選和歌集」「和漢聯句」外作品多数、

[梓弓大和の国はおしなべて治まる道に春や来ぬらむ] (御着到百首;1)、
[こひつゝもなくや四よかへりもゝ千鳥霞へだてて遠き昔を] (後鳥羽院四百忌;冒頭/霞)、
[後水尾天皇の幼名/号]幼名;三宮、号;円浄(落飾号)/寛永太上皇

F1988 **小道**(こみち・初世柳条亭りゅうじょうてい、今西いまし、名;道也) 1766-1841 76 京東中筋五条の醤油商、
狂歌:大阪の条果亭門、得閑齋社中、

1819「わかみとり」、20-32「狂歌安左美登李」編、1832「狂歌布もとの塵」著:未刊

[初世柳条亭小道(;号)の字/通称]字;了也、通称;丹波屋五平(吾平)

壺蜜軒(こみつげん) → 一蜂(いっぽう・河曲かわぶ、俳人) B 1 1 6 6

五味堂(ごみどう・関根) → 白芹(はつきん・関根、旅宿業/俳人) F 3 6 1 6

小蓑庵(こみのあん) → 長翠(ちようすい・常世田とこよだ、俳人) J 2 8 0 9

小蓑庵(2世こみのあん) → 確嶺(たいれい・仁井田にいだ、俳人) C 2 6 3 6

小蓑菴(3世こみのあん) → 鹿鳴(ろくめい・中村屋、旅宿業/俳人) B 5 2 1 0

小蓑菴(こみのあん) → 支兀(しごつ・冬瓜坊、俳人/俳文) D 2 1 6 4

ごみ半(ごみはん) → 治助(2世じすけ・桜田、松島半二、歌舞伎作者) 2 1 2 3

N1970 **虎明**(こみょう;法諱・白心;字、俗姓;荒田) 1709-88 80 武州入間郡勝楽寺村の真言僧:

1719円乗寺智伝門;出家、長谷寺で修行/1764武州中島金剛院住/73江戸本所弥勒寺に転住、
1781(天明元)長谷寺30世、

「釈摩訶衍論私記」「顕密対弁私記」著

N1971 **護命**(ごみょう・小塔院僧正、俗姓秦) 750-834 85 美濃各務郡の僧:道興門/法相;元興寺万耀・勝悟門、
764唐招提寺の唐僧法進より受戒、805大極殿で最勝王経を講;大法師に叙位/815少僧都、
816大僧都/819最澄の大乗戒壇建立に対論;法相を顕揚、戒壇建立により山田寺に退隠、
827僧正/834元興寺小塔院で没、「対論記」「法華綱要」「法華解節記」「顕唯識序釈」外著多数

N1973 **護明**(語明ごみょう;法諱・照堂しょうどう;字) 1735-80 46 紀伊海士郡相坂村の真言僧:飲光門、
師の悉曇語法の口述筆記、1766師より正法律の付属を受/河内長栄寺3世、
1772「七九又略」、「七九略抄」「梵学津梁」著

N1972 **護命**(ごみょう;法諱、俗姓;藻塩) 1798-1870 73 安藝東海田真宗本願寺派僧/忠海ただのうみ明泉寺住職、
1857藝備宗法取締役/62了庵と論争;「信心成施問答」「信相論」、「決私不同弁」「名義略記」著
悟妙(ごみょう;法名) → 惟成(これいげ・これなり・藤原、廷臣/詩歌) 1 9 4 4

N1974 **胡民**(こみん・中山なかやま、金左衛門男) 1808-70 63 武蔵葛飾郡寺島村の蒔絵師:江戸の原羊遊齋門、
法橋、江戸両国矢の倉住、茶の湯/俳諧、
蒔絵作品「虫籠蒔絵菓子器」、「塗蒔絵控」「蒔絵註文控」著、
[胡民(;名)の通称/号]通称;祐吉、号;泉々/風観子、法号;泉々庵玉童胡民居士

D1990 **五民**(ごみん) ? - ? 江戸住・雑俳点者:1834-一声「歌羅衣」入

五無庵(ごむあん) → 桃隣(初世とうりん・天野あまの、俳人) 3 1 2 9

五無庵(ごむあん) → 桃隣(2世とうりん・切部、俳人) I 3 1 3 5

娯夢庵千々丸(ごむあんちぢまる) → 宗正(むねまさ・那須なす、国学/歌人) E 4 2 0 7

虚無斎(こむさい) → 文鱗(ぶんりん・鳥居/鳥井とりい、俳人) G 3 8 7 6

虚無斎(こむさい) → 不角(ふかく・立羽たちば/山崎、書肆/俳人) 3 8 0 3

D1991 **後村上天皇**(ごむらかみてんのう、後醍醐天皇皇子) 1328-68 41 南朝2代/在位1339-68、

母;新待賢門院廉子(阿野公廉女)、1333北畠顕家に奉ぜられ陸奥へ/34親王/36陸奥大守、
1338吉野帰国後また南朝鼓舞のため東国下向途中伊勢で難破/39吉野で即位、

京に進軍後に大和賀名生・山城男山・河内金剛寺の行宮を巡り住吉行宮に没、
歌:「後村上院御百首」、「年中行事御百首」、1365[正平廿年三百六十首]催(住吉行宮)、
新葉集100首;1/9/14/17/31/75/85/86/92/110/122/159/212/230/231以下、

[いつる日に春の光はあらはれて年たちかへる天の香具山](新葉集;春1/冒頭歌;立春)

[春のくる雲のとばりをかかげてぞまづ万代の声は聞きける](正平三百首;冒頭/女房名)、

[後村上天皇の名/通称]名;憲良/義良のりなが、通称;吉野殿/賀名生あう殿/住吉殿

D1992 **小紫**(こむらさき) ? - ? 江戸吉原の遊女、雅文「萱草」著:1738「洞房語園」入
小紫(初世こむらさき・岩井) → 半四郎(7世はんしろう・岩井いはい、歌舞伎役者) I 3 6 0 6
五六六(ごむろく) → 山鳥(さんちよう・岡、戯作者) E 2 0 5 7

- F1989 **許梅**(こめ・高市たけち/姓; 県主あがたぬし) ?-? 大和期672壬申乱; 天武天皇側に参戦、
7月大和高市郡金綱井かつないでの戦の時; 事代主神が神懸りして託宣を受ける(: 天武記入)
古溟(こめい・松井) → **安雄**(やすお・松井まつい、里正/和学) G 4 5 6 6
虎明(こめい・大蔵) → **虎明**(とらあきら・大蔵、能楽師・狂言方) R 3 1 7 1
虎明(こめい・白心) → **虎明**(こみょう; 法諱・白心、真言僧) N 1 9 7 0
- D1993 **五明**(ごめい・吉川きつかわ、那波三郎右衛門祐祥5男) 1731-1803 73 秋田の豪商(京の那波家一族)の生、
秋田藩御用達の豪商吉川惣右衛門宗順の養子、俳諧; 実父の影響で親しむ; 美濃派風、
家業に精励、1782隠居; 小夜庵で俳事に専念; 蕉風を志す、秋田正風の祖; 奥羽四天王の1、
門弟500余名、巢兆・蘭更・成美ら各地の俳人と交流、「小夜庵発句集」「小夜話」「雄鹿紀行」、
「郭公の辨」編/「こぼれ穂」「雁の路」「華の雲」「桜紙」「筆かへし」「俳諧蓼保多留」、
1794「七草かり」95「霜の声」95「ひとり歩行」、「五明句藻」(; 自筆句帖) 著、
遺句集「佳気悲南多かげひなた」、「俳哲五明集」(明倫叢書入)、養嗣子; 春朝(俳人)、
[朧夜や氷離るゝ岸の音](五明句藻/小夜庵発句集)、
[逆さかのぼる鮭に月飛ぶ早瀬かな](五明句藻/秋田北郊の泉にて; 雄物川支流の旭川)、
[五明(; 号)の名/字/通称/別号]名; 兄之しげゆき/改名; 祐之すけゆき、字; 了阿、
通称; 伊五郎/庄九郎/伊右衛門/宗七郎、屋号; 片屋総七郎、
別号; 小夜庵さよあん/虫二房/披襟舎/逍遙閣/二昼庵/満腹亭/一方庵/鶴頭叟/了閑亭、
紙洞仙/鼠河/孤松主人
- N1975 **五明**(ごめい・日高ひだか、名; 盛郡/元経、二松亭、菊路男) 1749-1820 72 日向城ヶ崎酒造業、
俳人; 蝶夢門、
1797「芭蕉翁三等之文」「星明り」編/1818古稀賀集「松賀左根」(; 息子明之・路牛編)、
追善集「もとの月夜」、同時期同地同門の太田五明(可笛)とは別人
五明(ごめい・可笛) → **可笛**(かてき・太田おた、日向俳人) O 1 5 1 0
五明(ごめい・塚谷) → **五明**(ゆきあきら・塚谷つかたに、藩士/記録) E 4 6 2 2
五明(ごめい・百々ど) → **百雄**(ひやくゆう・花月堂、百々政業、狂歌) E 3 7 8 2
悟明(ごめい; 初法諱) → **瑞雲**(ずいうん; 道号・悟芳; 法諱、黄檗僧) E 2 3 0 8
護命(ごめい) → **護命**(ごみょう、法相僧) N 1 9 7 1
護命(ごめい) → **護命**(ごみょう、真宗僧) N 1 9 7 2
護明(ごめい) → **護明**(ごみょう、真言僧) N 1 9 7 3
五明院(ごめいいん; 号) → **鳳冠**(ほうかん; 法諱、真宗僧) F 3 9 8 1
壺鳴園(ごめいえん) → **秀景**(ひでかげ・深沢ふかざわ、国学/狂歌) K 3 7 8 0
五明州(ごめいしゅう) → **弥二郎**(やじろう・品川しながわ、藩士/尊攘) F 4 5 1 0
五明堂(ごめいどう) → **百雄**(ひやくゆう・花月堂、百々政業、狂歌) E 3 7 8 2
五明楼(ごめいろ) → **吉憲**(よしのり・小町谷こまちや/林、歌人) F 4 7 9 0
五明楼玉輔(ごめいろうたますけ、落語家) → **馬生**(ばしょう・二世金原亭) E 3 6 5 7
小乳母(こめのと) → **小乳母**(しょうめのと) B 2 2 7 1
米守(こめもり → よねもり・花咲庵) → **花咲庵米守**(はなさきあんによねもり、狂歌) F 3 6 4 4
- E1915 **悟免庵主人**(ごめんあんしゅじん) ?- ? 江後期京の評判記作者、
「当世名家大妙々奇譚」著(梁川星巖・梅辻春樵を批判)
古面翁(ごめんおう) → **面堂安久楽**(めんどうあぐら、職人/狂歌師) 4 3 4 8
- D1995 **米人**(こめんど・酒月/坂月さかづきの、榎本えのもと治兵衛) ?-? 江戸日本橋の扇商/霊巖島住、狂歌; 本丁連、
四方側判者として活躍/1786「吾妻曲」入/87「狂歌才蔵集」入、
1799-1802「東来集」編、1806南畝「ひともと草」狂文4編入、
[つね口をたたき大工も初恋はいひ出んことのこつぱづかしき](才蔵集; 十一恋下)、
[酒月米人(; 号)の通称/別号]通称; 扇屋三右衛門、別号; 吾友軒/狂歌房/四方滝水
古面堂(こめんどう) → **亀成**(かめせい・山本、俳人/画) B 1 6 3 5
古面堂(こめんどう) → **面堂安久楽**(めんどうあぐら、職人/狂歌師) 4 3 4 8
- N1976 **呉綿堂永良**(ごめんどうながら・五面堂長良、三谷十蔵) ?-? 江戸狂歌、1849私撰「諸書拾歌集」著
呉綿奈斎(ごめんなさい; 狂詩) → **飄斎**(ひょうさい・平塚、幕臣/俳/狂歌) F 3 7 2 4
五六六(ごむろく) → **山鳥**(さんちよう・岡おか、戯作者) E 2 0 5 7

- 古毛山人(こもうさんじん) → 澹園(たんえん・秋元/秋本/鈴木、儒者/詩文) H 2 6 9 5
 篤垣真葛(こもがまきくず、竹内真助) → 真葛(まぐず・篤垣、狂歌作者) 4 0 6 4
- N1977 **こもき** ? - ? 規子内親王(村上天皇皇女949-986)家の女房?、
 972規子内親王家前栽[女四宮]歌合参加(；大観15/大系22/瞿麦なでしこ)、
 [やまがつのかきほのほかにあさゆふのつゆにうつるななでしこの花](四宮歌合；瞿麦)
 竊黙軒(悟黙軒こもくけん) → 昌伝(しょうでん・平野/惟任、天文/測量) L 2 2 1 1
 虎目洞(こもくどう・木村) → 八甲(はっこう・木村きむら、藩士/医/儒) F 3 6 2 1
 小文字太夫(こもじだゆう・宮古路/常盤津) → 豊前掾(初世ぶぜんのだゆう・富本、浄瑠璃太夫) 3 8 1 0
 小文字太夫(3世こもじだゆう・常盤津) → 文字大夫(4世もじだゆう・常盤津、役者/音曲/作曲) B 4 4 2 0
- N1978 **後桃園天皇**(ごももその、英仁、桃園天皇皇子) 1758-79**早世** 22 江中期；1768踐祚/71即位、在位10年、
 母；恭礼門院富子(一条兼香女)、
 日記「後桃園天皇宸記」、「後桃園院御点」「さかつきの次第」著
 隱口翁(こもりくのおきな、隱口の美仲) → 方塾(みちいへ・柳瀬やなせ、商家/歌人) B 4 1 1 8
- Q1998 **小諸**(こもろ・竹林たけばやし、別姓?；竹村/和田) 1811-52**42** 京の生/備中倉敷の国学者/歌人
 [小諸(；号)の名/別号]名；容、別号；桜庇おうひ/草露/右岑うしん
- F1990 **虎門**(こもん・桜田さくらだ、名；質/景質、景明男) 1774-1839**66** 仙台の儒者；志村東嶼門/1794江戸、
 1796服部栗斎門；麴溪書院で教授/のち仙台藩儒；江戸藩邸内に順造館創設/藩校で購書、
 兵法・本草・天文曆術に精通、「四書摘疏」「易学啓蒙摘説」「近思録摘説」、「鼓缶子こふし文章」、
 「鼓缶子文詩」「祭享説叢」「三綱発蒙」「大学摘疏」「孟子摘疏」「論語章旨」「管窺便蒙」外著多、
 [虎門(；号)の字/通称/別号]字；仲文、通称；周輔、別号；鼓缶子こふし/欽斎、贅庵ぜいあんの弟
 小門太(こもんた・大石) → 眞虎(まごら・大石おおいし、絵師) J 4 0 9 5
 古野(こや・大森) → 隆公(たかきみ・大森おおもり/藤原、神職/国学) W 2 6 2 0
 昆陽山人(こやさんじん) → 稲川(とうせん・山梨やまなし、漢学者/音韻) 3 1 1 9
 小弥太(こやた・佐々木) → 春夫(はるお・佐々木、商人/国学/歌) G 3 6 0 5
 小弥太(こやた・印東) → 応中(まさなか・印東いんどう、藩士/歌人) N 4 0 8 8
 小弥太(こやた・藤井) → 好方(よしかた・藤井ふじい、藩士/藩助教) O 4 7 8 5
 小山僧正(こやまのそうじょう) → 眞仙(しんせん；法諱、天台延暦寺僧) P 2 2 1 0
- N1979 **虎友**(ごゆう・稲本いなもと、羊質窟、梅門男)?-? 江中期大坂の俳人・父梅門門、
 1757絵俳書「小久羅三郎おぐらさぶろう」編
- D1997 **賈友**(ごゆう・鈴山堂) ? - ? 俳人；宋屋門、1769宋屋「瓢箪集初編」編、
 1801「年賀百韻」編
- N1980 **古友**(ごゆう・牛文庵2世) ? - ? 江後期俳人；風松門、1825「木の葉籠」編
 湖遊(ごゆう) → 古能(このう・ひさよし・喜多きた、能楽師) N 1 9 3 5
 湖遊(ごゆう・悠々館) → 悠々館湖遊(ゆうゆうかんごゆう・狂歌) D 4 6 9 5
 古祐(ごゆう・曾我) → 古祐(ひさすけ・曾我そが、幕臣/故実) B 3 7 1 6
- N1981 **午有**(ごゆう・野口のぐち、字；養安、雲橋庵4世)?-1751 江中期越中富山出身/飛騨高山の医者/俳人、
 「みつけしき」著
- D1998 **五由**(ごゆう・不及坊) ? - ? 名古屋真宗養念寺住職/美濃派俳人、
 1760親鸞5百忌「花供養」編
- N1982 **五友**(ごゆう) ? - ? 肥前俳人；士朗門、1772几董「其雪影そのゆきかげ」入
 [清光の目をあゆませる木の間哉](其雪影；巻尾326/清光は清らかな月光)
- N1983 **梧友**(ごゆう・岩本いわもと) 1738- 1801 江中期堺の和算家；田中芳洲門、1779「勾股沂原」著、
 [梧友(；名)の通称/号]通称；鰯屋いわしや藤兵衛、号；紺珠堂、法号；照誉宗徹信士
- N1984 **梧由**(ごゆう・村上むらかみ、名；東郁、別号；好曙庵)?-? 江後期安藝川尻の俳人；篤老門、
 1815呉竹庵雨の7回忌洗追善「時雨草」編、
 [布織は人の来て見る四月かな](1827朝暉「桜麻」入)
 五友(ごゆう・武知) → 方穫(まさかり・武知たけち、藩儒/詩歌人) P 4 0 1 6
 五游(ごゆう・河村) → 文鳳(ぶんぼう・河村かわむら、絵師) G 3 8 4 8
 五遊(ごゆう・河村) → 琦鳳(きほう・河村/竹内/中原、文鳳の養嗣子/絵師) L 1 6 9 2
 吾有(ごゆう・松本) → 柳斎(りゅうさい・松本まつもと、国学者/歌) E 4 9 0 3

- 固有庵(こゆうあん) → 子曳(しえい、俳人) B 2 1 1 6
 固有庵(こゆうあん) → 李琳(りりん・田中たなか、俳人) J 4 9 9 1
 五友園(ごゆうえん) → 篤山(とくざん・近藤、儒者) K 3 1 7 7
 吾友軒(ごゆうけん、狂歌) → 米人(こめんど・酒月さかづきの、商人/狂歌) D 1 9 9 5
 小有軒呂川(こゆうけんろせん) → 呂川(ろせん・小有軒、高橋敬義/庄屋/俳人) C 5 2 0 6
 後熊洞山人(ごゆうどうさんじん) → 健平(たてひら・野村のむら、国学/詩歌) Y 2 6 9 2
- D1999 **古友尼**(こゆうに・橋本、別号;松承庵/美松)?-? 江戸俳人:初世存義門、橋本泰里[2世存義]の姉、
 1779弟泰里[1741-1819]と行脚中に亡夫7回忌;京で剃髪;東山双林寺に埋髪句碑建立、
 1784「松かさね」、1802仙鳥尼追善「卯の花くもり」入、「春雨百韻」「其しをり」著
 弟泰里 → 泰里(たいり・橋本、2世存義/俳人) C 2 6 2 8
- F1991 **孤遊尼**(こゆうに) ? - ? 諸九尼(しよきゅうに・もろくに)の晩年の養女
 虎雄坊(こゆうぼう) → 治泉(ちせん・横山よこやま、俳人) E 2 8 5 7
 吾憂也齋(ごゆうやさい・本庄) → 星川(せいせん・本庄/本荘ほんじょう、藩儒) C 2 4 4 7
 今宵庵(こよいあん) → 林紅(りんこう・土屋つちや、俳人) K 4 9 2 3
- Q1968 **古代**(こよ・栗山くりやま) ? - ? 江後期紀伊在田郡の国学者;本居内遠門(夫と同門)、
 箕島祇園神社祠官の栗山治保はるやすの妻
- N1985 **五葉**(ごよう・田丸たまる、通称;新八郎、別号;画中園)?-? 江中期幕臣;御先手与力、俳人:玄武坊門、
 1769「深川三会」編
- I1907 **五えふ**(ごよう:組連) ? - ? 江中期江戸四谷の川柳の組連、
 取次;1784「川柳評万句合」入、
 取次例;[用心ぶかさ御おかうにも傘をもち](;84万句合/前句;ばかな事々々)、
 (御かうは11月28日の親鸞忌;報恩講/この頃晴天多く[お講日和])
- N1986 **呉陽**(ごよう・岡田おかだ、名;信之、小西有斐男) 1825-8561 岡田栗園[1786-1864]の養子、儒者、
 越中富山藩の侍講、「呉陽遺稿」
 五楊(ごよう・東方) → 芝山(しざん・東方ひがしかた、藩士/儒者) D 2 1 8 0
 呉羊(ごよう・須藤) → 元知(もととも・須藤すどう/土岐沢、国学/歌) K 4 4 1 3
 五葉庵(ごようあん) → 元知(もととも・須藤すどう/土岐沢、国学/歌) K 4 4 1 3
 五葉蔭(ごよういん) → 広城(ひろき・堀内ほりうち、地士/国学者) F 3 7 7 4
 五洋学人(ごようがくじん) → 凌海(りょうかい・司馬しば/島倉、蘭医/語学) G 4 9 8 2
 古庸軒(こようけん・沢田) → 由健(ゆうけん・沢田さわだ、俳人) B 4 6 4 0
 五葉山人(ごようさんじん) → 翠峰(すいほう・久子くす、儒者/詩人) E 2 3 9 8
 悟容人(ごようじん・千柳亭) → 唐磨(からまる・千柳亭/錦織、綾彦、狂歌) F 1 5 9 6
 悟容人(ごようじん) → 柳園石門(りゅうえんせきもん、狂歌作者) D 4 9 0 5
- D1996 **後陽成天皇**(ごようぜいてんのう、名;周仁かねひと、誠仁親王男) 1571-161747 桃山～江戸期、
 在位1586-1611:在位25年、母;新上東門院晴子(勸修寺晴右女)、歌会催、
 古典勅版出版;公家文化復興に尽力、「方輿勝覧ほういしやうらん集」編、
 「伊勢物語愚案抄」「詠歌之大概抄」「慶長千首」著、連歌百韻など多数
 五葉亭(ごようてい) → 其童(きりゅう・牧原まきはら、俳人) Q 1 6 5 0
 五葉堂麴丸(ごようどうきくまる) → 麴丸(きくまる・五葉堂、川柳作者) S 1 6 5 1
 虎翼居士(こよくこじ) → 原松(げんしょう・加藤かとう、俳人) C 1 8 2 0
- E1900 **子好**(子よしこよし・中吉なかよし)?-? 狂歌師、1785「徳和歌後万載集」2首入674・723
 小与之助(こよのすけ・奥村) → 栄通(てるみち・奥村、藩士/文筆) C 3 0 9 6
- P1933 **曆春明**(こよみのあるあけ) ? - ? 江戸狂歌;1787「才蔵集」入;324
 [相模金沢にて 朝なぎにしらべの糸を帆かけ舟千鳥にうつや並の小つゞみ]
- N1987 **古来**(固来こらい・富川とみかわ、通称;森下屋甚兵衛) 1786- ? 加賀安宅の人/金沢の町役人、
 俳人:眉山・蒼虬門、1862「後猿丸宮集」編、亀田鶴山らと交流、
 [古来の別号] 松裏庵/孤風庵こふうあん/幾暁庵きぎょうあん
- F1992 **五来**(ごらい・福田ふくだ) 1759 - 183880 近江大津の米商/俳人:蝶夢門、
 1809剃髪(;申齋号)、「正徳楼申齋五来句集」著、
 [五来の通称/別号]通称;九郎右衛門/九郎左衛門、別号;清風庵/清風居/申齋

- 五瀬(ごらい・隠岐) → 広福(ひろとみ・隠岐おき/藤原、廷臣/儒) G 3 7 5 3
 五瀬(ごらい・植松) → 是勝(ぜしょう・植松うえまつ/中村、和算家) K 2 4 6 0
 古来庵(こらいあん) → 存義(ぞんぎ・馬場、俳人) E 2 5 7 3
 M1962 古来稀世(こらいまれよ) ? - ? 下野の狂歌:1787「才蔵集」入;
 [春日野にもゆる若草鹿な喰ひそ君がきまさばあえものにせん]、
 (本歌:拾遺567旋頭歌/人麻呂 かの岡に草かるをのこしかなかりそ
 ありつつも君が来まさむみまくさにせん)
- 五楽(ごらく;俳号) → 雪旦(せつたん・長谷川/後藤、絵師) E 2 4 5 4
 五楽(ごらく・尾関) → 勝清(かつきよ・尾関おせき、藩士/歌人) T 1 5 8 8
 五楽隠(ごらくいん;号) → 大玄(だいげん;法諱・無休、真宗説経師) J 2 6 9 1
 古楽園嘉来(こらくえんからい) → 玉屍(ぎょくちよう・小寺こでら、随筆家) H 1 6 3 1
 吾楽軒(ごらくけん) → 家熙(いえひろ・近衛、廷臣/書画) 1 1 5 9
 五楽舎(ごらくしゃ・手島てじま) → 堵庵(とあん・手島、心学者) 3 1 0 1
 五楽亭(ごらくてい) → 貞広(初世さだひろ・歌川うたがわ、絵師) F 2 0 5 0
 吾楽堂(ごらくどう) → 宗春(そうしゆん・西山、宗因男/連歌作者) B 2 5 9 6
 五楽道人(ごらくどうじん) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2
 F1993 孤鸞(こらん・峯賀) ? - ? 軍記作者、「関ヶ原合戦誌記」著
 古藍(こらん・青方) → 運善(ゆきよし・青方あおかた、家老/記録) 4 6 2 8
 N1988 五蘭(ごらん・一亭) ? - ? 文化1804-18頃江戸の戯作者、
 1808「宮戸川三社由来」09「面鏡仇討志」10「春霞園仇討」11「戻駕忠義操」12「笑門喩福仁」著、
 [一亭五蘭の別号] 羅綾堂/錦久留丸/一三五亭五蘭/長亭五蘭
- 後嵐雪(ごらんせつ) → 吏登(りとう・桜井さくらい、俳人) 4 9 0 4
 湖陸(こりく) → 湖陸(ころく、俳人) P 1 9 1 0
 狐狸窟(こりくつ) → 蘭更(らんこう・高桑、商家/俳人) 4 8 0 3
 N1989 五律(ごりつ) ? - ? 江中期京の俳人;蕪村門、
 1772几董「其雪影」4句/73「明鳥」入、
 [ゆく水にもの書く春の日数哉](其雪影;暮春/227;水に書く文字が消える如く春は去る)、
 (本歌;行く水に数かくよりもはかなきは思はぬ人を思ふなりけり;古今・恋522読人不知)
- E1901 五律(ごりつ) ? - ? 1863「正改新刻七部集」編
 五律(ごりつ) → 素練(それん;号、播磨の僧/南架門俳人) B 2 5 3 9
 孤立斎(こりつさい) → 李峰(りほう・宮本/五味/浜中、俳人) C 4 9 5 2
- N1990 古柳(こりゅう・根本ねもと、名;通猶) 1656-1736⁸¹ 秋田藩士/1668小姓/69側小姓/70江戸藩邸扈從、
 1689刀番/1702世子傳役/06小姓頭/09本方奉行、儒;浅見綱斎門、「俗老損益解」著、
 [古柳(;号)の通称/別号]通称;正右衛門、別号;述情
- N1991 古柳(こりゅう) ? - ? 京俳人;1691只丸「誹諧小松原」序/91「元禄百人一句」目録入
 E1904 古柳(こりゅう) ? - ? 京俳・雑俳、1702鷺水「若えびす」入、1713「初むかし」編
 E1903 孤龍(こりゅう・秋月堂) ? - ? 江前中期河内若江郡八尾の俳人、
 1708「誹諧大矢数」編(:平野良弘の古風に共鳴した編纂/誹諧天下道具の改題本?)
 同地の秋月堂清倍と同門?
- N1992 湖柳(こりゅう・福永) ? - ? 大津俳人;几董門、1773几董「明鳥」82蕪村「花鳥篇」2句入
 E1902 湖鯉鮒(こりゅう/こりふ・便々館べんべんかん、大久保おおくぼ正武、大岡助尹男) 1756-1818⁶³ 大久保正斯養子、
 幕臣;1774家督/牛込山伏町住、狂歌:朱楽菅江門/朱楽連、山手側の判者、琵琶連の頭目、
 1799「狂歌杓子栗」編/1802「春の言葉」、04「不卜集」06「袖玉狂歌集」「狂歌浜荻集」編、
 1807「狂歌袖玉集」11「狂歌大黒柱」編、「狂歌後杓子栗」編外多数、1785「後万載集」4首入;
 [かさゝぎの橋は雲井の調子よくかけ渡したる琴の通ひ路](徳和歌後万載集;三209)
 (本歌;「鵲の雲のかけはし秋暮れて夜半には霜やさえわたるらむ」[新古今・寂連])
- N1993 古柳(こりゅう・山月庵) ? - ? 1804-18頃江戸戯作者、1813刊「新織和笑府」
 壺竜(こりゅう) → 楼川(ろうせん・谷口たにくち、俳人) 5 2 3 3
 湖竜(こりゅう・磯田) → 湖龍斎(こりゅうさい・磯田いそだ、絵師) E 1 9 0 7
 湖竜(こりゅう・野口) → 保敏(やすすけ・野口のぐち、和算家) B 4 5 7 3

- 孤柳(こりゅう・平元) → 謹齋(きんさい・平元ひらもと、藩士/儒/軍事) J 1 6 0 0
 孤立(こりゅう;号) → 大我(たいが/だいが;法諱・絶外、浄土僧) B 2 6 1 0
- E1905 五柳(ごりゅう) ? - ? 伊勢の俳人;雑俳点者、1727?「二重袋」笠付入
 I1917 五粒(ごりゅう) ? - ? 江中期;大和南都の俳人、
 1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集)入、
 [山茶花や昔ながらの庵の跡](しぐれの碑/発句)
- E1906 五柳(ごりゅう・並木なみき、名;善次郎、2世篠田金治[3世並木五瓶]男) 1829-1901 73 江戸歌舞伎作者、
 1855篠田金治(3世)襲名;森田座付/75新富座/92並木五柳名/4世五瓶襲名、芝居種合巻著、
 1857「勝相撲花顔触」61「かたきうち天の橋立」62「蝶小蝶円鏡写絵」67「於玉池三津娘鬢」著、
 [並木五柳ぼ別号] 3世篠田金治/4世並木五瓶/並木金治(金次)/並木舎
- N1994 五竜(ごりゅう・関せき、名;重秀/貢秀、善左衛門男) ?-? 1848存 1818加賀藩士/近習番/改作奉行、
 学校横目、和算;関流今井兼延門/天文;千葉流、1821師の石碑を伝灯寺境内に建立、剣術、
 1813「騎士用本」「関子」/17「極数定象大鑰」28「論語小講」、「三檀式綱目」、「三略正義」著、
 [五竜(;号)の通称] 九郎兵衛くろびょうえ
- N1995 五流(ごりゅう・関せき、通称;休郭、別号;蓬庵) ?-? 武州俳人、京の御室御所の画官、
 1817「とぼけ集」著
- N1996 五竜(ごりゅう・玉乃たまの/枝えだ、名;世履、桂かつら修助男) 1825-86 62 周防岩国藩士、
 儒;玉乃九華/二宮錦水門、1844藩主吉川経幹の近習/47父脱藩;家断絶、
 1850土籍復帰;枝多門を名乗る/藩校養老館訓導、儒;1851牧百峰・梁川星巖・斎藤拙堂門、
 1852玉乃九華の遺跡を継承;玉乃泰吉郎を名乗る、1855藩校助教兼侍読、
 1864農兵隊を組織;長州征討の幕府軍と戦闘、維新後;初代大審院長、
 頼三樹三郎/梅田雲浜と交流、1854「松雪洞遺稿」編、「錦川志」著、
 [五竜(;号)の字/通称]字;公素、通称;辰次郎/多門/泰次郎/泰吉郎/東平/今大岡
- 五柳(ごりゅう・関根) → 徳升(とくしょう・五柳亭ごりゅうてい、戯作) K 3 1 9 7
 五柳(ごりゅう・中原) → 章(あきら・中原/葛巻、歌人) E 1 0 1 7
 五粒(ごりゅう) → 団十郎(4世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役者/俳人) 2 6 9 0
 古柳庵(こりゅうあん) → 和推(わすい・堀尾ほりお、調和2世、俳人) 5 3 2 9
 梧柳庵(ごりゅうあん) → 石燕(せきえん・鳥山とりやま/鳥、絵師) D 2 4 3 5
 湖柳園(こりゅうえん) → 降雪(こうせつ・萩野はぎの、絵師) K 1 9 1 7
- N1997 五柳園一人(ごりゅうえんいちにん、姓;盛田もりた) ?-? 江戸神田富松町の狂歌:1823五側判者、
 1815「水滸画像集」編/25「今様職人尽歌合」編
 古梁漁史(こりょうぎよし、古梁漁夫) → 秋巖(しゅうがん・萩原、書家/詩) W 2 1 8 7
- E1907 湖龍齋(こりゅうさい・磯田いそだ、名;正勝) ?-1794? 江戸小川町絵師/土屋家浪人、鈴木春信と親交、
 肉筆画・美人画錦絵/花鳥画、洒落本、「雛形若菜初模様」、1773「十二季の栄花」75「花笑顔」、
 1776「売言葉」77「東錦太夫位」81「混雑倭艸画」、「色物馬鹿本草」「清少納言」「密蒲団」外著多、
 [湖龍齋(;号)の通称/別号]通称;庄兵衛、別号;春広/湖竜
- 五流齋(ごりゅうさい) → 布門(ふもん・桑原/井上、俳人) E 3 8 1 7
 五流齋二世(ごりゅうさい) → 婆束(ばそく・桑原、布門男) E 3 6 7 8
 五流齋三世(ごりゅうさい) → 女媒(じよばい・桑原、布門男) C 2 2 8 9
 五流齋四世(ごりゅうさい) → 化石(かせき・桑原、女媒男) F 1 5 2 5
 五竜山人(ごりゅうさんじん) → 興勝(おきかつ・青木、藩士/儒/蘭学者) C 1 4 8 7
 後竜翔院左大臣(ごりゅうしょういんのさだいじん) → 公頼(きんより・三条/転法輪三条、記録) R 1 6 9 4
 五流亭(ごりゅうてい) → 景松(かげまつ・歌川、絵師) F 1 5 0 0
 五柳亭徳升(ごりゅうていとくしょう) → 徳升(とくしょう・五柳亭、戯作) K 3 1 9 7
 孤立道人(こりゅうどうじん) → 大我(たいが/だいが;法諱・絶外、浄土僧) B 2 6 1 0
- D1966 壺梁(こりょう・大城おおき、名;煥、忠三郎直之男) 1741-1811 71 肥後熊本の儒者;秋山玉山門;徂徠学、
 のち朱子学に転向、1762熊本藩句読師/73藩儒臣/1802藩校時習館助教、
 「楽泮集」入、「采菴集」序、「壺梁先生遺稿」
 [壺梁(;号)の字/通称]字;文卿、通称;多十郎
- N1998 古梁(こりょう) ? - ? 俳人、1772几董「其雪影」入

[光るほど夜はしづか也露の玉](其雪影;卷尾秋328)

- N1999 **古菱**(故菱こりょう) ? - ? 直江津の俳人、1776樗良「誹諧月の夜」入
[綿がらの架はざに残れり風の月](月の夜;69)、
(架は刈取った稲・綿殻を干す木・竹組みの設備)
- 01900 **古梁**(こりょう;道号・紹岷しょうみん;法諱、俗姓;笹野) 1756-1839⁸⁴ 相模大沢村九沢里の生、
武州八王子の臨濟僧;幼時江戸の東禅寺入;出家/洪道祖量門、諸師参禅/物先海旭の法嗣、
仙台瑞鳳寺14世/妙心寺住持/瑞鳳寺にて没、詩人、「法苑詩藪」「南山内集」「禅苑尺牘」著、
「禅僧詩伝」「禅藻」、1799「釜崎枝折」1803「叢林貫華集」1809「塩松紀行」18「幼学指南諺解」、
1828「宮城野聚勝園記」26「南屏燕語」36「南山外集」著、
[古梁紹岷の号]南山/南屏山なんぺいざん/山庵、
- 01901 **古陵**(古陵こりょう・小曾根) ? - ? 江後期撰津兵庫俳人;桐栖と交流、1801「さつきくさ」編
- E1908 **五陵**(ごりょう) ? - ? 俳、1797沾山と歌仙「俳諧二冊子」著
- 五陵(ごりょう・榊原) → 香山(こうざん・榊原さかきばら、幕臣/故実) J 1 9 2 5
五良右衛門(こりょうえもん・前田) → 貞刻(さだとき・前田まへだ、国学者/歌) P 2 0 3 7
壺涼園(こりょうえん) → 風圭(ふうけい・吉田よしだ、藩士/俳人) 3 8 4 8
午涼軒(ごりょうけん) → 三由(かづよし・平野ひらの、藩士/歌人) V 1 5 5 0
呉陵軒可有(ごりょうけんあるべし) → 可有(あるべし・呉陵軒、川柳作者) 1 0 3 6
呉陵斎(ごりょうさい) → 至席(しせき・並井なみい、俳人) E 2 1 2 8
呉陵斎(ごりょうさい) → 群女(むらじよ・並井なみい、至席女/俳人) 4 2 1 6
呉陵散人(ごりょうさんじん) → 至席(しせき・並井なみい、俳人) E 2 1 2 8
護良親王(ごりょうしんのう) → 護良親王(もりながしんのう、建武新政) G 4 4 1 2
古梁坊(こりょうぼう) → 雨岡(あめがきこう・多賀たが、俳人) C 1 2 1 9
- 01902 **虎林**(こりん;道号・中虔ちゅうけん;法諱) ?-1678 京の臨濟僧;天竜寺慈濟院9世/1664天竜寺202世、
1669「虎林施行記」、「西山外集」「虎林施和尚天竜語録」「遊修学院御苑詩」著
- 01903 **虎林**(こりん;道号・全威ぜんい;法諱) ?-? 江前期1661-81頃和歌山の臨濟宗禅林寺3世、
1689「虎堂和尚頌古講」「虎堂和尚頌古講義抄」編、「禅家亀鑑五家辨」著
- 01904 **五林**(ごりん・小泉こいずみ、名;蒙、垣斎えんさい男) ?-? 江中期伊勢松阪の医者、詩文、宣長の親友、
「紀鑑」「余力稿」著、
[五林の字/通称/別号]字;子啓、通称;見庵、別号;棲眞邃せいしんすい
古林翁(こりんおう) → 国華(くにてる・桂川/2世、幕府医師) C 1 7 9 3
- Q1941 **維韶**(これあき・小笠原おがさわら、通称;義平) 1607-89⁸³ 近江彦根藩士;藩主井伊直興に近侍、
歌人;井伊直興門、笙を嗜む
- 01905 **是著**(これあき・米田こめだ、別名;著、長岡ながおか是春男/本姓米田) 1720-97⁷⁸ 熊本藩士;是福の弟、
別家を立て本姓米田こめだを称す、藩の中老/大目付、1781隠居、
詩;服部南郭門、詩文/武術、書画/篆刻、「四時園詩集」著、
[是著(;)名)の字/通称/号]字;子隠、通称;小源太/織居/波門、号;松洞、法号;慶雲院
- 01906 **維章**(これあき・佐久間さくま、利貞男) 1744-99⁵⁶ 肥前島原藩士/儒;江戸で安達清河・三井親和門、
島原藩公侍講/世子の傳、「夜雨亭集」「旅比雜録」著/1778「切支丹雜記」「邏媽人款状」編、
[維章(;)名)の字/号]字;文爾ふみちか?、号;夜雨亭
- 01907 **惟秋**(これあき・竹原たけはら、別名;惟将、通称;勘十郎、惟尹男) ?-? 江中期肥後熊本藩士/故実家、
家伝の故実を相伝、「故実之記」書、
- 01908 **惟明**(これあき・檜村ならむら/後姓;亀井) ?-? 江後期;江戸の生/因幡若桜藩士、
藩主池田(松平)冠山の世子定興に出仕、
1796冠山が駿河加番の折に命により榊原香山「駿河国志」を補填;
「駿河国志補遺」著(1797刊)、駿河府中に住、
[惟名(;)名)の字/通称]字;允卿、通称;吉蔵
- 01909 **維明**(これあき・中木なかき、中木儀左衛門好成男) 1754-1834⁸¹ 岩代伊達郡梁川の農業、
中木次右衛門養嗣子、養蚕研究;「関清」銘の種を作出、蚕種商、1801明の曾勉之「天経」注釈、
桜を愛し社寺境内に植樹/詩歌、「養蚕録」「桑蚕拙要」「飼蚕筆談」著、
[維明(;)名)の字/通称/号]字;敬夫、通称;清右衛門、号;桜隠、屋号;関東屋、中井閑民の祖父

- 01910 **惟明** (これあき・西田にしだ) ? - ? 江後期嘉永1848-54頃紀伊和歌山藩医/奥医師、
「古方箋」「傷寒論説」著、
[惟明(；名)の字/通称/号]字；惟夫、通称；元洞/慎齋、号；城山/松所
- Q1989 **惟明** (これあき・品水しながわ、通称；玄湖) ?-1853 江後期；紀伊田辺藩医/歌人
- Q1928 **伊明** (これあき・井手いで/旧姓；山内、) 1758-1828 71 筑前鞍手郡の生/福岡藩士井手氏房の養子、
養家継嗣；福岡藩士/小姓頭/町奉行兼寺社奉行、国学；二川相近門/歌人；加藤景範門、
[伊明(；名)の字/通称/号]字；子復、通称；虎吉/安次郎/牛之助/勘七(代々の通称)、
号；竜峯/洞海/天山/撫松/滄江
- R1903 **惟秋** (これあき・土屋つちや、通称；又兵衛) 1805-1889 85 伊豆加茂郡の国学者/歌人、惟清の父、
「喜九迺志豆久きのしづく」編(80賀歌集)
- Q1966 **是明** (これあき・倉根くらね、) 1807-1880 74 伊予松山藩士/高橋復齋門、江戸昌平齋入学、
帰藩；久万山の代官、儒/国学；詩文・歌を能くす、藩校明教館教授、晩年も子弟教育、
俗謡俚歌にも通ず、清風(穆)の父、
[是明(；名)の別号/通称/号]別号；碩、通称；源蔵、号；蒼峯そうほう
- Q1986 **惟明** (これあき・佐伯さえき、) 1822-1874 53 周防吉敷郡大内村小野志多里八幡宮神官、
国学・歌；萩藩士上田纘明つぐあき、宣教中講義、
[惟明(；名)の通称] 摂津/八雲
- Q1926 **惟明** (これあき・安西あんざい、通称；潔/号；虔齋けんざい) ?-1905 讃岐高松の国学者/歌；中村尚輔ひさすけ門、
砲術・挿花を能くす
- K1989 **維晔** (これあき・上田うへだ、通称；丈齋) 1831-1907 77 京の生/大坂長堀で医者、国学・歌；中村良顕門、
詩文/歌を能くす
- Q1923 **惟詳** (これあき・秋山あきやま、惟恭これい男) 1846-70 早世 25 讃岐那珂郡櫛梨村の櫛梨神社神祠官
之昭(これあき・景山) → 豊城(とよき・景山かげやま/河村、神職/歌) U 3 1 7 1
惟明(これあき・山本) → 基庸(もとつね・山本やまもと、藩士/書家) D 4 4 1 7
惟明(これあき・三井) → 梅巖(ばいがん・三井みつゐ、書家/絵師) 3 6 9 5
惟明(これあき・辛島) → 古淵(こゑん・辛島からしま、藩士/儒者) L 1 9 7 5
惟明(これあき・藤井) → 暮庵(ぼあん・藤井ふじい、大庄屋/詩人) 3 9 0 7
維章(これあき・富山) → 有明(ゆうめい・富山、詩人) D 4 6 8 6
維章(これあき・篠崎) → 東海(とうかい・篠崎、儒者/和学) 3 1 0 5
維章(これあき・鴨田) → 白翁(はくおう・鴨田かもた、儒者/詩) C 3 6 7 4
維顕(これあき・沢村) → 琴所(きんじょ・沢村、儒者/歌) E 1 6 1 4
- E1910 **惟明親王** (これあきらしんのう、高倉天皇皇子) 1179-1221 43 母；平義範女の少将局、後鳥羽院の異母兄、
1189親王/1211出家、歌；式子内親王と親交、1200正治二年初度百首参加、
1203千五百番歌合参加、雲葉集入、
勅撰34首；新古(6首31/138/442/892/1134/1545)新勅(1136)続後撰(3首)続古(2首)以下、
[鶯の涙のつらゝうちとけて古巢ながらや春を知るらん](新古今；春31、
本歌；古今；二条后；雪のうちに春は来にけり鶯の氷れる涙今やとくらむ)
[惟明親王の法名/通称]法名；聖円、通称；大炊御門宮おおいのみかどのみや/承安第三宮/三宮
- R1914 **尹淳** (これあつ・羽生はにゆう、) ? - 1862 信濃飯田の商家、歌；香川景樹(1768-1843)門、
[尹淳(；名)の通称/屋号]通称；与八、屋号；丸与/羽場六
- 01911 **惟敦** (これあつ・阿蘇あそ、惟治これい男/本姓；宇治) 1830-93 64 肥後阿蘇神社宮司、
国学；林有通・佐々木弘綱門、権少教正/正五位、1861「天山日記」著
惟温(これあつ・近藤/桜井) → 東門(とうもん・桜井さくらい、藩儒/詩人) H 3 1 4 7
惟篤(これあつ・六人部) → 是香(よしか・六人部むとべ、国学/神道/歌) 4 7 0 4
- Q1954 **惟斐** (これあや・大西おおいし、) 1821-1894 74 讃岐那珂郡櫛梨村の和漢学；秋山惟恭これい男門、
歌人、生花・茶道に通ず、
[惟斐(；名)の通称/号]通称；又四郎、号；松花
古鈴(これい・足立) → 来川(らいせん・足立、俳人) 4 8 7 5
- 01912 **五礼** (これい・二宮にのみや、貸本屋二宮勇蔵男) 1790-1860 71 広島眼科医、俳諧を嗜む、
1821「芸備名取合」著、

- [五礼(；名)の号] 一艸/化仏/鮮星堂、法号；积一艸化仏処士
- 01913 **五鈴**(ごい・長井ながい、別号；竹の家)？-？ 江後期伊勢松阪の俳人、
1837「きよめくさ」-50「鍾秀帖」編
- 01914 **五嶺**(ごい・前川まえかわ、名；晃)1805-7672 京堺町通松原下ル町の絵師；柴田義董門、
維新時に国事奔走；投獄、1864「甲子兵燹図かつしせいせんず」著、
[五嶺(；号)の別号] 泡齋/士玉/子玉、法号；覚眠隆次居士、文嶺の父
午嶺(ごい；号) → 研立(けんりつ；法諱・午嶺；号、真宗僧) M 1 8 7 8
五嶺(ごい) → 毅風(こくふう・菅沼、相法家) M 1 9 2 0
五嶺(ごい・長山) → 茂作彦(もさひこ・三条、絵師/狂歌) B 4 4 1 9
吳嶺(ごい・山川) → 正宣(まさのぶ・山川やまかわ、商家/国学者) F 4 0 7 9
虎嶺庵梅喬(こいあんばいきょう) → 葛古(かつこ・小林こばやし、俳人) C 1 5 4 3
- E1911 **伊家**(これいえ・藤原、公基男/母；藤原範永女)1041or48-8444or37歳？ 平安後期廷臣；正五下、
藏人/右中弁/民部大輔、白河天皇側近の歌人/能書家、1063父公基の丹後での歌合参加、
1074内裏御会/78(承暦2)内裏歌合(清書)など参加、袋草紙；知房の歌に関する逸話入、
周防内侍・源頼綱と交流、寂超「後葉ごよう集」3首/続詞花集2首入、
勅撰10首；後拾(157)金葉(247/251/680/Ⅲ3首)詞(60/125/193)千(248/271)新古(1899)、
[道遠み井手へも行かじこの里も八重やは咲かぬ山吹の花]、
(後拾遺；春157/泉川の井手の名所にゆかずともこの里にも見事咲いている)
壺鈴園(こいえん) → 美春(よしはる・前原/横瀬/小野、神職) G 4 7 1 3
五嶺館(ごいかん) → 村径(むらみち・武田たけだ、俳人) D 4 2 2 1
御霊山桐院隠士(ごいさんとういんのいんし) → 道闇(どうあん；法諱、天台僧) C 3 1 9 0
五麗子(ごれいし) → 才尾(さいび・椎本いのもと・豊島、俳人) B 2 0 0 7
五嶺舎復齋(ごいしゃふくさい) → 推己(すいこ・浅原あさはら、俳人) E 2 3 4 6
後冷泉院式部命婦(ごいぜいいんのしきぶのみょうぶ) → 式部命婦(しきぶのみょうぶ、後冷泉院女房) B 2 1 5 7
- E1912 **後冷泉天皇**(ごいぜいてんのう、名；親仁ちかひと、後朱雀天皇皇子)1025-106844 母；藤原道長女嬉子、
在位1045-68(24年)、幼時母没；上東門院彰子が養育、
中宮章子内親王(1026-1105/後一条皇女)・皇后寛子(1036-1127/藤原頼通女)・
皇后歆子(1021-1102/藤原教通女)；三后並立の唯一の例、
歌人、1049内裏歌合・51内裏根合催、
「後冷泉院御記」著、
勅撰7首；後拾遺(454/714/845)金葉(331)詞花(417)新古(1607)玉葉(233)、
[岩くぐる滝の白糸絶えせでぞ久しく世々にへつゝ見るべき](後拾遺；賀454)、
(荒廃した嵯峨天皇造営冷泉院を再造営し水を堰き入れた時の詠)
- P1942 **惟恭**(これいあ・秋山あきやま、惟孝男)1807-6357 代々讃岐那珂郡榎梨村の榎梨神社神祠官、
神職、琴平町住、儒；備後の牧東渚(菅茶山高弟)門/1810備中笠岡の小寺清先門、
頼山陽門；日本外史稿本筆写に参加、帰郷後日本外史講義/大歳神社神主/丸亀藩儒員、
榎梨神社神職/国学者、皇国思想を唱導/詩歌・画・篆刻に長ず、1834「讃岐国神社考」著、
丸亀藩命で1858「西讃府志」(61卷)編纂、「讃岐小史」「讃岐物語」「三種神宝詳説」「神国論」、
「帝統蒙求」「檜園文集」「戊戌日記」「後讃岐国神社考」「甲午詠草」著、
[惟恭(；名)の初名/字/通称/号]初名；浪江、字；仲礼、通称；伊豆/大蔵、
号；巖山(巖山げんざん)・千別舎・如瓶
是雄(これお・藤原) → 是雄(よしお・藤原、廷臣/詩人) C 4 7 3 3
- E1913 **惟岳**(惟岡これおか・紀き)？-？ 平安期859-85頃歌人、古今350
[亀の尾の山の岩根をとめて落つる滝の白玉千代のかずかも](古今集；七賀350)
(貞辰さだとき親王の[をば]の四十賀を祝うの歌)
- 01915 **惟興**(これおき・熊沢くまざわ、惟忠男)1791-185464 駿河田中藩士/江戸藩邸で生、国学、儒；昌平黌出、
蘭学/兵法修得、藩校日知館教授；勤王派、歴代山稜踏査、「御陵私記」「海外考証征韓私記」、
1825「口碑録」、「惟興歌集」「私史備考」「日本武尊伝」「市谷文集」「海外考証元寇私記」著、
[惟興(；名)の字/通称/号]字；伯熊、通称；太郎/熊太郎/弥太郎、号；市谷、法号；聡明院
惟臣(これおみ・緒方) → 元斎(げんさい・緒方おがた、医者/国学) J 1 8 0 4

- 01916 **惟馨**(これか・阿蘇あそ、惟典これすけ男/本姓;宇治) 1773-1820⁴⁸ 肥後阿蘇神社大宮司/1817従三位、
国学;長瀬眞幸・高本紫溟門/古史に精通、「田の実の記」「なかつら物語」「阿蘇家伝」、
「故記自賛」「芸古所観省」「都麻志良弁」「狩胡籙くろく矢からみ之事」、「阿蘇惟馨卿集」著、
惟治これるの父
- R1913 **尹香**(これか・橋爪はしづめ) ? - ? 江後期;信濃伊那郡の歌人;千葉葛野かどの(1800-55)門、江戸住
- Q1955 **惟香**(これか・大庭おおば、別名;通敏) 1838-1922⁸⁴ 美濃の国学・歌人;富樫広蔭門、
[惟香(;名)の通称] 筑前守
維馨(これか・揚) → 弘斎(こうさい・揚あげ/上野あげの、藩士/国学) I 1 9 9 5
是香(これか) → 是香(よしか・六人部むとべ、国学・神道) 4 7 0 4
- Q1935 **是清**(これかげ・入江いりえ) 1556-1624⁶⁹ 山城綴喜郡橋本の国学者;水無瀬黄門(兼成)門、
兵法に通ず/歌人;門弟多数、
[是清(;名)の通称/号]通称;彦左衛門、号;円了
之娶(これかげ・石川) → 竹厓(ちくがい・石川、儒者) C 2 8 7 7
維景(これかげ・大場) → 玉泉(ぎよくせん・大場おおば、藩士/兵法) P 1 6 1 9
- R1941 **惟一**(これかず・桃沢ももさわ、幼名;熊之助/通称;彦五郎、戸枝市郎左衛門男)?-1677 江前期;会津藩士、
目付戸枝平兵衛江戸赴任に同行;藩主保科正之のの小姓/元服後;小番頭;正之の学問の相手、
正之の伝記執筆を友松氏興から継嗣/1672(寛文12)正之没後遺命で福奉行、
桃沢惟一と改名、吉川惟足と共に見禰山神廟(土津神社)の神楽歌を詠作、1677(延宝5)没
- 01917 **惟和**(これかず・阿部あべ、北溟ほくめい男)?-? 江中期越後村上の医者;京の香川修庵門、
1779「北溟先生遺稿」(父の遺稿刊行)、惟虔の兄
- R1924 **惟一**(これかず・森脇もりわき、軍蔵[惟石これすけ]男) 1724-49^{早世26} 周防岩国の神道家(家学);父門、
歌人;香川景平門
- 01918 **惟一**(これかず・滝川たきがわ/修姓;滝ろう、佐久間さくま長孝男) 1742-? 1799^存 滝川貞倚の養子:1758家督、
幕臣;1769西丸小十人/西丸表右筆/本丸代官、儒;幸田誠之門/歌、「和歌ますかゝみ」、
1787「春秋のにしき」、「幸田精義墓碑文」著、母;近藤舜政女/妻;間宮盛峯女、
[惟一(;名)の通称] 小三郎/小右衛門
- Q1961 **惟一**(これかず・賀集かほ、) 1796-1871⁷⁶ 播磨三原郡の製陶業、歌人、
国学・歌;山口敏樹(睦斎)・広瀬元章・富樫広蔭門、
[惟一(;名)の別名/字/通称/号]別名;玉平/惟人、字;子精、
通称;豊七郎/豊之助/定七/三輪蔵/三郎右衛門/珉平、
号;蟻巢/容膝窠(ようしか主人)/勝瑞/射楽才
惟和(維和これかず・安藤/畑) → 柳安(りゅうあん・畑はた/安藤、医者/教育) C 4 9 6 5
- E1914 **惟方**(これかた・藤原ふじわら、栗田口別当入道/寂信、顕頼男) 1125-? 1202^存 廷臣;左兵衛督、
1158参議/二条天皇側近、1159平治乱連座;60解任/長門配流;出家/66赦免、
歌;1136家成歌合/1200三百六十番歌合参加、続詞花集入、
1200若宮歌合/01影供歌合参、家集「栗田口別当入道集」、「惟方卿記」「大納言入道灌頂記」著、
勅撰19首;千載(1118)新古(767)続古(1480)玉葉(5首)続千(950)続後拾(1321)風(8首)以下、
[この瀬にも沈むと聞くは涙川流れしよりもなほまさりけり](千載;雑1118/涙川の増水)
(同時に流された人が赦免され自分が洩れていると聞き都人に贈る流罪地長門での詠)
- 01919 **惟方女**(これかたのむすめ・藤原、別当三位頼子) 1153-? 藤原宗頼の室、「明月記」入
- 01920 **維堅**(これかた・芳川よしかわ) ? - ? 大阪の古銭鑑定家;宇野宗明門、
1781「和漢錢彙」編、「乾坤錢極書」「骨董瑣言」「鸞眼一得」著、「珍宝鑑」校訂、
[維堅(;名)の字/通称/号]字;維卿、通称;錢蔵/甚右衛門、号;珍貨堂
- R1946 **維賢**(これかた・柳沢やなぎさわ、旧姓;鬼頭) 1769-1850⁷⁰ 尾張春日井郡の武士/書家;伊藤三橋門、
俳諧;加藤暁台門、1796(寛政8)尾張藩士;記録所出仕、藩校明倫堂で古文を教授、
1850(嘉永3)私塾[友求舎]開設;没、
[維賢(;名)の字/通称/号]字;景浦、通称;吾一、号;友求舎/新道
- 01921 **是容**(これかた・これひろ・長岡ながおか、是睦男/本姓;米田こめだ) 1812-59⁴⁸ 熊本藩士/1832家督/国老、
国学・神道;長瀬眞幸まさき門、藩校時習館改革、実学党を結成;藩政改革を企画、
改革失敗;1847致仕、1853ペリー来航時浦賀の沿岸警備に当たる、

「治鏡録」「常磐木集」「浅見翁剣術筆記」「武技論」「正木葛」「千年の基」著

[是容(；名)の通称]与七郎/老岐/監物

尹賢(これかた・宮野) → 尹賢(いんげん・宮野みやの、農業/儒/教育) I 1 1 5 0

以方(これかた・坂合部) → 以方(もちかた・坂合部さかあいべ、廷臣/史官) M 4 4 2 2

惟賢(これかた・藤原) → 惟成(これしげ・これなり・藤原、廷臣/詩歌) 1 9 4 4

惟賢(これかた・阿蘇) → 玄与(げんよ・阿蘇あそ/宇治、武将/歌人) D 1 8 2 3

惟賢(これかた・瀬尾) → 用拙斎(ようせつさい、書肆/儒者) B 4 7 3 3

01922 是勝(これかつ・隅田すみだ、宇佐見うさみ良賢の女婿)?-? 兵法家;19歳で宇佐見良賢門、1644頃岡崎藩士、1652「宇佐見伝記」著、八田正伸の師、[是勝(；名)の通称]作左衛門

01923 惟勝(維勝これかつ・緒方おがた、彭勝[柳庵]男)?-?1830-44没 岡山の医者:父門、上京;遊学、本道(内科)山脇東洋門、産科;奥劣斎門/帰郷;医業/諸国遊歴後京で開業、1836「杏林内省録」著、「産科手術秘録」「産科秘術録」編、「先生産談」編、[惟勝(；名)の字/通称/号]字;義夫、通称;順節、号;撰生堂

01924 惟兼(これかね/これかぬ・源、基清男)?-? 母;源家任女、安後期廷臣;1099蔵人/従五下/甲斐権守、歌人;1102「内裏艶書合」参加?(蔵人まさかぬ名、平雅兼は1104蔵人なので別人)

惟兼(これかね・平) → 惟継(これつぐ・平たいら、廷臣/歌人) E 1 9 3 2

茲監(これかみ・亀井) → 茲監(これみ・亀井、藩主/詩) E 1 9 5 1

01925 惟材(これき・平たいら、惟継これつぐ男)?-? 南北期北朝廷臣;五位蔵人/少納言のち南朝出仕;四位、歌人、新葉2首1111/1282、惟長の父、

[物ごとの秋のあはれぞまさりける老の命のなが月の空](新葉集;十六1111)

01926 古曆(これき;名・神谷かみや)?-? 江戸期摂津高槻の曆法家、家相釵相の祖、「家相観地録」「三元八門九星秘伝書」著

古曆(これき・多田) → 守保(もりやす・多田ただ、藩家老/武芸) G 4 4 7 0

維樹(これき・武田) → 豊城(とよき・武田たけだ、藩士/歌人) T 3 1 5 2

E1916 伊清(これきよ・遠山とおやま、伊吹男/本姓;藤原) 1675-1730⁵⁶ 幕臣;1678家督/84將軍綱吉に謁、1699定火消;下僕の不屈で一時間閉門/1719寄合、歌研究:類題・題句集編纂、1695「長生のみかど物語」98「巻頭和歌集」「源氏物語歌集」編/98「源氏歌かゝみ」著、1699「草庵類句和歌」編、1704「類題六家集」20「五部歌かゝみ」編/22「三玉類句」編、「水かけくさ」編、「鶯蛙百首」「七夕古歌集」「流言集」著、[伊清(；名)の別名/通称/号]別名;景、通称;七之丞、号;北湖、法名;了徳

01927 惟清(これきよ・石黒いしぐろ) 1775-? 幕臣;1791祖父の遺跡相続/奥右筆、1822「紅葉の光」著、[惟清(；名)の通称]彦太郎

Q1905 惟精(これきよ・中島なかじま)?-? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、中島広足(惟清1792-1864)と同一?、[郭公まつちの山を夕越えて誰たが庵さきの月に鳴くらん](大江戸倭歌;夏475)

R1925 維清(これきよ・藤由ふじよし、通称;富士平、) 1835-90⁵⁶ 肥後菊池郡の国学者・歌人;中島広足門、[維清(；名)の号]梅の舎/敬豊/竜谷

R1904 惟清(これきよ・土屋つちや、通称;眞太郎、惟秋男) 1843-89⁴⁷ 伊豆加茂郡の国学者/歌人;父門、之清(これきよ・石/石川/石河) → 大凡(たいばん・石川/石河、儒者) C 2 6 2 1

是清(これきよ・入江) → 是清(これかげ・入江いりえ、国学/歌人) Q 1 9 3 5

惟清(これきよ・頼らい) → 亨翁(こうおう・頼らい/羅井、紺屋/歌人) H 1 9 7 2

惟清(これきよ・中島) → 広足(ひろたり・中島/越智、藩士/国学者) 3 7 2 1

惟清(これきよ・蜂屋) → 茂橋(もきつ・蜂屋はちや/源、幕臣/随筆) 4 4 6 2

惟清(これきよ・竹原) → 惟重(これしげ・竹原たけはら、藩士/故実家) O 1 9 3 7

惟清(これきよ・谷口) → 陶溪(とうけい・谷口たにぐち、藩士/歌) D 3 1 1 9

維清(これきよ・岡田) → 糠人(ぬかんど・岡田、酒造家/俳人) 3 4 0 5

01928 惟邦(これくに・貴田きだ/初姓;山形やまがた)?-1822 貴田親建の養嗣子、弘前藩士;大目付/1820用人、1808箱館詰/樺太の警備:帰国後に軍法編集、兵学(家学)に精通、1806「勢多羅弘談」「加刺弘多異聞」著

維熊(惟熊これくま・水山/生駒/土師) → 熊文(くまぶん・生駒/土師はじ、国学) D 1 7 4 3

維繫(これま・河野) → 鉄兜(てつとう・河野、医/儒/詩歌) C 3 0 5 7

- E1917 維駒(これま・黒柳くろやなぎ、通称;清兵衛/別号;玄亭、俳人召波男)?-? 京の俳人:蕪村門、
1772几董「其雪影」/73「明鳥」/76「続明鳥」各1句入、76道立「写経社集」2句入、
1777「春泥集」編(:父7回忌追善)、77蕪村「夜半楽」/82蕪村「花鳥篇」各2句入、
1783「五車反故ごしゃほうぐ」編(;父召波13回忌追善集/序跋・70句)、「発句十題」著
[時鳥きのふ聞しがかんこ鳥](其雪影;巻尾281/今日は閑古鳥を聞く)
[山里の人美しや遅ざくら](五車反故;巻首144)
- 01930 惟貞(維貞これさだ・藤原ふじわら、文行男)?-? 平安中期廷臣;984内御書所開闔/986方略試/
少内記/従五下・勘解由次官、詩:本朝文粹入
- E1918 伊定(これさだ・藤原ふじわら、伊長男)1247-1300⁵⁴ 鎌倉期廷臣;従二位、歌人、1278弘安百首参加、
1290正応三年正月廿日歌合参加、新続古735、
[すみがまの煙を里の名にたててよそにもしるき小野の山本](新続古今:六冬735)
- E1919 惟貞(これさだ・大佛おさらぎ/本姓平/旧姓北条、初名;貞宗、大仏宗宣男)1286-1327⁴² 母;北条時茂女、
鎌倉期在京武家歌人、評定衆/引付頭/陸奥守/六波羅探題/1324鎌倉下向/26執事・連署、
1327従四下越訴奉行、歌人;続現葉入、勅撰9首;玉葉(434)続千(276/484/1105/2038)以下、
[しげりあふ木この下続くみ山路は分け行く袖も涼しかりけり](玉葉;夏歌434)、
[惟貞(;名)の通称/法号]通称;左近太郎、法号;慈昭
- E1909 伊貞(これさだ・いてい・深江ふかえ)?-? 江前期撰津俳人/狂歌;1666行風「古今夷曲集」2首入、
[下女と下部味噌をするするするする昵語ちははいはば連木れんきの語りひならん]
(古今夷曲集;七恋、連木は上方語りこぎと連理を掛ける)
- 01931 惟貞(これさだ・竹原たけはら、通称;清太夫、惟英男)?-1709 肥後熊本藩士/故実家、12歳児小姓、
山本郡味取町在番、具足・乗馬などの故実;沢村大学に伝受、「軍法之作法少々聞書」著
- R1920 伊貞(これさだ・福住ふくずみ、)1722-1766⁴⁵ 信濃飯田の商家福住世貞つぐさの養子、
信濃飯田藩御用達、歌人;澄月門、
[伊貞(;名)の通称]市之丞/善左衛門(養父の称)
- 01932 惟貞(これさだ・大沢おおさわ/本姓;南、貞雄男)1740-1804⁶⁵ 備前岡山藩士;儒者;朱子学/国学;父門、
岡山藩の侍講兼国学教授;父を継嗣/1771(明和8)家督継嗣;城番・小姓組、1794御後園奉行、
詩文を能くす、「吉備温故」百余巻・「吉備温故秘録」編纂、「吉備温故秘録附録」著、
[惟貞(;名)の通称]運七/市太夫
- 01933 惟貞(これさだ・松井まつい、医者寿安男)1752-1833⁸² 尾張名古屋の医者/町方の小吏、
国学;1801本居宣長門、和漢学/詩歌、植松有信と交流、「尾張荘名考」著、
[惟貞(;名)の通称/号]通称;八右衛門、号;竜涯、法号;松翠院
- Q1938 維貞(これさだ・碓井うすい、通称;元亮)1777-? 豊後佐伯の藩医の家の生/三ヶ所村で医業、
国学;本居内遠門、日向高千穂岩戸村庄屋土持じもち盛信・信贄父子と親交、
岩戸村永之内に移住し医業;玄良維徳これのり(蘭医1830-1907)の父
- 01934 惟貞(これさだ・安部あべ、別名;福臣、行貞男)1790-1863⁷⁴ 長門萩藩士、国学;本居大平・村田春門門、
歌人、連歌宗匠;毛利宗家出仕、「万葉玉勝間」「和歌濃杖」著、真貞まさだ・健臣たけおみの父、
大平撰「八十浦の玉」下巻長歌入、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[鴨川の川の瀬照りてすむ月をこよひ見むとは思ひかけきや](八十浦;817反歌)、
[事たらぬ我が山里と思ひしは月みぬほどの心なりけり](大江戸倭歌;秋869)、
[惟貞(;名)の通称/号]通称;権左衛門/諒/新之丞/新之允しんのすけ、号;桜戸、法号;顕諒院
- E1920 惟貞(これさだ・座田さいだ、速水はやみ玄仲男)1800-59⁶⁰ 美濃高須の国学者、院雑色座田維正の養嗣子、
院雑色を継承、漢学;伏原宣明のぶはる門、和漢典籍に精通、堂上講学機関の学習院設立に尽力、
1846学習院雑掌;事務一切を管掌、
1837「国基」55「国基題詠集」、「諸幄図会」「神祇服紀令」著、
[惟貞(;名)の字/通称/号]字;子正、通称;右兵衛大尉、号;梅首
- 以貞(これさだ・これただ・橘) → 以貞(もちさだ・薄田すすきだ/橘/常磐木、神道/兵法) B 4 4 3 9
- 之貞(これさだ・梅田/木村) → 松石(しょうせき・木村/梅田、医者/詩) K 2 2 3 1
- 維楨(これさだ・伊藤) → 仁斎(じんさい・伊藤、儒学) 2 2 2 3
- 維貞(これさだ・岡田) → 文誰(ぶんすい・岡田おかだ、俳人) F 3 8 8 4

- 維禎(これさだ・上林/畑) → 柳泰(りゅうたい・畑/上林、儒/医者/詩) F 4 9 1 1
 維禎(これさだ・宮田) → 嘯台(しょうだい・宮田/田、酒造業/詩人) K 2 2 7 2
 惟禎(これさだ・中村) → 緑泉(りよくせん・中村/中、酒造業/詩人) J 4 9 7 9
 惟貞(これさだ・福田) → 文哉(ぶんさい・福田、医/歌人) F 3 8 2 8
 惟貞(惟禎これさだ・陶) → 半窓(はんそう・陶すえ、医者/儒/教育) I 3 6 3 2
 惟貞(これさだ・山県) → 大式(だいしき・山県、医者/漢学/尊王論) C 2 6 0 3
 惟貞(これさだ・福田) → 文哉(ぶんさい・福田/源、医者/画/歌人) F 3 8 2 8
 惟貞(惟貞これさだ・秦) → 新村(しんそん・秦はた、儒者/藩士教育) 2 2 5 1
- E1921 **是貞親王**(これさだのみこ、光孝天皇皇子)?-903 母:寛平后宮班子女王、893歌合催(仁和二宮歌合)
- E1922 **伊実**(これさね・藤原ふじわら・白河、太政大臣伊通男)1124-6037 母:藤原顕隆女、平安後期廷臣;
 1156参議権中納言/57正二位/59平治乱で解任/60復任;中納言、小侍従を妻とした?、
 歌人、新勅撰217(;七夕後朝の心を詠む)
 [たなばたのあまの河波たちかへりこのくればかりいかでわたさむ](新勅撰集:四217)
- 01935 **伊実**(これさね・世尊寺せそんじ、行実男/本姓;藤原)?-? 南朝廷臣;蔵人/少納言/侍従・四位、
 歌人;1361(正平16)内裏探題百首に参加、新葉集448、
 [さえ渡る霜夜の月の有明に友よぶ千鳥声しきるなり]、
 (新葉;冬448/正平16年[1361]内裏)
- 01936 **惟実**(これさね・安藤あんどう、初名;伏見宮邦茂王、伏見宮邦輔親王男)1530-7041 母:安藤宗実女、
 父の元服前の出生のため母方で養育;母方姓を名乗る/京戦乱;宗実の領地丹波尾口村住、
 詩歌、「千年山八境記」著、
 [惟実(;名)の幼名/号]幼名;喜多磨、号;長松軒/抱琴園/惟翁、法号;恵日光院
- 1944 **惟成**(これしげ・これなり・藤原ふじわら、別名;惟賢これかた、雅材まさき男)953-98937 母:藤原中正女、
 漢学/詩歌人、花山天皇の乳母子;東宮学士/侍読、
 花山在位中;五位蔵人・権左中弁・左衛門権佐兼帯、正五上民部大輔、藤原義懐と天皇支援、
 986兼家に謀られ天皇退位出家と共に義懐と剃髪、
 歌;975一条大納言為光家歌合/985-6内裏歌合参加、家集「惟成辨集」、「平野祭」著、
 本朝麗藻・和漢朗詠集・続詞花集3首入、詩:文粹入、
 勅撰17首;拾遺(878)金葉(III79)詞花(2/137/195)新古(5首1010/1182以下)以下、
 [人知れず落つる涙の積もりつゝ数かくばかりなりにけるかな](拾遺;恋878/女に贈る)、
 (数画くは数える時に一定ごとに目印の線を引くこと/ここは涙が水流となる意)
 [惟成(;名)の字/通称/法名]字;式太、通称;五位撰政、法名;悟妙/寂空
- E1923 **伊成**(これしげ・これなり・藤原、別名;資定けさだ、成定男)1194-? 鎌倉期廷臣;右近少将/1241従三位、
 右近衛中将/侍従、1243出家、歌;1232石清水若宮歌合参、46春日若宮歌合参加(;入道)、
 万代集・現存六帖・秋風抄入集、勅撰2首;続後撰(719)新続古今(352)、
 [さりともとしなぬ命のつれなさやつらきながらの頼みなるべき](続後撰;恋719)
- E1924 **尹重**(これしげ・佐枝/佐岐さねだ)1654-174289歳 母:佐枝権兵衛秀秋女、尾張の出身、2歳で孤児、
 母方姓を名乗る、漢学;福田博道門/兵学;井上勿斎・長沼澹斎門、1669江戸住、
 大和新庄藩主桑山一尹に出仕/1682主家断絶/90安房勝山藩主酒井忠純家臣/97頃浪人、
 1704頃津藩主藤堂高睦家臣/兵学講義;門人3千/1725致仕、晩年に国学;清水以義門、
 橘家神軍伝;近松茂矩門、軍記作者、1723「四箇秘術」24「孫子管蠡抄」31「鉄砲茶話」、
 1734「大星口義」41「耄老兵法任筆」、「耄老随筆」「長篠戦記」「兵要録備考」外著多数、
 [尹重(;名)の初名/字/通称/号]初名;衣貞、字;厚父、通称;政之進、号;碎玉軒、法号;丹乘院
- 01937 **惟重**(これしげ・竹原たけはら、別名;惟清/通称;市蔵、惟秋男)?-? 江中期熊本藩士/故実家、
 「故実全書」著、養子;玄路
- 是成(これしげ・和久) → 半左衛門(はんざえもん・和久わく、藩士/書家) H 3 6 7 0
 是茂(これしげ・源) → 是茂(これもち/これしげ・源みなもと、廷臣/歌) E 1 9 5 4
 惟成親王(これしげしんのう) → 惟成親王(これなりしんのう) E 1 9 3 8
- Q1917 **之女**(これじよ・瀬川せがわ) ? - ? 江後期;歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [これも又もゆる物とや柴人がわらびをさへに折りてそへたる](大江戸倭歌;171歳)、

[つれなくて過ぎもゆくかな人知れず胸とどろかす小ぐるまの音]、
(同;恋1417/門過不入恋)

- 1945 **惟季**(これすえ・大神おおが/山井、右近将監晴遠男) 1026-9469 平安後期楽人;大神氏祖、右近将監、
笛の名手;戸部正近門、宮中の笛師、放鷹楽を浄明院円憲より伝受(教訓抄入)、
「懐中譜」「懐竹抄」著、「教訓抄」に惟季の説が多く引用
- 01938 **惟季**(これすえ・押小路?) ? - ? 南朝廷臣;中納言、長慶天皇に出仕/歌・新葉1422
- 01939 **伊季**(これすえ・今出川いまでがわ、公規男/本姓;藤原) 1660-170950 江前期廷臣;1675従三位/94正二位、
権大納言/春宮大夫/右大将/1709内大臣、歌学に精通/管弦;琵琶を嗜む、
伊季公記/1678-81「延宝日次記」1701「六孫王権現階宣下陣儀次第」著、
[伊季(;名)の通称/法号]通称;菊亭、法号;深修院
- 01940 **這季**(これすえ/このすえ・中島なかじま、這与男) 1795-186470 兄這如の嗣;1822信州松本藩士、
関流和算家;江戸の長谷川寛門、帰郷後;家塾を開/藩主戸田光則のとき算学師範、
「算梯歌集」、1821「算学教導百首」56「算学自叙」57「掌中鉤股規矩要録」、「算法百首之歌」著、
[這季(;名)の字/通称]字;子齋、通称;喜野太夫
- 惟季(これすえ・浅田) → 義言(よこと・福島、浅田/乙葉、幕臣/日誌) D 4 7 3 1
- E1925 **惟典**(これすけ・阿蘇あそ/本姓;宇治) 1732-9362 肥後阿蘇神社大宮司・歌人;小沢蘆庵・高木紫溟門、
従四上、惟馨これかの父/惟治これはるの祖父、家集「二葉集抄」、「蘇山稿」著
- 惟右(これすけ・森脇) → 軍蔵(ぐんぞう・森脇もりわき、神道家/歌) B 1 7 1 3
- 伊亮(これすけ・尾形) → 光琳(こうりん・尾形おがた、絵師) C 1 9 0 8
- 是助(これすけ・下郷/千代倉) → 伝芳(でんぼう・下郷しもさと、商家/俳人) E 3 0 3 1
- 是助(これすけ・中西) → 子正(つぐまさ/たねまさ・中西なかにし、剣法家) 2 9 8 6
- 01941 **惟澄**(これすみ・阿蘇あそ、惟景[惟国]男/本姓;宇治)?-1361or1364? 肥後阿蘇神社大宮司/筑後守、
弟惟直と南朝軍参戦;九州各地を転戦、1348「阿蘇惟澄申状」著
- 01942 **惟肅**(これすみ・交野かたの/本姓;平、初名;時度、法号;温光院、裏松意光男) 1706-3934 母;山本実富女、
交野時香の養嗣子;廷臣/1736従三位、「百人一首装束附」著
- 之住(これすみ・岩城) → 風虎(ふうこ・内藤、藩主/俳人) 3 8 5 5
- 是三(これそう・玉井/遠藤) → 高環((たかのり・遠藤/玉井、藩士/測量) M 2 6 8 0
- 是三(これそう・渡) → 豊年(とよとし・渡わたり、医者/歌人) X 3 1 0 1
- 01943 **維敬**(これたか・杉山すぎやま、玄洞)?-? 江中期尾張の本草家;松平君山門、
1779「本草正正譌刊誤」著
- Q1930 **維恭**(これたか・伊藤いとう、亀屋八十郎2男) 1748-181669 出羽庄内の松山藩御用肴屋亀屋の生、
親友進藤周貞と医を志し江戸の桃井桃庵門;帰郷;出羽酒田の町医;伊藤姓を名乗る、
進藤周貞は鶴ヶ岡で医業、庄内松山藩医に登用される/歌人;芝山持豊門、
省吾・鳳山の父/維恭没後;鳳山が伊藤家を再興、
[維恭(;名)の初名/字]初名;是則、字;孔昭
- Q1922 **惟孝**(これたか・秋山あきやま、通称;相模) 1783-186078 讃岐那珂郡櫛梨村櫛梨神社神官、国学者、
1860(万延元)没、秋山惟恭これい(厳山)の父
- 01944 **惟孝**(これたか・小林こばやし/旧姓篠宮、小林藤八の養子) 1804-8784 越後直江津和算家;内田五観門、
福田理軒門/暦学;小出兼政門、1868高田藩校教官、1827「算法童蒙発心」47「順天堂算譜」著、
「算法盟譜抜書」編/49「算法容術起源」校訂、外編著多数、
[惟孝(;名)の通称/号]通称;嘉四郎、号;百哺/牙籌堂/螻齋
- R1948 **惟孝**(これたか・山田やまだ、国春男) 1814-7360 美濃羽栗郡笠松の薬種称、絵師、画;広瀬春樵門、
尾張の絵師山本梅逸門;高弟の一人/画塾開設;門弟多数、勤王家/詩文・篆刻も能くす、
梁川星巖・頼三樹三郎と交流、1873(明治6)没、
[惟孝(;名)の字/通称/号]字;子友、通称;嘉兵衛、号;訥齋とつさい
- Q1913 **惟隆**(これたか・太田おた、通称;元禮げんき/元禮げんれい、鹿倉以仙男) 1817-6044 医者;小児科に通ず、
1837(天保8)太田惟刻これま(蔓いげる、元達/元禮/惟巖)の養子;家督継嗣;幕府寄合医師、
1843(天保14)奥詰医師、法眼、歌人、元禮道精の父、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[染むる間も嵐の山の名におひて風のまにまに散る紅葉かな]、

(大江戸倭歌;秋998/紅葉随風)

- Q1959 **惟孝**(これたか・岡野おかの、通称;万平/号;松寿)1824-8461 大和奈良の職人;春日檜物職12世、11代松寿(恒徳)の弟、国学;井上文雄門、彫刻・画・歌・俳諧・謡曲・狂言など諸芸を嗜む、
惟孝(これたか・橋本) → 晩翠(ばんすい・橋本はしもと、儒者) I 3 6 2 1
惟孝(これたか・佐藤) → 敬庵(けいあん・佐藤さとう、儒者) E 1 8 6 3
惟孝(これたか・藤江) → 梅軒(ばいけん・藤江ふじえ、藩儒者/詩文) B 3 6 0 9
惟孝(これたか・神) → 晋斎(しんさい・神じん、医者/儒者) O 2 2 5 3
惟孝(これたか・中西) → 鷹山(ようざん・中西なかにし、医者/古医方) B 4 7 0 4
維孝(これたか・久我/中院) → 通維(みちこれ・中院/源/久我、廷臣/日記) B 4 1 4 8
惟孝(これたか・山本) → 楽所(らくしょ・山本やまもと、藩儒) B 4 8 2 2
維孝(これたか・竜) → 三瓦(さんが・竜りゅう、儒者) L 2 0 8 8
- 1946 **惟喬親王**(これたかのみこ、文徳天皇皇子)844-89754 平安前期歌人、母;紀名虎女静子(三条町)、850惟仁親王(母;藤原明子)が皇太子/皇位継承の機を失す/857元服/大宰帥/弾正尹、常陸・上野太守、失意の閑居/872出家;小野隠棲、伊勢物語に逸話;業平・有常と交遊、勅撰6首;古今(74/945)後撰(93)新古(1720)続後拾(1252)新千(567)、木地師の祖とする伝承が各地にある、
[桜花散らば散らなむ散らずとて古郷人ふるさとびとの来ても見なくに]、
(古今;春74/僧正遍昭に贈る歌)、
[惟喬親王の法名/通称]法名;素覚、通称;小野宮/水無瀬宮
- 01945 **惟嶽**(これたけ・橋たちばな/野田、橋は本姓)?-? 江後期大阪北平野町の儒者、1774刊「寄言百人」著、
[惟嶽(;名)の字/通称/号]字;周翰、通称;内記、号;東臯
- E1926 **是忠**(これただ・菅原すがら、則鞆男)?-? 平安後期官人;後白河院の北面の武士/五位、歌人;1191若宮歌合参、千載集2首;768/1086、
[恋こひゆへはさもあらぬ人ぞ恨めしき我よそならば問はましものを](千載;恋768)
- 01946 **伊忠**(これただ・藤原ふじわら、忠行2男)1211-1271 母;藤原伊輔女、鎌倉期廷臣;侍従/右中將、1243非参議/従三位、1252(建長4/42歳)正三位/60従二位/61(弘長元)出家、/、歌;1246春日若宮社歌合参加、1253-4成立藤原基家撰[雲葉集]入、
[あはれてふ言の葉だにもなきものを何を命にこひ渡るらん](若宮歌合;十五番右)
[見るほどはうさも忘るるよのなかになどしも花のあだに咲くらむ](雲葉;春140)
- F1995 **伊忠**(これただ・世尊寺せそんじ、後名;行高ゆきたか/行康、行豊男/本姓;藤原)1412-7867 廷臣;1452従三位、1456参議/74正二位、歌人;1450後崇光院「仙洞歌合」5首入(散位名)、能書家、「世尊寺侍従行季二十ヶ条追加」著、養子;行季ゆきすえ、
[なごりさへあらしのすゑも山川にさそふ水ありと散る紅葉かな]、
(仙洞歌合;十番左19/嵐に[あらじ]を掛る/華麗な落葉の錦に対し残る葉の美の点景)
- 01947 **惟忠**(これただ・並河なみかわ) ? - ? 江前期京栗田口青蓮院の門跡に近習、1698「栗田地誌漫録」著
- Q1940 **以忠**(これただ・小笠原おがさわら/本姓;源)1799-185860 出羽久保田の国学者;平田篤胤門、
[以忠(;名)の通称] 見竜
- Q1987 **惟忠**(これただ・佐伯さえき)1762- 183069 伊予新居郡氷見郷の生/国学者、今治藩国学助教
[惟忠(;名)の初名/号]初名;佐藤治、号;容斎
以貞(これただ・橋) → 以貞(もちさだ・薄田すずきだ/橋/常磐木、神道/兵法) B 4 4 3 9
伊尹(これただ) → 伊尹(こいまさ・藤原) 1 9 4 7
伊陟(これただ・源) → 伊陟(いちょう・源、廷臣/歌) G 1 1 5 7
惟忠(維忠/維恭これただ・窪井) → 鶴汀(かくてい・窪井くぼい、藩士/儒者) H 1 5 3 4
惟忠(これただ・中西) → 深斎(しんさい・中西、医者/傷寒論研究) O 2 2 4 2
惟恭(これただ・今井) → 惟恭(いきょう・今井いまい、藩士/歌人) J 1 1 5 2
惟恭(これただ・香山) → 惟恭(いきょう・香山かやま、歌人) J 1 1 6 5
- E1927 **是忠親王**(これただしんのう、南院宮、光孝天皇皇子)857-92266 母;皇太后班子(仲野親王女)、994源姓、正四下/参議/887従三位/891中納言・立親王/一品式部卿/920出家、歌;後撰550、
[逢ふことの片糸ぞとは知りながら玉の緒ばかり何によりけん]

(後撰;恋550/人目を忍び短時間に逢った女にまた逢いたくて詠む、

片に難・撚りに寄りを掛る/糸・緒は縁語)

源宗子むねゆきの父 → 宗子(致行むねゆき・源、廷臣/歌人) 4 2 1 0

息女も後撰歌人? → 南院式部卿親王女(なんいんしきぶきょうのみこのむすめ) I 3 2 5 0

維竜(惟竜これたつ→これとき・元木/畑)→鶴山(かくざん・畑はた/修姓;銭、医者/儒) J 1 5 9 1

R1943 維種(これたね・森田もりた、通称;金三郎)1835-75⁴¹ 土佐土佐郡の国学者

01948 維民(これたみ・新渡戸にとべ)1770-1845⁷⁶ 陸中花巻の人/盛岡藩士/兵学;謙信流15代、
花巻防禦の上書が忌諱に触れ1820田名部給人に左遷;陸奥北郡川内に配流/のち赦免、
1837盛岡住/40致仕、「杜陵古事記」編/「烏枢沙摩明王靈驗記」著、1844「古鎧拾遺」編、
[維民(;名)の通称/号]通称;民司/平六/伝蔵、号;湛水/湛泉/生腐園/痴翁

惟民(これたみ・尾形) → 洞簫(どうしょう・尾形、儒者) F 3 1 4 8

1948 惟足(これたる/これたり・吉川よしかわ、広元男/本姓源)1616-94⁷⁹ 江戸日本橋商家の養子、
1651隠退/歌人、53上洛・神道家;萩原兼従門、吉田神道の奥義を究め吉川神道を創始、
1657和歌山藩主徳川頼宣に招聘/以後各地の大名が入門/61会津藩主保科正之に招聘;
会津藩校日新館に神道方を設置、1682幕府神道方、本所住、「幽闇集」「視吾堂集」「山家記」、
「吉川惟足家集」「神道諸伝授集」「開味記」「三種述要」「神道奥秘伝授」外著多数、
服部安休の師、従長の父

[惟足(;名)の幼名/別名/通称/号]幼名;千代松丸、別名;元成/従時、通称;五郎左衛門、
屋号;尼崎屋、号;視吾あみ堂/湘山隠士/湘山幽士/柏葉主人/視吾霊社

B1917 是誰(これたれ・ぜい・瀬下せしも、名;良重よしげ)?-?天文1532-55頃没 信州佐久郡の俳人:松永貞徳門、
甥敬豊のぶとよの師

E1929 是誰(これたれ・ぜい・池田いけだ、別号;落葉堂/秋風子)?-? 江前期播磨姫路の俳人:貞徳門、
1658「初本ゆひ」-62「玉櫛笥」著、1676西鶴「古今俳諧手鑑」入、
[松にしぐれ鹿の角さす蜂の宮](手鑑/蜂の宮;笠置山蜂の堂?、
諺[鹿の角を蜂が螫さす];何の痛痒もない喩)

01949 是誰(これたれ・ぜい) ? - ? 名古屋の俳人:暁台門、1768-72暁台「秋の日」6句入、
[繰り言に旧き家来の泣かせける](前句;酸はゆき酒の小売はじめて[暁台])
(秋の日;[今幾日]の歌仙11句目/客を騙す主人に古参の店員が強く諫める)

E1930 伊周(これちか・藤原ふじわら、関白道隆男)974-1010³⁷ 母;高階貴子、儀同三司、内大臣、
叔父道長と政争、花山院奉射事件で996大宰権帥に左遷、997赦免帰京/1001本位復位、
1008准大臣/正二位、失意の晩年、
詩;本朝麗藻・和漢朗詠・和漢兼作・本朝文粹入、歌;玄々集・後葉集・万代集入、
勅撰6首;後拾遺(529/1158)詞花(308/388)続古今(1402)玉葉(2423)、
[物思ふ心の闇し暗ければあかしの浦もかひなかりけり](後拾;羈旅529)、
(長徳2年[996]大宰府配流の時明石にて詠む)、
[筑紫より帰り給ひて、
つれづれとあれたるやどを詠ながむれば月影のみぞ昔なりける](玄々集59)、
[伊周(;名)の通称] 儀同三司ぎどうさん/帥内大臣そちのなだいじん、道雅の父
母;高内侍(こうない)→ 貴子(たかこ・高階、儀同三司母) 2 6 9 9

Q1963 維親(継親これちか・喜多きた、旧姓;飯田)1745-1790⁴⁶ 伊勢度会郡の国学者、親章ちかあきの養父、
[維親(;名)の字/通称/号]字;五瀬、通称;隼人/勝五郎、号;峨々

01950 維周(これちか・佐藤さとう、甚兵衛男)1759-1826⁶⁸ 羽後矢島新庄村農家/漢学;母方伯父定蔵法師門、
1795推薦されて矢島領属吏/江戸で儒;亀田鵬斎門/1805帰郷;代官・用処役/21致仕、
剃髪;弥勒母山に安楽廬結庵、「安楽廬記」「獲猿解」「すくろのすすき」著、
[維周の字/通称/号]字;楨卿、通称;治平/治兵衛、号;安楽廬

R1906 維幾(これちか・中川ながわ,)1761-1826⁶⁶ 摂津西宮の酒造家;小西屋、歌人;加藤千蔭門、
国学・歌;伴資芳(蒿蹊)・尾崎雅嘉門
[維幾(;名)の通称]小西屋厚五郎

01951 惟親(これちか・浅野あさの/本姓;源、字;興祖/号;師心庵)1773?-? 1792存 尾張藩の儒者/詩人、
「師心庵詩集」著

- 01952 **諸親**(これちか・笠因かさより、通称;隼之助)?-? 江戸後期伊勢松坂の歌人;富樫広蔭門、
「二百番歌合」編
- Q1967 **維新**(これちか・蔵知くらち、旧姓;薄田/村瀬)?-1861 備前岡山藩士、国学者/歌人、
[維新(;名)の通称] 岩三郎/団右衛門
- Q1960 **惟幾**(これちか・賀来か、)1844-1916 73 京の生/近江日野の医者/歌人;[鳩のうみ]入、
[惟幾(;名)の通称/号]通称;寿一、号;鴨涯
惟親(これちか・平) → 親時(ちかとき・平たいら、廷臣/歌人) O 2 8 0 3
惟親(これちか・小野/竹原) → 玄路(はるみち・竹原/小野、歌人) G 3 6 9 4
惟親(これちか・安倍/安部) → 恭庵(きょうあん・安倍/安部、医/史家) N 1 6 1 5
惟親(これちか・鈴木/廬) → 広川(こうせん・鈴木/廬、儒/詩文) K 1 9 2 0
惟親(これちか・桑原) → 壽安(じゅあん・桑原くわばら、産科医) W 2 1 4 6
維周(これちか・恩田) → 蕙楼(けいろう・恩田おんだ、藩士/儒者) 1 8 9 7
伊周母(これちかのほは・藤原) → 貴子(たかこ・高階、儀同三司母) 2 6 9 9
- E1931 **伊嗣**(これつぐ・鷹司たかつかさ、伊平男/本姓;藤原)?-? 鎌倉期廷臣;従四位左中将、
歌人;1246春日若宮社歌合参加/56基家百首歌合参加、続後撰443、雲葉集入、
[秋のゆく山はたむけの名にふりて木の葉や幣と散りまがふらん](続後撰集;秋443)
- E1932 **惟継**(これつぐ・平たいら、初名;惟兼/法名;宴儀、高兼男)1266-1343 78 廷臣;1330権中納言/正二位、
1335文章博士/42出家、天台寺門派園城寺円伊と交友;円伊に師事(徒然草86段入)、
歌;二条派/後醍醐天皇内裏の和歌行事に参加、
1314詩歌合参加(左;詩作)、1315京極為兼[詠法華経和歌]出詠、
勅撰7首;玉葉(1941)続千(1620)続後拾(438)新千(3首)新拾遺(1首)、続現葉1首入、
新葉2首(543/730)、臨永集3首・藤葉集2首入、惟材これきの父、
[山川の同じ流れもときは木のかげ行く水は色ぞ涼しき](玉葉;雑1941)
- 01953 **是綱**(これつな・菅原すがら、定義男)?-1107/80歳位 母;藤原相任女、廷臣;紀伝道に修学/1057対策、
式部丞/相模権守/武蔵守/1087従四下大学頭/95常陸介/正四下、詩:本朝無題詩・続文粹入、
1092吉祥院聖廟の作文会に氏長者として儒者の貫首を勤める
- E1933 **伊綱**(これつな・藤原ふじわら、家基[素覚]男)?-? 1202存 母;源俊頼女;新少将?、鎌倉期廷臣;中務大輔、
歌;1170住吉社/72広田社/78別雷社歌合参、1195経房家/1200石清水若宮歌合参加、
勅撰4首;千載700/1239新古今170玉葉2477、藤原隆信・寂蓮らと交流、伊光の父、
[つれなくぞ夢にも見ゆるさ夜衣うらみむとては返しやはせし](千載集;恋700)
(夢で逢うために衣を裏返して寝たのに夢の中の恋人は薄情/裏見むと恨みむを掛る)
- E1934 **伊綱**(これつな・小槻おづき、益材男)?-? 鎌倉期官人/日記作者、1300「伊綱宿禰記」著
- E1935 **伊経**(これつね・世尊寺せそんじ、通称;帥大夫そちのたいふ、伊行これゆき男/本姓;藤原)?-1227 鎌倉期廷臣;
皇太后宮亮、正四下、歌人;1178廿二番歌合/84賀茂別雷社後番歌合/91若宮社歌合参加、
能書家;千載集奏覧本外題・1190女御任子入内屏風色紙形の清書・三百六十番歌合清書等、
勅撰2首;千載822、新勅撰758、瞻空せんくう・建礼門院右京大夫の兄弟、行能の父/定信の孫
- R1954 **維経**(これつね・藤田ふじた、) ? - ? 江前期;京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]2首入、
[心あれな幾世かさねて時鳥なかむかぎりの閨の手枕](麓の塵;夏131)
- F1996 **惟庸**(これつね・竹内たけのうち/本姓;源、孝治たかはる男or兄俊治男説あり)1640-1704 65 母;家女房、
廷臣;1674(延宝2)惟庸に改名/1686刑部卿/1701(元禄14)従二位、非参議、
田村誠頭のぶあき(陸奥一関藩主)継室伊予姫の父、
歌人、摂津の野田忠肅に「柏伝」を伝授、1683天和三年九月十三日公宴当座御会参加、
1701(元禄14)田村家深川別業和歌に出詠・跋文執筆(金紫光禄大夫名);
[海近くつくる軒端に紛れいでて波のよるよるむかふ月影]、
(田村家和歌;連夜翫月/波の寄る夜毎に向き合う月の風趣;海辺別荘の賛美)
[惟庸(;名)の別号/法号]別名;能治(;初名)/当治、一字名;佳、法号;休源院
- Q1946 **是常**(これつね・緒方おがた、) ? - 1851 下総香取郡の香取神宮正判官、国学者
- 01954 **惟恒**(これつね・西田にしだ/旧姓;高階たかしな[堀尾])1816-? 1863存 京の国学者;本居大平・内遠門、
紀伊和歌山の医者西田玄道の養子;医業、大舍人寮史生/1840紀伊掾/47従六下、
大平「古学要」筆録(;1841刊)、歌:1858「三熊野集」編輯/62「近世三十六人撰」、

1855「安政二年百首」56「安政三年二百首」、「安政四年三百首」「安政五年四百首」、
「安政六年五百首」/1860「万延元年六百首」、1861「文久元年七百首」/「文久二年八百首」/
1863「文久三年九百首」、「若浦百人一首」「続紀伊国名所百首」「続紀伊国名所百首」、
「紀伊国式社考」「紀伊古城考」「紀伊国造家譜」、外著多数、

[惟恒(；名)の別名/通称]別名；三子みつね/三子麿、通称；内蔵助くらの掛け/門蔵/紀伊掾

R1928 是経(これつね・堀家ほりけ、名；誠意/通姓；式部) 1823-7856 備中賀陽郡の吉備津神社社家、国学者

01955 惟常(これつね・猿子まこ、別名；鴻) ?-? 江後期江戸の生/越後新発田藩士；監察、
江戸本所別荘百花園の吏を兼任、詩文・園芸に通ず、「百花種芸録」著、

[惟常(；名)の字/通称/号]字；子漸、通称；太兵衛、号；雷首/雷首山人

惟常(これつね・浅田) → 宗伯(そうはく・浅田あさだ、儒医/幕医) I 2 5 7 1

惟常親王(これつねしんのう) → 最胤親王(さいいんしんのう、天台座主) G 2 0 5 0

以貫(これつら・穂積) → 以貫(いかん・穂積ほづみ、儒者/芸談) 1 1 7 1

惟任(これとう・明智) → 光慶(みつよし・明智、光秀男/武将/連歌) F 4 1 1 2

惟任日向守(これとうひゅうがのかみ) → 光秀(みつひで・明智、武将/連歌) E 4 1 6 3

01956 惟遠(これとお・平たいら) ? - ? 南北期連歌作者；1356成立「菟玖波集」入、

[うき旅はわれもねになく友衛ともちどり](前句；浦ちの霜の寒き月影/菟玖波；羈旅1689)

1949 維時(これとき・大江おおえ、字；江二/通称；江納言、千古男) 888-96376 母；巨勢文雄女、廷臣/漢学者；

紀伝道に修学/対策、文章博士/大学頭/950参議/955従三位/960中納言、詩歌に通ず、

949「乾元録屏風詩」選定、957撰国史所別当；「新国史」編纂参画、959内裏詩合；判者、

「日観集」編/「千載佳句」編、新勅撰集541、詩；文粹2首入、追贈；従二位、重光・斉光の父、

[天の下治むるはじめむすびおきてよろづ世までにたえぬなりけり](新勅；神祇541)、

(天慶六年[943]日本紀竟宴和歌/国常立尊)

R1919 惟時(これとき・平松ひらまつ、) 1686-173853 大和奈良の国学者、

[惟時(；名)の字/号]字；季然、号；古道/無名園/箕踞庵ききょあん/倍千

奈良の医者で俳人の村井古道(無名園/1681-1749)との関係？

Q1907 惟時(これとき・桜井さくらい、) ? - ? 江後期；歌人、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、

[磯山のから紅のもみぢ葉はしほのやしもの風や染めけむ](現存百人一首；41)

惟時(これとき・松崎) → 観海(かんかい・松崎まつさき、藩士/儒者) 1 5 4 6

維時(これとき・荒木) → 是水(ぜすい・荒木あらき、書家) K 2 4 6 4

維竜(惟竜これとき・元木/畑) → 鶴山(かくざん・畑はた/修姓；銭、医者/儒) J 1 5 9 1

惟徳(これとこ・藤井/羽倉) → 惟得(いといく・羽倉はくら/荷田、国学/歌) B 1 1 6 9

E1936 伊俊(これとし・白河しらかわ/本姓；藤原、従三位伊家2男) 1302-5958 祖母；藤原忠成女、廷臣；侍従、

少納言/頭中将/1351(観応2/50歳)従三位；非参議、伊頭(早世)の父、1359(延文4)没、

歌人；新千載1487、1345？小倉実教[藤葉集]2首入、

[契のみあさ木の柱朽ちはてぬうかりしふしや限りなりけん](新千載；恋1487)

[千しほまでいつの人まに染めつらんめかれぬ庭の秋の紅葉ば](藤葉；秋283)

F1997 惟俊(これとし・平、成俊[1336没]男) ?-1324 廷臣/従三位、「兼好法師集」詞書(206)入

吉田兼好[1283?-1352?]と交流

01957 伊寿(これとし・柳沢やなぎさわ) 1811-185747 上州那波郡飯塚村の和算家；齐藤宜長門、

1837「算法円理起源表」編、「登階算法」編/「書物目録」著、

[伊寿(；名)の通称]正蔵/正左衛門/庄左衛門

惟俊(これとし・高川) → 楽真(がくしん・高川たかがわ、藩士/詩/書) K 1 5 1 0

N1954 茲福(これとみ・亀井がめい/本姓；源、通称；勇之助) ?-? 江後期；幕臣/石見津和野藩主亀井家の人？、

歌人；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、短冊などあり、

[さびしさよ落葉をさそふ夕時雨木末に有りし色を思へば](大江戸倭歌；雑1897)

惟富(これとみ・尾形) → 光琳(こうりん・尾形おがた、絵師) C 1 9 0 8

F1998 惟朝(これとも・梅園うめぞの/別姓；土師/菅原) ?-? 1704(元禄17)存 撰津住吉社客分職役、国典国学者、

松下見林の影響を受け住吉社の習合的俗説の打破刷新に尽力、契沖と親交、

1684「中臣直真解鈔」、99「石上大明神縁起」「古事記集解」、「住吉貞享雜記」「住吉全書」著、

「住吉松葉大記」編、「国史神祇集」著、1705「和訓類林」編？(若沖説も)、

[惟朝(；名)の/別名/通称/号]初名；理政、通称；平吉、
号；黄鳥散人/愚直堂/直堂/愚狂/佶鄙生きびせい

- R1930 **惟同**(これとも・馬淵まぶち、) ? - 1758 越前福井の医者；1710(宝永7)福井藩医/奥医師；百石、
国学修学、養子；養真が家督嗣、
[惟同(；名)の通称/号]通称；亭庵こうあん、号；楊洲
- R1937 **惟具**(これとも・水谷みづたに、通称；小平太)?-? 江後期；伊勢桑名の商家；問屋業、国学者、
国学・歌；桑名の神職富樫広蔭(1793-1873)門
- 是知(これとも・牧) → 義比(よしとも・牧まき/藤原、官人/記録) F 4 7 0 2
惟寅(これとら・浅井) → 凶南(となん・浅井、医者/本草/詩文) O 3 1 5 6
惟寅(これとら・加藤) → 蘭山(らんざん・加藤かとう、藩士/儒者) C 4 8 2 8
惟寅(これとら・富小路) → 任筋(にんせつ・富小路、坊官/勤王家) G 3 3 6 0
惟寅(これとら・男谷/勝) → 夢酔(むすい・勝かつ/男谷、幕臣) 4 2 7 7
維虎(これとら・吉田) → 澹軒(たんけん・吉田よしだ、藩家老/財政) T 2 6 3 7
- R1900 **惟直**(これなお・立石たていし、通称；喜大夫)?-?天保1830-44頃没 紀伊和歌山藩士；勘定奉行、国学者
- Q1954 **維直**(これなお・隈部くまべ、通称；伊勢太郎)1842-1875³⁴ 肥前島原の国学者
- 惟直(これなお・曲江) → 梅賓(ばいひん・曲江いりえ/まがりえ、儒/詩歌) B 3 6 9 7
惟直(これなお・市浦) → 毅斎(きさい・市浦いちうら、藩士/儒者) I 1 6 5 1
惟直(これなお・黒沢) → 雪堂(せつどう・黒沢くろさわ、儒者) L 2 4 3 0
惟直(維直これなお・三縄) → 桂林(けいりん・三縄みなわ/修姓；縄、儒者/詩人) E 1 8 9 4
惟直(維直これなお・広沢) → 文斎(ぶんさい・広沢ひろさわ、儒者) F 3 8 3 0
維直(これなお・大島) → 贅川(しせん・大島、儒者/藩儒) U 2 1 1 5
- P1975 **維仲**(これなか・平たいら、珍材よしの長男)944-1005⁶² 平安中期廷臣；967文章生/968藏人、
980肥後守/987右少弁・大学頭・正五上/988正四下左中弁/990参議・右大弁/993従三位、
994左大弁/996権中納言/998中納言/999中宮大夫/1000(長保2)正三位/01大宰権帥、
1003従二位/04宇佐神宮より告訴あり；1005大宰府にて没、
寂超「後葉集」412詞書に成忠卿母との交渉あり
- 01958 **維中**(惟中これなか・藤田ふじた・屋号；紅屋)?-? 江後期；京の商家/国学・歌；香川景樹(1768-1843)門、
国学；平田篤胤門、「桂園語釈」編、1854景樹歌論「歌論語うたるんご」編、景樹詠「桂園聚葉」編、
「古語本釈集」「近世歌人師弟一覽」著
- 惟仲(これなか・高階) → 雅仲(まさなか・高階たかしな、廷臣/記録) F 4 0 0 7
是中(これなか・渡) → 為興(ためおき・渡わたり、歌人) 2 7 4 9
- 01959 **維長**(惟長これなが・源、長俊男/有長の弟)?-? 鎌倉期廷臣；左兵衛権少尉/中宮少進、筑後守、
従四下、歌；1213内裏詩歌合参加、
[花なれや水わけ山の夕まぐれ雲に波たつをちの春風](内裏詩歌合；廿四番；右)
- E1937 **伊長**(これなが・白河しらかわ、伊時男/本姓；藤原)?-1258 鎌倉中期廷臣；左近中將/正四下、伊定の父、
歌人；1256基家家百首歌合参加、万代・秋風・雲葉集入、
勅撰7首；続後撰(1169)続古今(555/1528)続拾遺(1055)新続古今(658/1340/1595)
[こずゑにてなほぞそめまし夕時雨もろともに降る木の葉ならずは]、
(続古今集；六冬555/前内大臣基家家百首歌合にて)
- F1999 **伊長**(これなが・甘露寺かんろじ、初名；敦長あつなが、元長男/本姓；藤原)1484-1548⁶⁵ 母；高倉永継女、
廷臣；1518参議/正四上左大弁/34権大納言/42按察使/46従一位、
「御教書案元長伊長経元」著、歌人(家業)；「秘歌集」、「十二番歌合」催、親房「古今集註」写、
和漢聯句；享禄三年和漢聯句、
連歌；1532天文元年十一月十五日何路百韻・33疊字百韻・41千句・46何人百韻・49法楽千句
- 01960 **伊長**(これなが・大中臣おおなかとみ/家名；河辺、広長男)?-? 戦国期永正大永1504-28頃の伊勢神宮神職、
1521伊勢大宮司、「大宮司聞書」著
- 01961 **惟長**(これなが・市瀬いちせ) ? - ? 江後期江戸の和算家；会田安明門、最上流四天王の1、
1811「最上流開平方」「最上流開立方」編/14「算法本源集」18「奉献数学院題術」外著多数、
[惟長(；名)の字/通称/号]字；白賁はくひ、通称；長兵衛、号；慎斎/聚英堂
- P1991 **維良**(これなが・秋山あきやま/本姓；源)1780-? 江後期；幕臣；江戸住、

歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、
[五月雨におりたつ田子が濡れ衣ころもすごさず早苗とるなり](大江戸倭歌;夏487)

- Q1910 惟永(これなが・郡司ぐんじ) ? - ? 江後期;歌人、幕臣?、
1847(弘化4)7月7日土佐守水野忠央亭五番虫合参加、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[都人虫えらみにとこざりせば千くさもよるのにしきならまし]、
(大江戸倭歌;秋800/五番虫合)
惟永(これなが・阿蘇) → 玄与(げんよ・阿蘇あそ/宇治、武将/歌人) D 1 8 2 3
惟永(これなが・柳村/鹿持)→ 雅澄(まさずみ・鹿持からち/飛鳥井/柳村、藩士/国学者) 4 0 0 9
惟長(これなが・森脇)→ 惟久(これひさ・森脇/吉川、/神道/歌人) R 1 9 2 3
惟命(これなが・中江) → 藤樹(とうじゅ・中江、儒;陽明学) 3 1 1 6
- G1900 惟仲女(これなかのむすめ・平) ? - ? 平安期:源頼光の妻、頼家の母
惟柔(これなご→ただなご・頼)→ 杏坪(きょうへい・頼らい、儒者/詩/史家) 1 6 3 8
- 01962 惟成(これなり・竹原たけはら、宗守男)?-1652 肥後熊本藩士/故実家;
書札歌道故実;細川幽齋門;宗匠/弓矢故実;武田三十郎門/庖丁;大草三郎左衛門門、
肥後八代の細川忠興に出仕/晩年出家、「和歌秘録聞書」著、
[惟成(;名)の通称/号]通称;市蔵/勝左衛門、号;墨斎/玄可
- 01963 維濟(これなり・藤井ふじい/本姓:藤原)1747-1818 72 近江彦根国学者;小沢蘆庵門、二条城番組与力、
京の鹿谷靈鑑寺の宮内人/歌人、「国歌八論斥排再評」著、
[維濟(;名)の字/通称/号]字;汝楫、通称;伝右衛門/伝余、号;西野、勝久の父
- Q1990 惟成(これなり・篠田しのだ、) ? - 1872 江後期;因幡鳥取藩士;御料理頭、
国学・歌人;米原豊秋・飯田秀雄門、
[まどかなる月のひかりに霧はれて山のかひある夜半の道かな]、
(沖探容画の因幡八景;丸山秋月)
[惟成(;名)の通称/号]通称;松之丞、号;完瓦
惟成(これなり) → 惟成(これしげ・藤原) 1 9 4 4
伊成(これなり) → 伊成(これしげ・藤原) E 1 9 2 3
- E1938 維成親王(惟成親王これなり/これしげしんのう、後村上天皇皇子)?-1423 母;嘉喜門院大蔵卿(師治女)、
南朝大宰帥/式部卿/中務卿、歌人:二条派、
1375南朝内裏五十番・五百番歌合参加(;太宰帥親王名)、新葉6首33/380/466/694/924/952
[来ぬ人をさそふばかりに匂ひけり軒ばの梅の花の下風](新葉;春33/内裏五十番歌合)
- G1963 此主(これぬし・清書、双紙亭、榭屋喜兵衛)?-? 江後期江戸四谷新宿仲町の籠屋、狂歌;才蔵集1首、
[世の中の金と虱はわきものよわがふところの温まるほど](才蔵集;十三568)
- E1939 惟信(これのぶ・藤原ふじわら、通称;吉田少納言?、資良男)?-1113 平安後期廷臣、母;藤原良佑[祐]女、
六位蔵人/四位少納言/齋院長官/皇后宮大夫/主殿頭、藤原忠実の家司、
歌人;1091宗通歌合参加(;前遠江守名)、金葉II 526(III 516)、
[山吹も同じ挿頭かざしの花なれど雲居の桜なほぞ恋しき](金葉;雑526)、
(蔵人の任が解け臨時祭の陪従[楽人・歌人]となり藤原伊家に贈る歌/雲居は宮中)
- E1940 伊信(これのぶ・藤原ふじわら、法名;寂明、為継男)?-? 鎌倉期廷臣;正四下右馬頭、1276前に出家、絵画、
歌人;1263住吉社歌合参加(;父と)/76「建治二年三十六人詩歌」「閑月集」入集、
勅撰5首;続古今(1625)続拾遺(844/1352)新後撰(273)、
[降りそめていくかともなき雪の中にかつがつ人のとはぬ宿かな](続古;雑1625/冬歌)
- E1942 惟信(これのぶ・分部わけべ) ? - ? 江中期近江大溝藩士、本草学、
李時珍「本草綱目」所収外の品類を集録、1726「物筌」-40「物影」著
- R1975 伊信(これのぶ・白井しらい、通称;忠左衛門、幹時男)?-? 江前期;幕臣、
姉の波留は家康の侍女(芳春院)、家康11男の徳川頼房家臣;子孫は代々水戸藩士、
歌人;1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、
[つれなさのならひにもれて老らくの寝覚かたらふ時鳥かな](若むらさき;45)
- Q1937 伊信(これのぶ・白井うすい、)1723-1775 53 信濃筑摩郡麻績村の大庄屋;麻績おみ宿の本陣、
医者、歌;冷泉宗家門、
[伊信(;名)の通称]忠兵衛/玄仲

- E1941 **惟信**(このぶ・狩野かのう、典信[栄川]男/本姓;藤原)1753-1808⁵⁶ 江戸木挽町狩野家出身;父門、1781法眼/1790家督;幕府絵師/94法印、松平不昧と親交、「名所図」、1798「専門画家譜」編、[惟信(;)名の通称/号]通称;栄二郎/栄次郎、号;養川/養川斎/玄之斎/玄止斎、法号;養川院
- 01964 **維叙**(このぶ・黒坂くろさか、森もり平左衛門男)1798-? 1866存 黒坂吉兵衛の養子/1814家督;幕臣、小普請方/賄頭次席/1859書物奉行/62勘定吟味役/63納戸頭/66(慶応2)御役御免;寄合、「学海筆乗」編、徳太郎の父、[維叙(;)名の通称]丹助
- Q1995 **惟寅**(このぶ・田中たなか、)1814-1890⁷⁷ 美濃可児郡の国学者/維新後;権少講義「家長心得草」「貧富循環図説」著
- 維宣(このぶ・宮地) → 維宣(いせん・宮地、歌集編集) D 1 1 4 9
 維宣(このぶ・西村) → 元春(げんしゅん・西村にしむら、藩医/鍼医) J 1 8 7 2
 惟信(このぶ・高橋) → 健蔵(けんぞう・高橋、書家) K 1 8 7 0
 伊信(このぶ・柳沢) → 信鴻(のぶとき・柳沢、藩主/俳人) C 3 5 2 8
- G1901 **惟範**(このり・平たいら、高棟王男)855-909⁵⁵ 母;藤原長良女の有子、平安期廷臣;875皇太后宮権亮、877民部大輔/890式部大輔/896従四上/898大蔵卿・太皇太后宮権大夫/902参議/903正四下、903播磨守/907中納言・従三位/909右近大将、漢詩:大蔵善行門、901時平別邸での大蔵善行七十賀宴「雑言奉和」入
- 1950 **是則**(このり・坂上さかのうえ、好蔭男/田村麻呂4代孫)?-930 平安期廷臣;909大和権少掾/大内記、924加賀介/従五下/修理亮、望城の父、醍醐期代表的歌人;36歌仙の1、913「亭子院歌合」参、醍醐御時菊合参加、家集「是則集」、勅撰43首;古今(267/302/325/332以下)後撰(6首)以下、[朝ぼらけ有明の月と見るまでに吉野の里に降れる白雪](古今集;六冬332)
- 01965 **維教**(このり・姓不詳) ? - ? 南朝廷臣;右衛門督/歌:新葉1138/1312 [思ひ出と思はで過ぎしいにしへを忍ぶに今のうさをしらるる](新葉:十八雑1312)
- 01966 **惟徳**(このり・勝島かつしま、通称;九右衛門)1670-1735⁶⁶ 備後尾道の儒者:伊藤仁斎・東涯門、「垂裕嘉言」著、翼斎よくさいの曾祖父
- 01967 **維徳**(このり・辻つじ、通称;小八/周助)1699-1756⁵⁸ 丹波熊谷の里正の家/儒:関南瀨門、1718古義堂門、医;香川修庵門、「恕行室詩文鈔」著
- 01968 **維則**(このり・松尾まつお) ? - 1776 代々播磨竜野藩医、1748「播州古城記」著、雪庵の父
- 01969 **維則**(このり・西田にしだ) ? - 1765 近江の儒者/京住、白話:岡白駒門、沢田一斎と親交、白話小説翻訳、1758-1831「通俗西遊記」訳/1760「通俗隋煬帝外史」61「通俗赤繩奇縁」訳、1806-35「絵本西遊記全伝」訳、67「奇談一笑」、「巷談奇叢」「訳説金剛伝」「通俗金翹伝」著、☆「通俗赤繩奇縁」訳者は維則説と白駒説がある→白駒(はっく・岡) 3 6 2 1 [惟則(;)名の字/通称/号] 字;子孝、通称;幸安/幸庵 号;贅世子ぜいせいし/口木子こうぼくし/口木山人/烟水散人/風流快史
- D1911 **維典**(このり・阿蘇あそ、大里惟栄男)1732-93⁶² 肥後阿蘇郡阿蘇家の養子;83代阿蘇神社大宮司、歌人;高本順(紫溟)・小沢蘆庵門、家集「二葉集抄」著、別名;惟陳
- 01970 **維則**(このり・富田とみた、号;丹斎)?-? 江中期播州赤穂の医者、大坂舟町住、1789「医事軌範」94「啓関録」著
- R1912 **維徳**(このり・波多野はたの、)1757-1826⁷⁰ 筑前遠賀郡熊手村の神官・国学者、[維徳(;)名の別号/通称]別名;良達/維憲このり/直憲、通称;監物
- 01971 **維則**(このり・宮地みやじ、五右衛門男)1768-1822⁵⁵ 土佐小高坂村の医者;1784桑名原澄門、1787上京し本草学:小野蘭山門、儒;岩垣竜溪門、1791帰郷、北奉公人町で医業、1794-1803江戸住;各地行脚し植物採集、1803「常毛採薬録」、「消閑録」「登富嶽記」著、[維則(;)名の字/通称]字;叔義、通称;郁蔵 常坦の父
- G1902 **惟則**(このり・菅原すがわら) ? - ? 儒医:望月鹿門門?、1805鹿門「鹿門随筆」編/序;「鹿門随筆」を実際に編集した鼎埴との関係は不明
- G1903 **惟則**(このり・いそく・荻生おぎゅう、号;讓園げんえん)?-? 読本作者:1825馬琴「兔園小説」入、兔園社友
- E1973 **惟徳**(このり・飯田いだ)1773- 1838⁶⁶ 周防徳山の歌人;芝山持豊門 [惟徳(;)名の通称/号]通称;正輔/市郎、号;竹舎たけのや
- 01972 **維則**(このり・山田やまだ)1775- 1861⁸⁷ 信州上田藩士/儒;桂金溪門/1800昌平黌で古賀精里門、尾藤二洲に親炙/山鹿流兵学修学、1812藩校明倫堂の講師;学校惣司加藤彦太夫を補佐、

1825家督/30明倫堂2代惣司、「得従録」「蘭学辨」、1833「明倫堂学則」35「神道葎障辨」著、
[維則(；名)の字/通称/号]字；子孝、通称；房五郎/司馬助、号；篁軒/洗心舎

- Q1969 惟徳(これり・小樽こぐれ) ? - ? 飛騨高山郡代の手代、
国学・歌；田中大秀(1777-1847)門、
[惟徳(；名)の通称] 大助
- Q1902 惟徳(これり・勝かつ/本姓；藤原、通称；顕三郎)?-? 江後期；歌人、藩士？、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[別れゆく雁のなみだやかかるらん霞の袖に月ぞくもれる](大江戸倭歌；春207)
- J1158 惟憲(これり・石上いそのかみ、脩全)?-? 江後期歌人、因幡鳥取藩医師か？、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[年波のうつればかはる早瀬川はやくも浮ぶ春の色かな](大江戸倭歌；春19/早春川)
- Q1939 維徳(これり・碓井うすい、維貞2男)1828-190780 日向高千穂岩戸村の医者；父門、長崎で蘭学修学、
帰郷；医業、村の実情を憂い水利・新田開発に着手；難工事の陣頭指揮、
のち村会・郡会・県会議員歴任、歌人、
1863(文久3)延岡藩命で神跡調査に来訪した樋口種実と歌の問答、
[高千穂は高く尊くたちまよふ霧島山にまがふ峯かは]
[維徳(；名)の別名/通称/号]別名；豊/維晴、通称；玄良、号；迂水
之徳(これり・鈴木) → 石橋(せつきょう・鈴木すずき、儒者/教育) E 2 4 1 4
惟得(これり/ただり・羽倉) → 惟得(いとく・羽倉はくら/荷田、国学/歌) B 1 1 6 9
惟規(これり・藤原) → 惟規(のぶり・藤原/紫式部兄、歌人) C 3 5 6 7
惟然(これり・菅原) → 惟岳(これおか・紀、歌人) E 1 9 1 3
惟典(これり・今井) → 紐蘭(ちゅうらん・今井、藩奉行/排仏) G 2 8 9 2
惟則(これり・垣内) → 己山(きざん・垣内かきうち、医者/儒/詩) K 1 6 6 1
惟則(これり・小池) → 曲江(きょくこう・小池こいけ、藩士/絵師) O 1 6 8 8
維則(これり・原田) → 正貞(まさただ・原田はらだ、医者/詩人) R 4 0 9 9
維徳(これり・堀江) → 典膳(てんぜん・堀江、藩士/植林事業) D 3 0 9 7
維徳(これり・大江) → 維徳(いとく・大江、詩人) I 1 1 0 2
惟徳(これり・佐藤) → 鼎栄(ていせい・佐藤さとう、国学/歌人) F 3 0 1 0
維徳/惟徳(これり・石川) → 子温(しおん、石川、藩士/和算家) P 2 1 7 4
伊紀(これり・斎部いんべ) → 路通(ろつう/呂通ろつう、俳人) 5 2 0 9
是則(これり・井上/小林) → 蒲溪(ほけい・小林/源/井上、医者) E 3 9 1 1
是則(これり・亀屋/伊藤) → 維恭(これたか・伊藤いとう/亀屋、医者/歌) Q 1 9 3 0
- 01973 伊治(これはる・小槻おづき/大宮、初名；定泰/定春、小槻時元男)1496-155156 廷臣；1521左大史、
1522算博士/38正四上/44尾張権守、大内義隆の許に下向/1551陶軍と戦い山口で討死、
小槻家の大宮流は断絶、1626-37「伊治記」著、「新童子往来万世宝鑑」編
- 01974 惟治(これはる・阿蘇あそ、惟馨これか男/本姓；宇治)1808-7770 肥後阿蘇神社大宮司、国学；林有通門、
1846神社造営尽力/勤王派運動参加、1832「先君子歌集」編、「阿蘇惟治書翰」「阿蘇氏家論」、
惟敦これあつの父
- Q1906 惟治(これはる・石川いしかわ、通称；周蔵)?-? 江後期；歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[風わたる池のみぎはのあやめ草涼しきかにも匂ふけさかな](大江戸倭歌；夏500)
- R1927 之晴(これはる・堀内ほりうち、通称；軍蔵/号；朱桜園)1832-190574 肥後熊本藩士、国学者；林有通門、
藩校時習館訓導
之治(これはる・姫田) → 之治(し・姫田ひめだ、俳人) M 2 1 9 4
- E1944 惟久(これひさ・賀茂かも、久宗男)?- ?1345存 鎌倉・南北期神職；1313新宮社祝、上賀茂神社神主、
歌人、風雅集2125、
[かた岡のいはねの苔路こけぢ踏みならしうごきなき世をなほ祈るかな](風雅；神祇2125)
[惟久(；名)の号] 後中大路入道神主のちのなかおおじにゅうどうのかんぬし
- E1945 伊久(これひさ・藤原ふじわら) ? - ? 鎌倉・南北期、1347「越後國乙宝寺縁起」著
- 01975 惟久(これひさ・巨勢こせ) ? - ?1347存 南北期絵師；仏画/合戦画が得意；

- 1347「後三年合戦絵」、「奥州十二年合戦絵」「今昔物語絵巻」「破来頓等絵詞」著、
[惟久(；名)の通称]飛驒守/千枝惟久
- 01976 維久(これひさ・森もり、盈久男/本姓；賀茂)1632-90⁵⁹ 上賀茂神社神主/1689住三位/79権禰宜、
1685(貞享2)禰宜、「遷宮秘事口伝記」著
- 01977 惟久(これひさ・竹内たけのうち、法号；致恭院、惟永男/本姓；源)1736-70³⁵ 兄惟重の後嗣；廷臣；
代々弓箭と笙の家、1769従三位、「和歌会式」伝、惟栄の父
- 01978 是久(これひさ・坂上さかみ)？-？ 江後期1830-68頃京百万遍屋敷の儒者、
1831(天保2)「井田之説」著
- R1923 維久(これひさ・森脇もりわき、旧姓；吉川)1799-1853⁵⁵ 周防岩国の森脇惟良の養子；神道家、
国学・歌人；香川景柄かげもと門、藤田雅言まさこと(岩国藩士)の師、
[惟久(；名)の別名/通称]別名；紘/惟長、通称；琢磨/三太夫/千穂五郎/安之介/軍蔵/軍曹
惟久(これひさ・木山) → 紹宅(しょうたく・木山/源、城主/連歌作者) K 2 2 7 4
惟久室(これひさのしつ・島津) → 惟久室(ただひさのしつ・島津、藩主継室、軍書) Q 2 6 5 7
惟秀(これひさ・北田/篠原) → 静安(せいあん・篠原/北田、医/儒者) H 2 4 2 0
- P1985 伊人(これひと・荒木田あらかた)？-？ 江前期伊勢の俳人、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
[鬼をせんと先皮をむくり小栗こくり哉](手鑑/児戯；栗のむきさしの皮を鬼に見立てる、
蒙古高句麗ムクリクリ[；鬼]を言い掛ける)
惟人(これひと・賀集) → 惟一(これかず・賀集かお、製陶/国学) Q 1 9 6 1
惟仁(これひと) → 清和天皇(せいわてんのう) D 2 4 2 5
- E1946 伊衡(これひら・藤原ふじわら；南家眞作流、敏行男)876-938⁶³ 母；多治弟梶女、平安前期廷臣；
897右兵衛少尉/909従五下/924右近権中将/930正四下/934参議/937左兵衛督兼任、
元良親王家別当、歌舞；内教坊別当、歌；907大井川行幸和歌に参加、913醍醐御時菊合参加、
「三月三日紀師匠曲水宴和歌」参加、大和物語170段入、秋風集・別本和漢兼作集入集、
勅撰11首；後撰(48/1366)拾遺(7首293/513/516/518/520/522/1011)続古(1661)玉(1051)、
[竹近く夜床寝よどこねはせじ鶯の鳴く声聞けば朝寝あたいせられず](後撰；春48/竹近くの宿)
- 01979 維衡(これひら・平、貞盛男)？-？ 平安後期武将/勇猛；四天王の1、廷臣；従四上、
下野・伊勢守、上野・常陸介、伊勢に地盤を築く；伊勢平氏の祖；子孫は繁栄、
998同族平致頼むねよりと伊勢で合戦；淡路左遷(今昔物語入)のち赦免、勇猛な武士(十訓抄)、
正度・正濟・正輔の父
- E1947 伊平(これひら・鷹司たかつかさ、法名；顕恵、頼平男/本姓；藤原)1199-1262⁶⁴ 母；法眼泰宗女、廷臣；
1222参議/33正二位/38権大納言/51出家、1219内裏百番/56基家「百首歌合」参加、
1262三十六人大歌合参加(；沙弥顕恵名/)、現存和歌六帖・秋風・雲葉集(5首)入、
勅撰13首；新勅撰(289)続後撰(164/782)続古今(5首867/192以下)続拾(1257)玉(2首)以下、
伊嗣これつぐ・実伊じつゐ・禅空・今出河院近衛らの父、
[蓮の葉の露のうき世と知りながら濁りにしむは心なりけり]
(三十六人大歌合；三番右50)
- Q1958 惟平(これひら・岡田おかた、通称；歌之助、四郎男)1822-1909⁸⁸ 撰津川辺郡大原野村の国学者、
国学・歌；武藤豊樹・錦小路頼徳門、子弟教育
伊衡女今木(これひらのむすめいまき・藤原) → 今木(いまき、伊衡女/歌人) E 1 1 9 9
- R1949 維熙(これひら・湯谷ゆや、通称；友節/号；熙磨)1809-42³⁴ 但馬出石郡の国学者
- R1910 惟寛(これひら・西山にしやま、通称；恭平/号；商羊)1820-97⁷⁸ 安藝広島藩侍医、国学
- 01980 惟宏(これひろ・今藤いまふじ、初名；宏)1838-？ 1877存 薩摩藩士；鹿児島城下天神馬場の生/藩校修学、
江戸昌平齋入/藩校造士館助教、私塾を開く；子弟教育、西南戦争では西郷軍に参加；懲役3年、
「開門紀行」「北行集」「晦堂文稿」「今藤惟宏日記」著、「島津氏家譜」編、1867「泰公遺事」著、
[惟宏(；名)の通称/号]通称；新左衛門、号；晦堂
是広(これひろ・佐伯) → 高広(たかひろ・国分、和算) N 2 6 1 0
是容(これひろ・長岡) → 是容(これかた・長岡ながおか、藩老/国学) O 1 9 2 1
惟弘(これひろ・成島) → 柳北(りゅうほく・成島なるしま、幕臣/儒者) F 4 9 6 7
- E1948 伊房(これふさ・藤原ふじわら；世尊寺、通称；朱雀帥、藤原行経の長男)1030-96⁶⁷ 母；源貞亮女、
廷臣；右大弁、1072(延久4)正四上参議/従三位/75正三位左大弁/勘長官/77従二位、

1080(承暦4)権中納言/81太皇太后宮権大夫/正二位治部卿、88太宰府権帥/卿・大夫停止、
1094(寛治8)遼と私的貿易をし免官;従二位に降下/96(嘉保3)死直前正二位復位;没、
世尊寺流書家;祖父行成の業継承、1078内裏歌合左方清書/88堀河天皇大嘗会屏風の筆、
「源氏物語絵巻」書/「東寺塔供養記」著、前の三房の1、歌;1073後三条上皇住吉御幸に出詠、
勅撰5首;後拾遺(1171)金(178)千(675)新勅(675)続後撰(555)、続詞花集入(治部卿名)、
[榊葉さかきばに降る白雪は消えぬめり神の心はいまやとくらん](後拾遺;雑1171)、
(大原野社祭礼に上卿として参り雪のむら消えを見て詠む)

[後三条院住吉に御幸し給ひて人々歌奉りけるに、

いにしへもけふのみゆきのためにとや天下りけむ住吉の神](続詞花;神祇268)

E1949 惟房(これふさ・万里小路まへのこうじ、法号;崇恩院、秀房男/本姓;藤原)1513-7361 母;畠山政熙女、
室町期廷臣;1539参議/49正二位/50権大納言/56致仕/59還任;正親町天皇即位伝奏、
天皇の密書を織田信長に中継/1573内大臣;即日没、1541公家日記「惟房公記」著、
1533「関白宣下記」41「除日記竟夜」、「大辨参議任中納言例」「天文改元記」著、
「入木簡見抄」伝

Q1927 伊房(これふさ・井手いで、)1649-171668 筑前福岡藩士、歌人、氏辰うじとき之父
[伊房(;名)の通称/号]通称;牛之助/勘七(代々の通称となる)、号;放牛

Q1953 尹房(これふさ・大半おおなか、)1827-190175 阿波板野郡の西馬詰蛭子神社祠官、中講義、
国学;里見清民門

惟房(これふさ・万里小路)→ 藤房(ふじふさ・万里小路、建武期廷臣/詩) C 3 8 6 4

惟房(これふさ・竹沢) → 養溪(ようけい・竹沢たけざわ、絵師) 4 7 7 2

惟房(これふさ・今村/笠間)→ 奥庵(おうあん・笠間かさま、儒者) C 1 4 2 9

P1990 維文(これふみ・高山たかやま) ? - ? 江後期;大坂瓦町の医者、国学;本居大平門、
歌;大平撰「八十浦の玉」下巻入、
[千里ゆく竜の馬もが夜ならべて遠き吾妹わがもにゆきてし逢はむ](八十浦;881寄獣)

R1932 之翰(これふみ・松井まつい、)1673-175987 信濃飯田藩の医者;藩医、国学・歌;9 依田正純門、
「風越山中安平寺」著、松井家は以後医で藩主堀家に出仕;之翰-徳隣-美澄-直寛と続く、
[之翰(;名)の通称/号]通称;周輔、号;野堂/春宵/之翰亭

維文(これふみ・緒方) → 黙堂(もくどう・緒方おがた、儒者) B 4 4 0 2

1947 伊尹(これまさ/これただ・藤原ふじわら、師輔もろすけ長男)924-97249 母;藤原経邦女盛子、兼家・兼家の兄、
廷臣;960参議/970右大臣・摂政/971正二位・摂政太政大臣、氏長者/贈一位、好色;恋多し、
「謙徳公記」、歌人;951後撰集撰集のため撰和歌所別当、「一条摂政御集」著、
勅撰37首;後撰(718/731)拾遺(6首657/781/950以下)新古(10首1003以下)新勅(9首)以下
[あはれともいふべき人は思ほえで身のいたづらになりぬべきかな](拾遺集:十五恋950)
[伊尹の通称/諡号]通称;三河公/一条摂政、諡号;謙徳公

妹 → 安子(あんし、村上天皇皇后/冷泉天皇母) C 1 0 1 1

妻 → 恵子女王(けいしよおう、代明親王女) 1 8 6 6

息女 → 懐子(かいし、冷泉天皇女御/花山天皇母) S 1 5 0 1

→ 弾正宮の上(為尊親王室) 2 7 9 4

01981 是昌(これまさ;通称・二宮にのみや、名;正一)?-? 江初期兵法家;二宮[是昌]流を開、仙台藩で多用、
1647「是昌流軍書」著

G1905 以正(これまさ/もちまさ・匹田/疋田ひきた、本姓;藤原/一字姓;藤)?-? 江前期越前安賀社学頭、
神道;京の平野神社預ト部兼魚門、1668「神風記」80「六根清浄大祓集説」、「古事記伝説」著、
1699「神道名目類聚抄」1701「ト部兼魚亀ト伝」、「亀ト相伝秘事」「神門入重七部宝典」外著多、
[以正(;名)の通称/号]通称;小右衛門/藤以正、号;与壤軒

Q1997 惟政(これまさ・高橋たかはし、通称;泰蔵)1717-9478 伊予桑村郡(新居郡)氷見の庄屋;屋号鍵屋、
歌人;冷泉為泰門、玉井氏の「詠百首和歌」(奉納歌)に入集、

01982 是正(これまさ・高垣たかがき) ? - ? 江後期文化1804-18頃紀伊和歌山の国学者・歌人:
本居大平(1756-1833)門、「高垣是正家集」著、
[是正(;名)の初名/通称]初名;円、通称;八郎右衛門

01983 惟正(これまさ・穂積ほづみ、字;之供)?-? 江後期上州の医者;多年の刑死解剖の観察、

- 1827「医経撥乱」、解剖図集「視死別生図彙」編、「洪範温故」「難病知新」「写形提要」外著多数
- E1950 **惟昌**(これまさ・高階たかしな) ? - ? 江後期淡路野島崎の国学者、1859「国学人物志初編」編
- 01984 **惟正**(これまさ・安永やすなが) ? - ? 江後期江戸本石町の和算家;市瀬惟長門、和算を教授、1809「算法天元術」編/16「本朝算鑑」「約術知津巻」編、24「開立法」、1820・31「最上流算法免許状」1831「最上流算法中伝目録」、「最上流算法開立方」編、外著多、[惟正(;名)の通称/号]通称;伝吾、号;格斎/櫛山堂
- R1909 **惟政**(これまさ・中村なかむら、通称;連/号;松窓) ?-? 江後期;三河西尾藩士、国学;足代弘訓ひろり(1784-1856)門
- Q1965 **維政**(これまさ・隈部くまべ、通称;与八郎) 1812-76⁶⁵ 肥前高来郡の国学者
- P1966 **是正**(これまさ・泉竜亭せんりゅうてい) ?-? 江末明治期の戯作者、1878「小倉山青樹栄昔日新話おぐらやまあおきのさかえせきじつしんわ」著(歌川桜齋房種画)「鶯塚梅の魁」/1880「西遊庚申通夜譚さいゆうこうしんつやばなし」外著多数
- 以正(これまさ・藤井) → 以正(もちまさ・藤井、茶人) B 4 4 6 7
- 惟正(これまさ・十時) → 惟保(これやす・十時とき/大神、藩士) G 1 9 1 1
- 維正(これまさ・藤田) → 容斎(ようさい・藤田ふじた、儒/教育者/詩) B 4 7 0 0
- 惟将(これまさ・竹原) → 惟秋(これあき・竹原、藩士/故実家) O 1 9 0 7
- 01929 **惟益**(これまさ・不破ふむ、) 1626- 1677⁵² 美濃不破郡の美濃南宮神社神主、神道;吉川よしかわ惟正これたる門、尾張名古屋の若宮八幡宮神主、「神道大意講談」「卜部兼直神道大意」「六根清浄大祓抄」「中臣祓講義」/1671「中臣祓註」著 [惟益(;名)の別名/通称]別名;行治/行孝、通称;亀蔵丸/修理/民部/不破山人
- 01985 **維益**(これまさ・村山むらやま/村上、村井?、村上貞寿男) 1745-1802⁵⁸ 伊勢松本村の医者、儒;京の岩垣竜溪門、「形体名義集」「攷古口診法」「和漢諸家脉法攷」、1796「古脉法図解」著、[維益(;名)の字/号]字;士謙、号;南海/以文
- E1951 **茲監**(これみ/これかみ・亀井かめい、初名;格助/頼功よりかつ、久留米藩主有馬頼徳男) 1825-85⁶¹ 江戸の生、1839石見津和野藩主亀井能登守茲方の養嗣子;津和野11代藩主襲封、教育に尽力、藩校養老館国語教師に岡熊臣・大国隆正を起用、歌・国学;福羽美静門、1853「慨世詠草」、1856「日曆選書」67「慨志録」、「慨世録」「勤斎詩稿」「雑詠草」「亀井隠岐守上書」著 [茲監(;名)の通称/号]通称;隠岐守、号;勤斎/いそしのや、惟深(維深これみ・山宮) → 雪楼(せつろう・山宮やまみや/さんぐう、儒臣/歌) E 2 4 7 1
- 1951 **伊通**(これみち・藤原ふじわら、宗通男) 1093-1165⁷³ 母;藤原顕季女、平安後期廷臣;1122参議/30解任、1133崇徳天皇の寵愛;権大納言/43正二位/60太政大臣/65出家、古事談に逸話、歌人、「雲井物語」「除目抄」「大槐秘抄」著、歌合催、後葉集・続詞花集・今撰集・月詣・万代集入、勅撰13首;金葉(5首61/171/235/428/669)詞花(343)千載(5首)玉葉(161)続後拾(421)、[うらやましいかに吹けばか春風の花を心にまかせそめけむ](金葉;春61、落花随風といふことを詠む)、[伊通の通称] 九条大相国くじょうのだいしょうこく/大宮大相国/大宮太政大臣おおみやのだいしょうだいじん 伊通の兄弟;季通/成通ら、息子;為道/伊実ら、息女;呈子(近衛天皇中宮)
- 01986 **惟通**(これみち・久我こが、初名;輔通すけみち、通誠男/本姓;源) 1687-1748⁶² 母;千種有維女、廷臣;1702従三位/30内大臣/43従一位/45右大臣、「惟通公記」「三節会次第」「伝奏東行日記」、「踏歌節会並白馬節会記」「諸儀覚」/1735「中御門院御讓位記」著、通兄の父
- 01987 **維通**(これみち・吉田よしだ、通称;憲徳、医者玄悦男) 1781-1837⁵⁷ 安藝高宮郡可部の医者;父門、読書家、1825(文政8)「国史医言鈔」著
- 01988 **之道**(これみち・渡辺わたなべ/初姓;曲淵まがりむち、渡辺忠兵衛の女婿) ?-1842 名古屋藩士;1800渡辺家家督;馬廻組、大番/1815藩校明倫堂監生/藩校典籍/27藩校教授、1826「趨避鏡」著、[之道(;名)の通称/法号]通称;専七郎/忠左衛門、法号;応供院
- R1942 **惟通**(これみち・守屋もりや、石原官平光徳男) 1831-1909⁸⁰ 備中賀陽郡西花尻村の蘭方医;1845(弘化2)大坂の同郷緒方洪庵適塾入門、帰郷;備中足守藩の除痘館主任、天然痘大流行、1850(嘉永3)藩主木下利恭により備中足守藩医洪庵を除痘館長として呼戻し種痘実施;石原朴平(のち守屋惟通)はじめ適塾出身者や備中美作の医者が参加;成功;諸藩に拡大、紀伊平山の春林軒塾で外科医・軟膏製造術を修学、妻;三宅惟述女の麻沙延、男6人の父、

守屋甫一郎(岡山藩医)・太田務の父、
[惟通(;名/字)の通称/号]通称;朴平/庸庵、号;如竹

- G1907 **維光**(これみつ・大江おおえ、肥後守維順男)1110-? 平安後期廷臣;式部少輔/従四上、
歌人:1178廿二番歌合(顕昭判)参加/1172暮春白河尚齒会(はしゆんしらかわはうしかい)参加;7叟の1、
1165清輔[続詞花集]入、匡行の兄/維順女(これよりのむすめ(千載集歌人))の兄弟、
匡範・親光・広元(鎌倉幕府執権)・秀厳・伊賀守藤原仲教妻の父、
[女御御許にはじめて人々に歌よませ侍りけるに 藤花久句といふことをよめる、
咲初むる若紫のふちの花にほひは千代の春もかはらじ](続詞花;賀336)
[草じげみ入りくる人もなき宿に朝露しろし秋はきにけり](廿二番歌合;二番左3)
- E1952 **伊光**(これみつ・藤原ふじわら、伊綱男)?-? 平安末鎌倉初期廷臣;五位能登守、歌人;
勅撰2首;1205成立「新勅撰」340、続後撰845
[くれなみのやしほの岡のもみぢばをいかに染めよとなほしぐるらむ](新勅;秋340)
- G1908 **之光**(これみつ・前駿河守)?-? 武家/連歌:1401「吉備津宮法楽一万句連歌」連衆
- Q1947 **惟盈**(これみつ・緒方がた/本姓;大神)?-?享保1716-36頃没 肥後八代郡妙見宮の神主、国学
[惟盈(;名)の通称]播磨守
- E1953 **伊光**(これみつ・広橋ひろはし、法号;勁松院、勝胤男/本姓;藤原)1745-1823 母;成瀬正幸女、
廷臣;1768参議/左大弁/1775権大納言/1812従一位/13准大臣、賀茂・神宮・武家伝奏、
1758-68「勁槐御記」、日記「千羊御記」「伊光記」、「忌月新嘗会例」、歌:「大嘗会御歌」著
- O1989 **惟充**(これみつ・川関かわせき)?-? 江戸の戯作者、初め小倉藩主小笠原家に出仕/辞職、
下谷練堀町住/戯作;森羅万象・曲亭馬琴門、1802「諸家筆用」編/03「絵本鏡山烈女功」著、
1808「敵討女夫柳」「善悪邪正三之紅絹」/10「復讐今川状」13「本朝歴史要略」著、
「万葉六帖」編、
[惟充(;名)の通称/号]通称;庄助/荘助、号;川関楼琴川(せんかんろうきんせん)
維光(これみつ・西尾/岩垣)→ 東園(とうえん・岩[巖]垣/源、儒者) B 3 1 4 9
- O1990 **是村**(これむら・町口まちぐち、坂上さかのうえは彬男)1743-1814 京の廷臣;1753右衛門大尉/美濃守、
1773(安永2)明法博士、86右衛府廳頭/97大判事/1804正四下/12(文化9)致仕;落飾;
薬珠と号す、和学者/故実家;典故/歌に通ず、1814(文化11)没、養子;別所是保、
「罰則」編、「明法博士註記」著、
[是村(;名)の字/号]字;九成、号;海嶠/劉韶、出家後;判官入道薬珠(かいしゆ)、法号;信楽院
- O1991 **伊望**(これもち・平たいら、惟範男)885-939 参議/934中納言/938大納言、歌:921醍醐御時内裏菊合参、
[いづくにか香をやどすらん菊の花色をば霜にとどめおきつつ](内裏菊合;9)
- E1954 **是茂**(これもち/これしげ・源みなもと、源昇男/光孝天皇皇子?)886-941 母;藤原門宗女、光孝天皇の養子、
889源姓;臣籍、廷臣;934参議/939権中納言/従三位/民部卿、
歌人:921醍醐御時内裏菊合参加、後撰842(平中興(なかきの)女と贈答)
[君を思ふ心長さは秋の夜にいづれまさるとそらに知らなん](後撰集;十二842/返歌)
参考 → 中興女(なかきのむすめ・平) D 3 2 5 2
- O1992 **維茂**(これもち・平たいら、余五、繁盛の孫/貞盛の養嗣子)?-? 平安末期武将、
陸奥の豪族藤原師種を討つ;余五將軍と称す、信光の謡曲「紅葉狩」に脚色されている
- O1993 **伊望女**(これもちのむすめ・平たいら)?-? 平安前期歌人[父;大納言伊望885-939]、後撰425
[秋深みよそにのみ聞く白露の誰が言の葉にかゝるなるらん](後撰集;七秋425)
(ながく訪れなくて親に諭されてのちやって来た男に対する歌)
- E1955 **惟幹**(これもち・藤原ふじわら)?-? 平安前期廷臣/歌人、六位陸奥掾、古今集860、
[露をなどあだなる物と思ひけむわが身も草に置かぬばかりを](古今;哀傷860/辞世歌)
- P1965 **惟基**(これもち・賀茂かも)?-? 平安期神職/歌人;1182重保撰「月詣和歌集」入、
[たのむるにかねてぞ歎く短か夜をねぬに明けぬと聞置きしかば](月詣;四恋467)
- G1909 **惟基**(これもち・山岸やまざし)?-? 国学者;伴信友[1773-1846]門/歌人、
伴信近(信友男)と信友の歌の収集;のち「伴信友翁家集」著(1886刊/浦谷昂編)
惟元(これもち・淵) → 岡山(こうざん・淵ふち/大神、儒者) G 1 9 3 3
惟基(これもち;名) → 尊映親王(そんえいしんのう、日記/画) F 2 5 0 7
- P1967 **惟盛**(これもち・源みなもと;清和流、初名;雅信、為善男)?-? 平安前期廷臣;従五下、貞数親王の孫、

歌;956坊城右大臣師輔歌合参加?

[秋萩の花の盛りとさを鹿の呼ぶかきこゑといづれまされり](師輔歌合;はぎ左5)

- G1910 **維盛**(これもり・平、重盛男)1160-1184入水25 平安末期武将;左兵衛桜梅少将、富士川・礪波で敗戦、屋島敗戦後出家;高野聖(齋藤時頼)のもとに那智で修行し熊野沖で入水(平家物語)
- G1911 **惟保**(これやす・十時とき/本姓;大神、後名;惟正)1594-167380 大神惟基の末裔、筑後柳川藩士、1637島原の乱に従軍/致仕、1638「天草陣記」著、連歌「三湖抄」(作者不祥)の贈り先、[惟保(;初名)の通称/号]通称;三弥/三弥助、号;風室(;致仕後)
- G1912 **惟安**(これやす・富永とみなが、通称;文平、号;懸河)1700-175253 土佐の儒者;宮地静軒門・崎門派、岩井玉州・中山高陽・恩田敬休の師
- P1989 **維寧**(これやす・伊藤いとう/本姓;藤原、初名;良純)?-? 江中期;丹波篠山藩主松平紀伊守家の家臣、歌;賀茂真淵門、本居大平「八十浦の玉」入、[きのふけふ春とも春と思ふかな鶯の声聞きそめしより]、(八十浦;上15/1758[宝暦8]真淵家宴)
- O1994 **維寧**(これやす・大江おおえ、玄圃男)?-? 江後期京の儒者;父門、1781「詩語国字解」編[維寧(;名)の字/通称]字;仲騏、通称;秀二郎、藍田(1757-88)・荊山(1763-1811)の兄弟
- R1931 **是保**(これやす・町口まちぐち/坂上さかのうえ、旧姓;別所)1767-184276 播磨明石郡の生、京の廷臣町口是村これむらの養子、明法博士;故実家、大判事、[是保(;名)の通称/号]通称;右衛門大尉/下総守、号;点翁
- O1995 **斯綏**(これやす・竹田たけだ、初名;忠吉)?-? 1865存 幕臣;8百石/小姓組/小納戸/將軍家定付小納戸頭、1842「日野大納言浜苑遊覧儀定書」、1857一橋家家老/勘定奉行/留守居、伊豆・摂津・豊前守、1859安政大獄の際は幕府上使として慶喜に隠居謹慎を伝命、[斯綏(;名)の通称]甚五郎

伊康(これやす・樋口/石井)→ 行宣(ゆきのぶ・石井いらい/平/樋口、廷臣) F 4 6 2 4

是保(これやす・伊達) → 氏伴(うじとも・伊達だて、国学者) E 1 2 7 4

惟安(これやす・蟹) → 養斎(ようさい・蟹かに、儒者) 4 7 9 2

惟泰(これやす・戸塚) → 静海(せいかい・戸塚、蘭医/幕府奥医) H 2 4 7 0

惟柔(これやす・頼) → 杏坪(きょうへい・頼) 1 6 3 8

惟恭(これやす・今井) → 惟恭(いきよう・今井いまい、藩士/歌人) J 1 1 5 2

惟恭(これやす・香山) → 惟恭(いきよう・香山かやま、歌人) J 1 1 6 5

惟恭(これやす・秋山) → 惟恭(こいよ・秋山あきやま、神職/詩歌) P 1 9 4 2

惟康親王家右衛門督(これやすしんのうけのえもんのかみ)→ 右衛門督(うえもんのかみ) 1 2 0 5

- E1956 **伊行**(これゆき・世尊寺せそんじ、定信男/本姓藤原)?-1175? 平安後期廷臣;1149宮内権少輔/従五下、能書家;願文・上表文の清書多数、1160和漢朗詠集を写、歌;1167平経盛歌合参加、書道伝書「夜鶴庭訓抄」著(建礼門院右京大夫に授)、源氏最古の注釈書「源氏物語釈」著、伊経・瞻空せんくう・建礼門院右京大夫の父、1165清輔[続詞花集]入、[人すれず心ざし侍りながらえしもいひでず過ぎける女の、巻物を書かせ侍りける奥に書付け侍りける、あぢきなしさてしもやまじおもふ事いひいでてこそ身をもうらみめ](続詞花;恋484)

P1978 **伊之**(これゆき・高嶋たかしま) ? - ? 江前期大阪の俳人

1673西鶴「生玉万句」;第五青山舛あをざんせう脇句入、

[横手をうてば降る梅の雨](生玉万句;青山舛脇/横手を打つは驚歎の様、

発句広瀬一步;青山舛あをざんせう目を驚かす有様なり)

- R1901 **斯行**(これゆき・玉楮たまかじ、象谷ぞうこく男)1834-8249 讃岐高松の彫刻師;父門、千畝ちうね(槐庵)の弟/藤樹とうしゃ(九江)の兄、[斯行(;名)の初名/号]初名;琢、号;拳石/石仙

維順(これゆき・大江) → 維順(こいより・大江、匡房男、歌人) P 1 9 0 1

伊之(これゆき・西村) → 藐庵(みやくあん・西村、名主/書・茶・歌) F 4 1 9 0

維順女(これゆきのむすめ・大江)→ 維順女(こいよりのむすめ・大江おおえ、歌人) P 1 9 0 2

- E1957 **是善**(これよし・菅原すがわら、清公男)812-88069 漢学者;紀伝道で修学/835文章得業生/839対策、845-868文章博士;東学学士・大学頭を兼任、870式部大輔/872参議/879従三位、

大学寮で851-55文選を・857-864漢書を講義/875清和天皇の群書治要の侍読、
「日本文徳天皇実録」編纂参加、「菅原是善家集」「会分類聚」「銀榜翰律」「菅相公集」著、
文粹入、[是善(；名)の通称]菅相公かんしょうこう、菅原道真の父

- 01996 **維義**(これよし・源みなもと、通称；松井冠者?、為義男?)?-? 武将；連歌、菟玖波集；1句入、
[月出ぬこゝろの闇やうかるらん](前句；光を残す法りのともし火/菟玖波；八积教643)
- Q1962 **維良**(これよし・片岡かたおか/旧姓；平尾)1715-6854 肥後熊本藩儒；初め藩士數家に仕出/のち侍講、
国学の修学、細井平洲・秋山玉山と交流、
[維良(；名)の字/通称/号]字；士騏/平士騏、通称；善次郎、号；朱陵/古城山人
- R1936 **惟義**(これよし・丸山まるやま) ? - 1801 江中期；伊予松山藩士/儒者；古学派学者/歌人、
伊藤仁斎を敬慕；一意古学を信奉し唱道、丸山閑山(1810-72/竹画絵師)の父、
[惟義(；名)の通称/号]通称；大蔵、号；南海
- 01997 **惟祺**(これよし・秋山あきやま、惟慶男)1752-181867 幕臣；1767家督相続；150俵/西丸表右筆/奥右筆、
1797寛政改暦に右筆で参加、奥右筆組頭格、「職員私抄」「日光山参詣記」著、
「常盤の松」著(没後1845刊)、[惟祺(；名)の通称]松之丞
- 01998 **惟義**(これよし・蝦えび) 1756 - 180752 紀州有田郡湯浅村の医者；和歌山藩医、
1791医学館勤務/94表医師/99医学書出版により賞金を受、1795「外傷論」1800「温病論」、
「傷寒論通解」「傷寒雑病論通解」「痘診論」「風痺論」「南陽秘旨」「難経外伝」「脉学精要」著、
[惟義(；名)の字/通称/号]字；敬父/敬夫、通称；又玄/海尾敬玄、号；、求古
- R1922 **惟良**(これよし・森脇もりわき/旧姓；筏)1777-182347 周防岩国の森脇惟右これけ(軍蔵/神道家)の養子、
神道家・歌人；井上長盈門、養嗣子；吉川惟久、
[惟良(；名)の初名/通称]初名；惟慶、通称；慶槌/敬八郎/修輔/軍曹/郡三
- 01999 **維良**(これよし・栗田くりた/初姓；高野)1788-182437 常陸水戸の郷土史家、伝承童謡の研究、俳人、
「俳諧筆記」「東都戯友志」「常陸事蹟雑纂」「栗隠漫録」/1807「新撰諸家人物誌」著、
1820頃水戸地方の童謡集「弄鳩秘抄ろうきゅうひしょう」著(栗田葛園名；「螢とりの歌」など)
「事蹟雑纂」著(没後彰考館に献上)、林十江の弟、
[維良(；名)の字/通称/号]字；士載、通称；平兵衛、号；栗隠/升屋/葛園かつえん
- E1958 **惟良**(これよし・源みなもと) ? - ? 江戸期書家、篆刻、「芙蓉軒私印譜」著
- P1900 **惟美**(これよし・奥村おくむら/本姓；源、通称；七兵衛)?-? 江後期天保1830-40頃の和歌山の国学者、
本居大平門、「伊佐須美社記」著
- 伊良(これよし・鈴木/高柳)→ 荘丹(そうたん・高柳/鈴木、医者/俳人) C 2 5 4 8
以脩(これよし・加藤) → 東岡(とうこう・加藤かとう、書肆/歌人) D 3 1 8 6
惟良(これよし・源) → 善成(よしなり・四辻よつじ/源、左大臣/歌学) 4 7 2 1
惟良(これよし・森) → 泐石(ろくせき・森もり、篆刻家) 5 2 9 5
惟善(これよし・田中) → 白賁(はくひ・田中たなか、易学者) D 3 6 8 3
惟義(これよし・本橋) → 理軒(りけん・福田ふくだ、和/洋算) 4 9 9 4
惟義(これよし・重浦) → 元暢(もとのぶ・重浦しげうら、医者/歌人) K 4 4 0 9
惟慶(維慶これよし・山本)→ 章夫(しょうぶ・字・山本、本草家/画) L 2 2 4 6
惟善(これよし・鹿子木) → 量平(りょうへい・鹿子木かのこぎ、庄屋/勸農家) J 4 9 3 5
惟義(これよし・安藤) → 秋里(しゅうり・安藤あんどう、儒者/書家) Y 2 1 4 9
- P1901 **維順**(これより・これゆき・大江おおえ、初名；匡時まさとき、匡房[1041-1111]男)?-? 平安後期廷臣；肥後守、
式部権大輔/大学頭、歌人；1134中宮亮頭輔家歌合参加、維光・匡行・拳衡・維順女の父、
[ながめする身は池水にあらねども心に月のすまぬ世ぞなき](頭輔歌合；四番右8)
惟順(これより・吉川) → 従長(よりなが・吉川よしかわ、幕臣/神道) L 4 7 4 2
- P1902 **維順女**(これよりのむすめ・これゆきのむすめ・大江おおえ)?-? 平安後期歌人、1187成立「千載集」771入、
式部権大輔大江維順女、匡房まさぶきの孫、維光の姉妹、
[忘らるゝ憂き名はさても立ちにけり心のうちは思ひ分けども](千載；恋771)
(親密でもなく忘れていた相手なのに男に忘れられた女という評判はつらい)
- P1903 **古濂**(これん・沼ぬま/本姓；梅本/梅木、名；晋/進)1721-8161 大阪の医者；香川修庵門/儒者、
諸侯の招聘に応ぜず子弟教育、1753「仲景全書正誤」、「観花小録」「活精録」著、
[古濂(；号)の字/通称/別号]字；文進/文之進、通称；甘白、別号；嘯翁しゅうおう/古濂道人

- E1959 **瑚蓮尼**(これんに、初姓;植山うえやま、名;たま、**上田秋成の妻**)1740-9758 京九条の農家の生、幼時;植山家の養女、養父母に従い大阪住/1760(宝暦10)秋成(1734-1809)と結婚;多病であったがよく夫の世話をし歌文を修得、1790(51歳)出家;瑚蓮尼と称す、1789(寛政元)「露分衣つゆわけごろも」、「夏のゝ露」著(:共に1804秋成[藤篋冊子つづらぶみ]に所収)、[(寛政元年逝去の養母了正尼の遺骨を京の真行寺に納めての詠)、誰も世に在りはてぬ身をながらへていつまで袖の時雨ひまなき](露分衣;冒頭歌)[花見れば秋の霜にもあふものをこのなでしこよ盛り待ずて](夏野の露、秋成療養のため淡路庄村に住む頃 隣夫婦の幼子が死去 難波に納骨時の歌)
- 古濂道人(これんどうじん) → 古濂(これん・沼ぬま/梅本、医者/儒者) P 1 9 0 3
 五露庵(ごろあん) → 黄牛(こうぎゅう・五露庵、俳人) I 1 9 2 7
 孤陋(ごろう;号) → 宗渭(そうい;法諱・清巖;道号、臨濟僧) F 2 5 9 6
- P1904 **五楼**(ごろう・浅田あさだ) ? - ? 大阪の俳人;雑俳、1757律中「耳勝手」入
 E1960 **呉老**(ごろう・李杏) ? - ? 丹波池田の俳人;月居門、1825「武陵宛書簡」著
 G1913 **五郎**(ごろう・千村ちむら) ? - ? 蘭学/英語:1862堀達三郎「英和对訳袖珍辞書」共編
 G1956 **梧楼**(ごろう・那珂なか、名;通高みちたか、藩医江崎えはた道春2男)1827-7953 陸奥盛岡藩士/江崎春庵の弟、1844藩主近習/1845(弘化2)脱藩、江戸で儒者;安積良斎・東条一堂門/京で森田節斎門、安藝広島藩儒坂井虎山門;その塾頭、江戸麹町で家塾、1859(安政6)盛岡帰藩を許可され藩校明義堂教授;1862(文久2)藩校作人館創設に参画、学制改革;藩学の基礎確立、1868奥羽同盟参画し幽閉/1871赦免;那珂に改姓/大蔵省出仕、槍術;甲州流兵法正伝を受領、1852「奸臣罪按」67「学軌」、「江崎堅輔奸臣罪按」「憂国余話」、「古事記便要」「和漢一致博議」「慨世漫筆」「梧楼存稿」「梧楼先生和歌詩文集」著、[梧楼(;号)の通称/別号]通称;五郎/堅弥/堅輔/弥八郎、別号;吾楼/蘇隠/有待居主人、
- 五郎(ごろう・北条) → 時頼(ときより・北条/平、執権/教訓書) K 3 1 3 4
 五郎(ごろう・寺井) → 知清(ともきよ・寺井てらい、武家/連歌) P 3 1 3 8
 五郎(ごろう・山内) → 信詮(のぶあきら・六角/佐々木、武将/歌) 3 5 8 4
 五郎(ごろう・佐々木/京極) → 高秀(たかひで・京極/佐々木、武将/歌) D 2 6 5 8
 五郎(ごろう・一色) → 教親(のりちか・一色いっしき、武将/歌人) F 3 5 0 3
 五郎(ごろう・細川) → 満元(まんみつもと・細川/源、武将/歌) E 4 1 9 5
 五郎(ごろう・細川) → 持元(もちもと・細川/源、満元男/武将/歌) B 4 4 7 3
 五郎(ごろう・今川) → 範政(のりまさ・今川、守護/歌人) 3 5 2 5
 五郎(ごろう・今川) → 範以(のりもち・今川、武将/連歌) F 3 5 9 7
 五郎(ごろう・今川) → 氏輝(うじてる・今川、武将/歌/連歌) 1 2 4 1
 五郎(ごろう・横手) → 繁世(しばよ・横手よこて/源、武将/連歌) D 2 1 2 8
 五郎(ごろう・知久) → 頼久(よりひさ・知久ちく、旗本/領主/歌) N 4 7 9 0
 五郎(ごろう・伊勢) → 貞雅(さだまさ・伊勢/平、幕臣/故実家) J 2 0 6 4
 五郎(ごろう・植村) → 政行(まさゆき・植村うえむら、幕臣/家伝) I 4 0 2 0
 五郎(ごろう・桜山;変名) → 清節(せいせつ・村上、儒者/尊王派) J 2 4 0 2
 五郎(ごろう・小野) → 君山(くんざん・小野おの、書/篆刻) D 1 7 6 5
 五郎(ごろう・国分) → 東野(とうや・国分/国府こくぶ、医者/儒) H 3 1 5 4
 五郎(ごろう・小南) → 五郎右衛門(ごろうえもん・小南こみなみ、藩士) P 1 9 0 5
 五郎(ごろう・藤田) → 安処(やすずみ・藤田ふじた、藩士) B 4 5 8 0
 五郎(ごろう・新) → 貞老(さだおい・新あたりし/衣笠、藩士/国学) B 2 0 7 3
 五郎(ごろう・昌谷) → 精溪(せいけい・昌谷さかや/原田、藩儒) B 2 4 1 4
 五郎(ごろう・斎藤) → 鑿江(らんこう・斎藤さいとう、商家/儒者) C 4 8 0 5
 五郎(ごろう・桜山;変名) → 清節(せいせつ・村上むらかみ、儒者/勤王) J 2 4 0 2
 五郎(ごろう・伊達) → 宗興(むねおき・伊達だて/成田、藩士/国学) D 4 2 9 0
 五郎(ごろう・小杉) → 楳郎(すぎむら・小杉こすぎ、国学/歌人) B 2 3 6 6
 五郎(ごろう・木村) → 茂栄(しげひで・木村きむら、国学/歌人) O 2 1 1 9
 五郎(ごろう・町田) → 久成(ひさなり・町田まちだ/藤原、藩士/官僚/儒/僧) L 3 7 0 1
 五郎(ごろう・吉田) → 塵助(じんすけ・吉田よしだ、役人/茶人) P 2 2 0 5

五老(ごろう/五老山人) → 基(もとき・菅すげ、藩士/儒者) C 4 4 4 1
 五老(ごろう/五老山人) → 雅望(まさもち・石川、旅宿業/国学/狂歌) 4 0 2 1
 梧老(五郎ごろう・吉原) → 東海(はるみ・吉原よしわら、俳人/書家) K 3 6 9 6
 梧楼(ごろう・間瀬) → 潮月(ちようげつ・間瀬ませ、俳人) I 2 8 0 6
 梧楼(五郎ごろう・金井) → 之恭(ゆきやす・金井かない、勤王家/書家) F 4 6 9 0

P1905 **五郎右衛門**(ごろうえもん・小南こみなみ、名;良和、民右衛門男)1812-8271 土佐江口村の生/土佐藩士;
 藩主山内豊資の扈從/側物頭/武具役/大目付/側用役、勤王派;安政大獄で幽閉/赦免、
 大目付に復職/国事で京と江戸を奔走/1863政変で自宅謹慎/改易後大目付復職;藩政参画、
 「小南五郎右衛門意見書」著、
 [五郎右衛門(;通称)の別通称] 五郎

五郎右衛門(ごろうえもん・針谷) → 夕雲(せきうん・針谷はりがや、剣術家) J 2 4 9 3
 五郎右衛門(ごろうえもん・上田) → 南亭(なんてい・上田、俳人) J 3 2 3 1
 五郎右衛門(ごろうえもん・伊丹屋) → 祇空(ぎくう・稲津いなづ、俳人) 1 6 9 4
 五郎右衛門(ごろうえもん・中山) → 鶯室(おうしつ・中山なかやま、俳人) C 1 4 4 4
 五郎右衛門(ごろうえもん・長山) → 重行(じゅうこう・長山、藩士/俳人) X 2 1 2 4
 五郎右衛門(ごろうえもん・矢入/松木) → 乙児(おつじ/おとし・松木、俳人) 1 4 8 7
 五郎右衛門(ごろうえもん・小西) → 帯河(たいが・小西にし、俳人) J 2 6 3 9
 五郎右衛門(ごろうえもん・八田) → 亀友(きゆう・八田はつた、俳人/狂歌) M 1 6 1 6
 五郎右衛門(ごろうえもん・正亀) → 慶次(よしつぐ・正亀しょうがめ、神職/俳人) E 4 7 6 5
 五郎右衛門(ごろうえもん・大岡) → 清相(きよすけ・大岡おおおか、幕臣) J 1 6 1 7
 五郎右衛門(ごろうえもん・久保倉/岩淵) → 弘毅(こうき/ひろたけ・岩淵、国学) 1 9 9 4
 五郎右衛門(ごろうえもん・弭間) → 淡遊(たんゆう・弭間はづま、藩士/俳人) T 2 6 6 0
 五郎右衛門(ごろうえもん・上田) → 光逸(みつはや・上田うただ、大庄屋/歌) H 4 1 7 6
 五郎右衛門(ごろうえもん・後藤) → 守黒(もりすみ・後藤ごとう、国学/歌人) J 4 4 9 7
 五郎右衛門(ごろうえもん・高石屋) → 友于(ともゆき・神原かんばら、醸造家/歌人) U 3 1 9 0
 五郎右衛門(ごろうえもん・高石屋) → 業広(なりひろ・神原、友于男/国学) L 3 2 8 0
 五郎右衛門(ごろうえもん・美濃屋) → 輪田丸(わだまる・山本、醸造業/狂歌) 5 3 4 2
 五郎右衛門(ごろうえもん・根布屋) → 孟敦(たけあつ・喜多川/福田/松原、和算家) O 2 6 2 5
 五郎右衛門(ごろうえもん・岡島) → 正義(まさよし・岡島/佐野、藩士/地歴) I 4 0 6 4
 五郎右衛門(ごろうえもん・二瓶) → 直中(なおなか・二瓶にへい、国学/歌/教育) O 3 2 1 9
 五郎右衛門(ごろうえもん・長瀬) → 年宗(としむね・長瀬ながせ、歌人) V 3 1 9 6
 五郎右衛門(ごろうえもん・長瀬) → 宗敏(むねとし・長瀬ながせ、年宗男/歌) E 4 2 1 5
 五郎右衛門(ごろうえもん・島尾) → 種克(たねかつ・島尾しまお、国学者/歌人) X 2 6 5 1
 五郎右衛門(ごろうえもん・島尾) → 種芳(たねよし・島尾しまお、国学者/歌人) X 2 6 5 2
 五郎右衛門(ごろうえもん・山本) → 元孝(もとたか・山本やまもと、国学者/歌人) L 4 4 8 3
 五郎右衛門(ごろうえもん・浜中) → 良亮(よしすけ・浜中はまなか/源、名主/国学) O 4 7 5 7
 吾楼学人(ごろうがくじん) → 東野(とうや・国分/国府こくぶ、儒者) H 3 1 5 4
 五老斎(ごろうさい) → 梅可(ばいか、俳人) 3 6 7 5

P1907 **五郎左衛門**(ごろうざえもん・周布すふ、名;兼親、兼正長男)1794-182330 母;村田信嘉女の竹、萩藩士、
 藩校明倫館に修学/詩人、「周布屋代問答書:問」、村田清風と親交、政之助の兄、
 [五郎左衛門(;通称)の字/別通称/号]字;子文、別通称;簡一、号;藍陵らんりょう

五郎三衛門(ごろうざえもん・大岡) → 清重(きよしげ・大岡おおおか、旗本/幕臣) V 1 6 6 7
 五郎三衛門(ごろうざえもん・山脇) → 元貞(もとさだ・山脇、藩士/国学/歌人) C 4 4 4 8
 五郎三衛門(ごろうざえもん・久保) → 久成(ひさなり・久保くぼ、藩士/私塾教育) J 3 7 3 3
 五郎左衛門(ごろうざえもん・中村) → 道喜(どうき・川端かわはた/渡辺;/中村、商家/国学) T 3 1 6 9
 五郎左衛門(ごろうざえもん・織田) → 貞置(さだおき・織田/平、幕臣/茶人) H 2 0 8 4
 五郎左衛門(ごろうざえもん・下村) → 宗福(そうふく・下村しもむら、軍記作者) I 2 5 8 2
 五郎左衛門(ごろうざえもん・大須賀) → 康高(やすたか・大須賀おおしが/平、武将) B 4 5 8 2
 五郎左衛門(ごろうざえもん・立花) → 実山(じつざん・立花たちばな、藩士/学芸) E 2 1 9 1
 五郎左衛門(ごろうざえもん・高橋) → 五左衛門(ござえもん・高橋、料理人) M 1 9 5 1

五郎左衛門(ごろうざえもん・堀田)→一輝(いっき・かずてる・堀田、幕臣/歌) B 1 1 3 6
五郎左衛門(ごろうざえもん・林)→重澄(しげずみ・林はやし、幕臣/歌人) C 2 1 2 7
五郎左衛門(ごろうざえもん・佐久目)→晴勝(はるかつ・佐久目さくめ/度会、神職) G 3 6 1 8
五郎左衛門(ごろうざえもん・多賀/箕浦)→高良(たかよし・箕浦、藩士/記録) N 2 6 6 9
五郎左衛門(ごろうざえもん・松平/大須賀)→忠次(ただつぐ・榊原、藩主/歌人) F 2 6 3 0
五郎左衛門(ごろうざえもん・丹羽)→光重(みつしげ・丹羽にわ、藩主) D 4 1 5 3
五郎左衛門(ごろうざえもん・朽木)→尚綱(なおつな・朽木くつき/源、幕臣/歌) K 3 2 1 1
五郎左衛門(ごろうざえもん・望月)→恒隆(つねたか・望月、藩士/民政) C 2 9 3 5
五郎左衛門(ごろうざえもん・草加)→驪川(りせん・草加くさか、儒者) B 4 9 3 8
五郎左衛門(ごろうざえもん・橋本/真宮)→稻斎(とうさい・橋本、町奉行) E 3 1 2 5
五郎左衛門(ごろうざえもん・中川屋)→敏夏(としなつ・服部、歌人) N 3 1 2 3
五郎左衛門(ごろうざえもん・佐藤)→直方(なおかた・佐藤、儒者) 3 2 8 6
五郎左衛門(ごろうざえもん・西岡)→信義(のぶよし・西岡、和算家) E 3 5 0 0
五郎左衛門(ごろうざえもん・志村)→識行(のりゆき・志村しむら、藩士/文筆) G 3 5 1 2
五郎左衛門(ごろうざえもん・鵜飼)→凶南(となん・鵜飼うかい、書家) O 3 1 6 1
五郎左衛門(ごろうざえもん・小杉)→明真(昭真あきざね・小杉、和学/歌) D 1 0 4 2
五郎左衛門(ごろうざえもん・河津/加藤)→宇万伎(美樹うまき・加藤、幕臣/国学) 1 2 8 5
五郎左衛門(ごろうざえもん・石塚)→確斎(かくさい・石塚、儒者/地理) H 1 5 2 6
五郎左衛門(ごろうざえもん・平井)→復斎(ふくさい・平井、藩士/儒者) B 3 8 5 5
五郎左衛門(ごろうざえもん・原田/昌谷)→精溪(せいけい・昌谷さかや/原田、藩儒) B 2 4 1 4
五郎左衛門(ごろうざえもん・五味)→蟹守(かにもり・五味、俳人) C 1 5 6 6
五郎左衛門(ごろうざえもん・由比)→勝生(かつなり・由比ゆい、藩士/文筆) N 1 5 6 7
五郎左衛門(ごろうざえもん・森岡)→武雅((たけまさ・森岡、藩士/詩人) O 2 6 7 5
五郎左衛門(ごろうざえもん・白田)→可久(よしひさ・白田うすだ/坂口、国学) L 4 7 7 4
五郎左衛門(ごろうざえもん・平栗)→徳馨(とくけい・平栗、庄屋/詩歌) K 3 1 6 0
五郎左衛門(ごろうざえもん・尼崎屋)→惟足(これたる/これたり・吉川よしかわ、神道家) 1 9 4 8
五郎左衛門(ごろうざえもん・黒崎)→洗心(せんしん・黒崎くろさき、儒者/詩人) M 2 4 6 6
五郎左衛門(ごろうざえもん・和田)→定胤(さだたね・和田/平、国学者) I 2 0 4 7
五郎左衛門(ごろうざえもん・寛)→重方(しげかた・寛かけい、幕臣/国学) X 2 1 9 3
五郎左衛門(ごろうざえもん・仁木)→充長(みつなが・仁木につき、歌学者) E 4 1 1 7
五郎左衛門(ごろうざえもん・菅)→良史(よしふみ・菅すが/菅原、家老/国学) N 4 7 4 2
五郎左衛門(ごろうざえもん・菅)→良弼(よしすけ・菅、良史男/藩士/歌人) N 4 7 4 3
五郎左衛門(ごろうざえもん・壺井)→長泰(ながやす・壺井つばい、幕臣/国学) N 3 2 9 1
五郎左衛門(ごろうざえもん・吉目木)→集徳(ためり・吉目木よしめき、剣道家) S 2 6 6 8
五郎左衛門(ごろうざえもん・丹羽)→長国(ながくに・丹羽にわ、藩主/歌人) K 3 2 2 5
五郎左衛門(ごろうざえもん・大野)→茂則(しげのり・大野おおの、庄屋/歌人) N 2 1 8 0
五郎左衛門(ごろうざえもん・堀尾)→直賢(なおかた・堀尾ほりお/倉科、国学/歌) M 3 2 1 6
五郎左衛門(ごろうざえもん・堀尾)→直馨(なおか・堀尾/竹村、直賢養嗣/歌人) O 3 2 6 8
五郎左衛門(ごろうざえもん・堀尾)→直治(なおはる・堀尾、直馨男/歌人) O 3 2 6 9
五郎三衛門(ごろうざえもん・山脇)→元貞(もとさだ・山脇、藩士/国学・歌人) C 4 4 4 8
五郎三衛門(ごろうざえもん・久保)→久成(ひさなり・久保くぼ、藩士/私塾教育) J 3 7 3 3
五郎左衛門尉(ごろうざえもんのじょう・惟宗これむね)→忠宗(ただむね・惟宗/島津、守護地頭/歌) F 2 6 9 0
五郎左衛門尉(ごろうざえもんのじょう・惟宗/島津)→忠秀(ただひで・惟宗/島津、忠宗男/歌) F 2 6 7 0
五郎左衛門尉(ごろうざえもんのじょう・佐渡)→基隆(もたとか・後藤・藤原、武家/歌人) C 4 4 7 6
五郎左衛門尉(ごろうざえもんのじょう・佐々木)→道珍(どうちん、室町幕臣/連歌) G 3 1 5 4
五郎左衛門尉(ごろうざえもんのじょう・三浦)→浄心(じょうしん・三浦、武家/僧/仮名草子) T 2 2 6 1
五郎左衛門尉入道(ごろうざえもんのじょうにゆうどう・下村)→宗福(そうふく・下村しむら、軍記作者) I 2 5 8 2
五郎三郎(ごろうさぶろう・斎藤)→幸孝(ゆきたか・斎藤さいとう、名主/地誌) E 4 6 6 3
五郎三郎(ごろうさぶろう・二瓶)→直香(なおか・二瓶にへい、国学/歌) O 3 2 2 0
五老山人(ごろうさんじん、宿屋飯盛、狂歌、国学)→雅望(まさもち・石川) 4 0 2 1

- 五老山人(ごろうさんじん) → 基(もとき・菅すげ、儒者) C 4 4 4 1
- P1908 **五郎治**(ごろうじ・中川なかがわ、名;佐七、小針屋佐助男)1768-1848or5681/89 陸中北郡川内村の人、
 扱捉島漁場番人小頭/1807扱捉でロシア軍に拉致;シベリア抑留/ロシアの牛痘法習得、
 1812帰還;露語訳種痘書を持参/24松前で日本初の種痘実施;藩医桜井小膳・白鳥雄蔵に伝、
 持参した書はのち馬場左十郎により「遁花秘訣」として翻訳、
 1869「異境雑話」「五郎治事蹟」著、
 [五郎治(;通称)の別通称] 小針屋五郎治/儀貞郎
- 五郎治(ごろうじ・秋山) → 白賁堂(はくひどう・秋山/鈴木、藩儒) D 3 6 8 4
- 五郎治(ごろうじ・近江屋/岡田) → 忠保(ただやす・岡田、歌人) E 2 6 5 4
- 五郎治(ごろうじ・青木) → 並房(なみふさ・青木あおき、藩士/国学者) K 3 2 7 5
- 五郎次(ごろうじ・渡辺) → 眞文(まふみ・渡辺わたなべ、神職) T 4 0 8 0
- 五老井(ごろうせい) → 許六(きよろく・森川、俳人) 1 6 5 5
- 五老井(3世ごろうせい) → 圃丈(ほじょう・松下、俳人) E 3 9 2 8
- 五郎太(ごろうた・徳川) → 光友(みつとも・徳川、尾張藩主/書画) E 4 1 0 5
- 五郎大介(ごろうだいすけ・鎮西) → 初の屋(はつみのや、鎮西ちんせい清宣、神職/国学) E 4 4 9 6
- 呼老堂(ごろうどう) → 童観(どうかん・片山、医/儒者) C 3 1 3 8
- P1909 **ゴロウニン**(Golovnin, Vasilii Mikhailovich)1776-183156 ロシア海軍軍人/ディナー号艦長、
 世界周航:1811国後上陸/捕縛;箱館松前監禁/13高田屋嘉兵衛と交換釈放、
 「日本幽囚記」著、村上貞助(ていじよ)ら幕臣はゴロウニンよりロシア語を学習
- 五郎兵衛尉(ごろうひょうえのじょう・竹崎) → 季長(すえなが・竹崎たけざき、御家人/記録) B 2 3 3 3
- 五老峰(ごろうほう・渡辺) → 岱青(たいせい・渡辺、藩士/俳人) B 2 6 7 5
- 五郎麿(ごろうまろ・徳川/池田) → 慶徳(よしのり・池田いけだ、藩主/歌文) F 4 7 9 7
- 五郎吉(ごろうきち・岡) → 平保(ひらやす・岡おか、神職/国学) F 3 7 4 2
- 五郎吉(ごろうきち・秋山) → 白賁堂(はくひどう・秋山/鈴木、藩儒) D 3 6 8 4
- 五郎吉(ごろうきち・福井) → 富有(とみあり・福井ふくい、能楽師/国学) W 3 1 2 2
- P1910 **湖陸**(ころく) ? - ? 伏見俳人、1783維駒「五車反古」入
- E1962 **小六**(初世ころく・嵐・吉田)1710-8677 歌舞伎役者、所作事、山姥で当り役、
 [初世嵐小六の俳名(号)] 紫朝(しちやう・雛助(ひなすけ)じよ・杉鳥(すぎとり)さんちやう
- E1963 **小六**(四世ころく・嵐、叶(か)のう三右衛門、俳名:珉子(みんし)、初世雛助男)1783-182644 歌舞伎役者、
 若女形
- 小六(三世ころく・嵐) → 雛助(初世ひなすけ・嵐、初世小六男、役者) E 3 7 2 8
- 小六(ころく・大島) → 斐(あきら・大島おおしま、武士/歌人) H 1 0 2 4
- 子六(ころく・斎藤) → 幸庵(こうあん・斎藤さいとう、医者) H 1 9 2 3
- 古録(ころく・大原) → 正敷(まさのぶ・大原おおはら/源、国学/歌) O 4 0 4 2
- 虎六(ころく・片桐) → 貞勝(さだかつ・片桐かたぎり/源/丹下、藩士/国学) O 2 0 3 0
- P1939 **五鹿**(ごろく・若狭屋、通称;勘三郎、別号;米山(まいざん)/江霞(かうか)1738?-? 1812存 広島の俳人;風律門、
 1793風律13忌追善「後のたひ」編、1775青雨「いしなとり」/1789蝶夢「芭蕉門故人眞蹟」入、
 1795一茶「たびしうゐ」/1803菊谿「ゆめのあきふゆ」入/12玄蛙「やまかつら」発句入、
 [こがらしや星を打出す滝の音](1768杉葉「松の落葉」)
- Q1996 **五六**(ごろく・高崎(たかさき)、友道の長男)1836-9661 薩摩鹿兒島藩士、国学、高崎正風は従兄弟、
 水戸藩有志と井伊直弼襲撃を策謀;上京;朝廷奏聞に失敗/1862(文久2)藩命で上京、
 島津久光に急告し騒擾を事前に止める(寺田屋騒動)、
 1864(元治元)長州征伐に西郷隆盛と協議;朝稲兵助と変名し長州入国;周旋、
 維新後;大久保利通に抜擢され備前岡山県令/元老院議官/東京府知事/1890錦鶏間祇候、
 1896(明治29)病没、高崎安彦・弓彦の父、
 [五六(;名)の別名/通称]別名;友愛/博愛、通称;猪太郎/兵部
- 五六(ごろく・辻) → 嵐外(らんがい・辻つじ/山本、俳人) B 4 8 6 5
- 五六(ごろく・富奥) → 直威(なおさね・富奥とみおく、神職/国学) O 3 2 0 0
- 小麓庵(ころくあん) → 蕉雨(しょうう・櫻井さくらい、商家/俳人) F 2 2 3 0
- 五鹿園(ごろくえん) → 莘斎(しんさい・佐和さわ、儒者/勤王/僧) O 2 2 4 4

- 五六房(ごろくぼう) → 艸也(そうや;号・奥田おくだ、俳人) D 2 5 0 2
五六郎(ごろくろう・松田) → 安定(やすさだ・松田まつだ、藩士/勤王) G 4 5 6 9
胡芦斎(ごろさい・根岸) → 鶴亭(かくてい・根岸ねざし、藩士/儒者) K 1 5 2 4
五郎作(ごろさく・真志屋) → 寿阿弥(じゅあみ・長島、長唄/浄瑠璃作者) G 2 1 6 5
五郎作(ごろさく・加藤) → 尚質(ひさただ・加藤かとう、藩儒/歌人) I 3 7 9 6
五郎三郎(ごろさぶろう・大岡) → 清相(きよすけ・大岡おおおか、幕臣) J 1 6 1 7
五郎三郎(ごろさぶろう・梅津) → 忠致(ただむね・梅津うめづ、藩家老/軍学) Q 2 6 9 7
五郎三郎(ごろさぶろう・斎藤) → 幸孝(ゆきたか・斎藤さいとう、名主/地誌) E 4 6 6 3
五郎三郎(ごろさぶろう・萩原) → 桐園(とうえん・萩原はぎわら、俳人) B 3 1 4 7
五郎三郎(ごろさぶろう・中島) → 広定(ひろさだ・中島なかじま、藩士/神職) H 3 7 7 9
古體子(ごろし) → 江雪(こうせつ;道号・宗立、臨濟僧/詩) K 1 9 1 2
五郎七郎(ごろしちろう・笠原) → 庶康(ちかやす・笠原かさばら、藩士/国学者) M 2 8 3 5
五郎次郎(ごろじろう・幸) → 正能(まさよし・幸こう、能楽師;小鼓) I 4 0 4 3
五郎次郎(ごろじろう・岡田) → 新内(しんない・鶴賀、音曲家) 2 2 2 8
五郎次郎(ごろじろう・長山) → 重行(じゅうこう・長山、藩士/俳人) X 2 1 2 4
P1911 **五郎助**(ごろすけ;通称・藤井ふじい)?-? 1868存 肥前下益城郡砥用ともち手永の惣庄屋、
1868「慶応四年辰四月砥用手永略御手鑑」著
五郎助(ごろすけ・松井) → 元泰(もとやす・松井、製墨業/詩/俳人) E 4 4 4 7
五郎助(ごろすけ・人見) → 璣邑(きゆう・人見ひとみ、藩士/随筆/歌) G 1 6 3 0
五郎助(ごろすけ・大槻) → 清連(きよつら・大槻おおつき、藩士/兵法家) P 1 6 9 2
五郎助(ごろすけ・伊奈) → 忠賢(ただかた・伊奈いな、幕臣、文筆家) P 2 6 3 1
五郎蔵(ごろぞう・島田/篠田) → 明浦(めいほ・篠田しのだ/島田、書家) 4 3 3 3
五郎大夫(ごろだゆう・莊/大河内) → 恬逸(てんいつ・莊しょう/大河内、幕臣儒官) D 3 0 1 3
五郎大夫(ごろだゆう・片岡) → 醇徳(あつのり・片岡かたおか、庄屋/郷土史) E 1 0 7 6
五郎大夫(ごろだゆう・林) → 花翁(かおう;号・林はやし、剣術家) J 1 5 2 5
五郎太夫(ごろだゆう・戸崎) → 淡園(たんえん・戸崎/崎/源、家老/漢学) H 2 6 9 4
五郎太夫(ごろだゆう・鳥山) → 芝軒(しげん・鳥山とりやま、書家/詩人) D 2 1 4 5
五郎太夫(ごろだゆう・津阪) → 木長(ぼくちよう・津坂/津阪、藩士/俳人) D 3 9 7 3
五郎太夫(ごろだゆう・瀬下) → 是誰(これたれ・ぜすい・瀬下せしも、俳人) B 1 9 1 7
五郎太夫(ごろだゆう・多ヶ谷) → 友規(ともり・多ヶ谷たがや、藩士/国学) V 3 1 5 8
五郎太夫(ごろだゆう・多ヶ谷) → 舎興(いへおき・多ヶ谷、友規男/藩士/国学) K 1 1 3 8
五郎太夫尉(ごろだゆうのじよう・安陪) → 頼任(よりとう・安陪/安倍あべ、藩士/剣術家) J 4 7 1 1
P1912 **五郎八**(ごろはち・智原ちはら)?-? 江初期シヤム国日本町住/山田長政軍に参加、
「暹羅国風土軍記」「暹羅国山田興亡記」著
五郎八(ごろはち・板倉) → 重宗(しげむね・板倉いたくら、藩主) D 2 1 1 0
五郎八(ごろはち・徳川) → 光友(みつとも・徳川、尾張藩主/書画) E 4 1 0 5
五郎八(ごろはち・八田) → 竜溪(りゅうけい・八田はつた、藩儒者/兵学) D 4 9 4 8
五郎八(ごろはち・佐久間) → 寛台(ひろもと・佐久間、藩士/謡曲注釈) H 3 7 5 0
五郎八(ごろはち・加藤) → 泰恒(やすつね・加藤かとう、藩主/画/歌人) F 4 5 6 6
五郎八(ごろはち・栗原) → 桶川(とうせん・栗原くりはら/栗本、儒者) G 3 1 1 3
五郎八(ごろはち・有坂/星野) → 北馬(ほくば・葛飾、有坂、御家人/絵師) D 3 9 8 6
五郎八(ごろはち・真志屋) → 寿阿弥(じゅあみ・長島、長唄/浄瑠璃作者) G 2 1 6 5
五郎八(ごろはち・小田) → 幾五郎(いくごろう・小田おだ、通詞;朝鮮語) F 1 1 3 0
五郎八郎(ごろはちろう・松平) → 甫昌(やすまさ・松平まつだいら、幕臣/和学) G 4 5 7 0
五郎平(ごろへい・関山) → 慶定(よしさだ・関山せきやま、里正/養蚕家) D 4 7 3 9
五郎平(ごろへい・堀口) → 藍園(らんえん・堀口ほりぐち、商家/漢学者) B 4 8 6 1
五郎平(ごろへい・井原) → 周祐(かねすけ・井原いはら/今井、国学者) S 1 5 8 9
1952 **五郎兵衛**(ごろべえ・露つゆの、法名;露休) 1643?-170361? 日蓮宗の談義僧;還俗し大道芸人;噺家、
貞享1684-88頃京の祇園・北野天満宮・四条河原等で辻咄を興行;上方落語の祖、
元禄12(1699)頃再び法体し露休と称す、1701の京の落雷洪水を材に創作咄、

1691「軽口露がはなし」98「露新軽口はなし」「あたことたんきりくつはなし」、
 1701「露五郎兵衛新はなし」、「かへり花」「軽口こしらへ袋」「露休ばなし」「露休置土産」著
 P1913 五郎兵衛(ごろべえ・林はやし、幼名;政太郎)1820-9475 越中高岡横田町の医者/和算家、俳諧;卓丈門、
 1855「算学稽古記」著、野鶴・大夢と交流、

[五郎兵衛(;通称)の号]五雲軒/五卓(;俳号)、屋号;市姫屋

- 五郎兵衛(ごろべえ・菅沼) → 貞俊(さだとし・菅沼すがぬま、武将) I 2 0 8 0
 五郎兵衛(ごろべえ・針谷) → 夕雲(せきうん・針谷はりがや、剣術家) J 2 4 9 3
 五郎兵衛(ごろべえ・石川) → 雅望(まさもち・石川、旅宿業/国学/狂歌) 4 0 2 1
 五郎兵衛(ごろべえ・山室) → 政春(まさはる・山室やまむろ、歌人) T 4 0 8 9
 五郎兵衛(ごろべえ・天王寺/清水きよみず) → 義太夫(ぎだゆう・竹本、浄瑠璃太夫) 1 6 1 8
 五郎兵衛(ごろべえ・野田) → 酔翁(すいおう・野田のだ、幕臣/茶人) E 2 3 1 6
 五郎兵衛(ごろべえ・松平) → 甫昌(やすまさ・松平まつだいら、幕臣/和学) G 4 5 7 0
 五郎兵衛(ごろべえ・鎌田) → 俊清(としきよ・鎌田かまた、和算家) M 3 1 3 3
 五郎兵衛(ごろべえ・斎藤) → 忠時(ただとき・斎藤さいとう、藩士/兵学家) P 2 6 9 8
 五郎兵衛(ごろべえ・中島) → 広足(ひろたり・中島/越智、藩士/国学者) 3 7 2 1
 五郎兵衛(ごろべえ・武藤) → 安清(やすきよ・武藤むとう、幕臣/和学者) G 4 5 8 5
 五郎兵衛(ごろべえ・榎並屋) → 昌喜(昌熹まさよし・入江、国学者/歌) I 4 0 5 3
 五郎兵衛(ごろべえ・三箇屋さんがや・麩屋) → 文志(ぶんし・野村、書肆/俳人) 3 8 2 4
 五郎兵衛(ごろべえ・十一屋) → 重光(しげみつ・羽間はさま、質商/系譜) S 2 1 8 3
 五郎兵衛(ごろべえ・十一屋7代) → 重富(しげとみ・間はさま、重光男/質商/天文家) R 2 1 7 1
 五郎兵衛(ごろべえ・十一屋8代) → 重新(じゅうしん・間、重富男/商家/天文家) X 2 1 6 5
 五郎兵衛(ごろべえ・野村) → 永重(ながしげ・野村、藩士/記録/書簡) D 3 2 8 2
 五郎兵衛(ごろべえ・金屋) → 亭々(ていてい、金屋、俳人) B 3 0 4 7
 五郎兵衛(ごろべえ・丸屋) → 蟻道(ありみち・森本、酒造家/俳人) B 1 0 9 5
 五郎兵衛(ごろべえ・福島屋) → 芳蔭(よしかげ・藤木ふじき、商家/国学) O 4 7 8 9
 五郎兵衛(ごろべえ・高島) → 厚定(あつさだ・高島たかぼたけ、藩士/記録) E 1 0 5 8
 五郎兵衛(ごろべえ・高島) → 定辟(さだり・高島たかぼたけ、藩士/記録) J 2 0 3 1
 五郎兵衛(ごろべえ・大久保) → 狭南(きょうなん・大久保、幕臣/儒者) O 1 6 3 9
 五郎兵衛(ごろべえ・片桐) → 源栄(げんえい・片桐かたぎり、歌人) B 1 8 2 9
 五郎兵衛(ごろべえ・宮川) → 献臣(たておみ・宮川みやがわ、藩士/歌人) R 2 6 7 1
 五郎兵衛(ごろべえ・戸田) → 寿昌(としまさ・戸田とだ、藩士/本草家) N 3 1 7 3
 五郎兵衛(ごろべえ・梶原) → 石上(せきじょう・樹下じゅげ、梶原、黄表紙) D 2 4 6 0
 五郎兵衛(ごろべえ・入江) → 石亭(せきてい・入江いりえ、書家/鑑定家) K 2 4 4 0
 五郎兵衛(ごろべえ・田辺) → 百堂(ひゃくどう・田辺たなべ、商家/俳人) E 3 7 6 9
 五郎兵衛(ごろべえ・森) → 正緒(まさお・森もり、国学者/歌人) T 4 0 2 5
 五郎兵衛(ごろべえ・柳瀬) → 貞重(さだしげ・柳瀬やなせ/橋、郷土史家) I 2 0 2 6
 五郎兵衛(ごろべえ・久米) → 景山(けいざん・久米くめ、藩士/郡代/歌) N 1 8 6 9
 五郎兵衛(ごろべえ・横田) → 政徳(まさのり・横田よこた、商家/歌人) T 4 0 6 6
 五郎兵衛(ごろべえ・堀口) → 藍園(らんえん・堀口ほりぐち、商家/漢学者) B 4 8 6 1
 五郎平衛(ごろべえ) → 小簾菅伎(こすのすがき、御簾師/狂歌) G 1 9 6 2
 五郎右兵衛(ごろべえ・木村) → 信菟(のぶかつ・木村きむら、商家/歌/神職) I 3 5 1 0
 胡廬坊(ころうぼう) → 臥雲(がうん、僧/俳人) J 1 5 2 1
 五郎磨(ごろまろ・姉小路/変名) → 宣嘉(のぶよし・沢/姉小路、攘夷派) E 3 5 0 5
 古隈山主人(こわいさんしゅじん) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2

G1990 小若君(こわかぎみ、惟喬親王これたかのみこ[844-97]女)?-? 平安前期歌人、後撰集93

[わがやどの歎きは春も知らなくに何にか花を比べても見む](後撰;三春93)

(詞書;女友達よりあなたの庭の花に比べよと桜を送られた/歎きは投げ木を掛る)

- 五窪子(ごわし) → 正命(まさのぶ・奥おく、医者/歌人) O 4 0 6 1
 古渡(こわた) → 東夷庵古渡(とういあんこわた、狂歌) B 3 1 0 1

R1950 こん(・服部はつとり、服部玄昌女)?-? 江前中期;歌人、茂睡[鳥の迹]入、

[よそながら思ひしよりも古寺の庭の霜おく暁のかね]([鳥の迹]雑下721)

坤(こん・河東) → 静溪(せいけい・河東かむしがし、藩士/儒/教育) N 2 4 7 0
坤(こん・古賀) → 素堂(そどう・古賀こが/劉、藩儒) K 2 5 2 3
良(こん・高倉) → 嗣良(つぐよし・高倉/藪/藤原、廷臣/連歌) 2 9 8 9
混(こん・松田) → 葵亭(きてい・松田まつだ、儒者) L 1 6 5 3
棍(こん・佐藤) → 立軒(りっけん・佐藤さとう、儒者) B 4 9 7 6
鯤(こん・富田) → 大鳳(たいほう・富田、儒/詩人) C 2 6 1 9
鯤(こん・春木) → 南湖(なんこ・春木はるき、絵師/狂歌) I 3 2 9 3
鯤(こん・栗本) → 匏庵(ほうあん・栗本、医者/幕臣) 3 9 1 1
鯤(こん・児玉) → 北溟(ほくめい・児玉こだま、医/詩人/商家) D 3 9 9 9

E1964 巖阿(ごんあ;法諱・上人) ? - ? 南北朝尾張の時宗僧;名古屋円福寺3世、
1377浄阿に進言し熱田社内院に日本書紀を奉納させた(紙背に歌を記す)/歌:新後拾800
[鳴海潟夕波千鳥たちかへり友よびつぎのはまに鳴くなり](新後拾遺;八雑秋800、
詞書;熱田のかめ井の寺に住み侍りける時云々)

言阿(ごんあ;号) → 昌成(しょうせい・阪/坂さか、幕府連歌師) T 2 2 8 1

P1914 滾庵(こんあん;道号・密源みつげん;法諱)?-1830 江中後期信州の曹洞宗僧;雲松祖鶴門;法嗣、
信濃玄江院・光源院住持、「雲松祖鶴禅師略伝」著

良庵(こんあん・鬼頭) → 忠純(ただすみ・鬼頭さとう、儒者) P 2 6 6 9
良庵(こんあん・菅波/菅) → 自牧斎(じぼくさい・菅かん、儒者/詩文) V 2 1 7 6
良庵(こんあん・柳河) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1
坤庵(こんあん・石田) → 未琢(みたく・石田いしだ、俳人・狂歌) 4 1 9 9
昏庵(こんあん) → 金忠(かねただ・梅津うめづ、藩士/軍学) O 1 5 6 0
権一郎(ごんいちろう・井上) → 信元(のぶもと・井上いのうえ、藩士/記録) D 3 5 5 4
近院右大臣(ごんいんうだいじん) → 能有(よしあり・源、右大臣/歌人) 4 7 0 2

P1915 巖吽(ごんうん;法諱) ? - ? 1333存 鎌倉後期天台僧、1333良鏝に「鉄槩書」を伝授
「天台灌頂玄旨口伝付石塔安置」著

E1965 巖恵(ごんえ;法諱、藤原[北家]高実男)?-1266 鎌倉期真言宗醍醐弘誓院・随心院僧;巖海門、
法印/権大僧都、1266宗尊親王の将軍解職により鎌倉を出奔、歌;続古今1824
[何事のまづなげかれてそむくべき身をも忘るる心なるらん](続古今集:十九1824)
[巖恵の通称] 小野法印/弘誓院法印

権衛(ごんえ・山中/森) → 玄黄斎(げんこうさい・森もり/山中、画工/詩歌) I 1 8 0 0
権右衛門(ごんえもん・中川) → 謙叔(けんしゅく・かねよし・中川、儒者) F 1 5 5 3
権右衛門(ごんえもん・堀田) → 一継(かずつぐ・堀田ほった/本田、武将/旗本) V 1 5 6 4
権右衛門(ごんえもん・繁沢) → 規世(のりよ・繁沢はんだわ/上領、藩儒者) J 3 5 7 4
権右衛門(ごんえもん・京屋) → 一桐(いちとう・京屋きやうや、俳人) B 1 1 2 4
権右衛門(ごんえもん・田中) → 月江(げつこう・田中、町役/俳人) H 1 8 0 4
権右衛門(ごんえもん・世木) → 曾北(そぼく・世木/秦、俳人) E 2 5 3 4
権右衛門(ごんえもん・樋口/小林) → 義信(よしのぶ・小林/樋口、天文家) F 4 7 5 6
権右衛門(ごんえもん・大木) → 忠篤(ただあつ・大木おおき、里長/儒者) P 2 6 1 6
権右衛門(ごんえもん・三輪) → 元門(もとかど・三輪/長尾、藩老/兵学) C 4 4 4 0
権右衛門(ごんえもん・榎並) → 和澄(とみずみ・榎並、和算家) P 3 1 6 2
権右衛門(ごんえもん・竹迫) → 直種(なおたね・竹迫たかば、記録者) B 3 2 6 1
権右衛門(ごんえもん・杉野) → 駁華(ばくか・杉野すぎの、医者/料理) C 3 6 8 0
権右衛門(ごんえもん・河野) → 通訓(みちくに・河野/越智、幕臣) B 4 1 4 3
権右衛門(ごんえもん・伏屋) → 素狄(そてき・伏屋ふせや/吉村、医者) K 2 5 1 4
権右衛門(ごんえもん・田村) → 青蛾(せいが・田村たむら、俳人) H 2 4 6 7
権右衛門(ごんえもん・神野) → 呉山(ござん・神野、俳人) M 1 9 6 5
権右衛門(ごんえもん・佐藤) → 信也(のぶなり・佐藤さとう、藩士/国学) I 3 5 5 5
権右衛門(ごんえもん・万屋) → 蓬宇(ほうう・佐野さの、商家/俳人) 3 9 1 5
権右衛門(ごんえもん・勝間田) → 盛稔(もりとし・勝間田かつまた、藩士/歌人) F 4 4 9 5

- 権右衛門(ごんえもん・小堀)→ 昌輝(しょうしゅう・小堀こぼり/源、歌人) U 2 2 6 0
 権右衛門(ごんえもん・大黒屋)→ 文谷(ぶんこく・布能ふの、酒造業/俳人) F 3 8 2 4
 権右衛門(ごんえもん・須藤)→ 頼中(よりなか・須藤すどう、藩士/歌人) N 4 7 3 9
 権右衛門(ごんえもん・中路)→ 延年(のぶとし・中路なかじ/岡本、藩士/尊攘) J 3 5 3 4
 権右衛門(ごんえもん・熊沢)→ 益雄(ますお・熊沢くまざわ、藩士/歌人) N 4 0 0 0
 権右衛門(ごんえもん・伊集院)→ 盛昌(もりまさ・伊集院いじゅういん/阪元、藩士) J 4 4 1 8
 権右衛門(ごんえもん・永田)→ 正辰(まさとき・永田ながた/藤原、藩士/歌) R 4 0 2 3
 権右衛門(ごんえもん・渡辺)→ 寿(ひさし・渡辺わたなべ、国学者/歌) B 3 7 0 7
 権右衛門(ごんえもん・高見)→ 祖厚(そこう・高見たかみ、藩士/国学/書) L 2 5 0 4
 権右衛門(ごんえもん・福武)→ 芳重(よししげ・福武ふたけ、歌人) O 4 7 8 3
 墾翁(こんおう・星野) → 貞暉(さだてる・星野ほしの/橘、機業/国学/歌) P 2 0 0 1
 困横子(こんおうし) → 武虎(ぶこ・困横子、俳人;雑俳) B 3 8 8 4
- E1966 嚴雅(ごんが;法諱、小野;号、藤原雅経男)?-? 鎌倉中期の僧/母;空仁女、権少僧都、歌人、
 1261「宗尊親王家百五十番歌合」参加、勅撰3首;続古914/続拾遺495・1187
 [いにしへのあるじ忘れぬふる郷に花もいくたび思ひ出づらむ](続拾遺;七雑春495)
 言籟(ごんかい) → 禎(てい・田宮、雑俳撰者) 3 0 0 0
- E1967 言籟禎(ごんかいてい・田宮たみや)?- ? 江前期俳人;雑俳点者、
 1694前句付雑俳撰集「奈良土産」撰(自序/大坂雁金屋庄兵衛板);
 自序には葛城山麓の隠士嵯雲こうんから奈良の宿で草稿を示されそれに加筆したとある;
 しかし撰者も嵯雲もともに創作で実際は葛城山麓の平野良弘の撰と思われる、
 → 良弘(りょうこう・平野、鶴寿軒、俳人) H 4 9 4 6
- G1957 崑岳(こんがく・宇津木うつぎ、名;久純ひさずみ、久徴ひさもと男)1747-181266 近江彦根藩士;中老;
 代々家老職;宇津木家7代当主、稽古館頭取、1805致仕、儒者;小原君雄・竜草廬門、囲碁/画、
 「六松園集」「崑岳詩集」著、
 [崑岳(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;雄三郎、字;徳卿、通称;兵庫/函書/下総、
 別号;青霞居士、法号;霊和院
 嚴覚(ごんかく) → 嚴覚(げんかく・平安期真言僧) I 1 8 2 0
 困学斎(こんがくさい) → 垣斎(たんさい・手塚/日原、儒者) T 2 6 5 0
 髡岳堂(こんがくどう) → 歌城(うたき・小林おぼやし、幕臣/国学者) 1 2 6 6
 困学堂主人(こんがくどうしゅじん)→ 藁園(こうえん・西川にしかわ、医者/詩) H 1 9 7 0
 金岳陽(こんがくよう) → 岳陽(がくよう・金) H 1 5 8 0
 混花亭(こんかてい) → 美勝(よしかつ・室むろ友甫、茶人) P 4 7 5 7
- R1956 嚴寛(ごんかん;法諱、藤原経衡[1005-72]男)?-? 平安期仁和寺僧;法師、
 歌人;1237刊[檜葉集]2首入、業綱・其国の弟、
 [ちりのこるこのひとえだの花にさへうきめなみせそ春の山風](檜葉;春81)
 昆宜庵(こんぎあん) → 樗堂(ちようどう・栗田、酒造業/俳人) K 2 8 4 3
- E1968 嚴教(ごんきょう;法諱) ? - ? 鎌倉期僧;権大僧都、歌人、
 1312成立「玉葉集」2193、続千載956・1997
 [松に吹く嵐のおとも高砂のうらぢしぐるる秋の夕ぐれ](玉葉集:十六雑2193)
- E1969 混空(こんくう) ? - ? 連歌師、1698連歌論「産衣うぶぎぬ」編:当流新式
- P1916 権九郎(ごんくろう・野村のむら/修姓;野や)?-? 江後期丹後の養蚕家/久美浜代官、養蚕奨励、
 1797「蚕飼仕法申渡書」著
 権九郎(ごんくろう・池上) → 隼之助(じゅんのすけ・池上いけがみ、藩士) L 2 1 7 3
 権九郎(ごんくろう・平野) → 深淵(しんえん・平野ひらの、藩士/儒者) N 2 2 4 6
 権九郎(ごんくろう・岩崎) → 長容(ながかた・岩崎いわさき、藩士/画) L 3 2 2 2
 権九郎(ごんくろう・岡本) → 成章(なりあき・岡本おかもと、儒・国学/教育) L 3 2 4 9
 権九郎(ごんくろう・和気) → 貞規(さだり・和気わけ、庄屋/歌人) O 2 0 3 8
 権九郎(ごんくろう・倉八) → 隣(となり・倉八くらはち/梶原、神職/歌人) V 3 1 0 8
- P1917 昆溪(こんけい・長谷川はせがわ、名;域)1816-6853 上州高崎藩士/江戸住、儒;昌平黌に修学、
 詩人;玉池吟社社友、「昆溪百絶」「寒香園詩文鈔」1846「寒香園百絶」著、

1848「近世名家詩鈔」「名家詩録」50「昆溪百律」54「林下群芳」著、

[昆溪(；号)の字/通称/別号]字；子肇、通称；与一郎、別号；醒翁/寒香園/釣詩屋ちようしや

今継(こんけい・坂上/阪上)→ 今継(いまつぐ・坂上/阪上さかのうえ、詩人) B 1 1 8 9
良軒(こんけん・諸葛) → 帰春(きしゆん・諸葛もろくず、藩士/儒者) I 1 6 6 0
巖賢(ごんけん；字) → 良恵(りょうえ；法諱・巖賢、融通念仏僧) G 4 9 4 2
権現坊(ごんげんぼう) → 雲阿(うんあ・円竜、神職/僧/狂歌) D 1 2 5 3

P1918 崑岡(こんこう・小池こいけ、名；桓)？-？ 江中期享保1716-36頃犬山城主成瀬家の家臣/儒者、

「南斎燕談」著、1728「茸州えんしゅう試筆」注、

[崑岡(；号)の字/通称/別号]字；南斎、通称；奥左衛門、別号；子珪/紫蘭亭

崑岡(こんこう・森/清原) → 雄風(おかせ・清原、医者/歌) 1 4 3 2
崑岡(こんこう・友野) → 霞舟(かじゆう・友野どもの、幕臣/詩人) C 1 5 1 1
根光(こんこう・春木) → 煥光(あきみつ・春木はるき、神職/本草家) D 1 0 9 8
金光(こんこう・加藤) → 小自在(しょうじざい・加藤かとう、僧/歌/俳) U 2 2 7 4
金剛(こんごう・江幡) → 春庵(しゆんあん・江幡えばた/田口、藩士/儒/医) 2 1 9 7
金剛(こんごう・瑞蓮社) → 徹定(てつじよう；法諱・瑞蓮社、浄土僧) C 3 0 4 4
巖豪(ごんごう) → 巖豪(げんごう；法諱・天台僧) I 1 8 8 4
金剛庵(こんごうあん；号) → 大瀛(だいえい；法諱、真宗僧) J 2 6 1 8
全光院(こんこういん) → 広家(ひろいえ・吉川きつかわ、武将/領主/連歌) F 3 7 5 3
金剛院(こんごういん) → 日承(にちじよう；法諱、日蓮僧) C 3 3 3 5
金剛院(こんごういん) → 日与(にちよ；法諱、日蓮僧/連歌) D 3 3 3 9
金光院入道前右大臣(こんこういんにゆうどうさきのうだいじん) → 家定(いえさだ) 1 1 3 5
金光院法印(こんこういんほういん) → 恭畏(きやうい；法諱、真言学僧) N 1 6 1 8
金剛王院僧都(こんごうおういんのそうず) → 源運(げんうん；法諱、真言僧) H 1 8 7 9
金剛王院大僧正(こんごうおういんのだいそうじよう) → 実賢(じつけん；法諱、真言醍醐寺座主) U 2 1 6 0
金剛覚(こんごうかく；法号) → 宇多天皇(うだてんのう、歌人) 1 2 6 8
金剛眼(こんごうがん、金剛源/金剛覚) → 亀山天皇(かめやまてんのう、大覚寺党祖/歌) 1 5 7 8
金剛玄翁(こんごうげんおう) → 大淑(おほしゆく・浄土僧) K 2 6 2 5
金剛幻叟(こんごうげんそう) → 宥恵(ゆうえ；法諱、真言僧/歌) 4 6 6 2
金剛五郎(こんごうごろう) → 愚溪(ぐけい・大田おた、儒者) C 1 7 3 5
金剛志(こんごうし) → 大基(だいき；法諱、浄土僧) J 2 6 5 7
金剛舎(こんごうしゃ) → 砂守(すなもり・小保内おぼない、神職/教育) I 2 3 1 9
金剛寿院(こんごうじゆいん) → 覚尋(かくじん；法諱、天台座主/日記) K 1 5 0 8
金剛寿院(こんごうじゆいん) → 慈勝(じしやう；法諱、天台座主/歌人) E 2 1 0 5
金剛性(こんごうじよう) → 後宇多天皇(ごうだてんのう、歌人) B 1 9 6 5
金剛定院御室(こんごうじよういんのおむろ) → 道深親王(どうじんしんのう、真言僧/歌) F 3 1 6 6
金剛智(こんごうち) → 後宇多天皇(ごうだてんのう、歌人) B 1 9 6 5
金剛童(こんごうどう) → 大心(だいしん；道号・義統；法諱、臨濟僧) K 2 6 4 1
金剛宝(こんごうほう) → 醍醐天皇(だいてんのう、格式・歌集編纂) 2 6 0 3
金剛房(こんごうぼう) → 継然(けいねん；法諱、天台僧) G 1 8 5 2
金光明院(こんこうみやういん) → 眞淳(しんじゆん；法諱、真宗高田派僧) O 2 2 7 9
金剛輪院大僧正(こんごうりんいんのだいそうじよう) → 房演(ぼうえん；法諱、真言僧) 3 9 2 0
昆谷(こんこく・鍋島) → 直正(なおまさ・鍋島なべしま、藩主/詩歌) C 3 2 4 7
権五郎(ごんごろう・北田) → 重郷(しげさと・北田きただ、歌人) O 2 1 2 4
昏昏(こんこん・佐竹) → 噌噌(かいがい・佐竹さたけ、絵師/篆刻) I 1 5 4 9
混々翁(こんこんおう) → 竜潤(りゆうかん・徳力とくりき、幕臣/儒者) D 4 9 2 7
混々斎(滾々斎こんこんさい) → 希賢(まれかた・由美ゆみ/稻富、儒者/詩) K 4 0 2 3
権左(ごんざ・諏訪) → 頼哉(よりあつ・諏訪すわ/源、幕臣/歌人) H 4 7 5 3
権佐(ごんざ・葛巻) → 昌興(まさおき・葛巻かづらまき、藩士/歌) B 4 0 4 9
権佐(ごんざ・富田) → 景周(かげちか・富田とだ/とみた、藩士/儒者) E 1 5 9 6

- 権佐(ごんざ・山崎) → 玩水軒(がんすいけん・山崎やまさき、儒・陽明学者) R 1 5 1 4
 権佐(ごんざ・青地) → 忠愛(ただよし・青地あおち、藩士/記録) R 2 6 2 9
 権佐(ごんざ・前田) → 恒固(つねかた・前田まえだ、藩士/記録) B 2 9 9 3
- P1919 困齋(こんさい;号・姓;酒泉?)?-? 筑前博多の漢学者:唐宋八家文研究、
 貝原存齋と親交、「困齋前集」著
- G1914 良齋(こんさい/ごんさい・加藤かとう/伊丹いたみ、名;敬信)1685-175470 撰津今津の里正/儒者、書/詩、
 博学;子弟教育、「一昔話」「加藤良齋集」著、
 [良齋の通称/別号]通称;彦五郎/権平、別号;南山/里幸
- P1920 鯤齋(こんさい・磯辺いそべ、名;忠貫、樋口忠智男/本姓;磯部)1787-? 1846存 秋田の儒者、
 京の華頂家に出仕;磯部に改称/江戸で奉職、経伝・易に精通;禅録、茶道、寺門静軒と親交、
 1838「良策集」/50「読易瑣言初編」51「賞茶或門」「読易通義」著、
 [鯤齋(;号)の字/通称/別号]字;子文、通称;典膳、別号;忠貫/隠茶老人/銀齋、法号;洗心院
- 1953 良齋(こんさい・安積あさか/今泉、安藤親重しげちか男)1790-186071歳 岩代安積郡耶山の漢学者、
 父は同地八幡宮神職/今泉家養子、儒詩:八木敬蔵門、1807養家出奔/江戸住;佐藤一斎門、
 林述齋門/1814神田駿河台で開塾/50昌平黌儒官、「見山良楼詩集」「良齋詩鈔」「良齋文稿」、
 「良齋雜著」「見山楼詩集」「見山楼文集」「修徳芻言」「荀子略説」「震災記聞」外著多数、
 [良齋(;号)の別名/字/通称/別号]名;重信/信、字;思順、通称;祐助、
 別号;見山、安藤重満しげまろの弟
- P1921 良齋(こんさい・三宅みやげ、名;温、英庵男)1817-6852 肥前高来郡有馬村の医者;父門/熊本住、
 1831父の死により長崎に移住/蘭方医学;檜林栄建門、1838江戸薬研堀住/42銚子で開業、
 1844佐倉藩主堀田正睦の招聘で奥医師/53長崎で薬品・外科道具購入/57種痘所設立;頭取、
 土佐藩医兼任、1862西洋医学所教授;外科手術を授、「内科新説」「西医略論」「婦嬰新説」著、
 [良齋(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;桃樹、字;子厚、通称;英庵(;父の称継承)、
 別号;桃樹園、法号;観竜院
- P1922 困齋(こんさい・中村なかむら、字:正義/通称;佐五右衛門)??-? 江後期上総鶴牧藩儒/丹波和田村に移住、
 子弟教育、「再遊丹波記」「聖狂詳説」、植木環山・小島省齋・田付兼山・荻野東園と交流
- 良齋(こんさい・石田) → 未琢(みたく・石田いだ、俳人・狂歌) 4 1 9 9
 良齋(こんさい・山口) → 安固(やすかた・山口やまぐち、藩士/儒者/用人) G 4 5 9 5
 良齋(こんさい・加藤) → 敬和(たかかず・加藤かとう、里正/歌人) W 2 6 4 0
 良山(こんさい・梶田) → 侯弘(よしひろ・梶田かじた、藩家老/国学) M 4 7 1 7
 坤齋(こんさい・西島) → 蘭溪(らんけい・西島にしじま/下条、儒/詩) B 4 8 8 7
 困齋(こんさい・手塚) → 坦齋(たんさい・手塚/日原、儒者) T 2 6 5 0
 混齋(こんさい・野呂) → 介石(かいせき・野呂のろ、藩士/絵師) B 1 5 0 9
 混齋(こんさい・丸山) → 活堂(かつどう・丸山/山、藩士/和学者) H 1 5 8 2
 鯤齋(こんさい・花井) → 健吉(けんきち・花井はない、算学/測量家) I 1 8 4 1
 鯤齋(こんさい・山崎) → 弘泰(ひろやす・山崎やまさき、国学者/歌) H 3 7 5 7
- P1923 権齋(ごんさい・安立あだち/安達)??-? 江末期越後三島郡岩井村の和算家;江戸の内田五観門、
 帰郷し和算を教授;子弟教育、1662「量地題辨」、「鉤題集艸稿」「北越神壁算法抜解」外著多、
 [権齋(;号)の通称]数右衛門/数衛
- 権齋(ごんさい・馬場) → 正通(まさみち・馬場ばば、経世家/教育) H 4 0 4 7
 権左衛門(ごんざえもん・曾我) → 近祐(ちかすけ・曾我/平、幕臣/書札) B 2 8 0 2
 権左衛門(ごんざえもん・樺山) → 久高(ひさたか・樺山かばやま/大野、武将/家老/歌) J 3 7 0 8
 権左衛門(ごんざえもん・中川) → 謙叔(けんしゅく・かねよし・中川、儒者) F 1 5 5 3
 権左衛門(ごんざえもん・宍甘) → 光似(みつり・宍甘ししかい、藩士/歌人) J 4 1 2 6
 権左衛門(ごんざえもん・池田) → 正樹(まさき・池田いけだ、藩士/記録) C 4 0 2 3
 権左衛門(ごんざえもん・勝田) → 千鳥友呼(ちどりのともよび、名主/狂歌) F 2 8 0 8
 権左衛門(ごんざえもん・勝田) → 紫文齋(初世しぶんさい・宇治、名主/一中節/狂歌) F 2 1 6 0
 権左衛門(ごんざえもん・木屋) → 尋旧子(じんきゅうし;号、華道家) N 2 2 8 2
 権左衛門(ごんざえもん・三宅) → 正直(まさなお・三宅みやげ、藩士/記録) F 4 0 0 1
 権左衛門(ごんざえもん・佐藤) → 長健(ながたけ・佐藤さとう、藩士/故実家) E 3 2 0 8

権左衛門(ござえもん・明石)→ 行憲(ゆきのり・明石あかし、藩士/歌文) F 4 6 3 0
 権左衛門(ござえもん・寺嶋/矢野)→ 信厚(のぶあつ・矢野、藩士) 3 5 9 1
 権左衛門(ござえもん・余目)→ 兼善(かねよし・余目あまるめ、国学者・歌) P 1 5 1 0
 権左衛門(ござえもん・森) → 玄黄斎(げんこうさい・森もり/山中、画工/詩歌) I 1 8 0 0
 権左衛門(ござえもん・安部)→ 惟貞(これさだ・安部、国学/連歌) O 1 9 3 4
 権左衛門(ござえもん・三浦)→ 千春(ちはる・三浦みうら、藩士/国学) F 2 8 2 1
 権左衛門(ござえもん・真野)→ 正陳(まさつら・真野まの、幕臣/和学者) S 4 0 4 9
 権左衛門(ござえもん・岩田)→ 広成(ひろなり・岩田、農業/和算家) G 3 7 7 4
 権左衛門(ござえもん・日下部)→ 順清(じゅんせい・日下部くさかべ/藤原、幕臣/書) P 2 1 5 3
 権左衛門(ござえもん・丸毛)→ 利通(としみち・丸毛まるも、幕臣/書家) W 3 1 5 0
 権左衛門(ござえもん・田中)→ 保祐(保佑やすすけ・田中たなか、歌人) B 4 5 7 4
 権左衛門(ござえもん・吉村)→ 宣範(のぶのり・吉村よしむら/源、家老/国学) G 3 5 7 1
 権左衛門(ござえもん・中村)→ 愈積(まさかず・中村なかむら、歌人) R 4 0 1 9
 権左衛門(ござえもん・小野)→ 諸雄(もろお・小野おの、伊勢屋/歌) J 4 4 4 8
 権左衛門(ござえもん・大塚)→ 定伝(さだただ・大塚おつか、藩士/詩歌) O 2 0 1 4
 権左衛門(ござえもん・金子)→ 時中(ときなか・金子かねこ、国学者) U 3 1 7 8
 権左衛門(ござえもん・山県)→ 信任(のぶとう・山県やまがた、藩士/国学者) K 3 5 2 5
 権三郎(ござぶろう・戸部)→ 一慙斎(いっかんさい・戸部とべ、黄檗僧/史家) G 1 1 8 3
 権三郎(ござぶろう・林/小町谷)→ 吉憲(よしのり・小町谷こまちや/林、歌人) F 4 7 9 0
 権三郎(ござぶろう・太田)→ 午庵(ごあん・太田おおた、藩士/詩文) H 1 9 0 5
 権三郎(ござぶろう・長久保)→ 藤巷(とうこう・長久保ながくぼ、儒者) D 3 1 9 6
 権三郎(ござぶろう・北村)→ 正立(せいりゅう・まさたつ・北村、国学・歌学者) D 2 4 1 1
 権三郎(ござぶろう・河原崎)→ 権之助(6世ごんのすけ・河原崎、歌舞伎座元) G 1 9 9 9
 権三郎(ござぶろう・須藤)→ 恵典(よしのり・須藤すどう/松村、商家/国学) N 4 7 3 8
 権三郎(ござぶろう・万屋)→ 蓬宇(蓬雨ほうう・佐野さの、商家/俳人) 3 9 1 5
 権三郎(ござぶろう・小田村)→ 廓山(ろくざん/ふざん・小田村/山本、儒者) 5 2 8 4
 権三郎(ござぶろう・富田)→ 貞行(さだゆき・富田とみた、藩士/記録) K 2 0 1 4
 権三郎(ござぶろう・梶) → 荘嶽(そうがく・梶かじ、儒者) G 2 5 6 2
 権三郎(ござぶろう・山口)→ 襲明(よりあき・山口やまぐち、国学/経済人) P 4 7 8 3
 今参(こんさん) → 経子(つねこ・橋本、和宮母/記録) C 2 9 0 7

- P1924 **良山**(こんざん・後藤ごとう、名;達/養達、光長男) 1659-1733 75 江戸の医者:牧村ト寿門、椿庵の父、1685京に移住;独学で古医法修得/一気留滞説を主唱、旧来の法体を排し長髪束垂姿、「良山文集」「医事筆記」「熊胆蕃椒灸説」「五曲灸説」「六気辨」、「後藤先生医話」外著多数、[良山(;号)の字/通称/別号]字;有成、通称;左一郎/佐一郎/三五郎/彦兵衛、別号;養庵
 P1925 **崑山**(こんざん・今井いまい、名;兼規、兼隆男/本姓;源) 1717-76 下総佐倉藩儒;林榴岡・鳳谷門、父が林榴岡門、48「賓館唱酬」編、「崑山遺稿」、渋井太室(同佐倉藩儒)と親交、[崑山(;号)の字]子範、兼行の養父
 G1915 **崑山**(こんざん・三村みむら、名;其原) 1762-1825 64 大坂横堀川西の儒者:中井履軒門、子弟教育、「楚辞灯」に訓点出版/1808「花間笑話」編、「玉来随録」「玉来雑記」「芳山遊草」著、[崑山(;号)の字/通称/別号]字;子達、通称;貞蔵、別号;玉来/玉来居、
 G1958 **崑山**(こんざん・草加くさか/そうか、名;定環) 1756-1817 62 備前岡山の人?/熊沢蕃山の外孫?、儒者、大阪住のち江戸住、1795「尹台秘録」96「唐山広象棋譜」97「服忌令条例」、「蕃山先生行状録」「熊沢先生著書目録解題」「和漢文会」「二十四孝伝」著、[崑山(;号)の字/通称/法号]字;修文/脩夫/循夫、通称;和助/宇右衛門、法号;清風院
 良山(こんざん・桂井) → 素庵(そあん、桂井かつらい、郷士/儒者) F 2 5 8 2
 坤山(こんざん・室田) → 謙(ゆずる・室田むろた/泉せん、医者/国学) G 4 6 9 6
 混山(こんざん・西尾) → 公龍(きみたつ・西尾にしお、医者/歌人) K 1 6 4 6
 崑山(こんざん・内田) → 沾山(6世/7世せんざん・内田うちだ、俳人) F 2 4 5 7
 崑山(こんざん・田中/松山)→ 玄中(げんちゅう・松山/田中、医者) L 1 8 2 5
 E1970 **言山**(こんざん・二水亭) ? - ? 江後期俳人、1848「蕉風不易体新五歌仙」編

- 崑山翁(こんざんおう) → 一品(いっしょう・芳賀はが、医/俳人) B 1 1 5 0
 琨子(こん・稲葉) → 琨子(たまこ・稲葉いなば/伊達、歌人) V 2 6 6 9
 今滋(こんじ・井手) → 今滋(いましげ・井手いで/橘、曙覧男/藩士/歌) D 1 1 1 4
 今時狂生(こんじきやうせい) → 筋堂(せつどう・十河そごう、篆刻家) L 2 4 3 2
 D1978 権七(ごんしち・安喜あき) ? - ? 江中後期天明1781-89頃土佐藩士、
 1788「池川用居非常大要記録」共編(毛利治左衛門と)
 権七(ごんしち・茨屋いばらや/室屋) → 梅北(ばいほく・茨屋、俳人) C 3 6 0 7
 権七(ごんしち・藤木) → 寂源(じゃくげん:法諱・一如、社僧/書) V 2 1 9 4
 権七郎(ごんしちろう・岩田) → 涼菴(りょうと・岩田/神風館3世、俳人) 4 9 2 1
 Q1942 巖実(ごんじつ;法諱・小笠原おがさわら) 1822-9271 尾張名古屋の真宗大谷派僧/聖徳寺住職、
 歌人;拜郷蓮茵れんいん・竹田晨正・富樫広蔭門、
 [巖実(;法諱)の名/法名]名;菊麿/長康、法名;威光院
 健守(こんしゅ) → 健守(けんしゅ、僧/歌人) C 1 8 0 0
 権守(ごんしゅ・金春) → 権守(ごんのかみ・金春、能役者) G 1 9 1 7
 権守(ごんしゅ・不破) → 光寧(みつやす・不破ふわ、国学者) K 4 1 2 9
 巖秀(ごんしゅう) → 巖秀(げんしゅう・ごんしゅう;法諱、真言僧) J 1 8 5 4
 金重院(こんじゅういん) → 賢清(かたきよ・青木あおき、神職) T 1 5 3 3
 権十郎(ごんじゅうろう・小堀) → 政尹(まさただ・小堀/浅井、幕臣/茶人) D 4 0 4 8
 権十郎(ごんじゅうろう・三枝) → 守繁(もりしげ・三枝さいぐさ、幕臣/国学) K 4 4 0 2
 権十郎(ごんじゅうろう・松平) → 康済(やすずみ・松平まつだいら、幕臣・和学) G 4 5 7 2
 権十郎(ごんじゅうろう・森) → 堯敷(たかのぶ・森もり/藤原、藩士/国学) Z 2 6 9 8
 権重良(ごんじゅうろう・桜井) → 要道(としみち・桜井さくらい、代官/歌人) T 3 1 3 7
 金鐘行者(金鷲行者こんしゅぎやうじゃ) → 良弁(ろうべん、華巖僧) C 5 2 5 7
 紺珠堂(こんじゅどう) → 梧友(ごゆう・岩本いのもと、和算家) N 1 9 8 3
 金鷲菩薩(金鐘菩薩こんしゅぼさつ) → 良弁(ろうべん、華巖僧) C 5 2 5 7
 E1971 巖順(ごんじゆん;法諱、芝築地しばつきち隆栄男) 1759-182466 真言僧;仁和寺宮坊官、1786法印、
 総在庁に補す、「御室志」著
 D1979 混処(根処こんしよ・根岸ねがし、通称;行蔵)?-? 江後期播磨姫路藩儒、1841藩校好古堂教授、
 「根岸先生筆記」著、村尾元融げんゆう(医/儒者1805-52)と交流
 G1924 巖助(ごんじよ;法諱、松木まつき宗綱男) 1494-? 1569存 真言僧;宗永門、護持僧/醍醐寺理性院院主、
 1534別当、大僧正、1518「室町殿上醍醐御登山日記」/19「正長元年記」「御修法部類記」、
 1523「室町殿護摩日記」25「乙酉歳記」、「永正十七年記」「神宮作法」「巖助往年記」著
 根松(こんしよ;組連) → 根松(ねまつ;雑俳の組連) 3 4 5 5
 G1927 混浄(こんじよ;佐々木ささき、名;俊雅、通称;湖俊雅)?-? 江初期;播州広峰社祠官?、
 「高砂拾遺増抄」著
 今城(こんじよ・大原) → 今城(いまき・大原真人、廷臣/万葉歌人) 1 1 2 9
 巖昭(ごんしよ;法諱) → 法住(ほうじゅう:法諱、真宗僧) F 3 9 0 6
 G1928 巖乘(ごんじよ;法諱) 1376 - 143358 室町期興福寺の法相僧;1422興福寺三綱/寺主、
 威儀師、1413「興福寺都維那巖乘記」著、16「維摩会注記之日記」編
 G1988 巖城(ごんじよ;法諱) ? - ? 1813存 江後期美濃不破垂井の真宗本願寺派僧、
 本巢郡浄明寺教雪の養子/女婿(妻;寿専)、道隠門/三業惑乱の時師に助力、浄明寺17世、
 「一心二種正因虚実対辨」「六合釈口乳」著、息子;大愍・巖麗(;共に性海門)
 L1922 巖浄(ごんじよ;法諱) ? - ? 江後期摂津吹田の真宗本願寺派浄念寺住職、
 惠琮門/1832安居講師/司教、1791「蓮如上人三百年限」、「百座因縁」「文類聚鈔鑽仰篇」著
 欣浄院(ごんじよいん) → 中観(ちゅうかん;法諱、真宗大谷派僧) F 2 8 8 7
 今蜀人(こんしよくじん) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2
 良四郎(ごんしろう・土井) → 董盈(ただみつ・土井どい、国学・歌人) Y 2 6 3 7
 権四郎(ごんしろう・松浦) → 震沼(かしょう・松浦まつうら、儒者) F 1 5 1 2
 権四郎(ごんしろう・坂尾) → 宗吾(そうご・坂尾/日向、藩士/武術家) H 2 5 2 8
 権四郎(ごんしろう・田鎖/根城) → 恭斎(きょうさい・根市ねいち、藩士/儒者) N 1 6 7 9

- 権四郎(ごんしろう・大野) → 猶穠(ゆうきく・大野おの、俳人) B 4 6 1 4
 権四郎(ごんしろう・稲山) → 行教(ゆきのり・稲山いなやま、国学者) F 4 6 2 9
 権四郎(ごんしろう・藤田) → 貞升(定升さだます・藤田、藩士/和算家) J 2 0 7 5
 権四郎(ごんしろう・檜原) → 久臣(ひさおみ・檜原ならはら、国学者) K 3 7 4 9
 権四郎(ごんしろう・小川) → 栄貞(ひでさだ・小川おがわ/三宅、里正/歌) I 3 7 5 7
 権四郎(ごんしろう・小川) → 眞澄(ますみ・小川おがわ、栄貞男/里正/歌/茶) O 4 0 0 6
 権四郎(ごんしろう・小川) → 清臣(きよおみ・小川おがわ、眞澄男/歌人) T 1 6 6 9
 権次郎(ごんじろう・荒木田) → 武因(たけより・荒木田/榎倉、神職/連歌) Q 2 6 7 7
 権二郎(ごんじろう・頼) → 景讓(けいじょう・頼らい、儒者) N 1 8 3 0
- 1954 言水(ごんすい・池西いけし、名; 則好のりよし) 1650-1722⁷³ 大和奈良の俳人: 維舟門、1665(16歳)出家、1677頃江戸住; 幽山・才麿らと交流/俳書を出版し俳壇地位確立/1682京住、北越/奥羽行脚、西国・九州行脚; 帰京定住; 1687信徳・我黒・湖春・我及と「三月物」刊行; 京俳壇を主導、俳壇の革新に尽力、歌; 有賀長伯門、1678「江戸新道」「江戸蛇之鮓(じゅ)のすし」80「江戸辨慶」編、1681「東日記」87「京日記」89「前後園」90「都曲(みやこぶり)」99「一灯」1700「続都曲」01「鳥おどし」1702「一字之題」07「我身皺」09「京拾遺」17「初心もと柏」18「九折集」、「言水句集」外著多数、晩年は雑俳/1720奈良に帰郷/21京住; 中風のため病臥; 翌年没、追善集; 一周忌「海音集」(方設編)/七周忌「其その木こがらし」、[凧こがらしの果はありけり海の音](新撰都曲; 独吟歌仙発句)、[言水の通称/別号]通称; 八郎兵衛、別号; 兼志・紫藤軒・洛下童・鳳下堂
- E1972 言粹(ごんすい・福富ふくとみ) ? - ? 浮世草子作者、1705「長者機嫌袋(ちやうじゃきげんぶくろ)」(; 淀屋辰五郎没落事件に取材)(自序あり)、田村栄秀(緑竹軒)「宝永千年記」の伊勢信仰問答の言粹のことか?
- 巖水(ごんすい・中山) → 巖水(いずみ・中山なかやま/宮川、藩士/史家) J 1 1 8 4
 言水堂(2世ごんすいどう) → 金毛(きんもう・芳沢、俳人) I 1 6 2 8
 権助(ごんすけ・丹羽) → 堂斬(どうざん)自主(どうともものしろぬし、藩士/狂歌) G 3 1 8 1
 権助(ごんすけ・阿川) → 義広(よしひろ・阿川あがわ、国学・故実家) G 4 7 6 4
 権助(ごんすけ・江馬) → 榴園(りゅうえん・江馬えま/飯尾、蘭医) D 4 9 0 3
 権佐(権輔ごんすけ・米良/斎藤) → 芝山(しざん・斎藤/米良、藩士/儒者) D 2 1 7 4
 今是(こんぜ・藤村) → 直弘(なおひろ・藤村、書画・俳諧) C 3 2 3 0
- P1926 巖靖(巖清ごんせい; 法諱) ? - 1367 天台僧: 法印/権大僧都、1334「如法仏眼法日記」著
 渾成翁(こんせいおう) → 雄淵(おぶち・松岡、神道家) B 1 4 9 1
 坤井堂(こんせいどう・宵瑞) → 宵瑞(しょうずい、久世、地誌家、狂歌) K 2 2 1 4
- G1970 今石(こんせき) ? - ? 江前期羽前最上の俳人; 1694不角「うたたね」入、[金借りと聞いて着て出る破(や)れ衣(い)](うたたね/借金を断るには己も困っている風をする)
 良脊(こんせき) → 玄筋(げんせつ、植田、儒・詩) E 1 8 3 1
 根石(こんせき) → 雲淙(うんそう・鷹羽たかの、藩士/詩人) B 1 2 8 6
- E1974 言石(ごんせき・下村、別号; 優士/紫藤軒2世) ?-? 京の俳人; 鞭石・言水門、前句付点者、1722「菊の台」-29「花紋日」編、「化粧文」著
 石田言石(皇明遊士、京の点者)と同一か
 金勝入道(こんぜにゅうどう、俳話) → 慶安(けいあん・青地あおち/源、俳/歌人) D 1 8 3 4
 金鮮(こんせん・加藤) → 小自在(しょうじざい・加藤かとう、僧/歌/俳) U 2 2 7 4
- G1992 巖専(ごんせん; 法諱) ? - ? 僧侶/連歌師、菟玖波集3句入
 金仙院(こんせんいん) → 隆衡(たかひら・四条/藤原、廷臣/歌人) D 2 6 6 2
 良蔵(こんぞう・永阪) → 或斎(わくさい・永阪/永坂/菅野、儒者) 5 3 1 7
- G1993 巖蔵(ごんぞう; 法諱、別号; 教応/暁応) ?-? 江中期1772-89頃越前天津村の真宗大谷派浄明寺住職、1769「金七十論備考」75「安心決定鈔」84「勝宗十句義論試記」著、「式歎徳文考」「無量寿経玄譚」著
 権蔵(ごんぞう・南部) → 景春(かげはる・南部なんぶ、藩士/儒者/詩) L 1 5 2 4
 権蔵(ごんぞう・毛呂) → 義卿(よしのみ・毛呂もろ、和漢学/仏典) F 4 7 8 5
 権蔵(ごんぞう・蒲原) → 十九(じゅうく・一編舎いっぺんしゃ、藩士/戯作者) E 2 1 8 1

- 権蔵(ごんぞう・横田) → 莠(はぐさ・横田よこた、藩士/儒者/教育) K 3 6 9 5
 権太(ごんた・金子) → 時中(ときなか・金子かねこ、国学者) U 3 1 7 8
- P1979 **権退**(ごんたい・天野あまの) ? - ? 江前期;大阪?の俳人、
 1673西鶴「生玉万句」;第八鶉第三句/十歳暮発句入、
 [荻をぎの上萩はぎの下見世風吹きて](鶉第三/見世床と戸の兼用の商家店構、
 上に引上げ庇にするを上見世・下に下げ見世床にするを下見世、
 脇句悦春;今朝は来にけり此の町の秋)
 [万叟(事)ばんじは夢今日と暮して明日の春](歳暮発句、
 古今:341春道列樹;昨日といひ今日と暮して明日香川流れて早き月日なりけり)
- G1959 **昆台**(ごんたい・宇津木/宇津城うつき、修姓;干、名;益夫/謙、十助男/本姓;藤原/平) 1779-184870、
 尾張名古屋の儒者;松田隸園門・詩歌、医者;浅井貞庵・平野竜門門、医で微妙法親王に出仕、
 古医方の大家、1830「刻風寒熱病方序」36「医学警悟」38「有馬温泉功能略記」41「温泉辨」、
 「言霊十寸鏡記聞」「天放子経緯編」「和歌集」「昆台先生問答策」著/「日本医譜」編、
 1848「解荘」著、
 [昆台(;号)の字/通称/別号]字;天放、通称;太一郎、別号;五足斎/霞谷
- G1994 **権大納言**(ごんだいなごん) ? - ? 南朝出仕の女房/歌:新葉集173/914
 [ほととぎす待つ夜かさなる思い寝の夢にさへなどつれなかるらん](新葉;三夏173)
 権大納言(ごんだいなごん・昭訓門院)→ 大納言(だいなごん・昭訓門院、歌) B 2 6 9 6
 権大納言(ごんだいなごん・中宮)→ 近衛(このえ・今出河院、歌人) D 1 9 4 9
 権大納言(ごんだいなごん・遊義門院)→ 為子(ためこ、二条為世女、歌) G 2 6 8 0
 権大納言三位局(ごんだいなごんのさんみのつぼね)→ 為道女①(ためみちのむすめ、二条関白女房) H 2 6 4 7 ①
- E1975 **権大納言典侍**(ごんだいなごんのすけ・後醍醐院ごだいごいん、権大納言二条為世女)?-?1369存 後醍醐天皇典侍、
 天皇の皇子尊良親王に愛され女子出産(増鏡)、為藤・為冬・為子・昭訓門院春日らの妹、
 出家後住吉西林院に隠棲、後村上朝歌壇の歌人:1330十五夜五首歌/35内裏千首歌参歌、
 勅撰2首;続千載1598/新千載1577、新葉2首;615/1328、
 [たのみける君がめぐみの色そへてみのりの花はなほぞさかへん]、
 (新葉;615/梅花を介し後村上院への返歌)
 [後醍醐院権大納言典侍(;女房名)の別名] 大納言典侍、
 権大納言典侍(ごんだいなごんのすけ・後二条院)→
 為子(ためこ、後醍醐院権大納言典侍の姉/為世女) G 2 6 8 0
- 権大納言典侍(ごんだいなごんのすけ)→ 親子(しんし・北畠、中院具氏女) E 2 2 3 6
 金胎房(ごんたいぼう) → 覚禅(かくぜん;法諱、真言僧) B 1 5 6 4
 紺足袋先生(ごんたひせんせい)→ 雅嘉(まさよし・尾崎、医/国学/歌人) 4 0 2 4
 良太夫(ごんだゆう・吉岡) → 勇平(ゆうへい・吉岡よしおか/鈴木、幕臣) D 4 6 7 0
- G1995 **権太夫**(ごんだゆう・和谷わや) ? - ? 江後期伊勢猿楽の大夫、和谷は伊勢三座の1、
 1846伊勢亀山勸進能を主催、1843「和谷家記」著
 権大夫(ごんだゆう・出口) → 延経(のぶつね・出口でぐち/度会、神職) C 3 5 1 4
 権太夫(ごんだゆう・平岩) → 元重(もとしげ・平岩/弓削、武将/戦記) C 4 4 5 8
 権太夫(ごんだゆう・渋谷) → 就明(なりあき・内藤/渋谷、藩士/文筆) G 3 2 9 5
 権太夫(ごんだゆう・磯谷) → 久英(ひさひで・磯谷いそがい、藩士/兵法家) B 3 7 8 3
 権太夫(ごんだゆう・曾禰/柳)→ 淇園(きえん・柳沢、藩士/詩/絵師) 1 6 0 3
 権太夫(ごんだゆう・足代) → 弘訓(ひろのり・足代あじろ/度会、神職/国学者) 3 7 2 6
 権太夫(ごんだゆう・深井) → 松斎(しょうさい・深井/深、藩士/儒/兵学) I 2 2 9 6
 権太夫(ごんだゆう・桜田) → 澹斎(たんさい・桜田さくらだ、儒/詩人) I 2 6 7 0
 権太夫(ごんだゆう・湯沢) → 眞龍(またつ・湯沢ゆざわ/川又、神職/国学) J 4 0 5 1
 権太夫(ごんだゆう・石井) → 昌祐(まさすけ・石井いし、船頭/藩士/歌) N 4 0 5 5
 権太夫(ごんだゆう・中山) → 豊正(とよまさ・中山/丹治部、歌人) R 3 1 6 0
 権太夫(ごんだゆう・伊藤) → 常信(つねのぶ・伊藤いとう/岩淵、神職) F 2 9 2 1
 権太夫(ごんだゆう・藤井) → 尚澄(なおずみ・藤井、楽人/歌) B 3 2 4 3

- 権太夫(ごんだゆう・長谷川)→ 貞雄(さだお・長谷川はせがわ/藤原/中村、神職/官吏/歌) P 2 0 1 1
 権太輔(ごんだゆう・久保) → 利世(としよ・久保ぼ、神職/茶人) O 3 1 1 5
 権太郎(ごんたろう・丹羽) → 樗山(ちよざん・佚斎いっさい、藩士/談義本) K 2 8 3 8
 権太郎(ごんたろう・高橋) → 種之(たねゆき・高橋たかはし、藩士/教育) S 2 6 1 2
 権太郎(ごんたろう・片岡) → 寛光(ひろみつ・片岡/所、名主/国学/歌) H 3 7 4 1
 権太郎(ごんたろう・秋保) → 親愛(ちかよし・秋保あきは、藩士/国学/歌) L 2 8 7 6
 金地院の宰相(こんぢいんのさいしやう)→ 崇伝(すうでん; 法諱・以心; 道号、臨濟僧/幕政参画) 2 3 0 5
 E1976 権中納言(ごんちゆうなごん・今出河院、藤原雅平女)?-? 亀山院后今出河院嬉子[1318没]の女房、
 鎌倉期歌人、玉葉集728、大宮院権中納言の妹
 [うきてわたるゆふべの空の雲くれて風にぞきほふ秋の村雨](玉葉; 五秋下728)
 E1977 権中納言(ごんちゆうなごん・大宮院、藤原雅平女)?-? 鎌倉期歌人、続古今458、今出河院権中納言の姉、
 [秋きぬとくもゐのかりのこゑすなりこはぎがもとや露けかるらん](続古今; 五458)
 (ただしこの歌の作者は為子[ためこ・京極為教女]説あり
 権中納言(ごんちゆうなごん; 女房名)→ 雅通女(まさみちのむすめ・源、丹波中将雅通女/歌) H 4 0 6 1
 権中納言(ごんちゆうなごん; 新拾遺)→ 公豊(きんとよ・三条/正親町三条/藤原、歌) E 1 6 4 3
 G1996 勤超(ごんちゆう; 法諱・行空ぎょうくう; 号)?-1706 浄土宗西山派深草流の僧/京の円福寺33世、
 「論註綱要記」「鎮勸用心秘抄」著
 G1997 鯤堂(こんどう・小倉おぐら、名; 乾、松島瑞蟠男) 1831-9161 藩儒小倉尚倉の養子/長門萩藩儒;
 1851安積良斎門、吉田松陰と往来/57江戸より亡命; 仙台気仙東山で教授、
 維新後は毛利家の編集事務に出仕、「三賢三十律」著、
 [鯤堂(; 号)の幼名/字/通称/別号]幼名; 百合熊、字; 士乾/士健、通称; 乾作/健作、別号; 劍槩
 金堂(こんどう; 道号) → 金堂(きんどう; 道号・良菊; 法諱、曹洞僧) R 1 6 5 0
 金洞(こんどう・日新亭) → 文哉(ぶんさい・福田/源、医者/画/歌人) F 3 8 2 8
 良堂(こんどう・石田) → 未琢(みたく・石田いしだ、俳人・狂歌) 4 1 9 9
 良洞庵(こんどうあん) → 致知(むねとも・矢部/近藤、藩士/古文献調査) B 4 2 9 0
 近藤斎宮(こんどうさいぐう) → 芙蓉(ふよう・高こう/大島、篆刻家) E 3 8 4 7
 坤徳(こんとく・小宅) → 処斎(しよさい・小宅おやけ、藩士/儒者) M 2 2 3 3
 混沌軒国丸(こんとんけんくにまる、狂歌)→ 貞右(ていゆう・玉雪斎) 3 0 0 2
 混沌斎(こんとんさい) → 直正(なおまさ・河東田かとうだ、天文家) C 3 2 4 5
 渾沌斎(こんとんさい) → 松月(しょうげつ・藤氏、語学者) G 2 2 3 5
 権内(ごんない・大久保) → 忠督(ただまさ・大久保おおくぼ、藩士/国学) W 2 6 0 9
 権内(ごんない・山根) → 吉住(よしずみ・山根やまね/藤原、藩士/歌) P 4 7 8 9
 今日庵(こんにちあん) → 宗旦(そうたん・千せん、茶人/利休の孫) C 2 5 4 6
 今日庵(こんにちあん) → 宗室(5世そうしつ・千せん、裏千家8世茶人) H 2 5 6 7
 今日庵(こんにちあん) → 宗室(8世そうしつ・千せん、裏千家11世茶人) H 2 5 6 8
 今日庵(こんにちあん) → 宗徧(そうへん・山田やまだ、茶人) C 2 5 9 0
 今日庵(こんにちあん) → 素堂(そどう・山口、俳人) 2 5 2 6
 今日庵(2世こんにちあん) → 元夢(げんむ・森田、俳人) D 1 8 1 1
 今日庵(3世こんにちあん) → 一峨(いちが・根本、元夢門俳人) G 1 1 1 0
 今日庵(こんにちあん) → 円環(えんかん・了齋りょうわ、真宗大谷派) E 1 3 5 4
 今日庵(こんにちあん、半夢)→ 隆従(たかより・西山、藩士/歌人) N 2 6 8 2
 今日庵(こんにちあん) → 行雄(ゆきお・鳴原しげはら、藩士/歌人) G 4 6 9 1
 G1998 言如(ごんによ; 道号・円遵えんじゆん/恵遵えいじゆん; 法諱、俗姓; 佐々木) 1560-163778 周防の臨濟僧、
 竺雲慧心(仏智大照国師)門/安藝長福寺・長門萩平安寺住、
 毛利輝元の菩提所天寿院を開山、1613(慶長18)「宝訓集」著
 G1916 権守(ごんのかみ・金剛こんごう、2世孫太郎氏明?)?-? 南北期能役者、坂戸座代表・金剛流の始祖
 G1917 権守(ごんのかみ・金春こんばる、毘沙王権守男)?-? 南北期能役者、大和猿楽、円満井座、禅竹の祖父、
 「昭君」作
 権頭(ごんのかみ・太田) → 包宗(かねむね・太田おた/甲斐、神職/国学) T 1 5 9 8
 権之丞(ごんのじやう・山本)→ 常朝(つねとも・山本やまもと、藩士/学者) C 2 9 7 2

権之丞(ごんのじょう・三輪)→ 秀寿(ひでひさ・三輪みわ、藩士/歌人) D 3 7 7 3
 権之丞(ごんのじょう・三輪)→ 表秀(あきひで・三輪、秀寿の孫/藩士/歌) D 1 0 8 2
 権之丞(ごんのじょう・村瀬)→ 其磧(きせき・江島えじま、浮世草紙作者) 1 6 1 7
 権之丞(ごんのじょう・大菅)→ 南坡(なんば・大菅/岩泉、漢学者/藩儒) J 3 2 3 6
 権之丞(ごんのじょう・鷺見)→ 休明(保明やすあきら・鷺見すみ、藩士/歌人) 4 5 8 8
 権之丞(ごんのじょう・大野)→ 広城(こうじょう・ひろき・大野、幕臣/故実) B 1 9 3 8
 権之丞(ごんのじょう・菊田)→ 寿恒(ひさつね・菊田きくた、藩士/兵法家) B 3 7 4 0
 権之丞(ごんのじょう・岸本/朝田)→ 由豆伎(ゆずき・朝田/岸本、由豆流男/国学) G 4 6 0 5
 権之丞(ごんのじょう・小野)→ 義忠(よしただ・小野おの、藩士/日記) E 4 7 2 9
 権之丞(ごんのじょう・高田)→ 清貞(きよさだ・高田たかた、藩士/国学) U 1 6 6 3
 権之丞(ごんのじょう・阿閉)→ 言足(のぶたり・阿閉あべ、藩士/国学/尊攘) H 3 5 0 4
 権之丞(ごんのじょう・三輪)→ 秀憲(ひでのり・三輪みわ、藩士/歌道) L 3 7 3 6
 権之進(ごんのしん・長岡)→ 為麿(ためまる・長岡ながおか、神職) S 2 6 8 1
 権之進(ごんのしん・橋村)→ 正河(まさかわ・橋村はしむら/度会、神職/歌) R 4 0 6 2
 権之進(ごんのしん・藤塚)→ 知雄(ともお・藤塚ふじつか、神職/国学) W 3 1 2 6
 権之進(ごんのしん・佐野)→ 武保(たけやす・佐野さの、藩士/系譜) O 2 6 8 5
 権之進(ごんのしん・岸本)→ 由豆流(ゆずる・岸本/平/朝田、国学者) 4 6 1 3

E1978 **権之助**(初世ごんのすけ・河原崎かわらざき、興行師河原崎権之助男) 1596-1690長寿95 代々山城八幡神宮、歌舞伎役者;1648江戸で権之助を襲名/能芝居の櫓を挙げ不振/能と歌舞伎両方を興行、1668木挽町に歌舞伎専門の河原崎作権之助座座元、歌舞伎作者兼務/1686?「舞曲扇林」著、[権之助(通称)の初通称/法号]初通称;小左衛門、屋号;山崎屋、法号;真光院

E1979 **権之助**(ごんのすけ・吉雄よしお、名;永保ながやす/尚貞、耕牛男) 1785-183147 肥前長崎の阿蘭陀通詞、蘭語;父門・1804志筑忠雄門/仏語;商館長ゾーフ門/英語;ブロンホフ門/外科;レッケ門、1809蛮学世話掛/1818江戸番小通詞/年番小通詞/参府休年出府通詞、シボルト鳴滝塾の通訳、1811-33「道役法児馬トウフ・ハルマ」訳、14「諸厄利亜語林大成」、「英吉利文話之凡例」外翻訳多、[権之助(通称)の幼名/号]幼名;六次郎/六二郎、号;如淵じよえん、法号;黙道如淵居士

G1999 **権之助**(6世ごんのすけ・河原崎かわらざき、5世権之助養子) 1814-68殺害55 江戸本所松倉町呉服屋に奉公、母は5世権之助の後妻/1830養父没後6世を襲名;木挽町の歌舞伎座元を継承、役作者、1842浅草猿若町移転を命ぜらる;43新地で興行/68強盗に襲われ没、「伊達関戯場取組」作、[権之助(通称)の初通称/号]初通称;権三郎、号;紫扇/雨和庵、屋号;山崎屋、法号;開権院

権之助(ごんのすけ・長岡)→ 為麿(ためまる・長岡ながおか、神職) S 2 6 8 1
 権之助(ごんのすけ・蒔田)→ 広定(ひろさだ・蒔田また、武将/藩主) F 3 7 8 3
 権之助(ごんのすけ・曾禰/柳)→ 淇園(きえん・柳沢、藩士/詩/絵師) 1 6 0 3
 権之助(ごんのすけ・馬詰)→ 親音(もとね・馬詰うまづめ、藩士/歌) D 4 4 6 6
 権之助(ごんのすけ・津田)→ 信綱(のぶつな・土田つちだ、藩士) C 3 5 1 2
 権之助(ごんのすけ・三枝)→ 守繁(もりしげ・三枝さいくさ、幕臣/国学) K 4 4 0 2
 権之助(ごんのすけ・木村)→ 聿(いつ・木村きむら、藩士/勤王/日記) G 1 1 7 1
 権之助(ごんのすけ・馬ば/北山)→ 寒巖(かんばん・北山/馬、幕臣/絵師) Q 1 5 1 2
 権之助(ごんのすけ・大沢)→ 赤城(せきじょう・大沢おおさわ、藩儒) D 2 4 5 9
 権之助(ごんのすけ・伊藤)→ 藤景(ふじかげ・伊藤、藩士/兵法家) C 3 8 4 1
 権之助(ごんのすけ・久武)→ 綺石(きせき・久武ひさたけ、藩士/俳人) L 1 6 0 8
 権之助(ごんのすけ・斎藤)→ 芝山(しざん・斎藤/米良、藩士/儒者) D 2 1 7 4
 権之助(ごんのすけ・江馬)→ 榴園(りゅうえん・江馬えま/飯尾、蘭医) D 4 9 0 3
 権之助(ごんのすけ・伊東)→ 祐春(すけはる・伊東いとう、藩士/歌人) L 2 3 3 0
 権之助(ごんのすけ・小野田)→ 盛栄(もりひで・小野田、藩士/歌人) J 4 4 5 0
 権之助(ごんのすけ・桐)→ 友壽(ともよし・桐ゆずりは、神職/国学) W 3 1 8 9
 権之助(ごんのすけ・烏帽子)→ 末方(すえかた・烏帽子えぼし、神職/国学) I 2 3 1 4
 権之介(ごんのすけ・上田)→ 友泰(ともやす・上田うえだ、藩士/軍学) Q 3 1 7 4
 権之介(ごんのすけ・小田野)→ 清軒(せいけん・小田野おだの、儒者) I 2 4 0 0
 権之亮(ごんのすけ・杉原/御巫)→ 清直(きよなお・御巫みかんなぎ、神職/歌) D 1 6 4 3

- G1918 **権宗匠梅堂** (ごんのそうじょうばいどう)?-? 狂歌塚丁連、1785後万載集2首787/847、
[きらきらと天地金魚のひらめくは見ても涼しきおせんすい哉](万載集;787)、
(詞書;金魚をかける扇に)
- P1927 **権大夫** (ごんのだいふ・七条院しちじょういん、藤原光綱女/母;藤原伊行女)?-? 平安末鎌倉初期の女房歌人、
七条院藤とう殖子(しよくし;1157-1228,藤原信隆女、後鳥羽天皇の母)に出仕、
1214「月卿雲客妬歌」参加、勅撰2首;新古今(306)続古今(1441)、
[秋来ぬと松吹く風も知らせけりかならず萩をぎの上葉うばならねど](新古今;秋306)
- 権大夫殿(ごんのだいふどの) → 具親(ともちか・堀川、源、歌人) P 3 1 7 5
 金春大夫(6世こんばるだゆう) → 安照(あんしょう・金春/誰庵禅曲、能楽) C 1 0 1 3
 金明軍(ごんのみょうぐん・余明軍) → 明軍(みょうぐん、万葉歌人) 4 1 4 1
 良背(ごんはい・植田) → 玄筋(げんせつ・植田、儒者/垂加神道) E 1 8 3 1
 権八(ごんぱち・藪) → 慎庵(しんあん・藪やぶ、藩士/儒者) D 2 2 4 5
 権八(ごんぱち・合原) → 窓南(そうなん・合原ごうはら、藩儒/宋学) C 2 5 6 5
 権八(ごんぱち・後藤) → 松窩(しょうか・後藤ごとう、儒者/詩人) H 2 2 5 0
 権八(ごんぱち・高島屋) → 安兵衛(やすべゑ・武蔵/藤原、商家/華道) C 4 5 9 2
 権八(ごんぱち・宮本) → 茂任(もにん・しげとう・宮本みやもと、藩士/漢学) L 4 4 6 1
 権八郎(ごんぱちろう・小山) → 武岑(たけみね・小山こやま、藩士/古書筆録) O 2 6 8 0
 権八郎(ごんぱちろう・丹羽) → 樗山(ちよざん・佚斎いっさい、藩士/談義本) K 2 8 3 8
 権八郎(ごんぱちろう・熊沢/南条) → 淡庵(たんあん・熊沢/南条、藩士/儒/俳人) 2 6 8 7
 今未是翁(こんびせおう) → 拙斎(ちゆうさい・渋江しぶゑ、医者/考証学) G 2 8 0 9
- R1963 **金毘羅** (ごんびら・) ? - ? 奈良(興福寺?)の童、
歌人;1237刊[檜葉集]入(園城寺まつ[松]への贈歌)
[承元の末(1211)三井寺の童まつ山階寺(興福寺)に移し侍りけるなごりに、
あながちにまつのあらしのたゆまはずは猶たちかへれ志賀の浦波](檜葉;雑675)
この時;まつ・菊苑真珠・三井寺鶴王の歌あり
- 昆文(ごんぶん・江邨) → 磊堂(らいどう・江邨えむら/田中、藩医) 4 8 8 7
- P1928 **権平** (ごんべい・豊島とよしま、名;永璋) 1785-1858 74 砲術家;坂本天山門、信州高遠藩に出仕/1808脱藩、
長崎で修学/平戸藩の天山流砲術師範、門人に薩摩藩士多数、「拾貫目筒惣積り高」著、
[権平(;通称)の字/号]字;行雄/行権、号;風軒
- 権平(ごんべい・加藤) → 良斎(ごんさい/ごん・加藤/伊丹、里正/儒) G 1 9 1 4
 権平(ごんべい・榎本) → 馬州(うましゅう・榎本えのもと、藩士/俳人) E 3 6 4 8
 権平(ごんべい・中村) → 治左衛門(2世次左衛門じざえもん・柳屋/石崎、通事) T 2 1 5 1
 権平(ごんべい・松永) → 良弼(よしすけ・松永まつなが、和算家/藩士) D 4 7 7 8
 権平(ごんべい・鵜飼) → 称斎(しょうさい・鵜飼うかい、儒者/藩史官) S 2 2 2 8
 権平(ごんべい・尾形) → 乾山(けんざん・尾形おがた、陶工/絵師) B 1 8 9 3
 権平(ごんべい・尾関) → 正義(まさよし・尾関おぎせき、藩士/国学者) I 4 0 5 9
 権平(ごんべい・藤田) → 嘉言(よしとき・藤田ふじた、藩士/和算家) E 4 7 8 7
 権平(ごんべい・久保島) → 若人(じゃくじん・久保島、藩士/俳人) G 2 1 2 9
 権平(ごんべい・石原) → 寛信(ひろのぶ・石原、藩士/儒者) G 3 7 8 2
 権平(ごんべい・高瀬) → 光明(みつあき・高瀬たかせ、国学者) J 4 1 5 9
 権平(ごんべい・佐久間) → 立斎(りつさい・佐久間さくま、兵学者) B 4 9 8 3
 権平(ごんべい・板屋/山本) → 貞晨(さだとき・山本/大江、商家/地誌) I 2 0 7 9
 権平(ごんべい・小倉屋) → 敬和(たかかず・加藤かとう、里正/歌人) W 2 6 4 0
 権平(ごんべい・阿久沢) → 篤行(あつゆき・阿久沢あくさわ、藩士/歌人) G 1 0 8 4
 権平次(ごんべいじ・岡田) → 元次(もとつぐ・岡田おかだ、武将/記録) B 4 4 4 7
- D1933 **権兵衛** (ごんべゑ・林はやし、屋号;吉野屋)?-? 京の書肆、1716-36堀川塾蔵版を製本
- P1929 **権兵衛** (ごんべゑ・大和田おおわだ)?-? 江後期寛政1789-1801頃仙台藩士、文筆、
「管見録」著
- 権兵衛(ごんべゑ・溝口/亀田) → 高綱(たかつな・亀田/溝口、武将/戦記) M 2 6 2 7
 権兵衛(3世ごんべゑ・竹田) → 広貞(ひろさだ・竹田、能役者) F 3 7 8 4

権兵衛(ごんべえ・松平) → 忠冬(ただふゆ・松平、幕臣/記録編纂) F 2 6 8 0
 権兵衛(ごんべえ・仕足屋) → 甫紅(ほこう・浅井あさい、俳人) E 3 9 1 5
 権兵衛(ごんべえ・久須美) → 祐明(すけあきら・久須美くすみ、幕臣/文筆) F 2 3 9 9
 権兵衛(ごんべえ・久須美) → 祐篤(すけとし・久須美・藤原、祐明男/幕臣/文筆) G 2 3 6 5
 権兵衛(ごんべえ・館屋) → 如本(じよほん・大越/館屋、俳人/希因弟) C 2 2 9 8
 権兵衛(ごんべえ・岸) → 熊野(ゆうや・岸きし/崖、藩士/儒者) D 4 6 8 9
 権兵衛(ごんべえ・杉野) → 駁華(ぼくか・杉野すぎの、医者/料理) C 3 6 8 0
 権兵衛(ごんべえ・多賀谷) → 雅広(まさひろ・多賀谷たがや、藩士/歌人) Q 4 0 6 1
 権兵衛(ごんべえ・羽太) → 正忠(まさただ・羽太はぶと、幕臣/和学) R 4 0 5 7
 権兵衛(ごんべえ・井上) → 玄会(はるかぜ・井上いのうえ、国学者) J 3 6 6 2
 権兵衛(ごんべえ・茶木屋) → 雪中(せつちゆう・日下くさか、商家/俳人) E 2 4 5 5
 権兵衛(ごんべえ・大菅) → 圭(けい・大菅おおすが、国学/詩歌人) 1 8 0 0
 権兵衛(ごんべえ・大菅) → 南坡(なんば・大菅/岩泉、漢学者/藩儒) J 3 2 3 6
 権兵衛(ごんべえ・岡田) → 阜谷(ふこく・岡田おかだ、漢学者) B 3 8 9 0
 権兵衛(ごんべえ・水谷) → 和英(かずひで・水谷みずたに、歌人) V 1 5 8 4
 権兵衛(ごんべえ・菅沼) → 貞主(さだぬし・菅沼/源、藩士/文筆家) J 2 0 1 2
 権兵衛(ごんべえ・毛利) → 正周(まさかね・毛利もうり/吉井、藩士/華道) T 4 0 1 6
 権兵衛(ごんべえ・佐藤) → 永忠(ながただ・佐藤さとう、藩士/歌人) M 3 2 2 0
 権兵衛(ごんべえ・加藤) → 清風(きよかぜ・加藤かとう、国学者) T 1 6 8 6
 権兵衛(ごんべえ・藤田) → 定資(貞資さだすけ・藤田/藤/本田、和算家) B 2 0 9 1
 権兵衛(ごんべえ・池田) → 木蔭(こかげ・池田いけだ、狂歌) Q 1 9 3 2
 権兵衛(ごんべえ・永田) → 正辰(まさとき・永田ながた/藤原、藩士/歌) R 4 0 2 3

E1980 **巖宝**(ごんぼう・げんぼう; 法諱、一条兼良男)?-1481 母; 中御門宣俊女、室町期真言東寺僧; 瑞心院流、大僧正/1466東寺長者/67応仁乱では醍醐寺に避難/81東大寺別当/准三宮、兼良に随従、「巖宝准后集」1477「今聞書」著

根本大師(こんぽんだいし) → 最澄(さいちよう; 法諱、天台開祖/歌) 2 0 0 5
 今未是翁(こんみぜおう) → 拙斎(ちゆうさい・渋江しづえ、医者/考証学) G 2 8 0 9
 鯉溟(こんめい・山野辺) → 弘軒(こうけん・山野辺やまのべ、藩儒) G 1 9 2 9
 昆明淵(こんめいえん・田島) → 養元(ようげん・田島たじま、医者) 4 7 7 8
 今雄(こんゆう・坂上) → 今雄(いまお・坂上さかのうえ、廷臣/詩人) B 1 1 8 7

1955 **昆陽**(こんよう・青木あおき、魚商佃屋つくだや半右衛門末友男) 1698-1769⁷² 江戸日本橋の商家の生、儒; 1719伊東東涯門、/24八丁堀に古学塾を開/救荒食の甘藷研究; 1735幕府薩摩芋御用掛、関東での甘藷試作成功/1739御留守居支配/書物御用達; 各地の古文書調査/蘭学修学、関東蘭学も基礎/1767御書物奉行、1734「薩摩芋効能書」35「蕃藷考」38「草廬雑談」1739「銭幣略記」42「対客夜話」47「冬夜客談」50「秋夜談」63-68「昆陽漫録」外著多数、
 [昆陽(;)号)の名/字/通称/別号] 幼名; 半五郎、名; 敦書あつり、字; 厚甫、通称; 文蔵/半五郎、別号; 甘藷先生

P1930 **昆陽**(崑陽こんよう・筑井つくい)?-? 江後期白河の儒者/江戸麻布竜土に住、1828-52「昆陽先生稿本」著、
 [昆陽(;)号)の字/通称] 字; 洪寧、通称; 又左衛門

昆陽山人(こんようさんじん/こやさんじん) → 稻川(とうせん・山梨、儒者/詩人) 3 1 1 9
 金蘭斎(こんらんさい) → 蘭斎(らんさい・金こん、医/老荘思想家) C 4 8 1 3
 権律師大霊(ごんりっしだいい) → 大霊(だいい、権律師、真宗大谷派僧) L 2 6 3 1
 建立院(ごんりゅういん) → 日伝(にちでん; 法諱・大円、日蓮僧) C 3 3 9 1
 今陵(ごんりょう・西垣) → 露庵(ろあん・西垣にしがき、儒者/詩歌) 5 2 0 0
 今梁(ごんりょう・清水) → 三益(さんえき・樋口ひぐち/清水、幕府侍医) N 2 0 4 7
 根嶺先徳(こんれいせんたく) → 聖憲(しょうけん; 法諱、真言根来寺僧) I 2 2 4 0
 金蓮院(ごんれんいん; 法号) → 覚恕(かくじよ; 法諱、天台僧/歌/連歌) B 1 5 5 6
 金蓮院准后(ごんれんいんじゅごう) → 覚恕(かくじよ; 法諱、天台僧/歌/連歌) B 1 5 5 6
 権六(ごんろく・塩田) → 昭矩(あきのり・塩田しおだ、藩士/儒/柔術) D 1 0 7 5

- 権六(ごんろく・今中) → 大学(だいがく・今中いまなか、藩士/日記) J 2 6 4 8
 権六(ごんろく・島岡) → 山鳥(三鳥さんちよう・岡おか、島岡、戯作者) E 2 0 5 7
 権六郎(ごんろくろう・鈴木) → 重規(しげのり・鈴木/穂積、幕臣/歌人) S 2 1 0 4
- P1931 **崑崙**(こんろん・副島そえじま、名;昭賢) 1651-1717⁶⁷ 肥前の儒者:佐賀藩の代官、詩歌人、「崑崙集」著、
 [崑崙(;号)の通称] 弥兵衛/嘉善
- G1991 **崑崙**(こんろん・山井やまのい、名;鼎かなえ/重鼎、周庵男/本姓;大神) 1690?-1728^{39?} 紀伊海部郡小南村生、
 儒者:陰山東門門・京の伊藤東涯門/古文辞学;荻生徂徠門、1718和歌山支藩の伊予西条藩士、
 藩の記室;1722-24下野足利学校で古書の校勘に従事(根本武夷と)、「東野とうや遺稿」編、
 「古文考」「尚書古文考」/1717「相中紀行」、26「七経孟子考文」、「七経孟子考文補遺」著、
 [崑崙(;号)の字/通称/別号]字;君彝/忠甫、通称;善録、別号;匪夷閣いいかく主人
- P1932 **崑崙**(こんろん・橘たちばな、名;茂世/字;伯桂) 1761?-? 1819存 越後三条の詩人/書画、
 1812「北越奇談」作(北斎が挿絵)、「海府七里灘記」「飛呂非加幾」著